

長野市
子どもの生活状況に関する実態調査
結果報告書

令和4年5月

長野市

目 次

I	市民アンケート調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	有効回答数・有効回答率	1
6	調査結果の表示方法	1
7	生活困難度について	2
II	市民アンケート調査結果	5
1	保護者	5
(1)	回答者属性	5
(2)	保護者の職業について	16
(3)	子どもとの関わりについて	29
(4)	子どものことについて	45
(5)	家庭での生活について	61
(6)	公的支援の利用状況について	112
2	小学5年生、中学2年生	118
(1)	回答者属性	118
(2)	学校のことや勉強のことについて	120
(3)	進学のことや将来の夢について	134
(4)	ふだんの生活について	141
(5)	ふだん考えていることについて	161
(6)	自由記述	229
3	16～17 歳	237
(1)	回答者属性	237
(2)	学校のことや勉強のことについて	242
(3)	将来になりたい職業について	252
(4)	普段の生活について	254
(5)	食事のことや健康のことについて	277
(6)	アルバイトなどの仕事について	280
(7)	普段考えていることなどについて	282
(8)	自由記述	315

Ⅲ 支援関係者ヒアリング調査の概要	319
1 調査の目的	319
2 対象団体・機関	319
3 実施時期	319
4 ヒアリング内容	319
5 実施方法	319
Ⅳ 支援関係者ヒアリング調査結果	320
1 地域で活動する団体等	320
(1) 信州こどもカフェ（こども食堂）実施団体	320
(2) NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト	324
(3) NPO 法人長野県 NPO センター、NPO 法人災害時こどものこころと居場所サポート...	328
(4) NPO 法人子ども・人権・エンパワメント CAP ながの	332
(5) リサイクル交流広場「回る回るハウス」	335
(6) 主任児童委員	339
2 教育関係機関等	342
(1) 市立小・中学校	342
(2) スクールソーシャルワーカー（SSW）	346
(3) 県立高校（定時制）	350
3 子ども関連施設・機関等	355
(1) 児童相談所（長野県中央児童相談所）	355
(2) 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）実施施設	359
(3) 児童家庭支援センター（松代児童相談センター「ふらっと」）	364
(4) こども広場	366
4 保健福祉関係機関	370
(1) 保健センター	370
(2) ながの版ネウボラ母子保健コーディネーター	375
(3) 長野市生活就労支援センター「まいさぽ長野市」	379
用語解説	384

I 市民アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、子どもや家庭の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況等を把握することを通じ、子どもの貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2 調査対象

令和3年10月1日時点で長野市在住の4～5歳、小学5年生、中学2年生、16～17歳の保護者および小学5年生、中学2年生、16～17歳の児童・生徒
各1,200人、4,800世帯

3 調査期間

令和3年10月18日から令和3年11月3日まで

4 調査方法

返信用封筒を同封した質問票郵送によるアンケート調査方式（無記名）

5 有効回答数・有効回答率

保護者 1,966人・41.0% 子ども 1,250人・34.7%

子どもの年齢区分別の有効回答数・有効回答率

年齢区分	保護者			子ども		
	送付数	有効回答数	有効回答率	送付数	有効回答数	有効回答率
4～5歳	1,200	749	62.4%	—	—	—
小学5年生	1,200	460	38.3%	1,200	475	39.6%
中学2年生	1,200	394	32.8%	1,200	405	33.8%
16～17歳	1,200	357	29.8%	1,200	363	30.3%
不明（小5・中2）	—	6	—	—	7	—

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計

(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

7 生活困難度について

本調査では、子どもの世帯の「生活困難度」について、長野県が平成 29 年度に実施した「長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査」の結果分析を参考に、以下の①②③の 3 つの要素の回答状況に基づいて分類しました。

①低所得	世帯の所得を世帯人数で調整して算出した等価可処分所得（1人当たりの所得）が、貧困線（等価可処分所得の中央値の2分の1）に満たない場合 ※貧困線：令和元年国民生活基礎調査による 127 万円を使用
②家計の逼迫	7 項目（電話・電気・ガス・水道の公共料金、家賃、食料・衣類の購入）について、経済的な理由で払えなかった、または買えなかったことが 1 つ以上ある場合
③子どもの体験や所有物の欠如	子どもの体験や所有物など 15 項目のうち、経済的な理由でしていない、金銭的な理由でないなど欠如する項目が 3 つ以上ある場合

【③子どもの体験や所有物の欠如】の要素の 15 項目

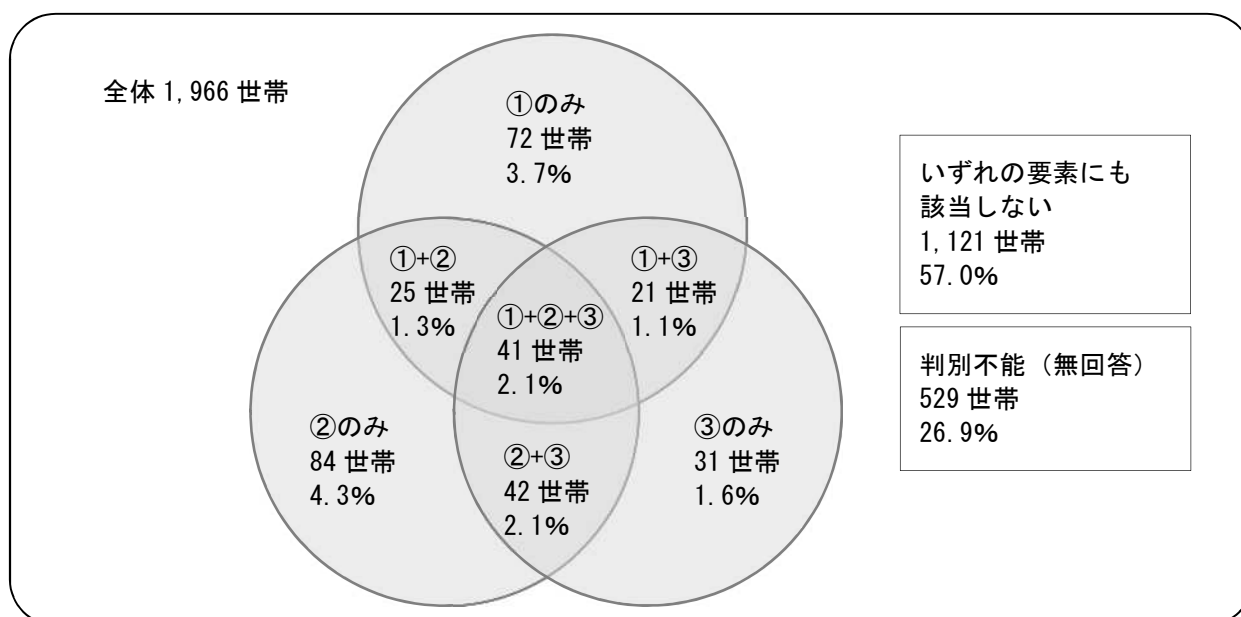
1 博物館・科学館・美術館などに行く	9 学習塾に通わせたり通信教育を受ける（または家庭教師に来てもらう）
2 スポーツ観戦や劇場に行く	10 誕生日のお祝いをする
3 キャンプやバーベキューに行く	11 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
4 海水浴に行く	12 1年に1回くらい家族旅行に行く
5 遊園地やテーマパークに行く	13 子どもの年齢に合った本
6 毎月お小遣いを渡す	14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
7 毎年新しい洋服・靴を買う	15 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所
8 習い事（スポーツ、音楽、習字など）に通わせる	

①②③の 3 つの要素の回答状況から区分し、以下のように分類しています。

困窮家庭	2 つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか 1 つの要素に該当
一般家庭	いずれの要素にも該当しない

【①②③の3つの要素の構成割合（全体）】

①低所得	困窮家庭：2つ以上の要素に該当 周辺家庭：いずれか1つの要素に該当 一般家庭：いずれの要素にも該当しない
②家計の逼迫	
③子どもの体験や所有物の欠如	



【生活困難度別の家庭数・割合（全体・子どもの年代別・世帯状況別）】

		全体	困窮家庭	周辺家庭	一般家庭	判別不能
全体	件数	1,966	129	187	1,121	529
	割合	100.0%	6.6%	9.5%	57.0%	26.9%
	判別不能を除いた割合	100.0%	9.0%	13.0%	78.0%	
4～5歳	件数	749	39	81	423	206
	割合	100.0%	5.2%	10.8%	56.5%	27.5%
	判別不能を除いた割合	100.0%	7.2%	14.9%	77.9%	
小学5年生	件数	460	30	42	272	116
	割合	100.0%	6.5%	9.1%	59.1%	25.2%
	判別不能を除いた割合	100.0%	8.7%	12.2%	79.1%	
中学2年生	件数	394	27	34	224	109
	割合	100.0%	6.9%	8.6%	56.9%	27.7%
	判別不能を除いた割合	100.0%	9.5%	11.9%	78.6%	
16～17歳	件数	357	32	30	199	96
	割合	100.0%	9.0%	8.4%	55.7%	26.9%
	判別不能を除いた割合	100.0%	12.3%	11.5%	76.2%	
ふたり親世帯	件数	1,304	81	154	1,069	
	割合	100.0%	6.2%	11.8%	82.0%	
ひとり親世帯	件数	133	48	33	52	
	割合	100.0%	36.1%	24.8%	39.1%	

<①低所得の子どもの数・割合について>

世帯の所得の水準について、「子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数」の情報も踏まえて下記のような処理をし、「等価可処分所得」による分類を行いました。

- (1) 保護者票問 18 の世帯の年間所得に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の所得の値とする（例えば、「450 万円～500 万円未満」であれば 475 万円、「500 万円～550 万円未満」であれば 525 万円とする。なお、「1,000 万円以上」は 1,050 万円とする。）。
- (2) (1) の値を、保護者票問 2 で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除し、等価可処分所得（1 人当たりの所得）を算出する。
- (3) (2) の方法で算出した値が、貧困線（等価可処分所得の中央値の 2 分の 1。本調査では、令和元年度国民生活基礎調査による 127 万円を使用）に満たない場合を、「①低所得」に該当とする。

【低所得に該当する子どもの数・割合】

		全体	該当	非該当	判別不能
全体	件数	1,966	204	1,619	143
	割合	100.0%	10.4%	82.3%	7.3%
	判別不能を除いた割合	100.0%	11.2%	88.8%	
4～5 歳	件数	749	75	611	63
	割合	100.0%	10.0%	81.6%	8.4%
	判別不能を除いた割合	100.0%	10.9%	89.1%	
小学 5 年生	件数	460	37	386	37
	割合	100.0%	8.0%	83.9%	8.0%
	判別不能を除いた割合	100.0%	8.7%	91.3%	
中学 2 年生	件数	394	50	323	21
	割合	100.0%	12.7%	82.0%	5.3%
	判別不能を除いた割合	100.0%	13.4%	86.6%	
16～17 歳	件数	357	41	295	21
	割合	100.0%	11.5%	82.6%	5.9%
	判別不能を除いた割合	100.0%	12.2%	87.8%	

「低所得に該当する子どもの割合」は、国において相対的貧困率を算出する際に用いている貧困線※を基に、貧困線に満たない世帯で生活する子どもの割合を算出したものであり、本市での世帯所得の額・分布を用いて貧困線を定め、本市における相対的貧困率を算出したものではありません。

なお、令和元年国民生活基礎調査では、我が国の子どもの貧困率は 13.5%とされていますが、本調査とは調査対象や方法が異なるため、単純な比較はできません。

※令和元年国民生活基礎調査による 127 万円

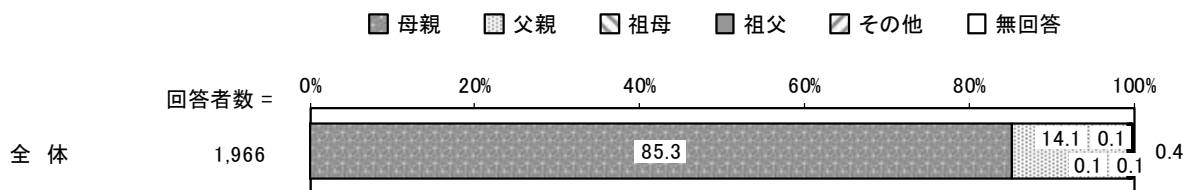
Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 保護者

(1) 回答者属性

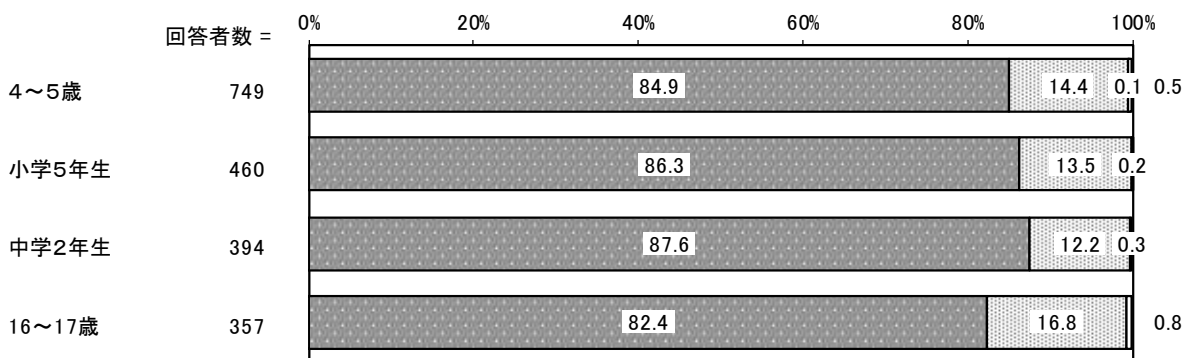
問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

「母親」の割合が85.3%と最も高く、次いで「父親」の割合が14.1%となっています。



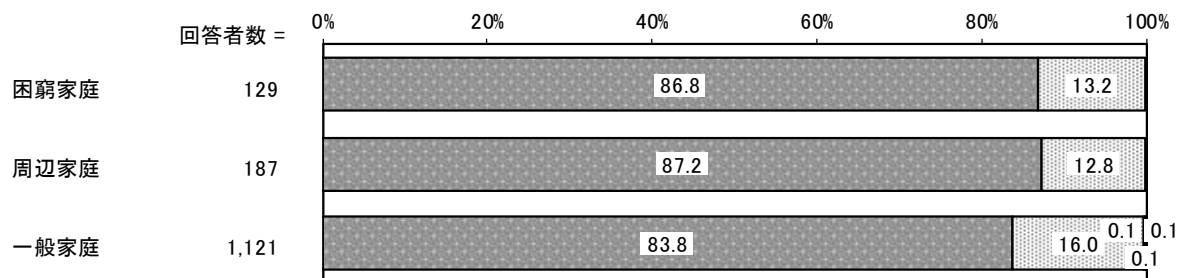
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、16～17歳で「母親」の割合が低くなっています。



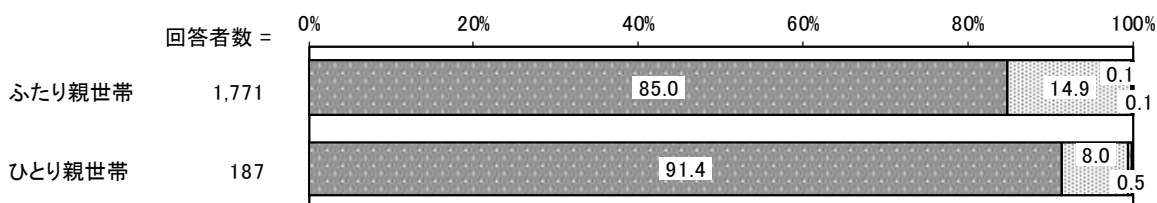
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、一般家庭に比べ、困窮家庭、周辺家庭で、「母親」の割合が高くなっています。



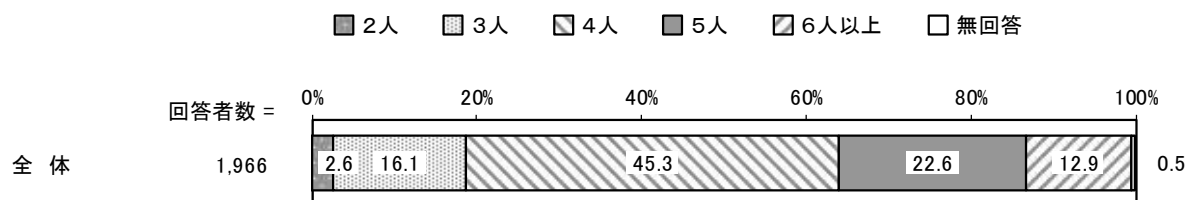
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯では「母親」が85.0%、「父親」が14.9%、ひとり親世帯では「母親」が91.4%、「父親」が8.0%となっています。



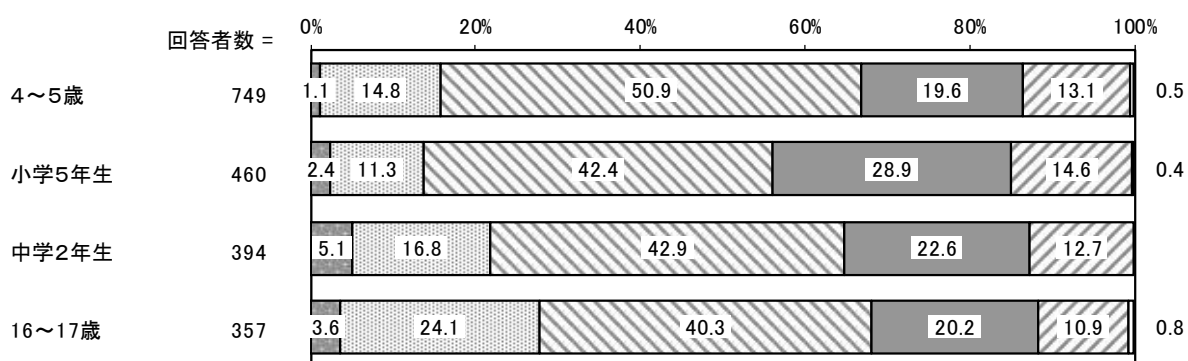
問2 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください（あなたとお子さんも含みます）。単身赴任しているご家族も含めてください。

「4人」の割合が45.3%と最も高く、次いで「5人」の割合が22.6%、「3人」の割合が16.1%となっています。



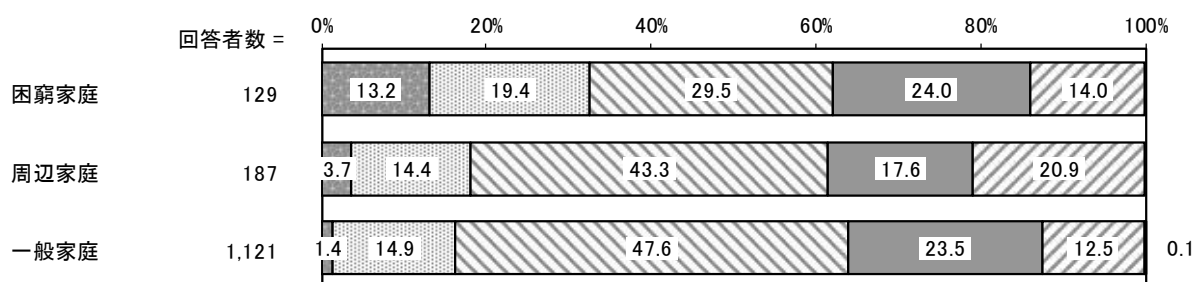
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、4～5歳で「4人」の割合が高くなっています。また、小学5年生で「5人」の割合が高くなっています。



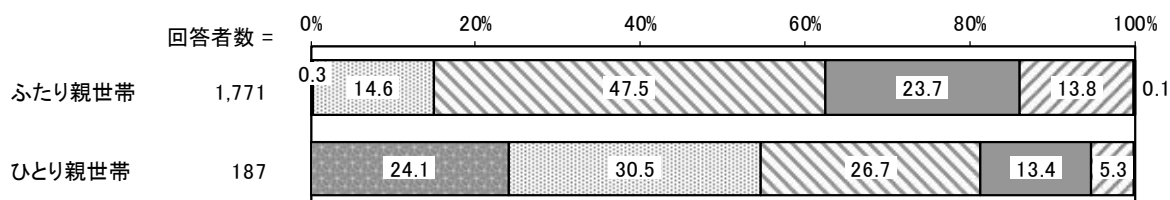
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「2人」「3人」「5人」の割合が、一般家庭で「4人」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「6人以上」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

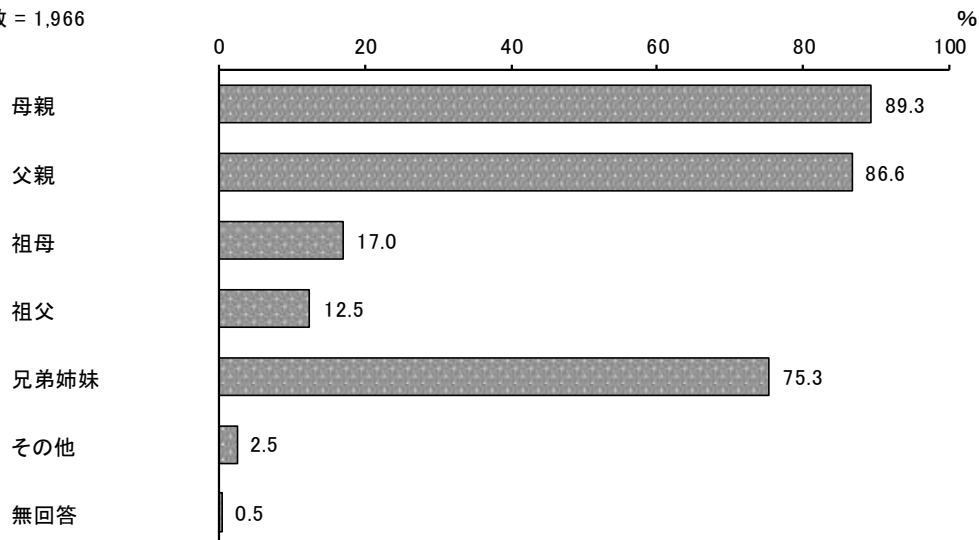
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「4人」「5人」「6人以上」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「2人」「3人」の割合が高くなっています。



問3 問2で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。（あてはまる番号すべてに○）

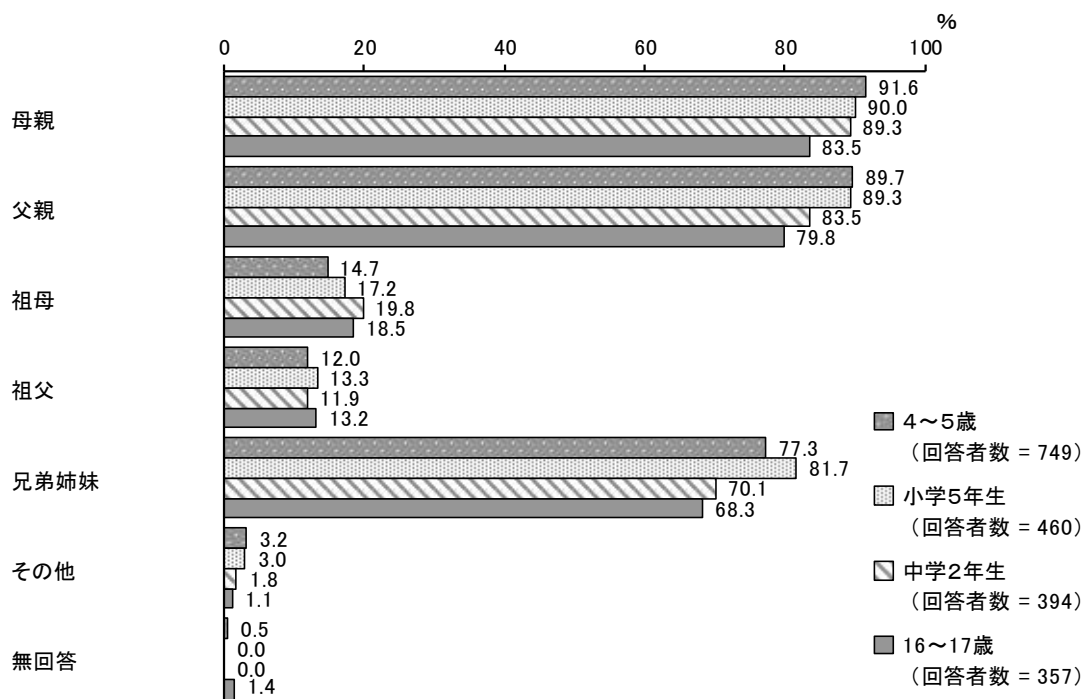
「母親」の割合が89.3%と最も高く、次いで「父親」の割合が86.6%、「兄弟姉妹」の割合が75.3%となっています。

全 体
回答者数 = 1,966



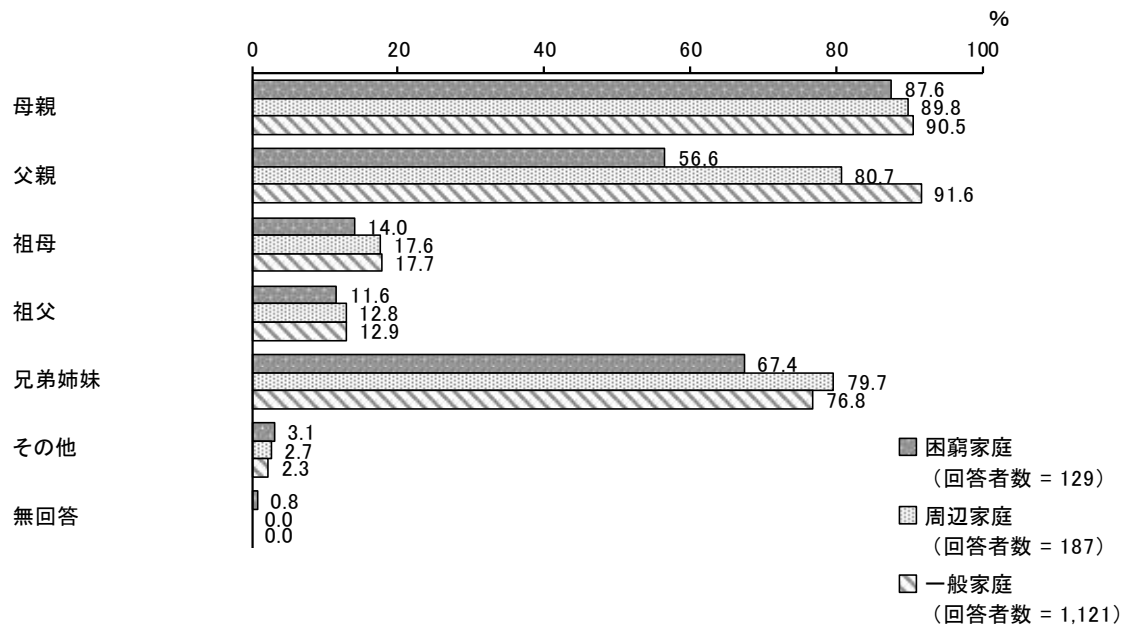
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「母親」「父親」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他に比べ、4～5歳、小学5年生で「兄弟姉妹」の割合が高くなっています。



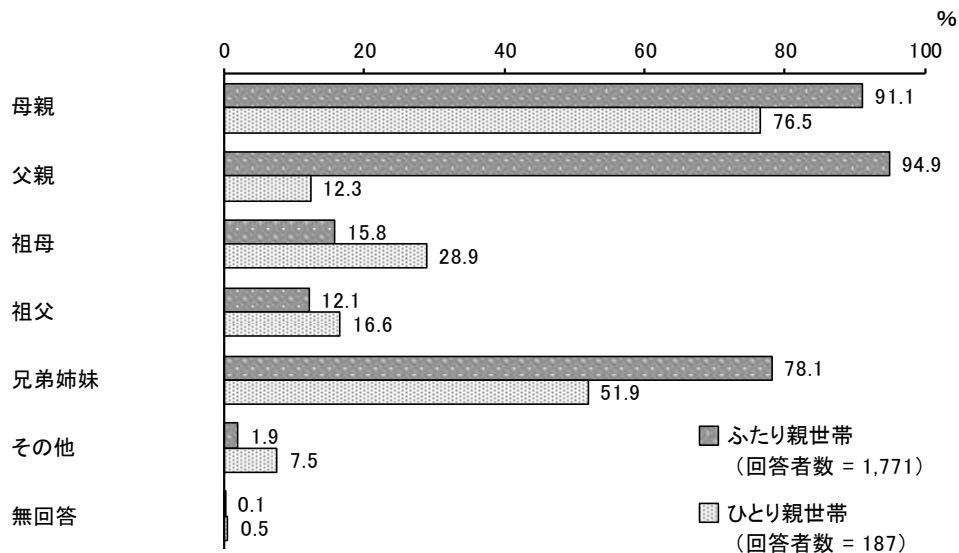
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「父親」「兄弟姉妹」の割合が低くなっています。



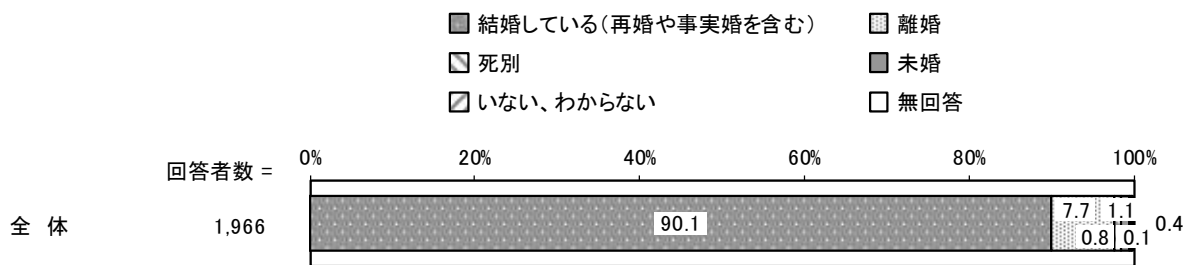
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「父親」「兄弟姉妹」の割合が低く、「祖母」の割合が高くなっています。



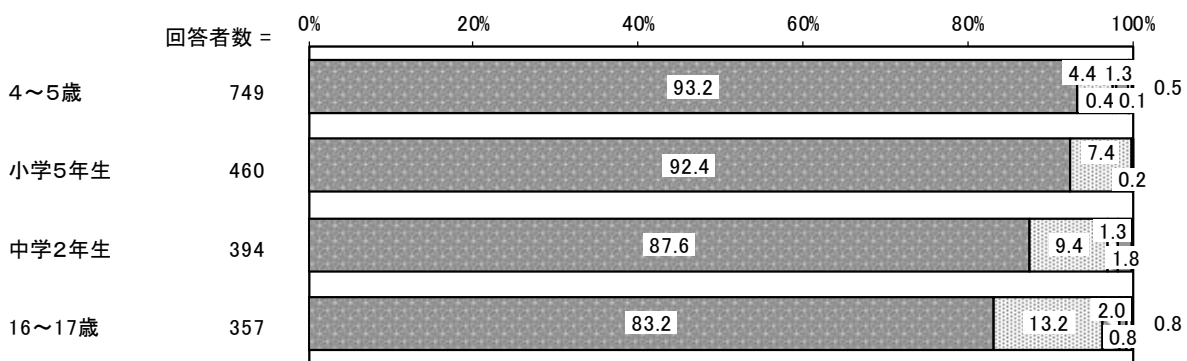
問4 お子さんの親の婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合が90.1%と最も高くなっています。



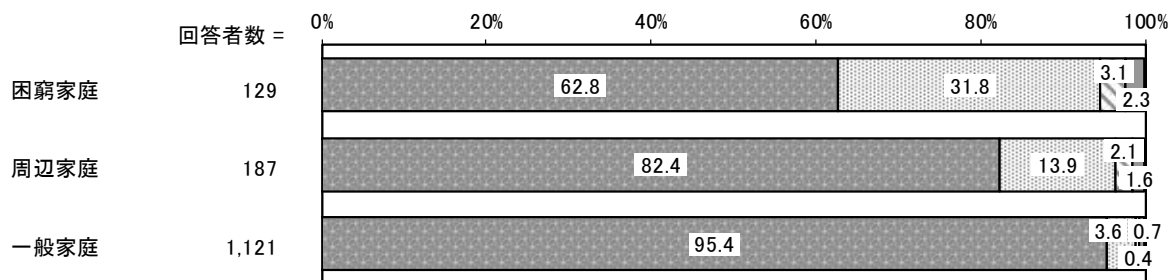
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合が低くなり、「離婚」の割合が高くなる傾向がみられます。



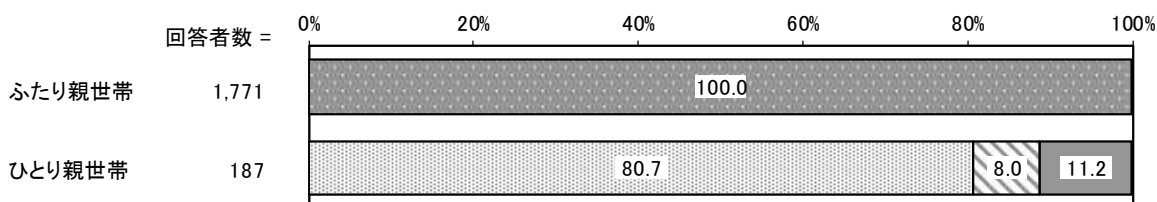
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合が、困窮家庭で「離婚」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

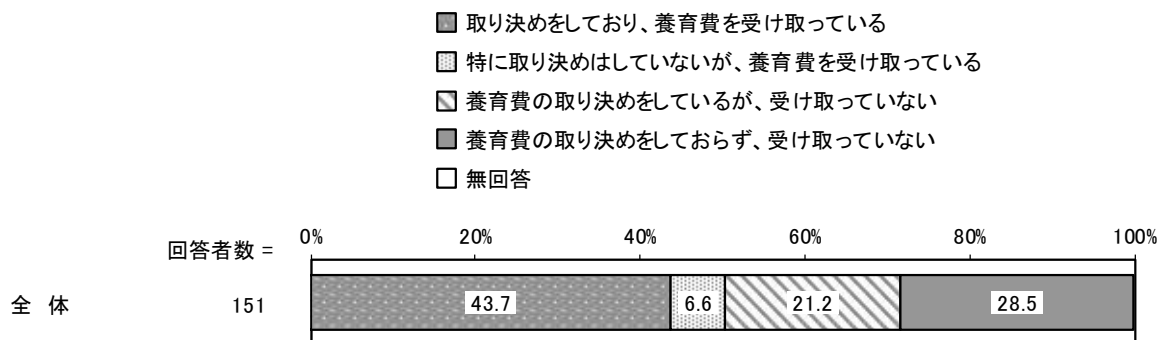
ひとり親世帯の状況は、「離婚」が80.7%、「死別」が8.0%、「未婚」が11.2%となっています。



問 4－1 問 4 で「離婚」を選んだ方におたずねします。

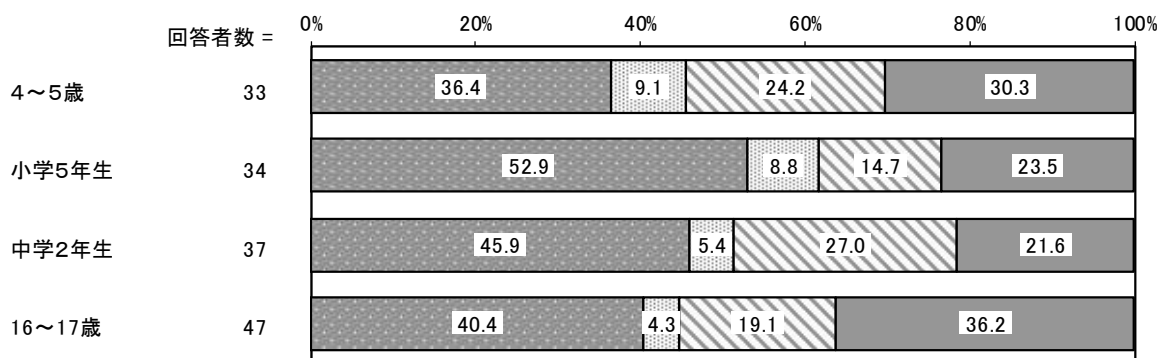
離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。また、養育費を現在受け取っていますか。(あてはまる番号 1 つに○)

「取り決めをしており、養育費を受け取っている」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が 28.5%、「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」の割合が 21.2%となっています。



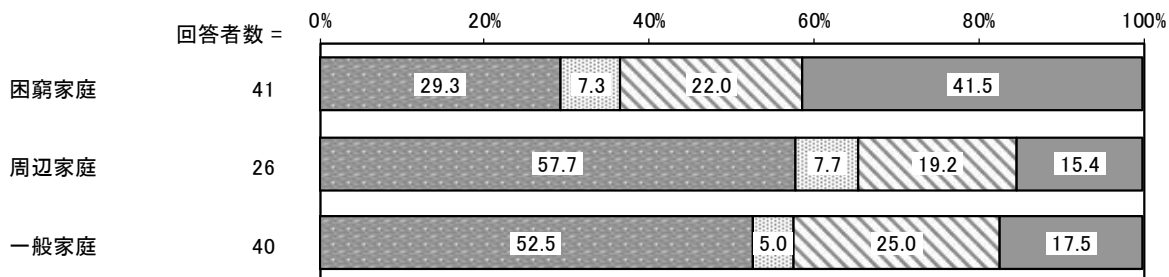
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、小学 5 年生で「取り決めをしており、養育費を受け取っている」の割合が高くなっています。また、中学 2 年生で「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」の割合が、16～17 歳で「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が高くなっています。



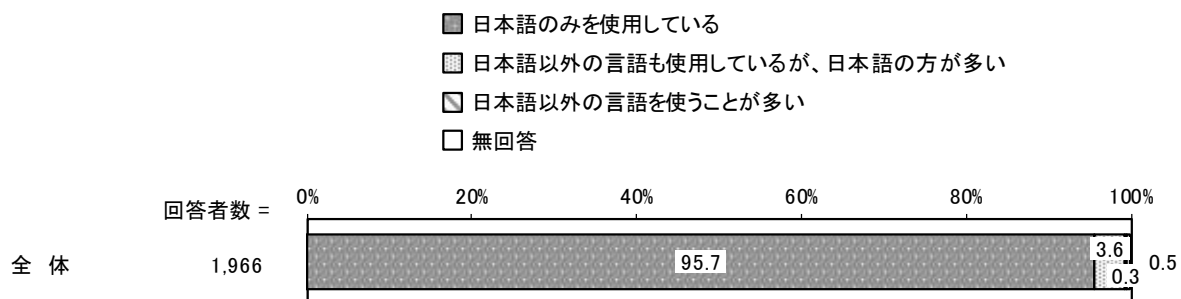
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、困窮家庭に比べ、周辺家庭、一般家庭で「取り決めをしており、養育費を受け取っている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が高くなっています。



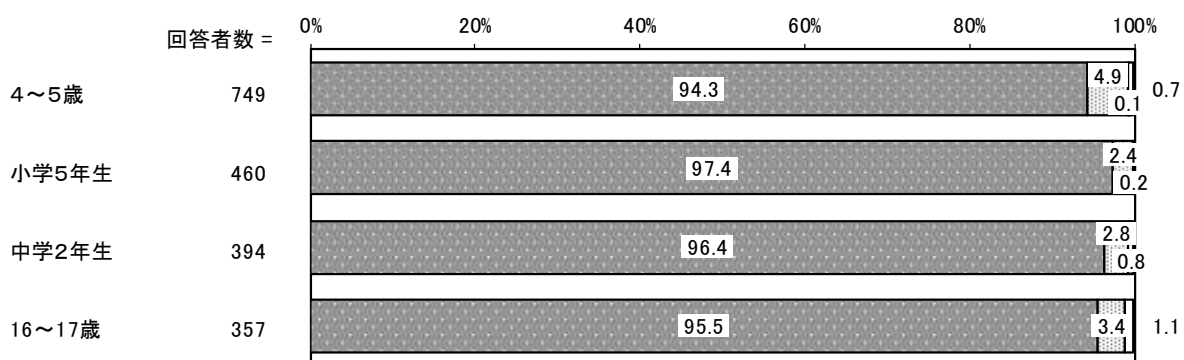
**問5 あなたのご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。
(あてはまる番号1つに○)**

「日本語のみを使用している」の割合が95.7%と最も高くなっています。



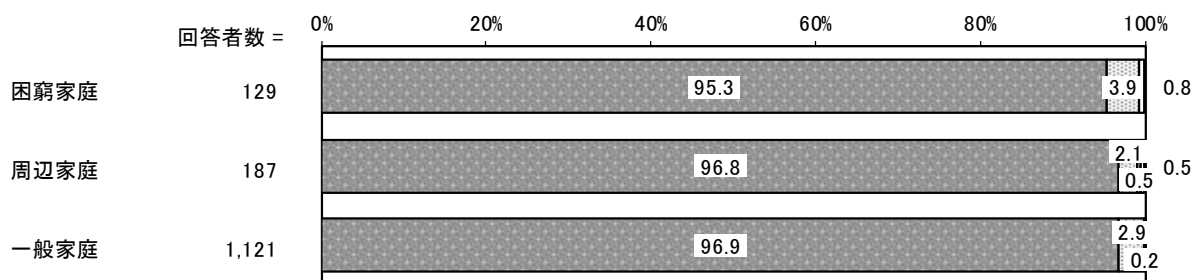
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



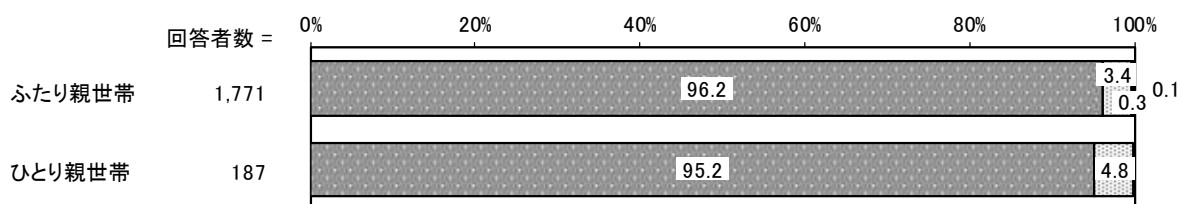
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

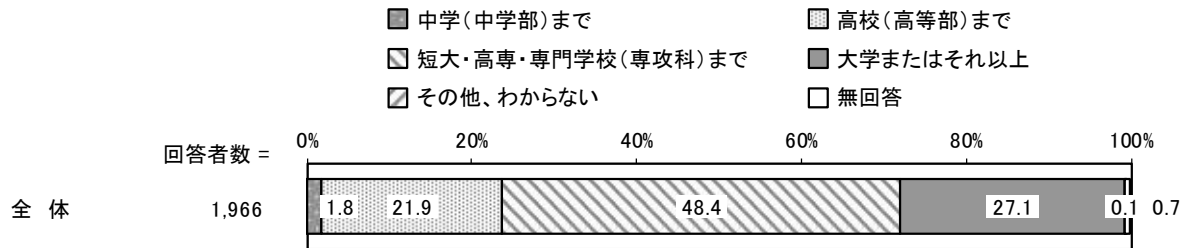
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



問6 お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）を教えてください。（母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

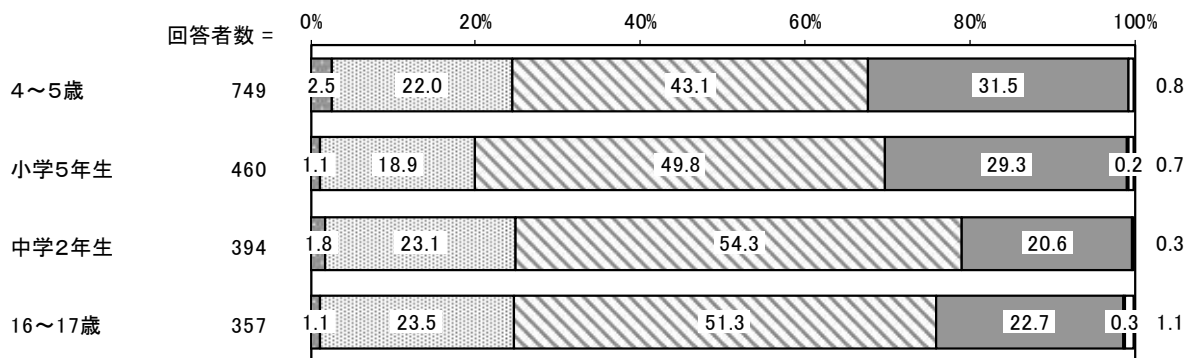
1. 母親

「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が48.4%と最も高く、次いで「大学またはそれ以上」の割合が27.1%、「高校（高等部）まで」の割合が21.9%となっています。



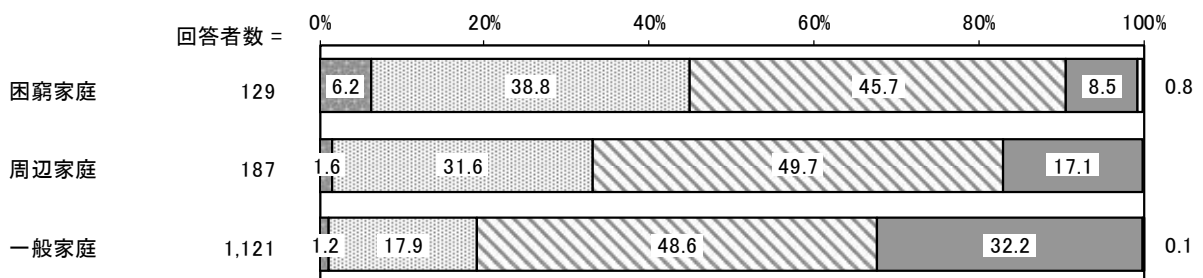
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「大学またはそれ以上」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他に比べ、中学2年生で「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が高くなっています。



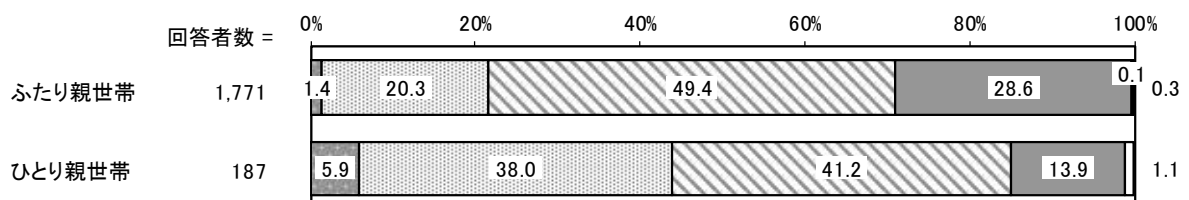
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の割合が、一般家庭で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



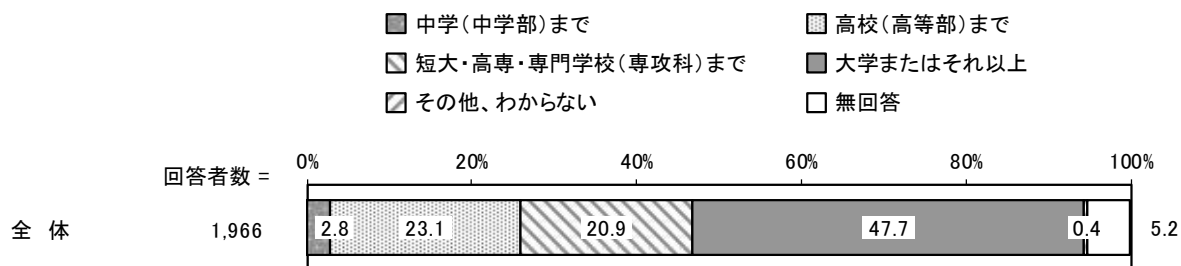
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の割合が高くなっています。



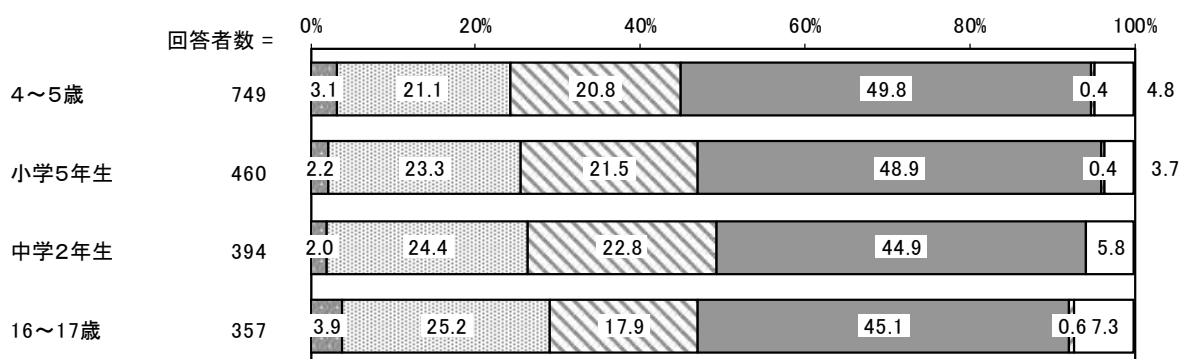
2. 父親

「大学またはそれ以上」の割合が47.7%と最も高く、次いで「高校（高等部）まで」の割合が23.1%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が20.9%となっています。



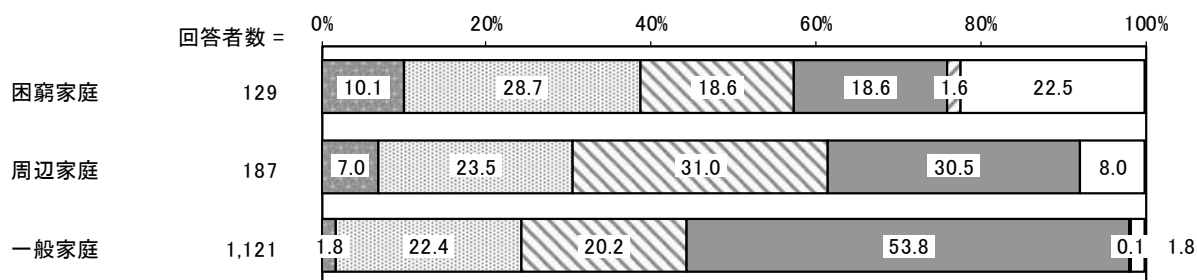
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



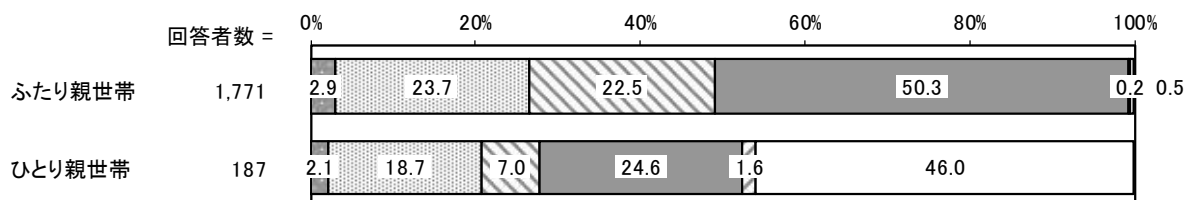
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の割合が、周辺家庭で「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



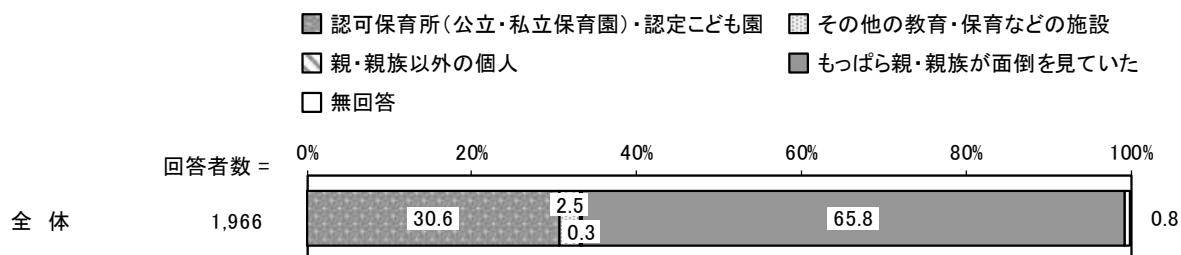
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「高校（高等部）まで」「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



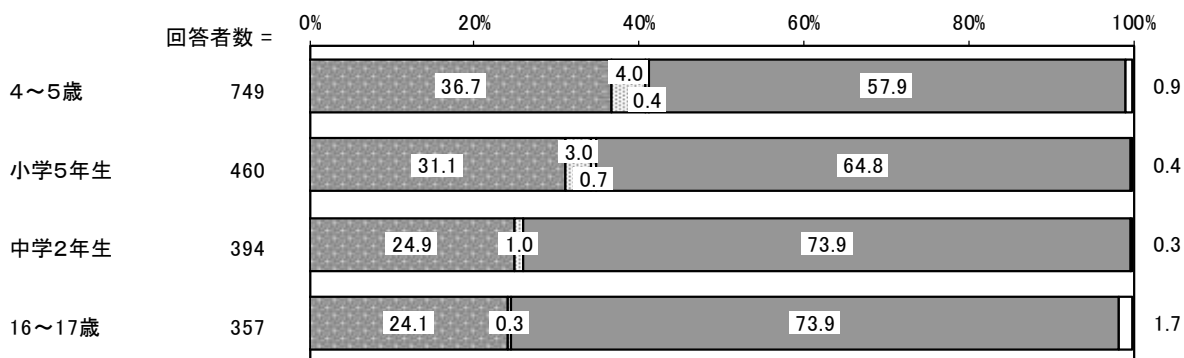
問7 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設や面倒を見ていた方などで最も期間が長いものを教えてください。（あてはまる番号1つに○）

「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が65.8%と最も高く、次いで「認可保育所（公立・私立保育園）・認定こども園」の割合が30.6%となっています。



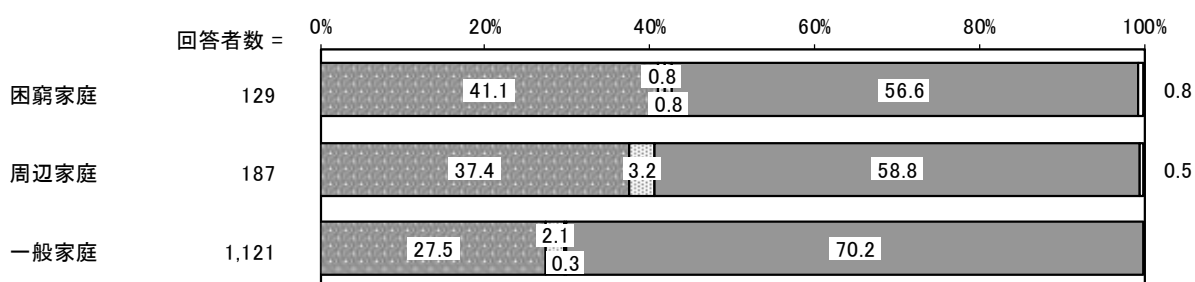
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「認可保育所（公立・私立保育園）・認定こども園」の割合が、子どもの年代が低くなるにつれ「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が低くなる傾向がみられます。



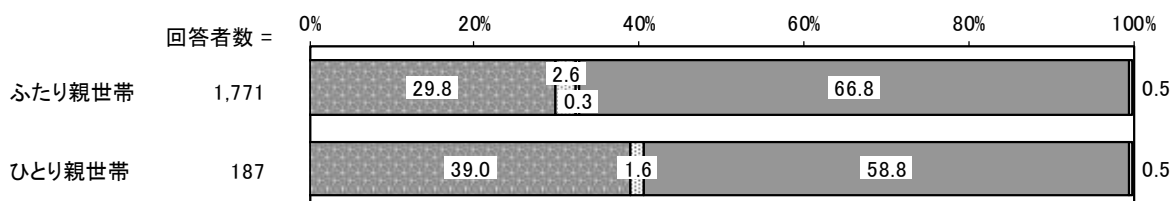
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「認可保育所（公立・私立保育園）・認定こども園」の割合が、一般家庭で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が高くなっています。



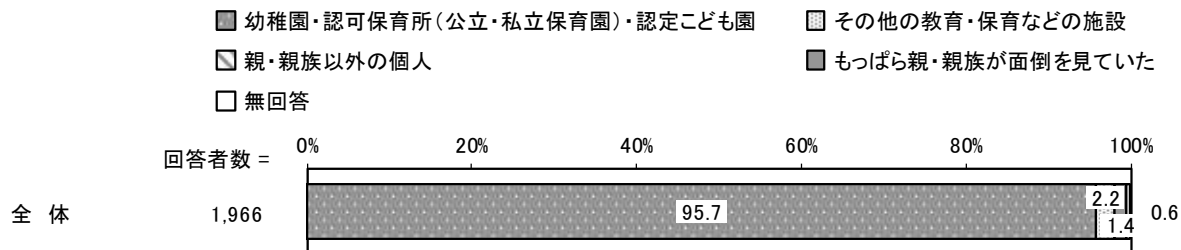
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「認可保育所（公立・私立保育園）・認定こども園」の割合が高くなっています。



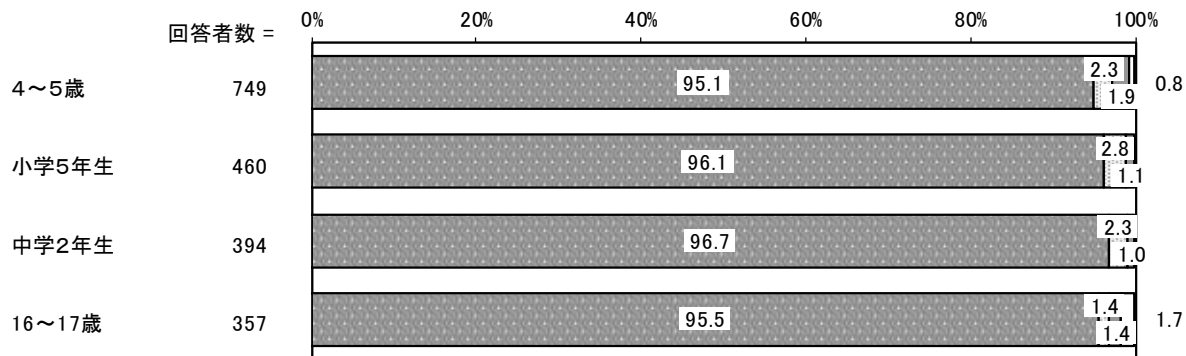
問8 お子さんが3～5歳の間に通っていた（通っている）教育・保育施設や面倒を見ていた（見ている）方などで最も期間が長いものを教えてください。（あてはまる番号1つに○）

「幼稚園・認可保育所（公立・私立保育園）・認定こども園」の割合が95.7%と最も高くなっています。



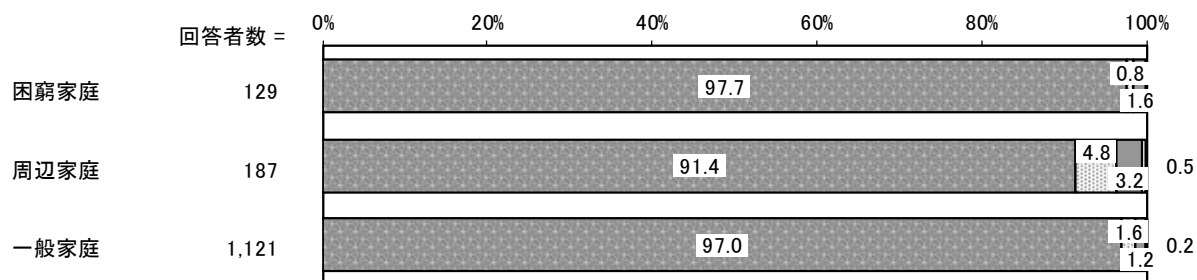
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



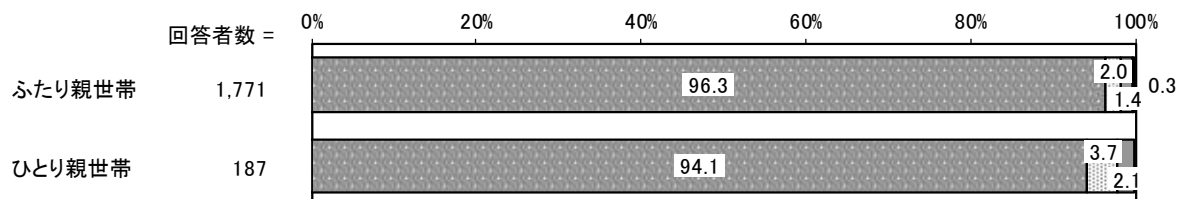
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、周辺家庭に比べ、困窮家庭、一般家庭で「幼稚園・認可保育所（公立・私立保育園）・認定こども園」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。

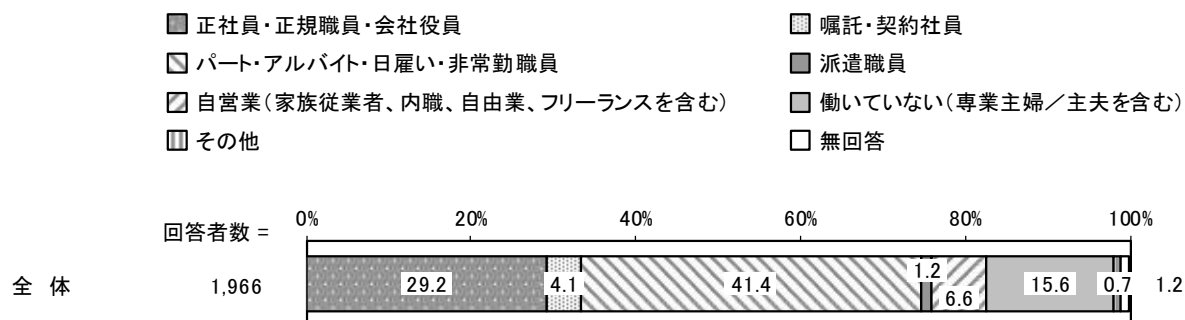


(2) 保護者の職業について

問9 お子さんの親の現在の就労状況を教えてください。(母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

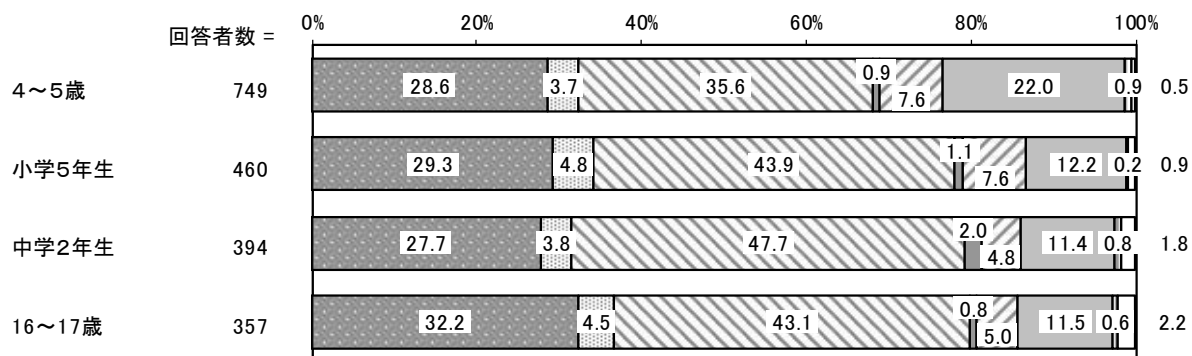
1. 母親

「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が41.4%と最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」の割合が29.2%、「働いていない(専業主婦/主夫を含む)」の割合が15.6%となっています。



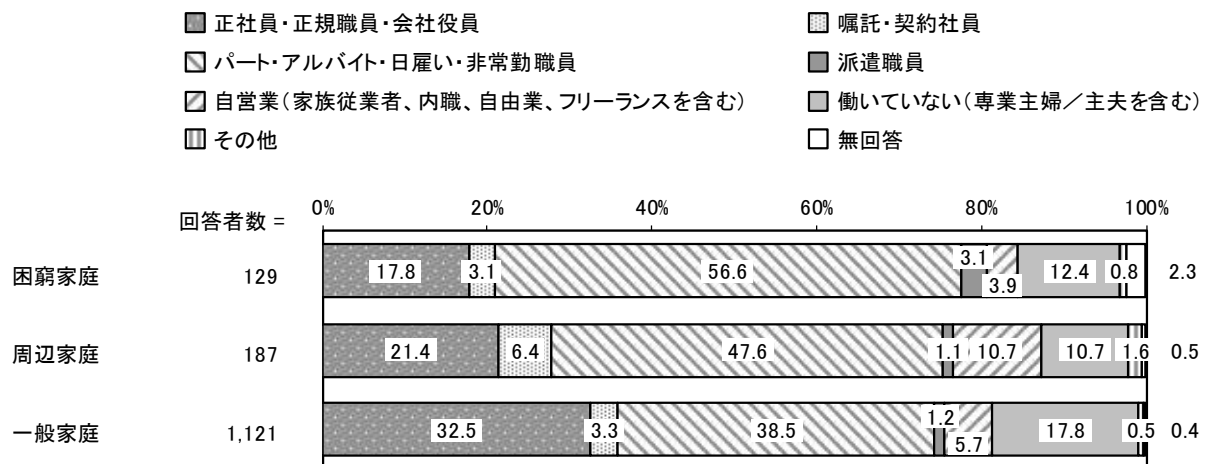
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、4～5歳で「働いていない(専業主婦/主夫を含む)」の割合が高くなっています。また、16～17歳で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。



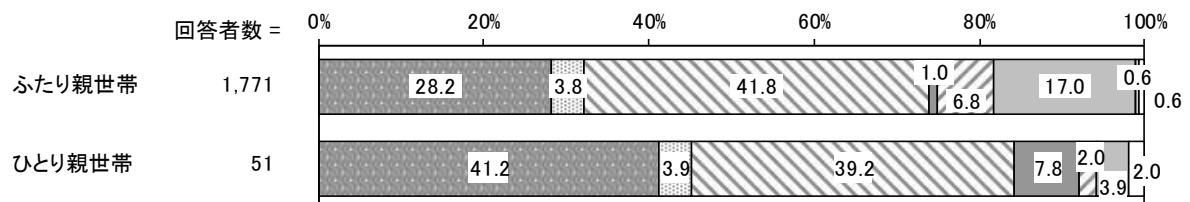
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「正社員・正規職員・会社役員」「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」の割合が、困窮家庭で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）」の割合が高くなっています。



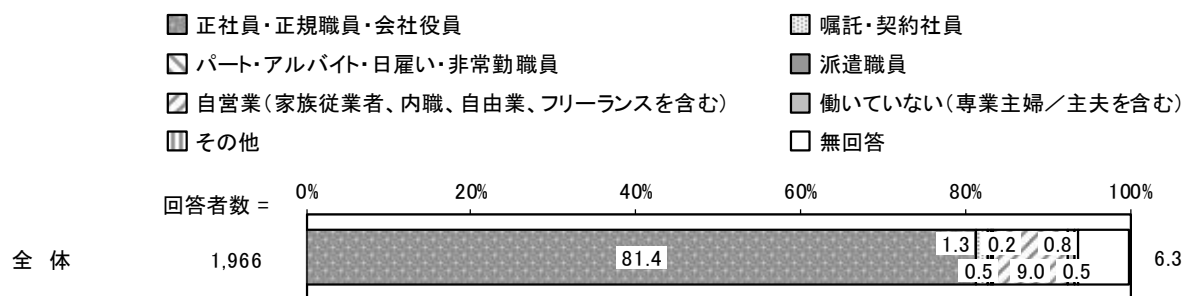
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯では、「正社員・正規職員・会社役員」と「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合がほぼ同じになっています。



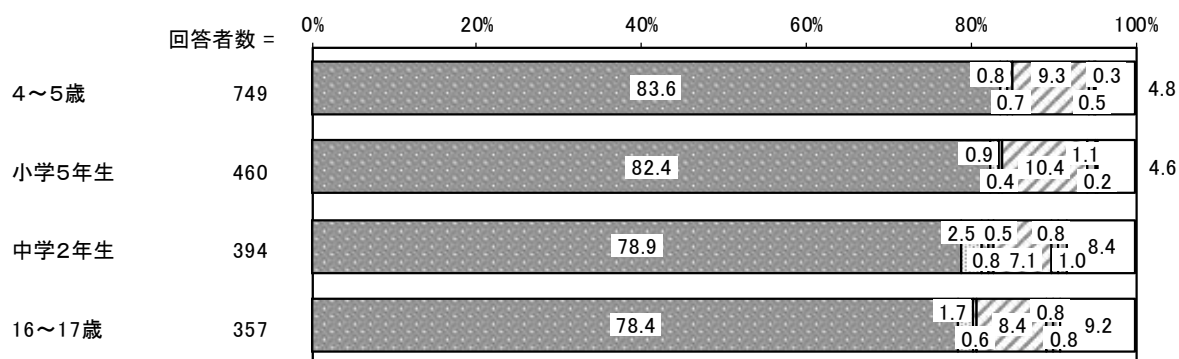
2. 父親

「正社員・正規職員・会社役員」の割合が81.4%と最も高くなっています。



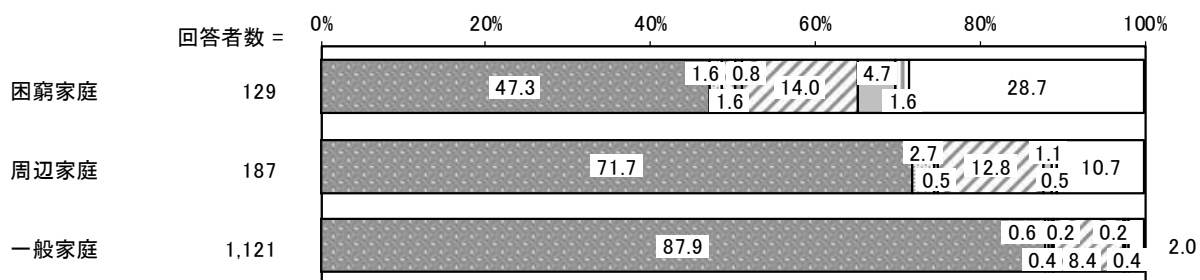
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。また、一般家庭に比べ、困窮家庭、周辺家庭で「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)」の割合が高くなっています。



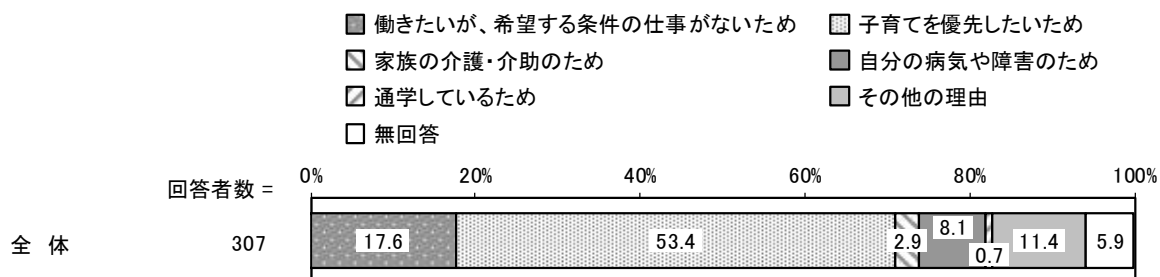
【世帯状況別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

問9-1 問9で「働いていない」を選んだ方におたずねします。
働いていない主な理由を教えてください。(母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

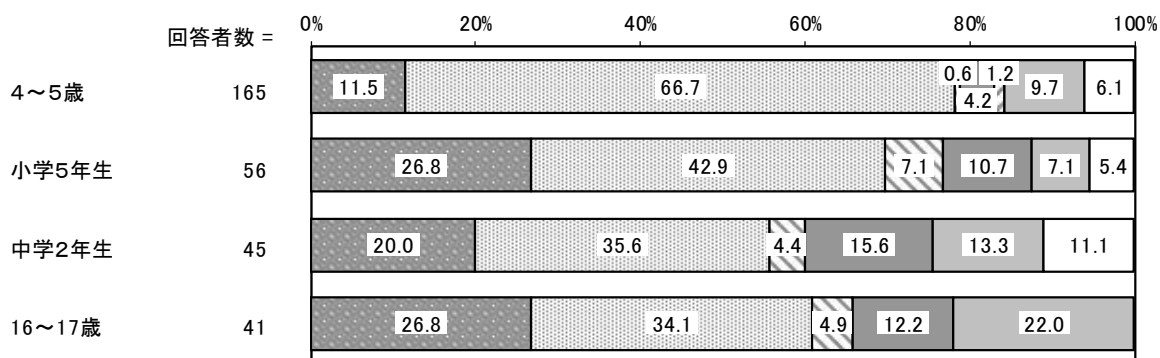
1. 母親

「子育てを優先したいため」の割合が53.4%と最も高く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」の割合が17.6%、「その他の理由」の割合が11.4%となっています。



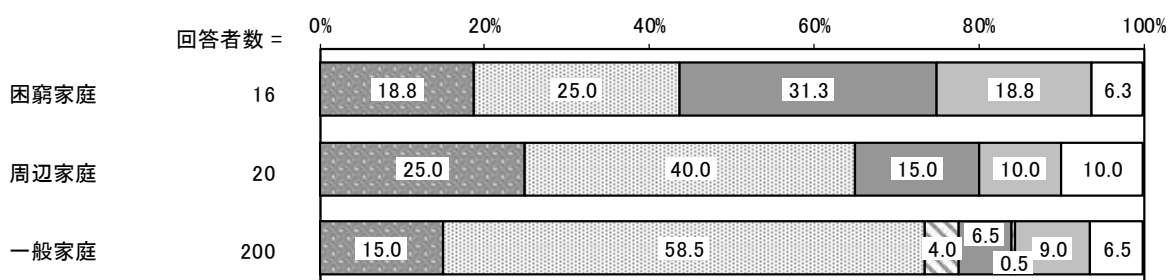
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「子育てを優先したいため」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他に比べ、中学2年生で「自分の病気や障害のため」の割合が高くなっています。



【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」の割合が、一般家庭で「子育てを優先したいため」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「自分の病気や障害のため」「その他の理由」の割合が高くなっています。

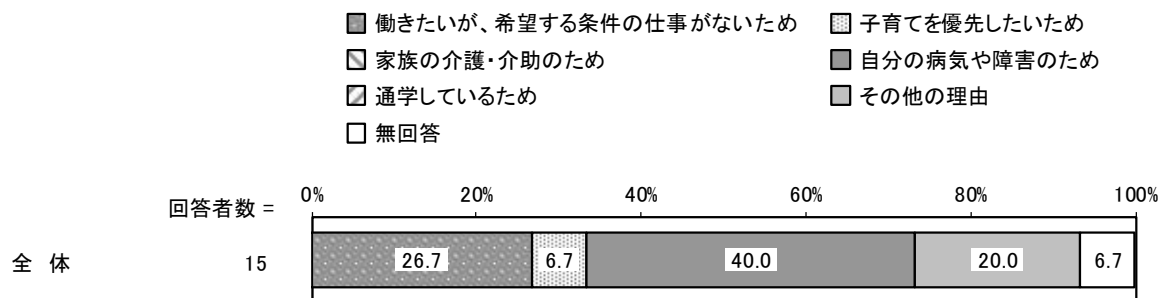


【世帯状況別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

2. 父親

「自分の病気や障害のため」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」の割合が 26.7%、「その他の理由」の割合が 20.0%となっています。



【子どもの年代別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

【生活困難度別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

【世帯状況別】

有効回答が少なくため、コメントは控えます。

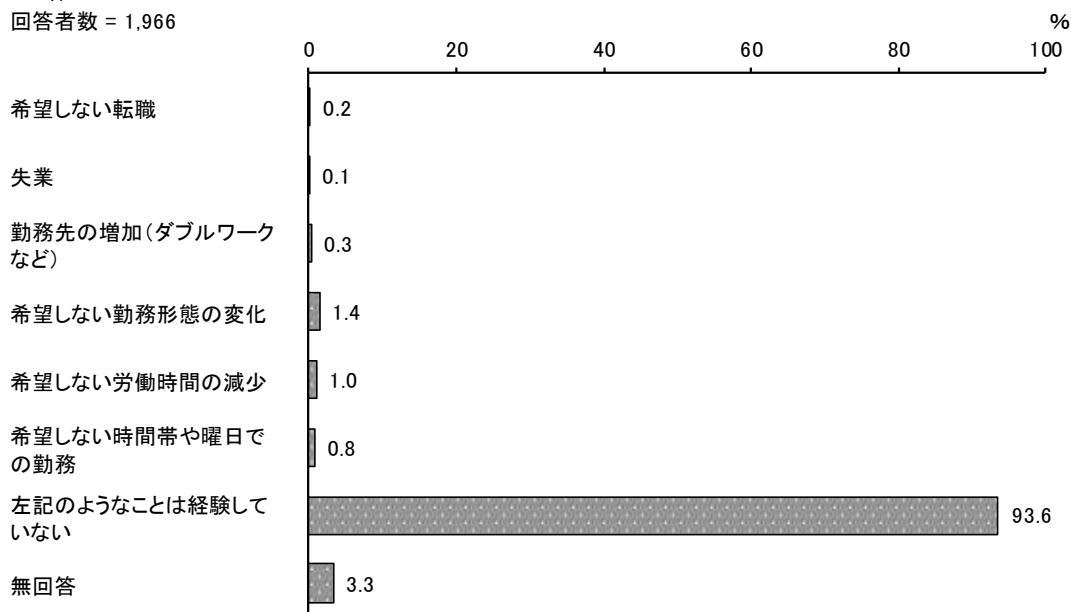
問 10 台風 19 号（令和元年東日本台風）災害や、新型コロナウイルス感染症の影響で、お子さんの親は次のようなことを経験しましたか。
 （母親・父親、台風 19 号災害・新型コロナウイルス感染症それぞれについて、あてはまる番号すべてに○）

1. 母親

A 台風 19 号災害

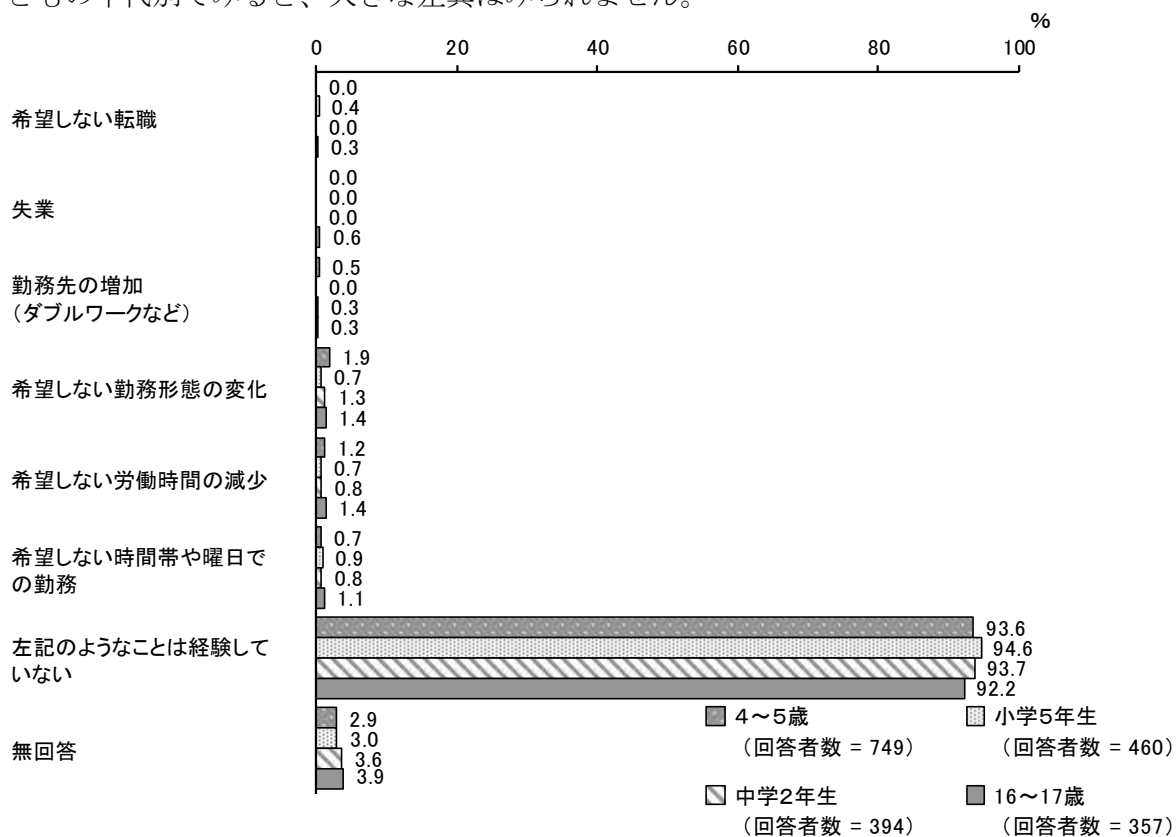
「左記のようなことは経験していない」の割合が 93.6%と最も高くなっています。

全 体
 回答者数 = 1,966



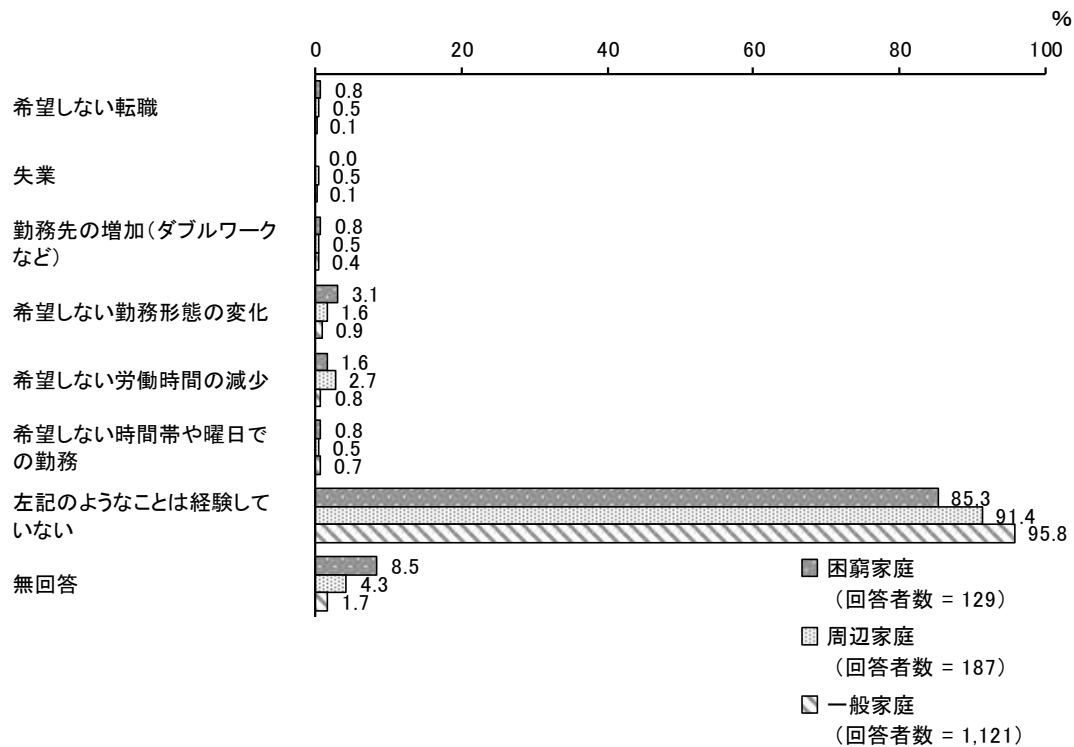
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



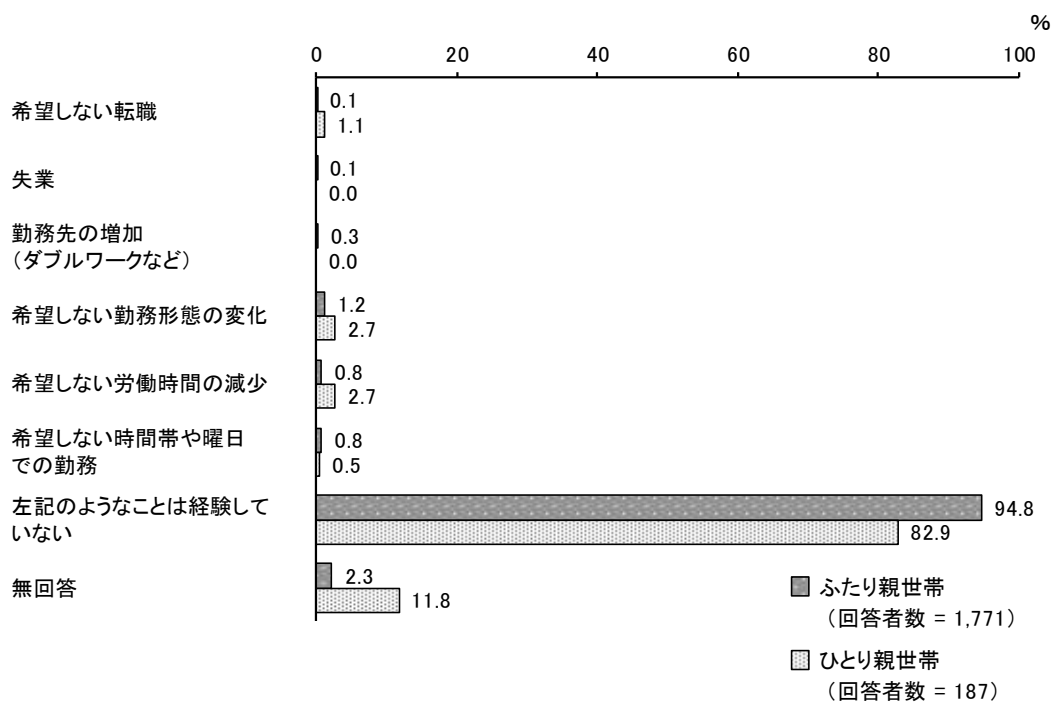
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。

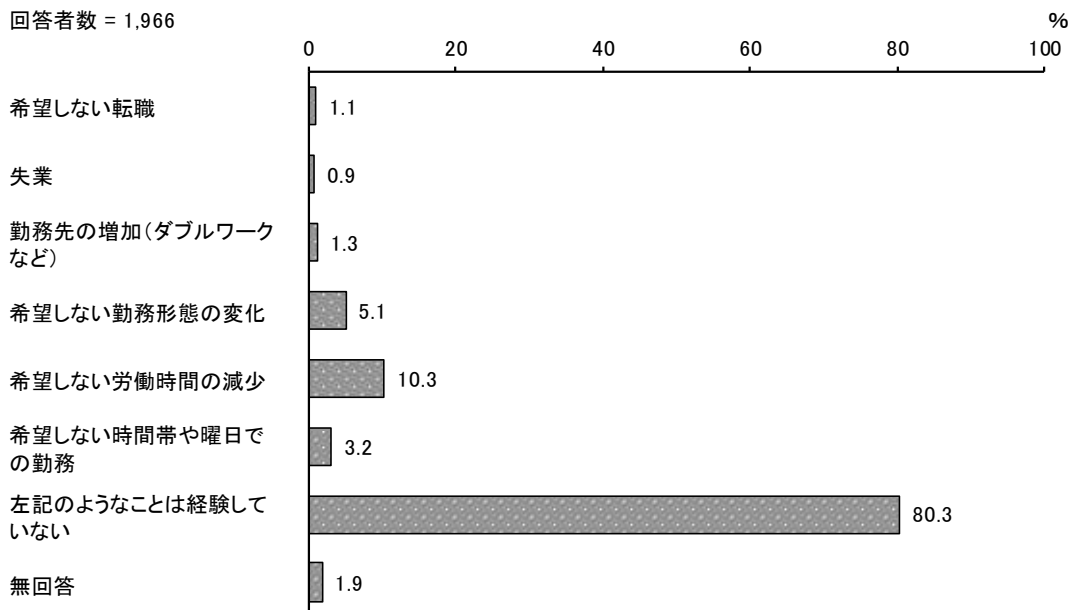


B 新型コロナウイルス感染症

「左記のようなことは経験していない」の割合が80.3%と最も高く、次いで「希望しない労働時間の減少」の割合が10.3%となっています。

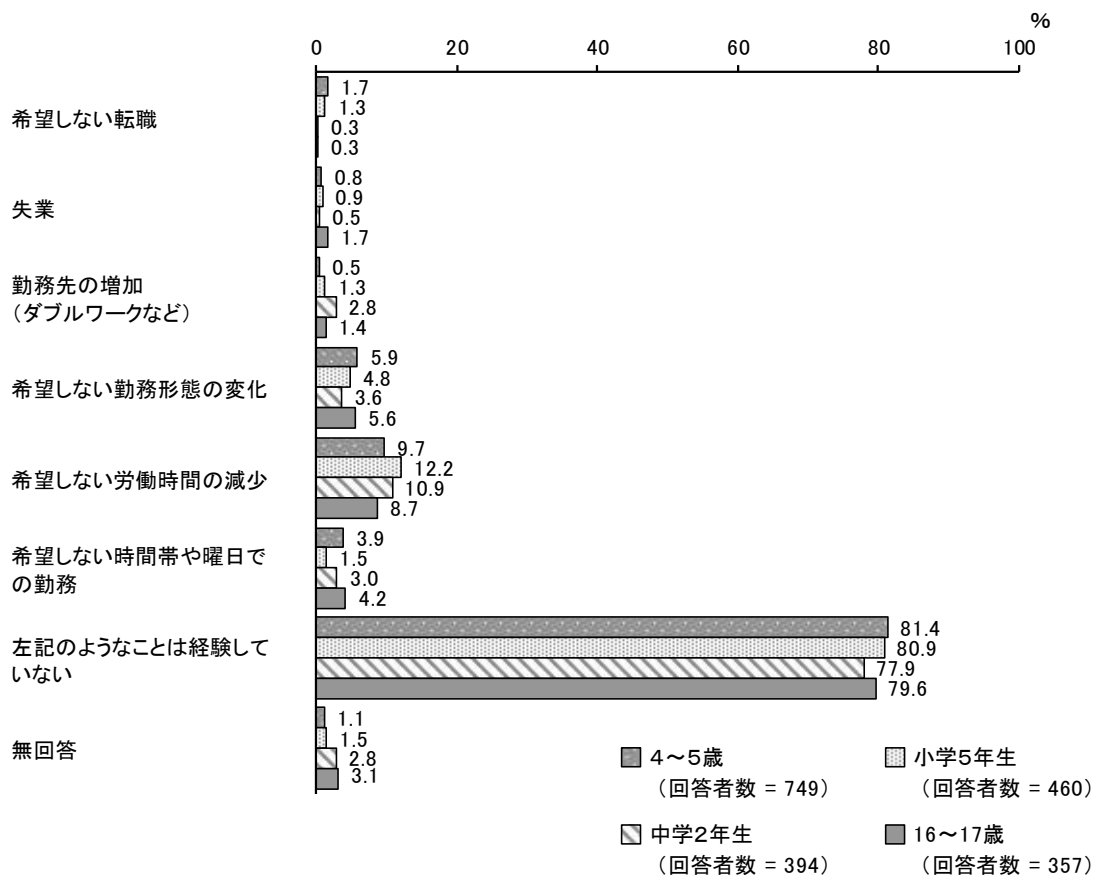
全 体

回答者数 = 1,966



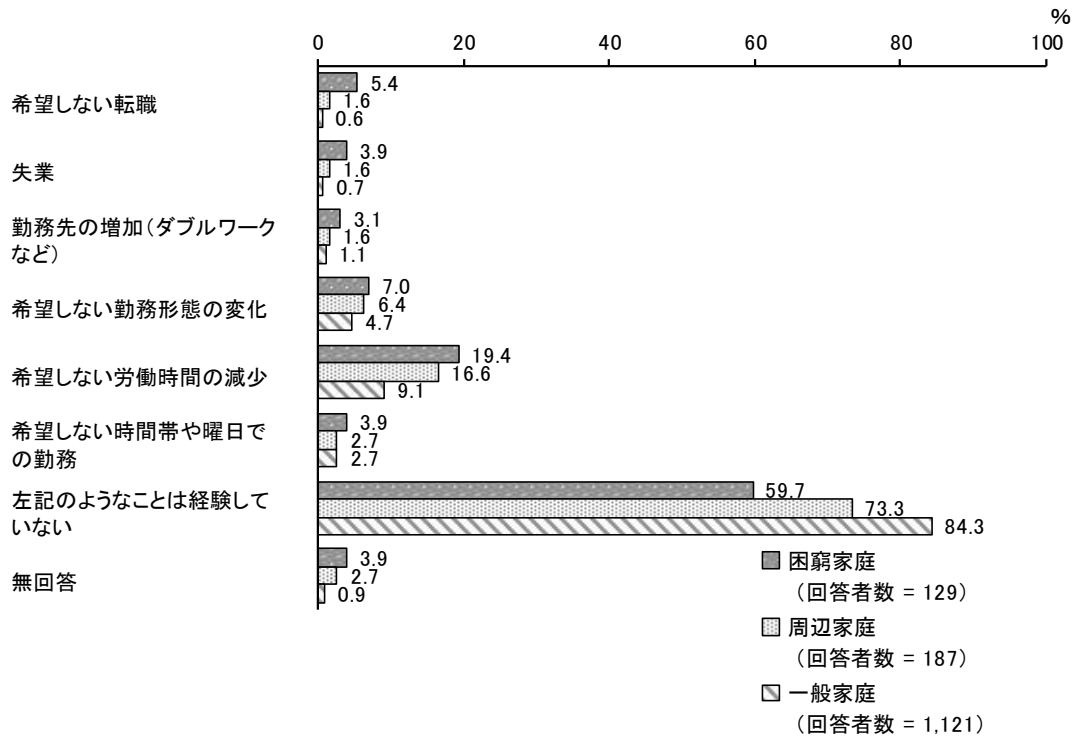
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



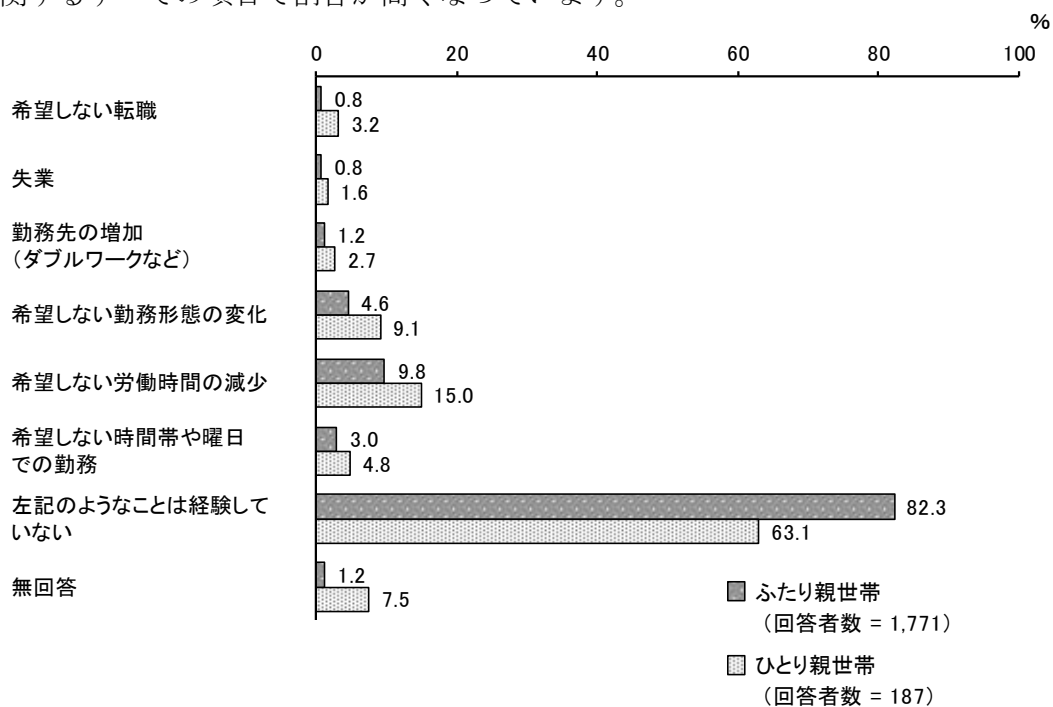
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、一般家庭で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。また、困窮家庭では他に比べ「経験をした」に関するすべての項目で割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「経験をした」に関するすべての項目で割合が高くなっています。



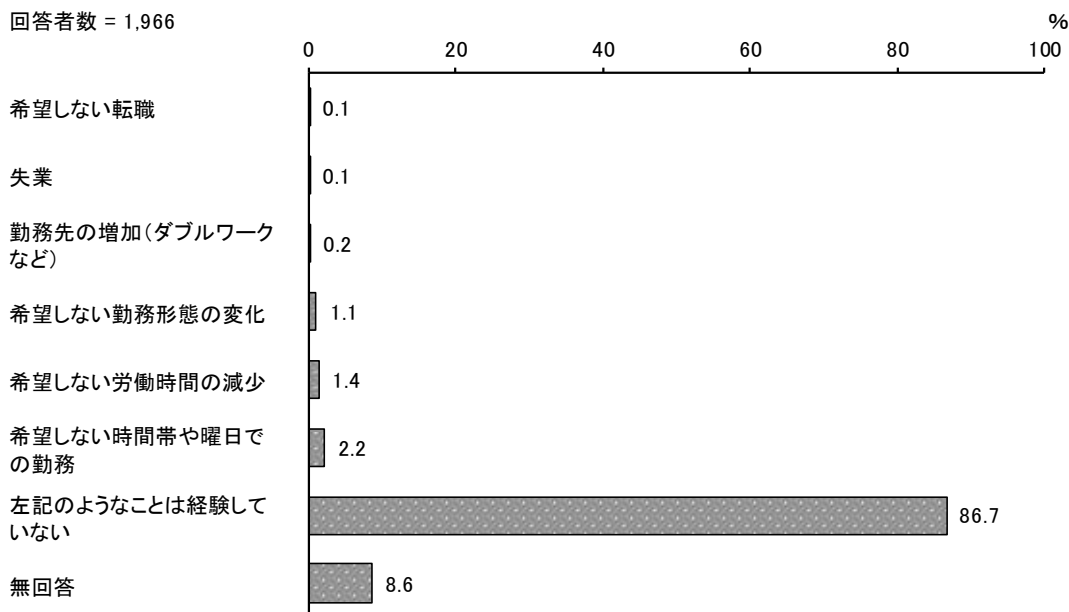
2. 父親

A 台風 19 号災害

「左記のようなことは経験していない」の割合が 86.7%と最も高くなっています。

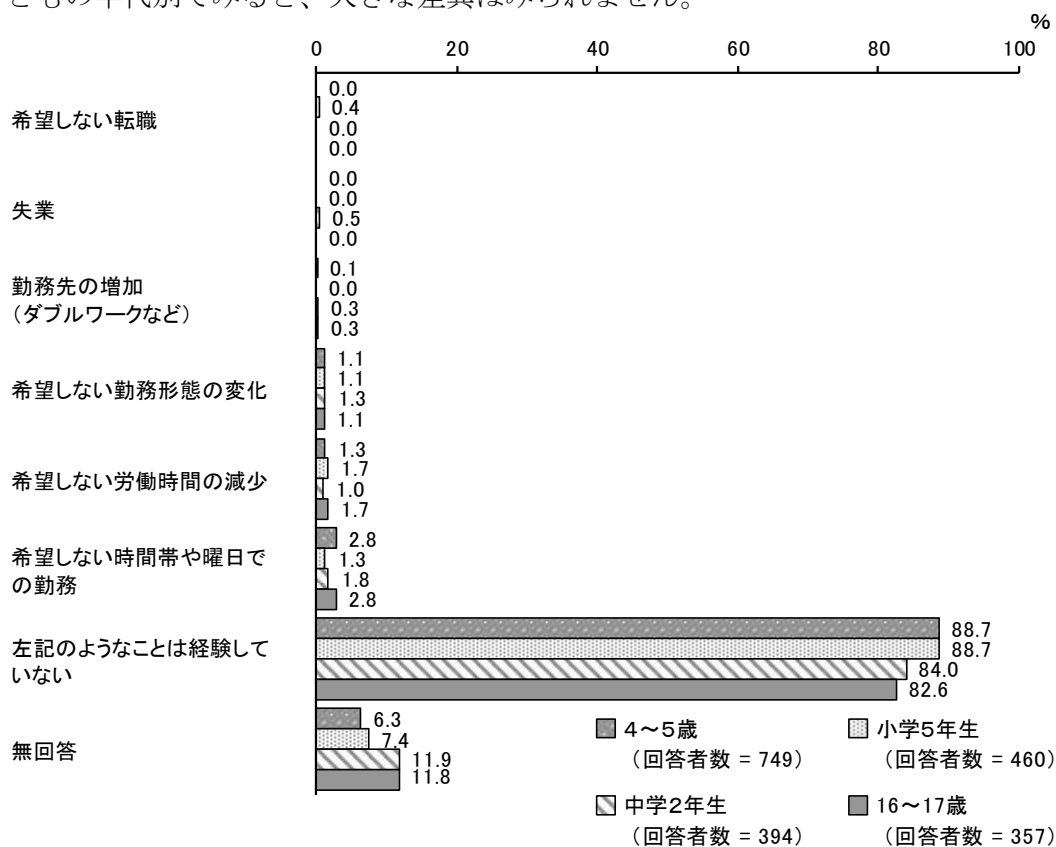
全 体

回答者数 = 1,966



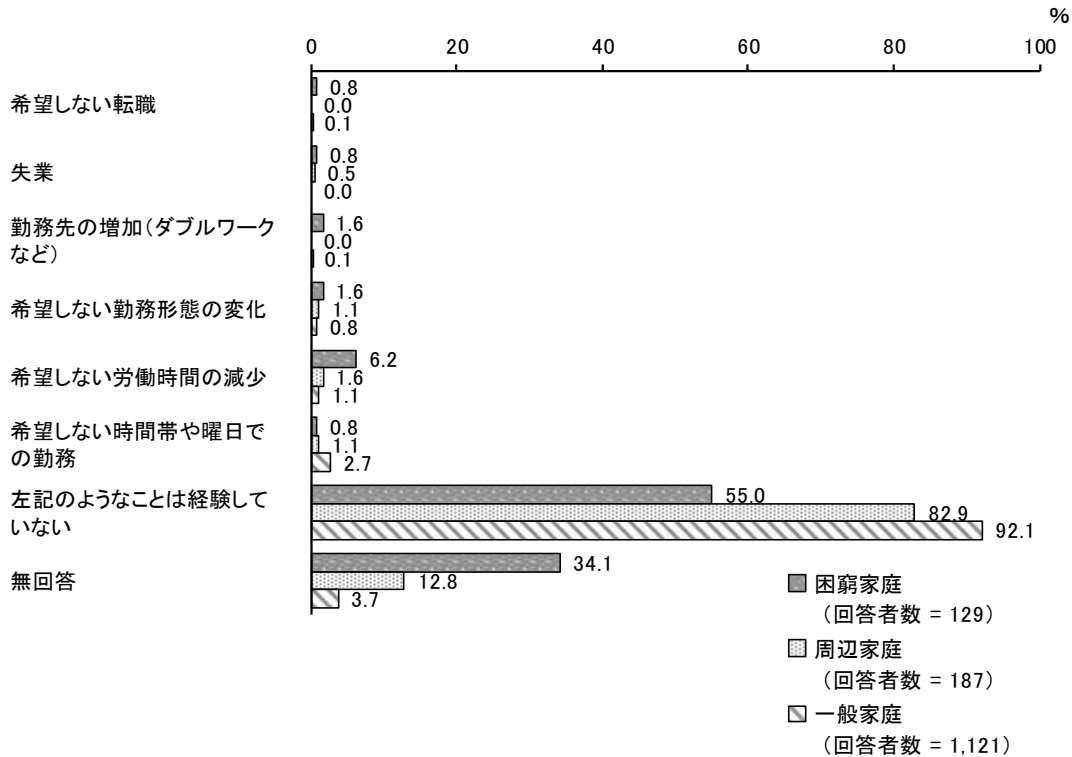
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



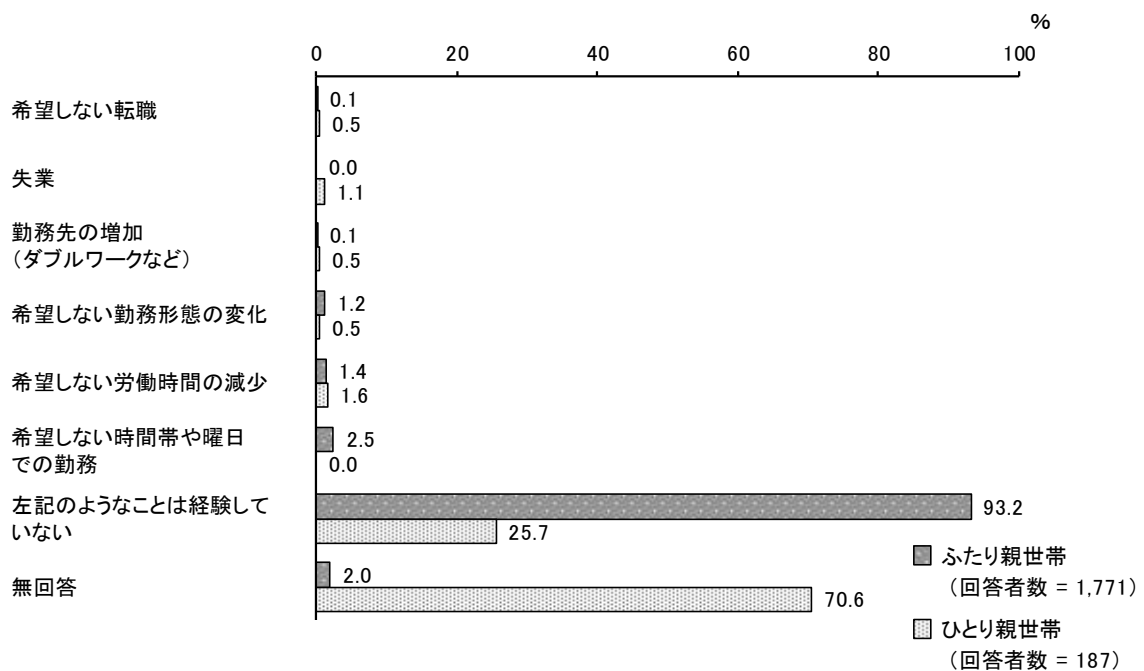
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「希望しない労働時間の減少」の割合が、一般家庭で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。

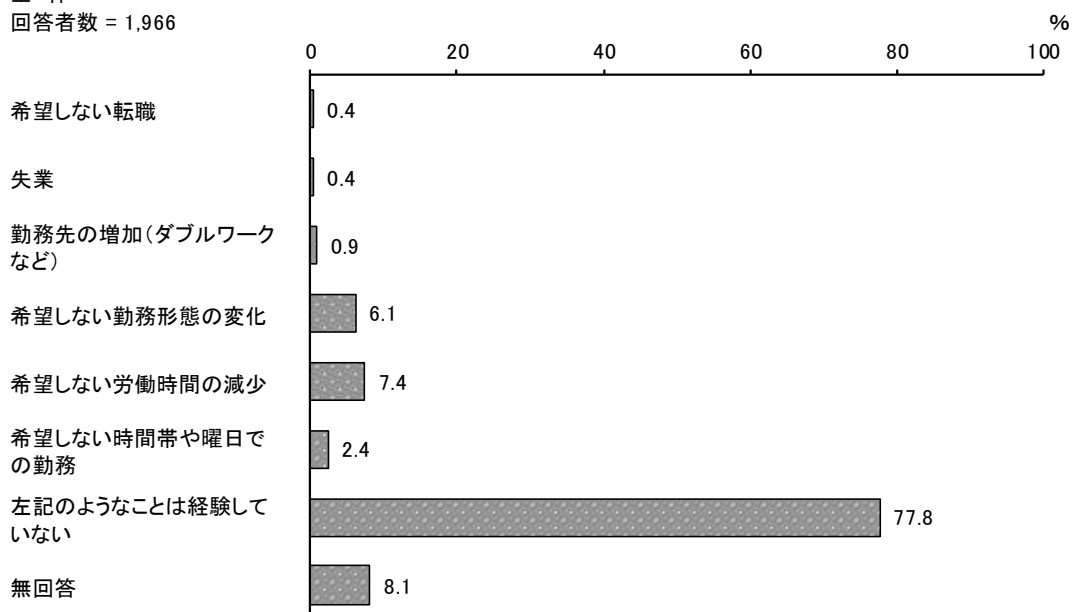


B 新型コロナウイルス感染症

「左記のようなことは経験していない」の割合が77.8%と最も高くなっています。

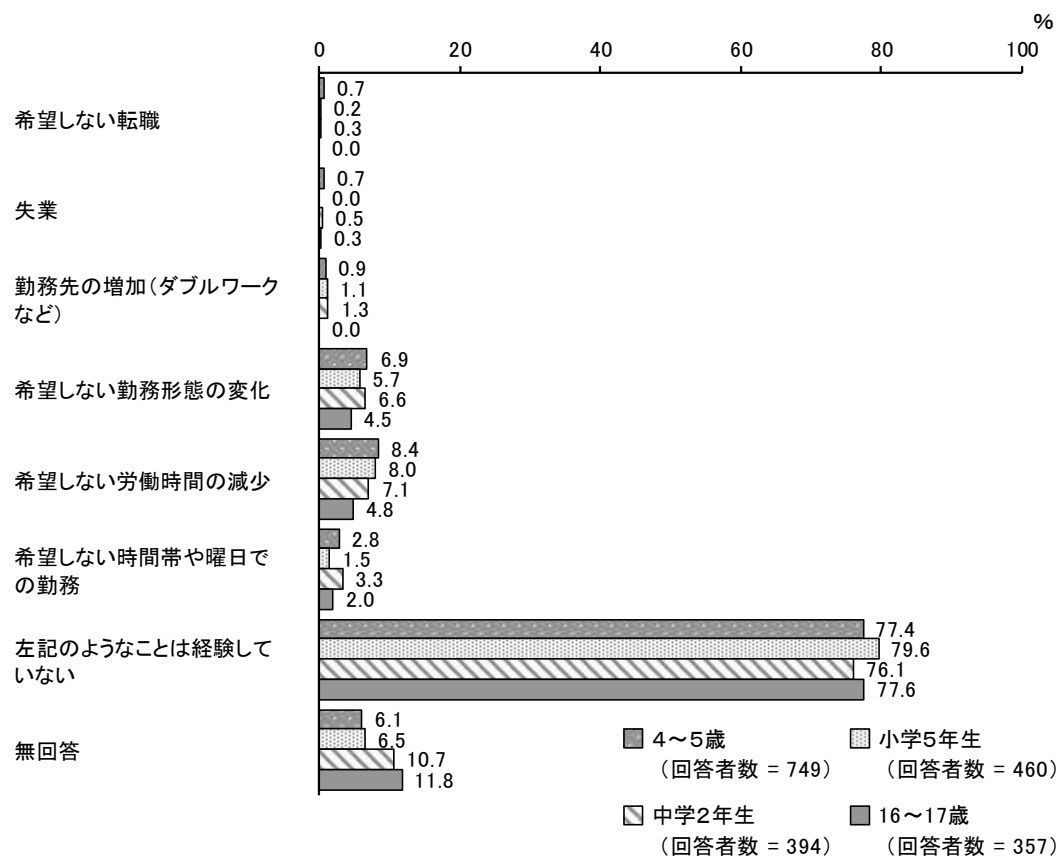
全 体

回答者数 = 1,966



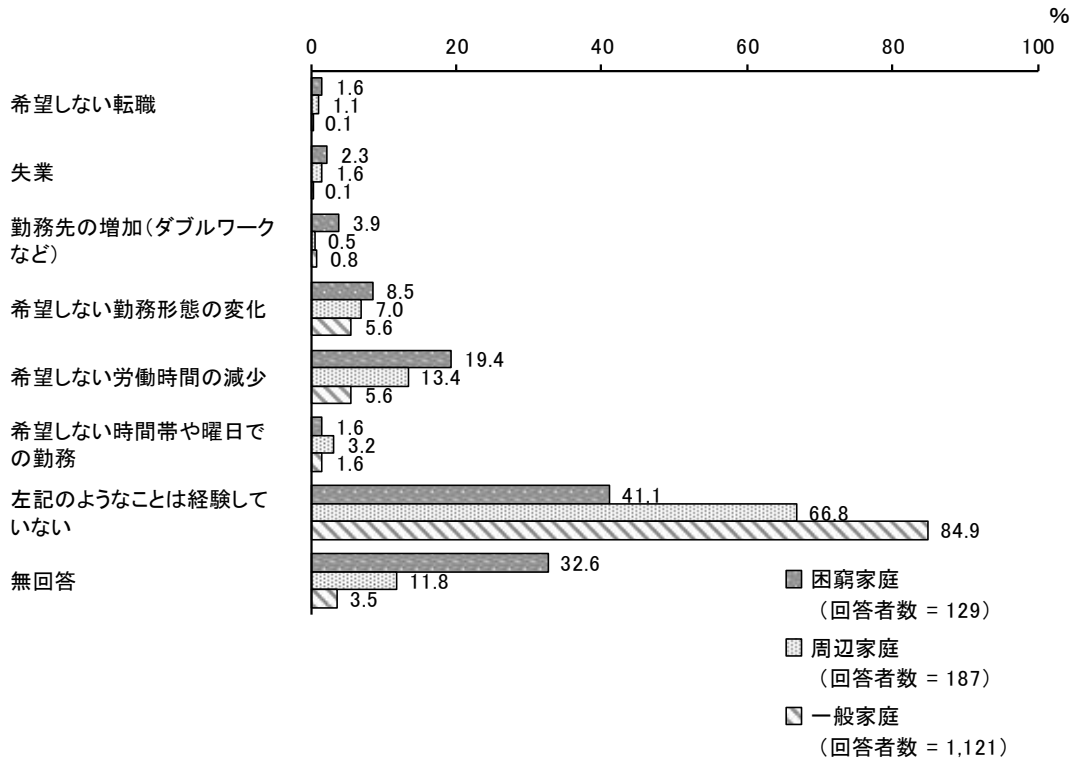
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



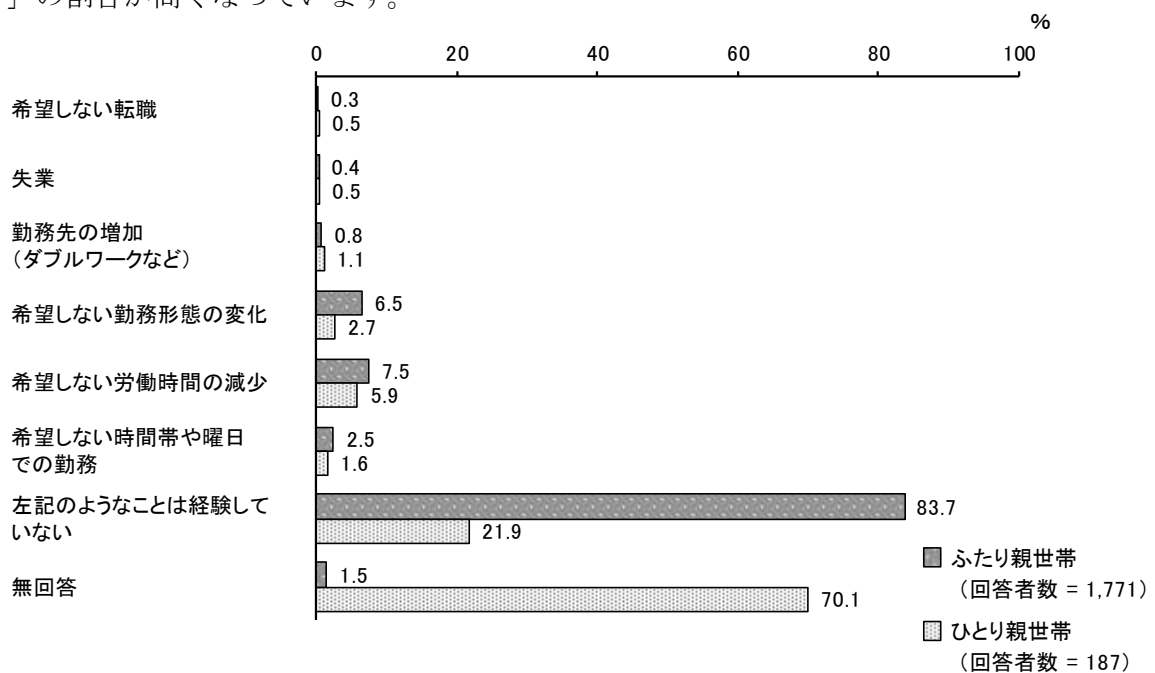
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「希望しない労働時間の減少」の割合が、一般家庭で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

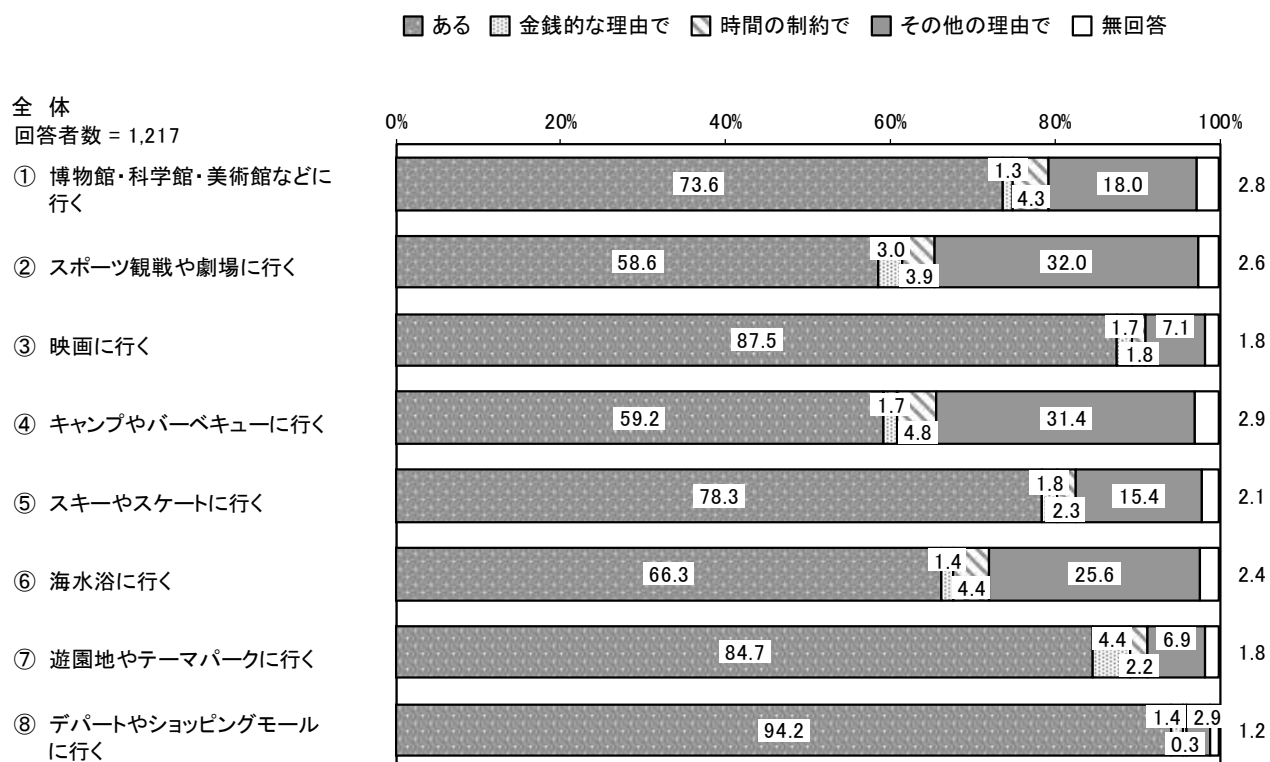
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「左記のようなことは経験していない」の割合が高くなっています。



(3) 子どもとの関わりについて

問 11 お子さんが、小学5年生、中学2年生または16～17歳の方にのみおたずねします。
あなたのご家庭では、新型コロナウイルス感染症が拡大する以前、お子さんと次のような体験をしていましたか。
(①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

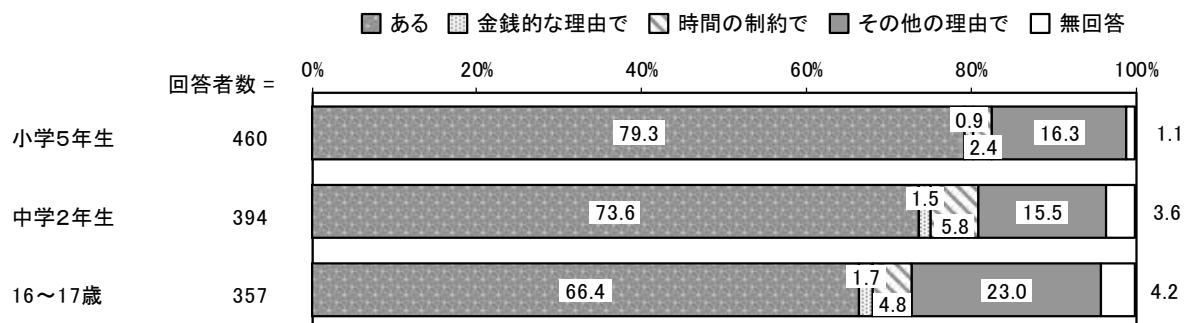
『③ 映画に行く』『⑦ 遊園地やテーマパークに行く』『⑧ デパートやショッピングモールに行く』で「ある」の割合が高く、9割前後となっています。



① 博物館・科学館・美術館などに行く

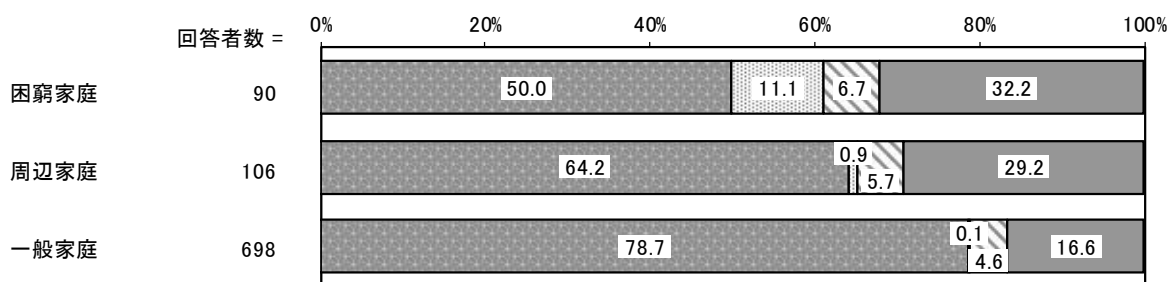
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。



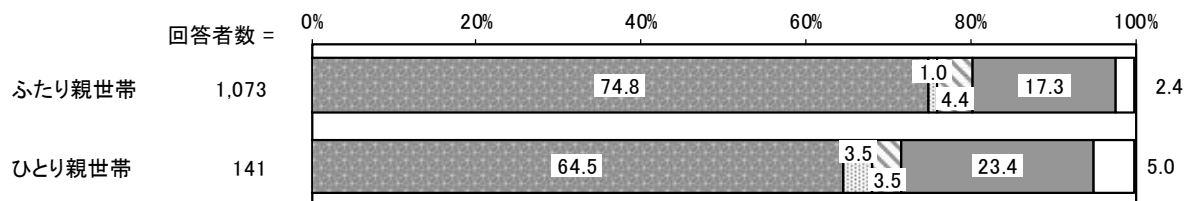
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

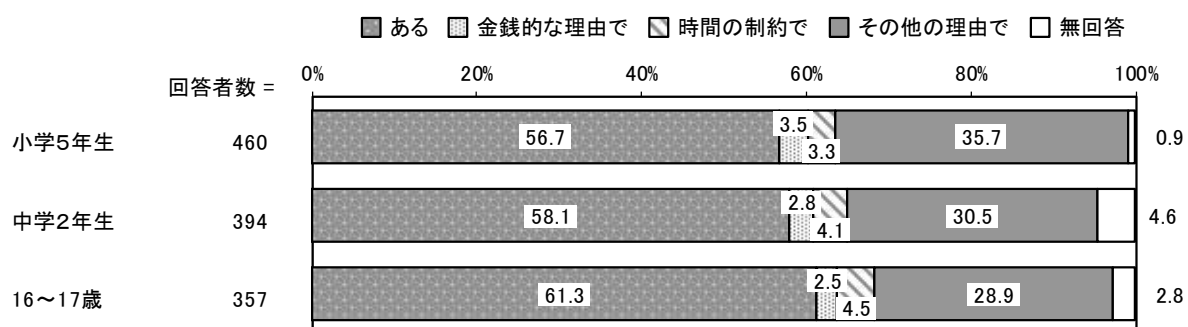
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



② スポーツ観戦や劇場に行く

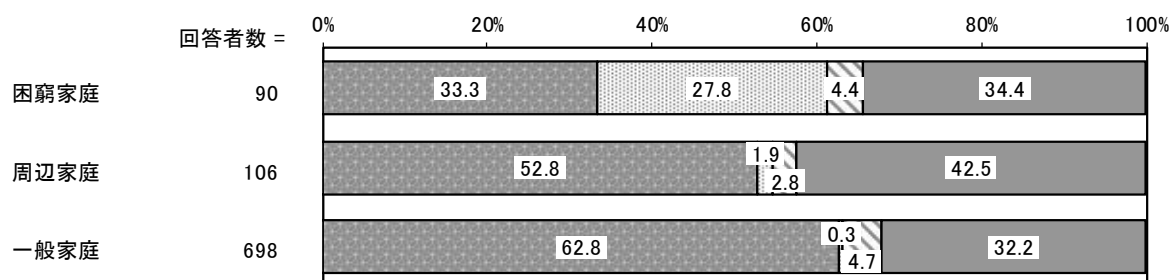
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



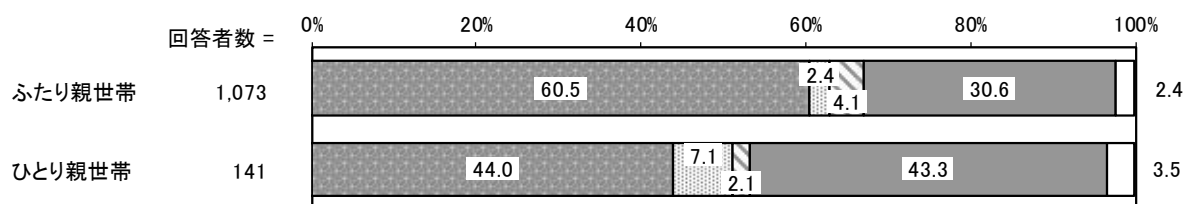
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

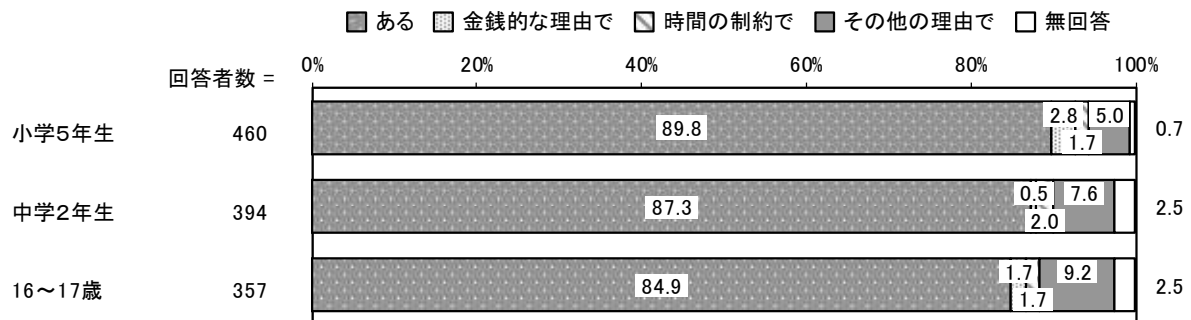
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



③ 映画に行く

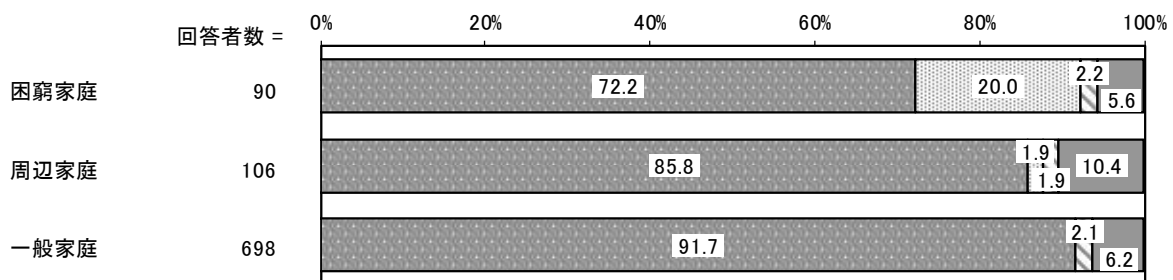
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



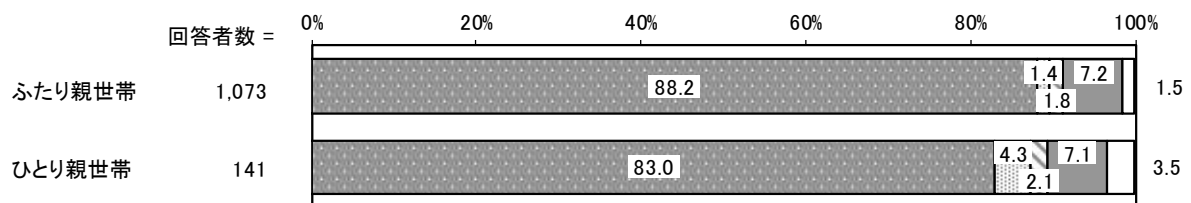
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

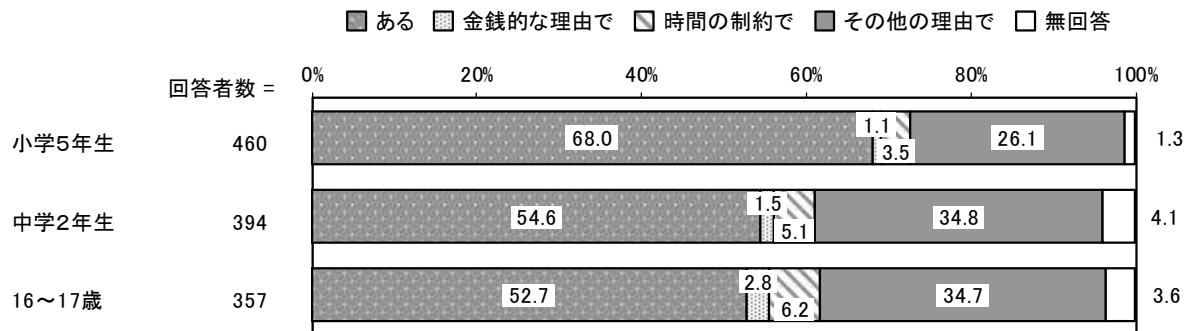
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。



④ キャンプやバーベキューに行く

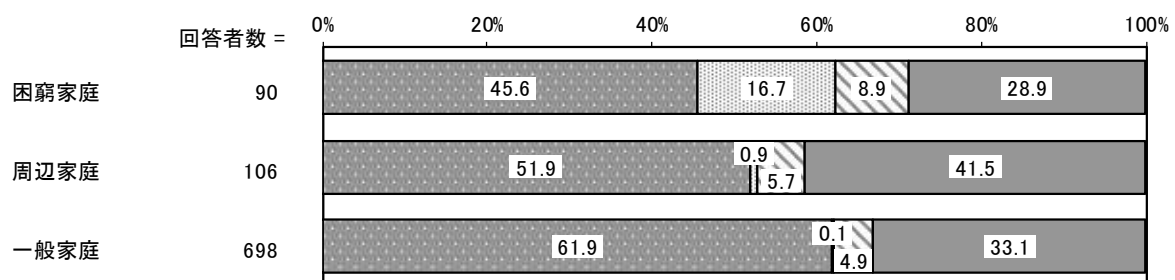
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。



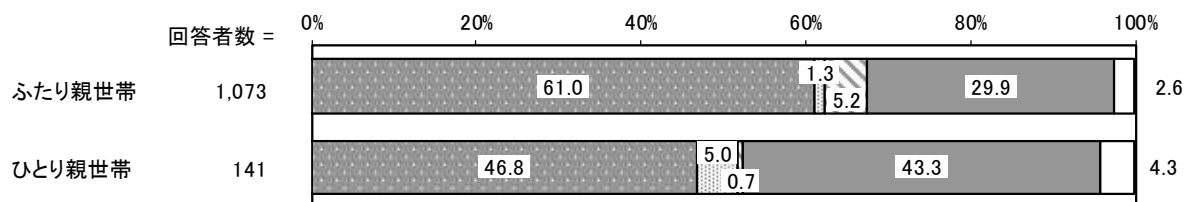
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

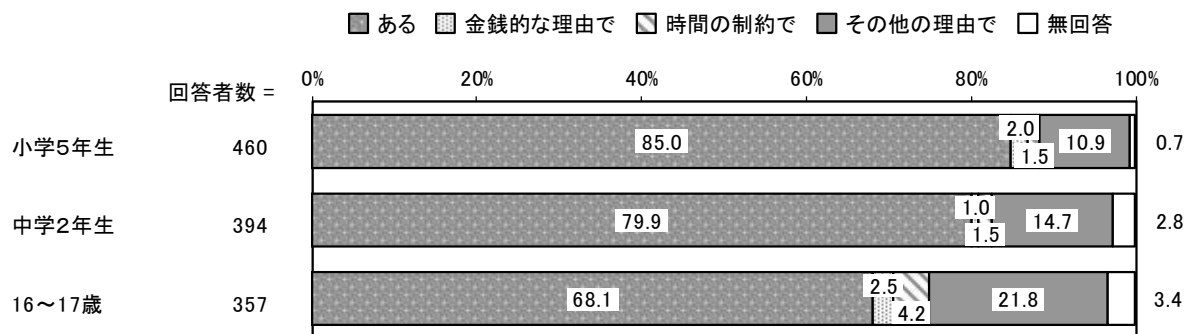
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



⑤ スキーやスケートに行く

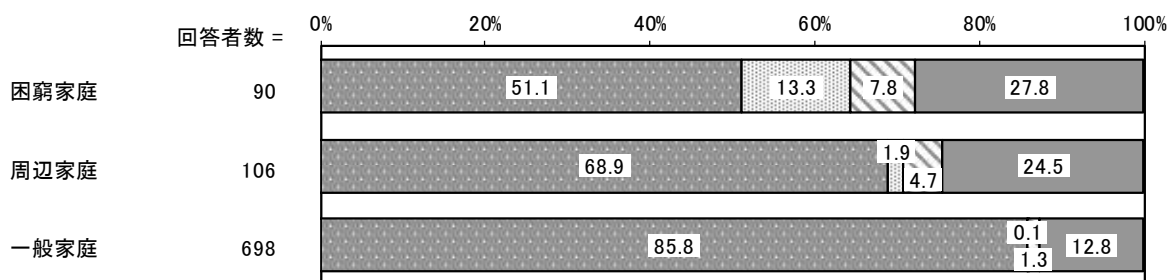
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。



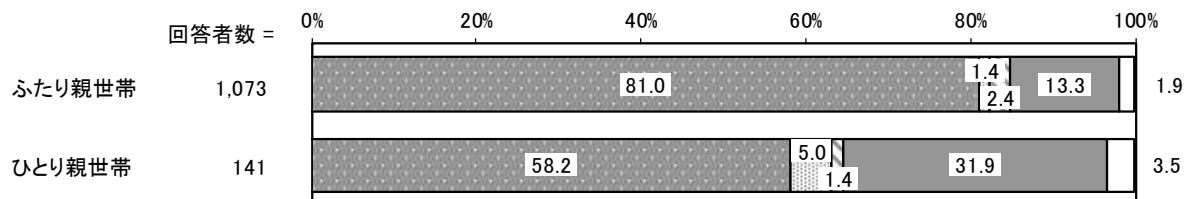
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」「時間の制約で」「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

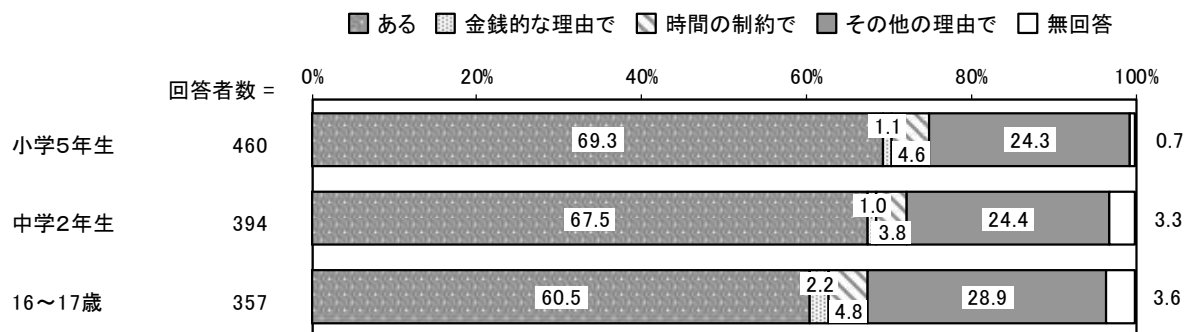
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



⑥ 海水浴に行く

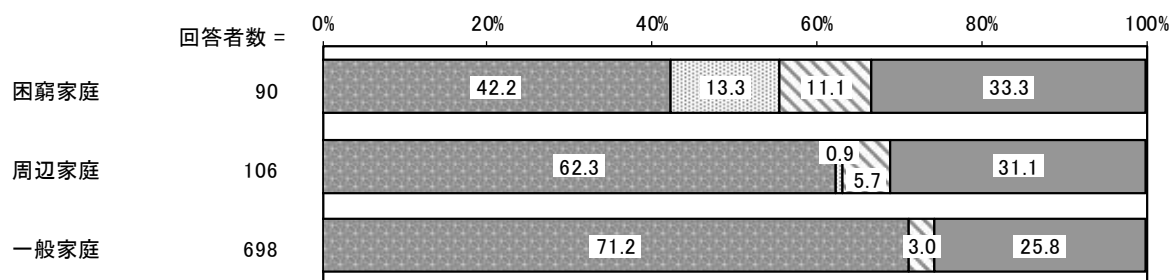
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。



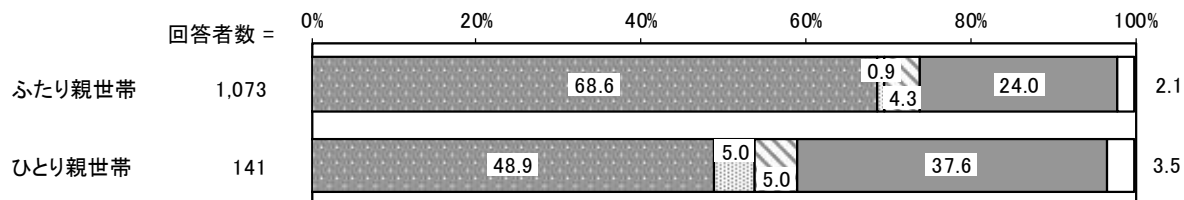
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」「時間の制約で」「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

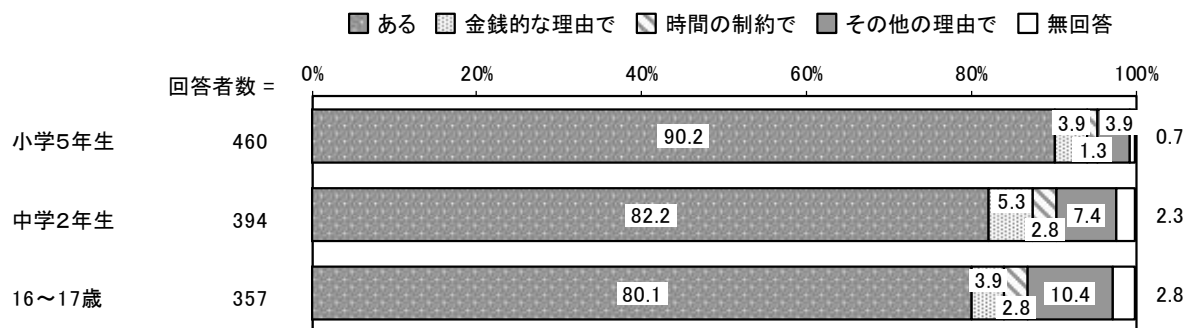
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



⑦ 遊園地やテーマパークに行く

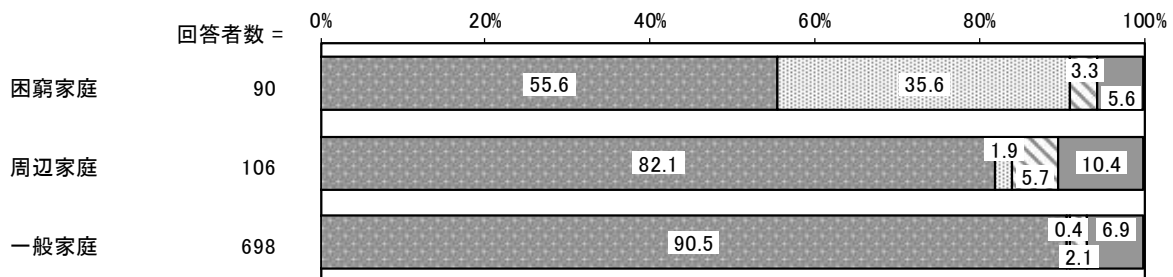
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。



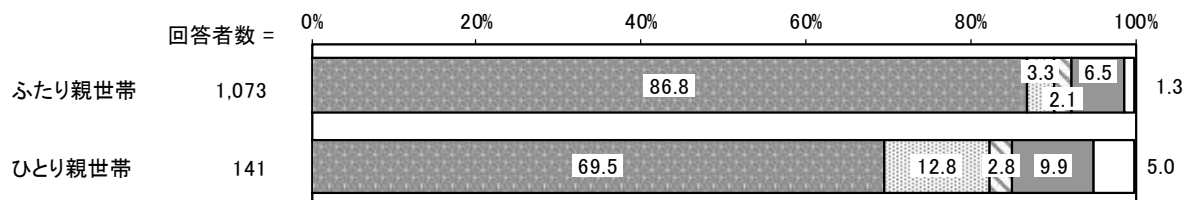
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「その他の理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

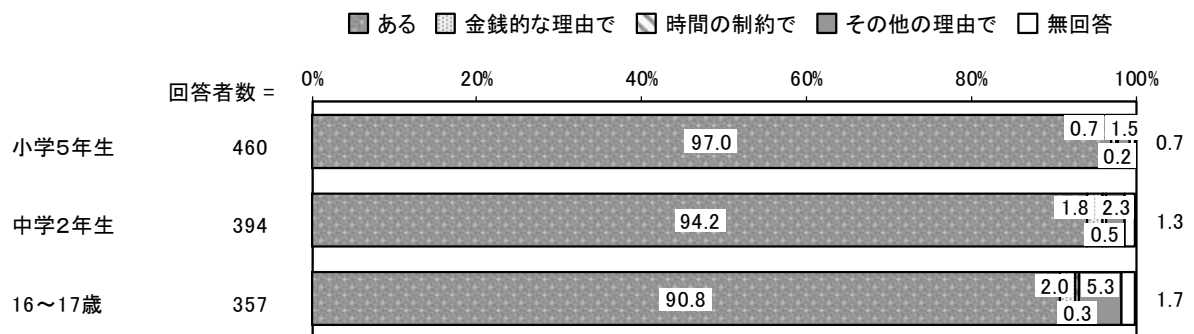
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。



⑧ デパートやショッピングモールに行く

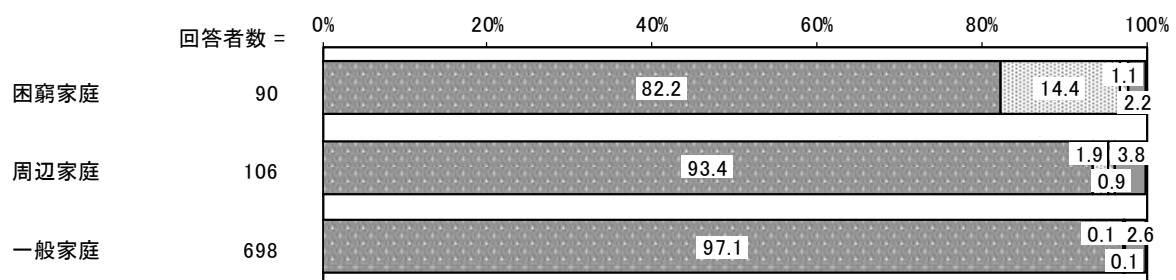
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。



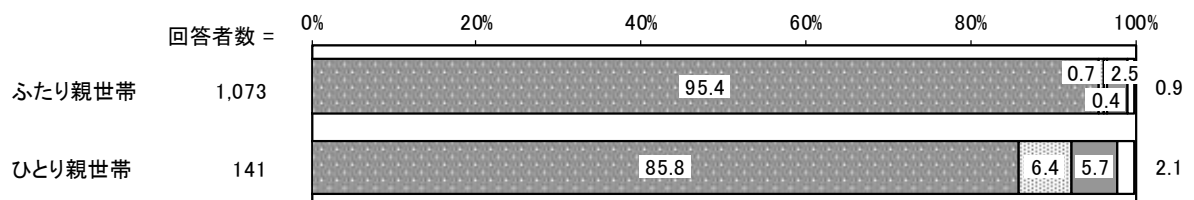
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「ある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「金銭的な理由で」の割合が高くなっています。



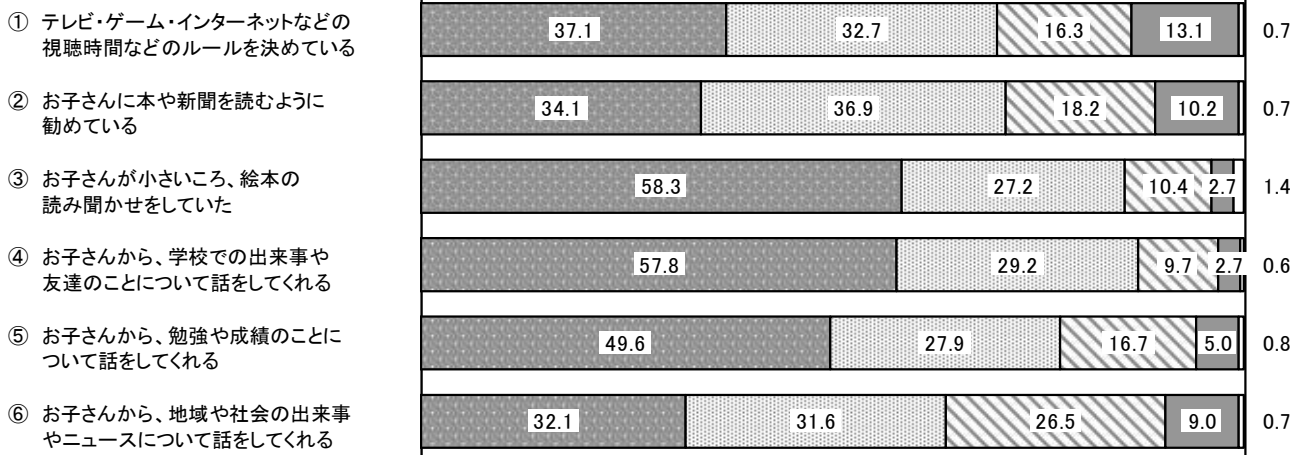
問 12 お子さんが、小学5年生、中学2年生または16～17歳の方にのみおたずねします。
保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当ては
まりますか。(①～⑥それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

『③ お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた』『④ お子さんから、学校での
出来事や友達のことについて話をしてくれる』で「あてはまる」と「どちらかといえば あては
まる」をあわせた“あてはまる”の割合が高く、8割半ばとなっています。

一方、『⑥ お子さんから、地域や社会の出来事やニュースについて話をしてくれる』で「ど
ちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」をあわせた“あてはまらない”の割合が
高く、3割半ばとなっています。

■ あてはまる
■ どちらかといえば あてはまる
■ どちらかといえば あてはまらない
■ あてはまらない
□ 無回答

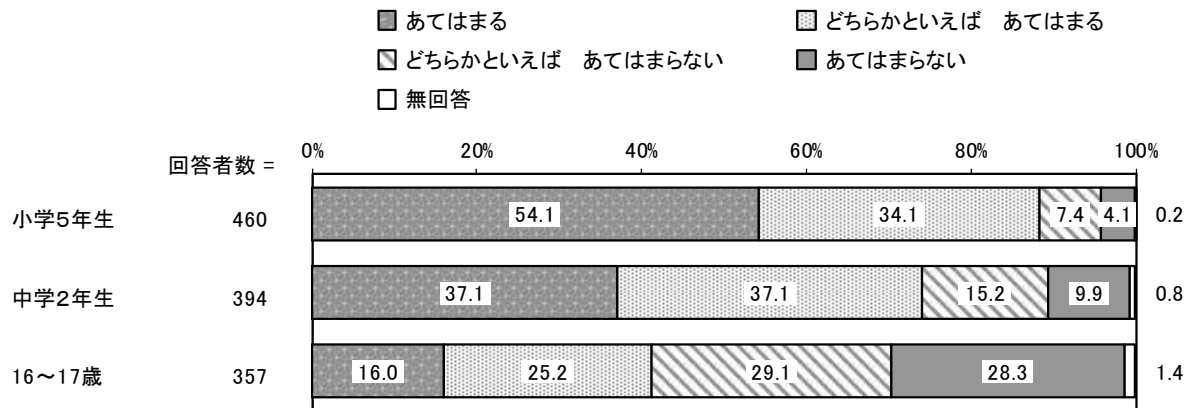
全 体
回答者数 = 1,217



① テレビ・ゲーム・インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている

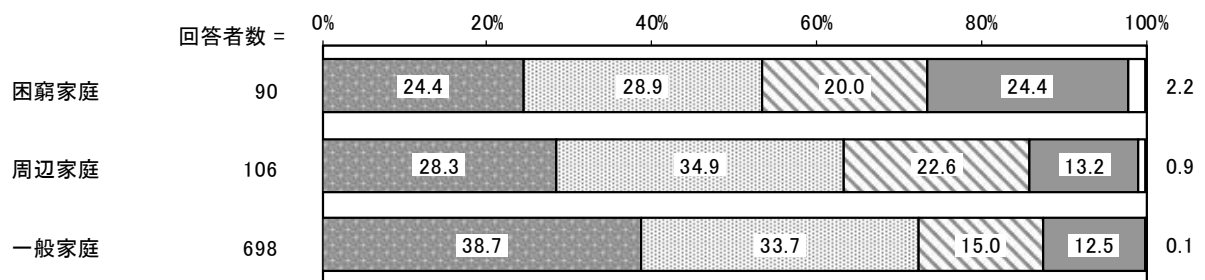
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が低くなる傾向がみられます。



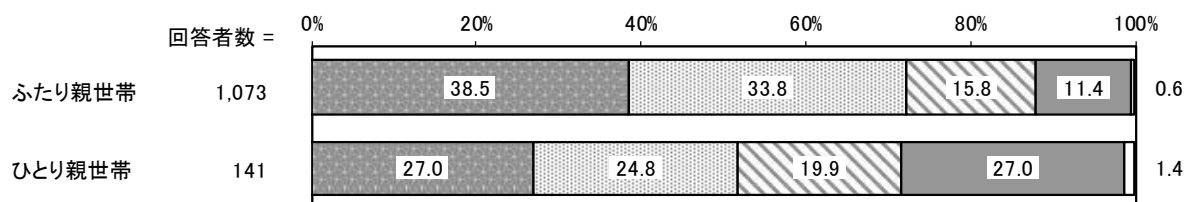
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“あてはまる”の割合が、困窮家庭で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

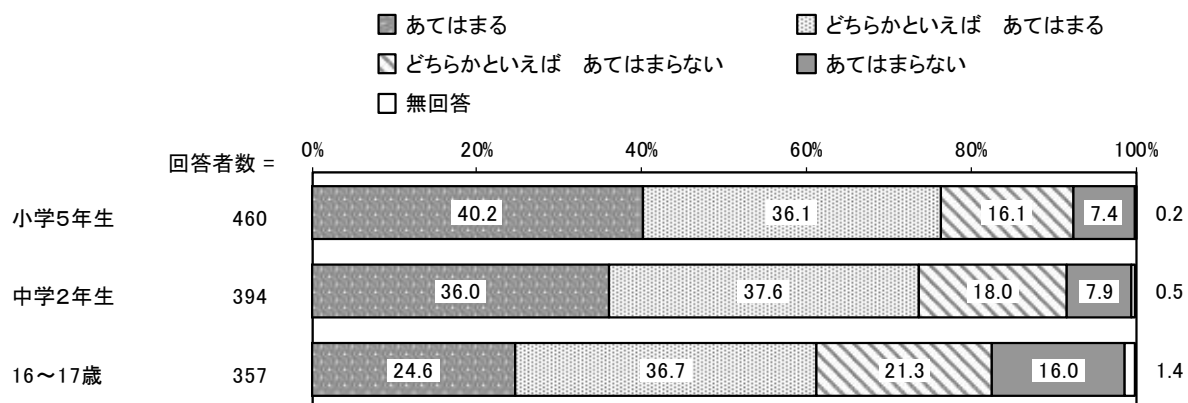
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



② お子さんに本や新聞を読むように勧めている

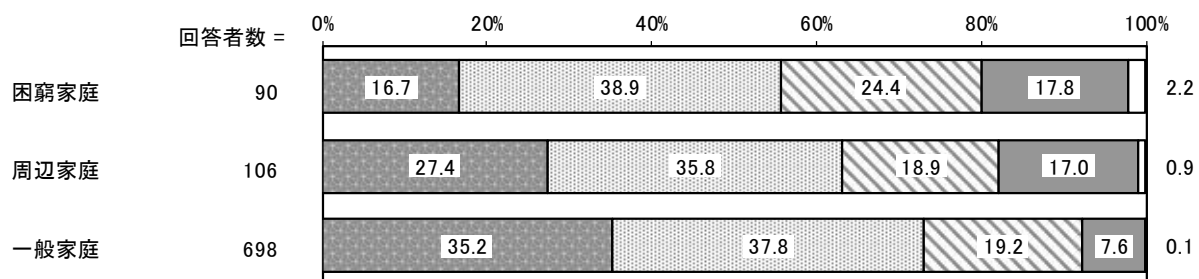
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が低くなる傾向がみられます。



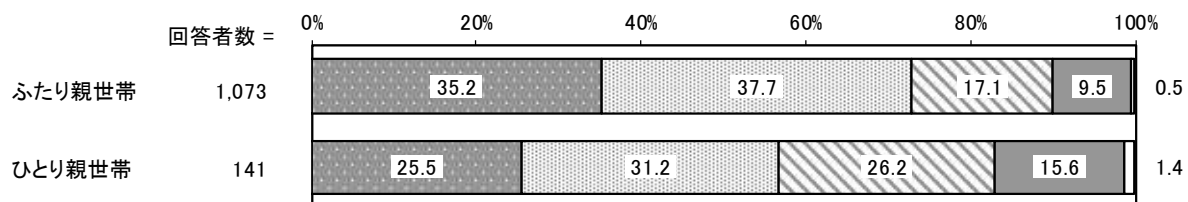
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“あてはまる”の割合が、困窮家庭で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

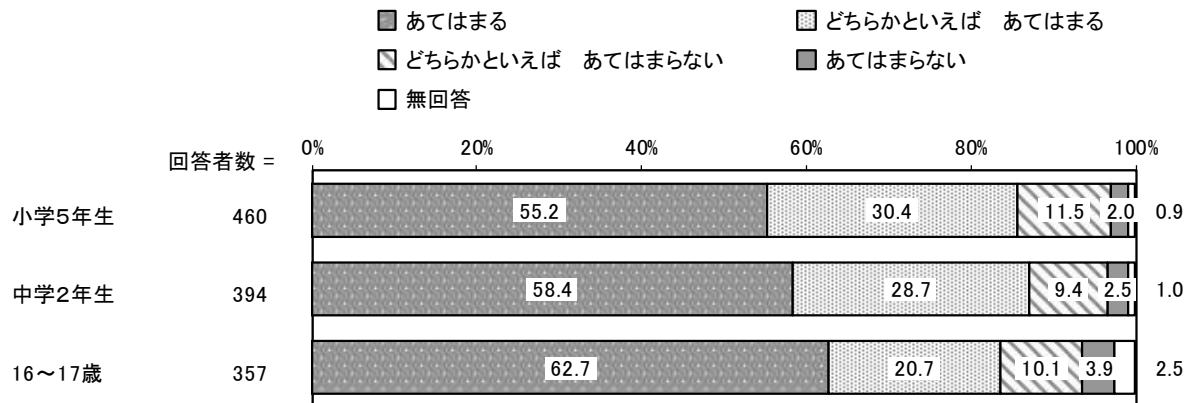
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



③ お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

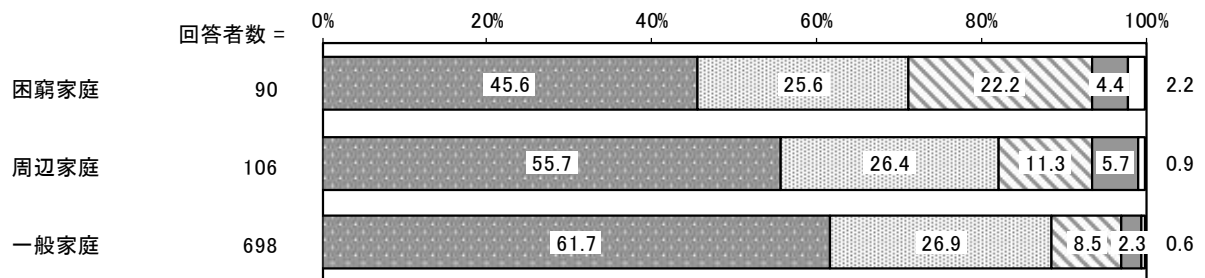
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「あてはまる」の割合が高くなる傾向がみられます。



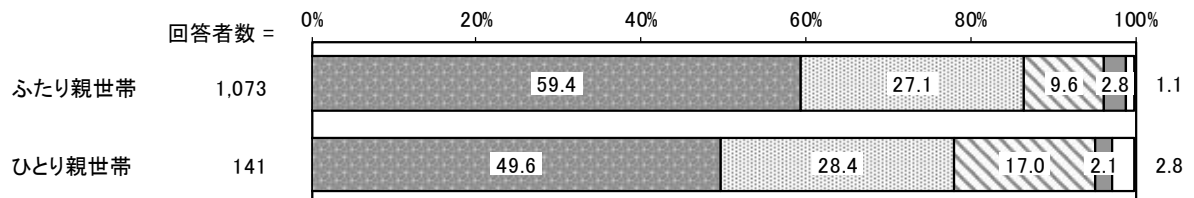
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“あてはまる”の割合が、困窮家庭で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

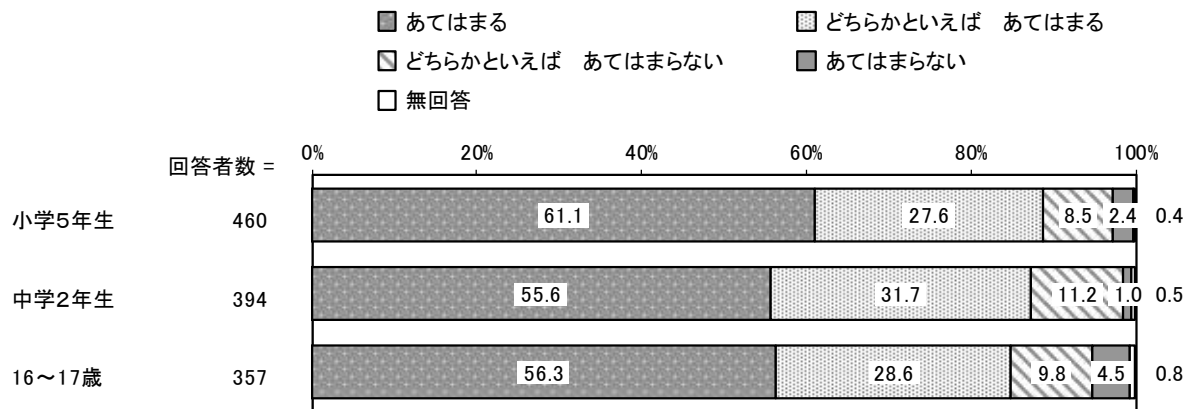
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



④ お子さんから、学校での出来事や友達のことについて話をしてくれる

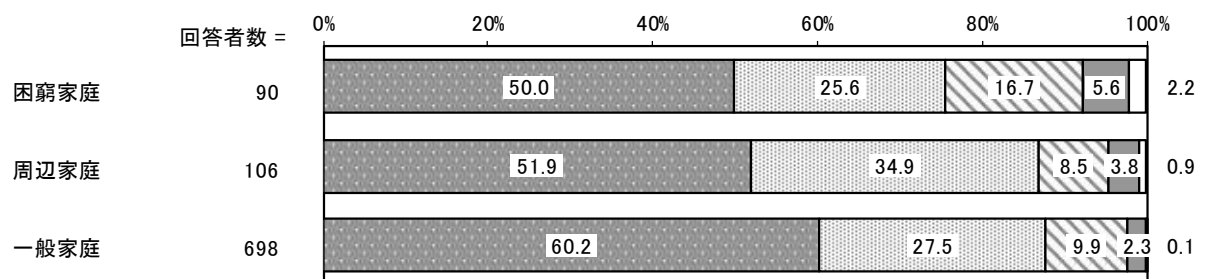
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



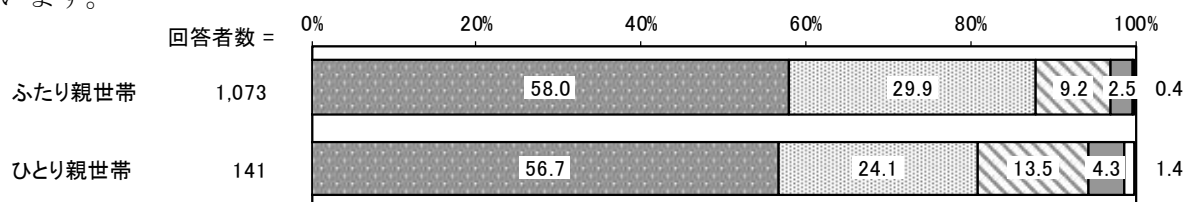
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で“あてはまる”の割合が、困窮家庭で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

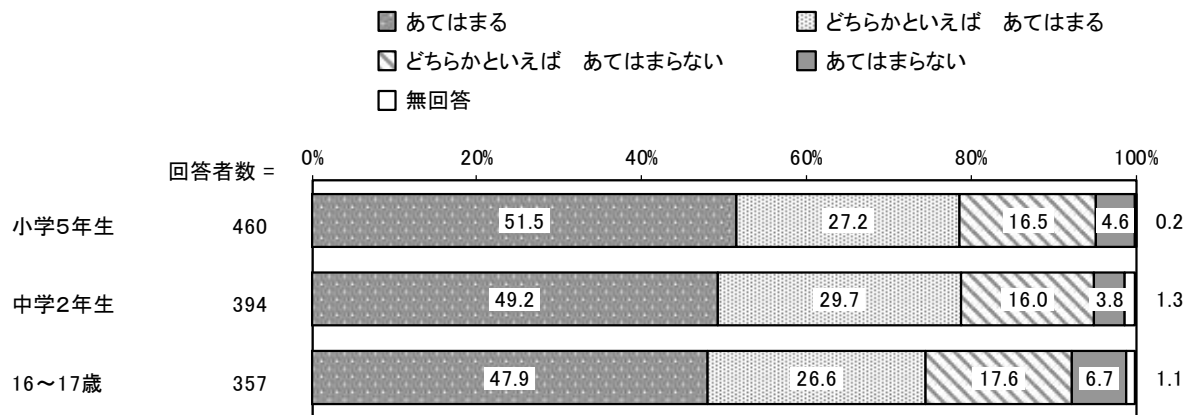
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



⑤ お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

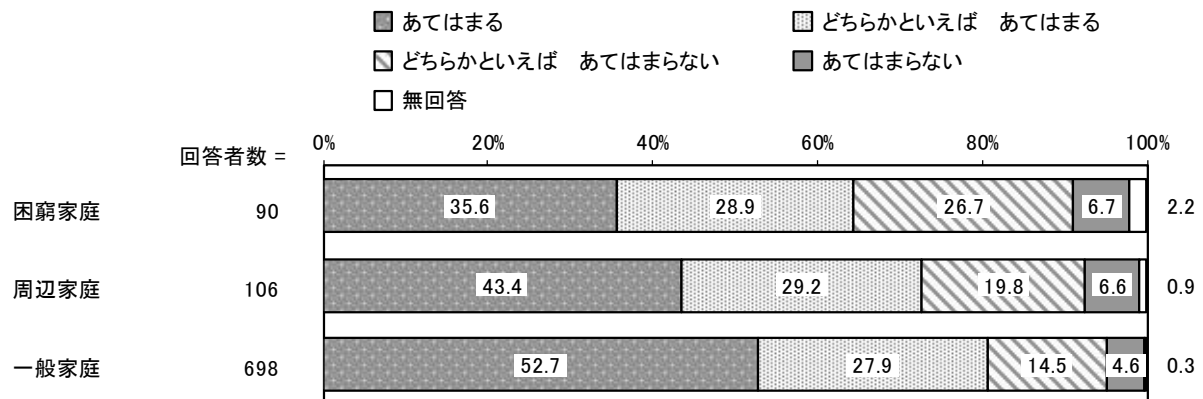
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



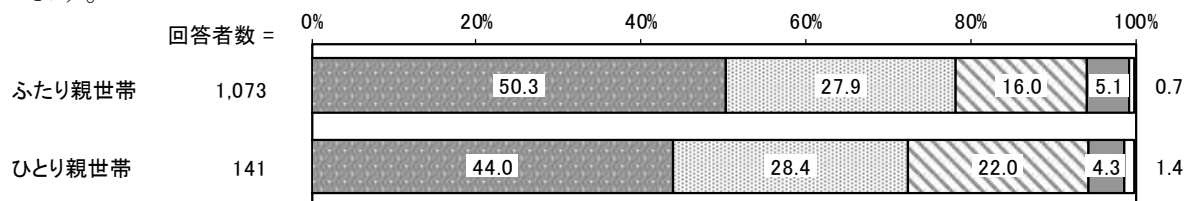
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“あてはまる”の割合が、困窮家庭で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

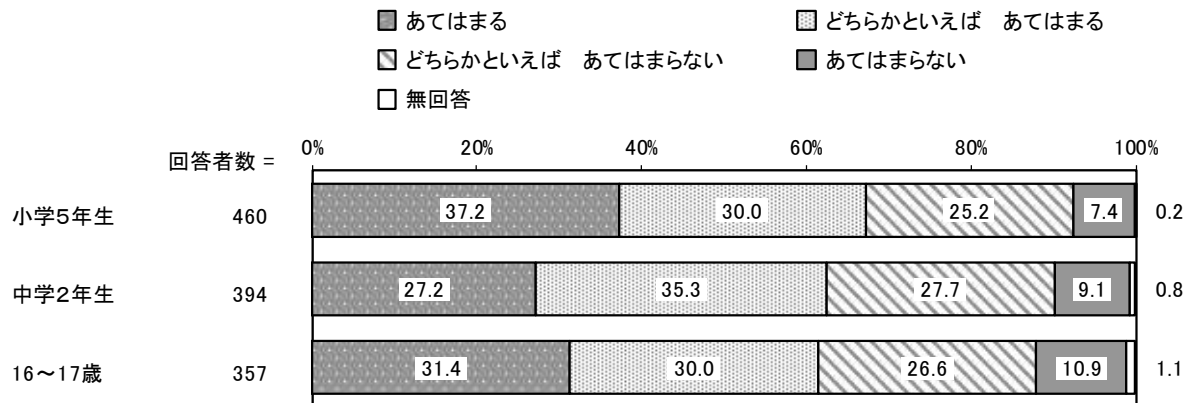
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



⑥ お子さんから、地域や社会の出来事やニュースについて話をしてくれる

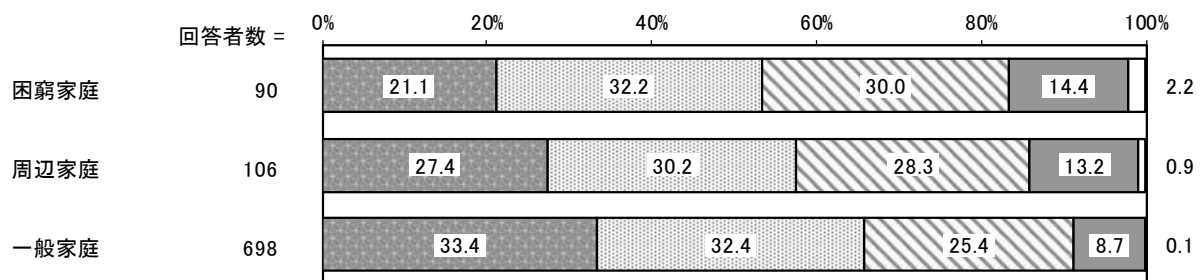
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が低くなる傾向がみられます。



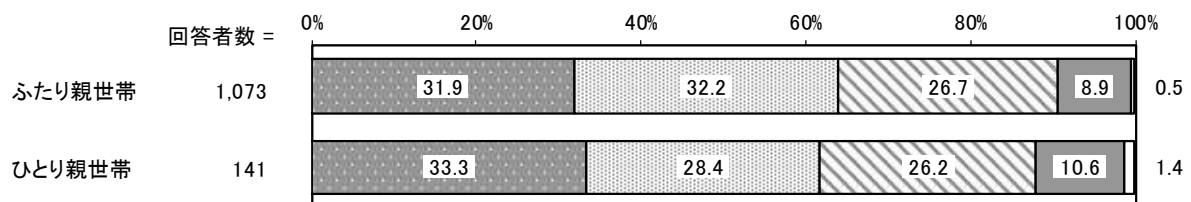
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“あてはまる”の割合が、困窮家庭で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

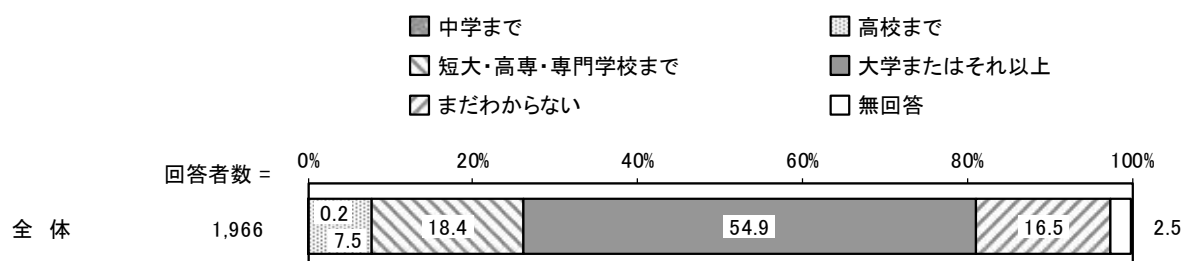
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



(4) 子どものことについて

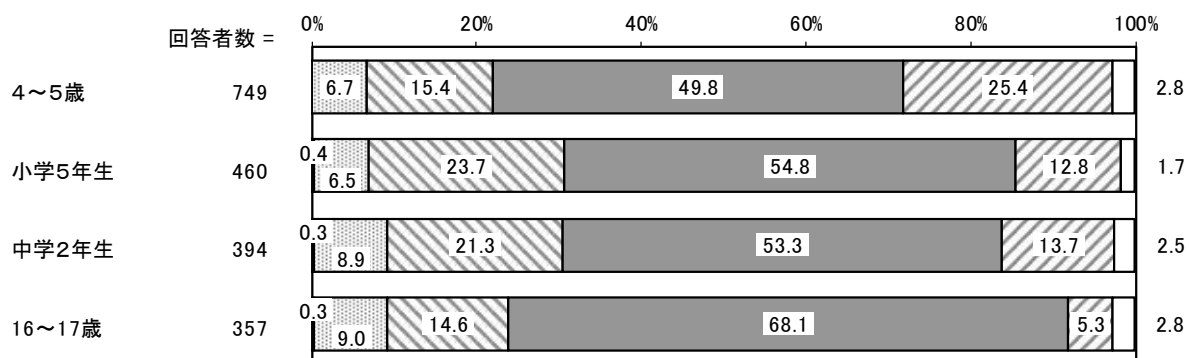
問 13 お子さんは将来、現実的に考えてどの段階まで進学すると思いますか。
(あてはまる番号 1 つに○)

「大学またはそれ以上」の割合が 54.9% と最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」の割合が 18.4%、「まだわからない」の割合が 16.5% となっています。



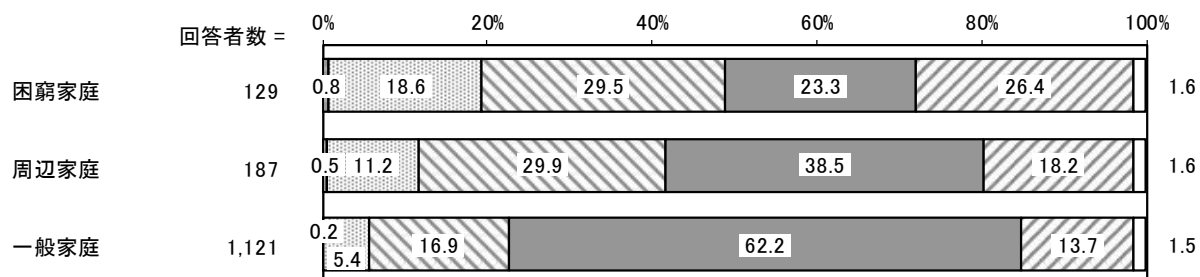
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、16～17 歳で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。また、小学 5 年生、中学 2 年生で「短大・高専・専門学校まで」の割合が高くなっています。



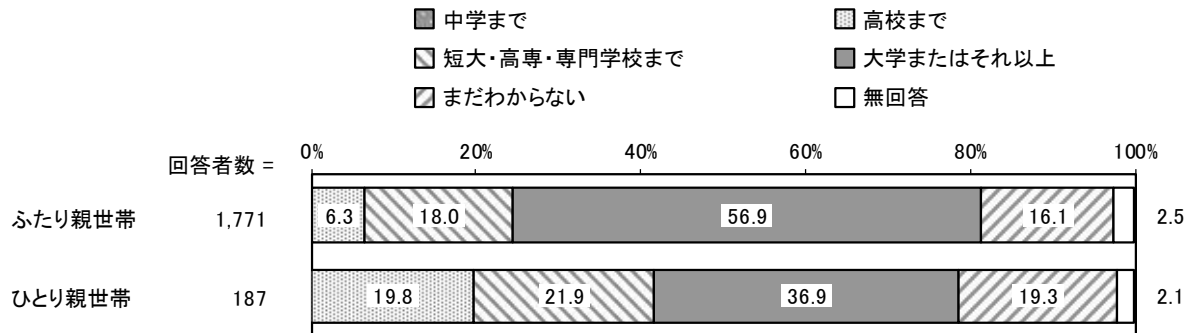
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」「まだわからない」の割合が、周辺家庭で「短大・高専・専門学校まで」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。

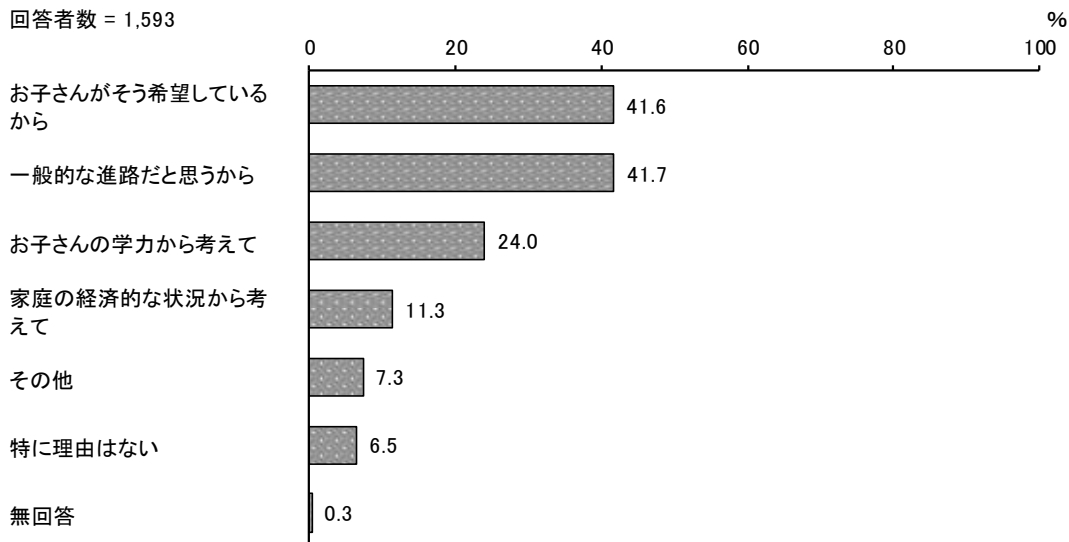


問 13－ 1 問 13 で「中学まで」～「大学またはそれ以上」を選んだ方におたずねします。
その理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「一般的な進路だと思うから」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「お子さんがそう希望しているから」の割合が 41.6%、「お子さんの学力から考えて」の割合が 24.0%となっています。

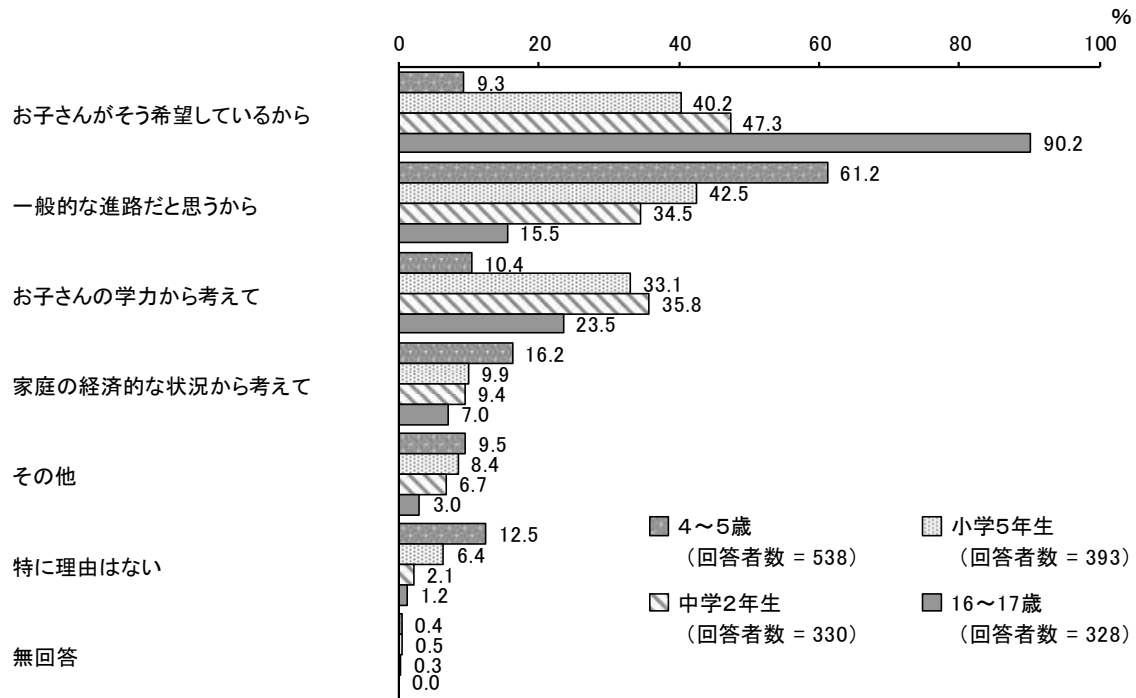
全 体

回答者数 = 1,593



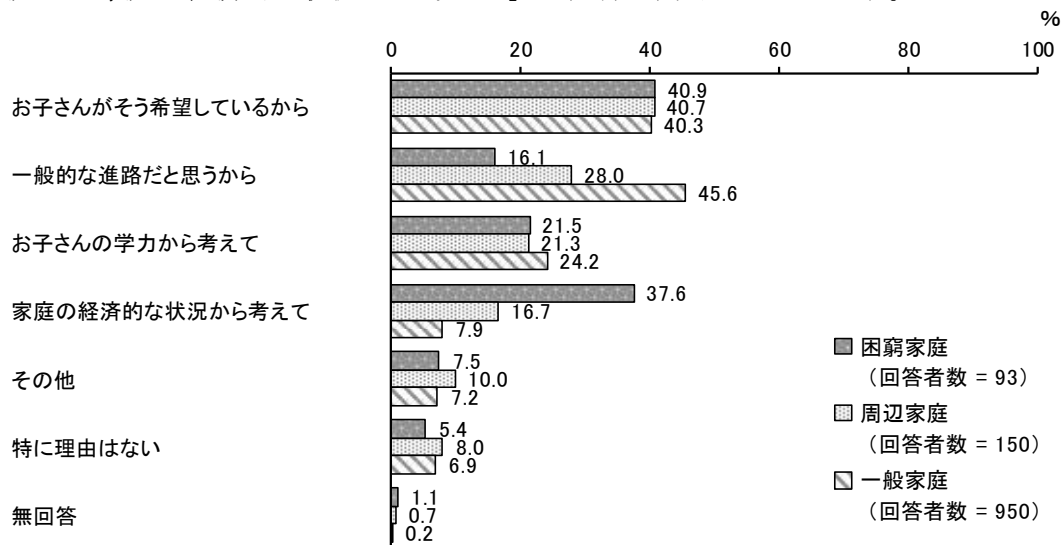
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「お子さんがそう希望しているから」の割合が、子どもの年代が低くなるにつれ「一般的な進路だと思うから」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、小学5年生、中学2年生で「お子さんの学力から考えて」の割合が高くなっています。



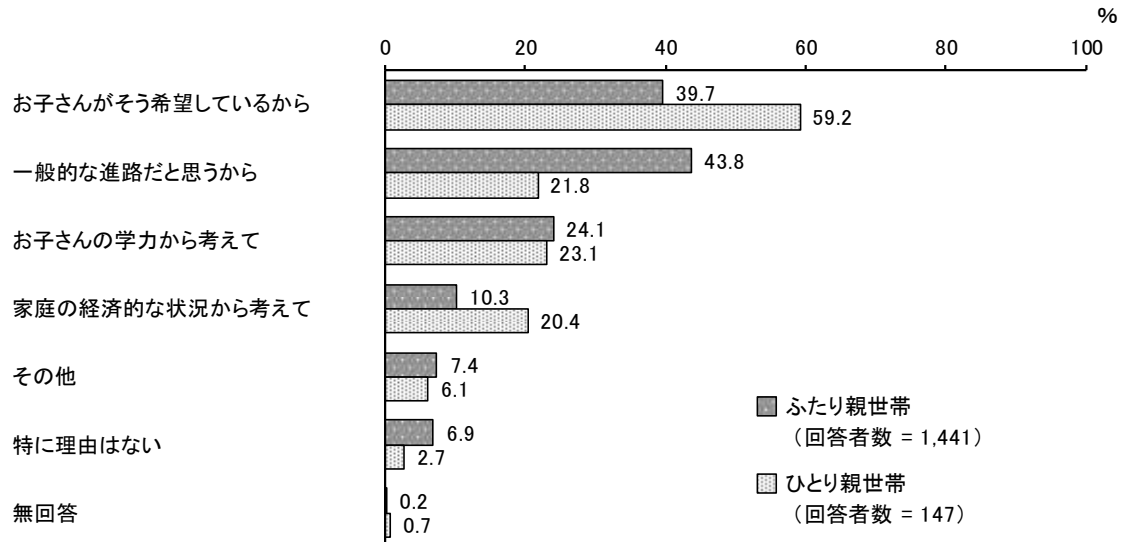
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「一般的な進路だと思うから」の割合が、困窮家庭で「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「一般的な進路だと思うから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「お子さんがそう希望しているから」「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっています。



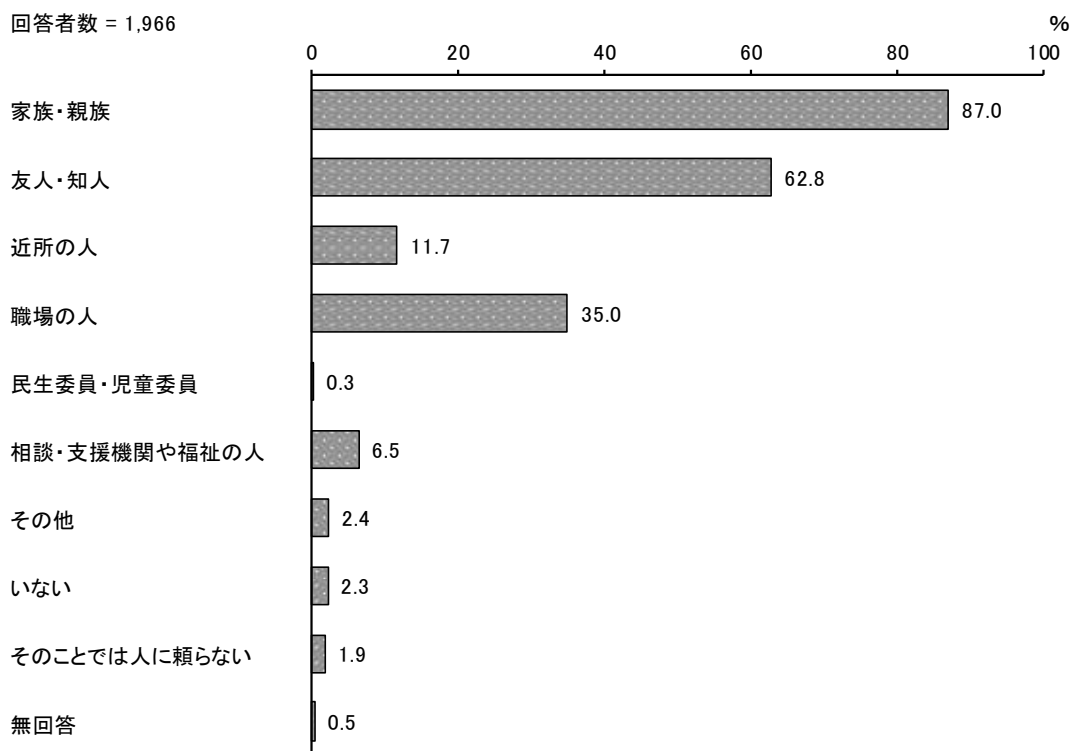
問 14 あなたは次のことがらで頼れる人はいますか。
 (①～④それぞれについて、あてはまる番号すべてに○)

① 子育てに関する相談

「家族・親族」の割合が 87.0%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 62.8%、「職場の人」の割合が 35.0%となっています。

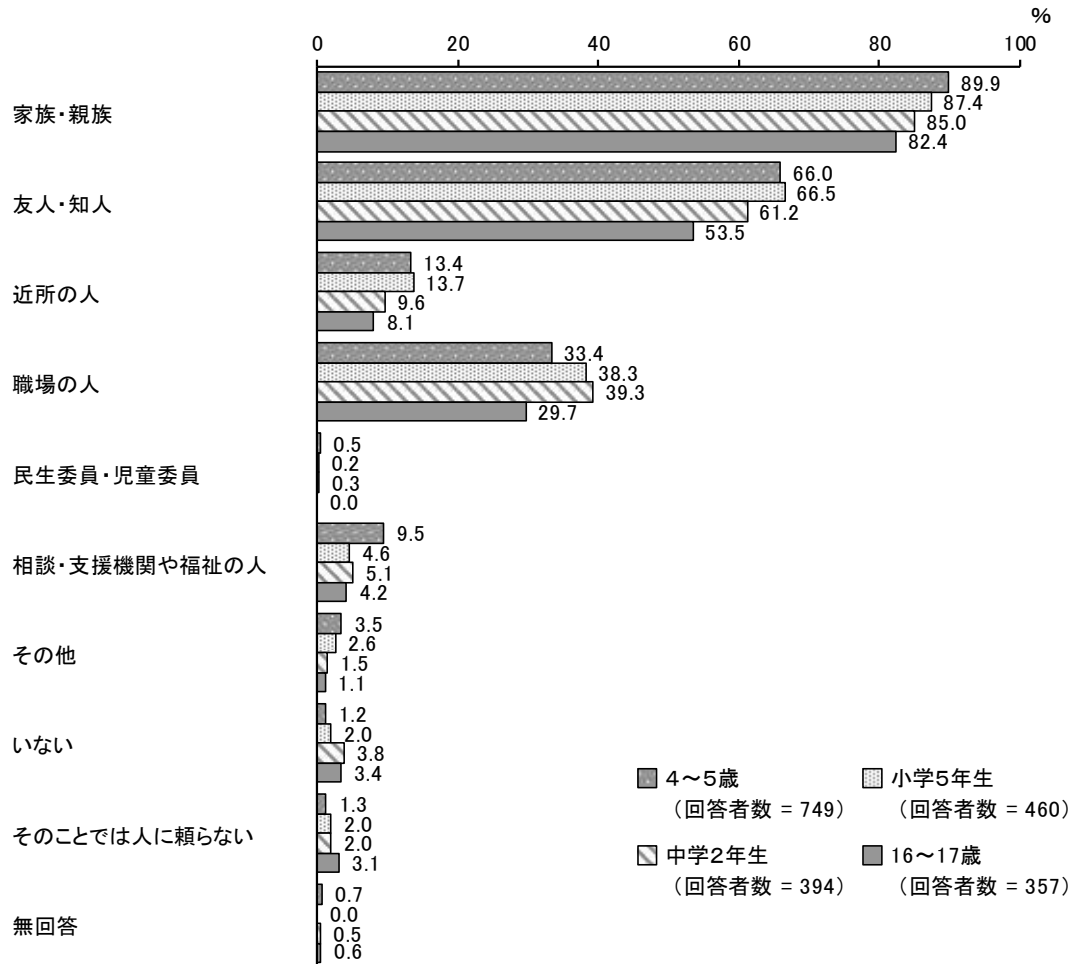
全 体

回答者数 = 1,966



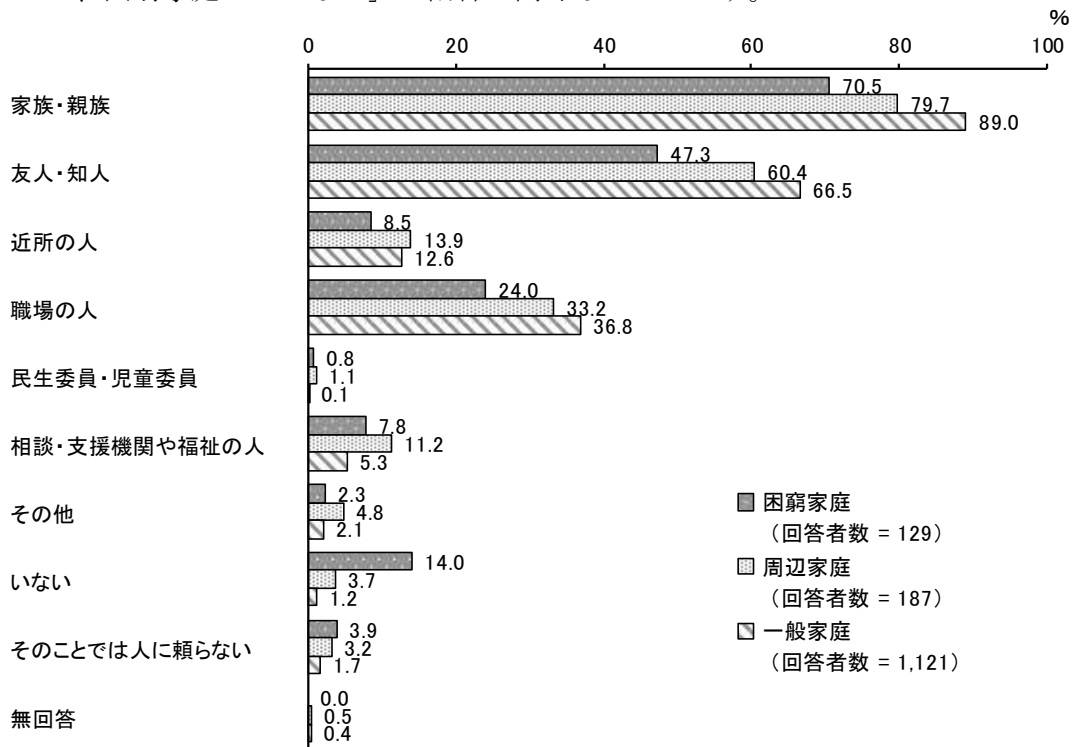
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「家族・親族」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他に比べ、小学5年生、中学2年生で「職場の人」の割合が高くなっています。



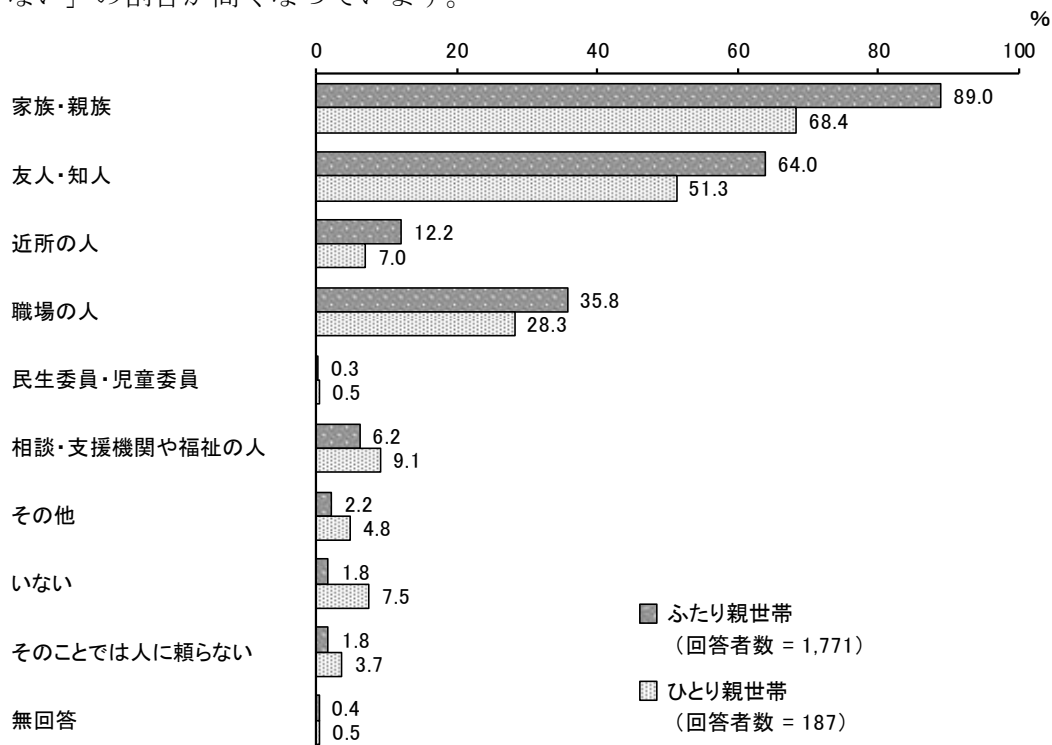
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「家族・親族」「友人・知人」「職場の人」の割合が、周辺家庭で「近所の人」「相談・支援機関や福祉の人」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「いない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

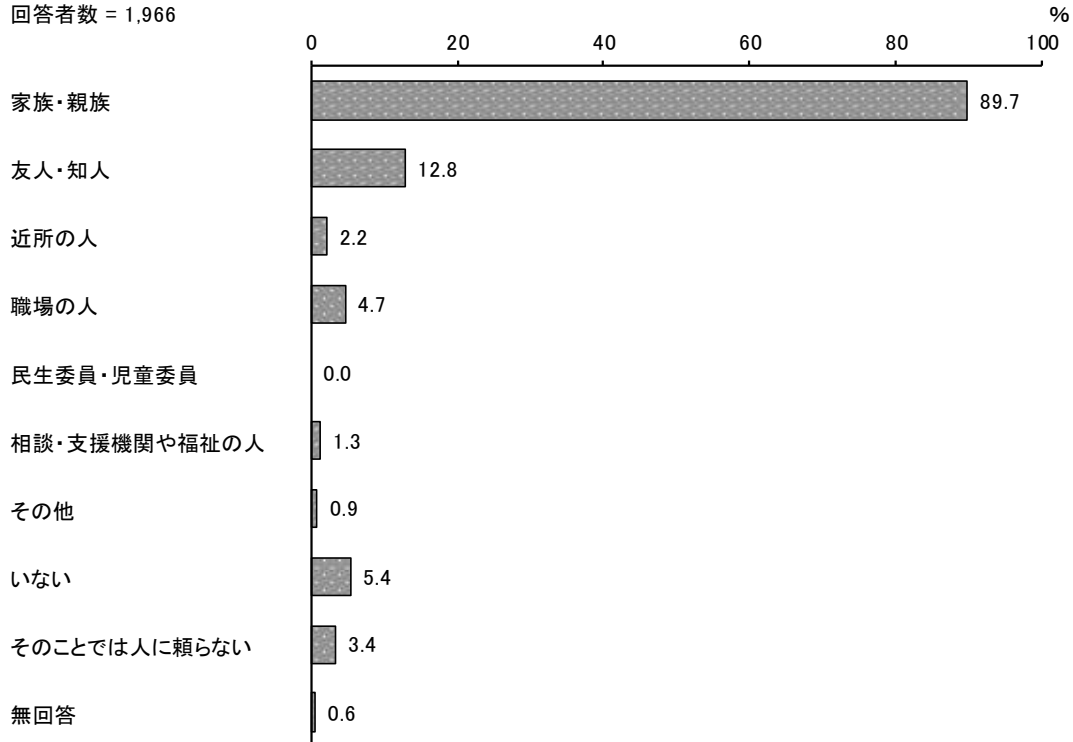
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「家族・親族」「友人・知人」「近所の人」「職場の人」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いない」の割合が高くなっています。



② お子さんの世話や看病

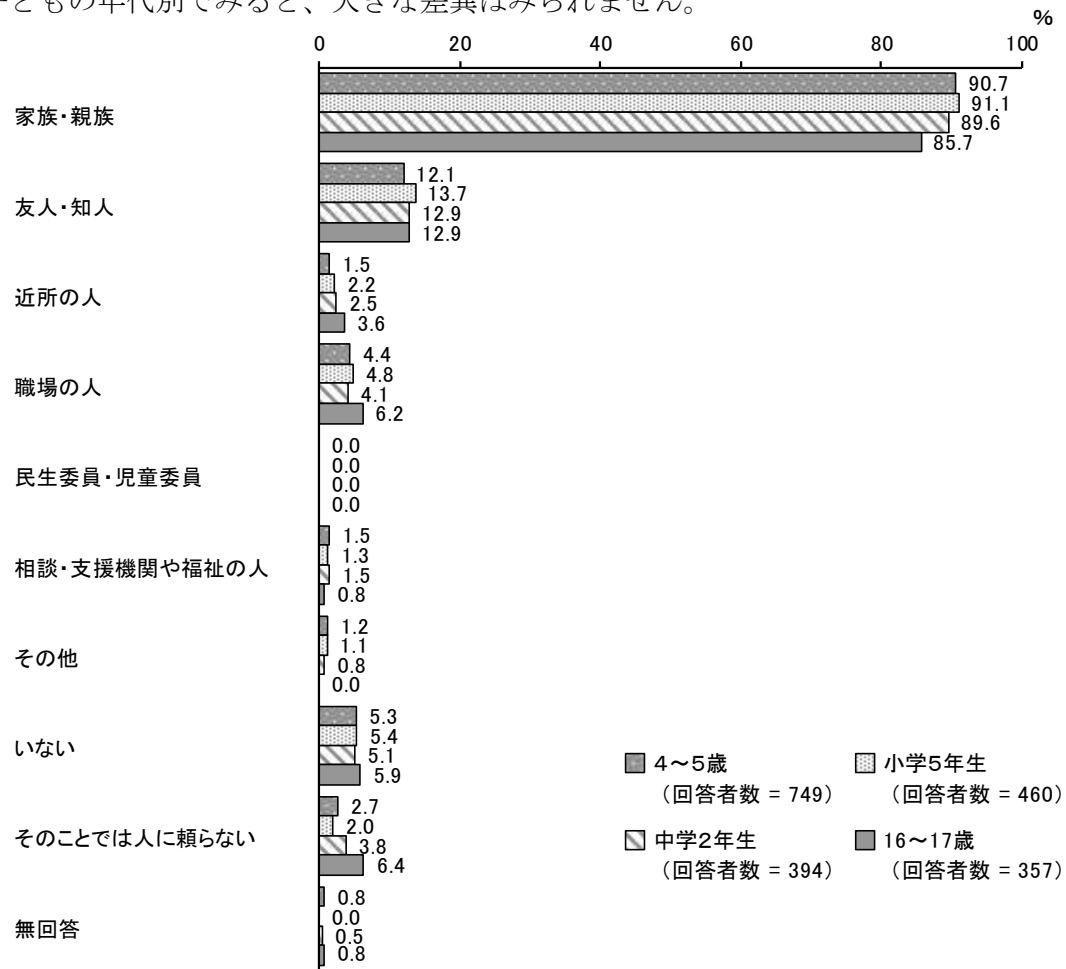
「家族・親族」の割合が89.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が12.8%となっています。

全 体
回答者数 = 1,966



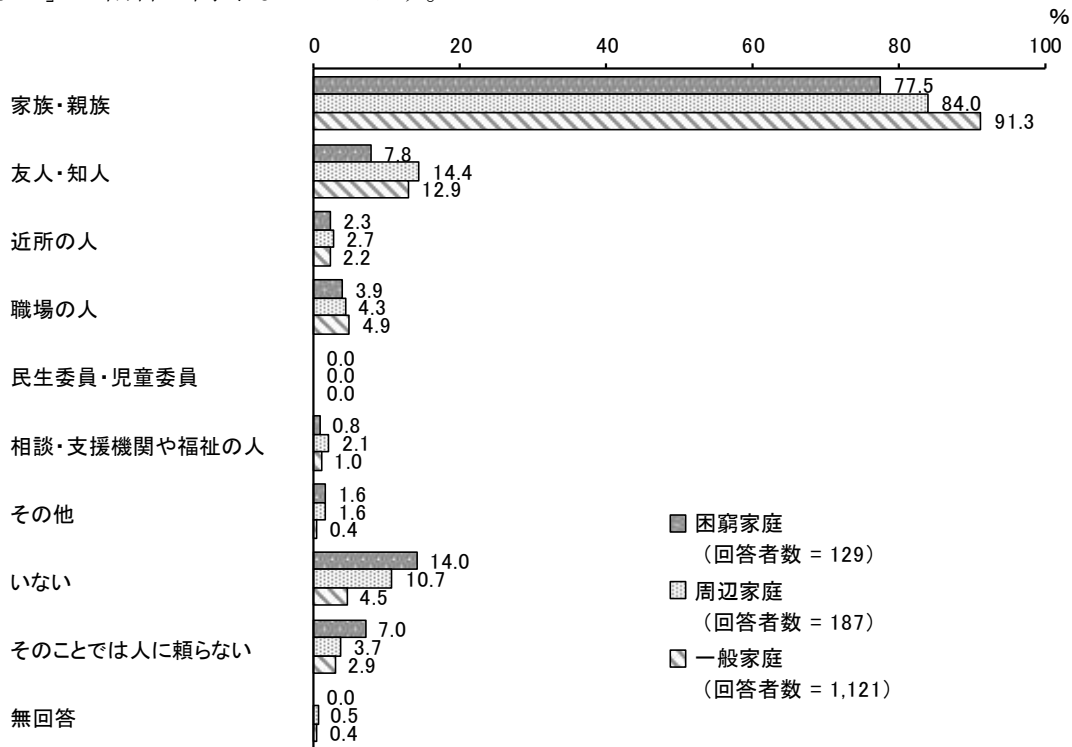
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



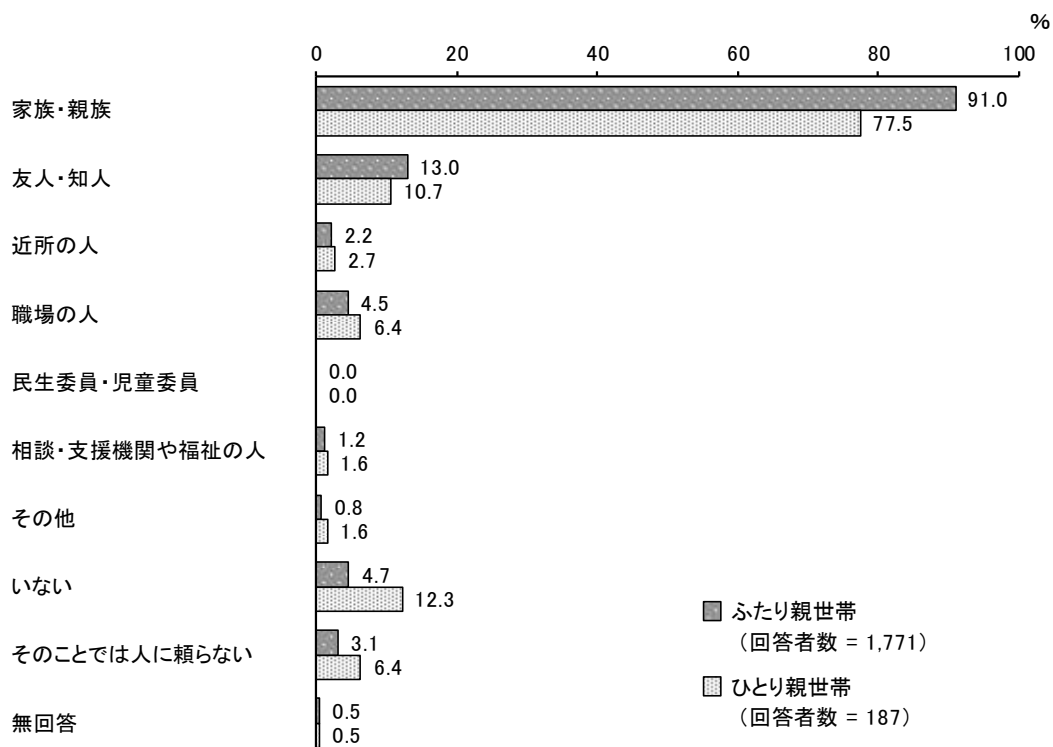
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「家族・親族」の割合が、周辺家庭で「友人・知人」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「いない」「そのことでは人に頼らない」の割合が高くなっています。



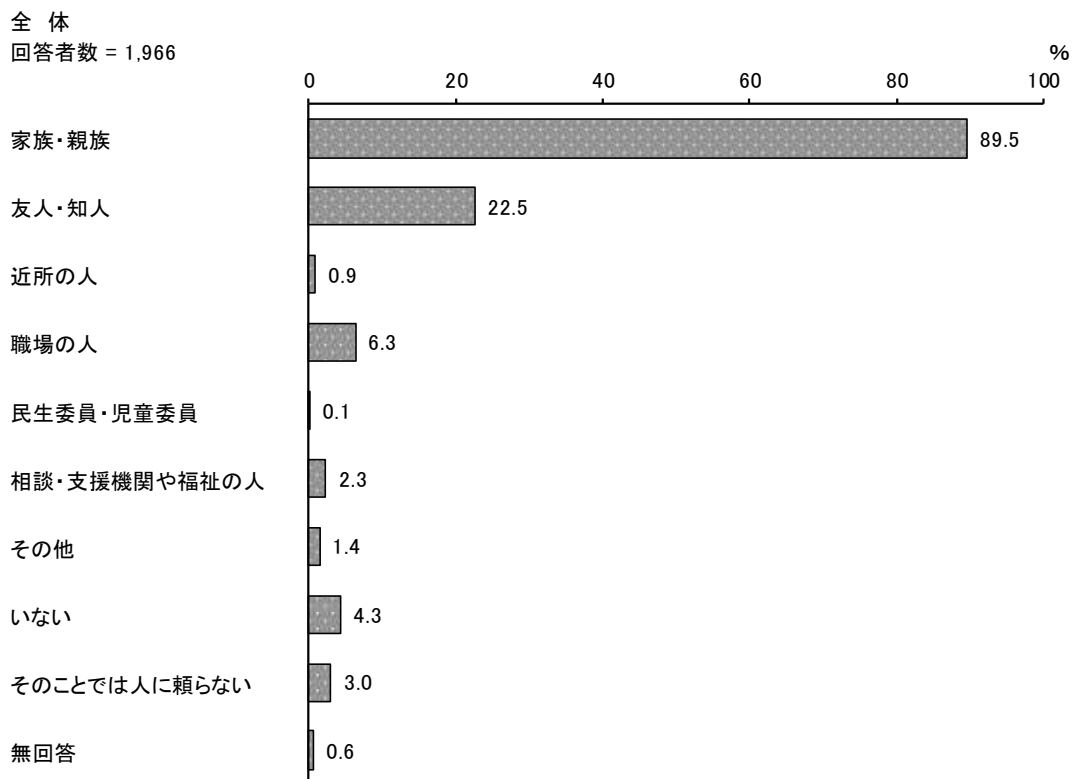
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「家族・親族」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いない」の割合が高くなっています。



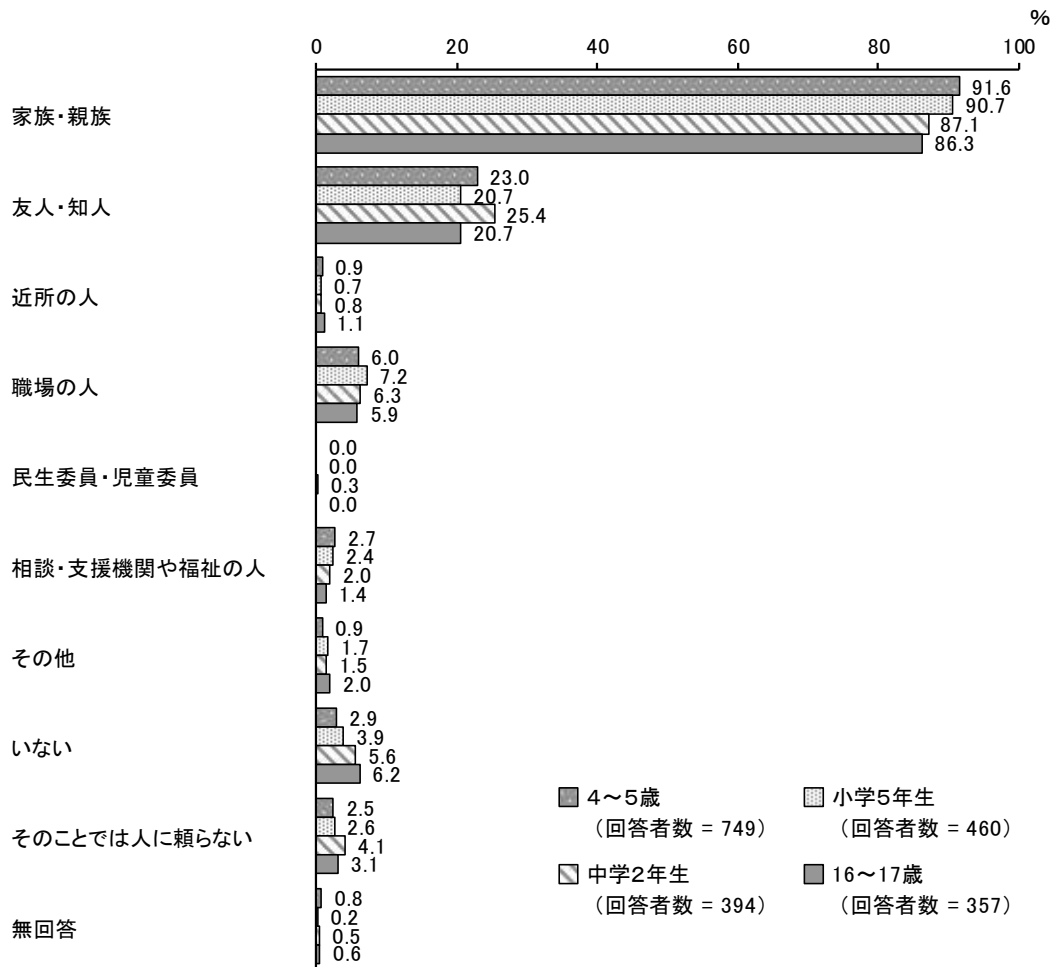
③ 重要なことがらの相談

「家族・親族」の割合が89.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が22.5%となっています。



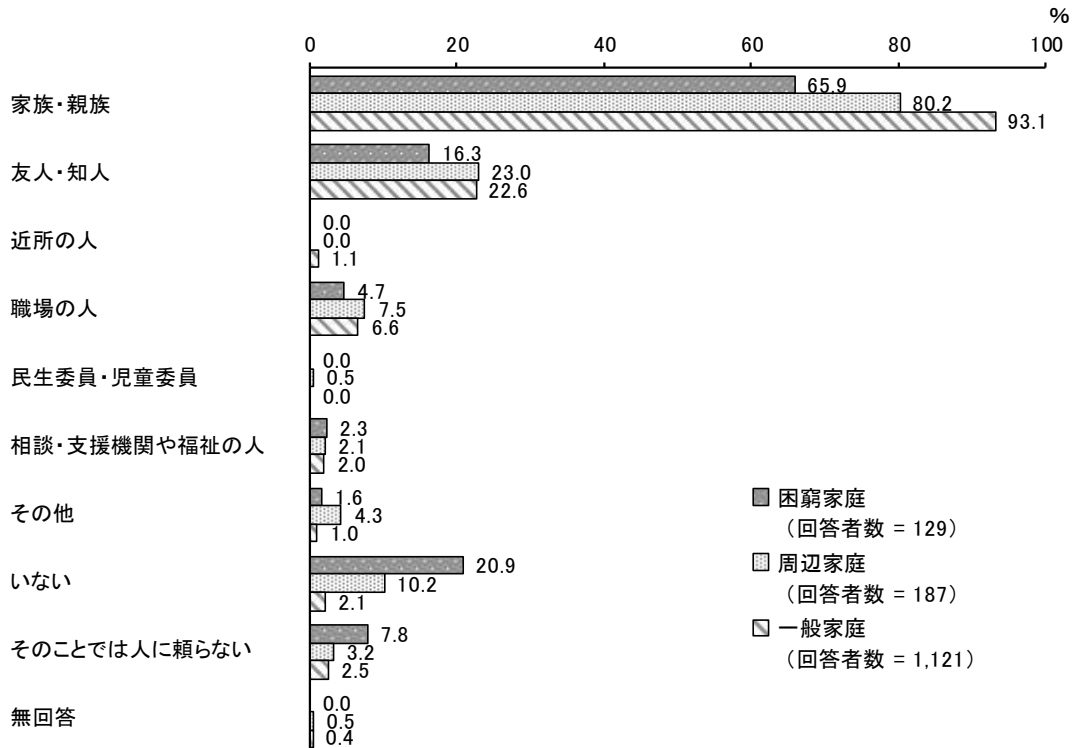
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



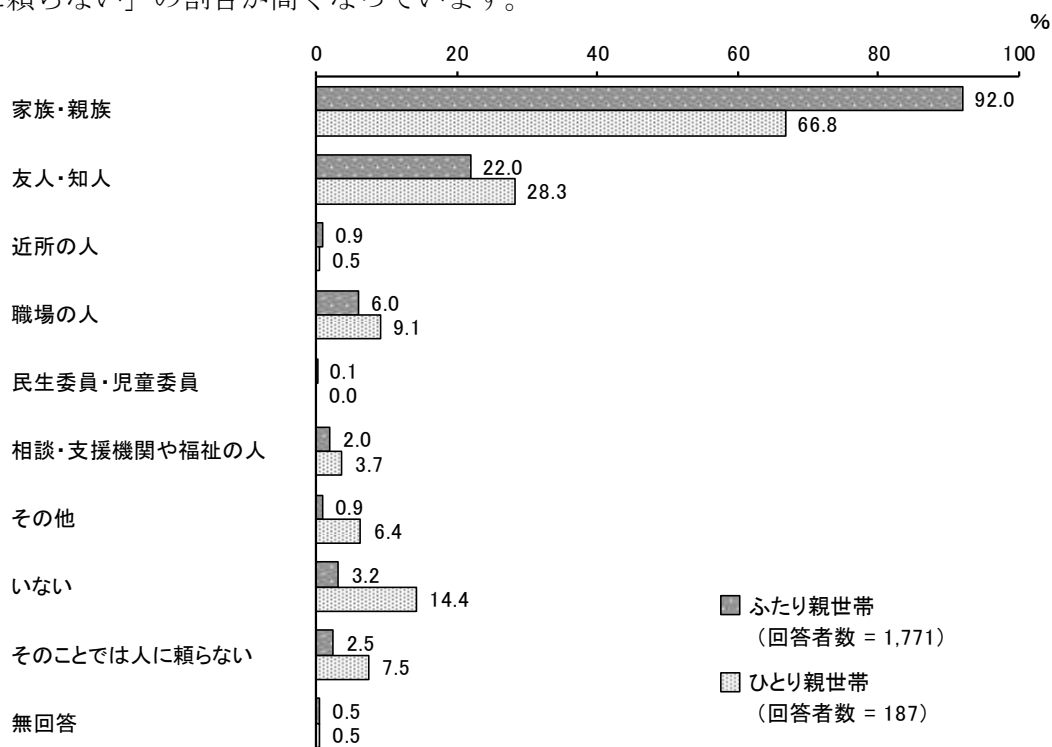
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「家族・親族」の割合が、周辺家庭、一般家庭で「友人・知人」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「いない」「そのことでは人に頼らない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

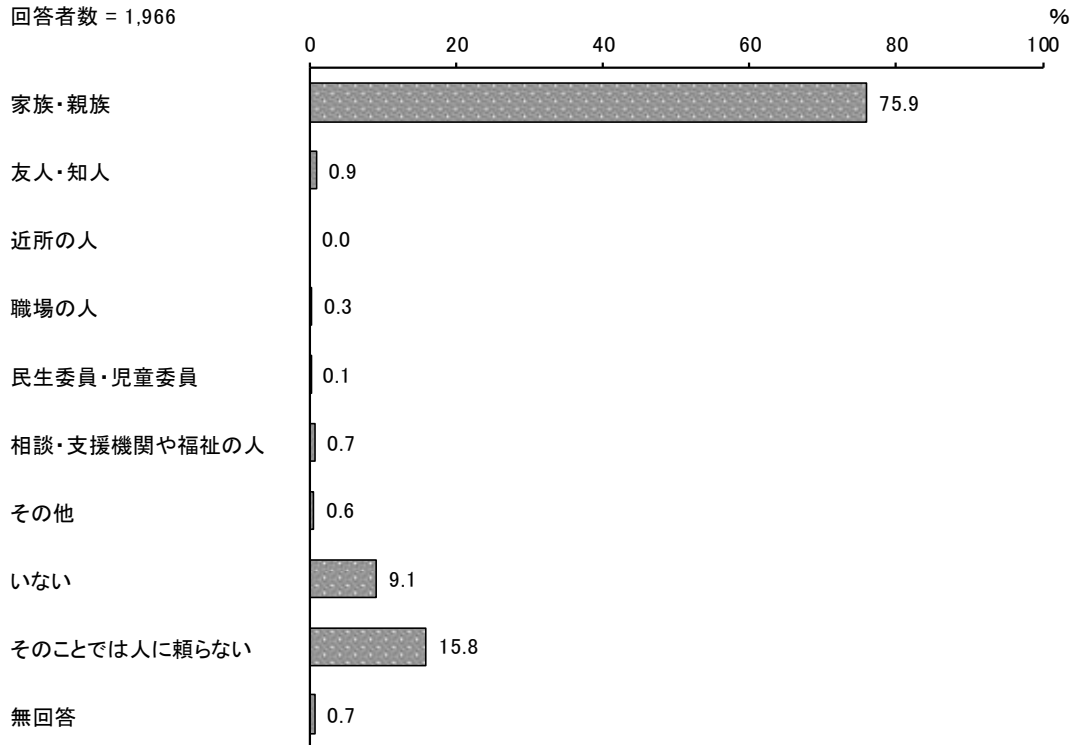
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「家族・親族」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「友人・知人」「いない」「そのことでは人に頼らない」の割合が高くなっています。



④ いざという時のお金の援助

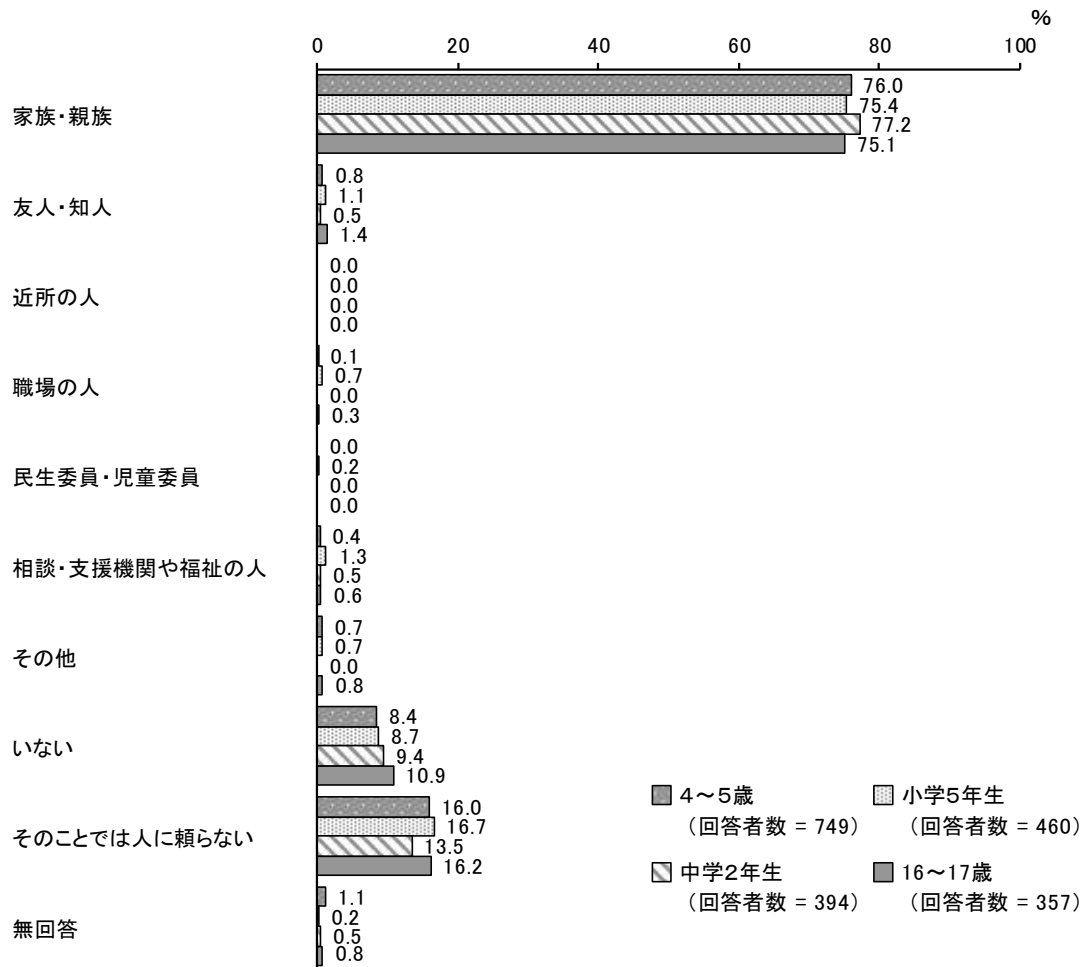
「家族・親族」の割合が 75.9%と最も高く、次いで「そのことでは人に頼らない」の割合が 15.8%となっています。

全 体
回答者数 = 1,966



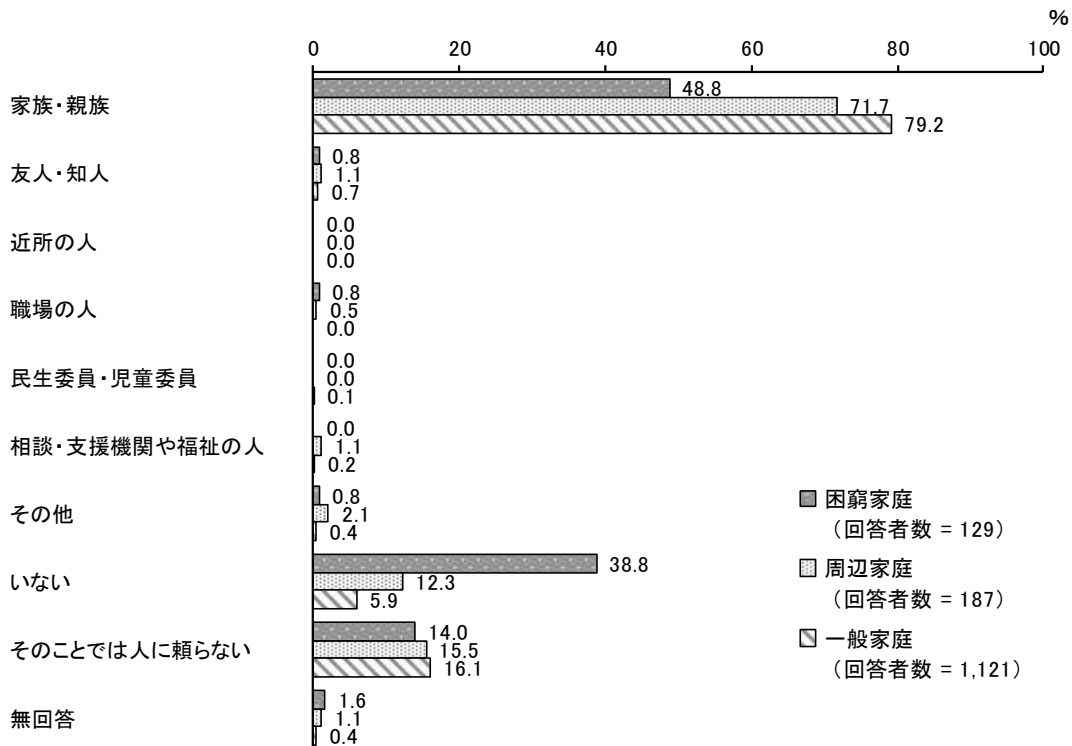
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



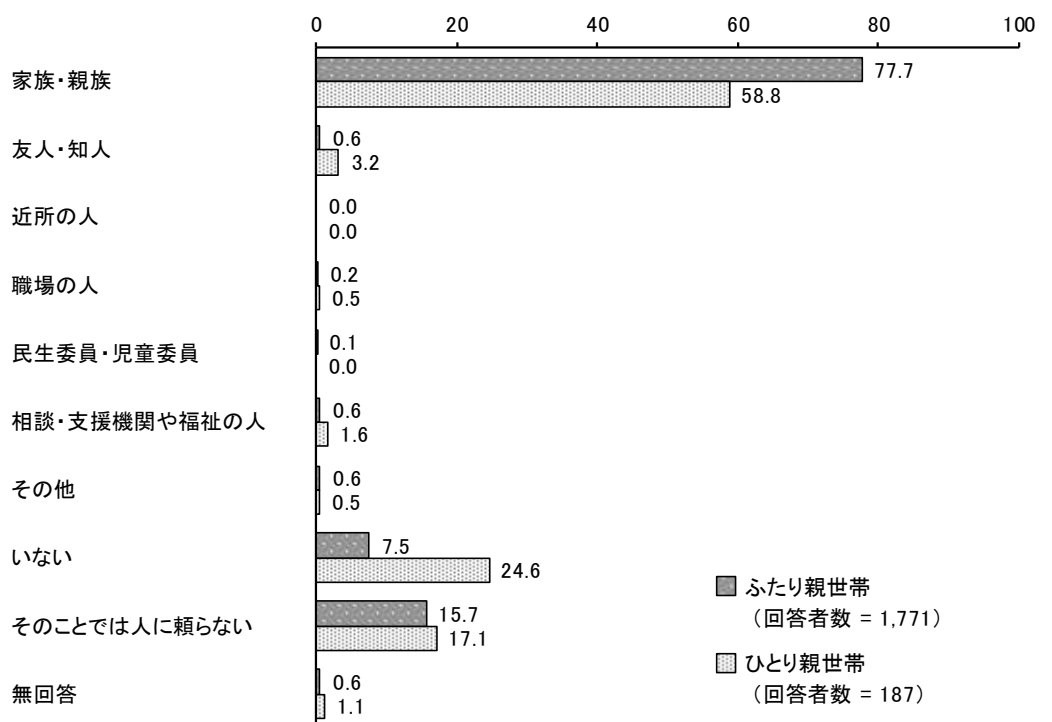
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「家族・親族」の割合が、困窮家庭で「いない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「家族・親族」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いない」の割合が高くなっています。

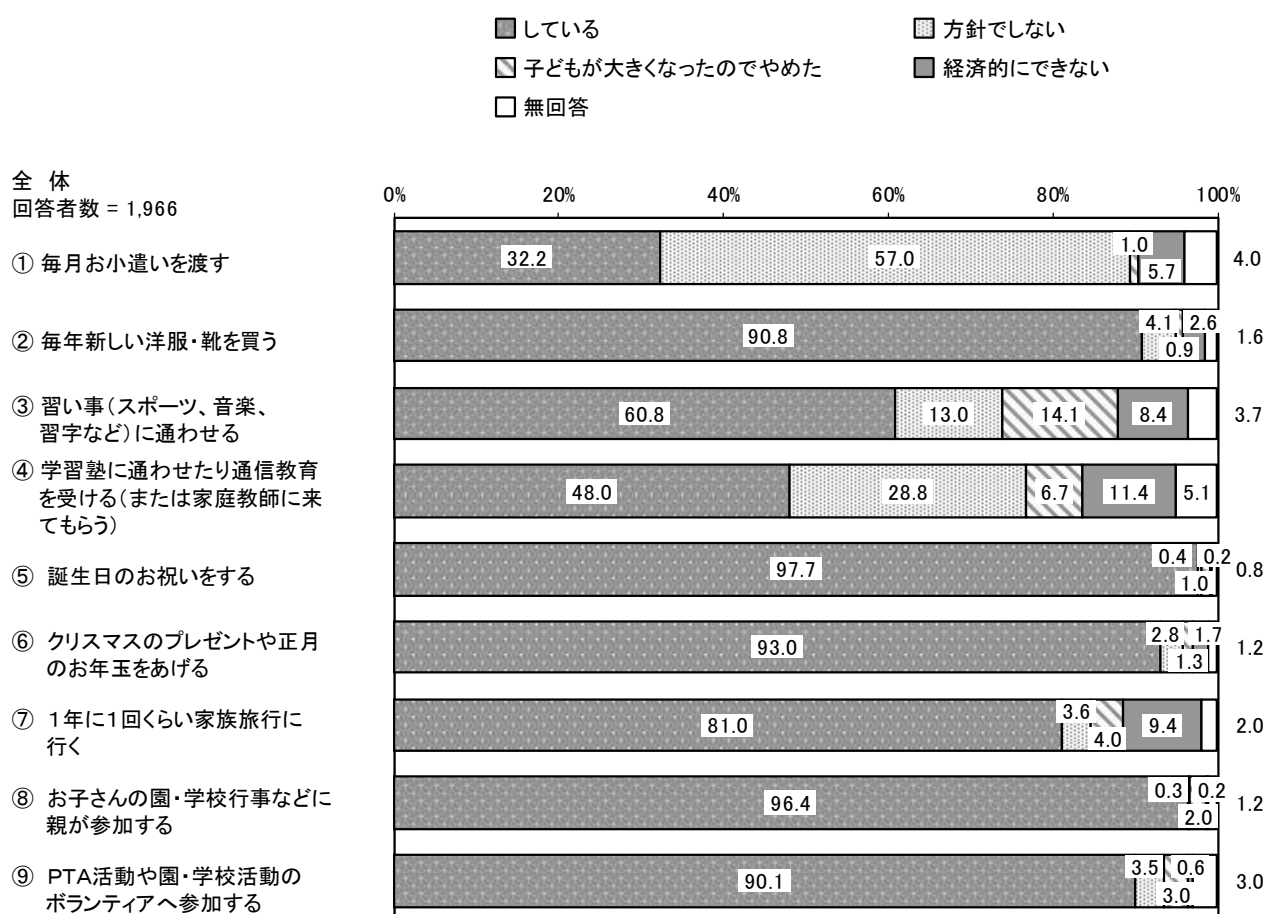


(5) 家庭での生活について

問 15 あなたのご家庭では、お子さんに次のようなことをしていますか。(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○) ※⑦～⑨は、新型コロナウイルス感染症が拡大する以前のことをお答えください。

『⑤ 誕生日のお祝いをする』『⑧ お子さんの園・学校行事などに親が参加する』で「している」の割合が高く、9割半ば以上となっています。

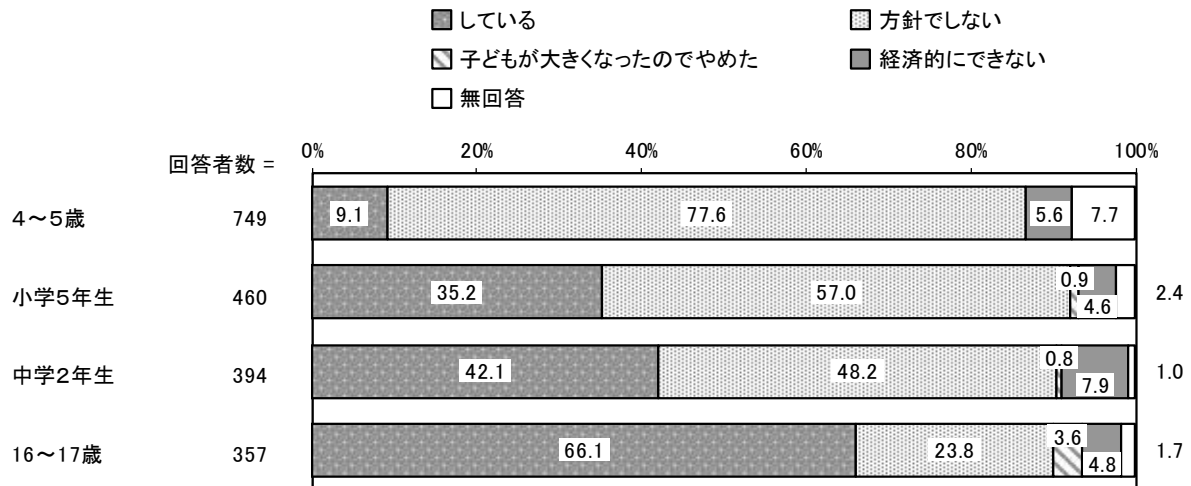
一方、『① 毎月お小遣いを渡す』で「方針でしない」の割合が高く、5割半ばとなっています。また、『③ 習い事(スポーツ、音楽、習字など)に通わせる』『④ 学習塾に通わせたり通信教育を受ける(または家庭教師に来てもらう)』『⑦ 1年に1回くらい家族旅行に行く』で「経済的にできない」の割合が高く、約1割となっています。



① 毎月おこづかいを渡す

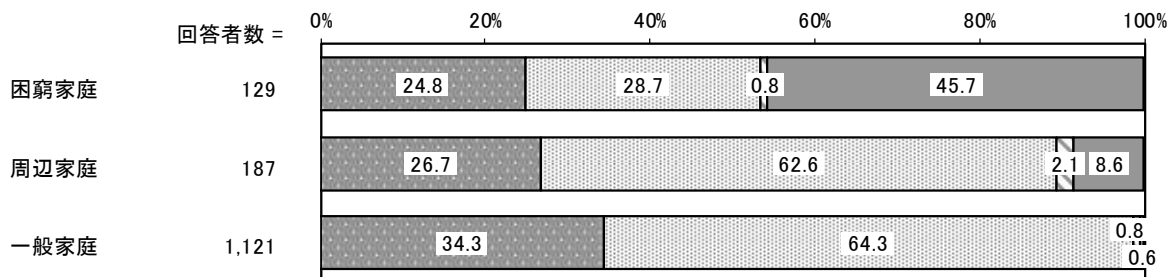
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「している」の割合が、子どもの年代が低くなるにつれ「方針でしない」の割合が高くなる傾向がみられます。



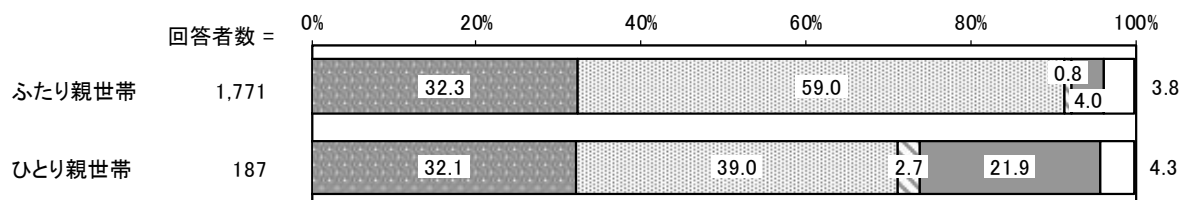
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」「方針でしない」の割合が、困窮家庭で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

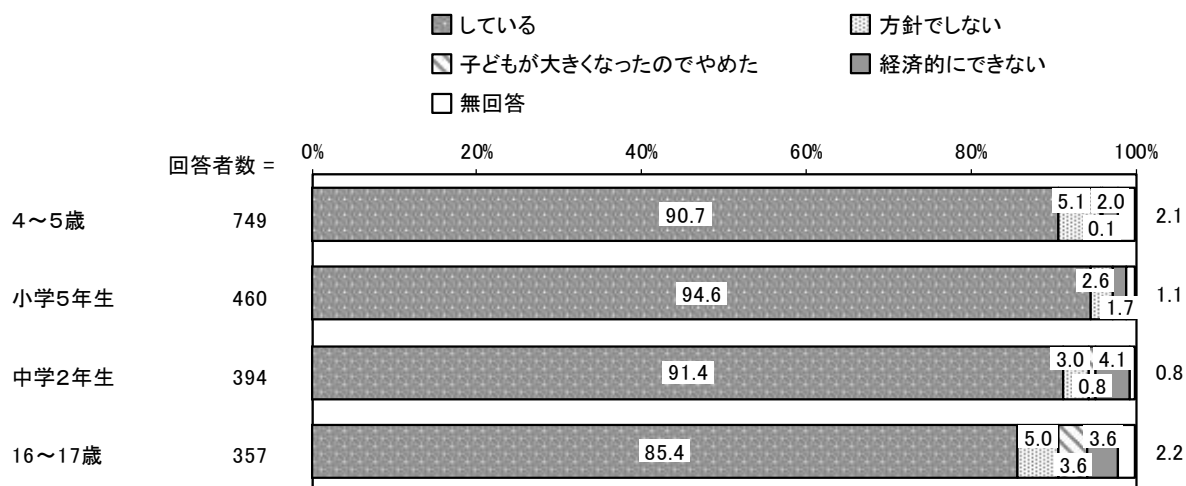
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「方針でしない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



② 毎年新しい洋服・靴を買う

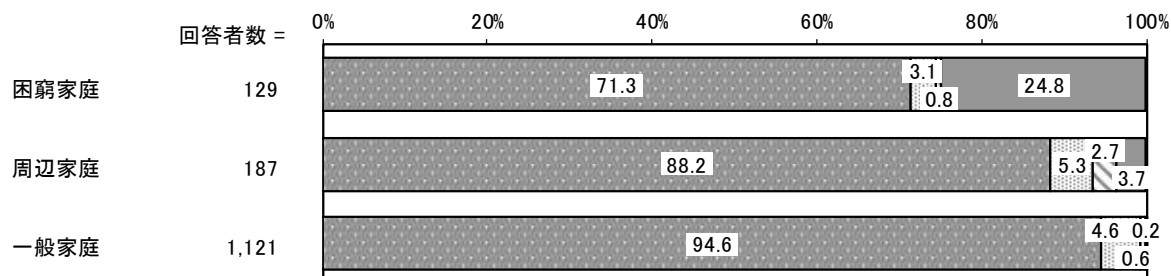
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、4～5歳で「方針でしない」の割合が高くなっています。また、小学5年生で「している」の割合が高くなっています。



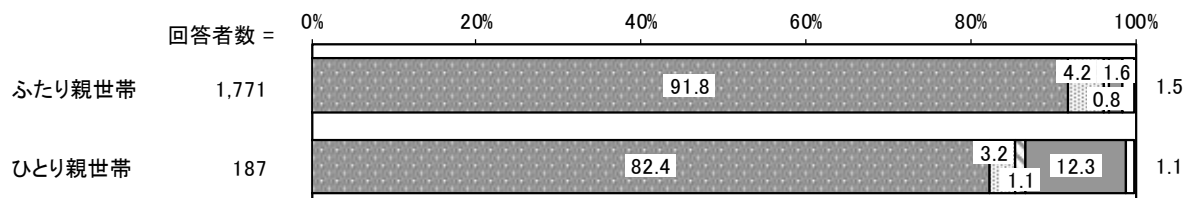
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」の割合が、困窮家庭で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

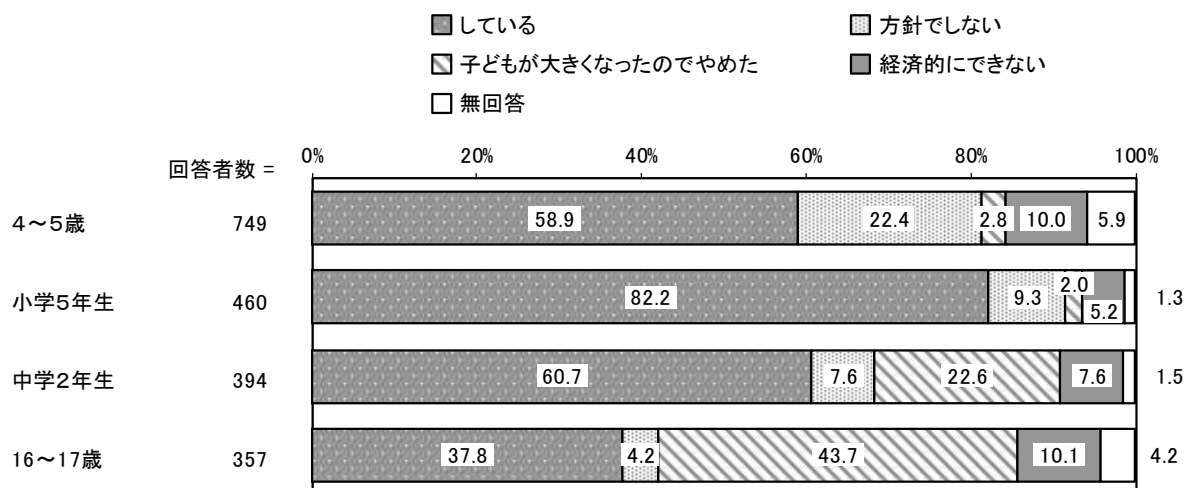
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



③ 習い事（スポーツ、音楽、習字など）に通わせる

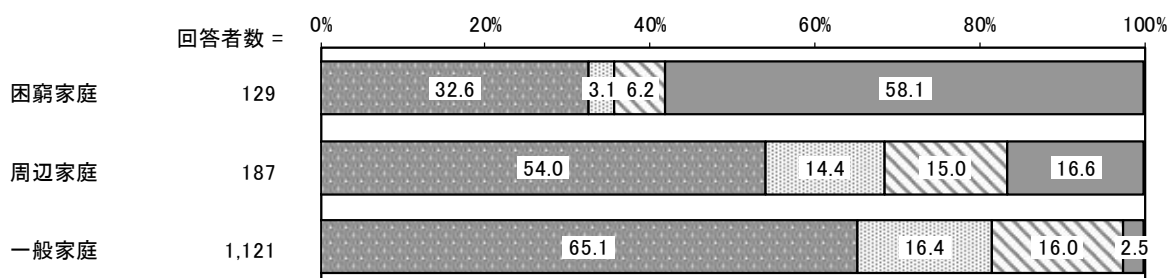
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、子どもの年代が高くなるにつれ「方針でしない」の割合が低くなる傾向がみられます。また、小学5年生で「している」の割合が、16～17歳で「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。



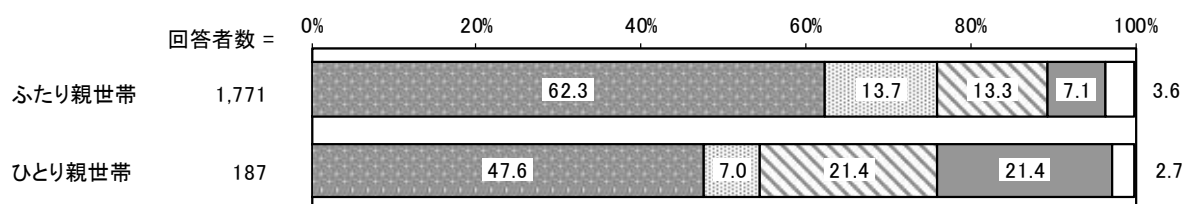
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」「方針でしない」「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が、困窮家庭で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

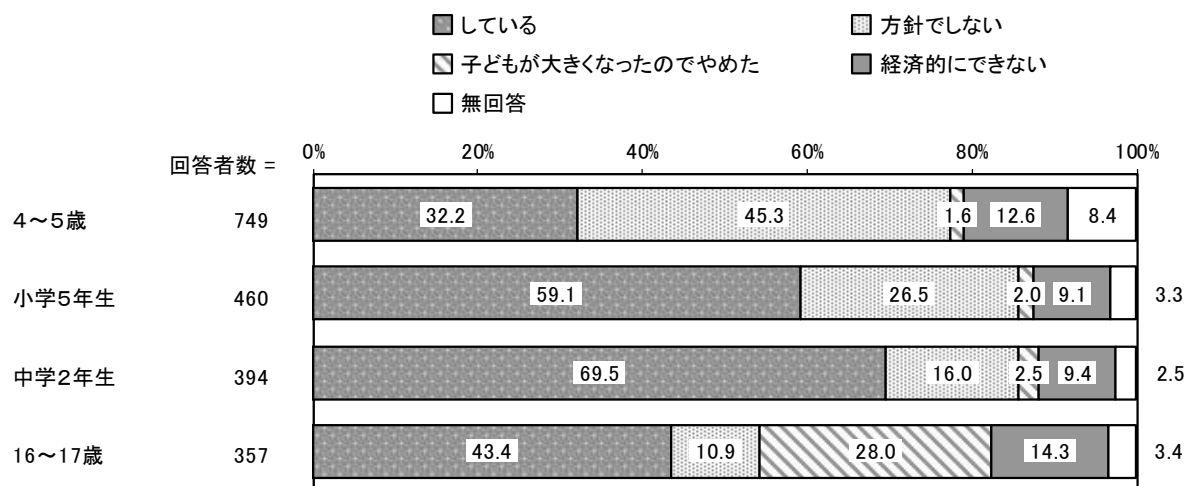
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」「方針でしない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「子どもが大きくなったのでやめた」「経済的にできない」の割合が高くなっています。



④ 学習塾に通わせたり通信教育を受ける（または家庭教師に来てもらう）

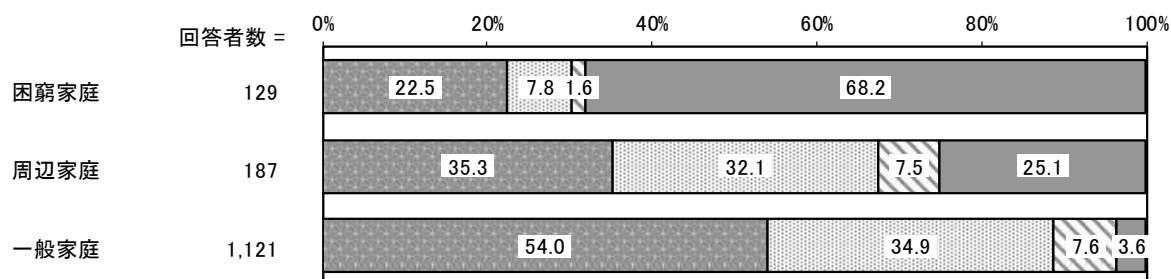
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、小学5年生、中学2年生で「している」の割合が高くなっています。また、他に比べ、4～5歳で「方針でしない」の割合が高くなっています。



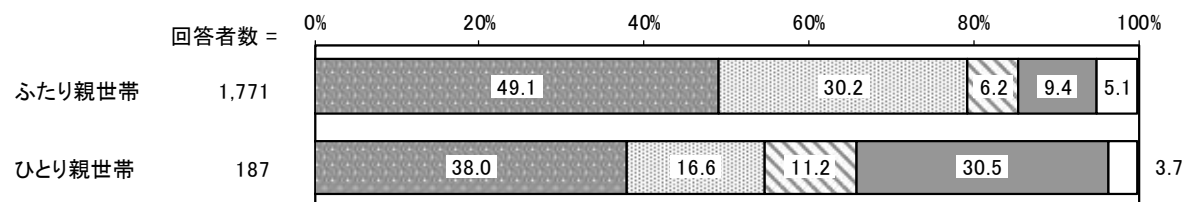
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」「方針でしない」「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が、周辺家庭で「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

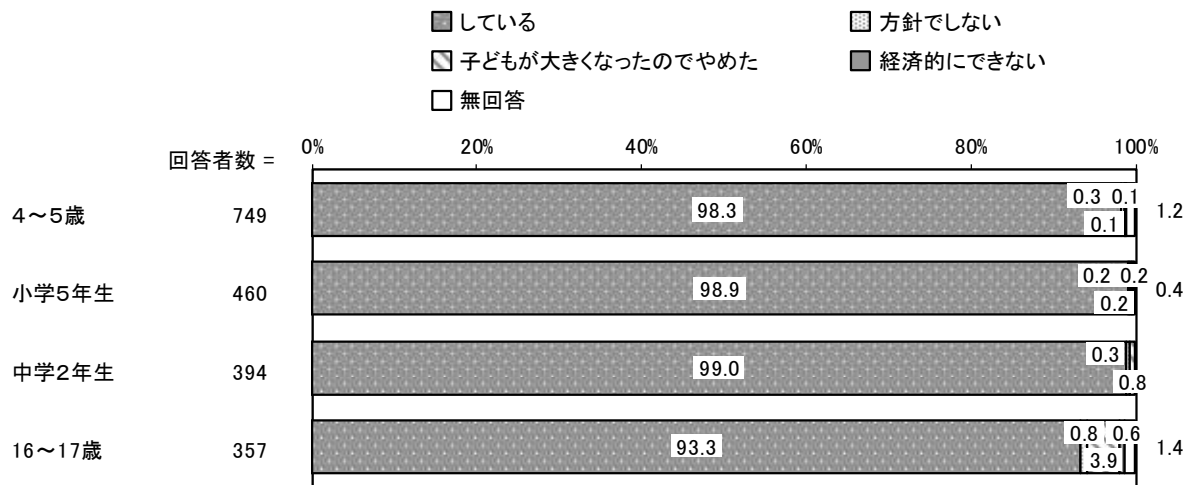
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」「方針でしない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「子どもが大きくなったのでやめた」「経済的にできない」の割合が高くなっています。



⑤ 誕生日のお祝いをする

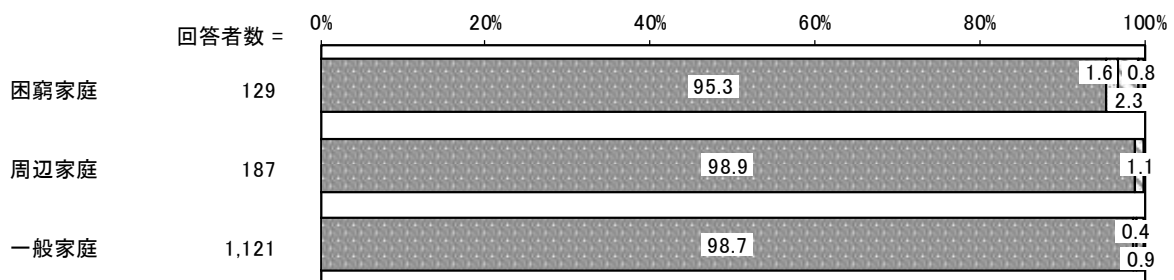
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



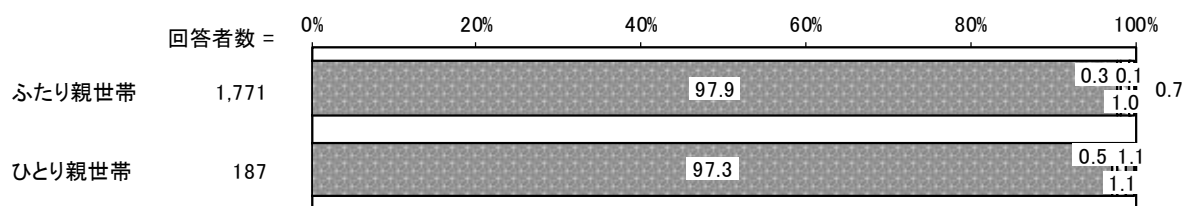
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

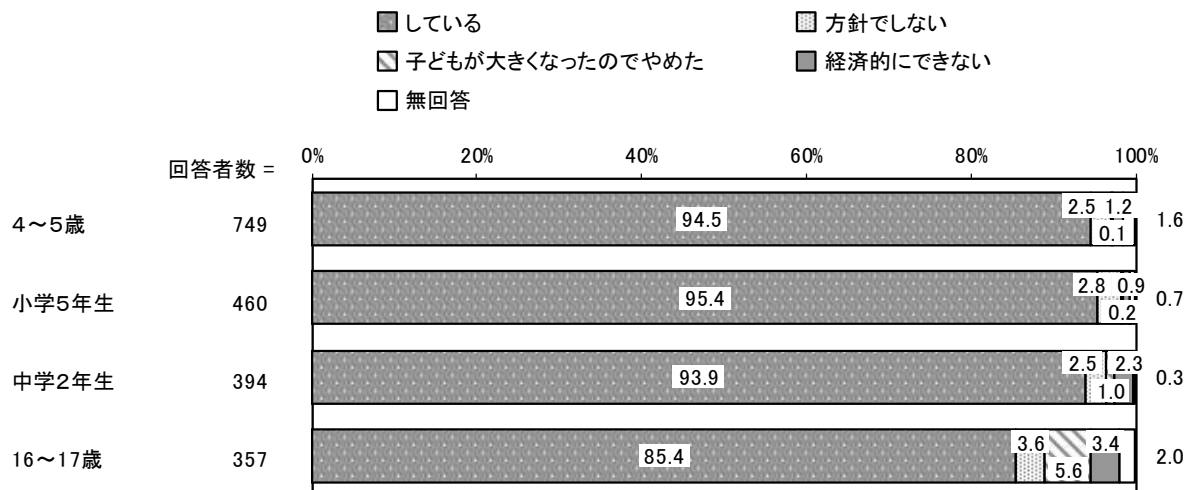
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑥ クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

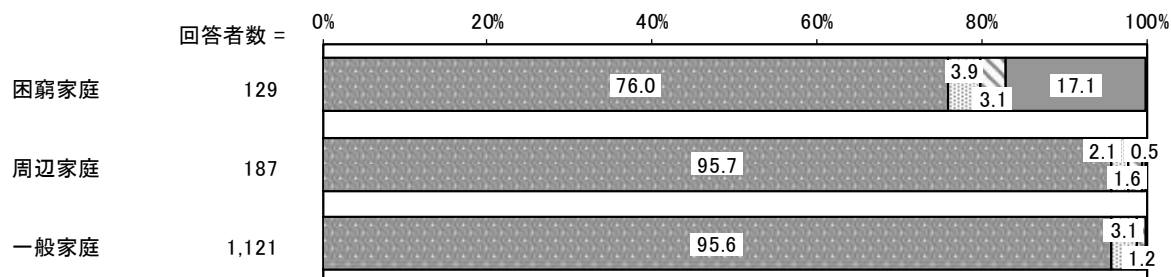
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、16～17歳で「している」の割合が低く、「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。



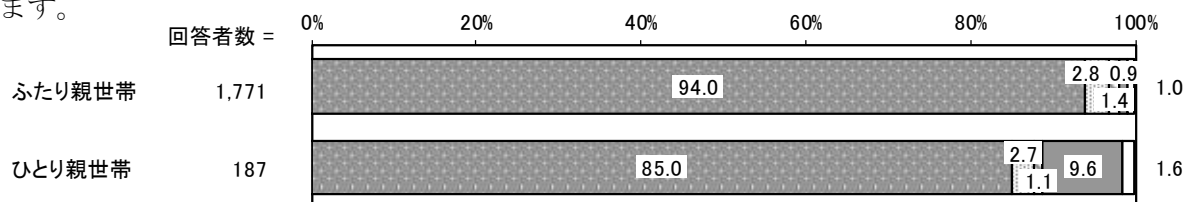
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭、周辺家庭で「している」の割合が、困窮家庭で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

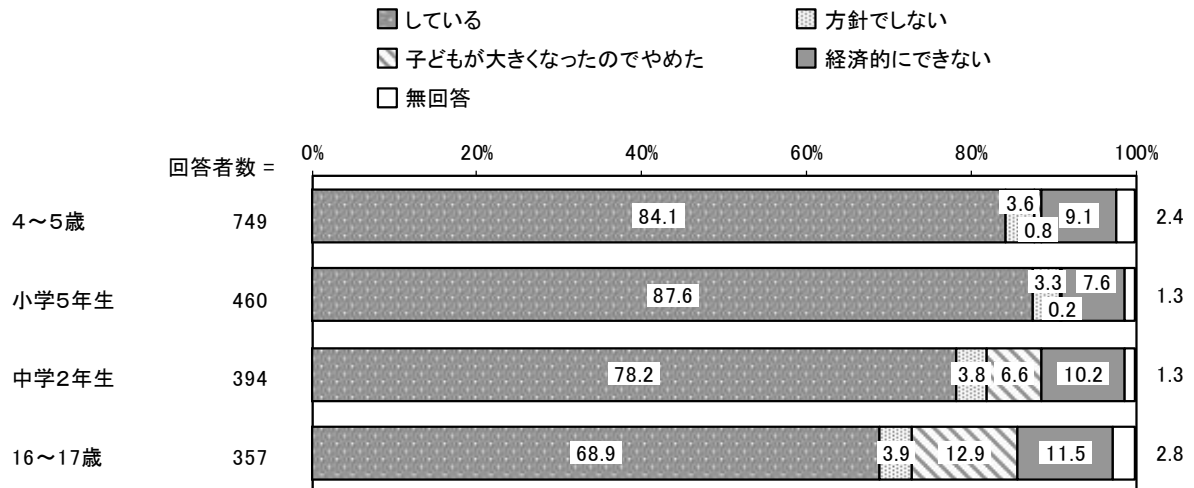
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



⑦ 1年に1回くらい家族旅行に行く

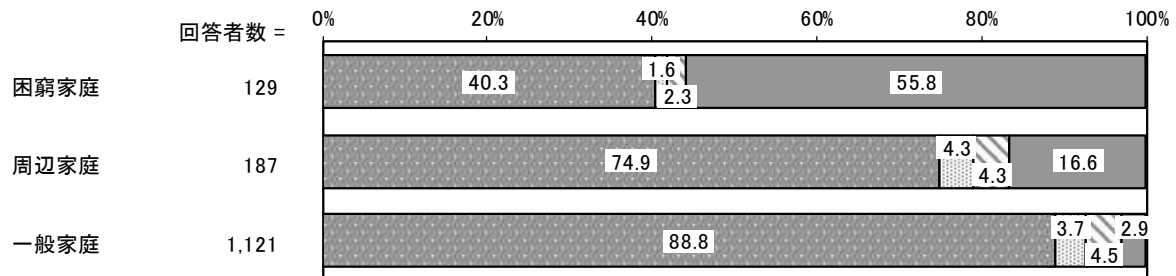
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、小学5年生で「している」の割合が高くなっています。また、16～17歳で「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。



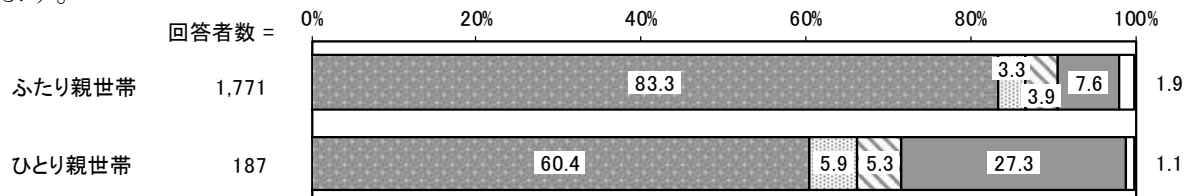
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」の割合が、困窮家庭で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

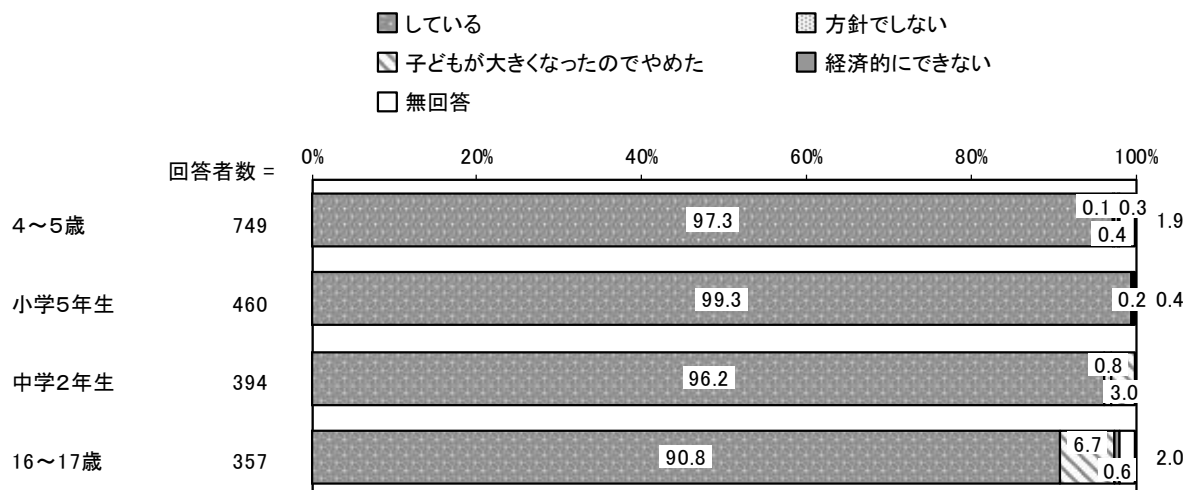
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



⑧ お子さんの園・学校行事などに親が参加する

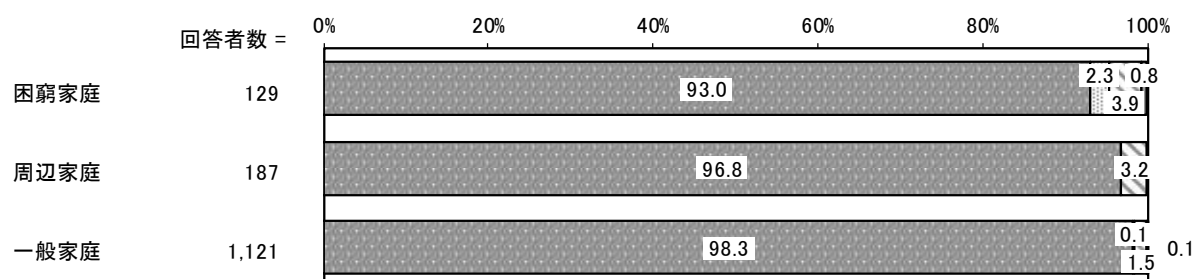
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、16～17歳で「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。



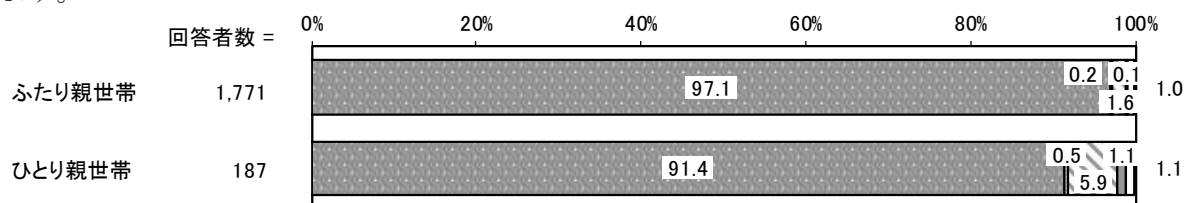
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

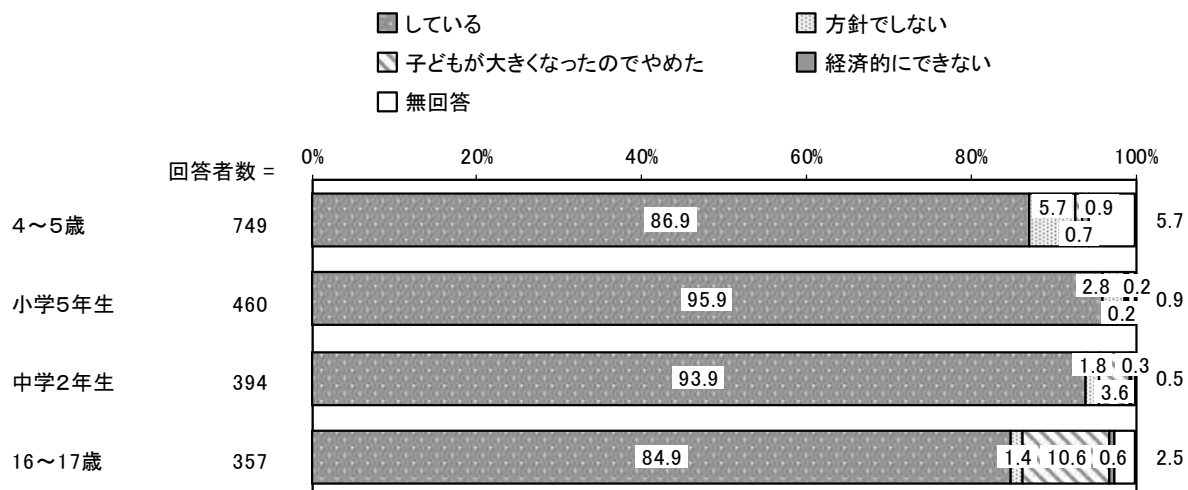
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」の割合が高くなっています。



⑨ P T A 活動や園・学校活動のボランティアに参加する

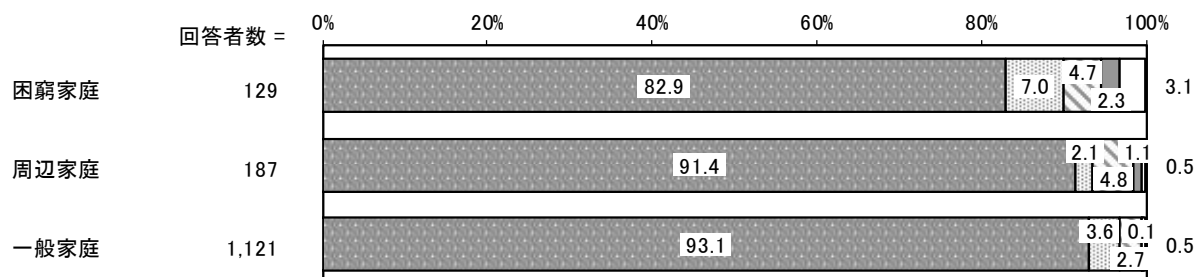
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、小学5年生、中学2年生で「している」の割合が高くなっています。また、16～17歳で「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。



【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「している」の割合が、困窮家庭で「方針ではない」の割合が高くなっています。



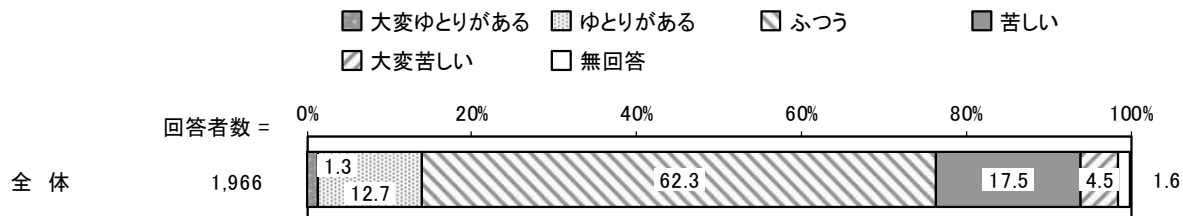
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「している」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「子どもが大きくなったのでやめた」の割合が高くなっています。



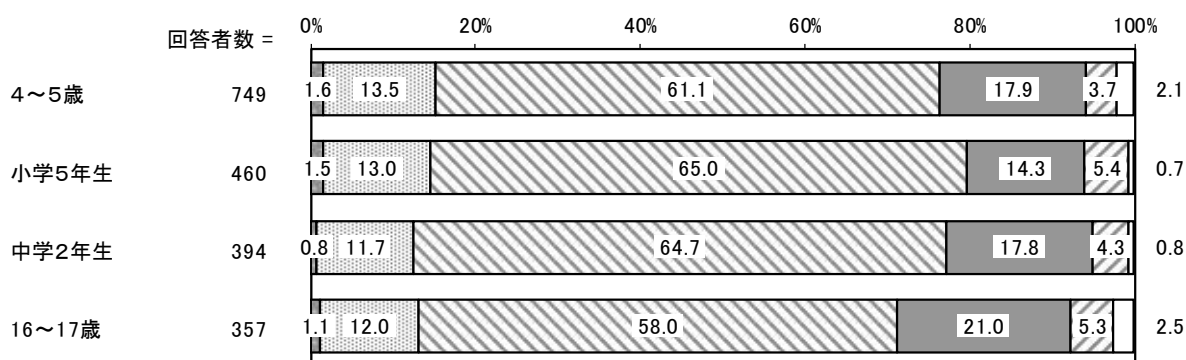
問 16 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。
(あてはまる番号1つに○)

「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が14.0%、「ふつう」の割合が62.3%、「苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が22.0%となっています。



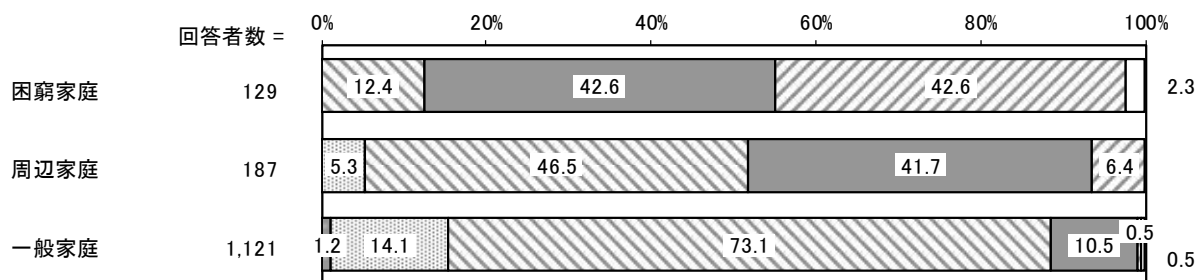
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、16～17歳で“苦しい”の割合が高くなっています。



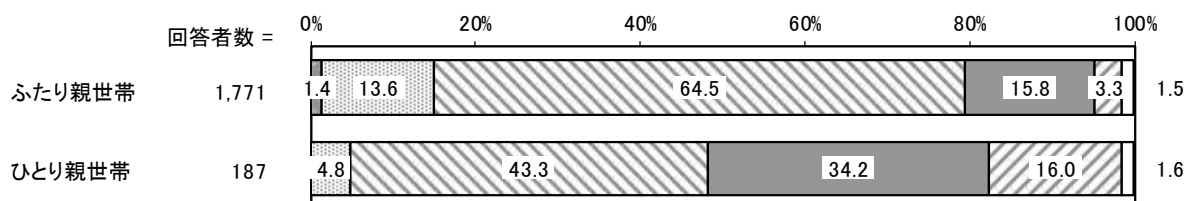
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“ゆとりがある”「ふつう」の割合が、困窮家庭で“苦しい”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“ゆとりがある”「ふつう」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“苦しい”の割合が高くなっています。

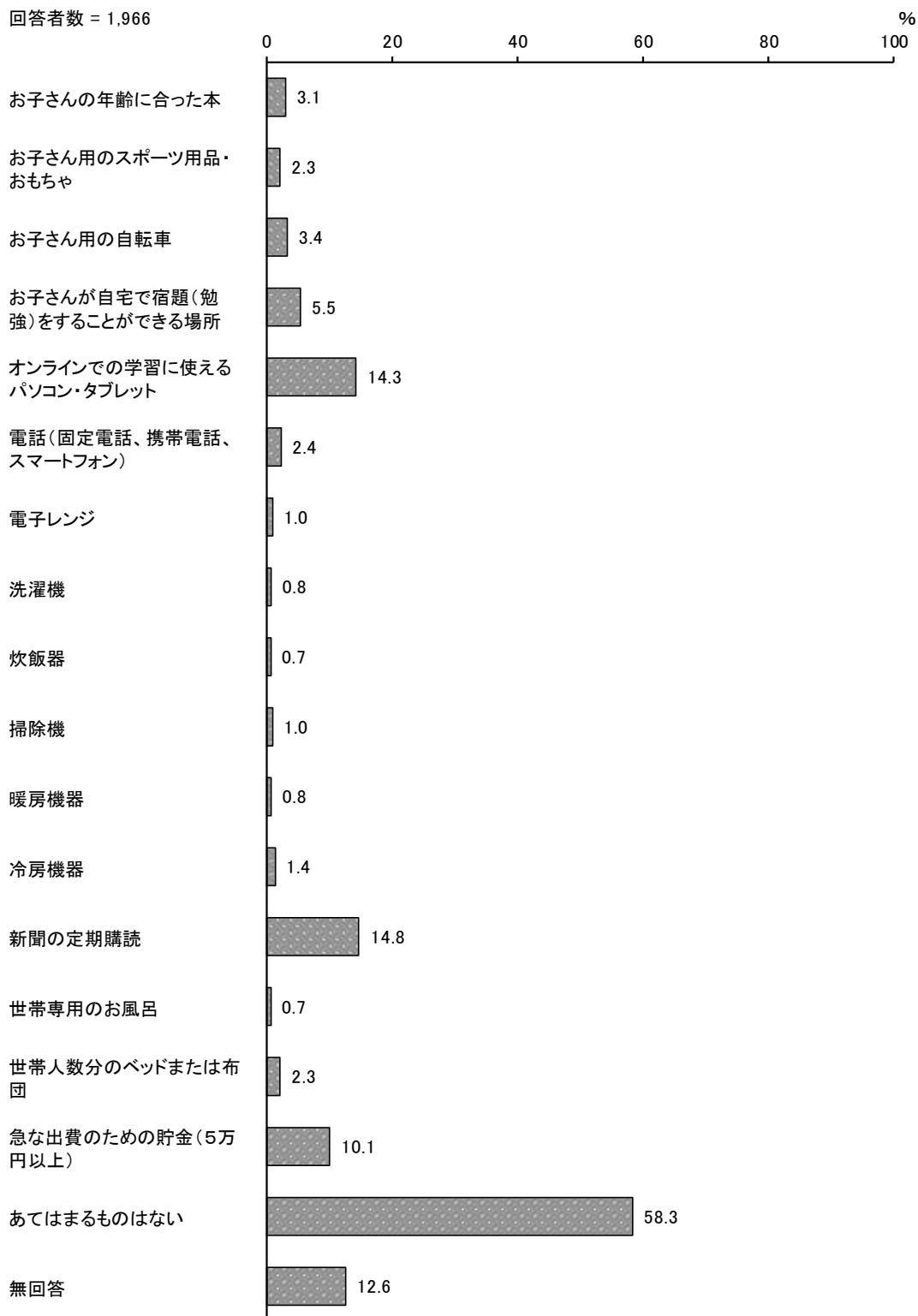


問 17 次のもののうち、経済的な理由のためにあなたのご家庭にないものがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

「あてはまるものはない」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「新聞の定期購読」の割合が 14.8%、「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」の割合が 14.3%となっています。

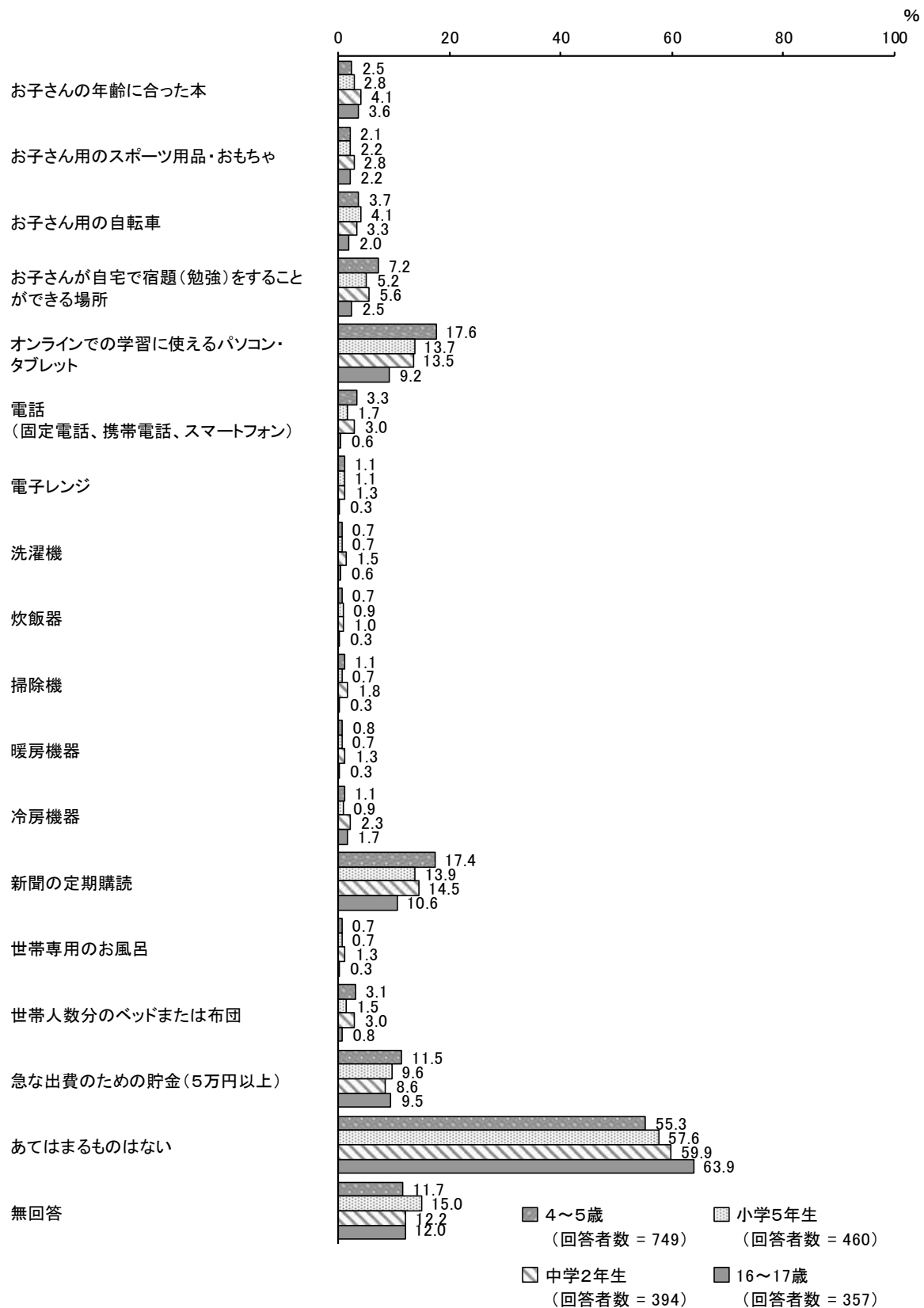
全 体

回答者数 = 1,966



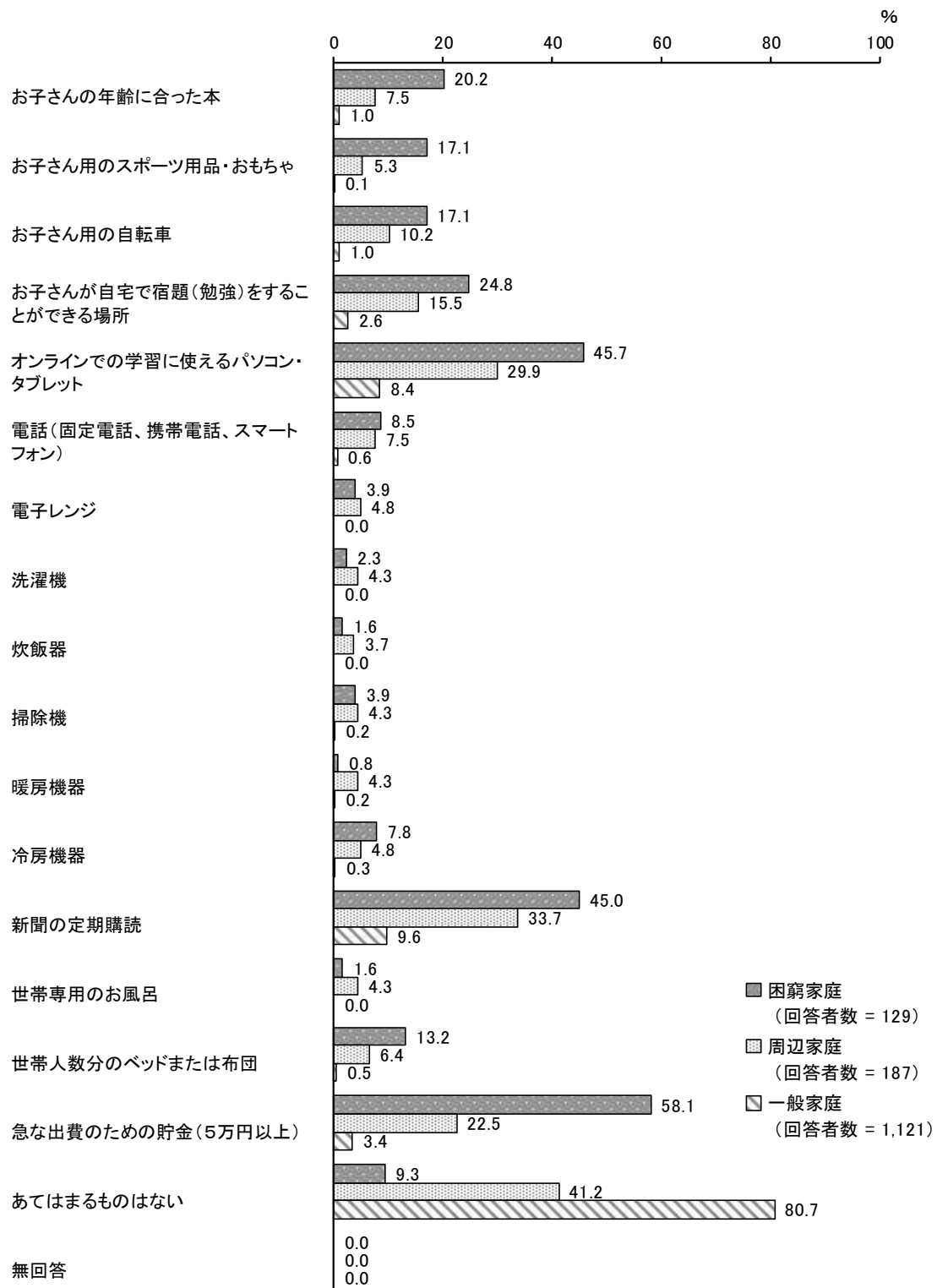
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」の割合が低くなる傾向がみられます。



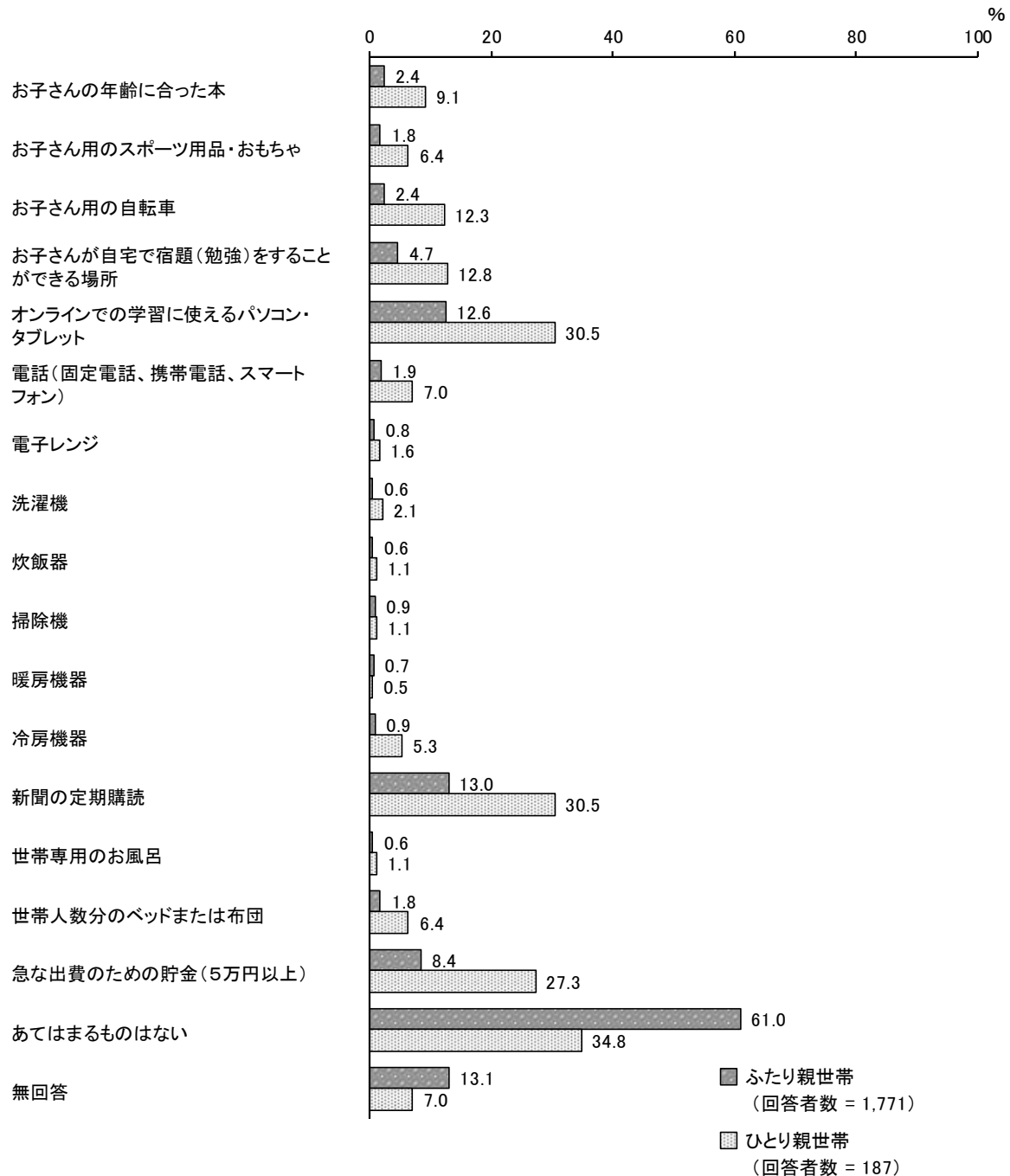
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「あてはまるものはない」の割合が高くなっています。また、困窮家庭で「お子さんの年齢に合った本」「お子さん用のスポーツ用品・おもちゃ」「お子さん用の自転車」「お子さんが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所」「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」「電話（固定電話、携帯電話、スマートフォン）」「冷房機器」「新聞の定期購読」「世帯人数分のベッドまたは布団」「急な出費のための貯金（5万円以上）」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「あてはまるものはない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「お子さんの年齢に合った本」「お子さん用の自転車」「お子さんが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所」「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」「電話（固定電話、携帯電話、スマートフォン）」「新聞の定期購読」「急な出費のための貯金（5万円以上）」の割合が高くなっています。



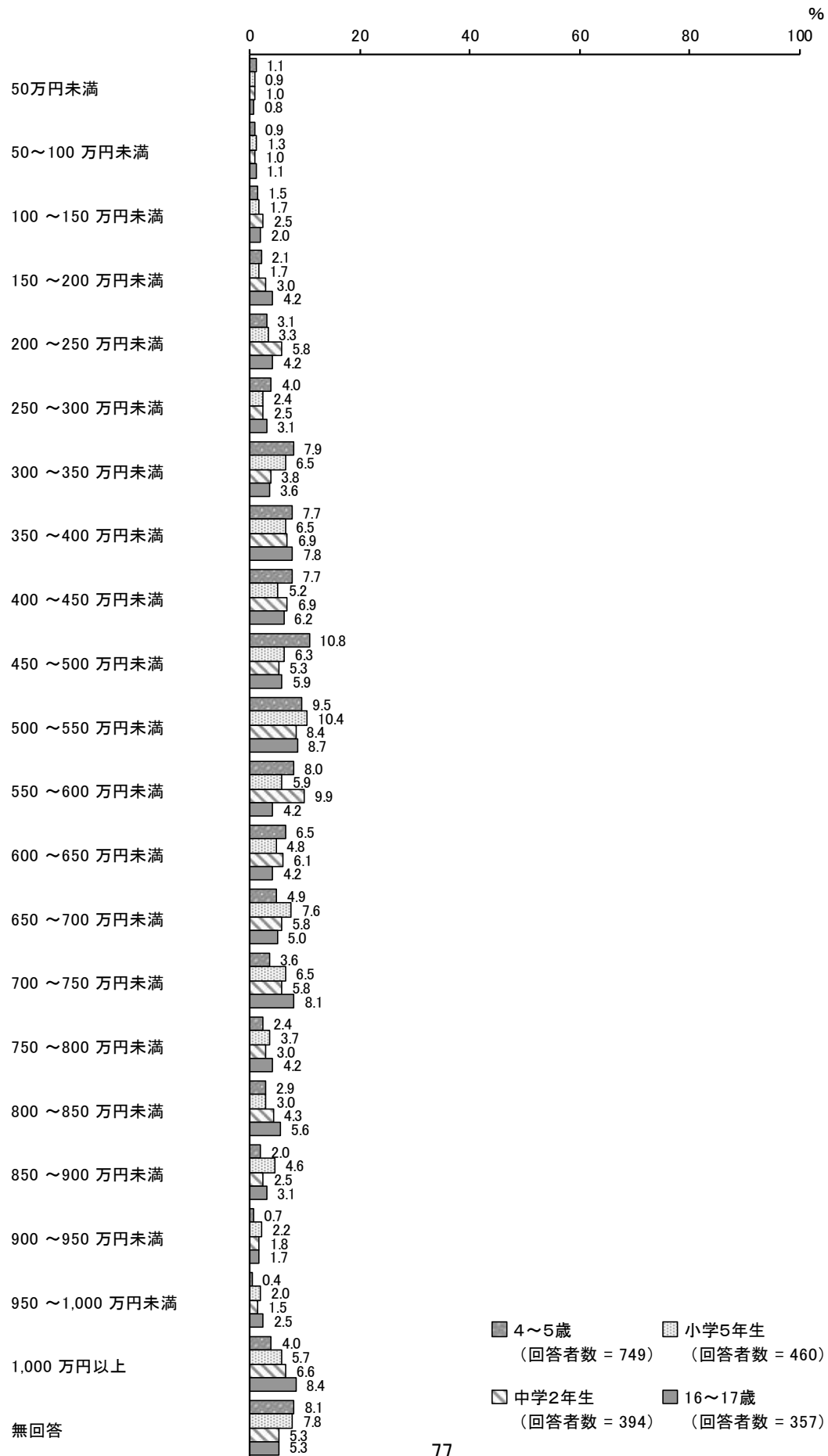
問 18 令和 2 年（2020 年 1 月～12 月）の 1 年間の世帯全体（家族全員）の収入の合計額から、税金や社会保険料の額を差し引いた後の額はおおよそいくらですか。
（あてはまる番号 1 つに○）

「500～550 万円未満」の割合が 9.3%と最も高くなっています。



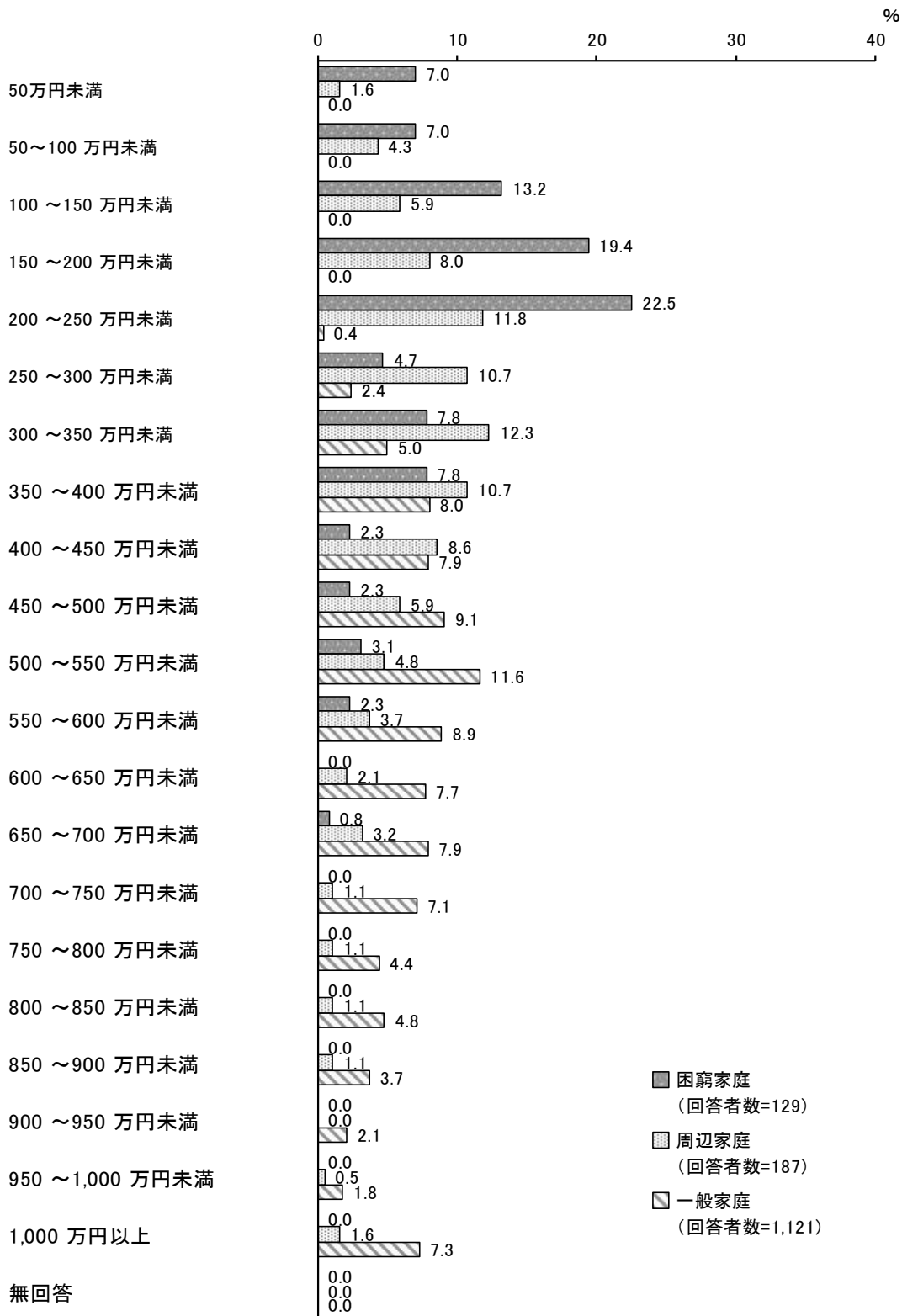
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



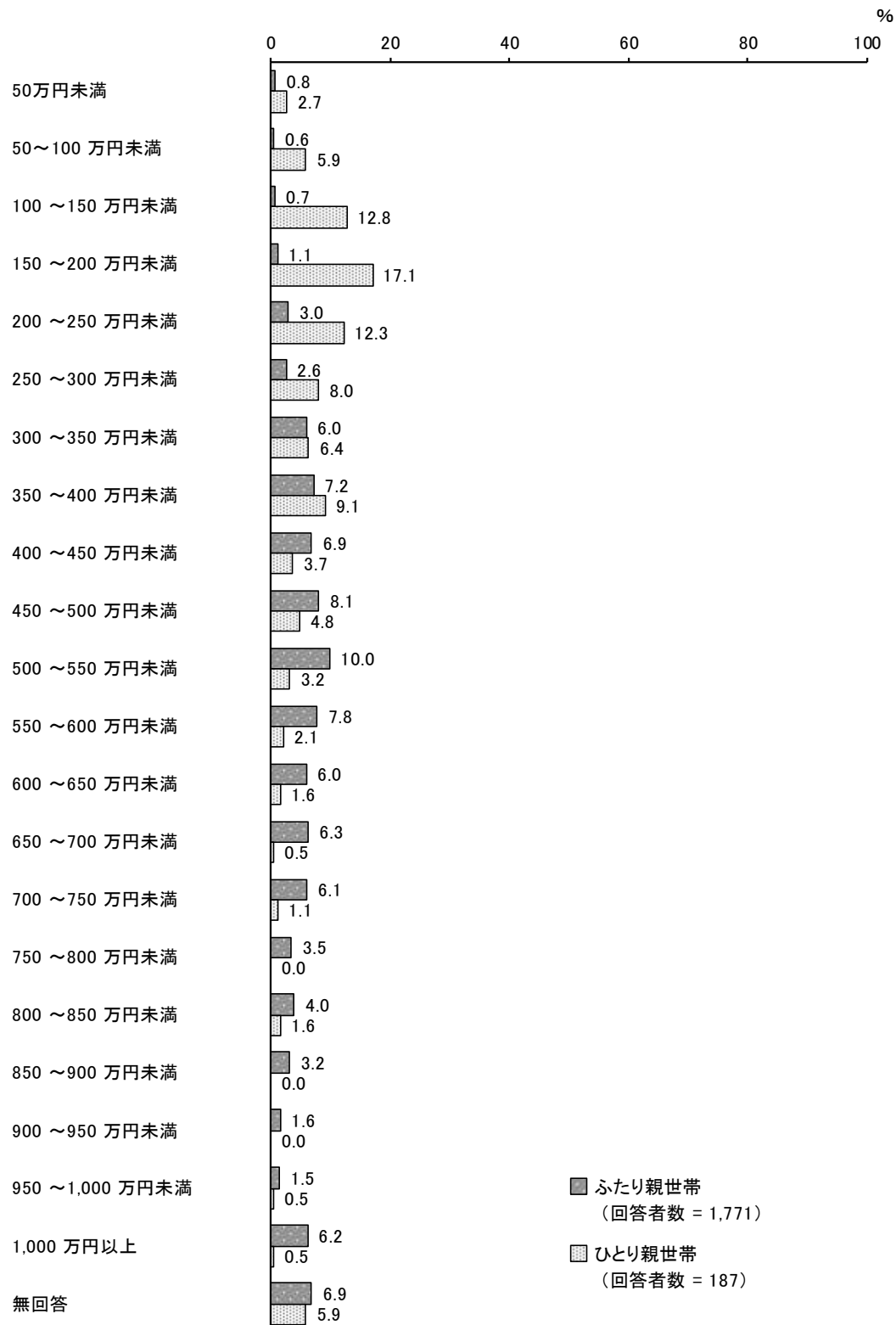
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「50万円未満」「50～100万円未満」「100～150万円未満」「150～200万円未満」「200～250万円未満」の割合が、周辺家庭で「250～300万円未満」「300～350万円未満」「350～400万円未満」「400～450万円未満」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「450～500万円未満」「500～550万円未満」「550～600万円未満」「600～650万円未満」「650～700万円未満」「700～750万円未満」「1,000万円以上」の割合が高くなっています。



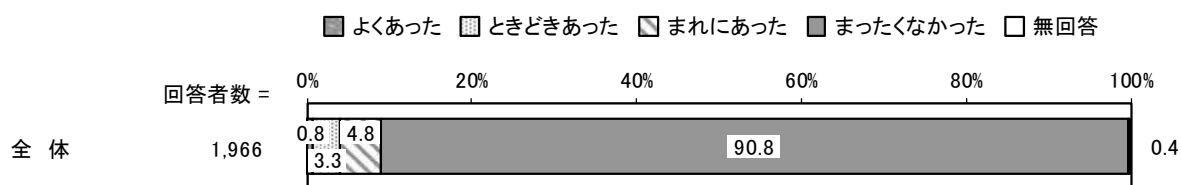
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「400 ～450 万円未満」から「1,000 万円以上」をあわせた“400 万円以上”の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「50 万円未満」から「350 ～400 万円未満」をあわせた“400 万円未満”の割合が高くなっています。



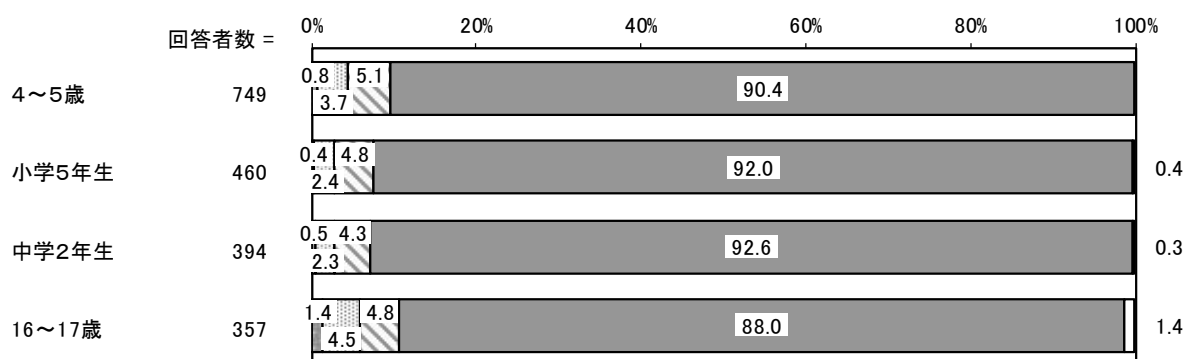
問 19 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。
(あてはまる番号1つに○)

「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」をあわせた“あった”の割合が8.9%、「まったくなかった」の割合が90.8%となっています。



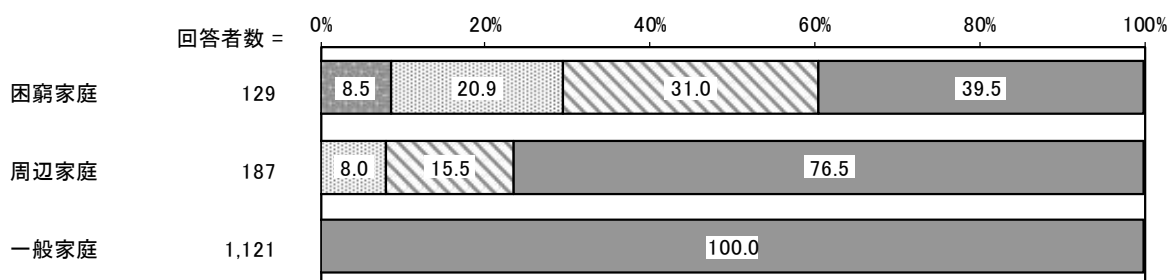
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



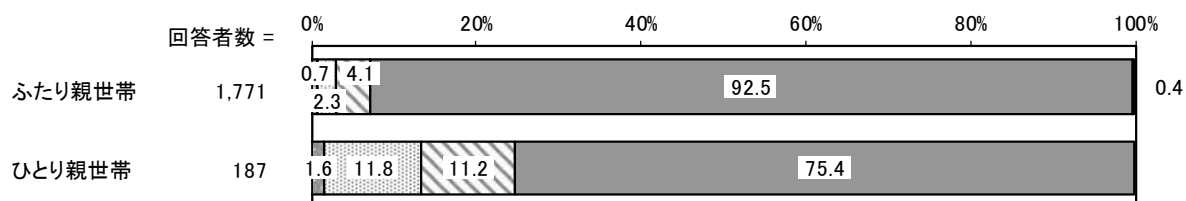
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で“あった”の割合が高くなっています。また、一般家庭で「まったくなかった」の割合が100%となっています。



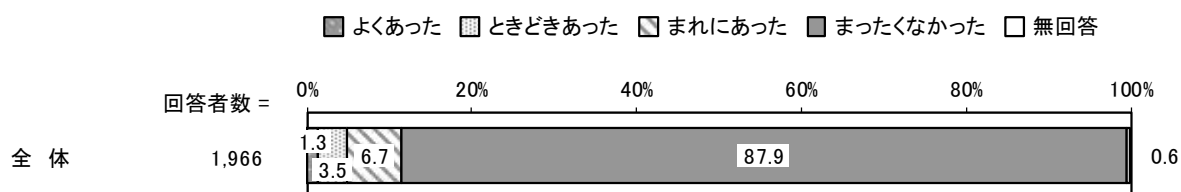
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくなかった」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“あった”の割合が高くなっています。



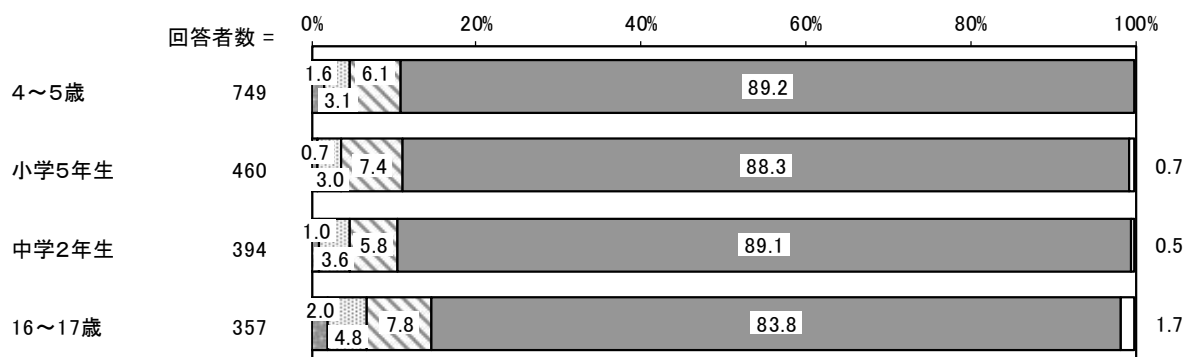
問 20 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。（あてはまる番号1つに○）

「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」をあわせた“あった”の割合が11.5%、「まったくなかった」の割合が87.9%となっています。



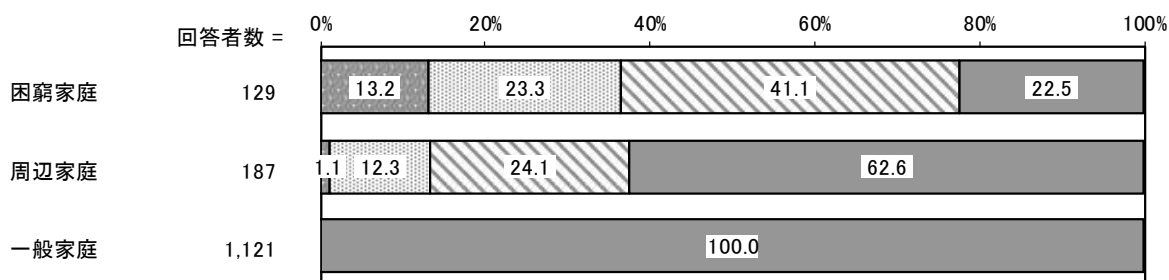
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



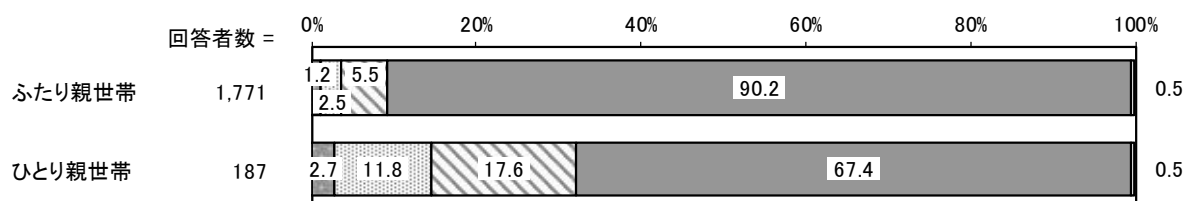
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で“あった”の割合が高くなっています。また、一般家庭で「まったくなかった」の割合が100%となっています。



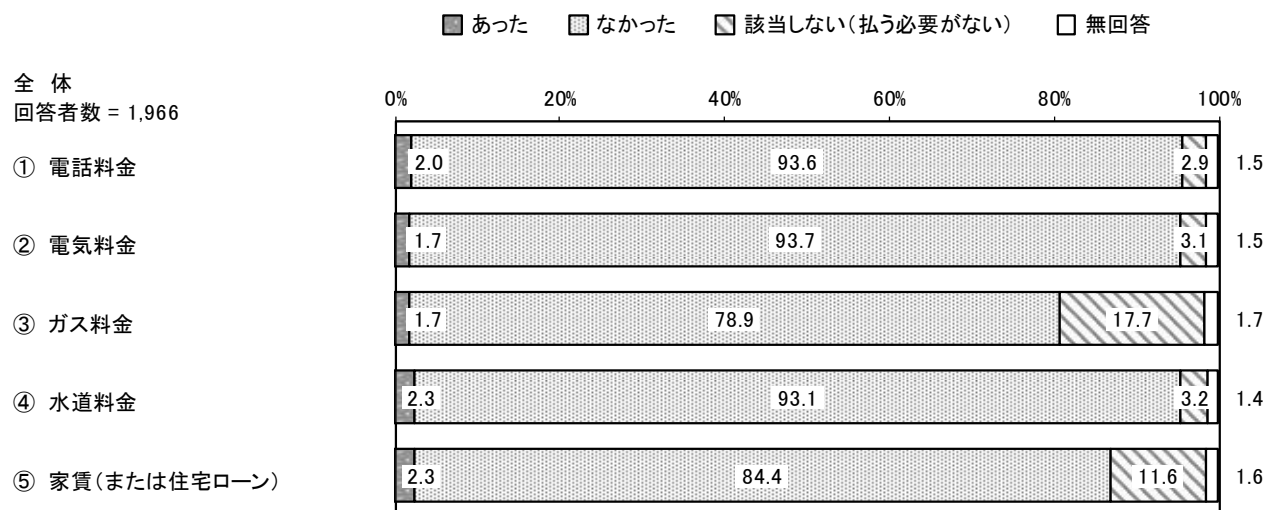
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくなかった」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“あった”の割合が高くなっています。



問 21 あなたのご家庭では、過去1年の間に、次の料金などについて経済的な理由で支払えなかったことがありましたか。
(①～⑤それぞれについて、あてはまる番号すべてに○)

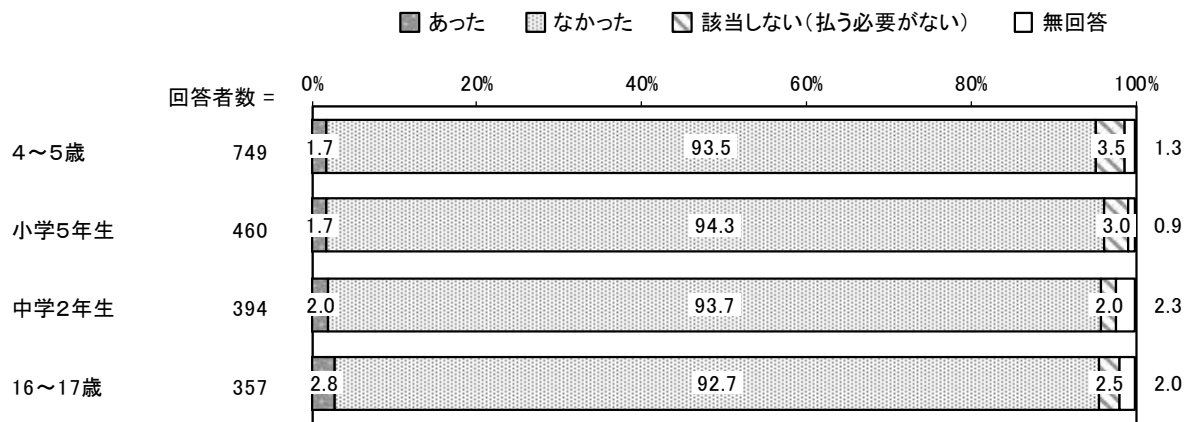
すべての項目で「なかった」の割合が最も高くなっています。



① 電話料金

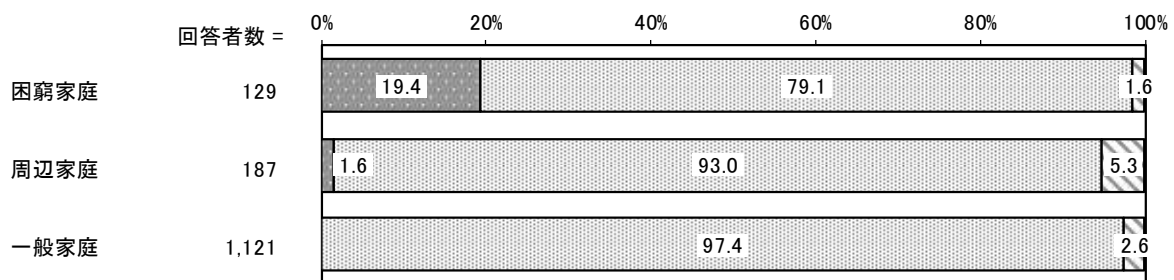
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



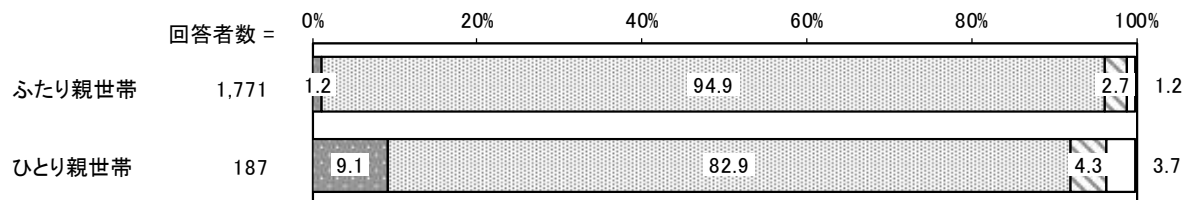
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あった」の割合が、一般家庭で「なかった」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

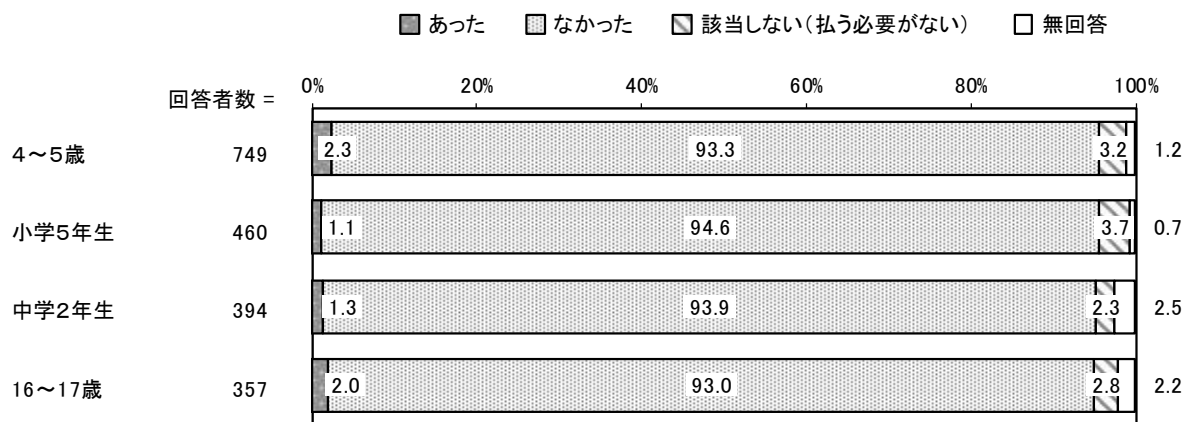
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「なかった」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あった」の割合が高くなっています。



② 電気料金

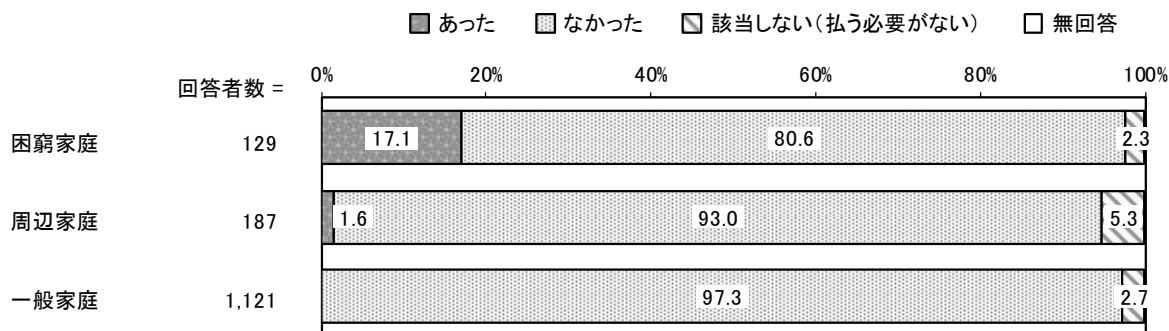
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



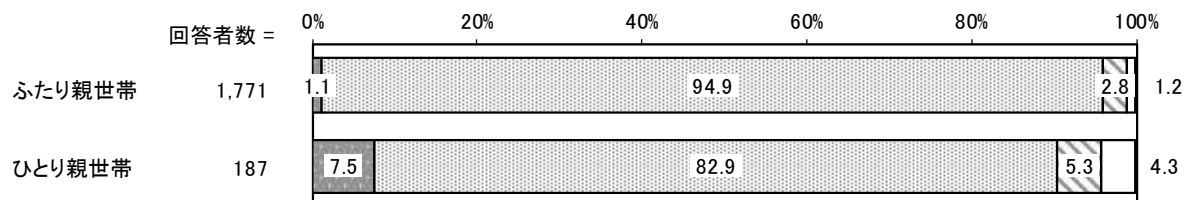
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あった」の割合が、一般家庭で「なかった」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

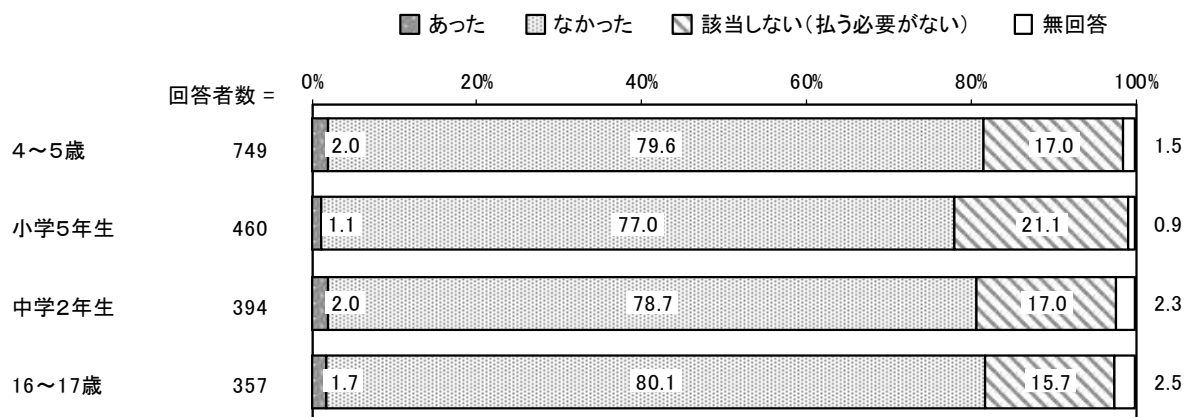
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「なかった」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あった」の割合が高くなっています。



③ ガス料金

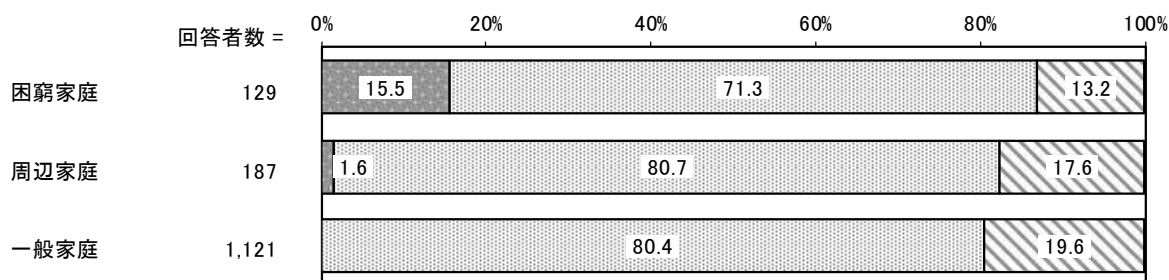
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



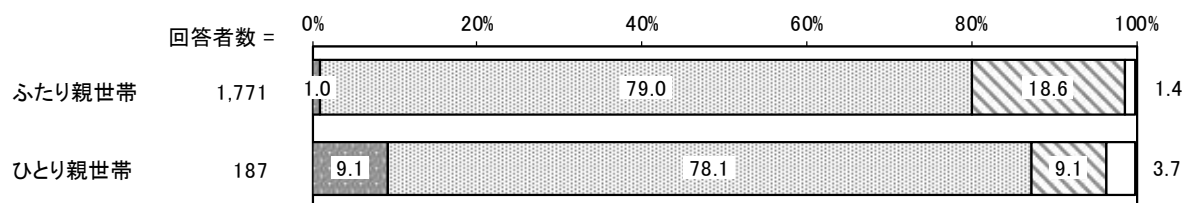
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あった」の割合が、周辺家庭で「なかった」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「なかった」「該当しない(払う必要がない)」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

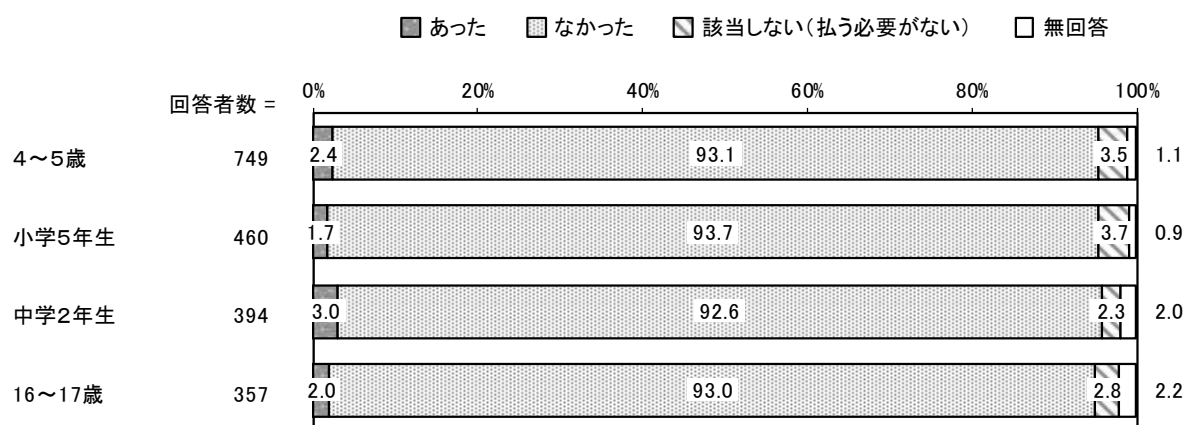
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「該当しない(払う必要がない)」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あった」の割合が高くなっています。



④ 水道料金

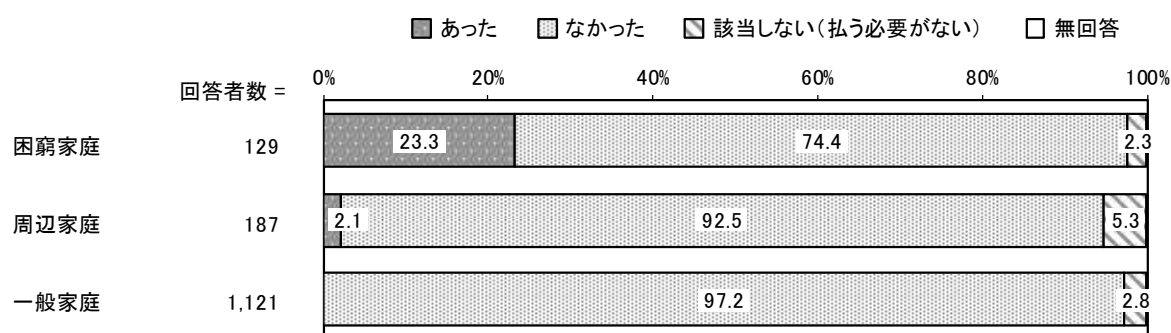
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



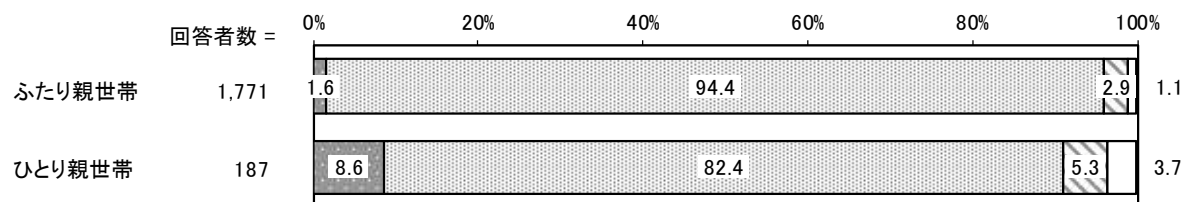
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あった」の割合が、一般家庭で「なかった」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

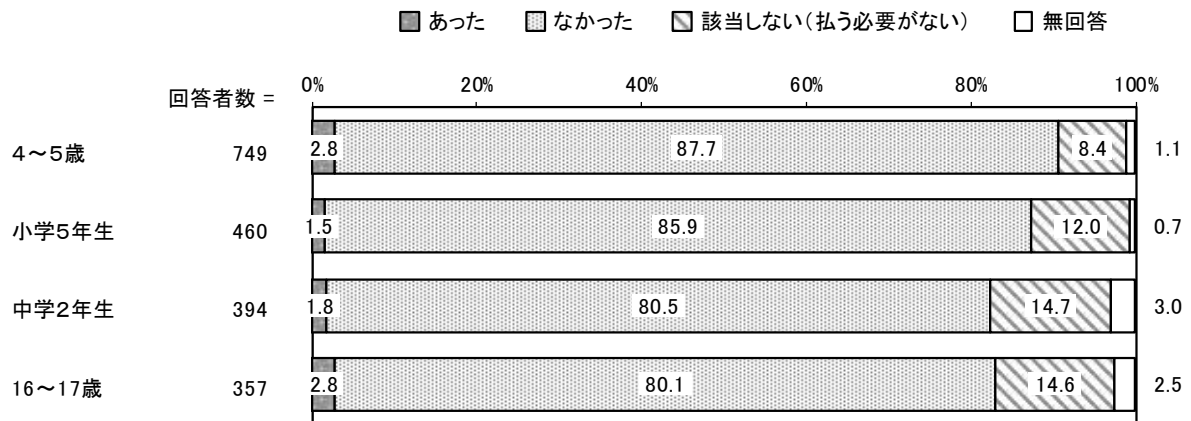
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「なかった」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あった」の割合が高くなっています。



⑤ 家賃（または住宅ローン）

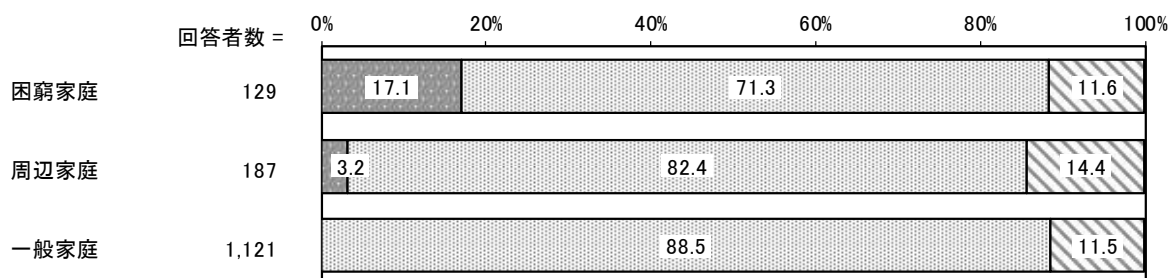
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、4～5歳、小学5年生で「なかった」の割合が高くなっています。



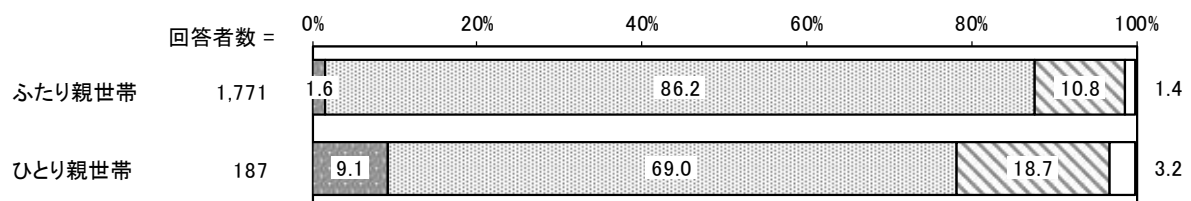
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あった」の割合が、一般家庭で「なかった」の割合が高くなっています。



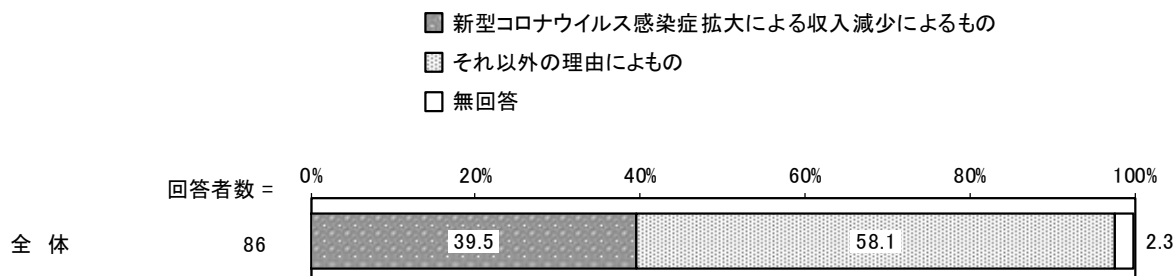
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「なかった」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あった」「該当しない(払う必要がない)」の割合が高くなっています。



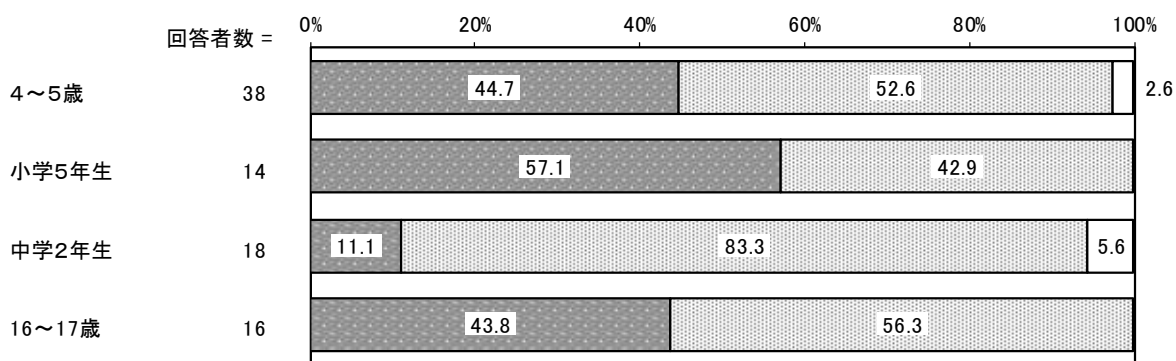
問 21－1 問 21 で 1 つでも「あった」を選んだ方におたずねします。
問 21 の料金などが支払えないことがあったのは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う収入減少によるものですか。（あてはまる番号 1 つに○）

「新型コロナウイルス感染症拡大による収入減少によるもの」の割合が 39.5%、「それ以外の理由によるもの」の割合が 58.1%となっています。



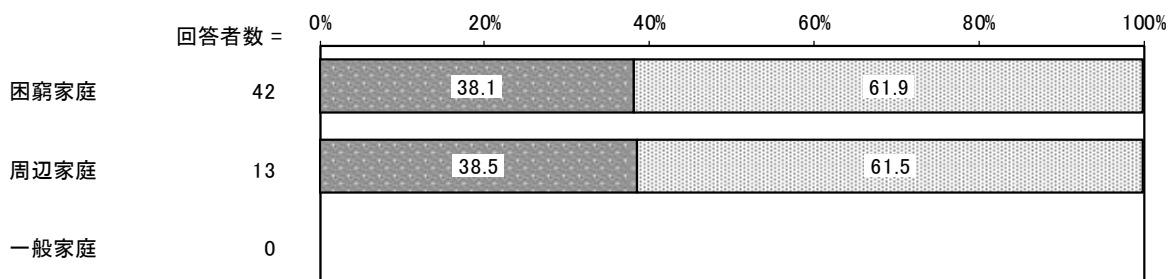
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、小学 5 年生で「新型コロナウイルス感染症拡大による収入減少によるもの」の割合が高くなっています。



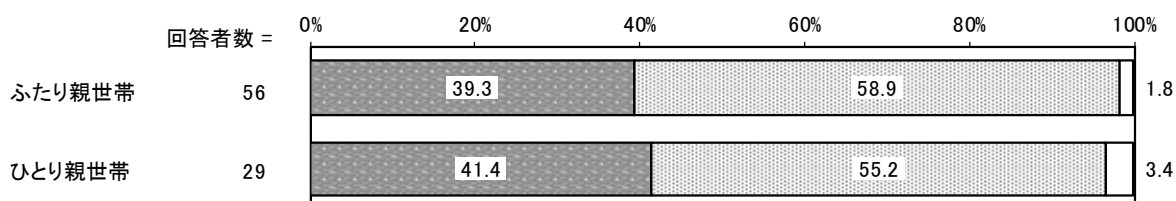
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



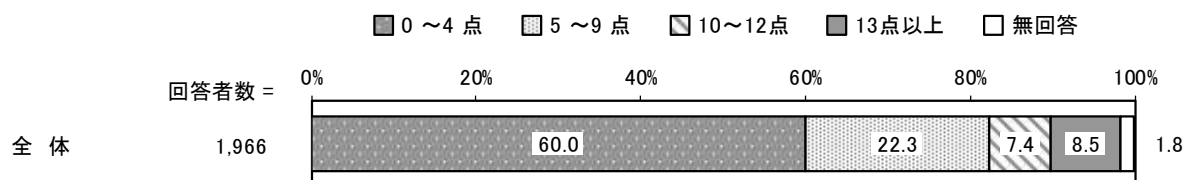
問 22 次のことについて、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。
(①～⑥それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

「保護者の心理的な状態」に関して、「K 6※」と呼ばれる指標を把握するため、次の6つの項目を設定しました。

- 『① 神経過敏に感じた』
- 『② 絶望的だと感じた』
- 『③ そわそわ、落ち着かなく感じた』
- 『④ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた』
- 『⑤ 何をするのも面倒だと感じた』
- 『⑥ 自分は価値のない人間だと感じた』

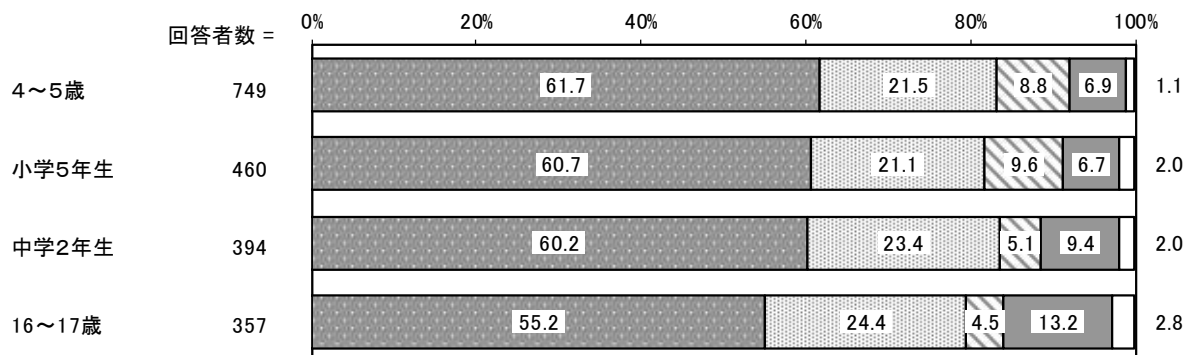
この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K 6のスコアを算出した(0～24点)。「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は8.5%となっています。

※K 6は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。採点方法は、ひとつの質問ごとに0点(5.まったくない)から4点(1.いつも)を振り、0点から24点で合計を計算した。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。



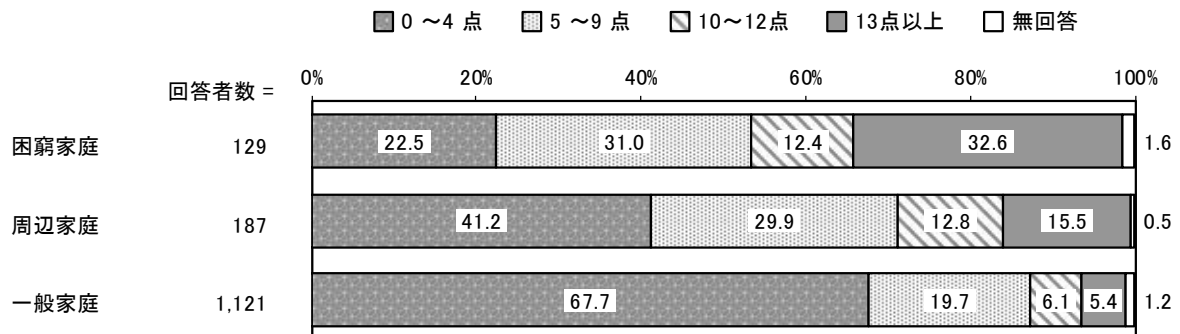
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、16～17歳で「13点以上」の割合が高く、1割を超えています。



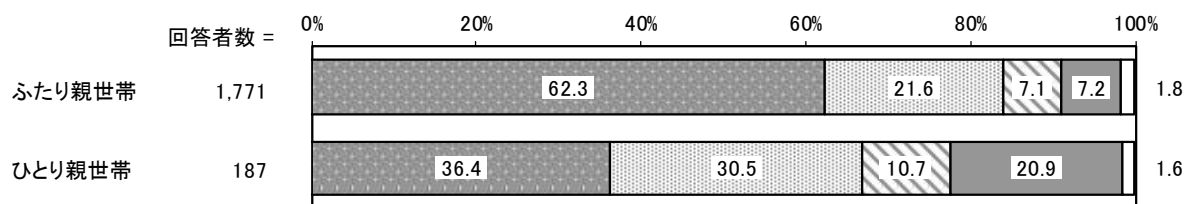
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「0～4点」の割合が高く、約7割となっています。また、困窮家庭で「13点以上」の割合が高く、約3割となっています。



【世帯の状況別】

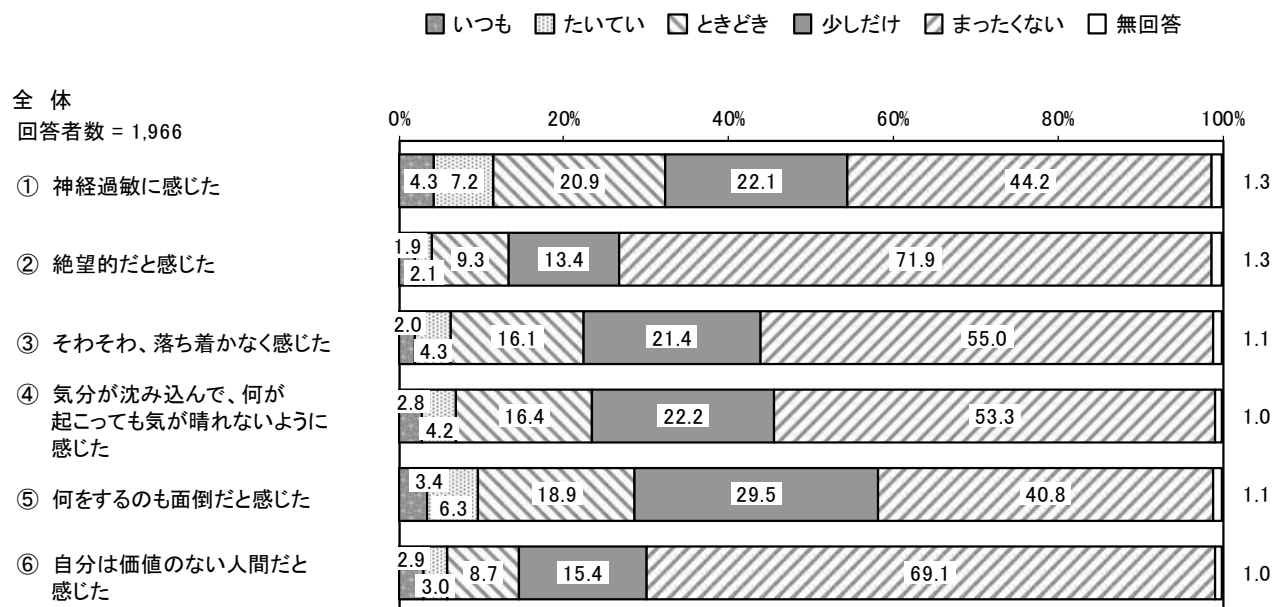
世帯の状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯では「13点以上」の割合が高く、約2割となっています。また、ひとり親世帯で「0～4点」の割合が低く4割未満となっています。



<項目別の回答状況>

『② 絶望的だと感じた』『⑥ 自分は価値のない人間だと感じた』で「まったくない」の割合が高く、約7割となっています。

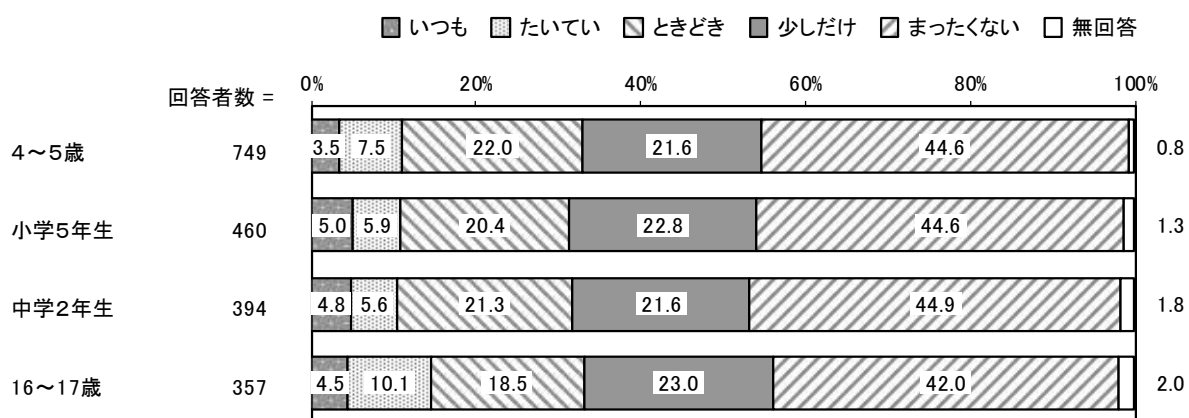
一方、『⑤ 何をするのも面倒だと感じた』で「まったくない」の割合が低く、約4割となっています。



① 神経過敏に感じた

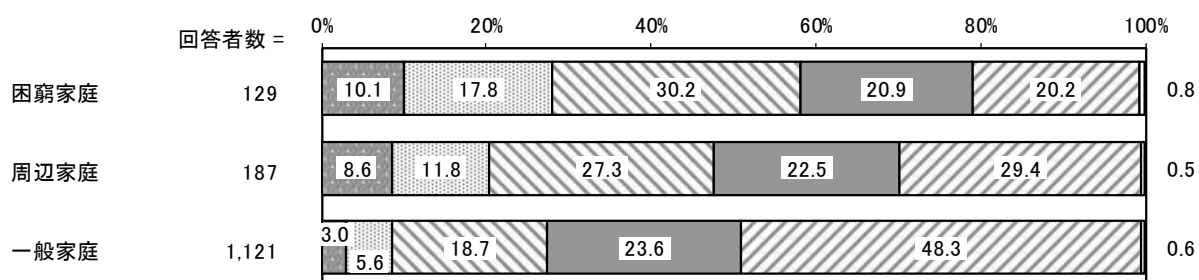
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



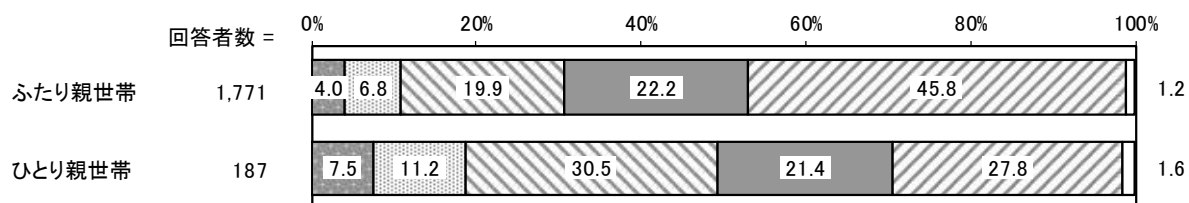
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「いつも」「たいてい」「ときどき」の割合が、一般家庭で「まったくない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

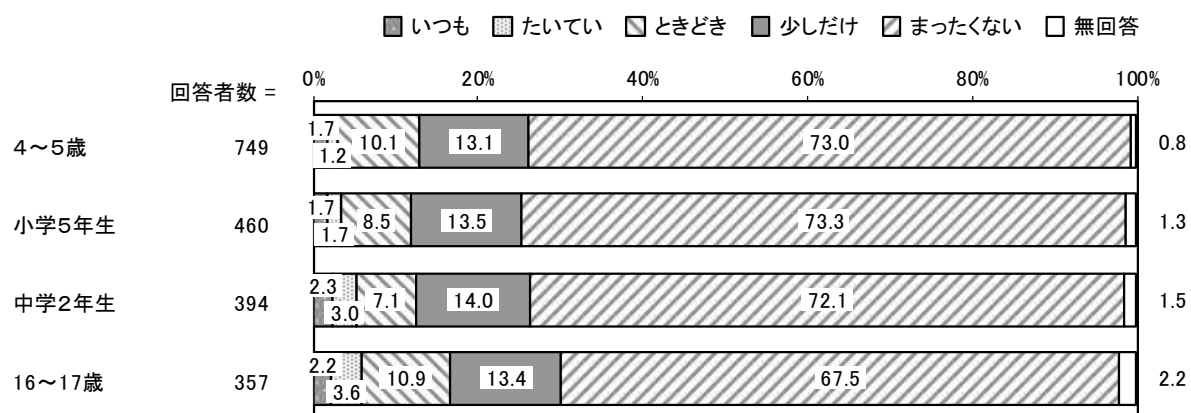
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「ときどき」の割合が高くなっています。



② 絶望的だと感じた

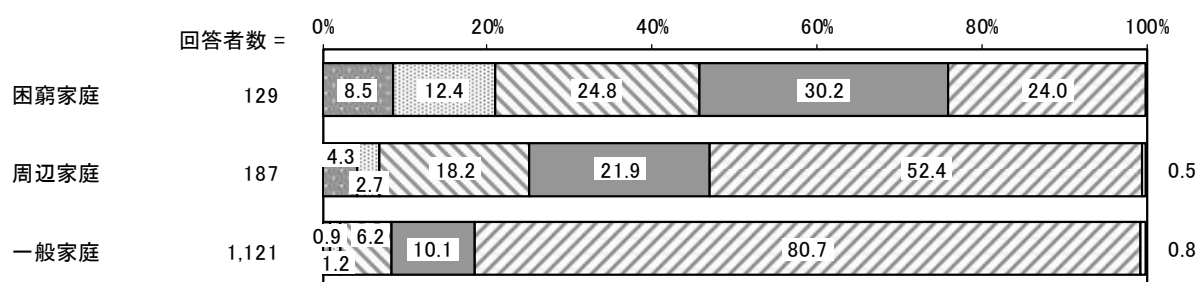
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



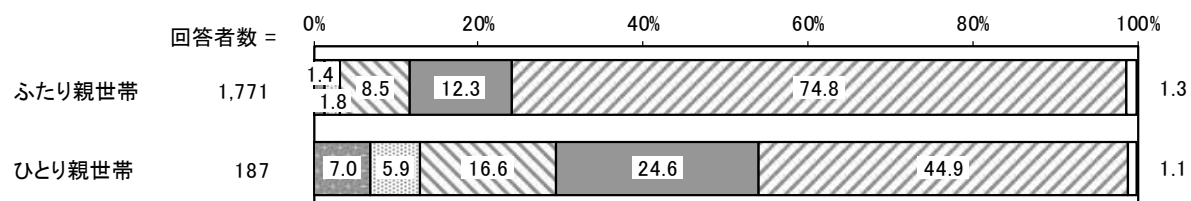
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」の割合が、一般家庭で「まったくない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

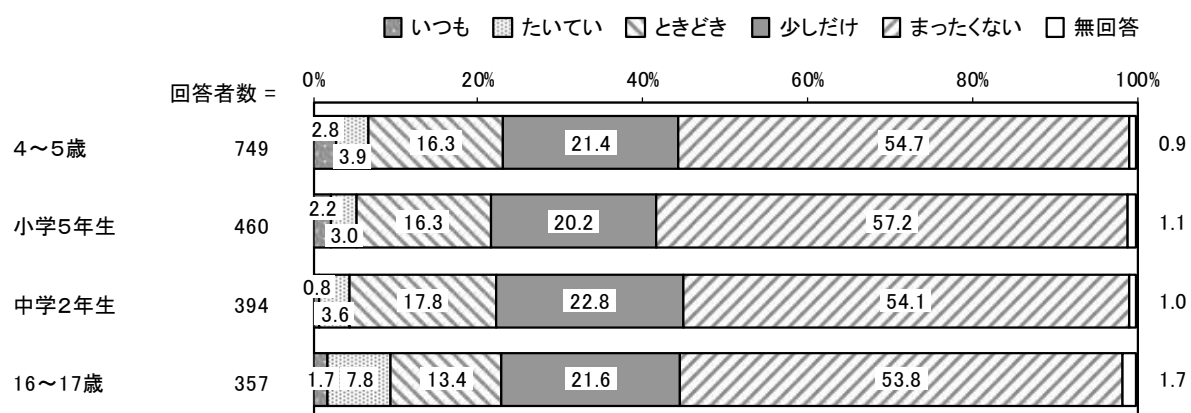
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いつも」「ときどき」「少しだけ」の割合が高くなっています。



③ そろそろ、落ち着かなく感じた

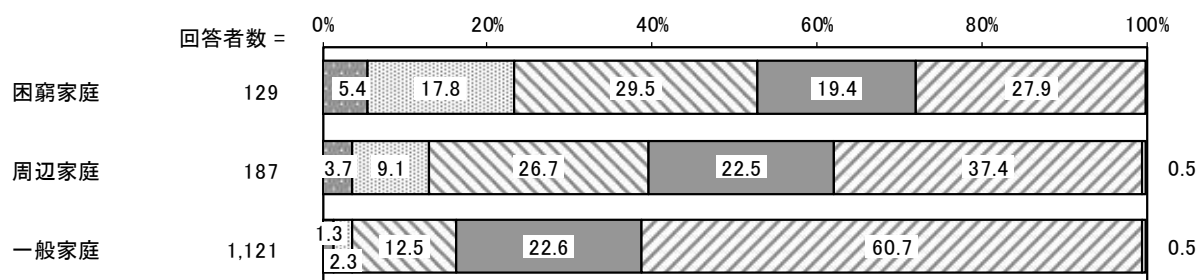
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



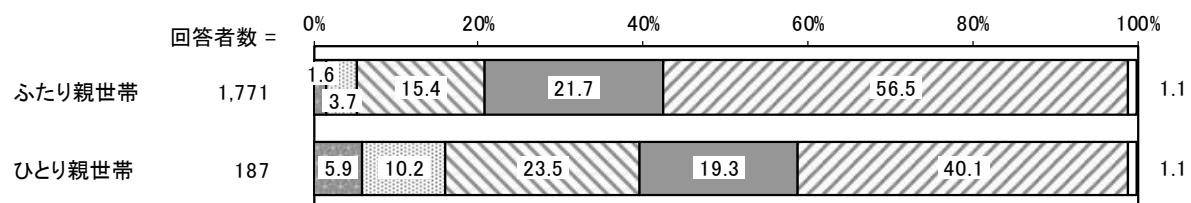
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「たいてい」「ときどき」の割合が、一般家庭で「まったくない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

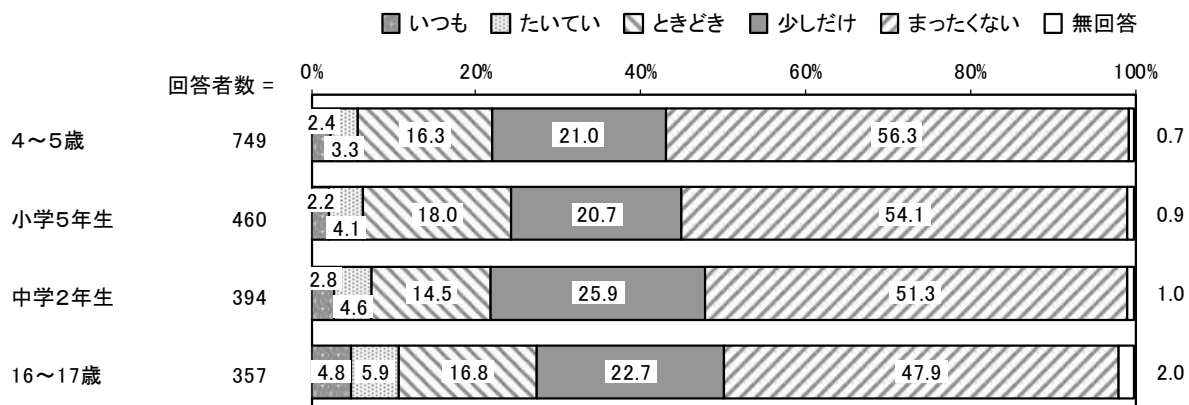
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「たいてい」「ときどき」の割合が高くなっています。



④ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた

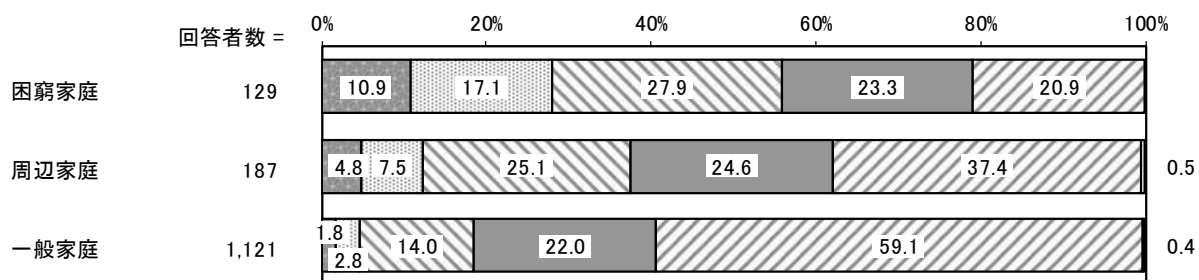
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「まったくない」の割合が低くなる傾向がみられます。



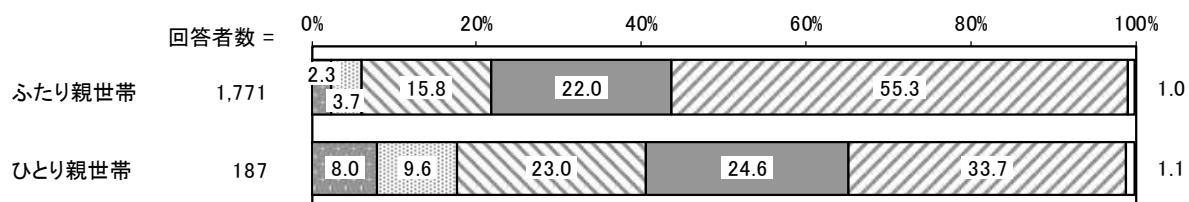
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「いつも」「たいてい」「ときどき」の割合が、一般家庭で「まったくない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

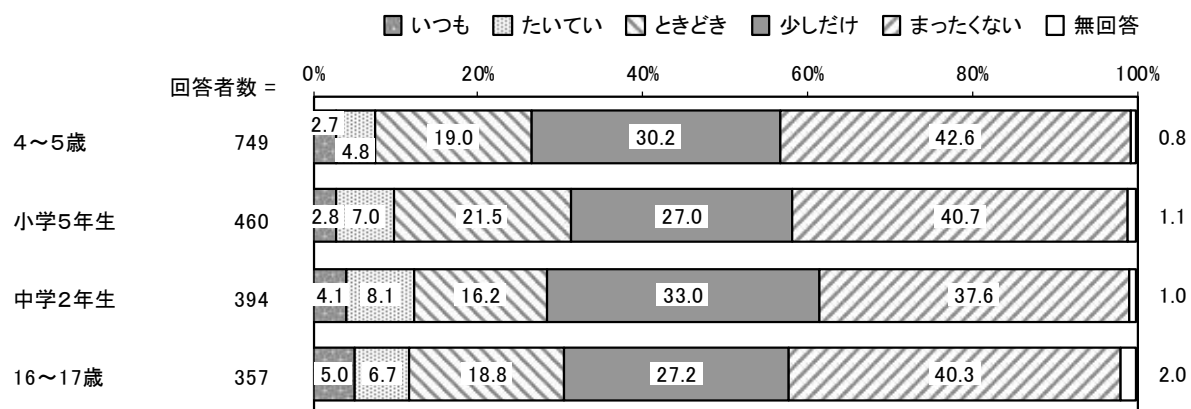
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いつも」「たいてい」「ときどき」の割合が高くなっています。



⑤ 何をするのも面倒だと感じた

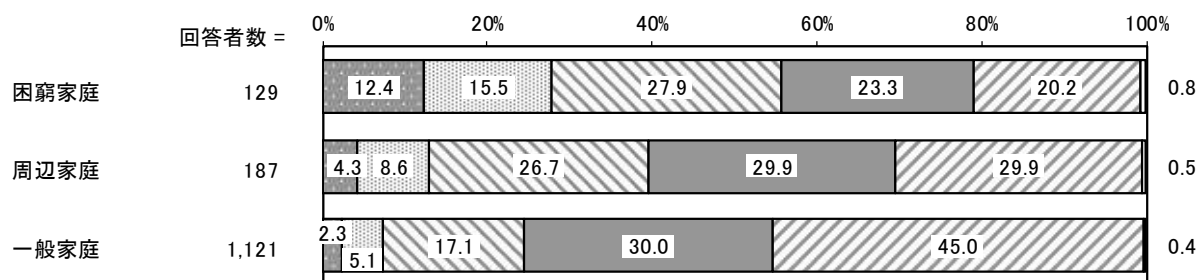
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



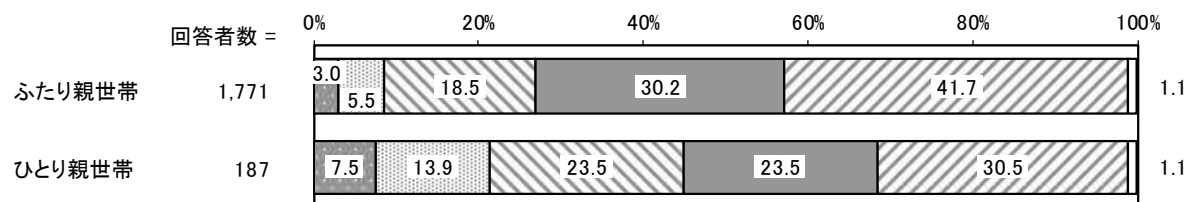
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「いつも」「たいてい」「ときどき」の割合が、一般家庭で「少しだけ」「まったくくない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

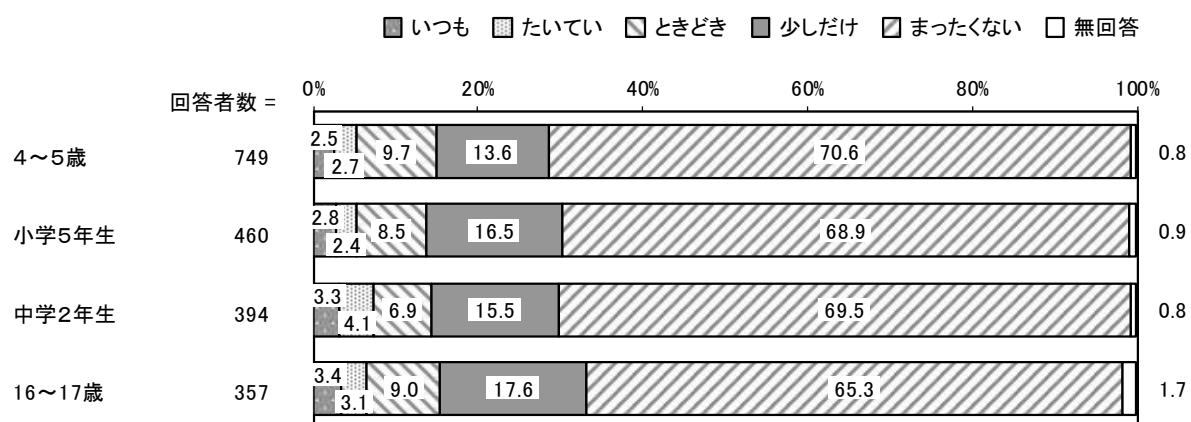
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「少しだけ」「まったくくない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「たいてい」「ときどき」の割合が高くなっています。



⑥ 自分は価値のない人間だと感じた

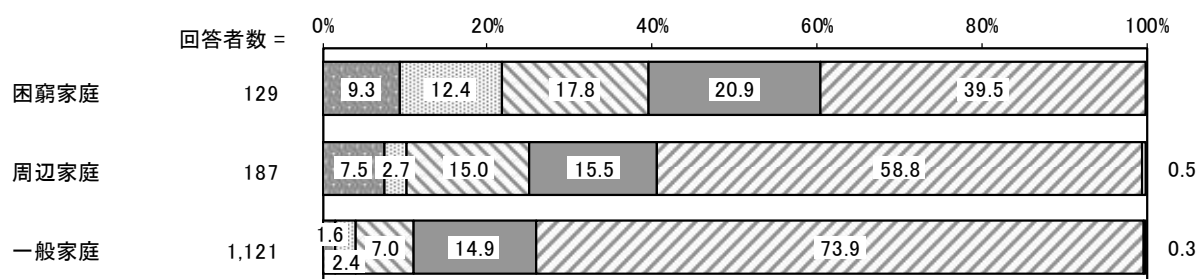
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



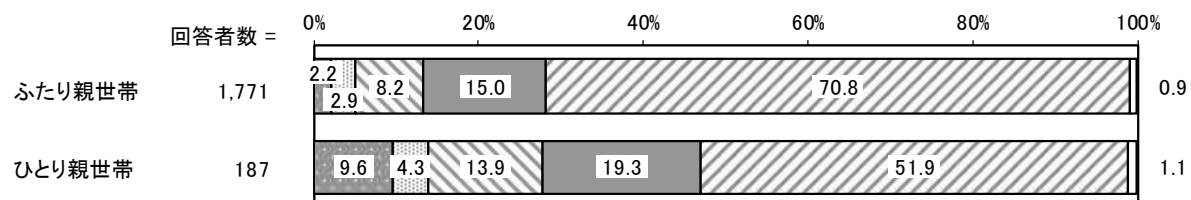
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」の割合が、一般家庭で「まったくない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

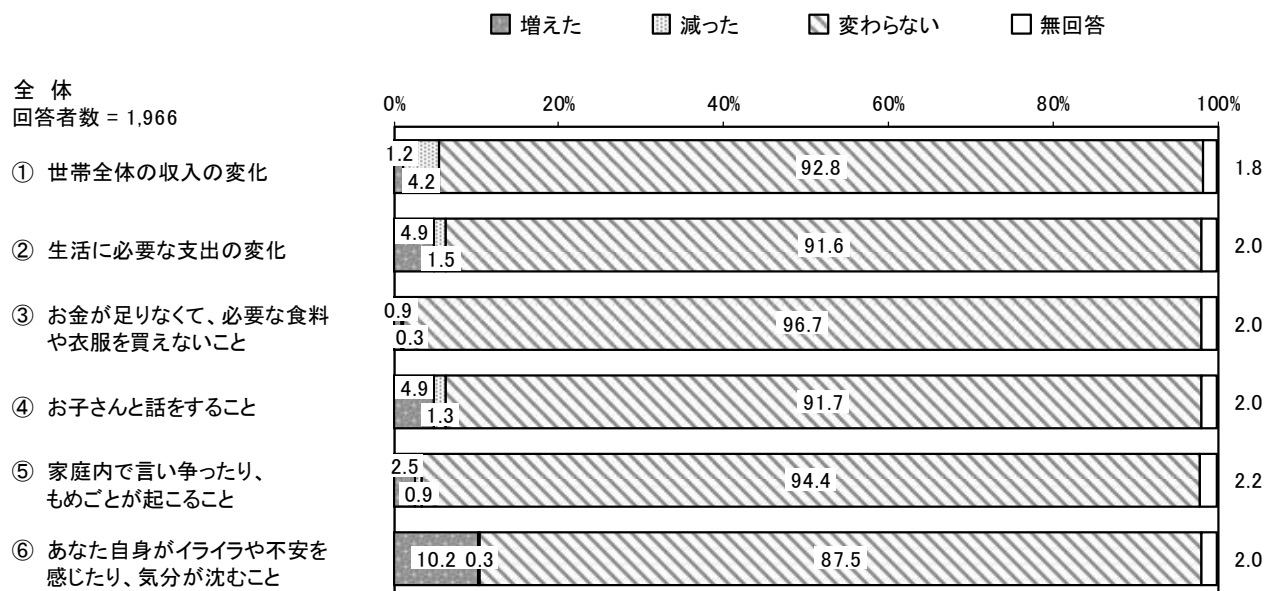
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いつも」「ときどき」の割合が高くなっています。



問 23 あなたのご家庭の現在の生活は、台風 19 号（令和元年東日本台風）災害や新型コロナウイルス感染症の影響で変化はありましたか。
 (①～⑥それぞれ、台風 19 号災害・新型コロナウイルス感染症について、あてはまる番号 1 つに○)

1. 台風 19 号災害

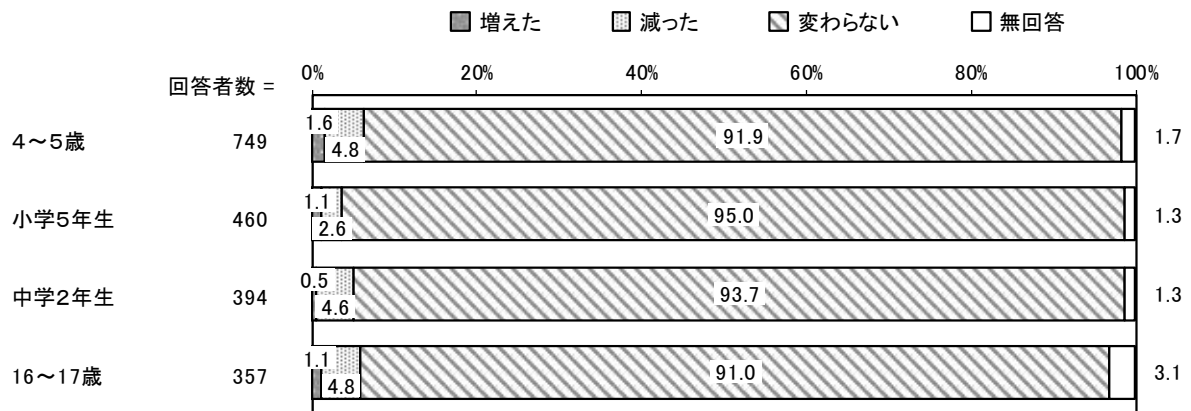
すべての項目で「変わらない」の割合が最も高くなっていますが、『⑥ あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと』で「増えた」の割合が高く、約 1 割となっています。



① 世帯全体の収入の変化

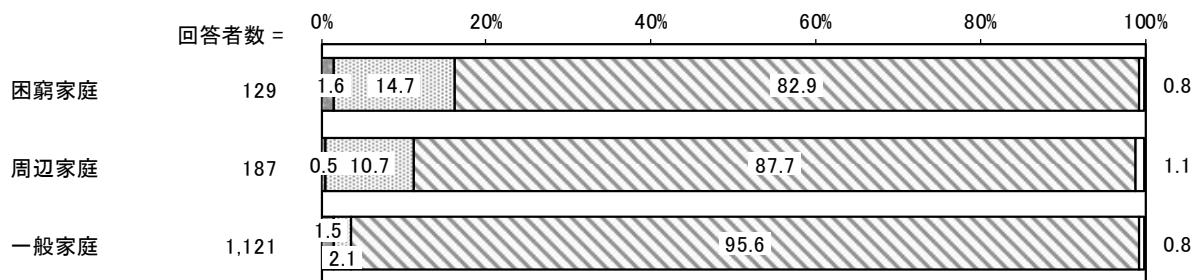
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



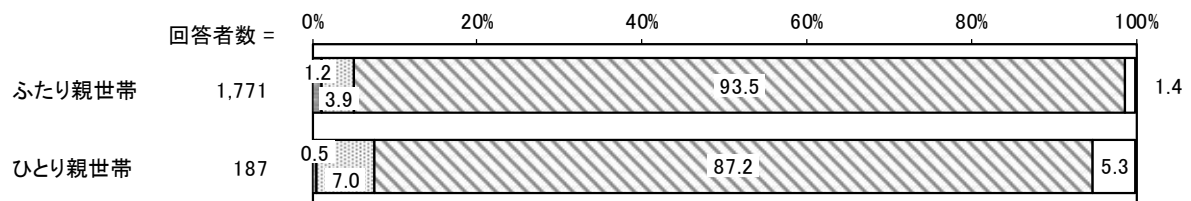
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

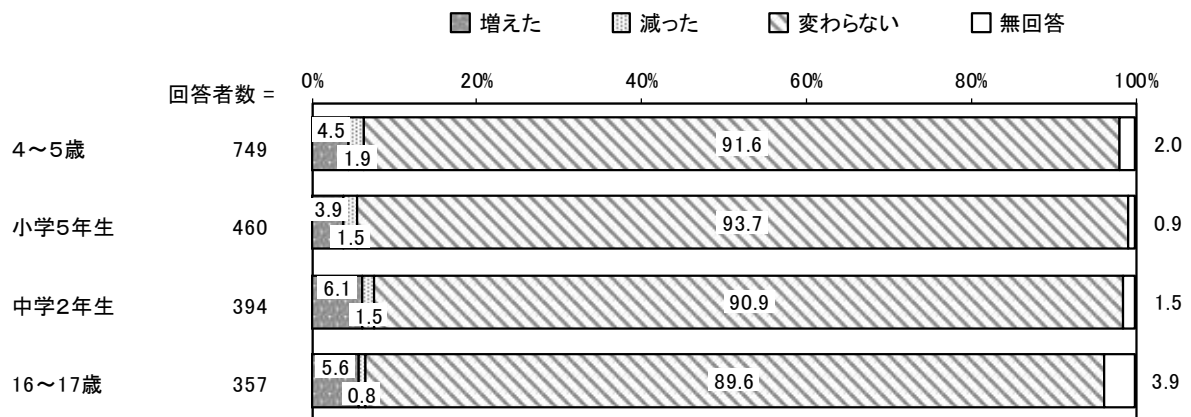
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



② 生活に必要な支出の変化

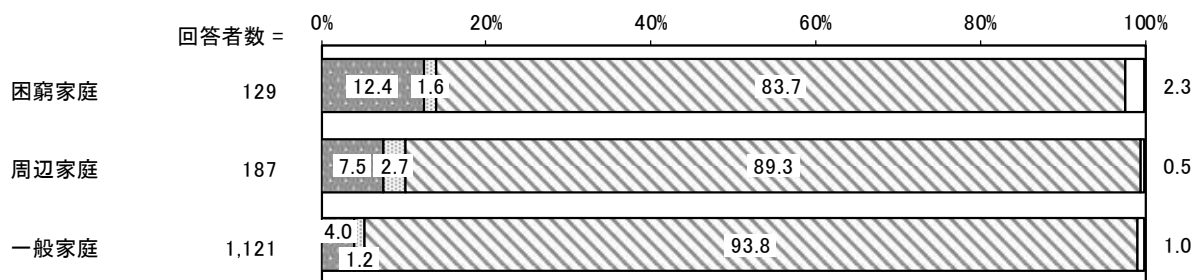
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



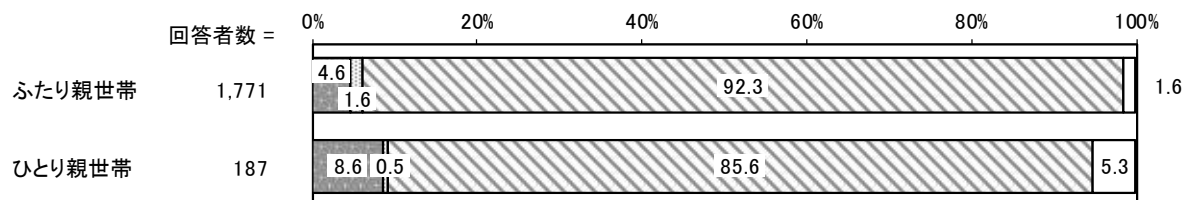
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

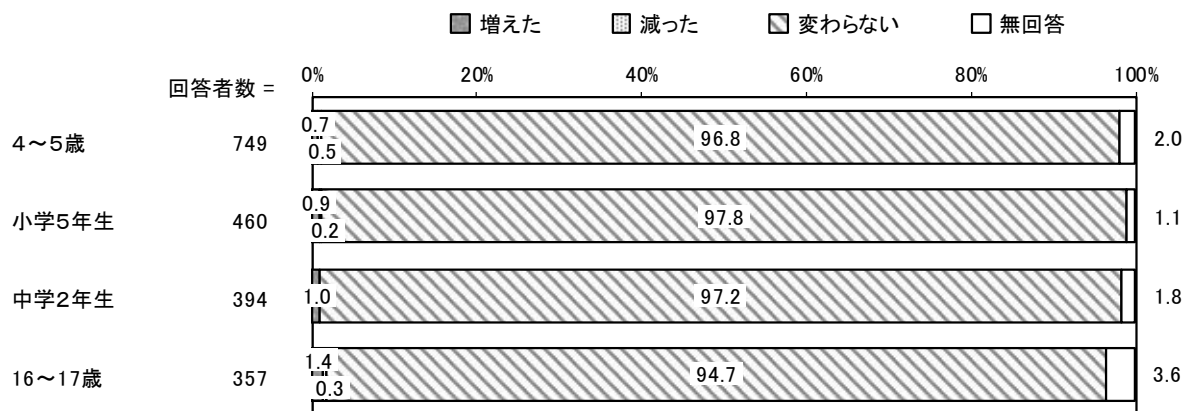
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



③ お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

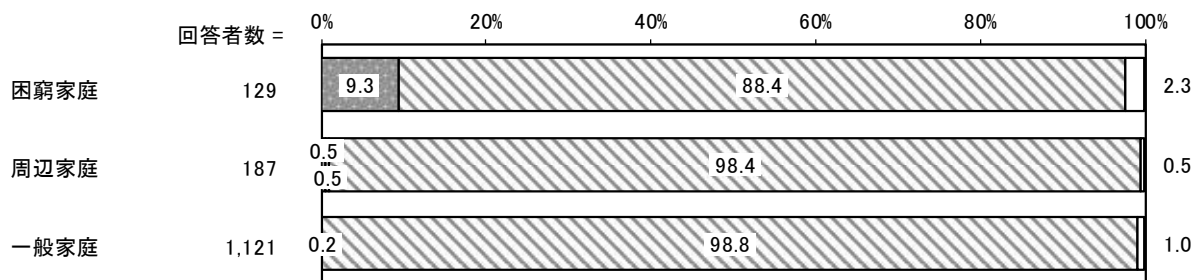
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



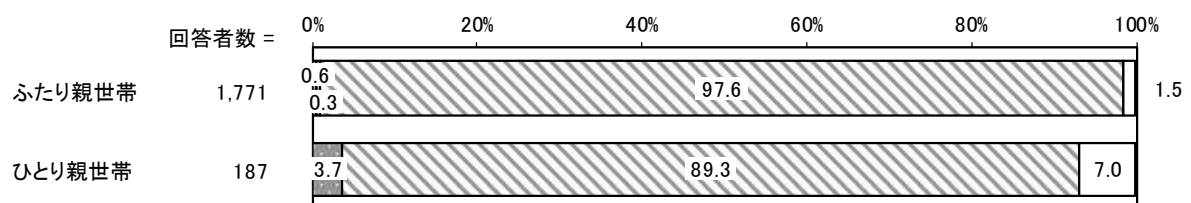
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

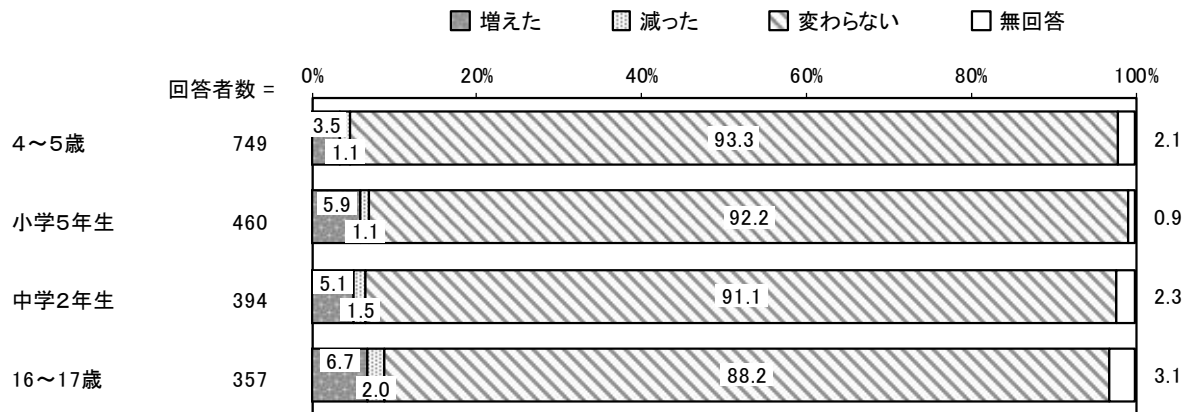
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



④ お子さんと話をすること

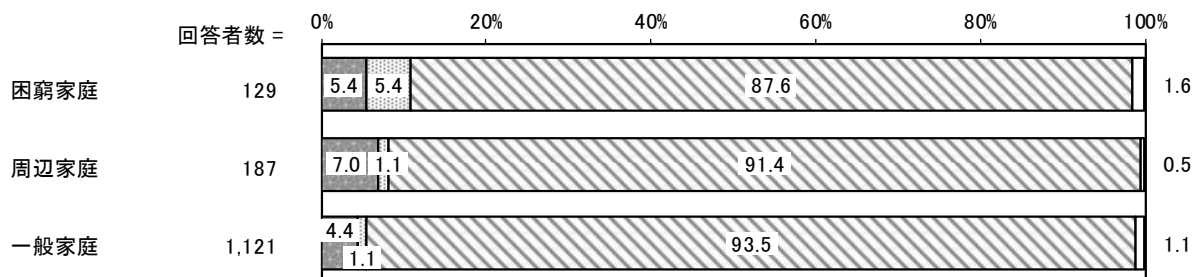
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「変わらない」の割合が低くなる傾向がみられます。



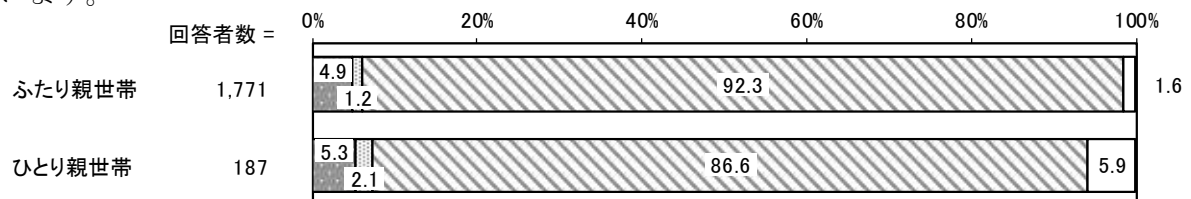
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

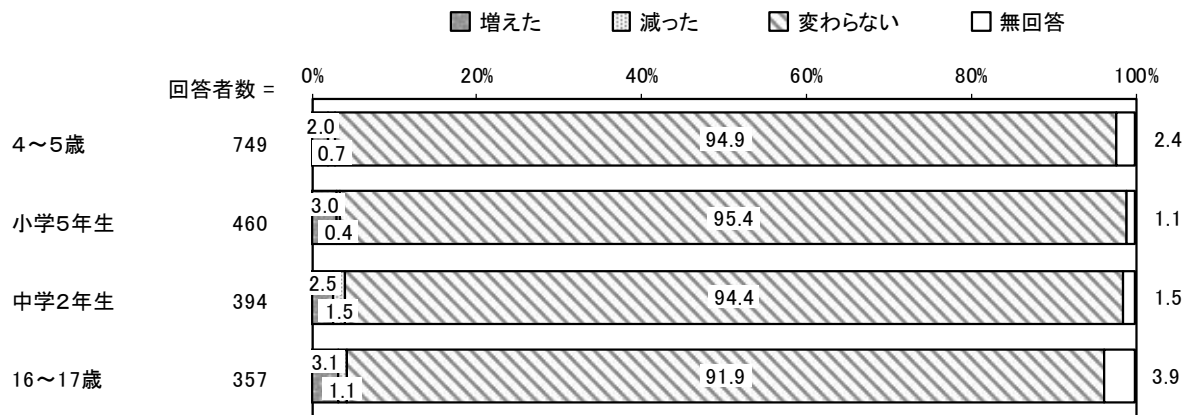
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「変わらない」の割合が高くなっています。



⑤ 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

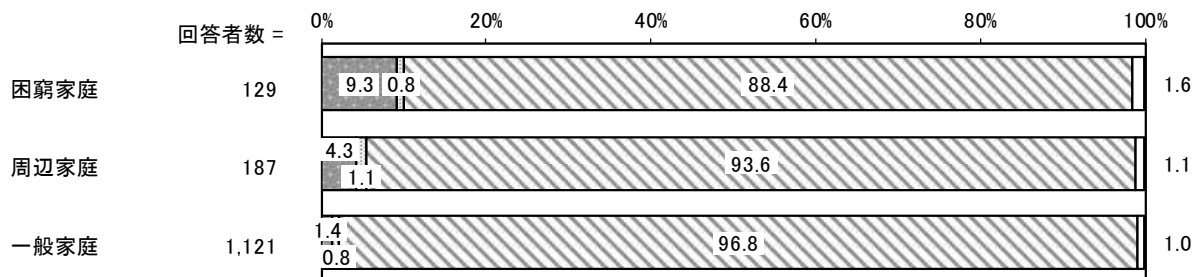
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



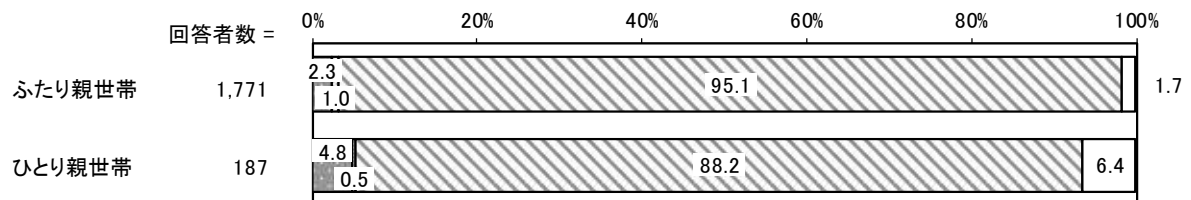
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

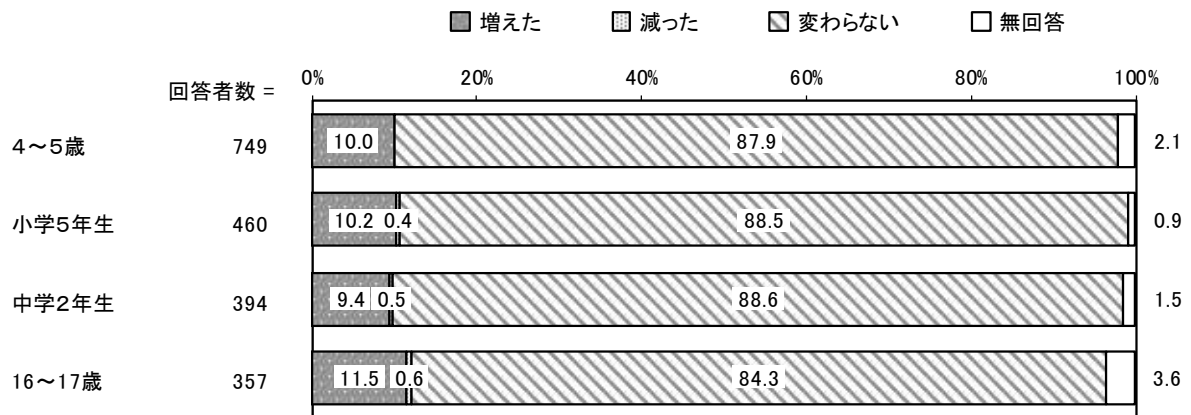
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑥ あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

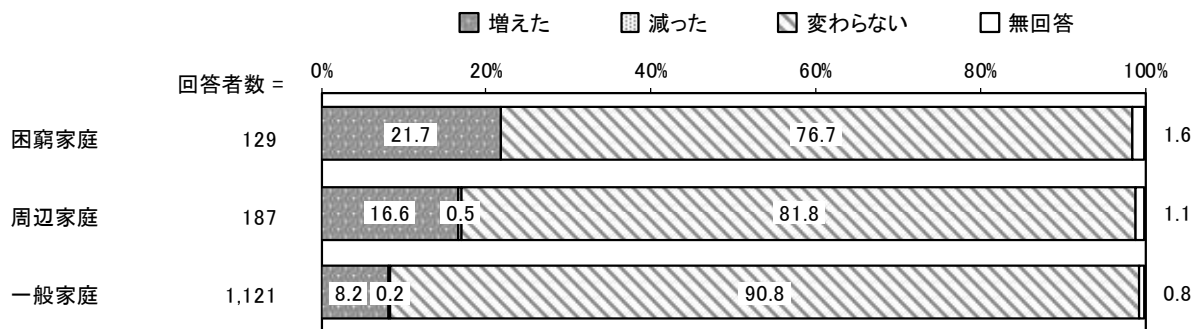
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



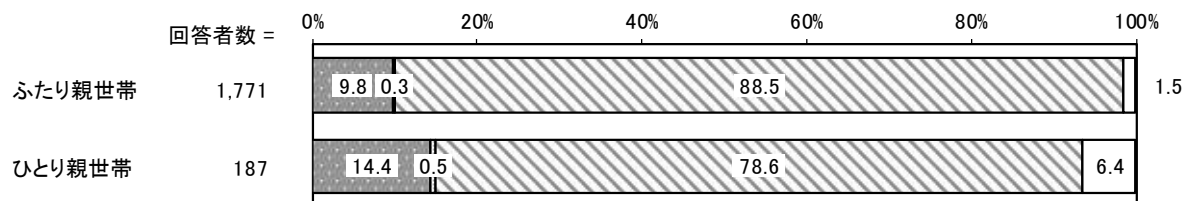
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

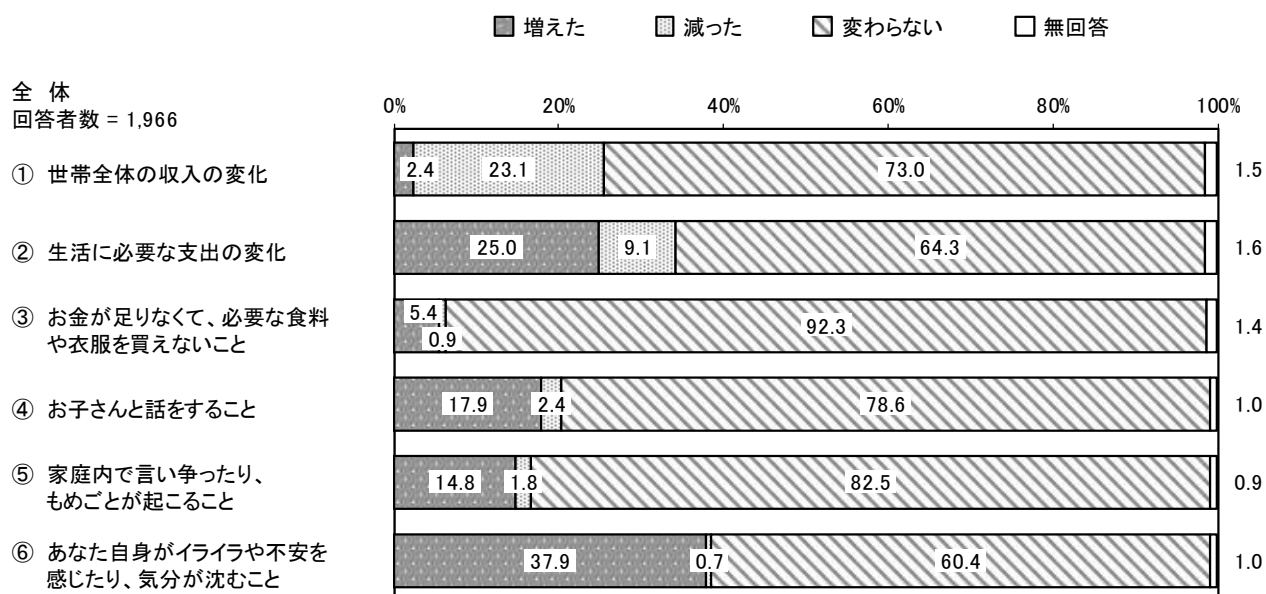
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



2. 新型コロナウイルス感染症

『③ お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと』で「変わらない」の割合が高く、9割を超えています。

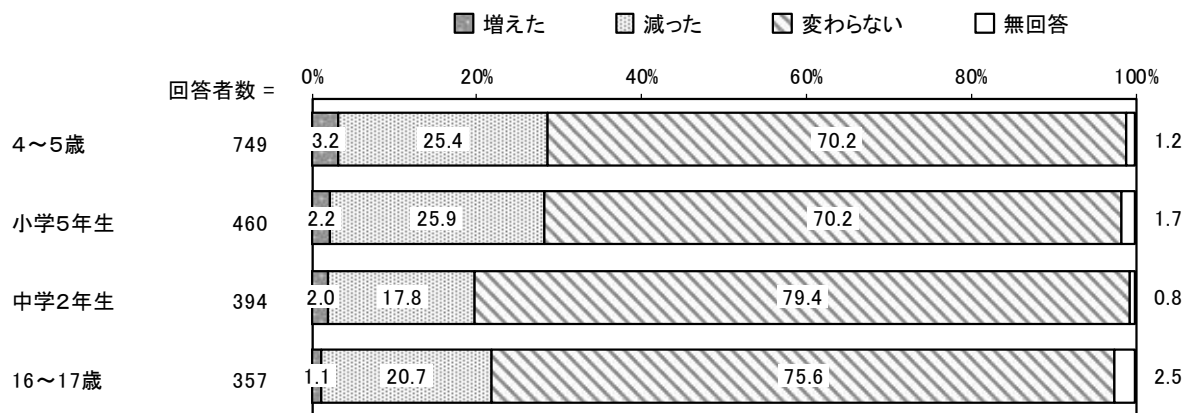
一方、『⑥ あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと』で「増えた」の割合が高く、3割半ばとなっています。また、『① 世帯全体の収入の変化』で「減った」の割合が高く、2割半ばとなっています。



① 世帯全体の収入の変化

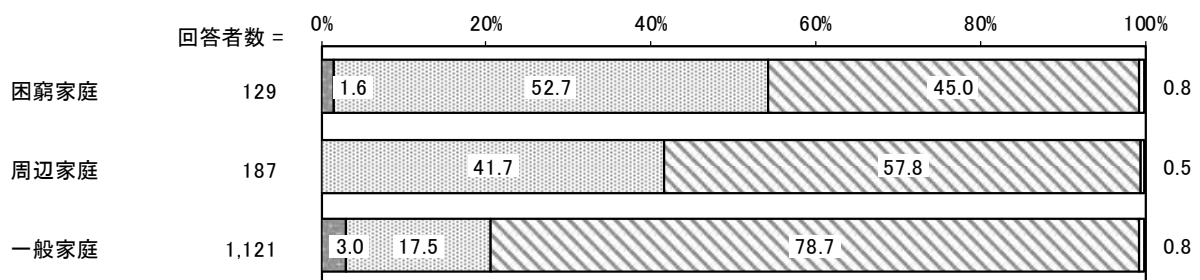
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、中学2年生で「変わらない」の割合が高くなっています。



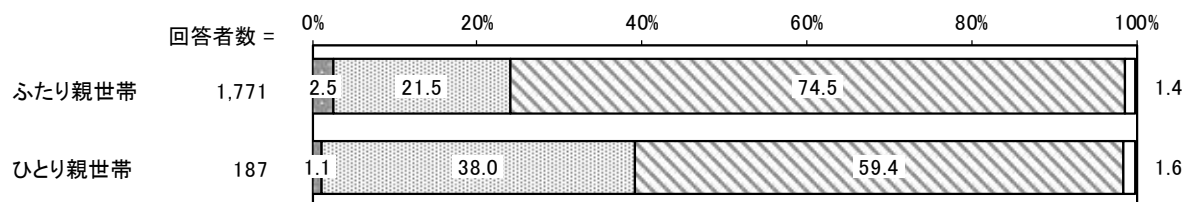
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

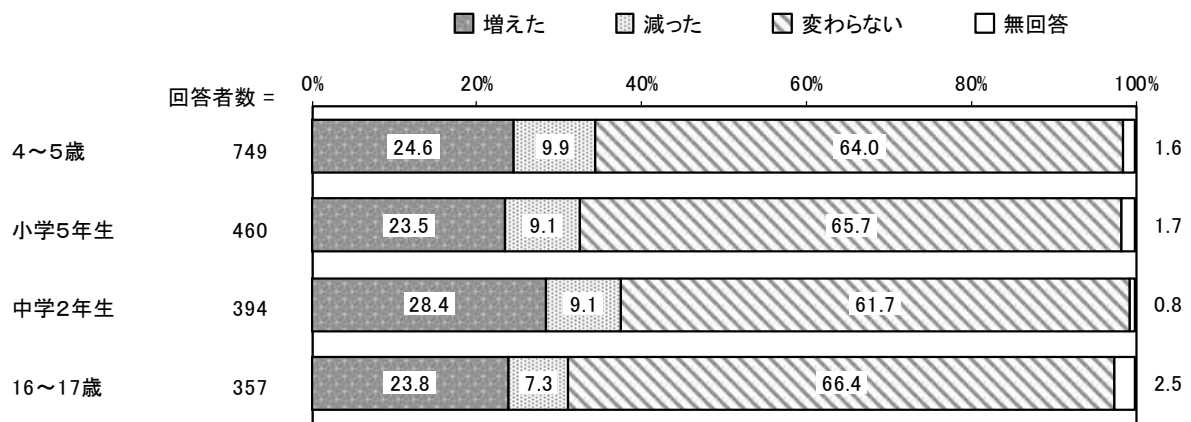
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



② 生活に必要な支出の変化

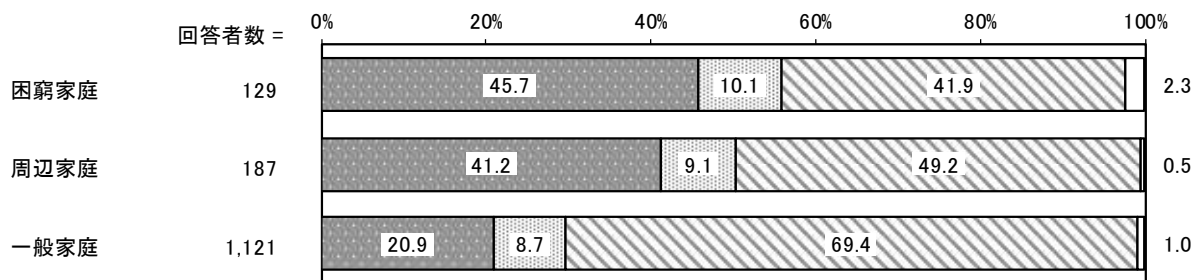
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



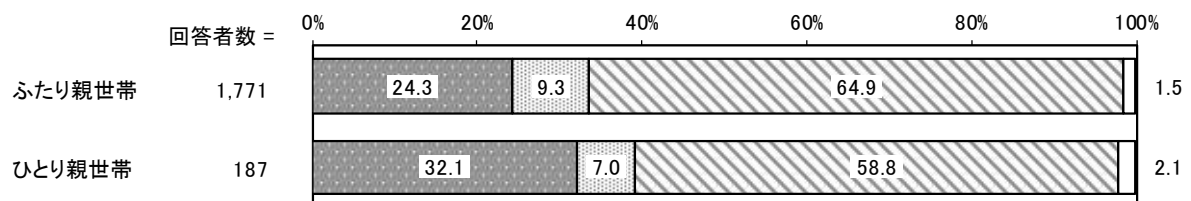
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

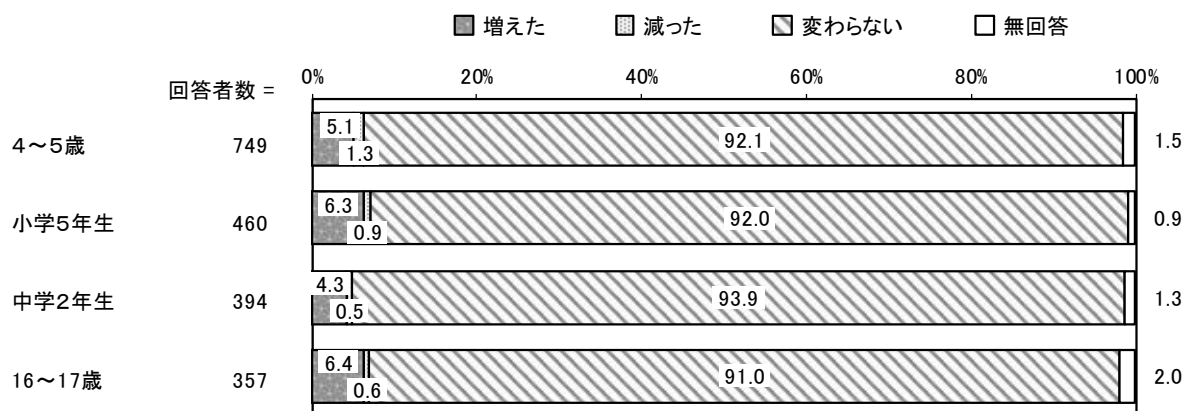
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



③ お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

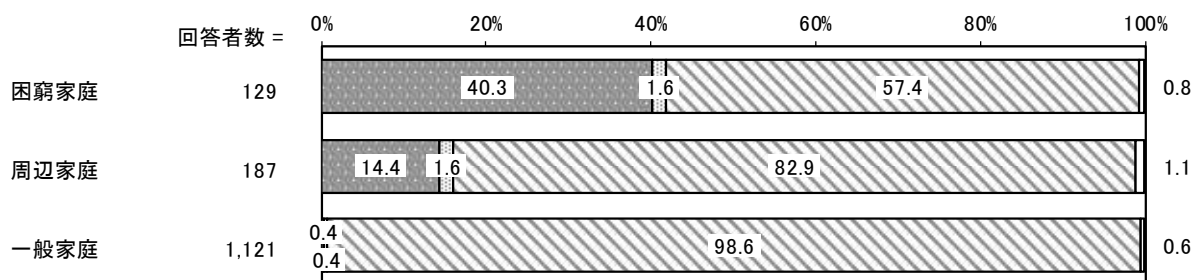
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



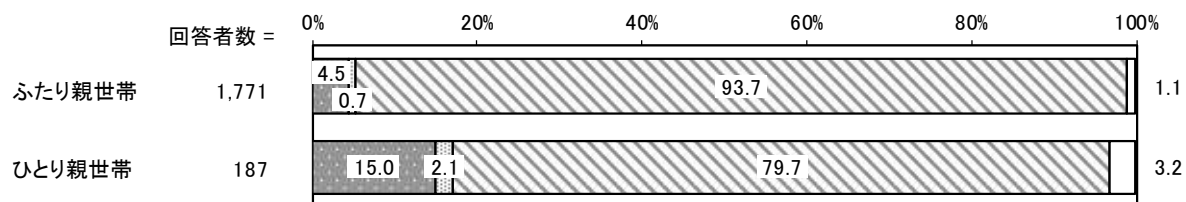
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

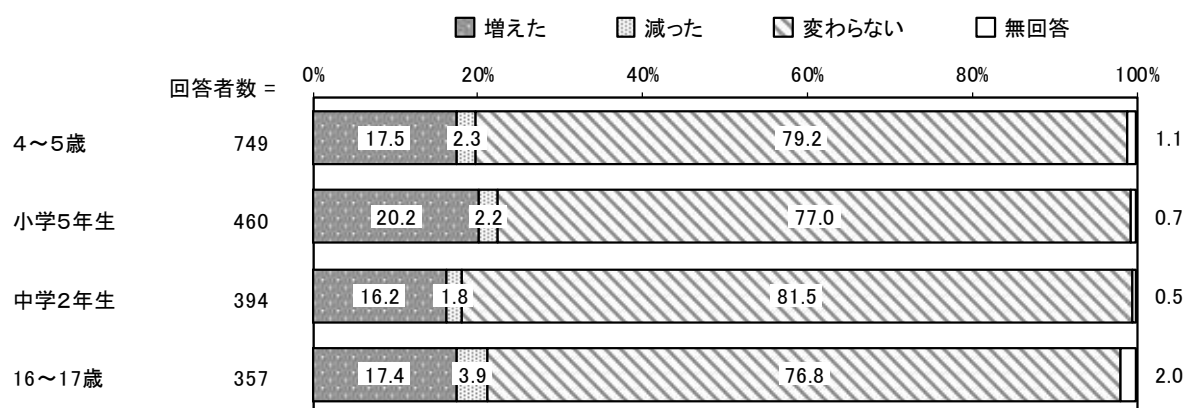
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



④ お子さんと話をすること

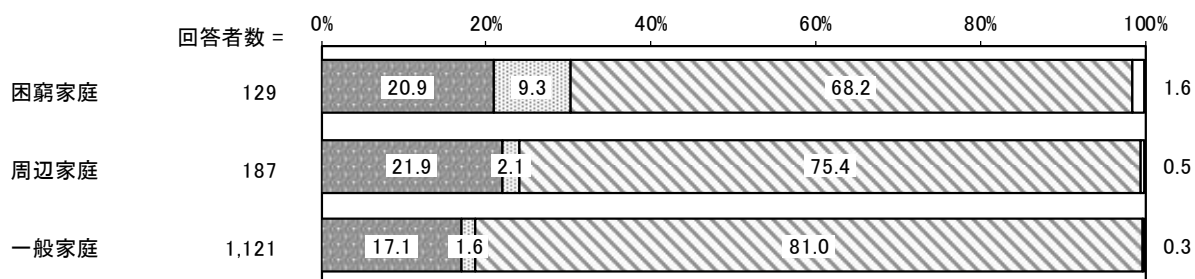
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



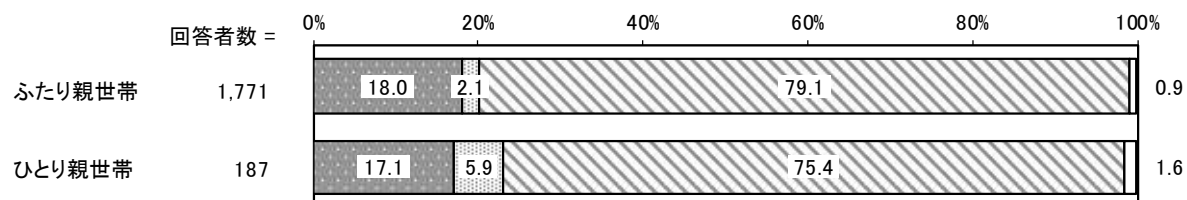
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が、困窮家庭で「減った」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

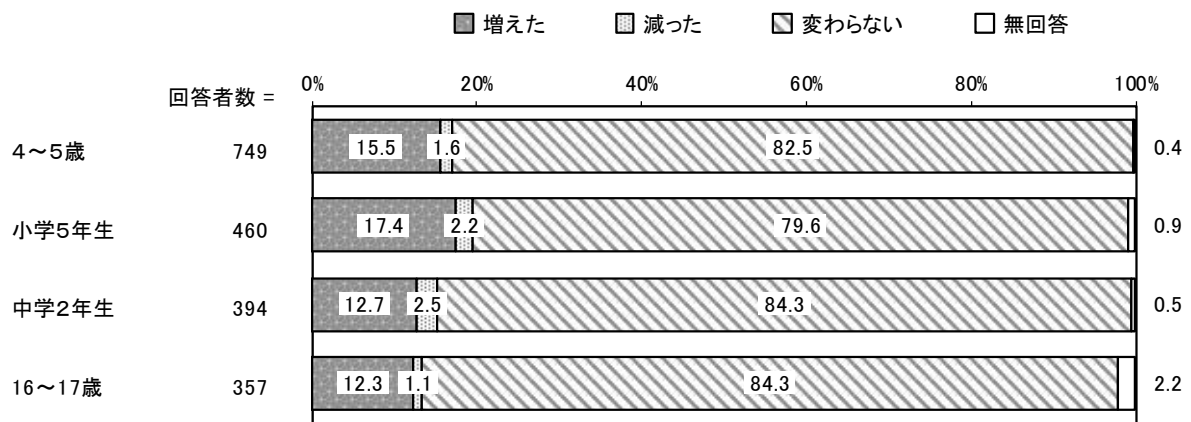
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑤ 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

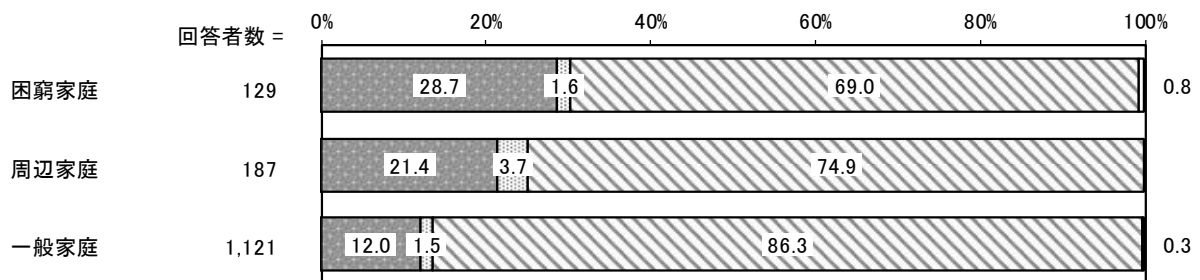
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、他に比べ、小学5年生で「増えた」の割合が高くなっています。



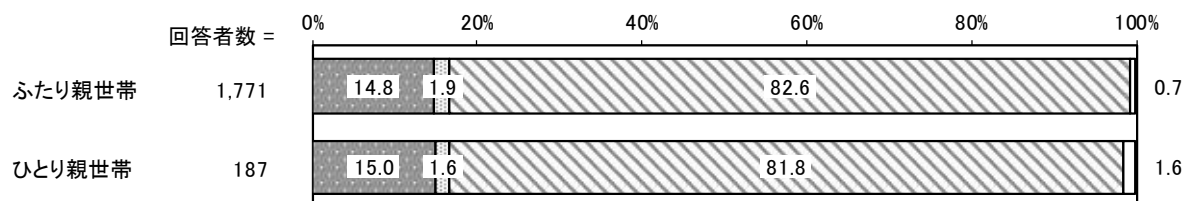
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

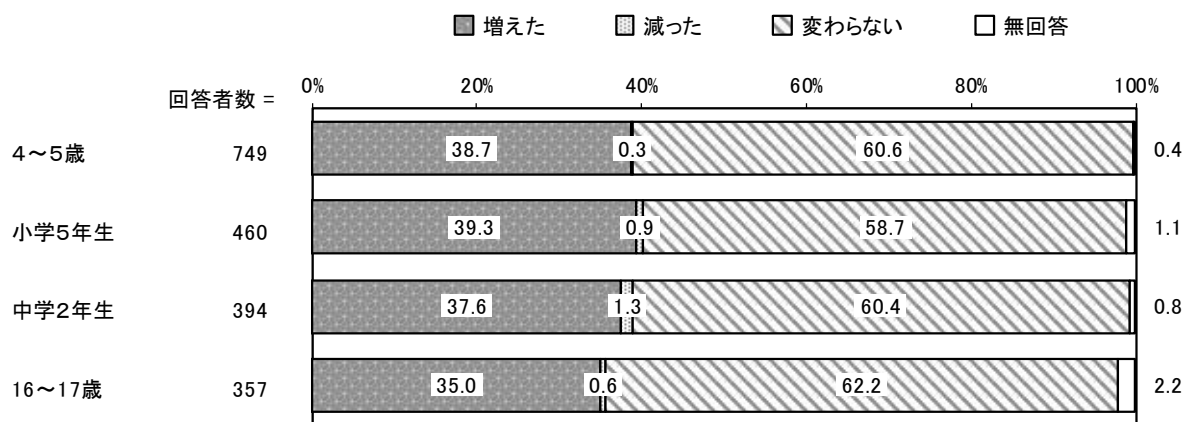
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑥ あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

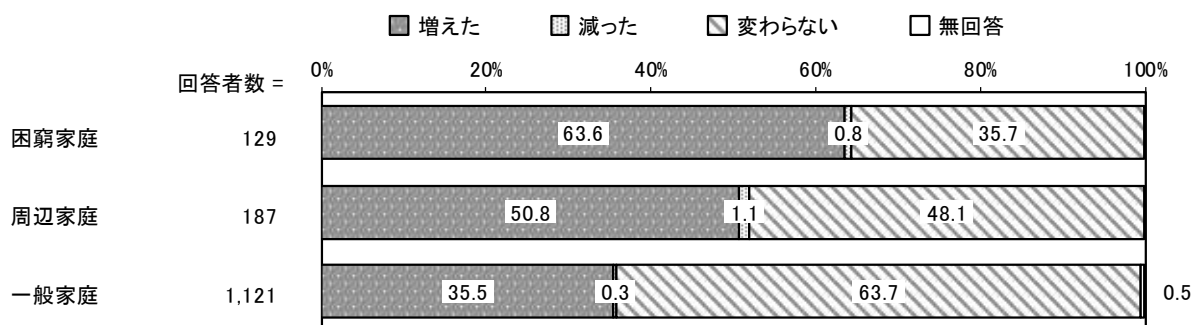
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



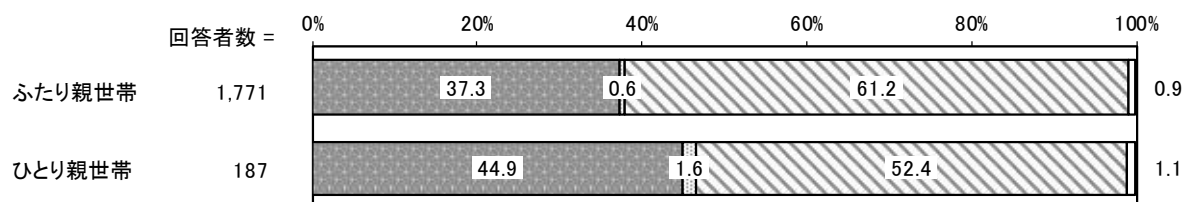
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



(6) 公的支援の利用状況について

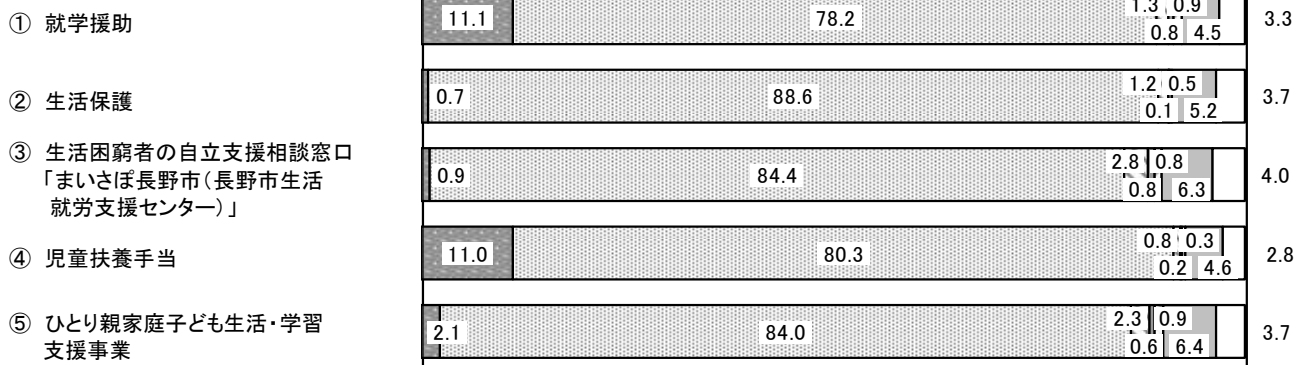
問 24 あなたのご家庭では、次の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
(①～⑤それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

すべての項目で「制度の対象外(収入などの条件を満たさない)だと思うから」の割合が最も高くなっています。

また、『① 就学援助』『④ 児童扶養手当』で「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が1割を超えています。

- 現在利用している・以前利用したことがある
- 制度の対象外(収入などの条件を満たさない)だと思うから
- 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- それ以外の理由
- 無回答

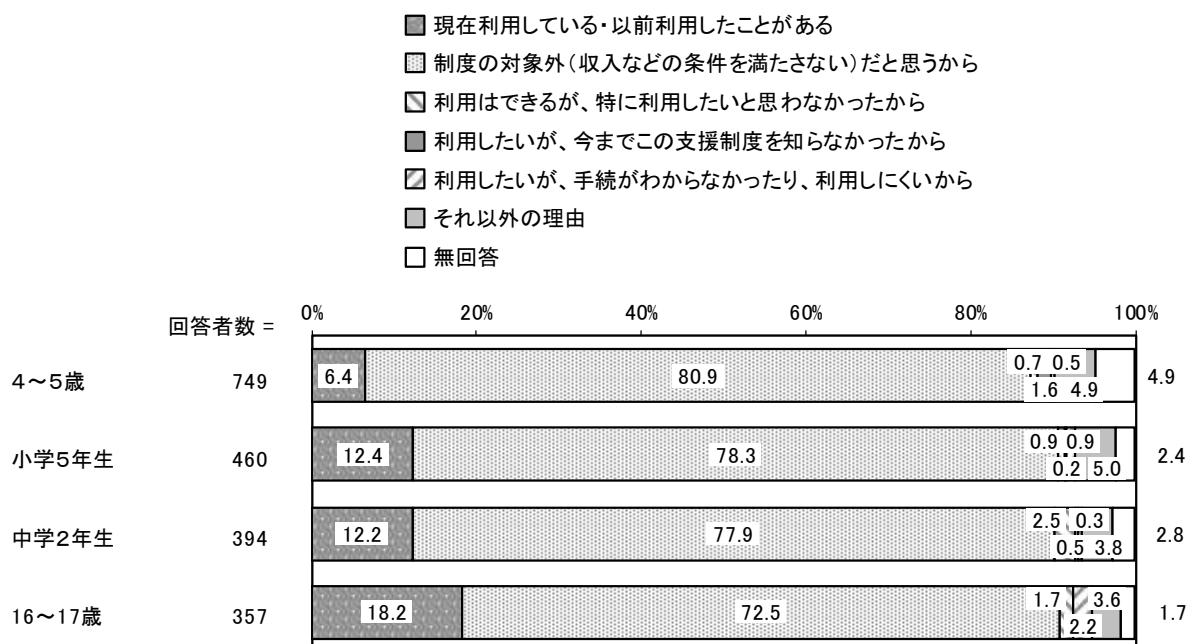
全 体
回答者数 = 1,966



① 就学援助

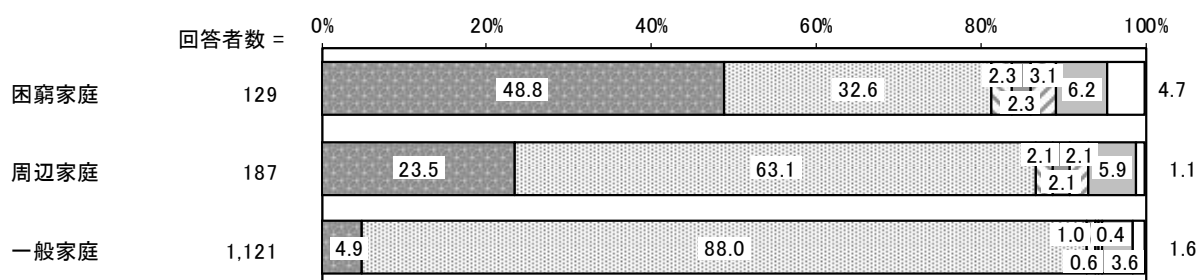
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が低くなる傾向がみられます。また、他に比べ、16～17歳で「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が高くなっています。



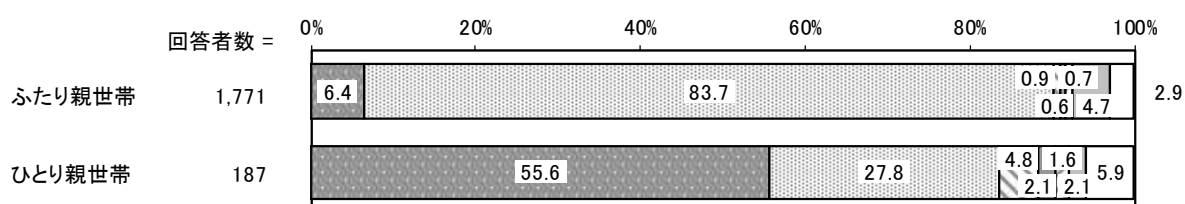
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が、一般家庭で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

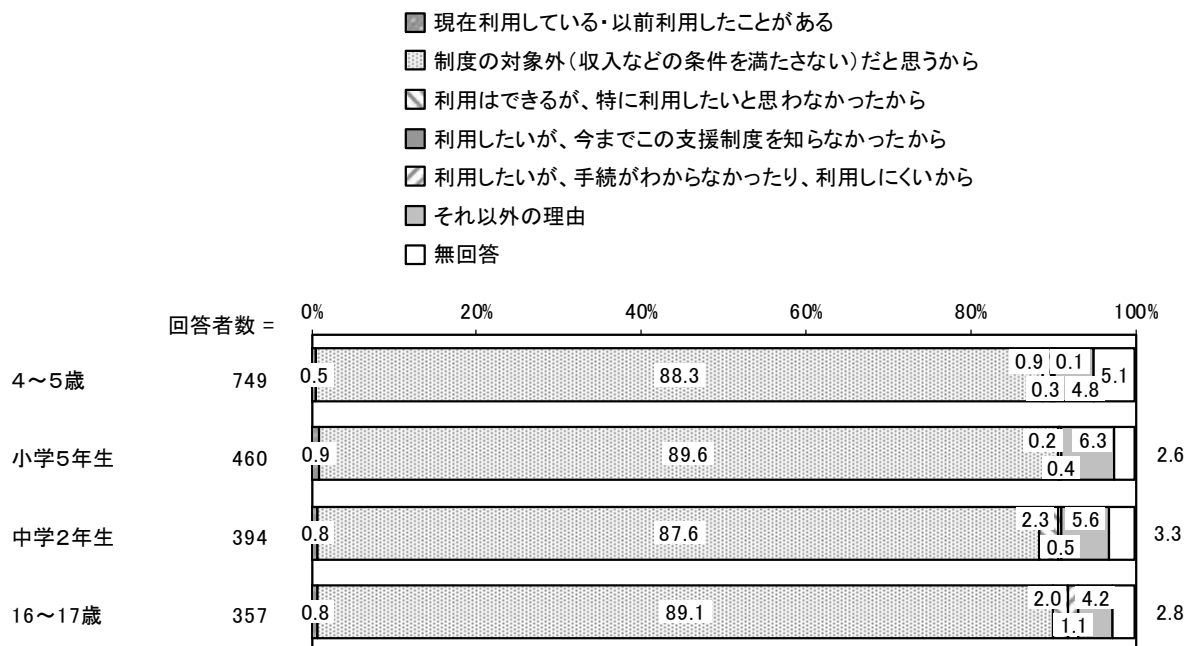
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が高くなっています。



② 生活保護

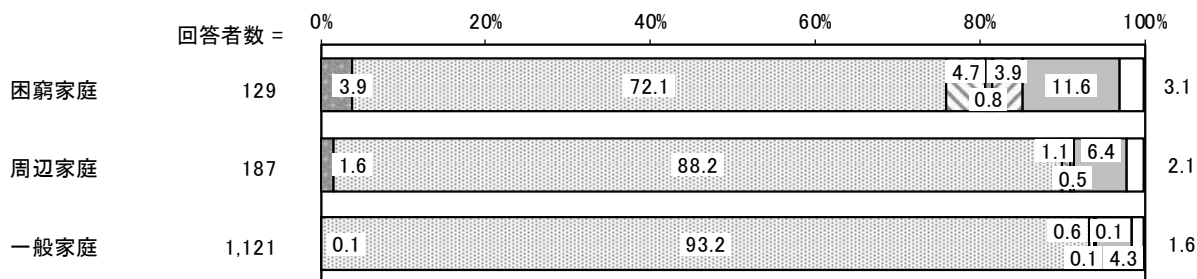
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



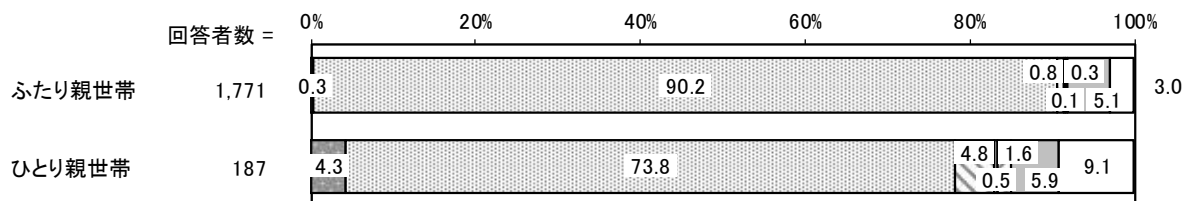
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が、困窮家庭で「それ以外の理由」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

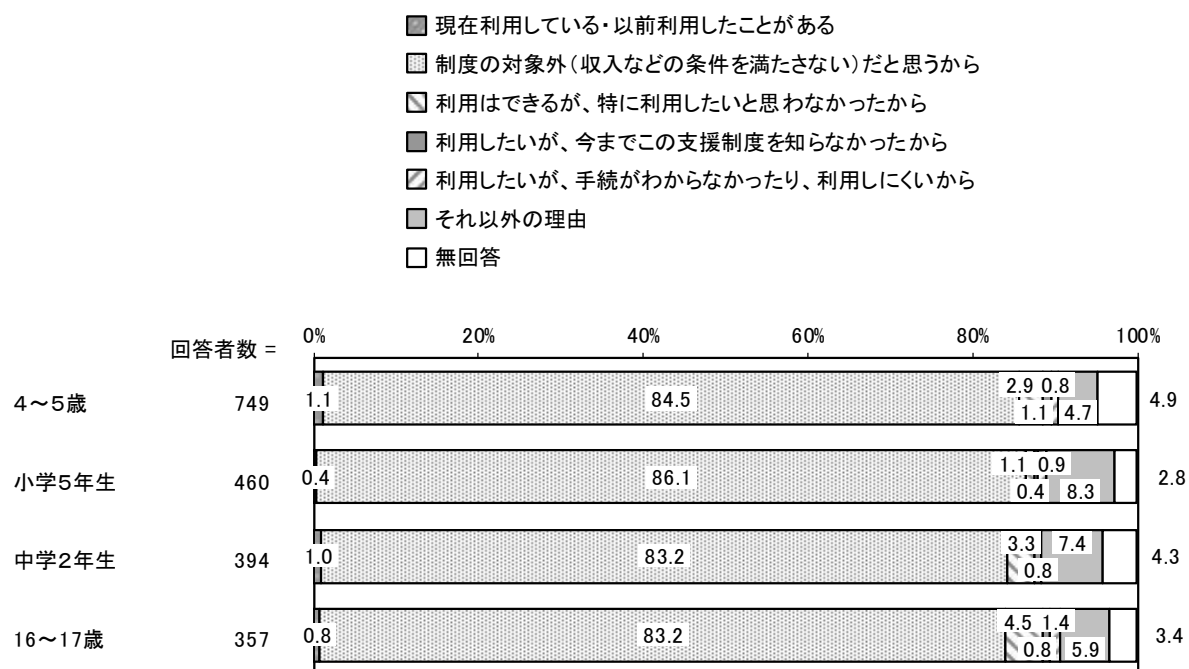
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が高くなっています。



③ 生活困窮者の自立支援相談窓口「まいさぽ長野市（長野市生活就労支援センター）」

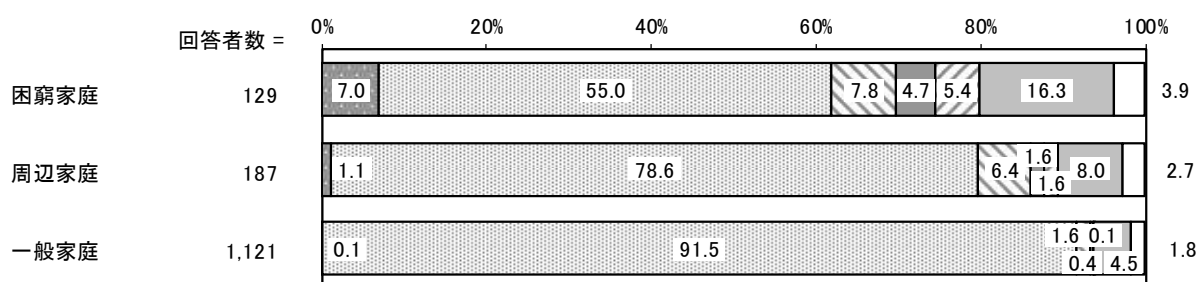
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



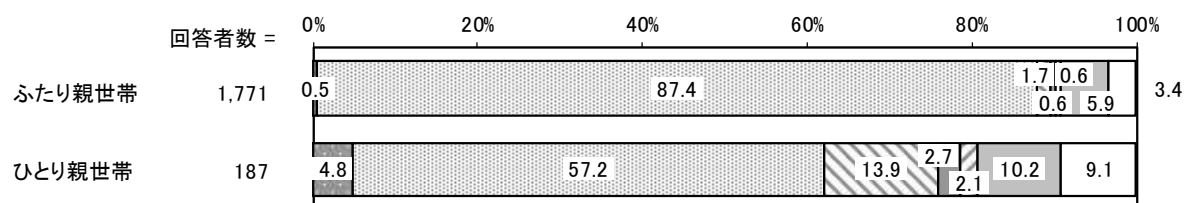
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「現在利用している・以前利用したことがある」「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」「それ以外の理由」の割合が、一般家庭で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

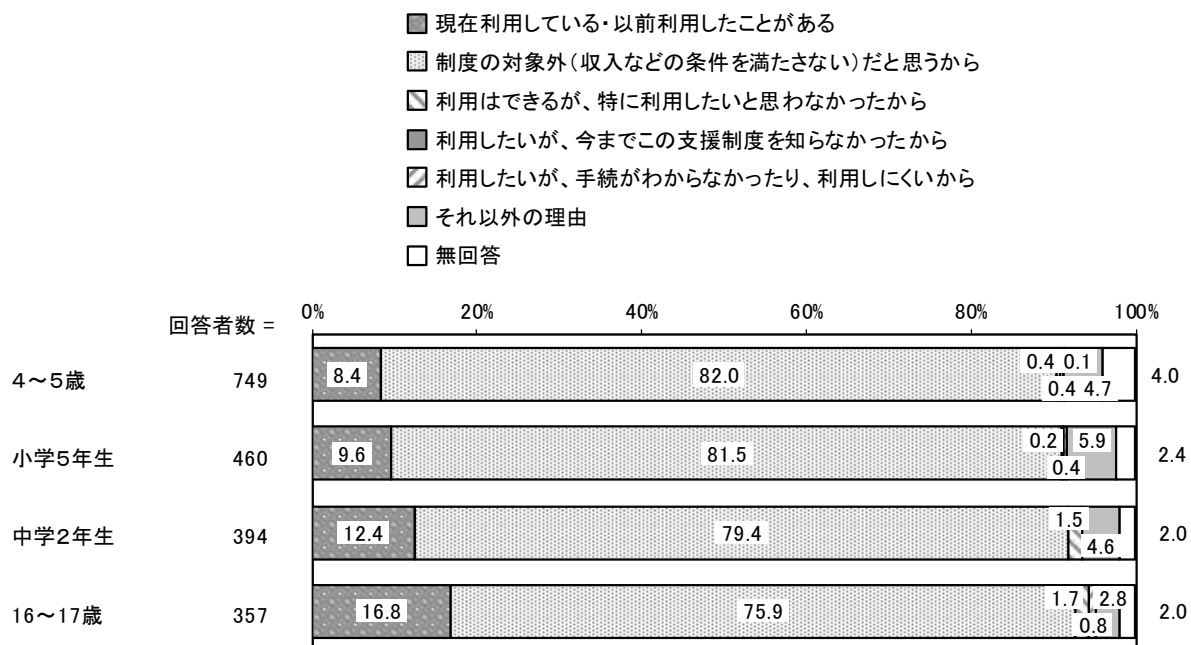
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「現在利用している・以前利用したことがある」「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」の割合が高くなっています。



④ 児童扶養手当

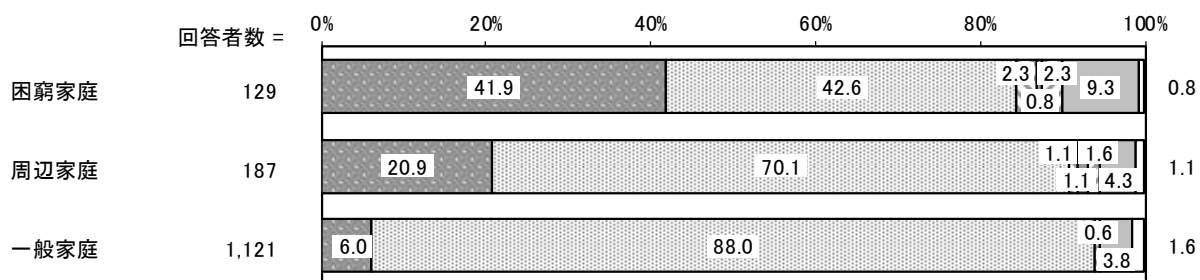
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が、子どもの年代が低くなるにつれ「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなる傾向がみられます。



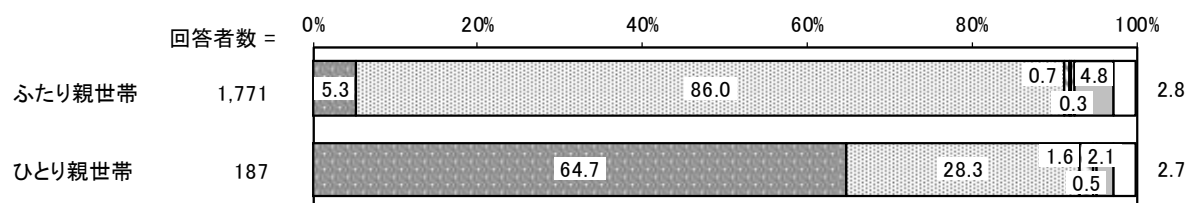
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「現在利用している・以前利用したことがある」「それ以外の理由」の割合が、一般家庭で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

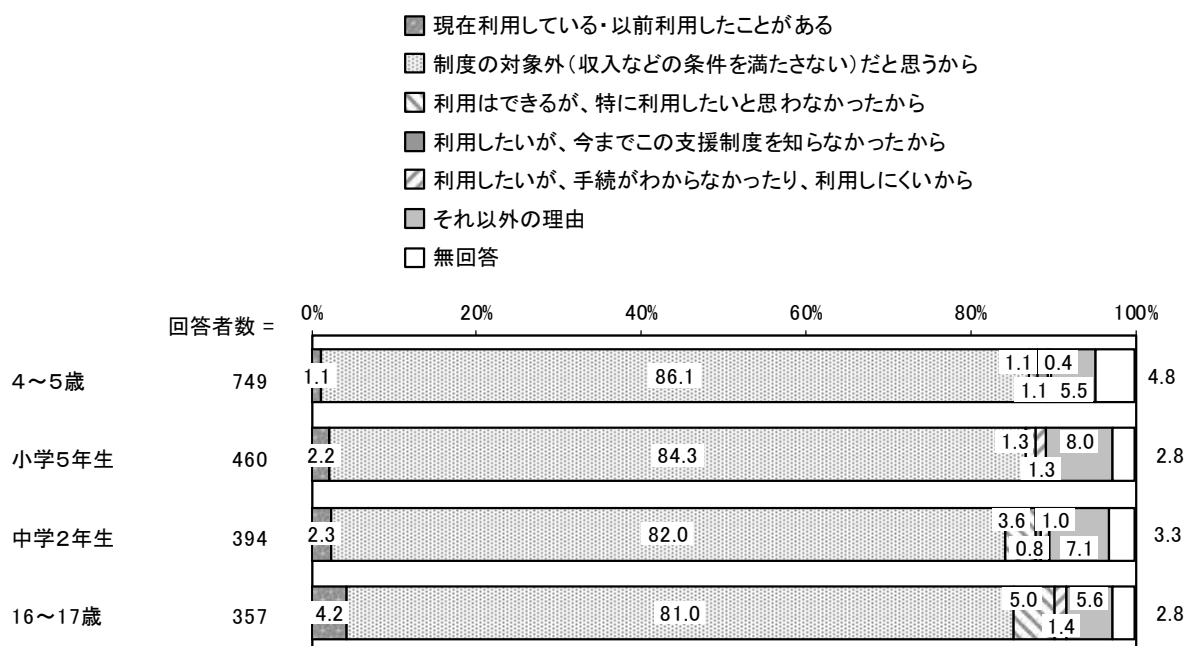
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「現在利用している・以前利用したことがある」の割合が高くなっています。



⑤ ひとり親家庭子ども生活・学習支援事業

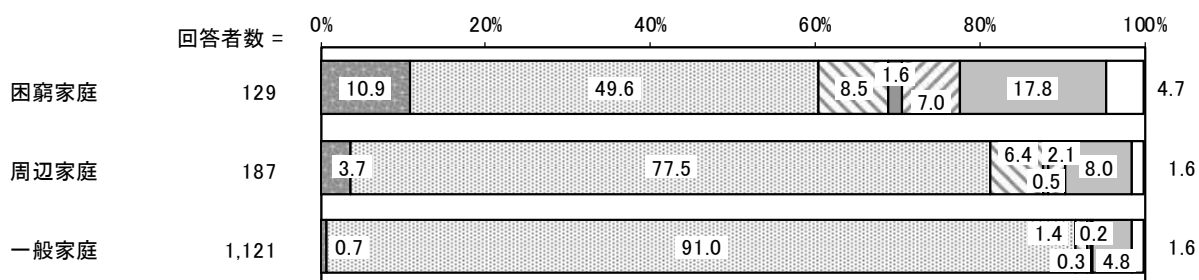
【子どもの年代別】

子どもの年代別でみると、大きな差異はみられません。



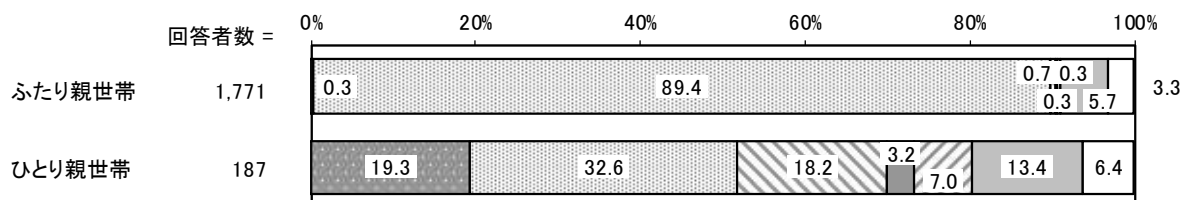
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「現在利用している・以前利用したことがある」「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」「それ以外の理由」の割合が、一般家庭で「制度の対象外(収入などの条件を満たさない) だと思うから」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「制度の対象外(収入などの条件を満たさない) だと思うから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「現在利用している・以前利用したことがある」「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」「それ以外の理由」の割合が高くなっています。



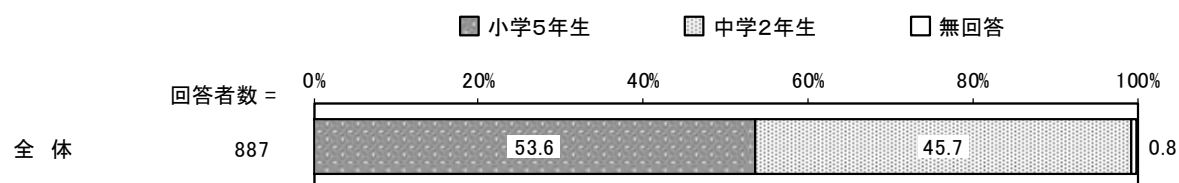
2 小学5年生、中学2年生

(1) 回答者属性

問1 あなたの学年と性別を教えてください。
(①②それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

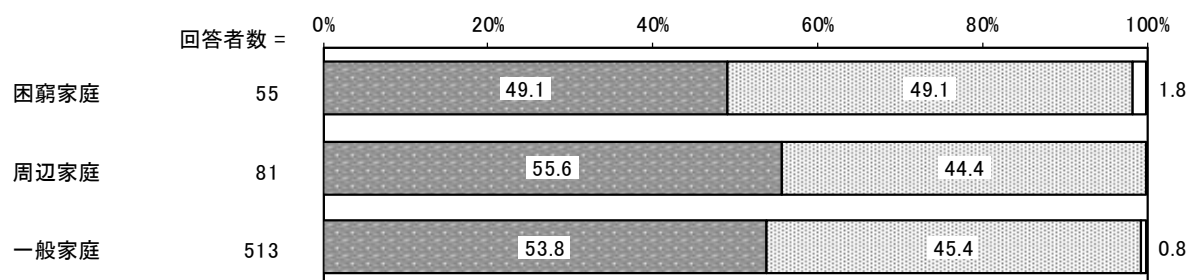
①学年

「小学5年生」が53.6%、「中学2年生」が45.7%となっています。



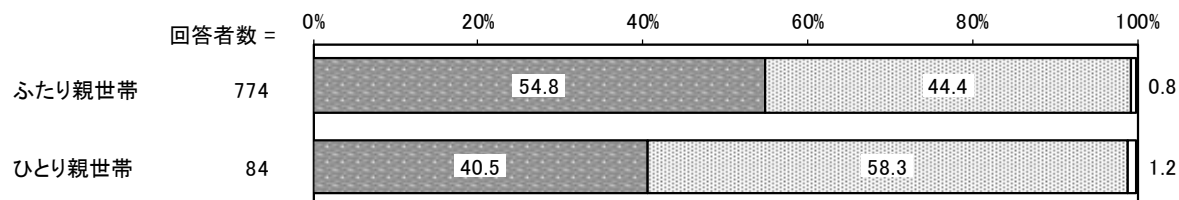
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、困窮家庭で「小学5年生」「中学2年生」がどちらも49.1%、周辺家庭で「小学5年生」が55.6%、「中学2年生」が44.4%、周辺家庭で「小学5年生」が53.8%、「中学2年生」が45.4%となっています。



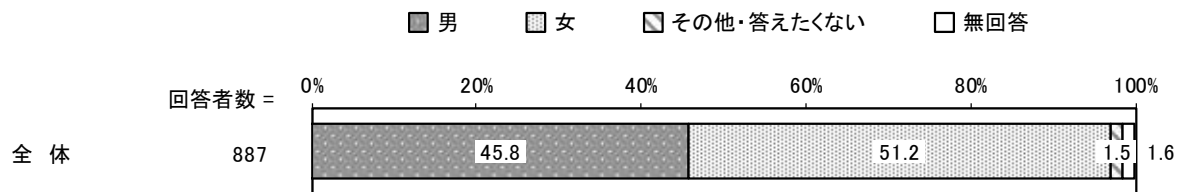
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯で「小学5年生」が54.8%、「中学2年生」が44.4%、ひとり親世帯で「小学5年生」が40.5%、「中学2年生」が58.3%となっています。



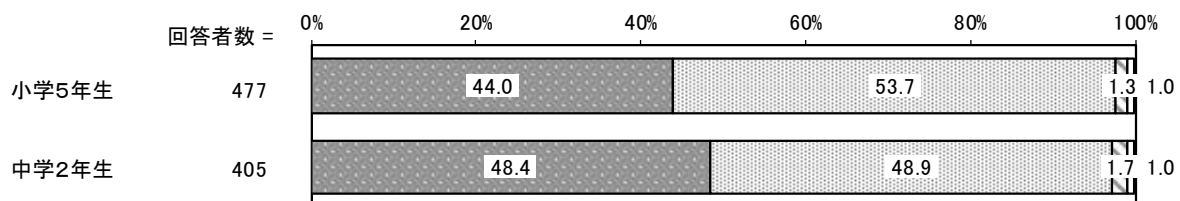
②性別

「男」が45.8%、「女」が51.2%、「その他・答えたくない」が1.5%となっています。



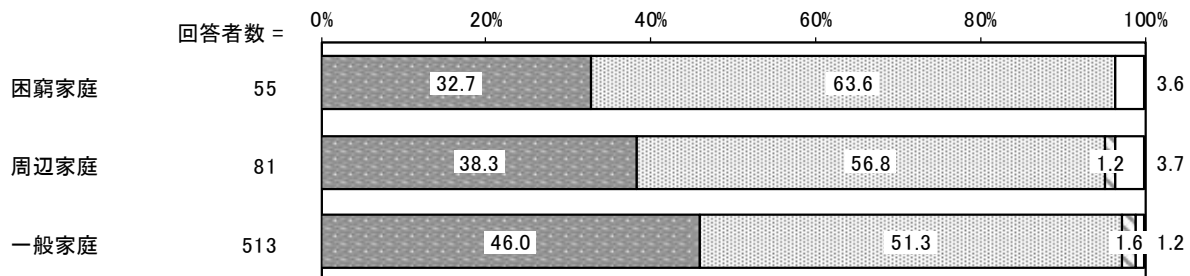
【学年別】

学年別でみると、小学5年生で「男」が44.0%、「女」が53.7%、中学2年生で「男」が48.4%、「女」48.9%となっています。



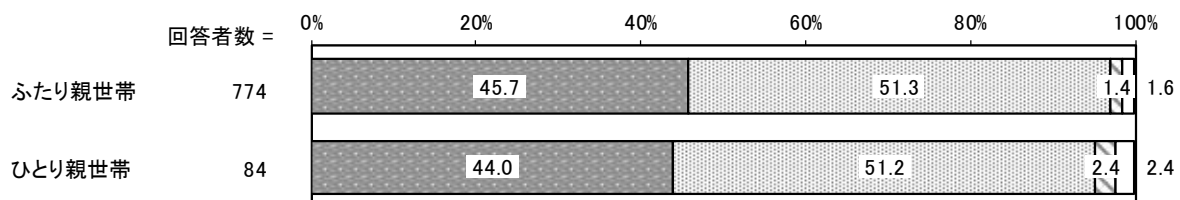
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、困窮家庭で「男」が32.7%、「女」が63.6%、周辺家庭で「男」が38.3%、「女」が56.8%、一般家庭で「男」が46.0%、「女」が51.3%となっています。



【世帯状況別】

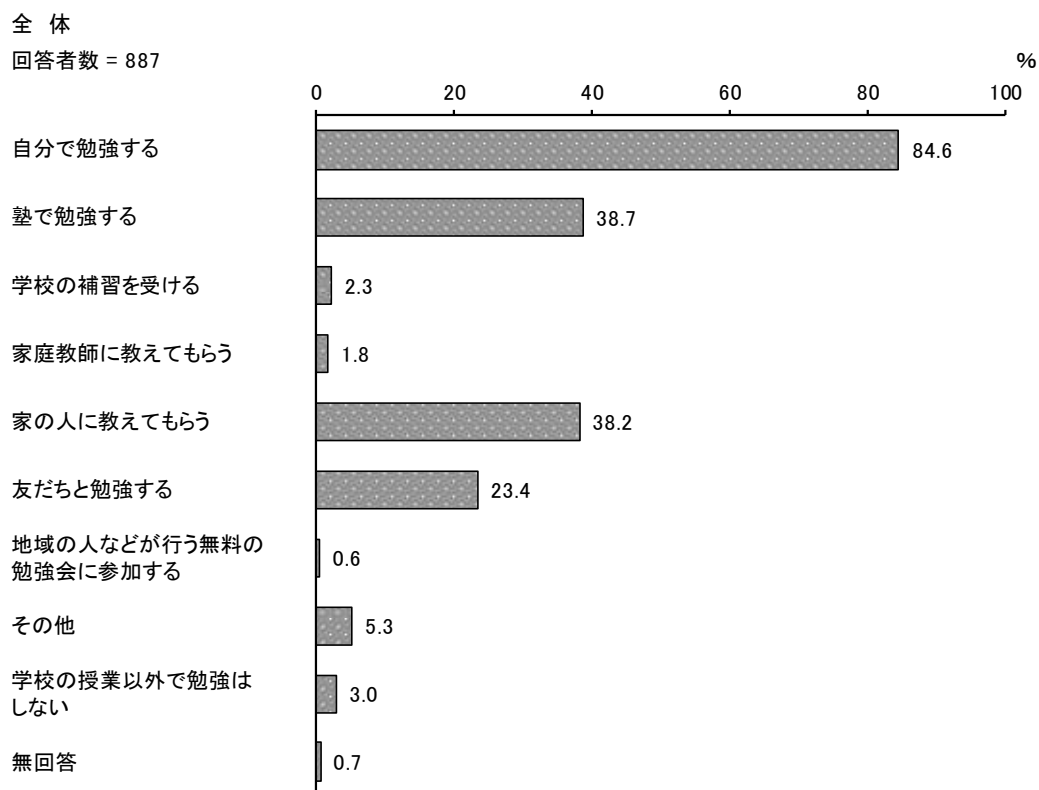
世帯状況別でみると、ふたり親世帯で「男」が45.7%、「女」が51.3%、ひとり親世帯で「男」が44.0%、「女」が51.2%となっています。



(2) 学校のことや勉強のことについて

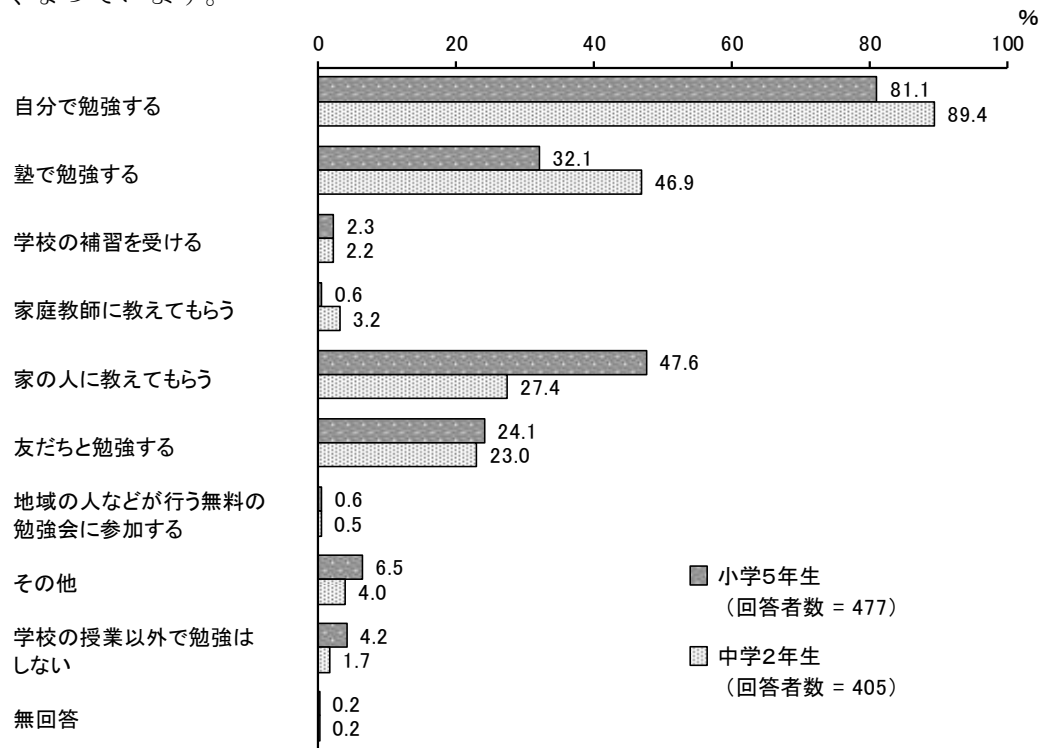
問2 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題もふくみます。(あてはまる番号すべてに○)

「自分で勉強する」の割合が 84.6%と最も高く、次いで「塾で勉強する」の割合が 38.7%、「家の人に教えてもらう」の割合が 38.2%となっています。



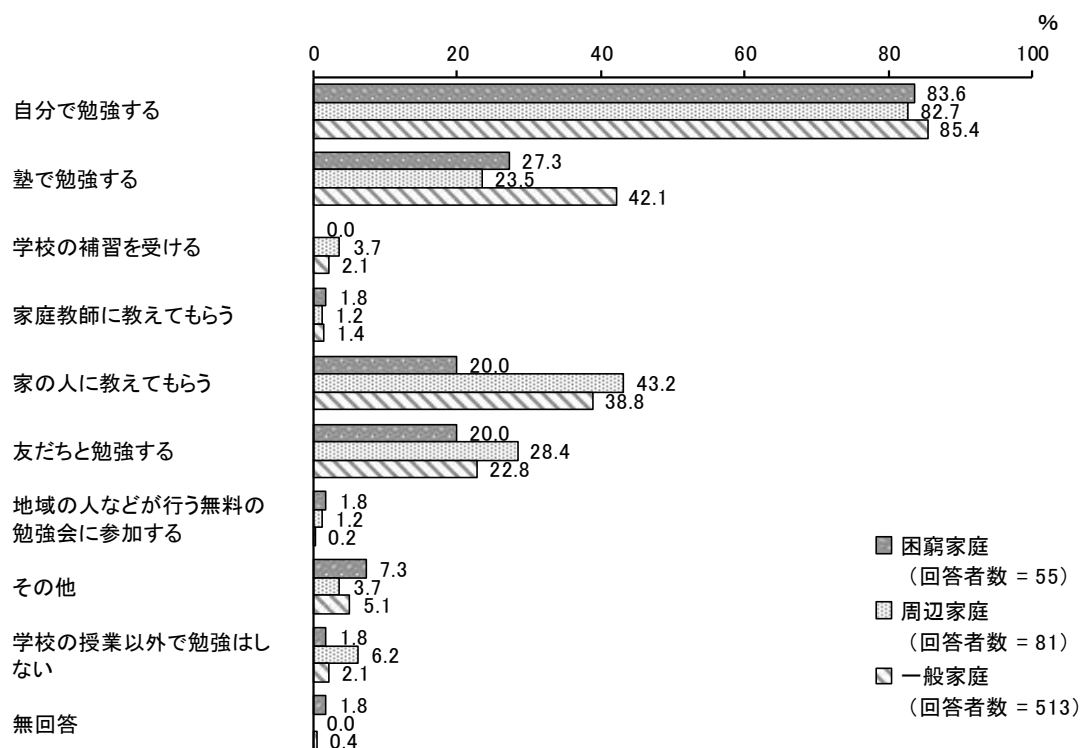
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「家の人に教えてもらう」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「自分で勉強する」「塾で勉強する」の割合が高くなっています。



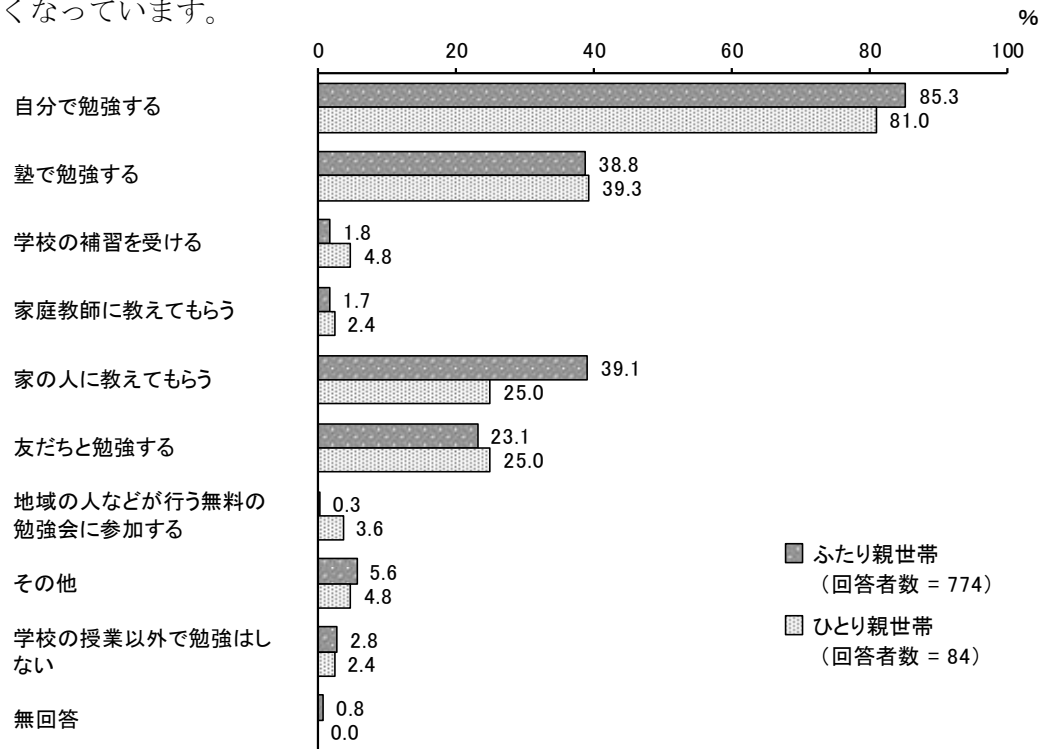
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「塾で勉強する」の割合が、周辺家庭で「家の人に教えてもらう」「友だちと勉強する」「学校の授業以外で勉強はしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

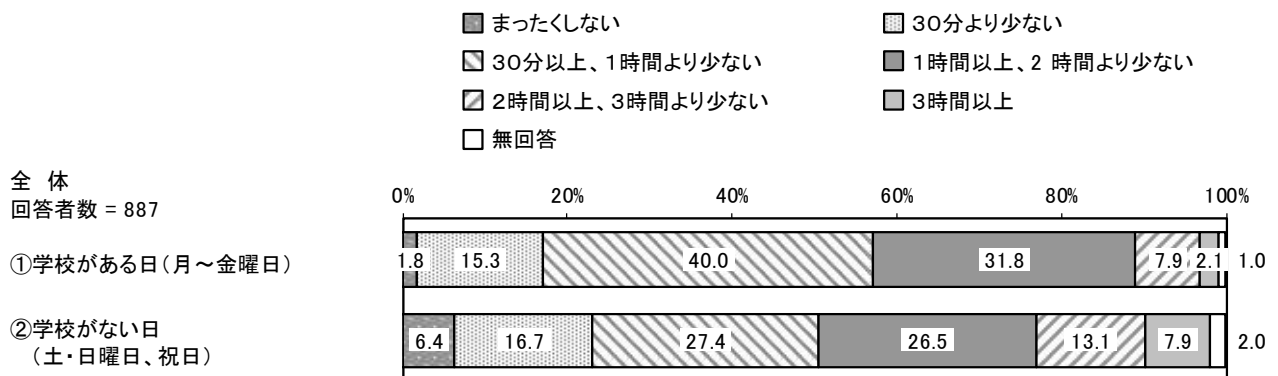
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「家の人に教えてもらう」の割合が高くなっています。



問3 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。
(①②それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

学校がある日（月～金曜日）では、「30分以上、1時間より少ない」の割合が40.0%と最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」の割合が31.8%、「30分より少ない」の割合が15.3%となっています。

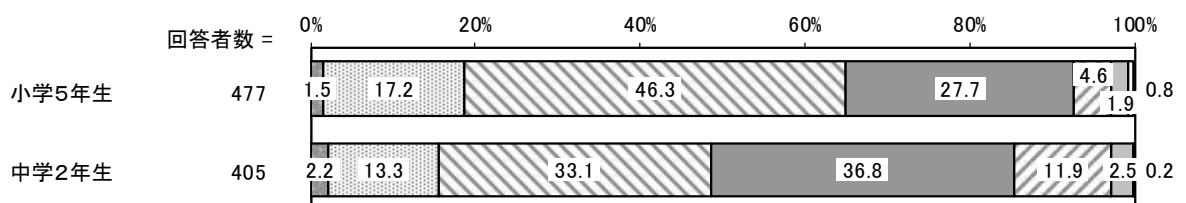
学校がない日（土・日曜日、祝日）では、「30分以上、1時間より少ない」の割合が27.4%と最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」の割合が26.5%、「30分より少ない」の割合が16.7%となっています。



①学校がある日（月～金曜日）

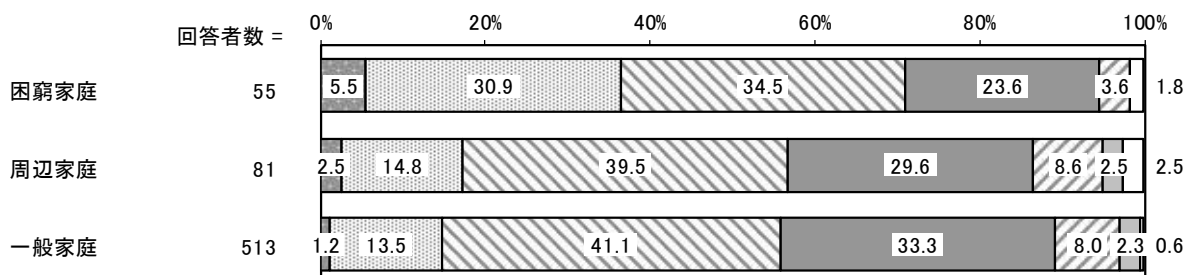
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「30分以上、1時間より少ない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高くなっています。



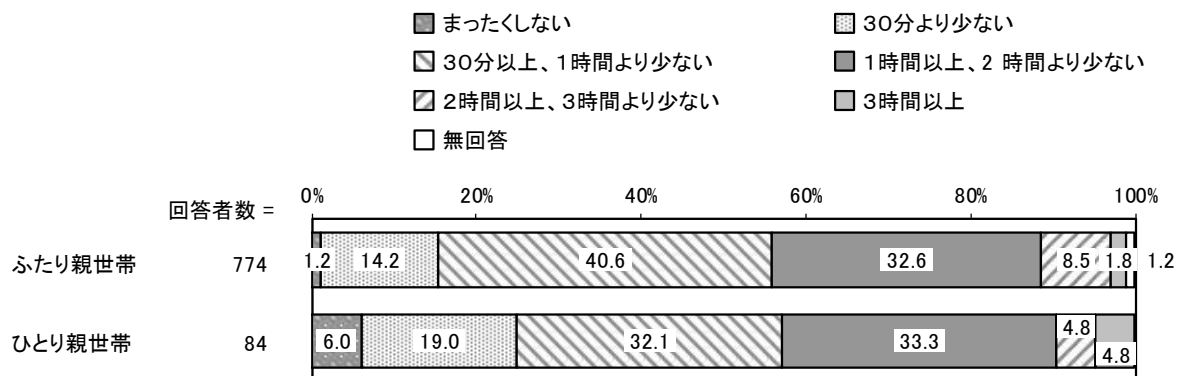
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「まったくしない」「30分より少ない」の割合が、一般家庭で「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

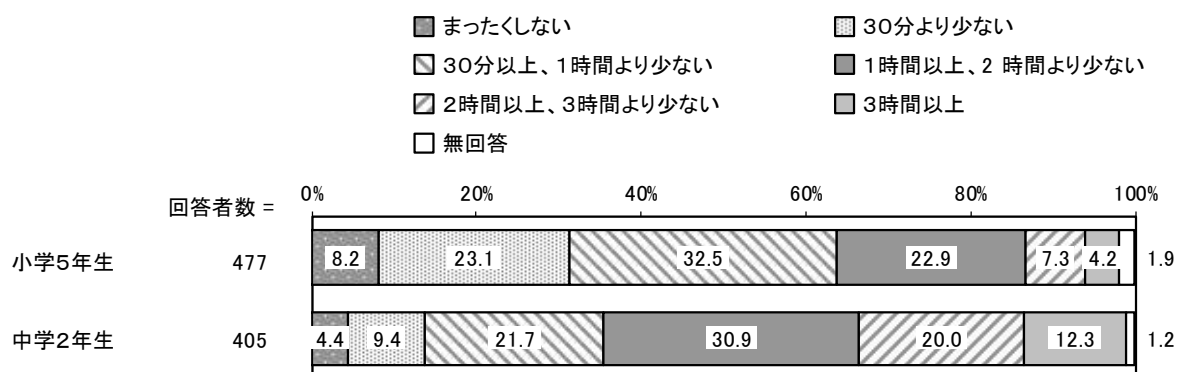
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「30分以上、1時間より少ない」の割合が高くなっています。



②学校がない日（土・日曜日、祝日）

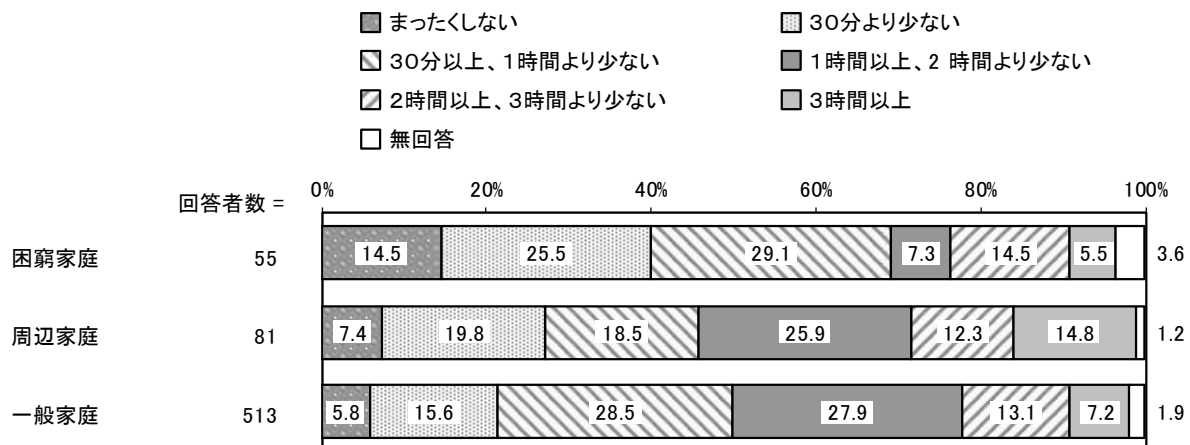
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」の割合が高くなっています。



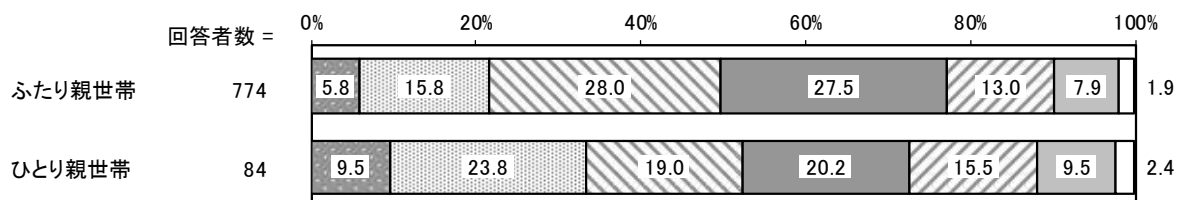
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「まったくしない」「30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」の割合が、一般家庭で「1時間以上、2時間より少ない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「3時間以上」の割合が高くなっています。



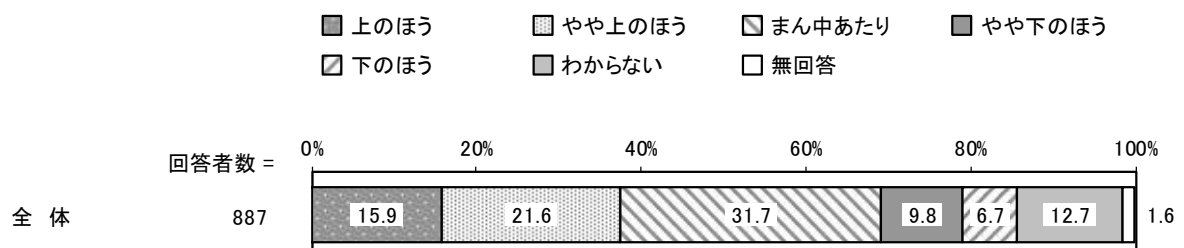
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「30分より少ない」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」の割合が高くなっています。



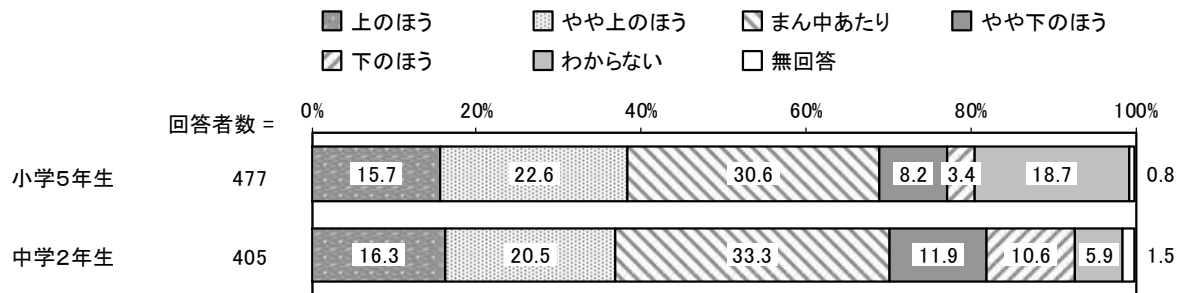
問4 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。 (あてはまる番号1つに○)

「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合が37.5%、「まん中あたり」の割合が31.7%、「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が16.5%となっています。



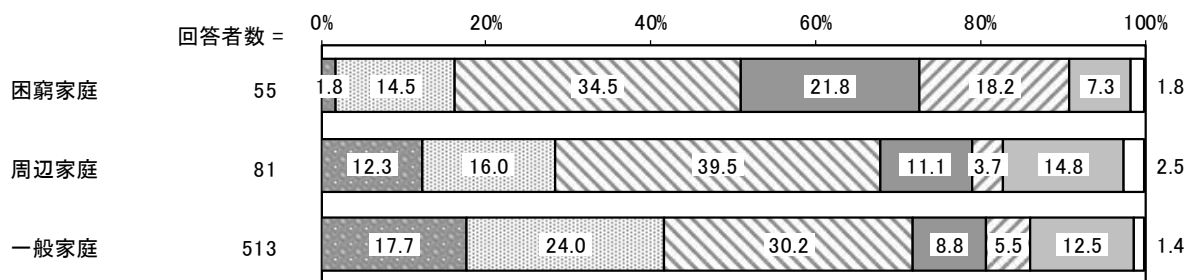
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「下のほう」の割合が高くなっています。また、中学2年生に比べ、小学5年生で「わからない」の割合が高くなっています。



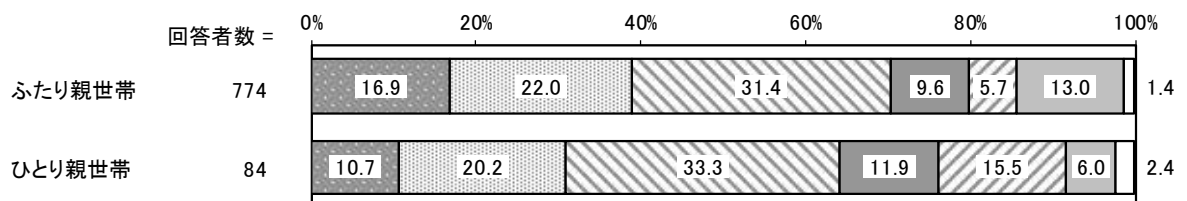
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“上のほう”の割合が、周辺家庭で「まん中あたり」「わからない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で“下のほう”の割合が高くなっています。



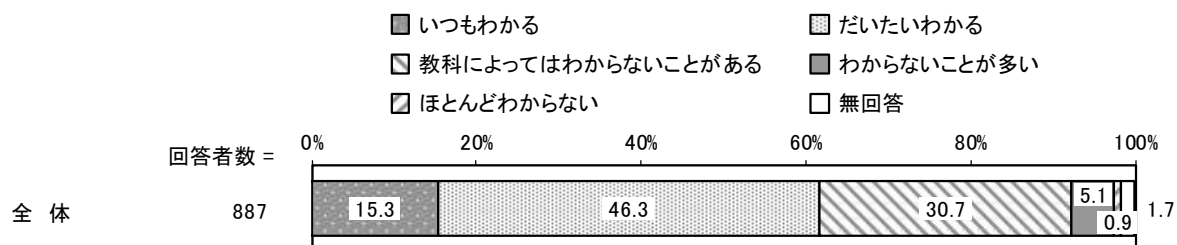
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で“上のほう”の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“下のほう”の割合が高くなっています。



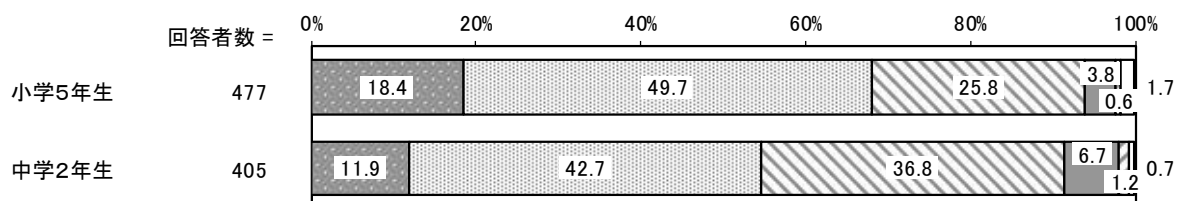
問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。
(あてはまる番号1つに○)

「だいたいわかる」の割合が46.3%と最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」の割合が30.7%、「いつもわかる」の割合が15.3%となっています。



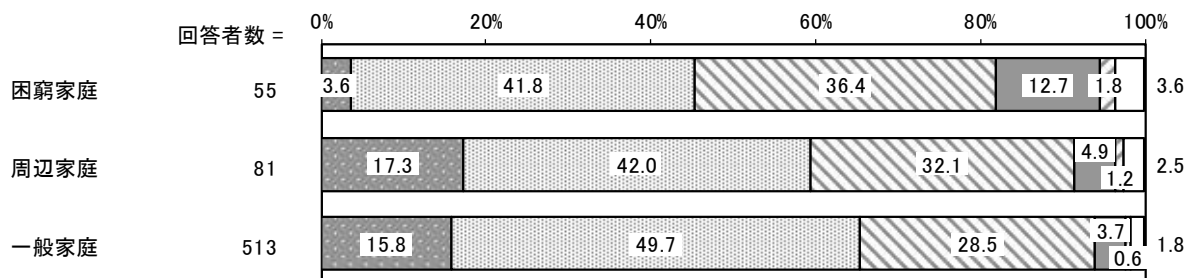
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「いつもわかる」「だいたいわかる」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「教科によってはわからないことがある」の割合が高くなっています。



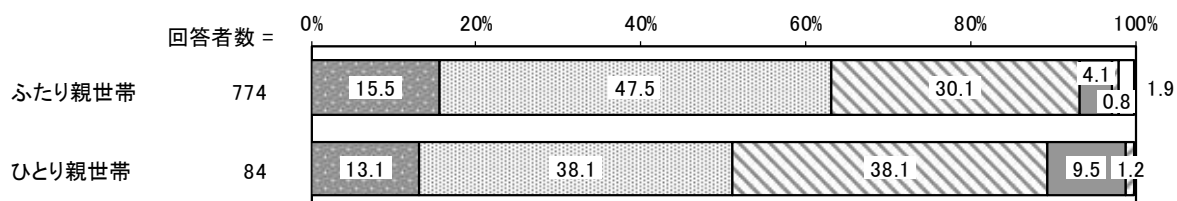
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「いつもわかる」の割合が、一般家庭で「だいたいわかる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」の割合が高くなっています。



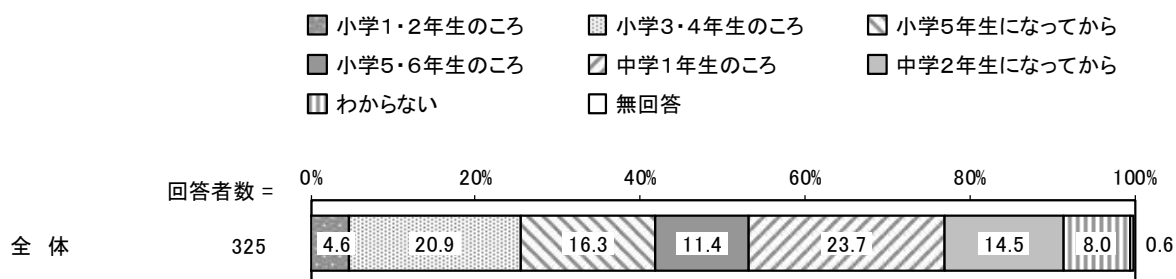
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「だいたいわかる」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」の割合が高くなっています。



問5－1 問5で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人におたずねします。
 いっごろから授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまる番号1つに○)

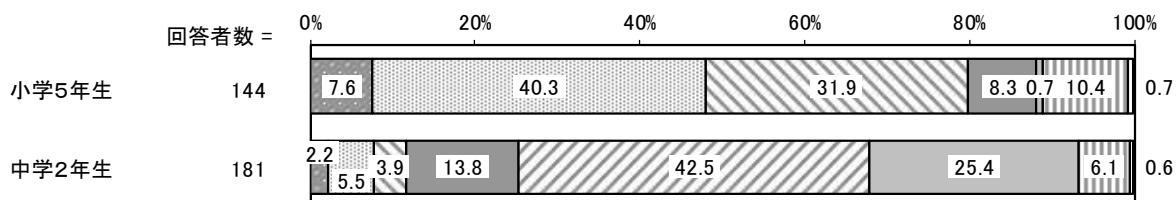
「中学1年生のころ」の割合が23.7%と最も高く、次いで「小学3・4年生のころ」の割合が20.9%、「小学5年生になってから」の割合が16.3%となっています。



【学年別】

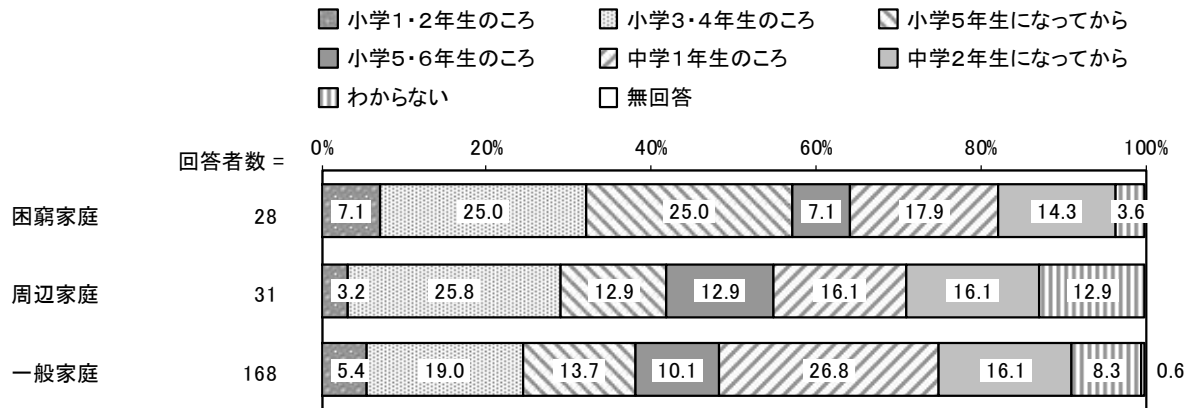
学年別でみると、小学5年生では「小学3・4年生のころ」の割合が40.3%と最も高く、次いで「小学5年生になってから」の割合が31.9%となっています。

中学2年生では「中学1年生のころ」の割合が42.5%と最も高く、次いで「中学2年生になってから」の割合が25.4%、「小学5・6年生のころ」の割合が13.8%となっています。



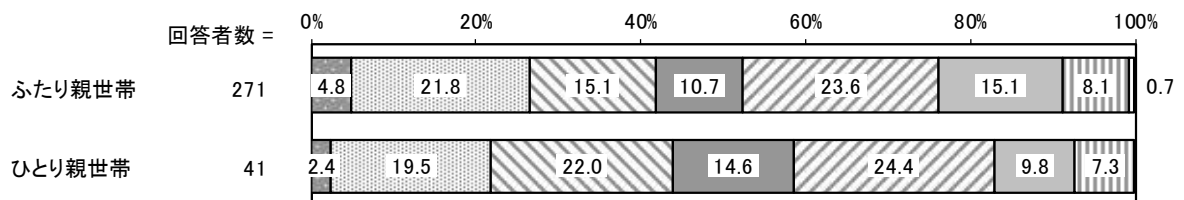
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「小学3・4年生のころ」「小学5年生になってから」の割合が、周辺家庭で「小学3・4年生のころ」「小学5・6年生のころ」「わからない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「中学1年生のころ」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

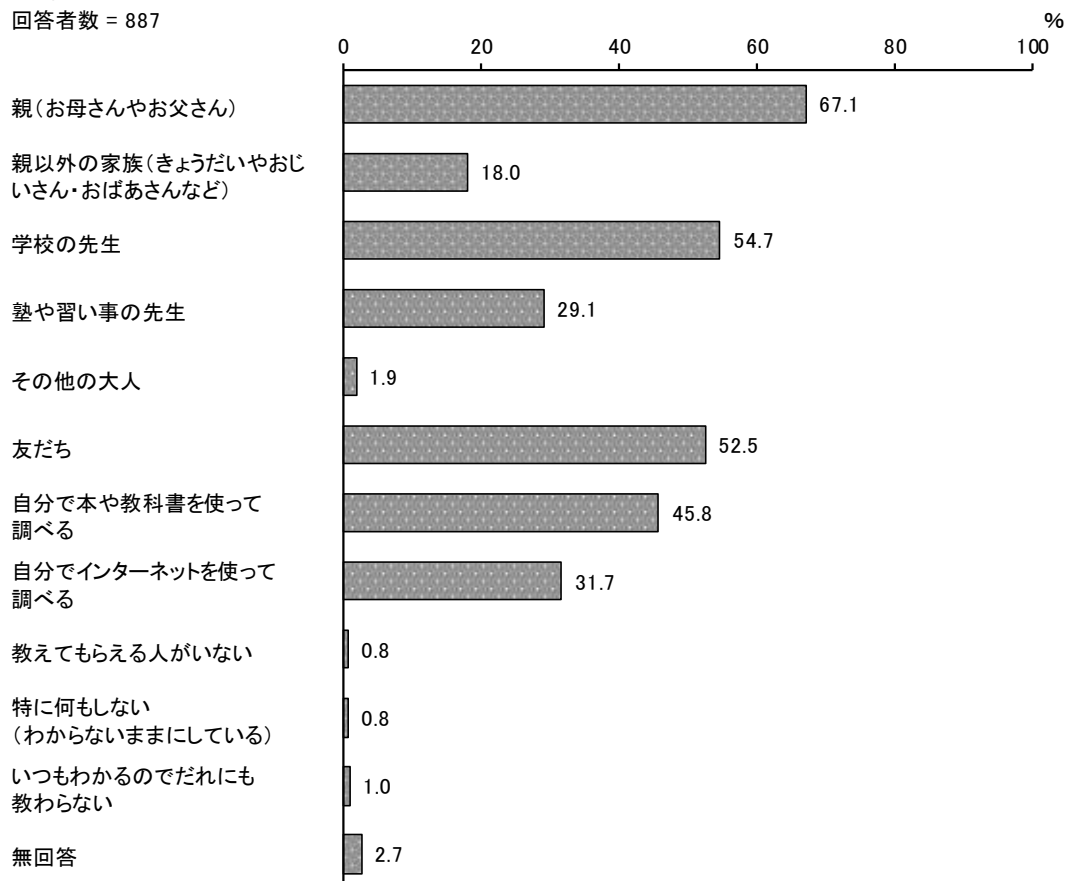
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「中学2年生になってから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「小学5年生になってから」の割合が高くなっています。



問6 あなたは、勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか。
(あてはまる番号すべてに○)

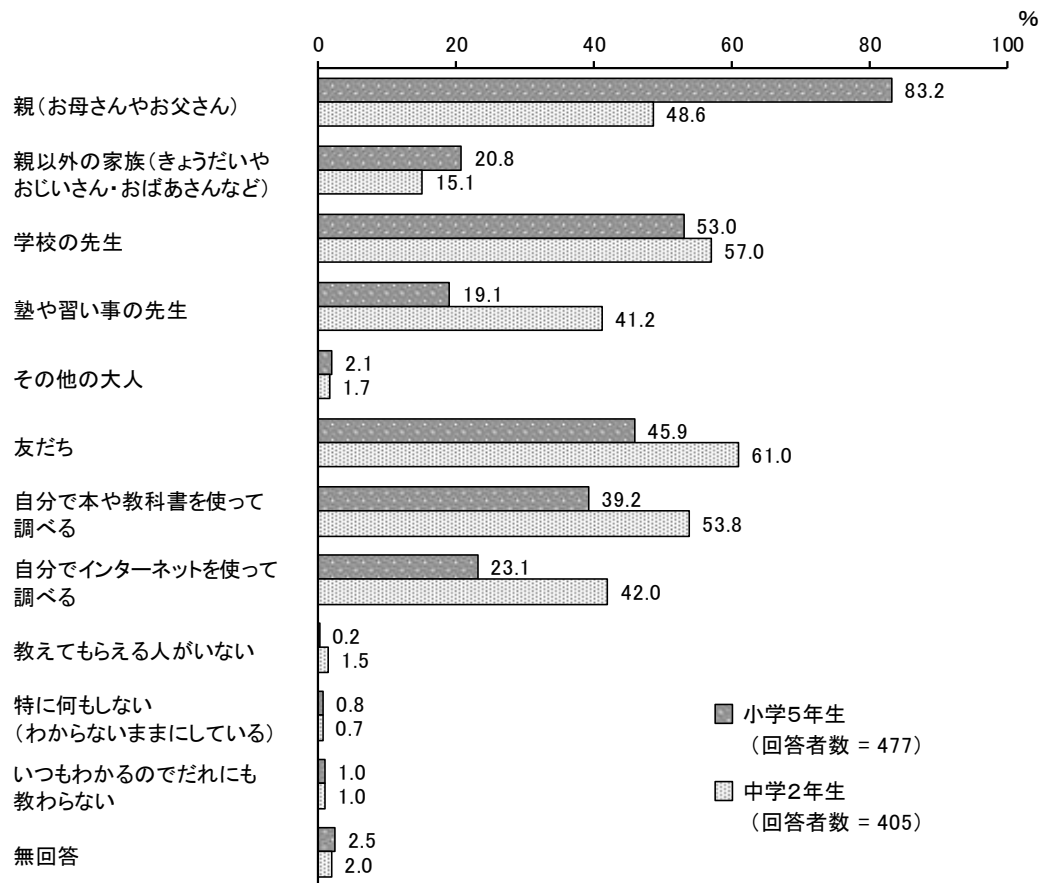
「親(お母さんやお父さん)」の割合が67.1%と最も高く、次いで「学校の先生」の割合が54.7%、「友だち」の割合が52.5%となっています。

全 体
回答者数 = 887



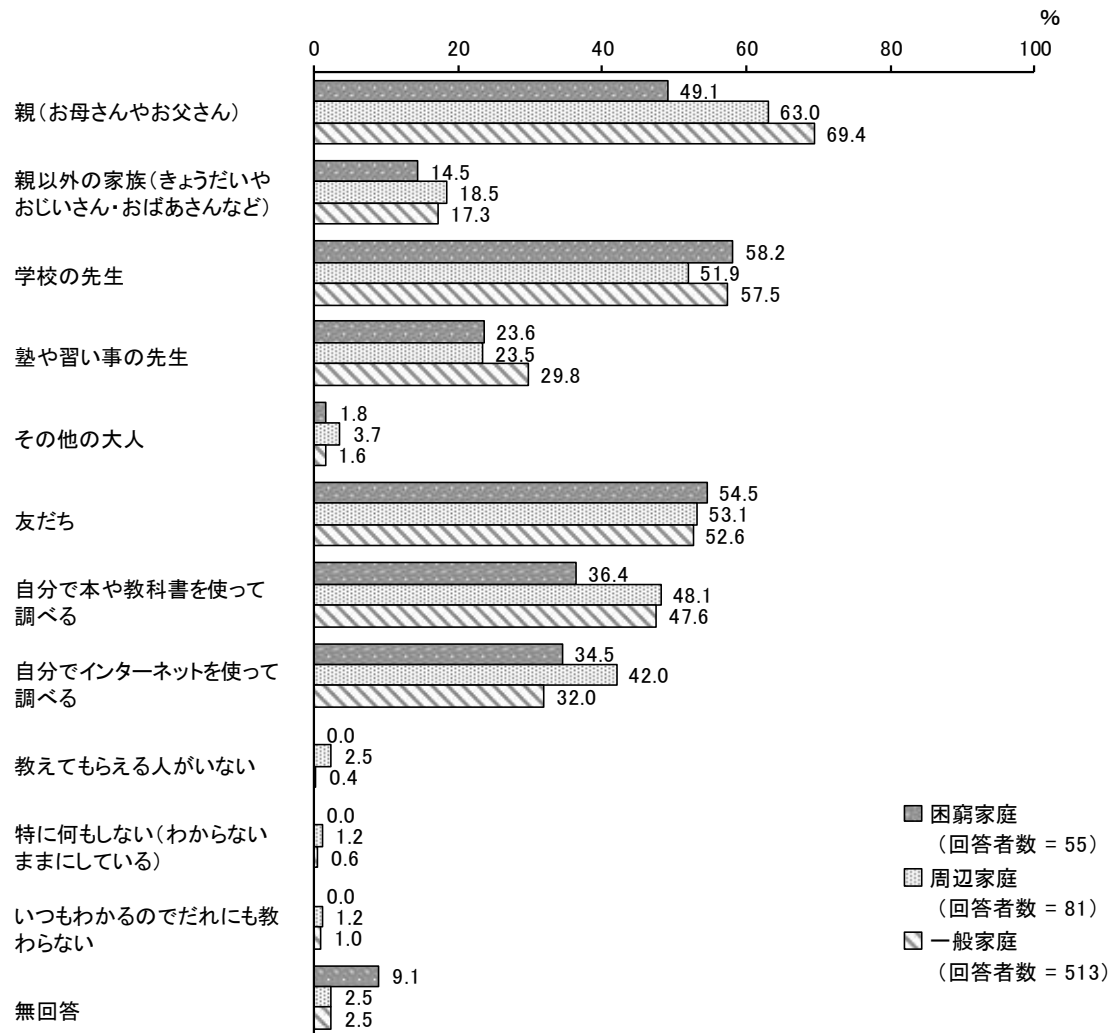
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「親（お母さんやお父さん）」「親以外の家族（きょうだいやおじいさん・おばあさんなど）」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「塾や習い事の先生」「友だち」「自分で本や教科書を使って調べる」「自分でインターネットを使って調べる」の割合が高くなっています。



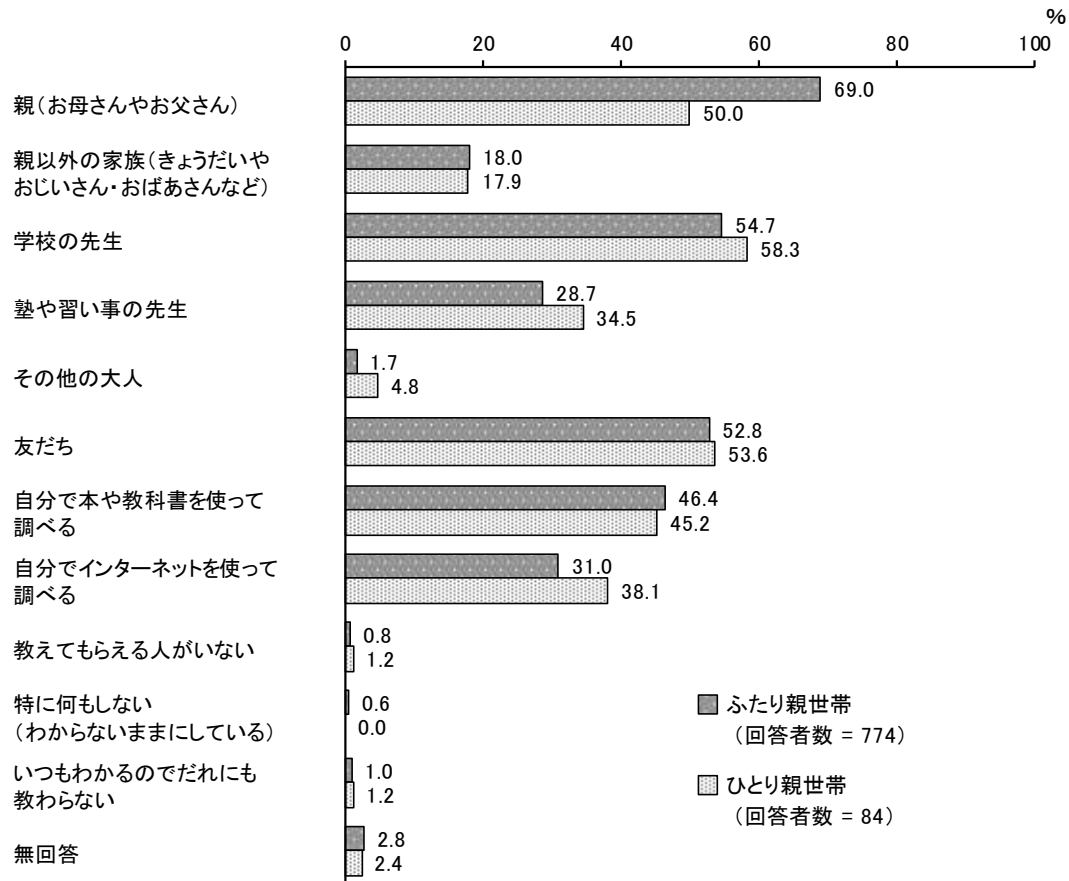
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「親（お母さんやお父さん）」「塾や習い事の先生」の割合が、困窮家庭で「学校の先生」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「自分で本や教科書を使って調べる」「自分でインターネットを使って調べる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

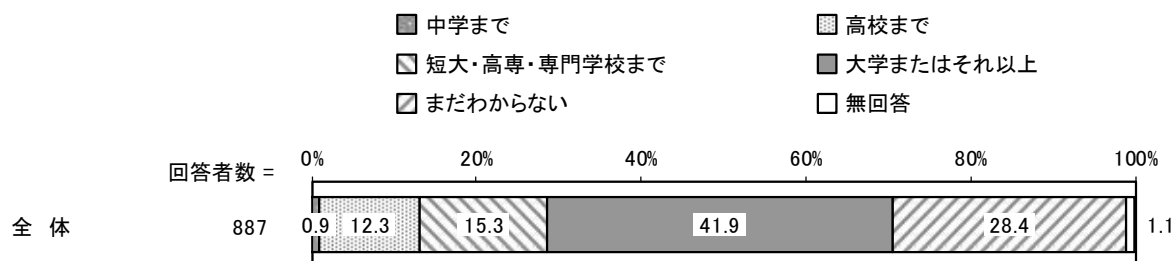
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「親（お母さんやお父さん）」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「塾や習い事の先生」「自分でインターネットを使って調べる」の割合が高くなっています。



(3) 進学のことや将来の夢について

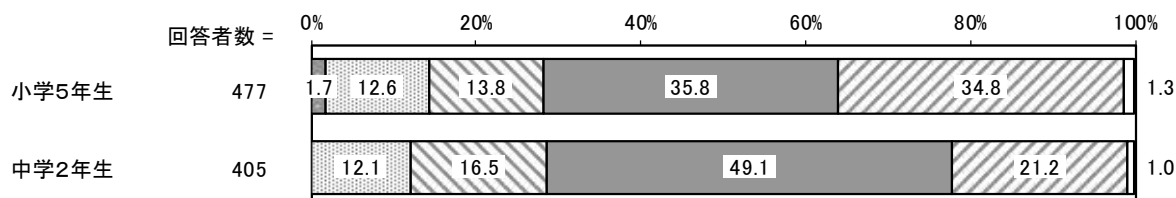
問7 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまる番号1つに○)

「大学またはそれ以上」の割合が41.9%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が28.4%、「短大・高専・専門学校まで」の割合が15.3%となっています。



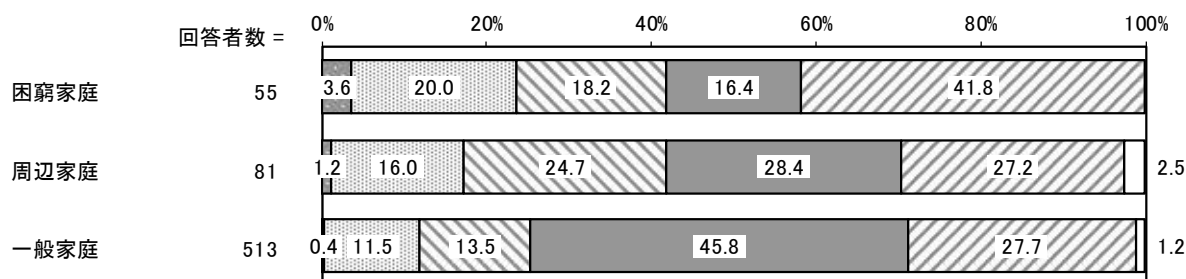
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



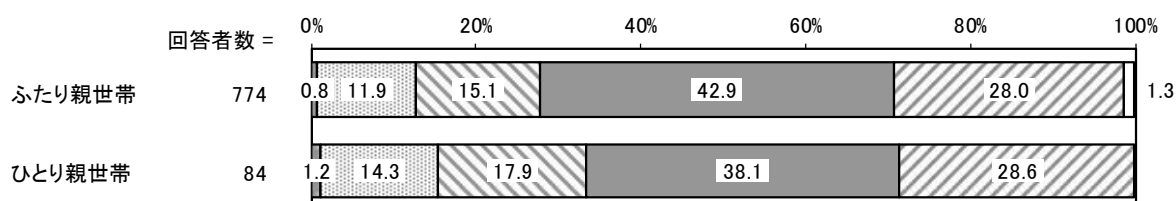
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「中学まで」「高校まで」「まだわからない」の割合が高くなっています。また、一般家庭で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

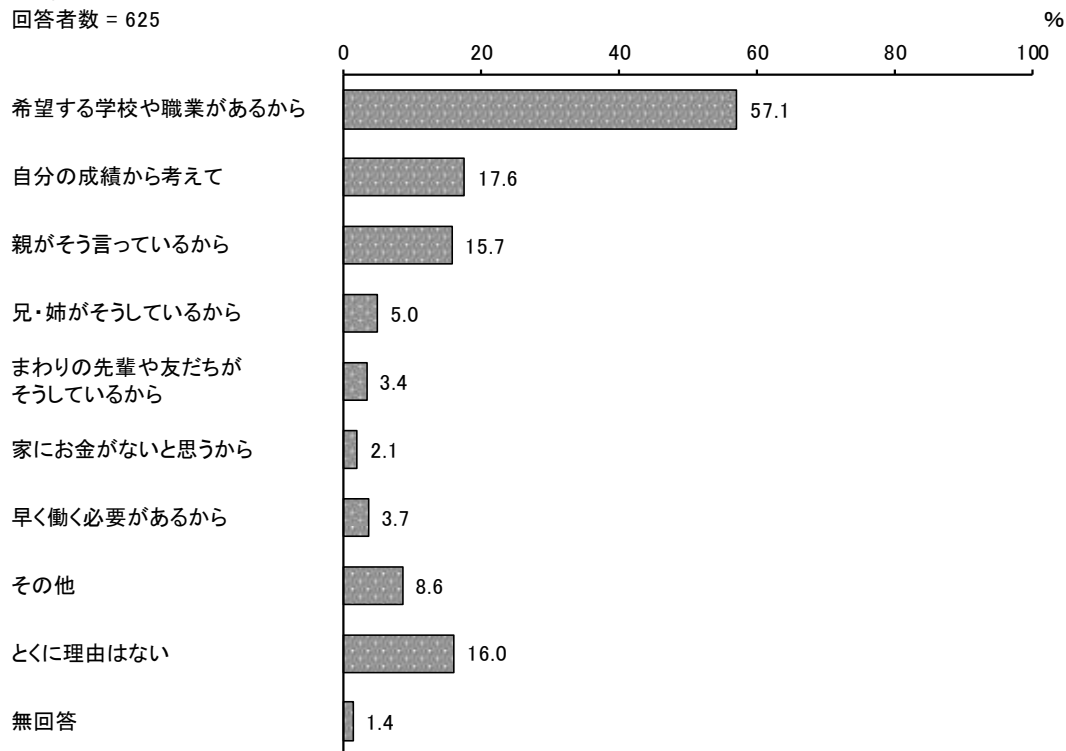
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」の割合が高くなっています。



問 7－1 問 7 で「中学まで」～「大学またはそれ以上」と答えた人におたずねします。
その理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

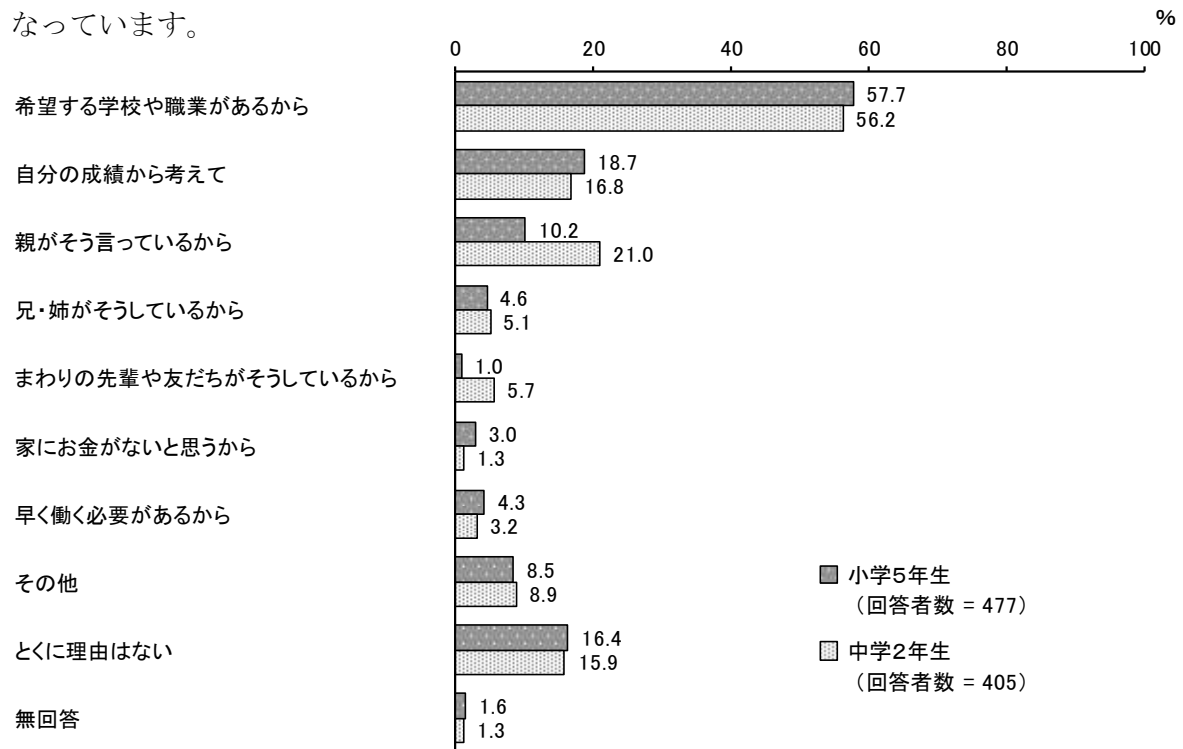
「希望する学校や職業があるから」の割合が 57.1%と最も高く、次いで「自分の成績から考えて」の割合が 17.6%、「とくに理由はない」の割合が 16.0%となっています。

全 体
回答者数 = 625



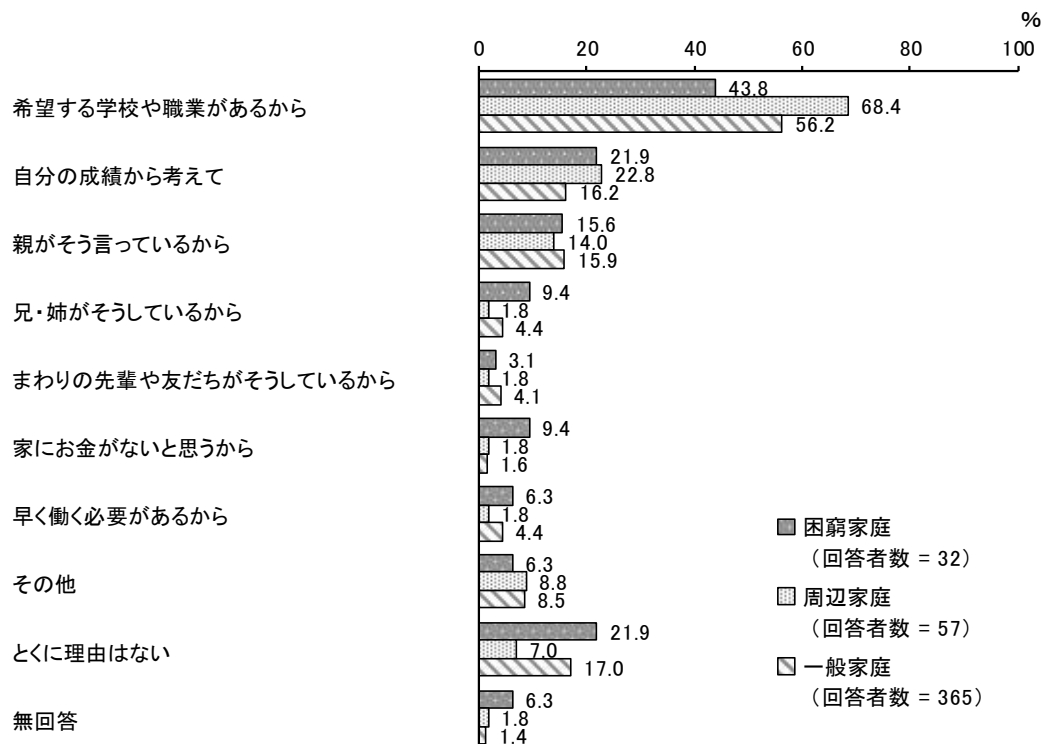
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「親がそう言っているから」の割合が高くなっています。



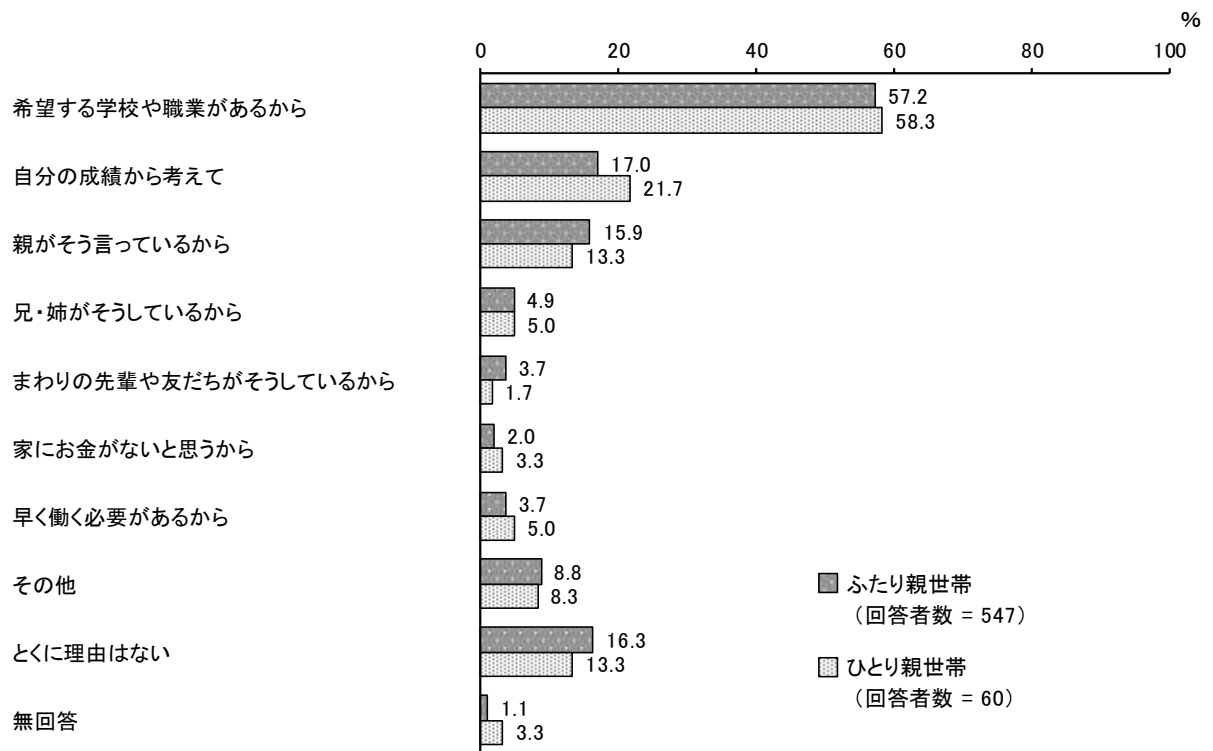
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「希望する学校や職業があるから」「自分の成績から考えて」の割合が、困窮家庭で「兄・姉がそうしているから」「家にお金がないと思うから」「早く働く必要があるから」「とくに理由はない」の割合が高くなっています。



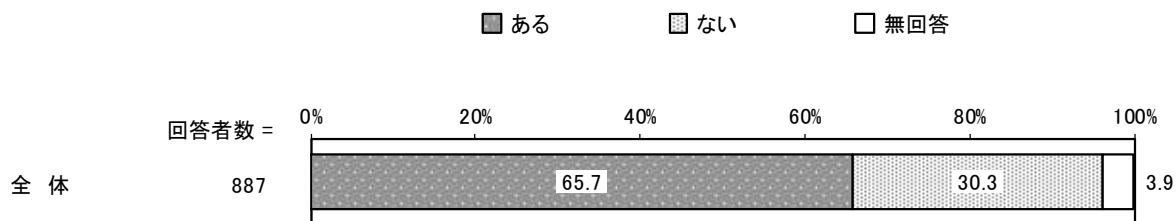
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



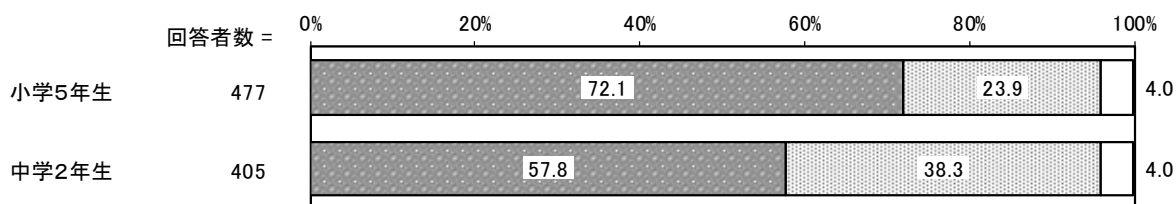
問8 あなたは、将来の夢がありますか。(あてはまる番号1つに○)

「ある」の割合が65.7%、「ない」の割合が30.3%となっています。



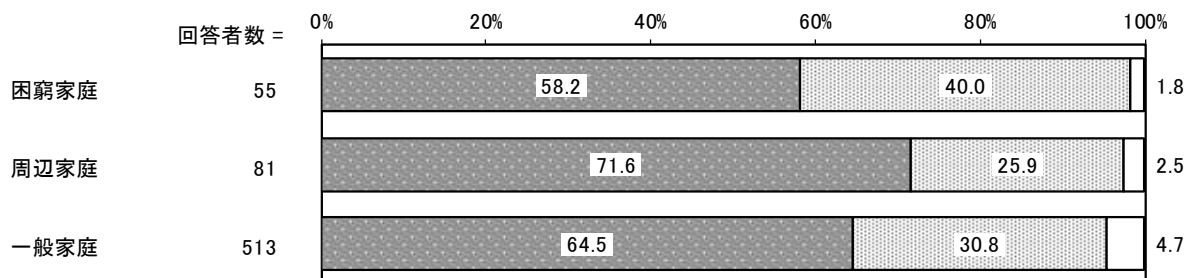
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「ある」の割合が高くなっています。



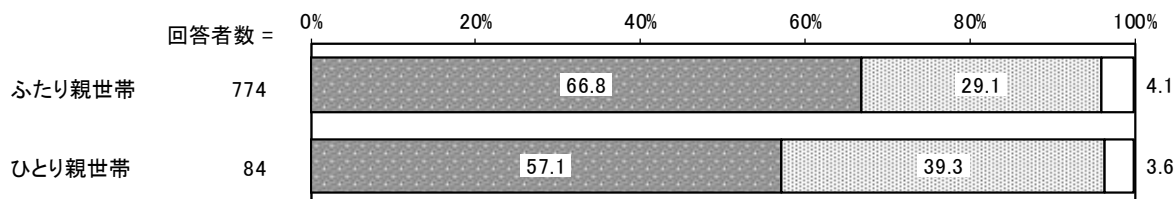
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「ある」の割合が、困窮家庭で「ない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

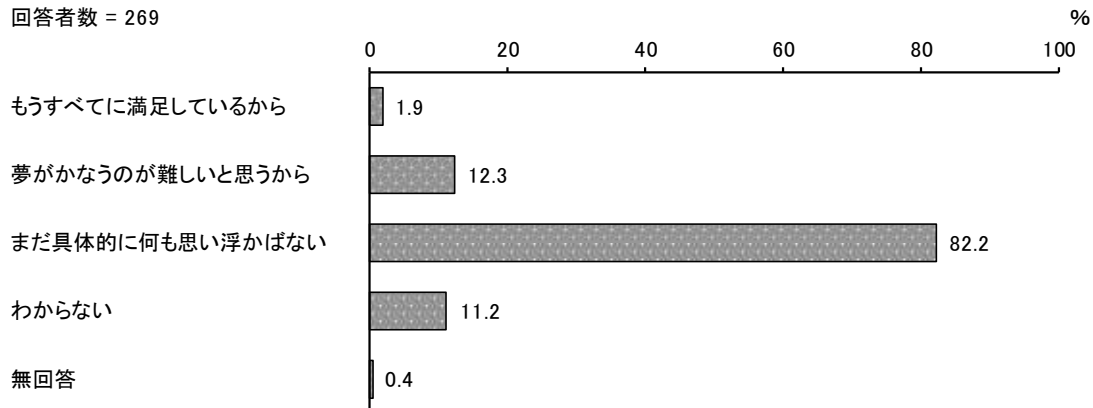
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「ない」の割合が高くなっています。



問 8－1 問 8 で、将来の夢が「ない」と答えた人におたずねします。
夢がない理由は何ですか。（あてはまる番号 1 つに○）

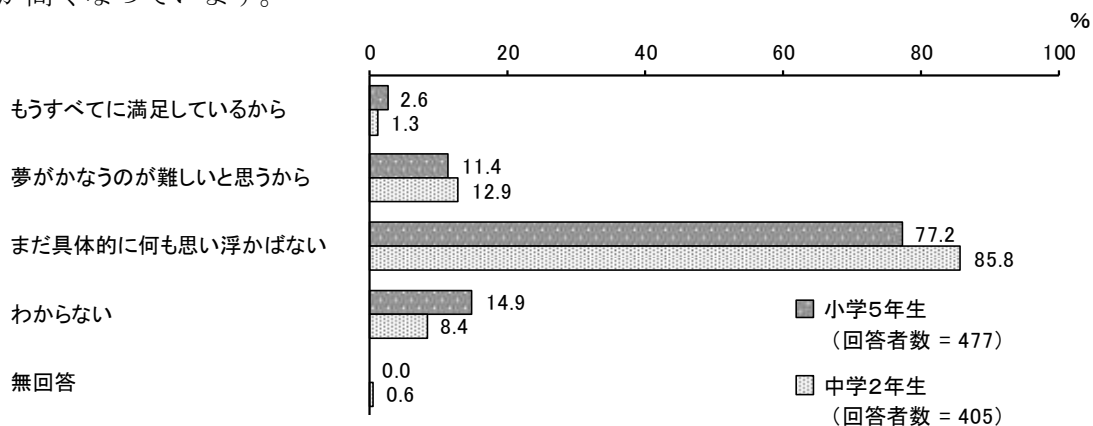
「まだ具体的に何も思い浮かばない」の割合が 82.2%と最も高く、次いで「夢がかなうのが難しいと思うから」の割合が 12.3%、「わからない」の割合が 11.2%となっています。

全 体
 回答者数 = 269



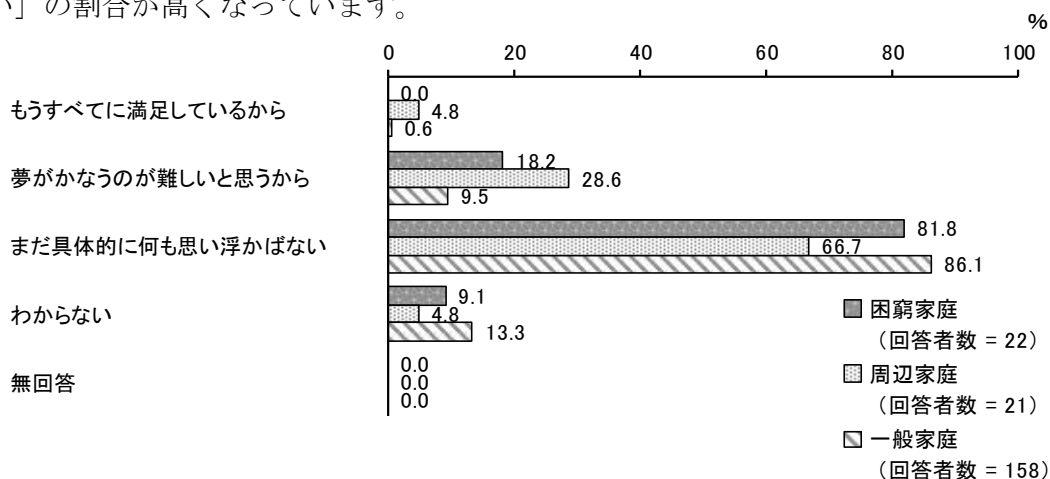
【学年別】

学年別でみると、小学 5 年生に比べ、中学 2 年生で「まだ具体的に何も思い浮かばない」の割合が高くなっています。



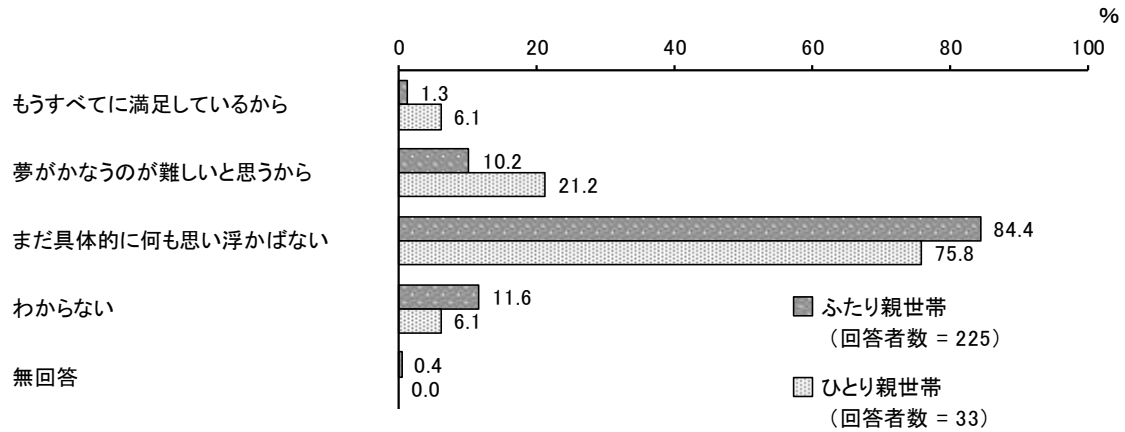
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「もうすべてに満足しているから」「夢がかなうのが難しいと思うから」の割合が、一般家庭で「まだ具体的に何も思い浮かばない」「わからない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「まだ具体的に何も思い浮かばない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「夢がかなうのが難しいと思うから」の割合が高くなっています。

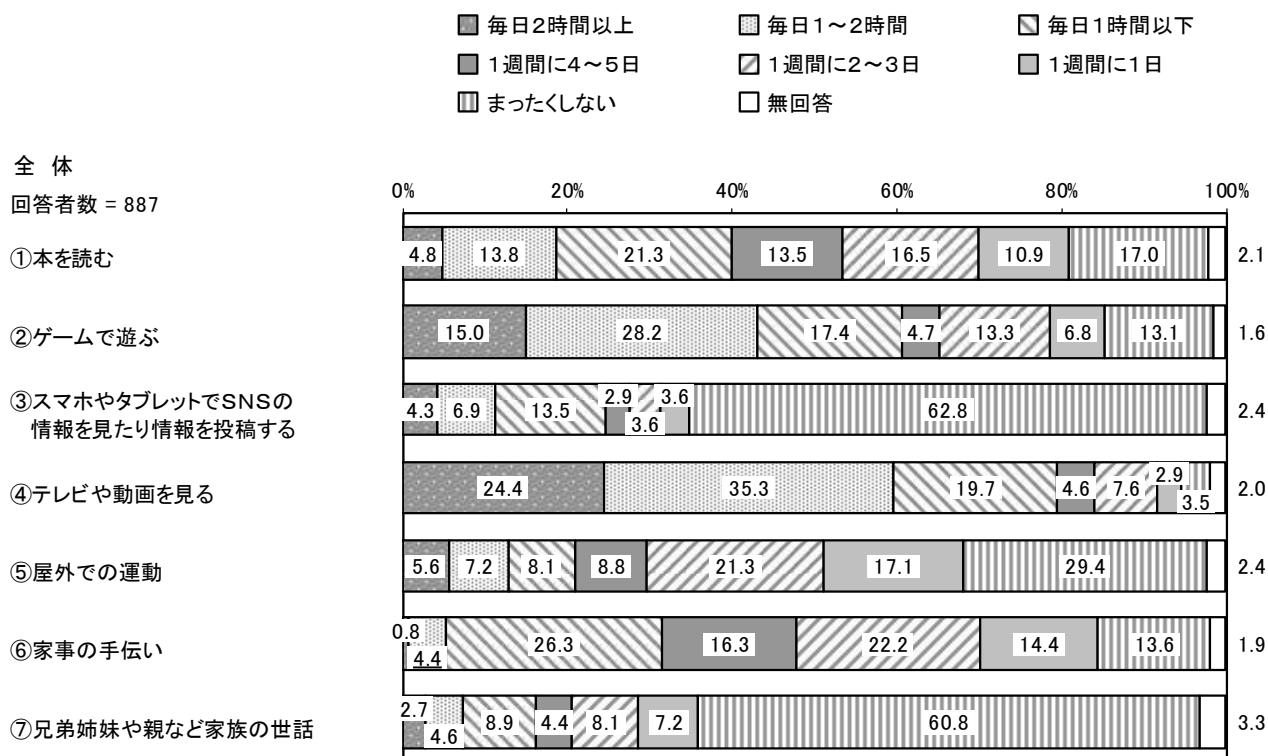


(4) ふだんの生活について

問9 あなたは、次の活動を、ふだんどれくらいしますか。
(①～⑦それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

『④テレビや動画を見る』で「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」の割合が高く、これらをあわせた“毎日1時間以上”の割合が約6割となっています。

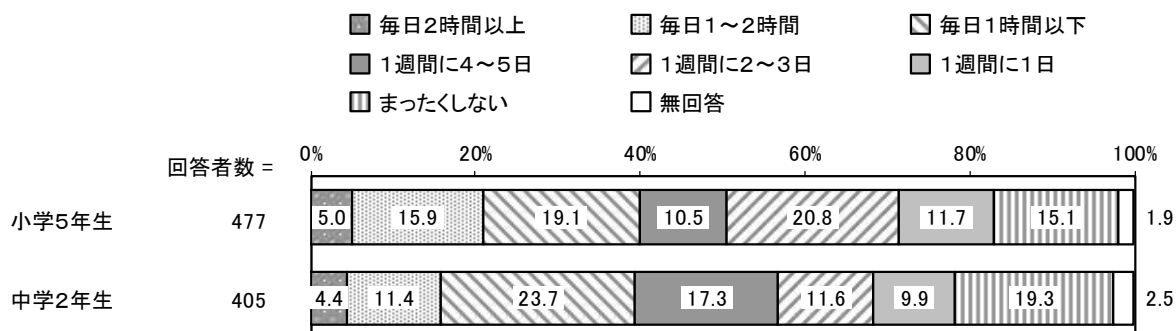
一方、『③スマホやタブレットでSNSの情報を見たり情報を投稿する』『⑦兄弟姉妹や親など家族の世話』で「まったくしない」の割合が高く、約6割となっています。



①本を読む（スマホやタブレットなどで読む電子書籍もふくみます。雑誌やマンガは除きます）

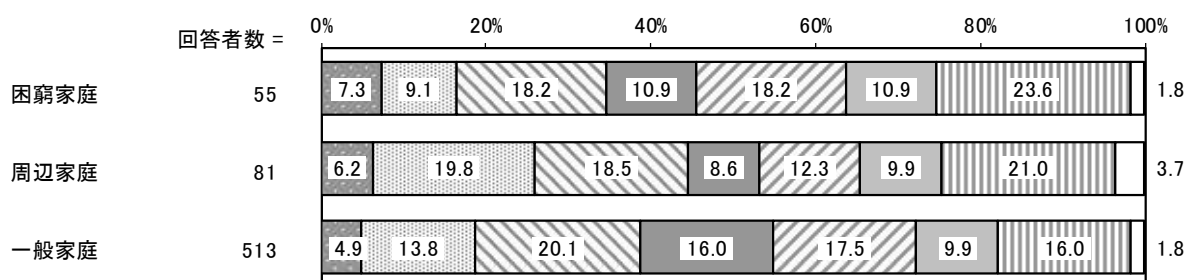
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「1週間に4～5日」の割合が高くなっています。



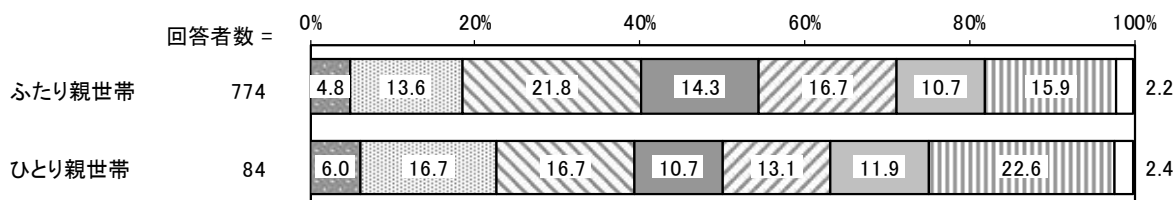
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日1～2時間」の割合が、一般家庭で「1週間に4～5日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「1週間に2～3日」「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

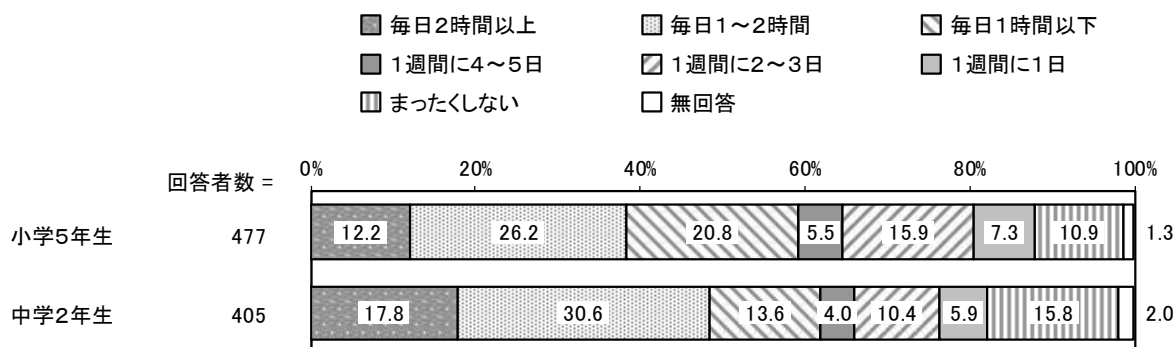
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「毎日1時間以下」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「まったくしない」の割合が高くなっています。



②ゲームで遊ぶ（スマホやタブレット、パソコンなどを使うものもふくみます）

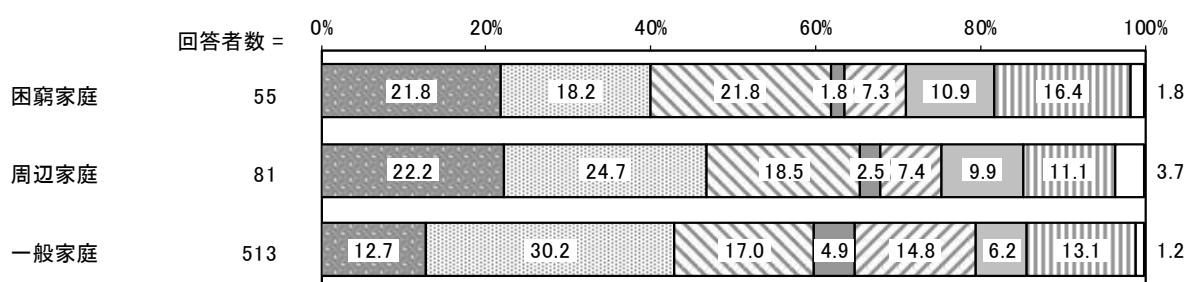
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「毎日1時間以下」「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



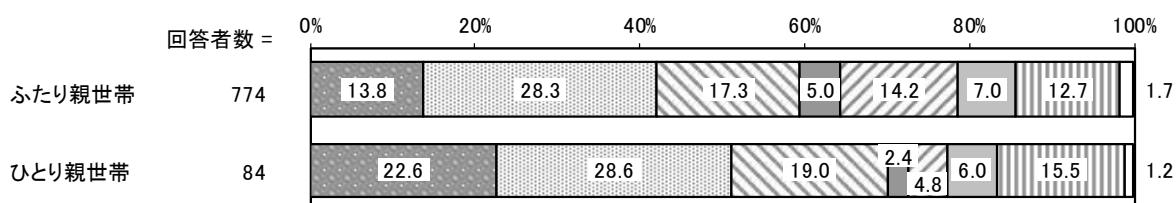
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭、周辺家庭で「毎日2時間以上」の割合が、一般家庭で「毎日1～2時間」「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「毎日1時間以下」「1週間に1日」「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

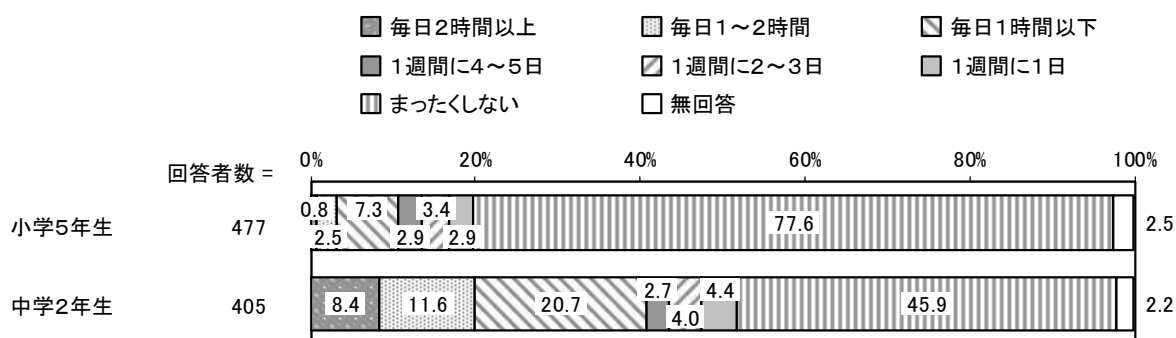
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



③スマホやタブレット、パソコンなどでSNSの情報を見たり情報を投稿する

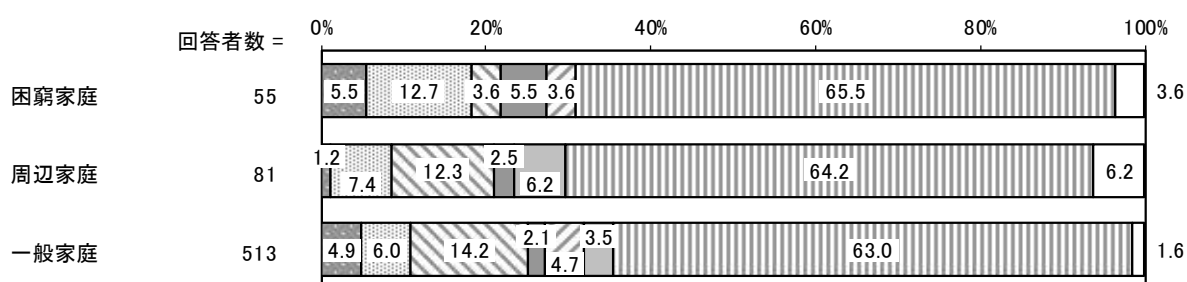
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「まったくしない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の割合が高くなっています。



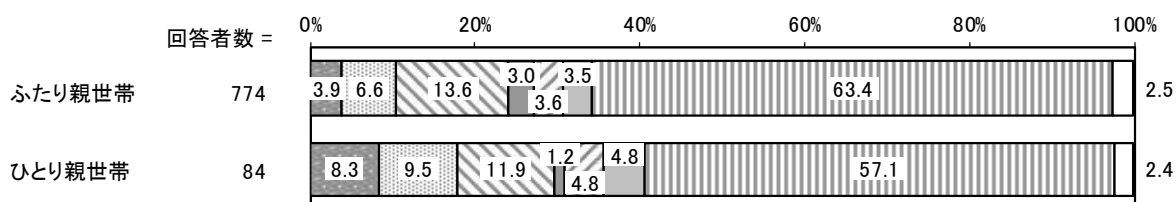
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「毎日1～2時間」の割合が、一般家庭で「毎日1時間以下」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「1週間に1日」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

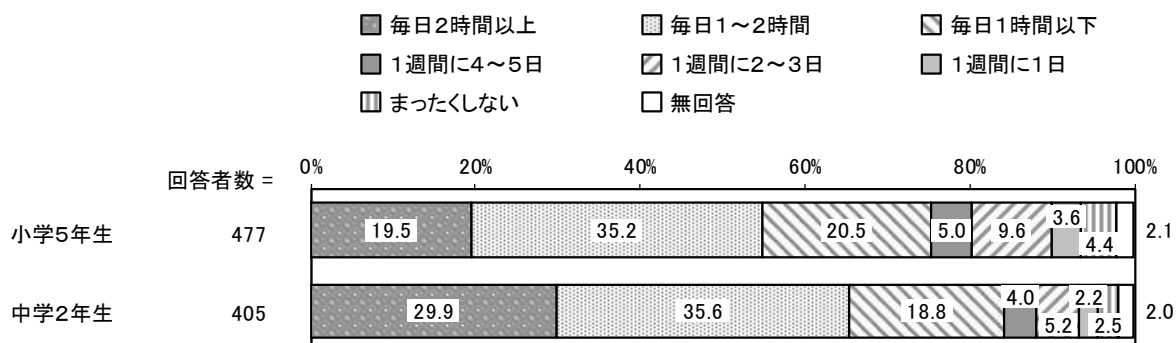
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



④テレビや動画を見る（スマホやタブレット、パソコンなどで見るものもふくみます）

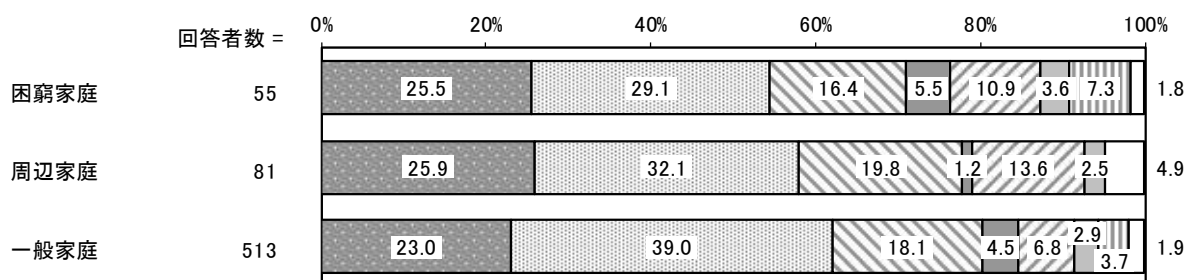
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



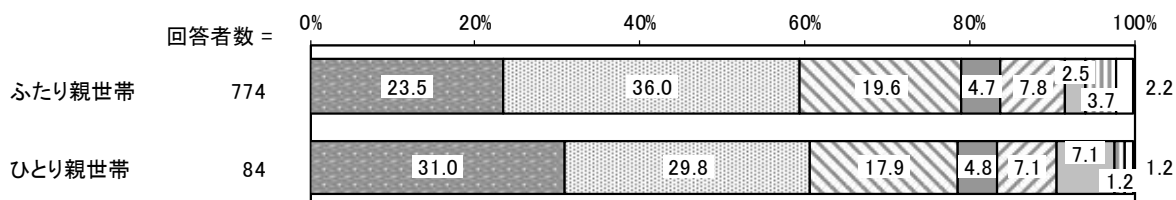
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「毎日1～2時間」の割合が、周辺家庭で「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

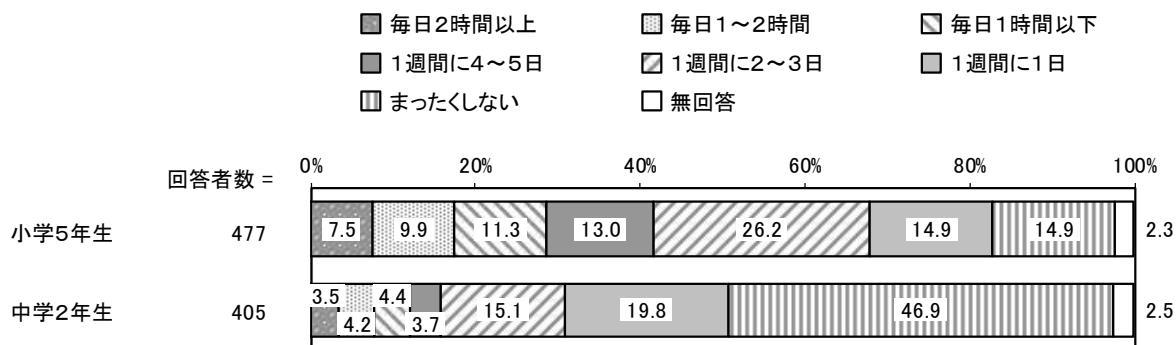
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「毎日1～2時間」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



⑤公園や外で遊ぶ

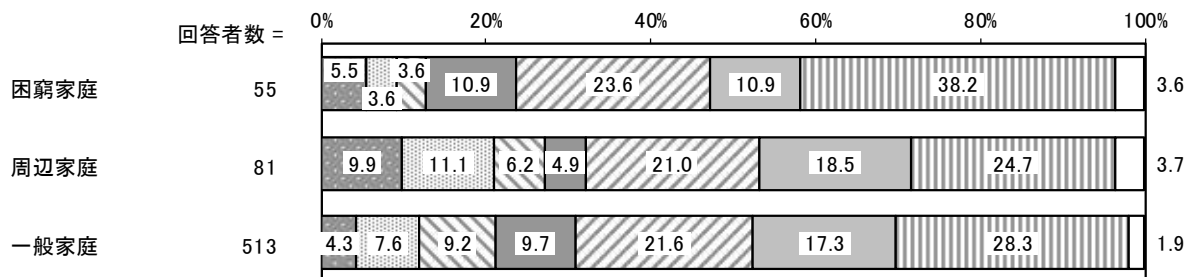
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」「1週間に4～5日」「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「まったくしない」の割合が高くなっています。



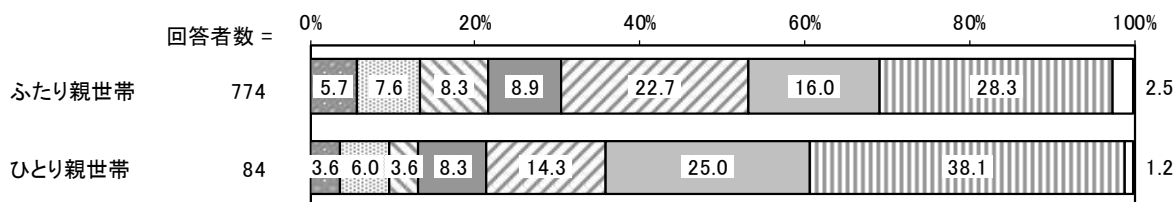
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「1週間に1日」の割合が、一般家庭で「毎日1時間以下」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「1週間に4～5日」「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

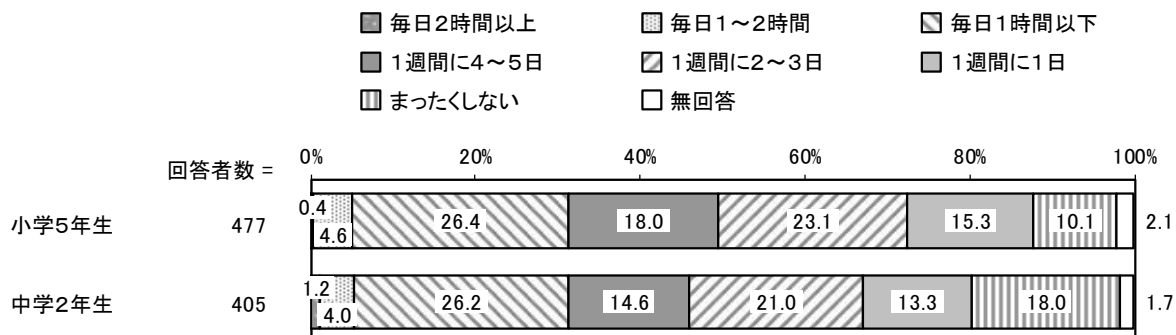
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「1週間に1日」「まったくしない」の割合が高くなっています。



⑥家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）の手伝い

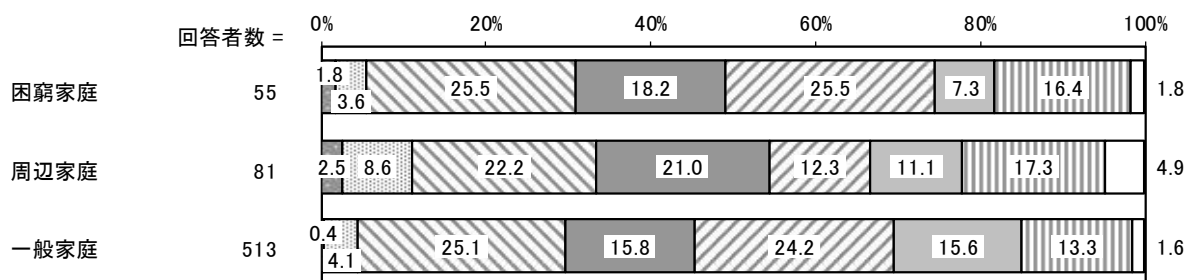
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「まったくしない」の割合が高くなっています。



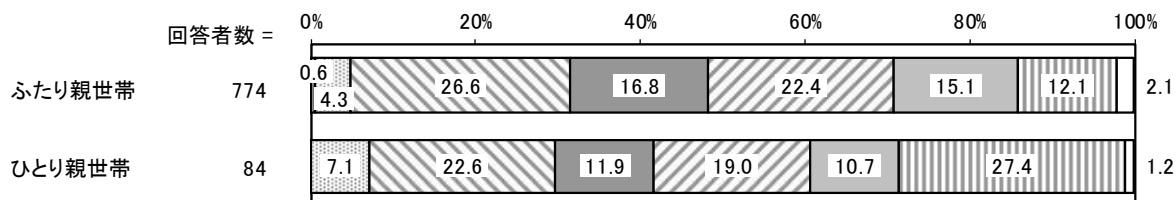
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日1～2時間」「1週間に4～5日」の割合が、困窮家庭で「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「1週間に1日」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

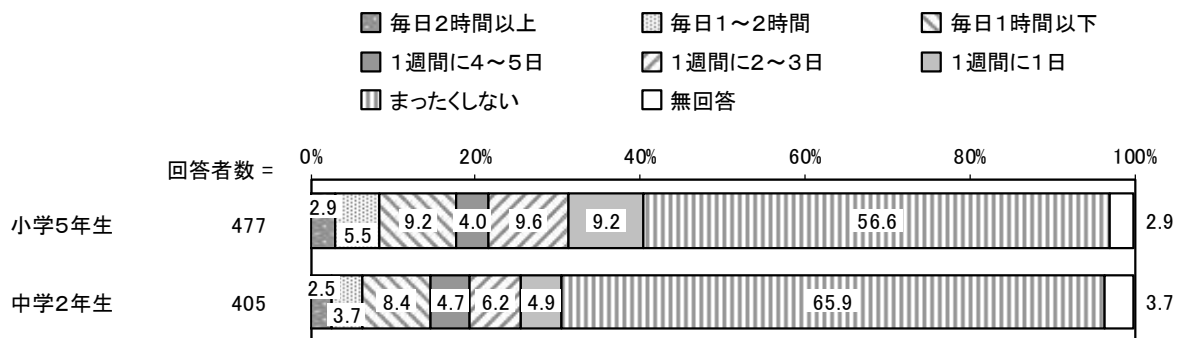
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「まったくしない」の割合が高くなっています。



⑦兄弟姉妹や親など家族の世話

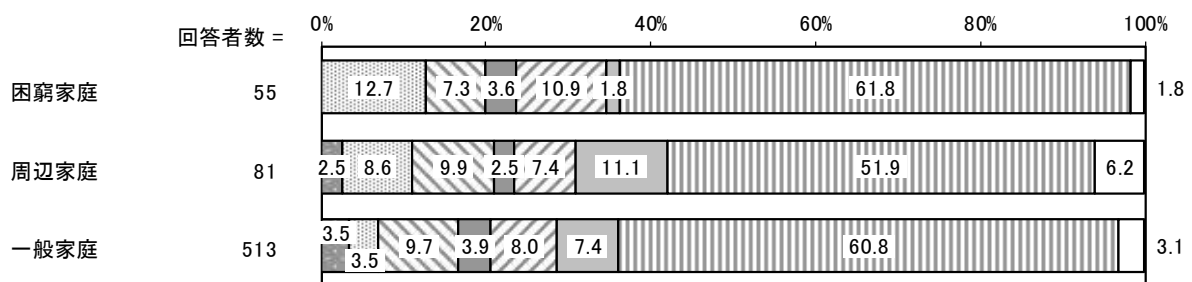
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「まったくしない」の割合が高くなっています。



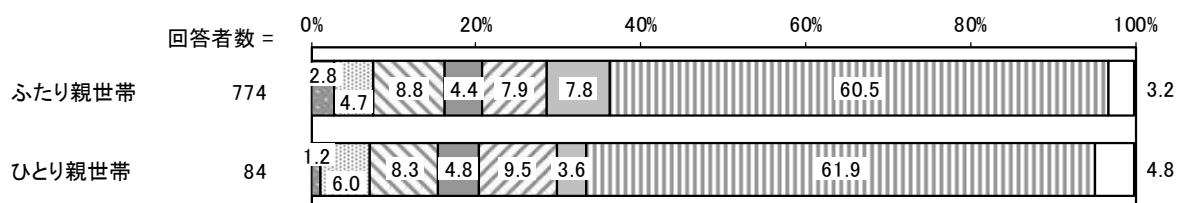
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「毎日1～2時間」「まったくしない」の割合が、周辺家庭で「1週間に1日」の割合が高くなっています。



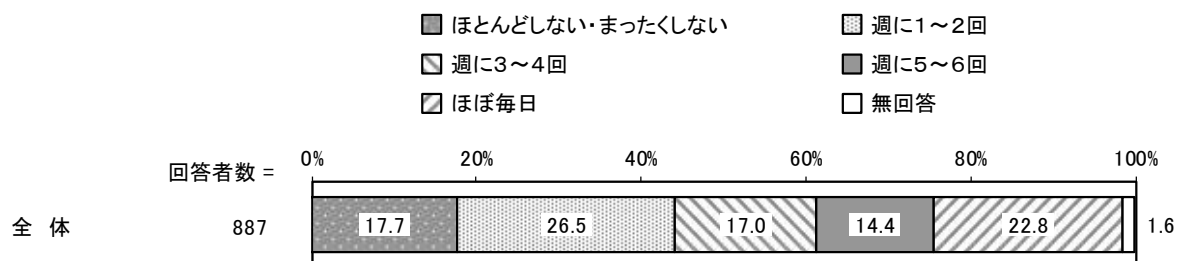
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



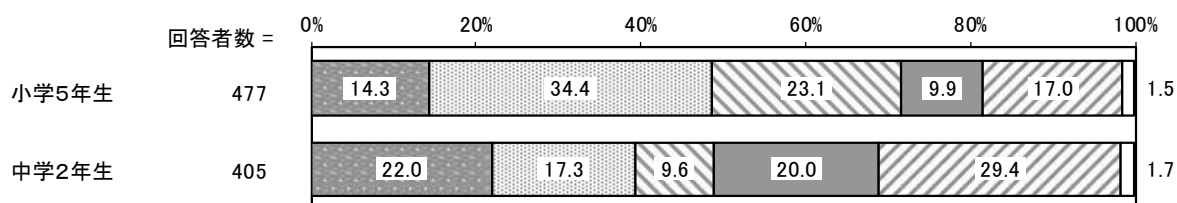
問 10 あなたは、30 分以上、体を動かす遊びや習いごとは、1 週間でどれくらいしますか。（あてはまる番号 1 つに○）

「週に 1～2 回」の割合が 26.5%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」の割合が 22.8%、「ほとんどしない・まったくしない」の割合が 17.7%となっています。



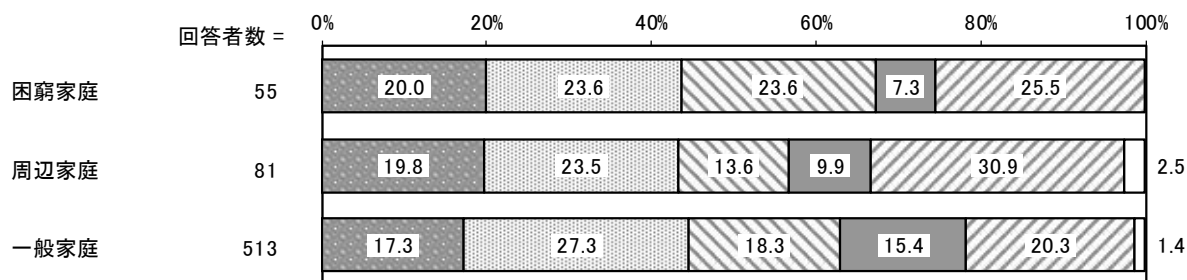
【学年別】

学年別でみると、中学 2 年生に比べ、小学 5 年生で「週に 1～2 回」「週に 3～4 回」の割合が高くなっています。また、小学 5 年生に比べ、中学 2 年生で「ほとんどしない・まったくしない」「週に 5～6 回」「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。



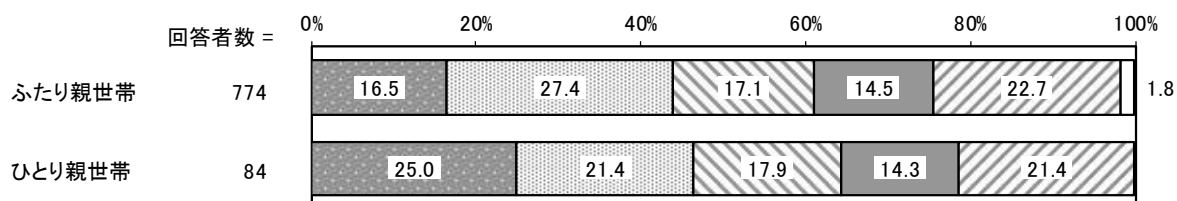
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「週に 3～4 回」の割合が、一般家庭で「週に 5～6 回」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「週に 1～2 回」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「ほとんどしない・まったくしない」の割合が高くなっています。

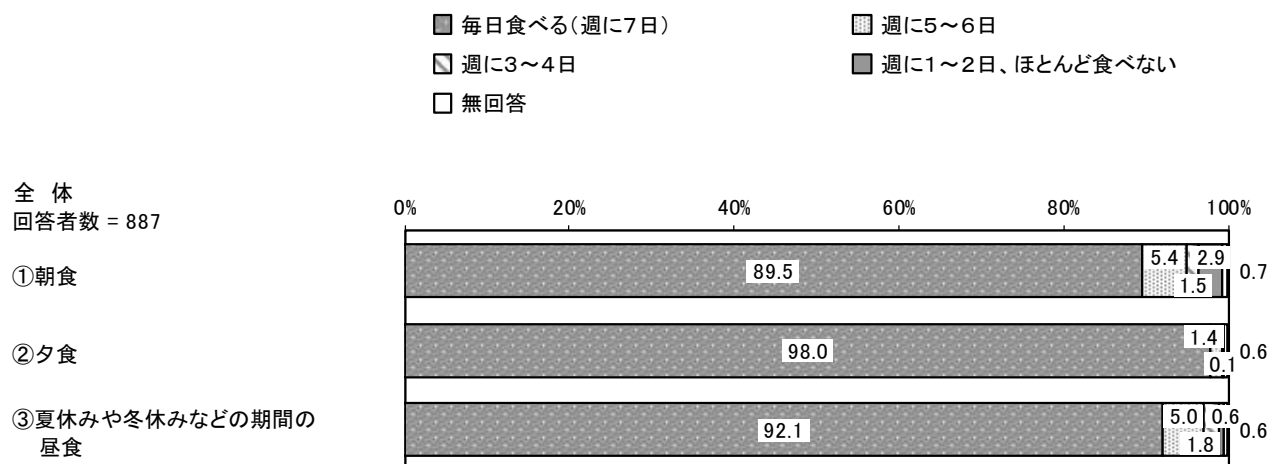


問 11 あなたは1週間にどのくらい食事をしていますか。(①～③それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

朝食では、「毎日食べる(週に7日)」の割合が89.5%と最も高くなっています。

夕食では、「毎日食べる(週に7日)」の割合が98.0%と最も高くなっています。

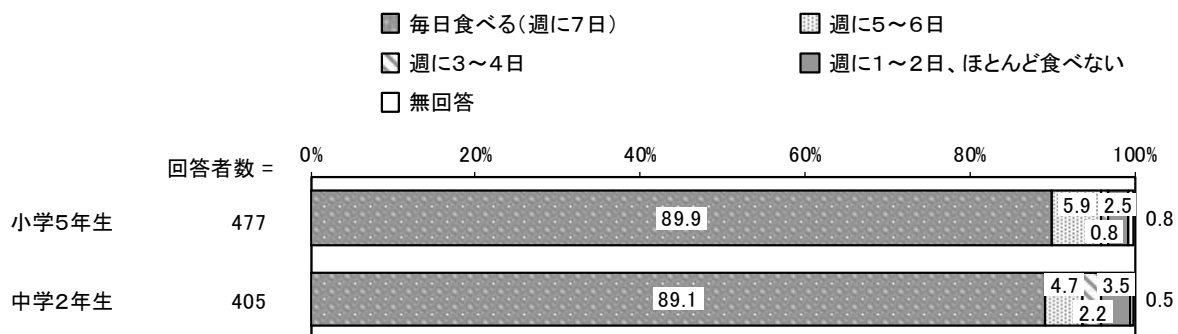
夏休みや冬休みなどの期間の昼食では、「毎日食べる(週に7日)」の割合が92.1%と最も高くなっています。



①朝食

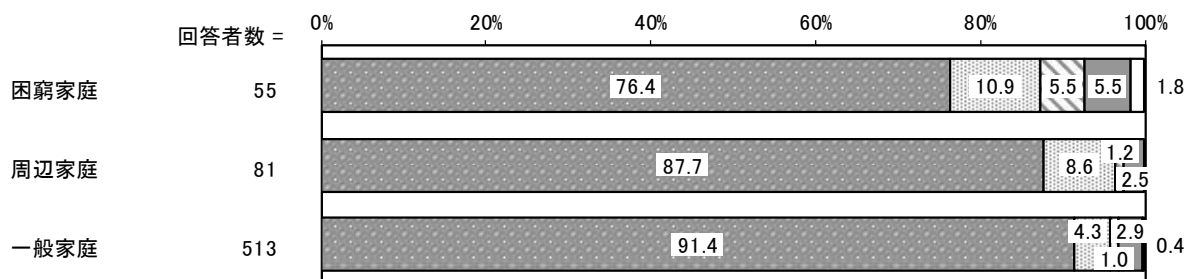
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



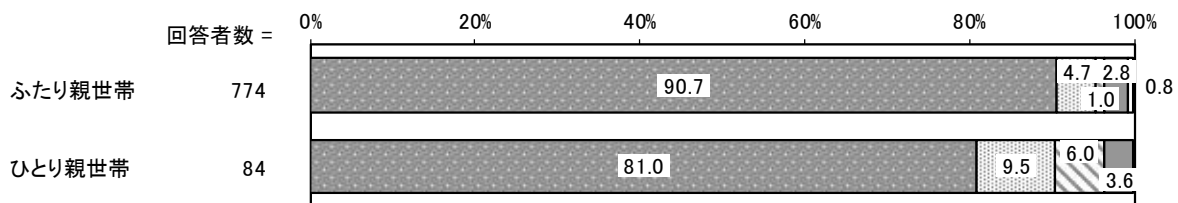
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「毎日食べる（週に7日）」の割合が、困窮家庭で「週に5～6日」「週に3～4日」「週に1～2日、ほとんど食べない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

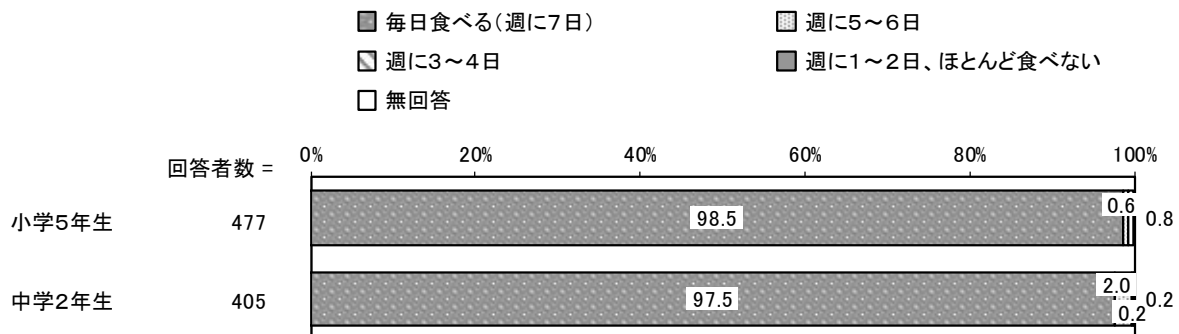
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「毎日食べる（週に7日）」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「週に3～4日」「週に1～2日、ほとんど食べない」の割合が高くなっています。



②夕食

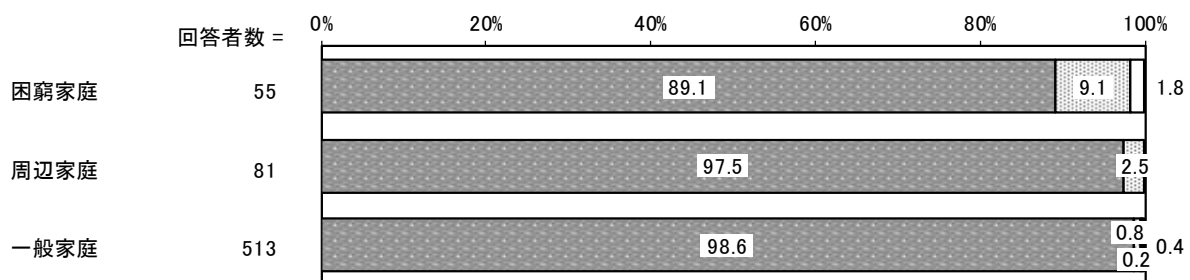
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



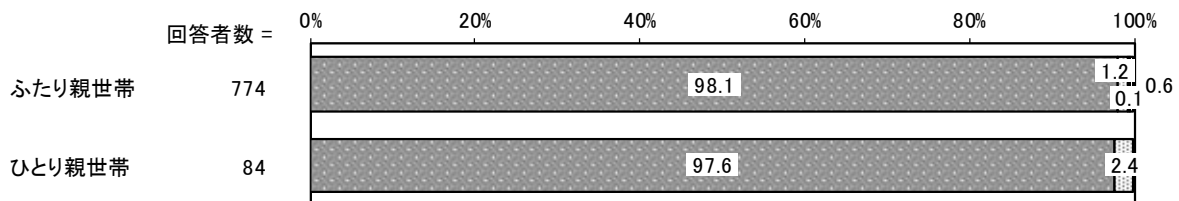
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で「毎日食べる(週に7日)」の割合が、困窮家庭で「週に5~6日」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

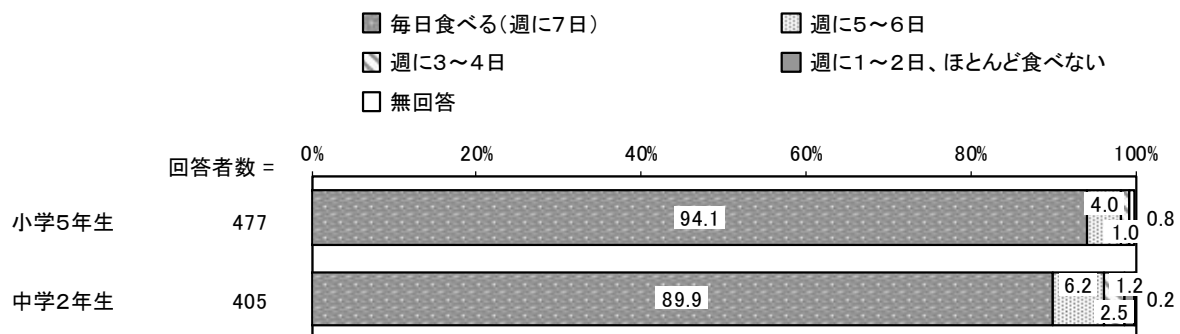
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



③夏休みや冬休みなどの期間の昼食

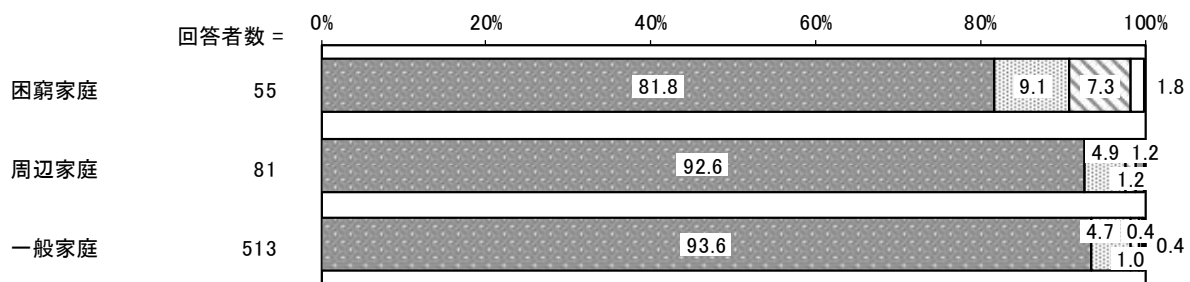
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



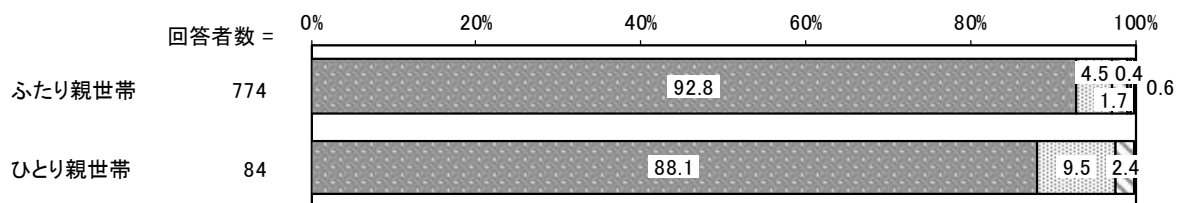
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で「毎日食べる(週に7日)」の割合が、困窮家庭で「週に5~6日」「週に3~4日」の割合が高くなっています。



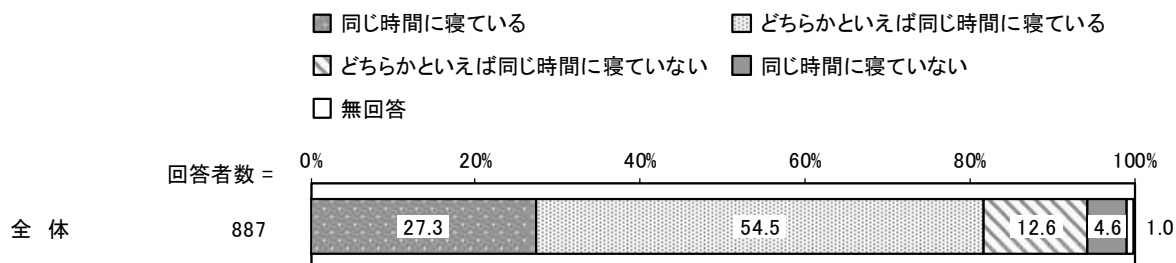
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「週に5~6日」「週に3~4日」の割合が高くなっています。



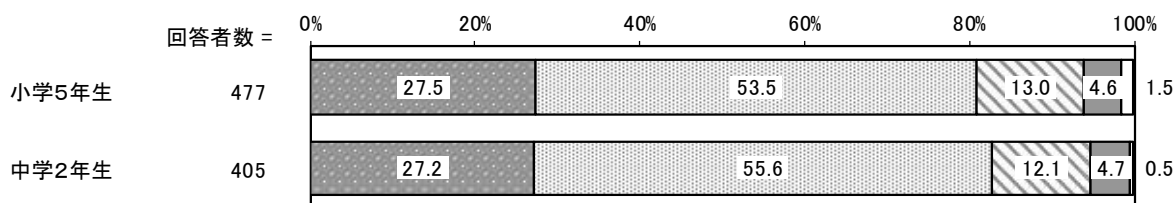
問 12 あなたは、ふだん(月～金曜日)、同じ時間に寝ていますか。
(あてはまる番号1つに○)

「同じ時間に寝ている」と「どちらかといえば同じ時間に寝ている」をあわせた“同じ時間に寝ている”の割合が81.8%、「どちらかといえば同じ時間に寝ていない」と「同じ時間に寝ていない」をあわせた“同じ時間に寝ていない”の割合が17.2%となっています。



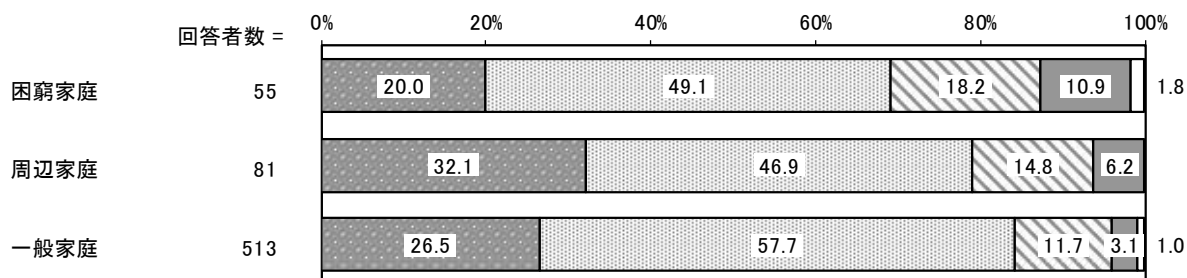
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



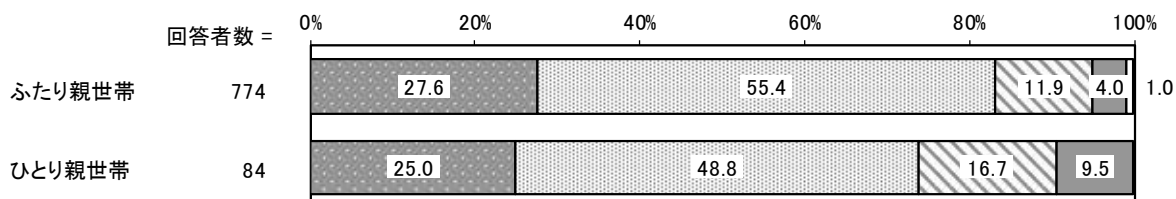
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“同じ時間に寝ている”の割合が、困窮家庭で“同じ時間に寝ていない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

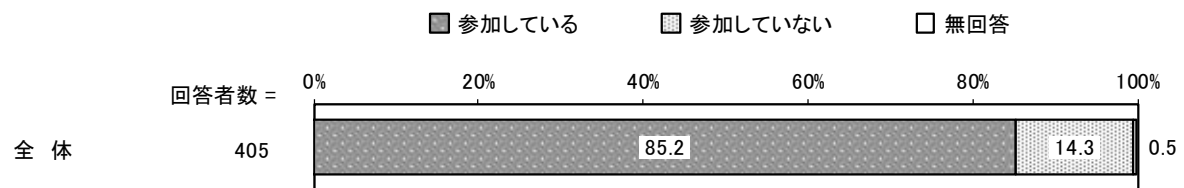
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“同じ時間に寝ていない”の割合が高くなっています。



問 13 中学2年生におたずねします。

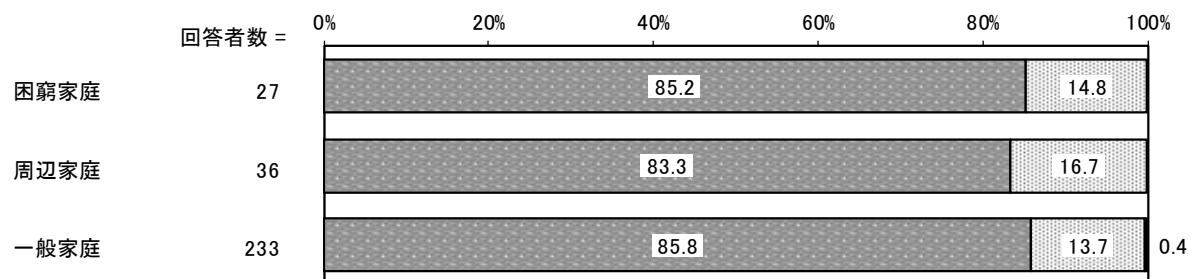
あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

「参加している」の割合が85.2%、「参加していない」の割合が14.3%となっています。



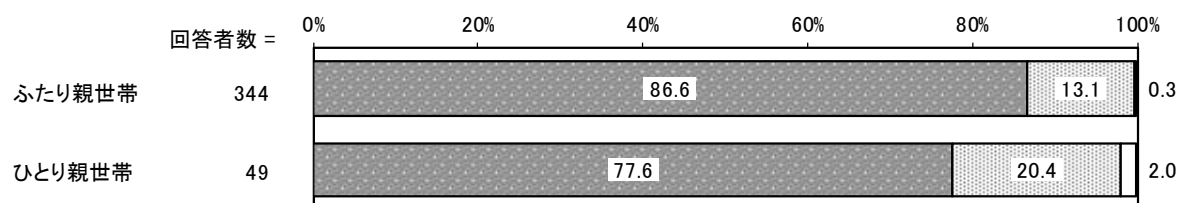
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

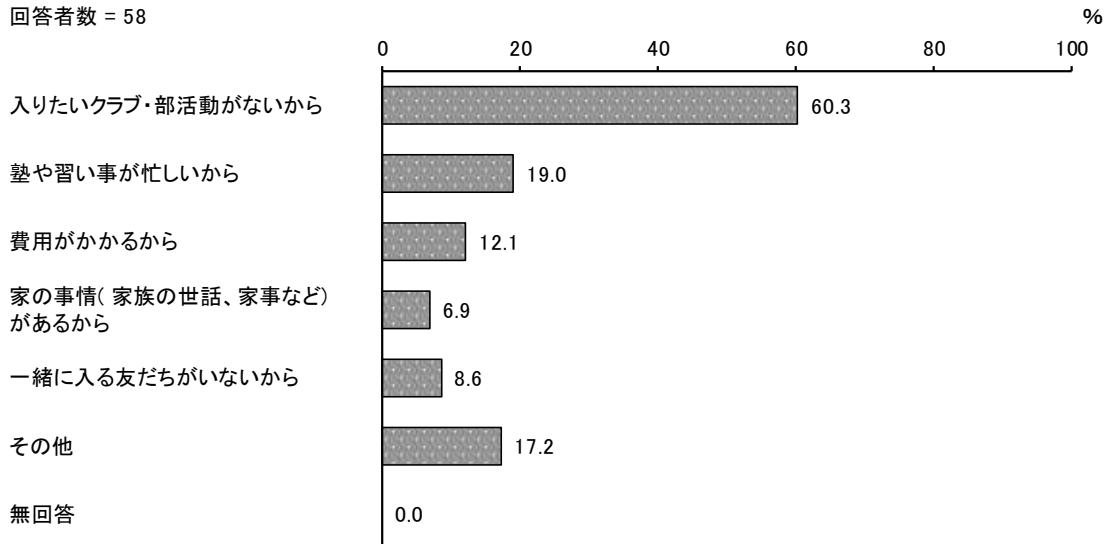
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「参加していない」の割合が高くなっています。



問 13－ 1 問 13 で「参加していない」と答えた人におたずねします。
参加していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「入りたいクラブ・部活動がないから」の割合が 60.3%と最も高く、次いで「塾や習い事が忙しいから」の割合が 19.0%、「費用がかかるから」の割合が 12.1%となっています。

全 体
回答者数 = 58

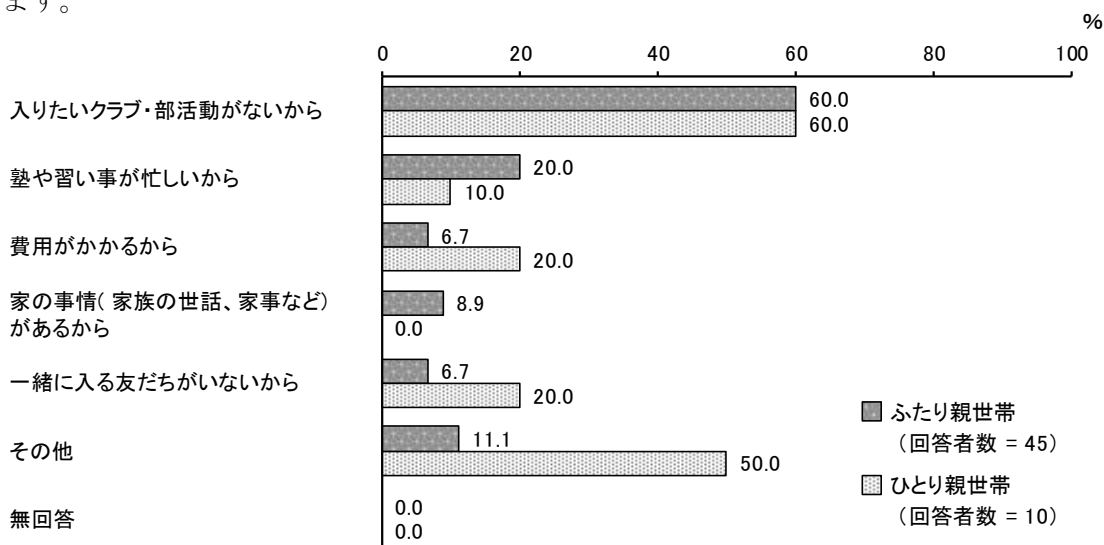


【生活困難度別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「塾や習い事が忙しいから」「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「費用がかかるから」「一緒にいる友だちがいないから」の割合が高くなっています。

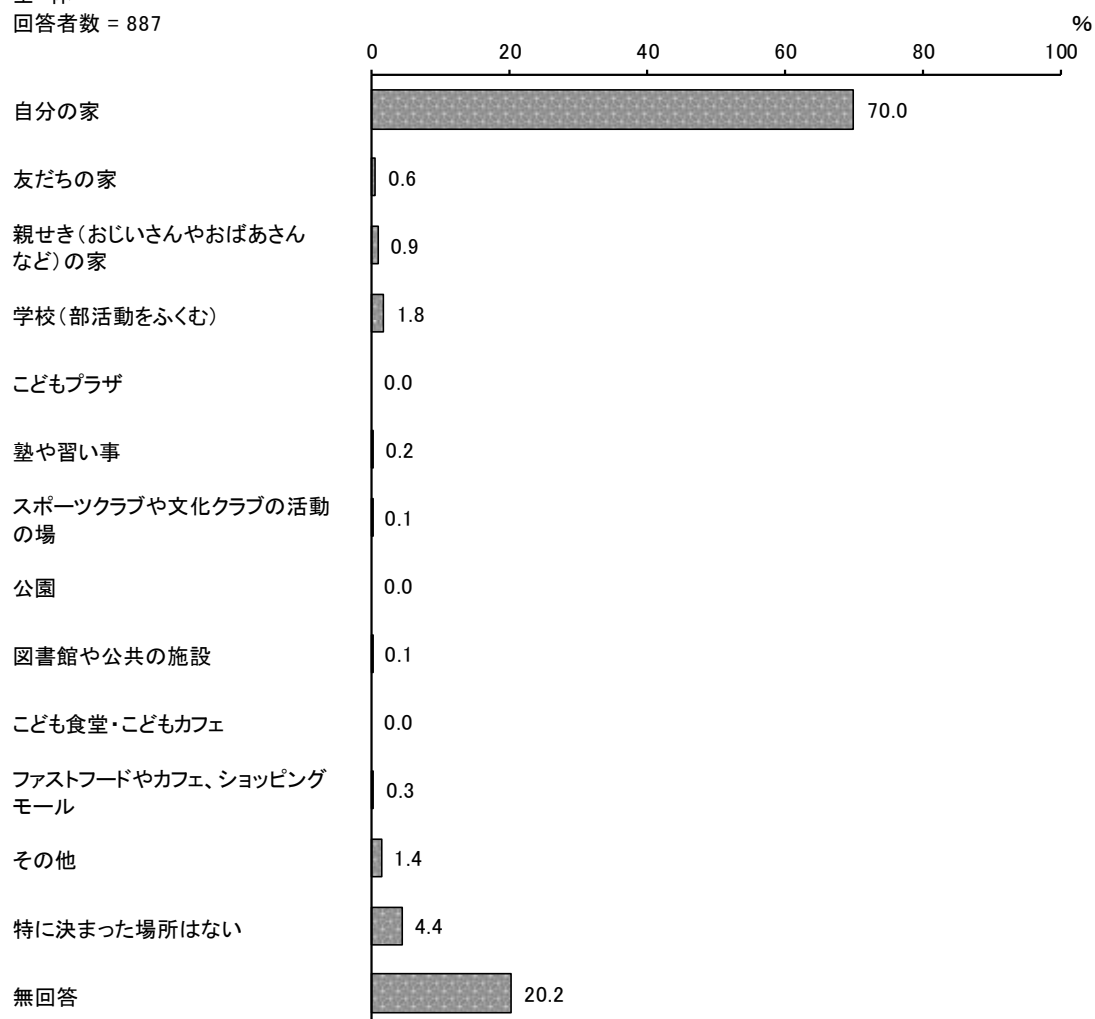


問 14 あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。(あてはまる番号 1 つに○)

「自分の家」の割合が 70.0%と最も高くなっています。

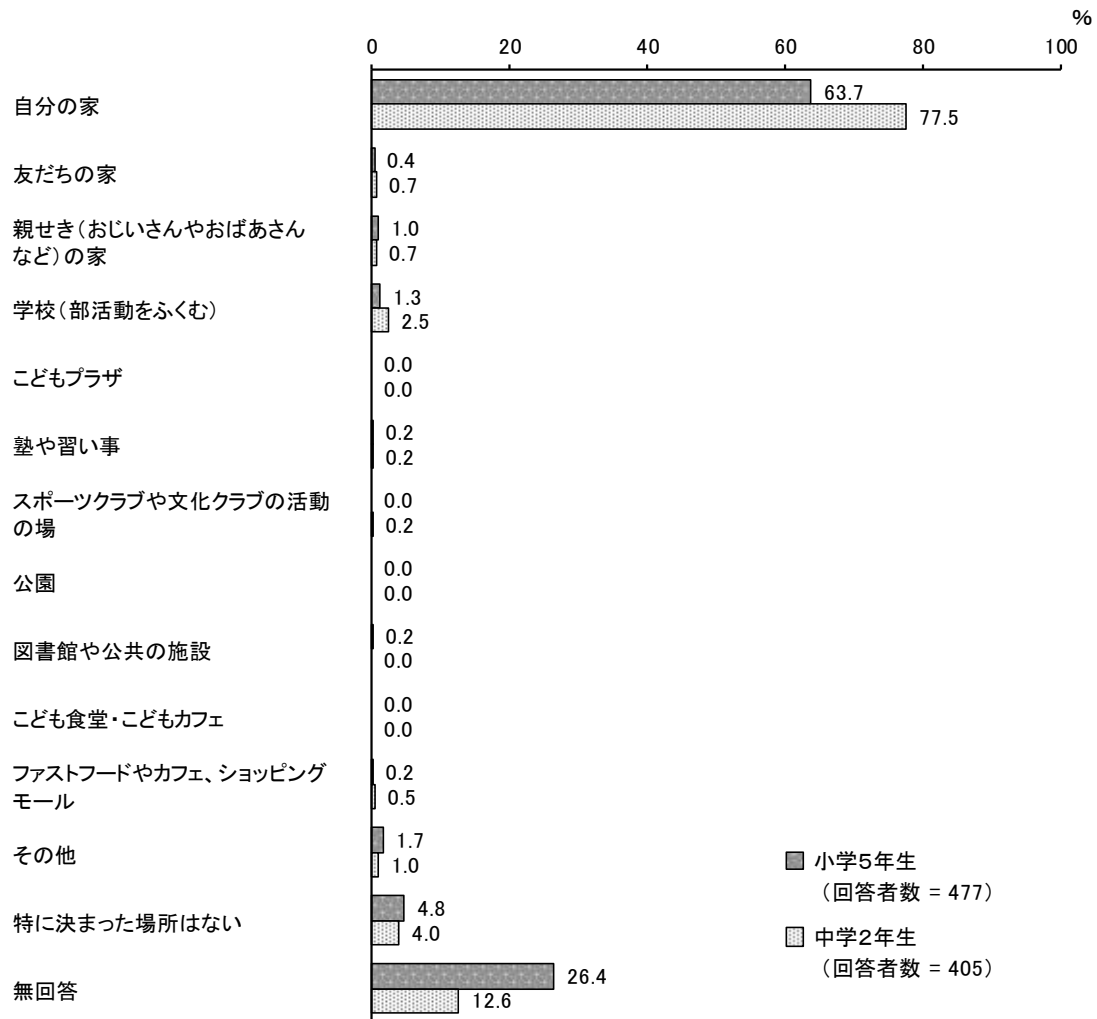
全 体

回答者数 = 887



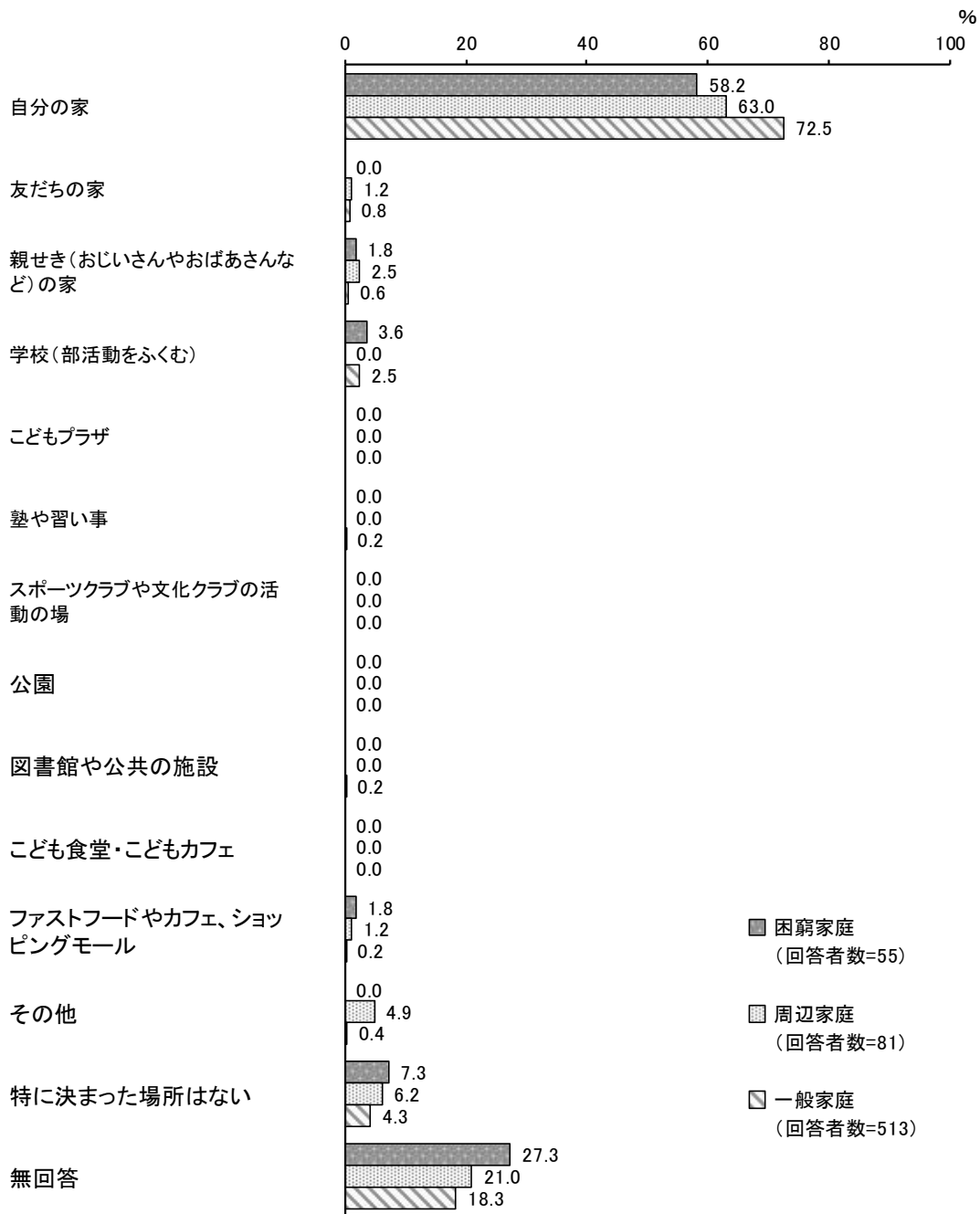
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「自分の家」の割合が高くなっています。



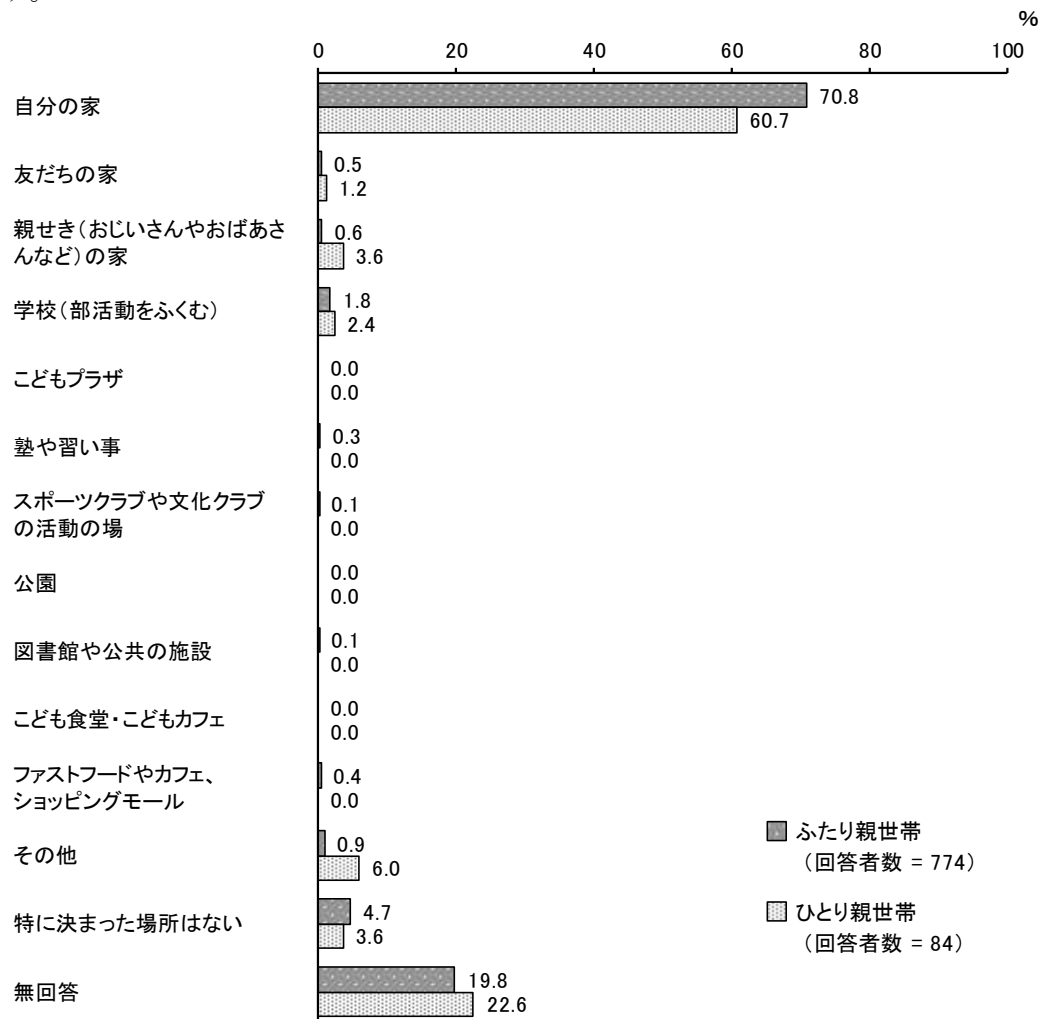
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「自分の家」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「自分の家」の割合が高くなっています。

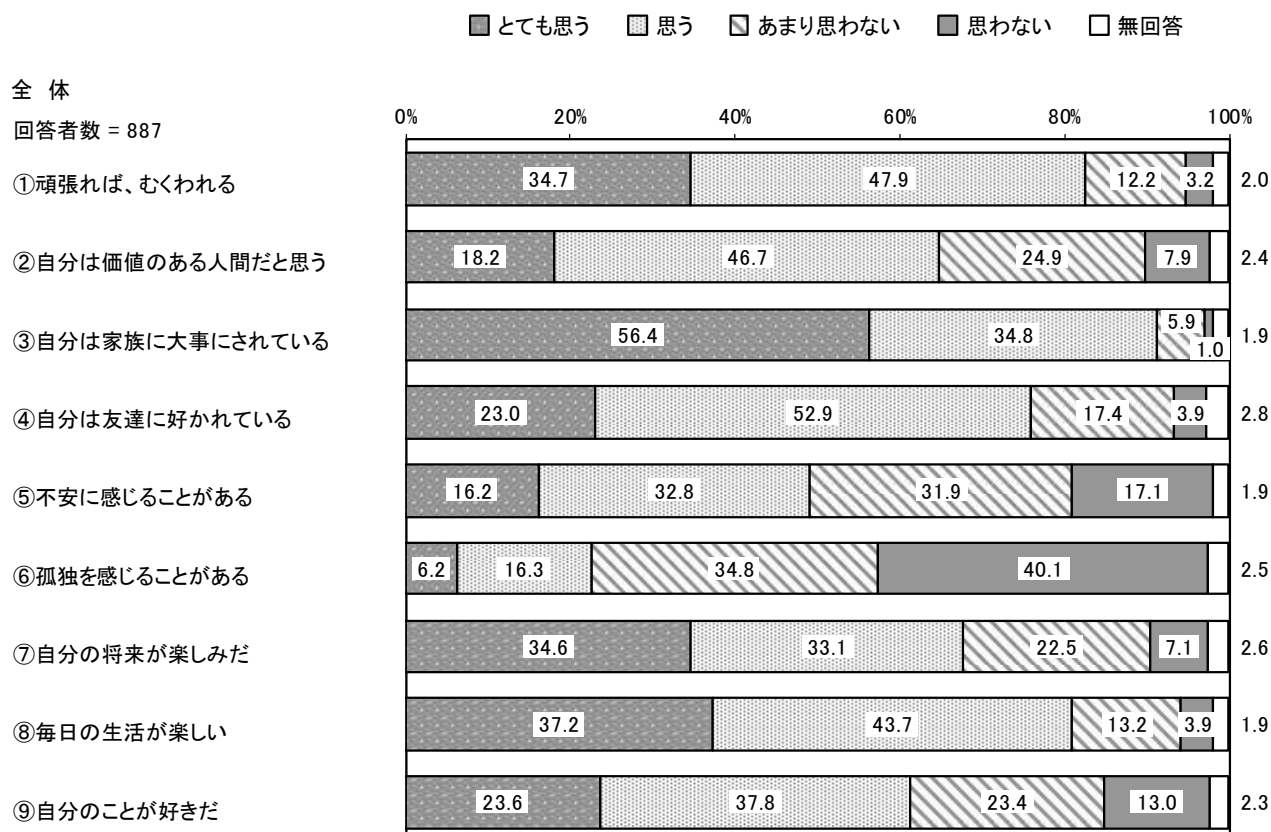


(5) ふだん考えていることについて

問 15 次のことについて、あなたの思いや気持ちにもっとも近いものを教えてください。(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

『①頑張れば、むくわれる』『③自分は家族に大事にされている』『⑧毎日の生活が楽しい』で「とても思う」と「思う」をあわせた“思う”の割合が高く、8割以上となっています。

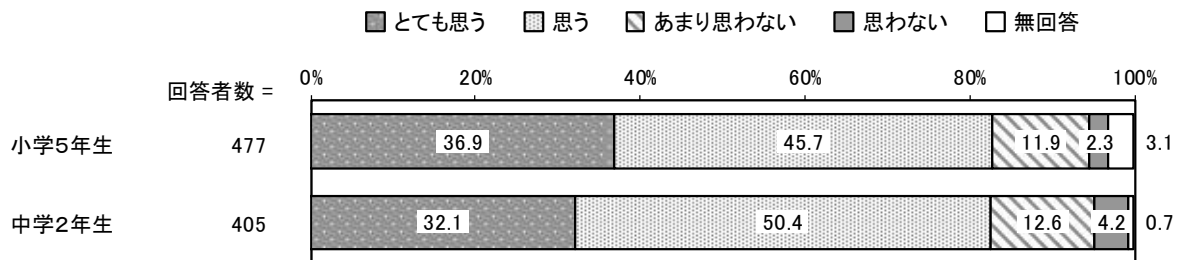
また、『⑥孤独を感じることもある』で「あまり思わない」と「思わない」をあわせた“思わない”の割合が高く、7割半ばとなっています。



①頑張れば、むくわれる

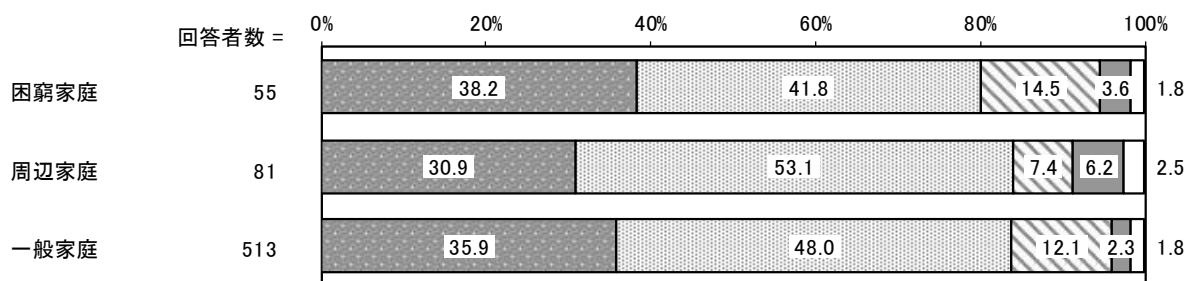
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



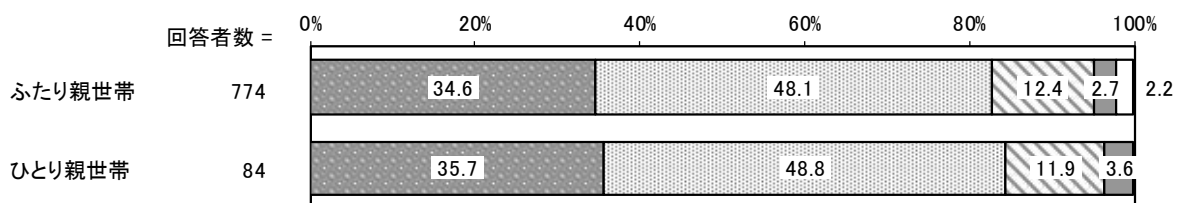
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

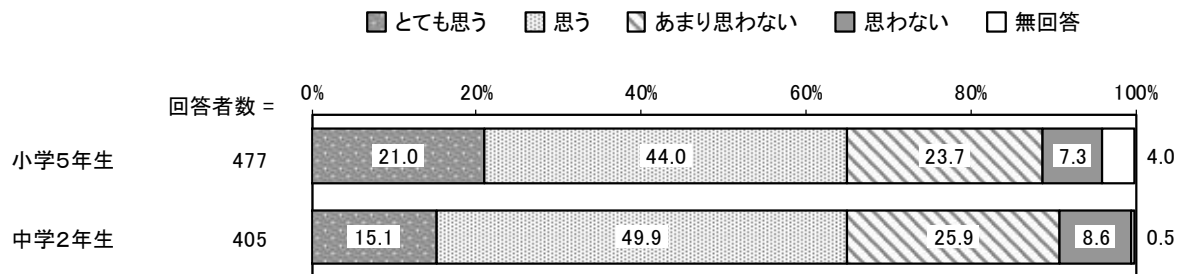
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



②自分は価値のある人間だと思う

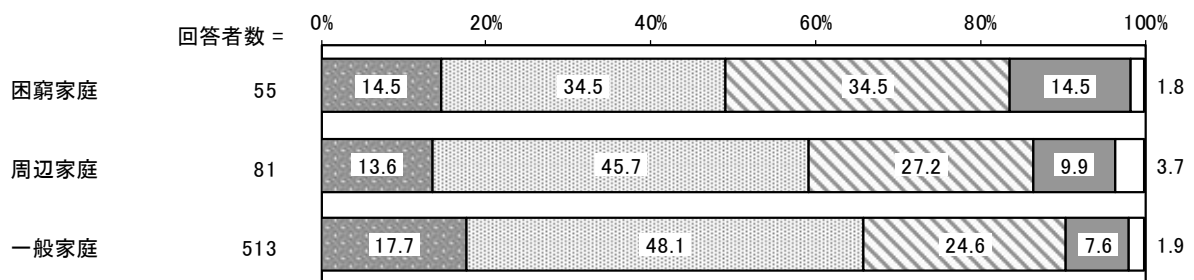
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「とても思う」の割合が高くなっています。
また、小学5年生に比べ、中学2年生で「思う」の割合が高くなっています。



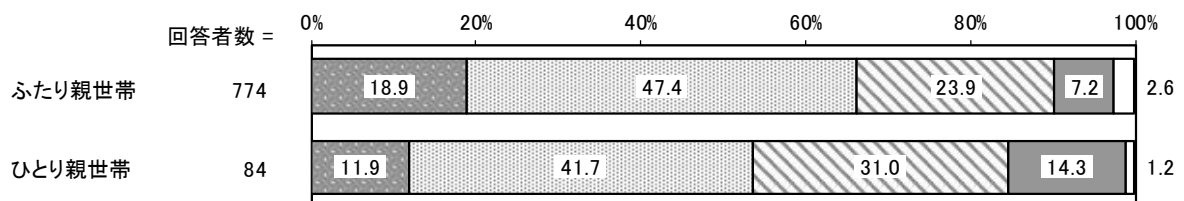
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

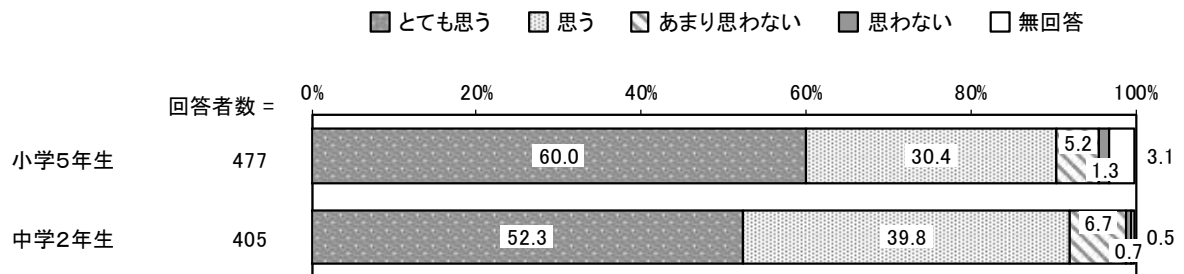
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



③自分は家族に大事にされている

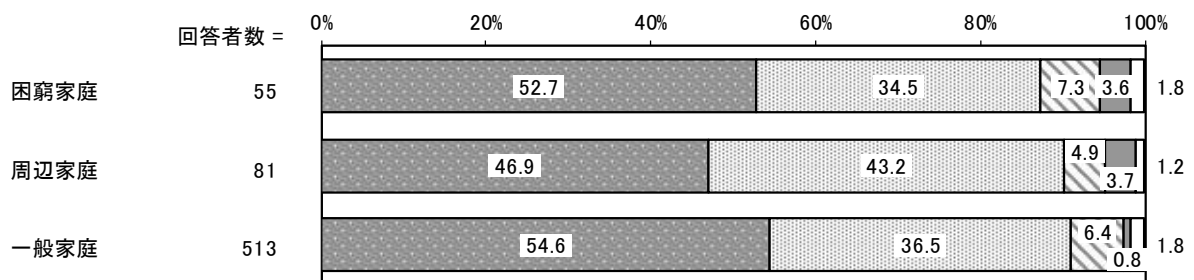
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「とても思う」の割合が高くなっています。
また、小学5年生に比べ、中学2年生で「思う」の割合が高くなっています。



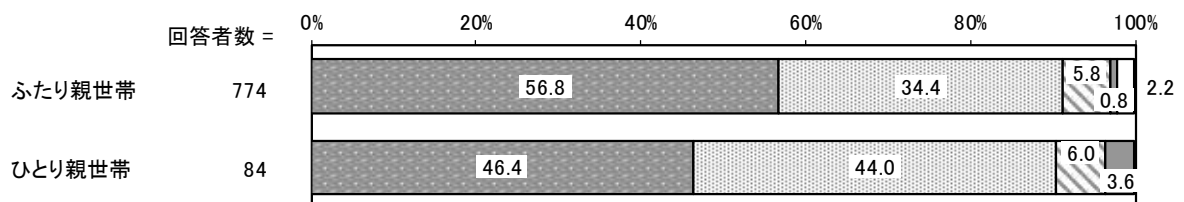
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

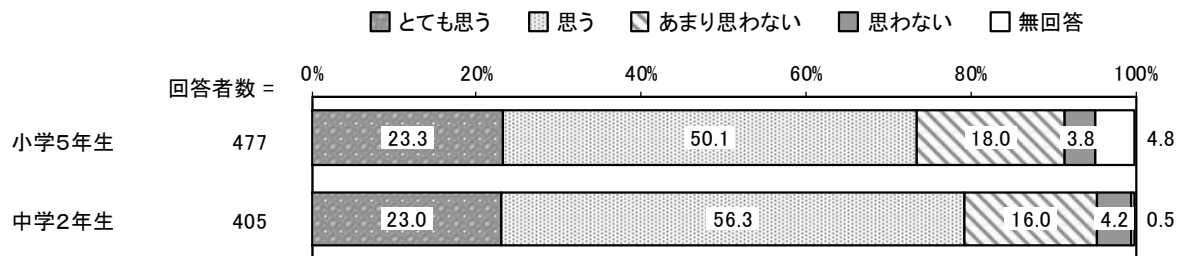
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「とても思う」の割合が高くなっています。



④自分は友達に好かれている

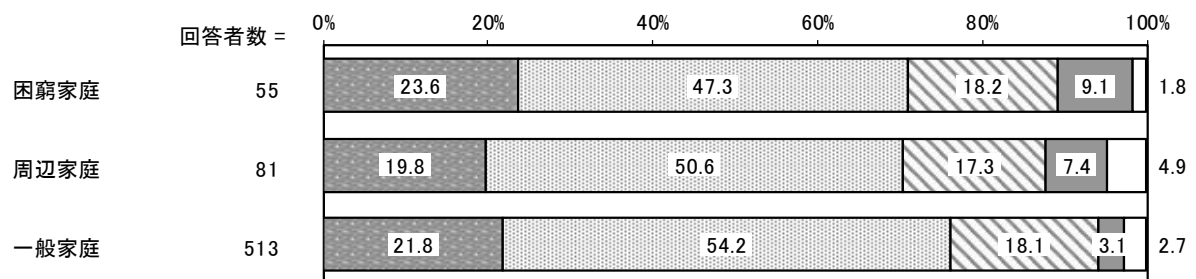
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で“思う”の割合が高くなっています。



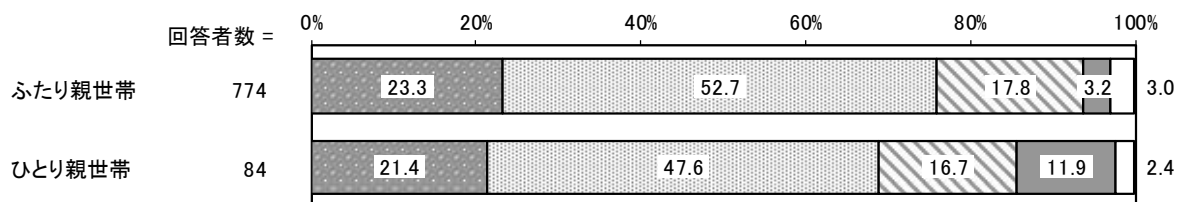
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

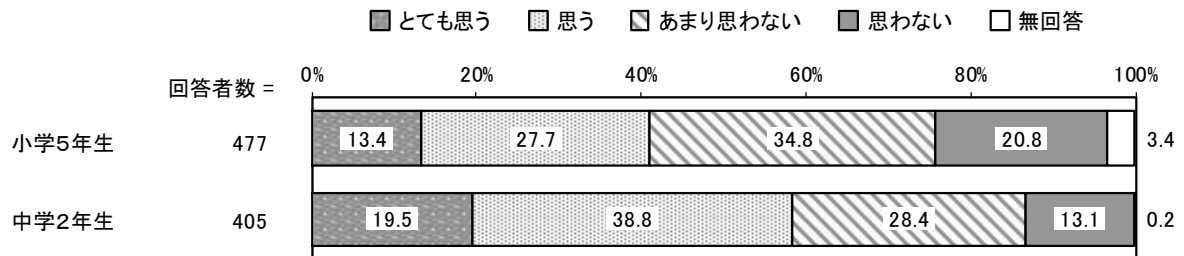
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



⑤不安に感じることもある

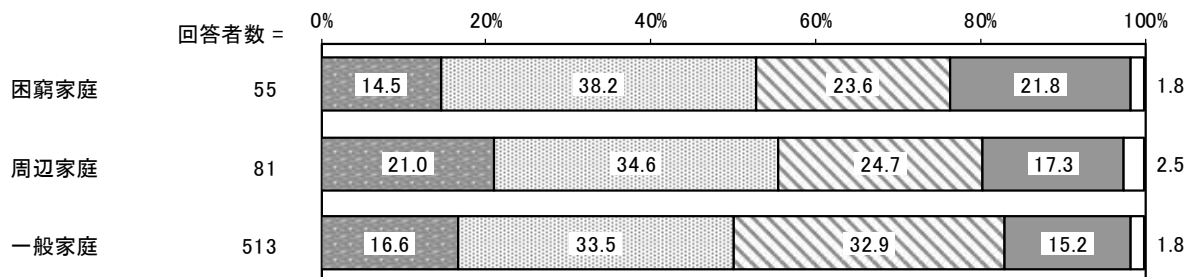
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で“思う”の割合が高くなっています。



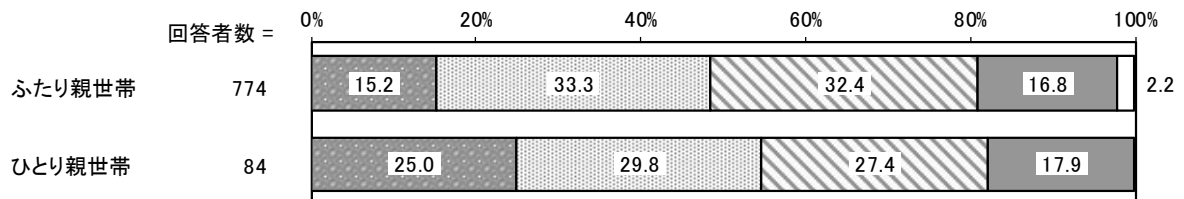
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で“思う”の割合が、一般家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

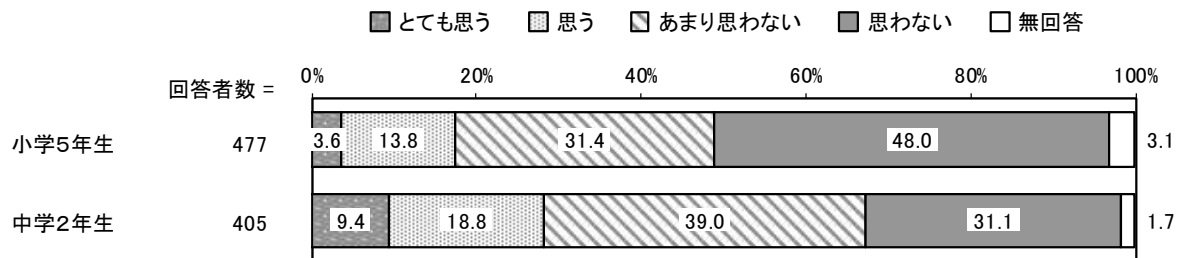
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思う”の割合が高くなっています。



⑥孤独を感じることもある

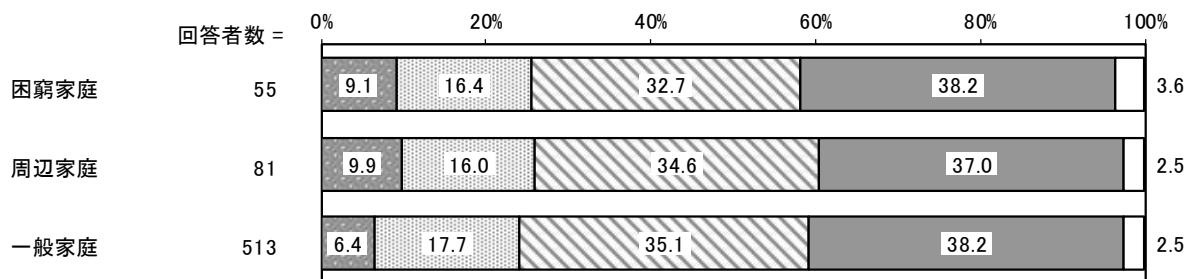
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で“思う”の割合が高くなっています。



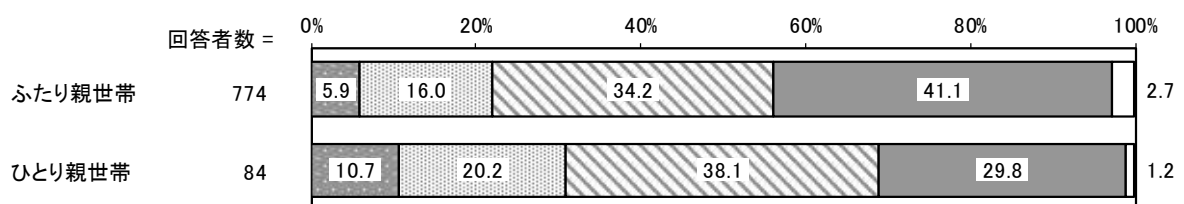
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

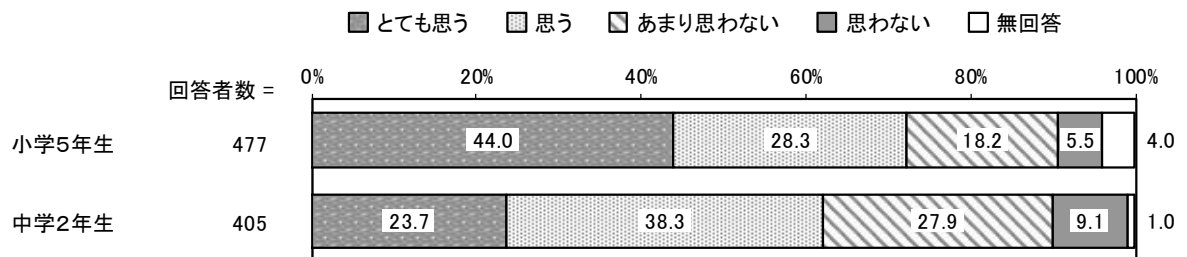
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思う”の割合が高くなっています。



⑦自分の将来が楽しみだ

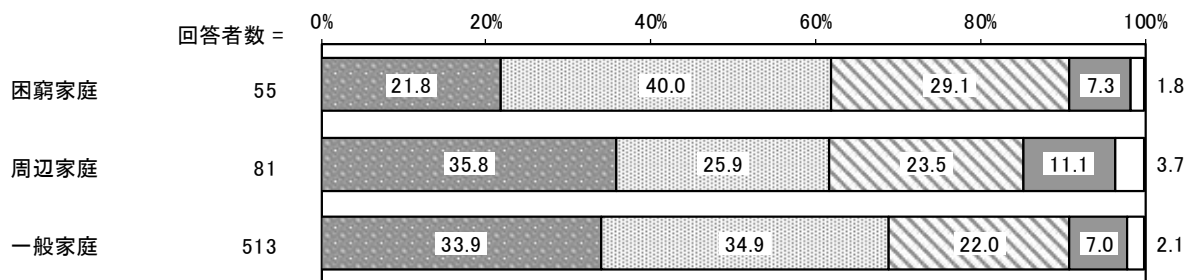
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で“思う”の割合が高くなっています。



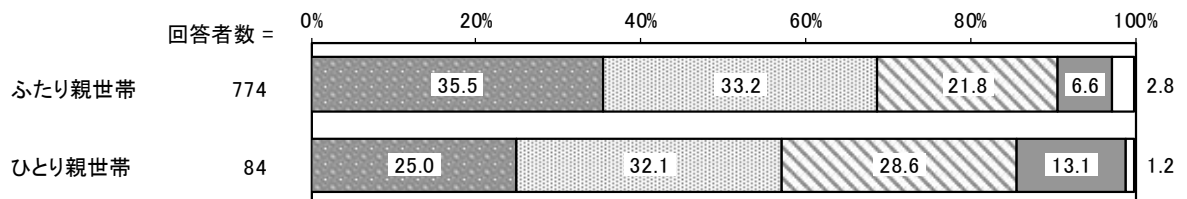
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

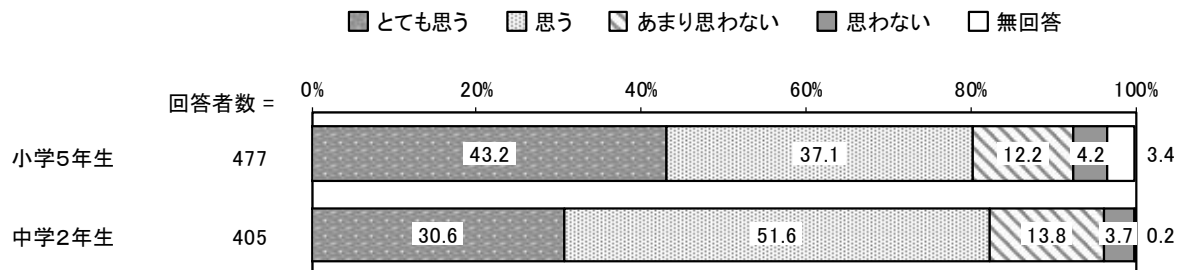
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



⑧毎日の生活が楽しい

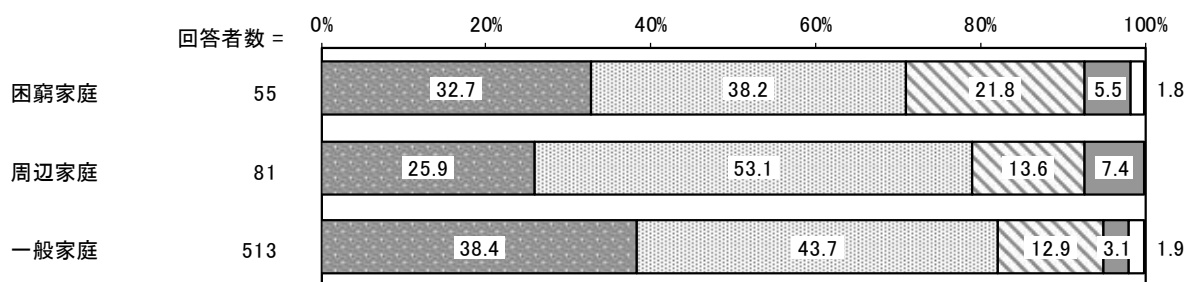
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「とても思う」の割合が高くなっています。
また、小学5年生に比べ、中学2年生で「思う」の割合が高くなっています。



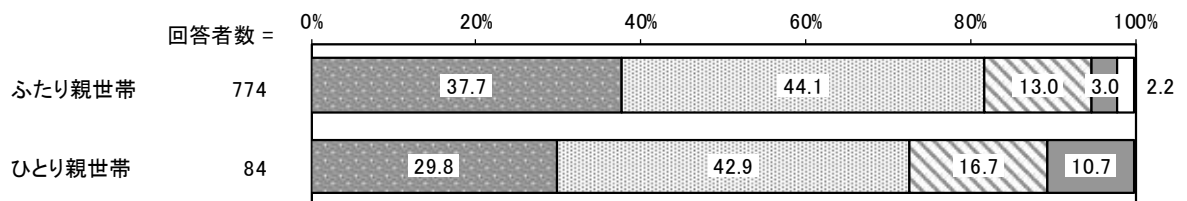
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

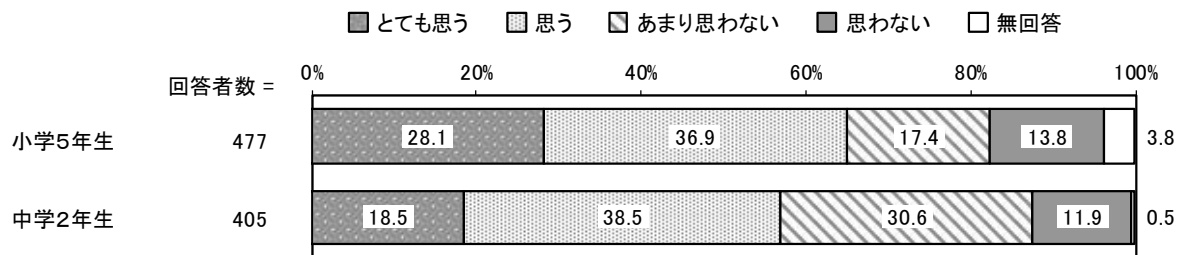
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



⑨自分のことが好きだ

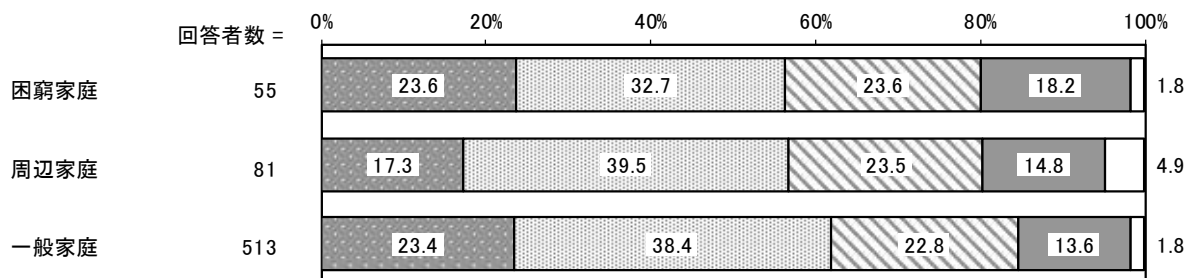
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で“思う”の割合が高くなっています。



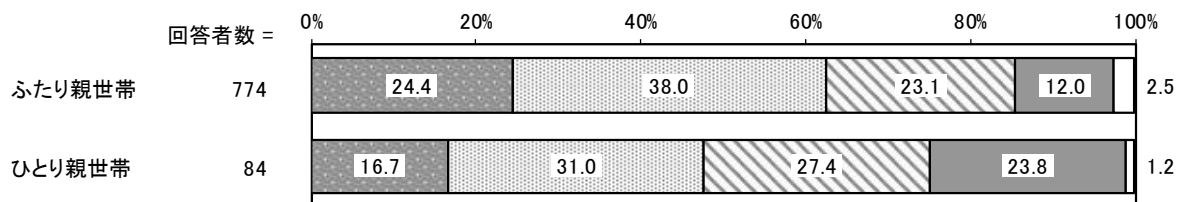
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



問 16 次のことについて、あなたの過去半年くらいのことを考えて、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから選んでください。答えに自信がなくても、その質問がばからしいと思えたとしても、できるだけ全部の質問に答えてください。(①～⑮それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

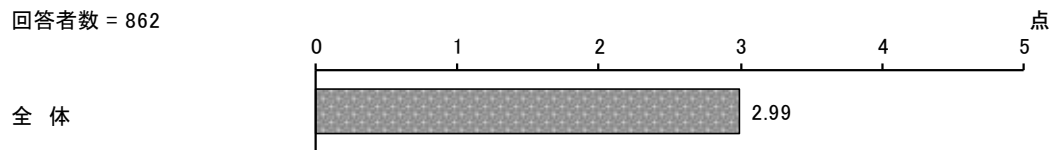
子どもの心理的な状態に関して、「強さと困難さアンケート (SDQ: Strengths and Difficulties Questionnaire)」の調査項目のうち、「情緒の問題」、「仲間関係の問題」、「向社会性」を把握するための項目をそれぞれに5つずつ設定しました。

(1) 情緒の問題

- ②私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする。
- ⑤私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- ⑧私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- ⑩私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- ⑮私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

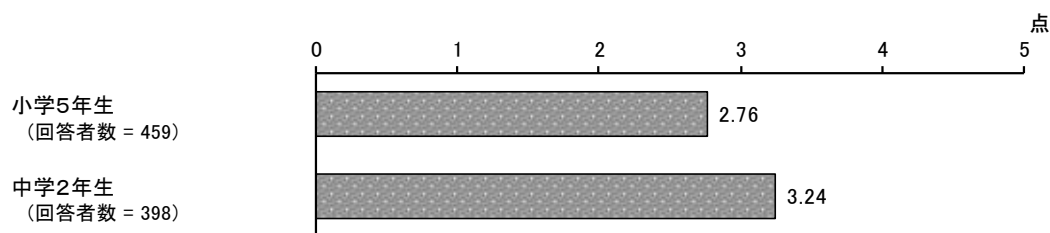
「情緒の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した (0～10 点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる)。全体の平均値は 2.99 となっています。

回答者数 = 862



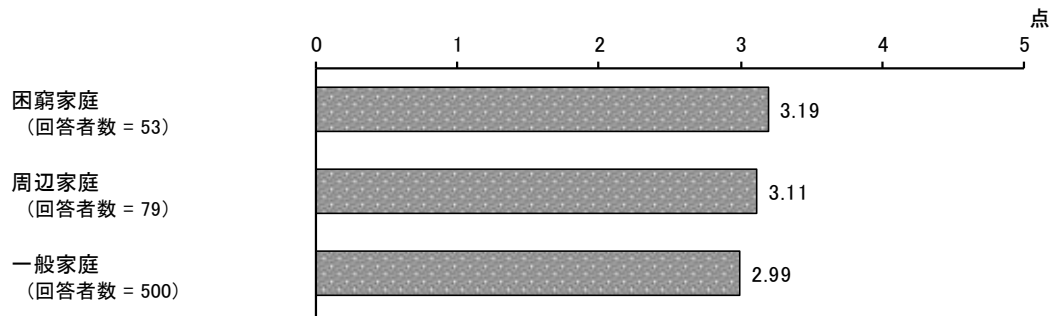
【学年別】

学年別でみると、「情緒の問題」の平均値は、小学5年生では 2.76 点、中学2年生では 3.24 点と、中学2年生で平均値が高くなっています。



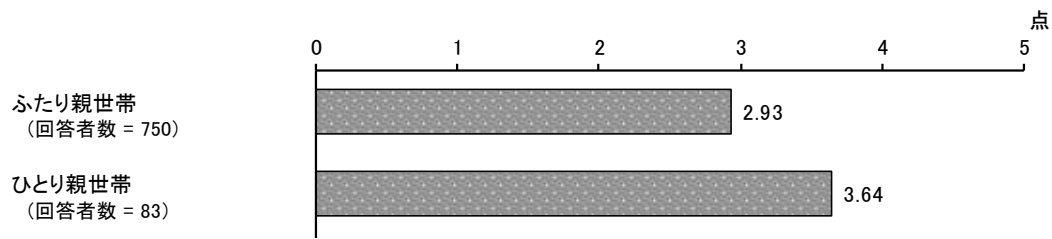
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、「情緒の問題」の平均値は、困窮家庭では 3.19 点、周辺家庭では 3.11 点、一般家庭では 2.99 点と、困窮家庭で平均値が高くなっています。



【世帯状況別】

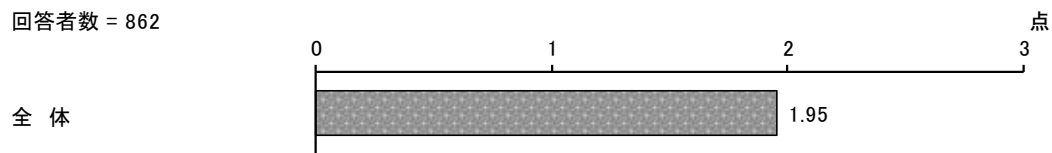
世帯状況別でみると、「情緒の問題」の平均値は、「ふたり親世帯」では 2.93 点、「ひとり親世帯」では 3.64 点と、ひとり親世帯で平均値が高くなっています。



(2) 仲間関係の問題

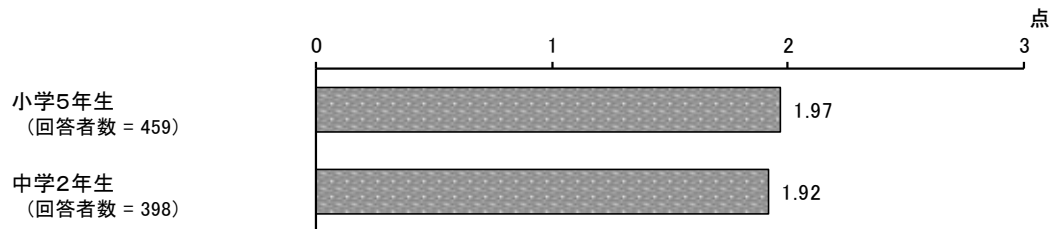
- ④私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
- ⑦私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。
- ⑨私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたい好かれている。
- ⑫私は、ほかの子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。
- ⑭私は、ほかの子どもたちより、大人という方がうまくいく。

「仲間関係の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。全体の平均値は 1.95 となっています。



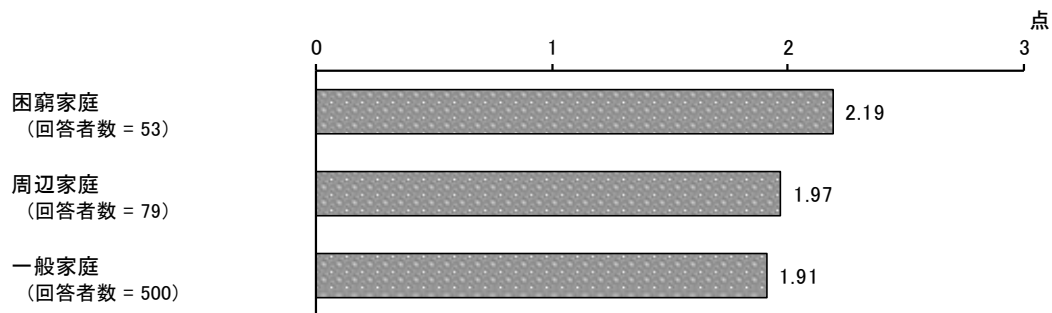
【学年別】

学年別でみると、「仲間関係の問題」の平均値は、小学5年生では 1.97 点、中学2年生では 1.92 点と、大きな差異はみられません。



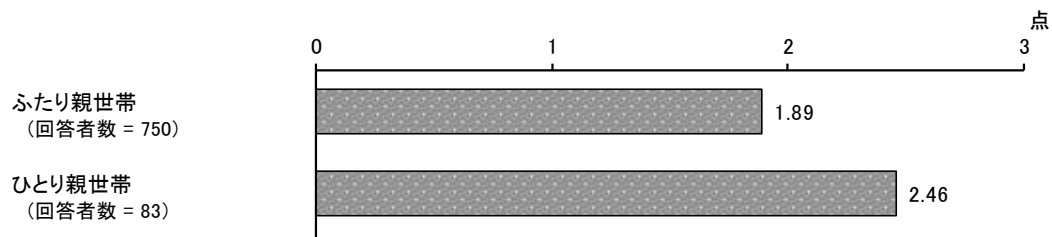
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、「仲間関係の問題」の平均値は、困窮家庭では 2.19 点、周辺家庭では 1.97 点、一般家庭では 1.91 点と、困窮家庭で平均値が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、「仲間関係の問題」の平均値は、「ふたり親世帯」では 1.89 点、「ひとり親世帯」では 2.46 点と、ひとり親世帯で平均値が高くなっています。

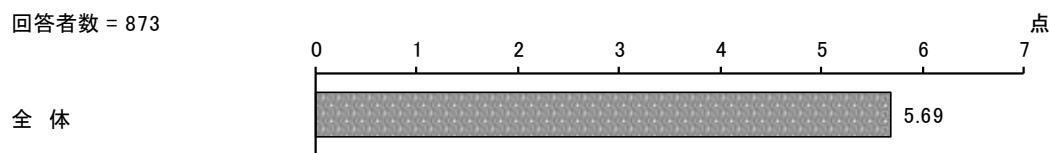


(3) 向社会性

- ①私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。
- ③私は、ほかの子どもたちと、よく分け合う
- ⑥私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。
- ⑪私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。
- ⑬私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・友だちなどに対して）。

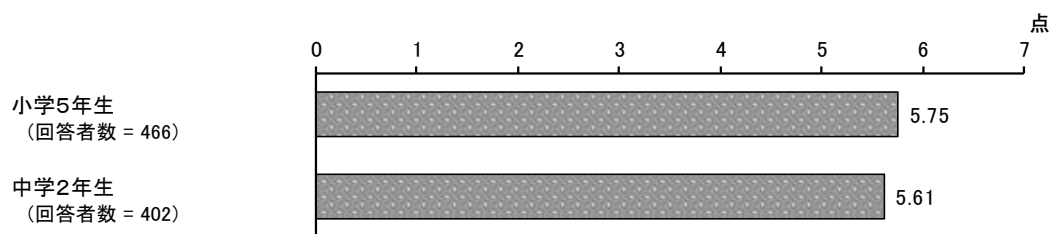
「向社会性」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。全体の平均値は5.69となっています。

回答者数 = 873



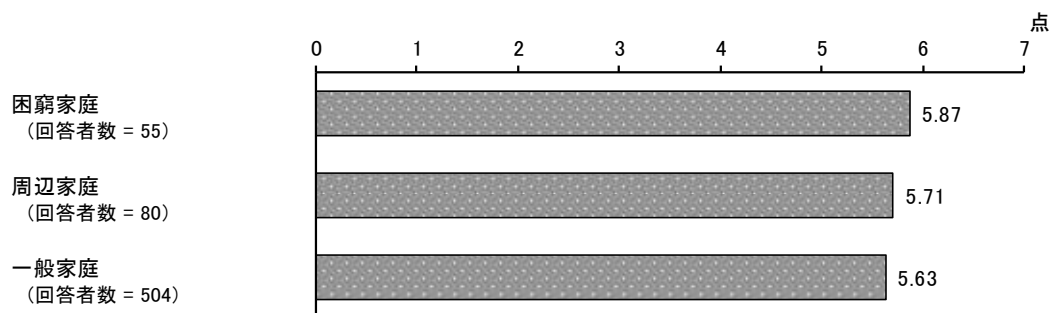
【学年別】

学年別でみると、「向社会性」の平均値は、小学5年生では5.75点、中学2年生では5.61点と、小学5年生で平均値が高くなっています。



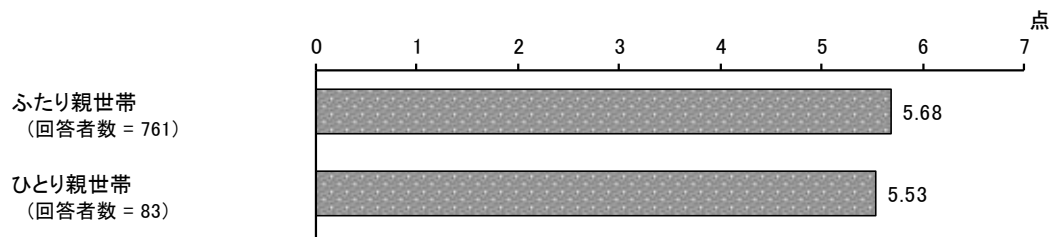
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、「向社会性」の平均値は、困窮家庭では5.87点、周辺家庭では5.71点、一般家庭では5.63点と、困窮家庭で平均値が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、「向社会性」の平均値は、「ふたり親世帯」では 5.68 点、「ひとり親世帯」では 5.53 点と、ふたり親世帯で平均値が高くなっています。



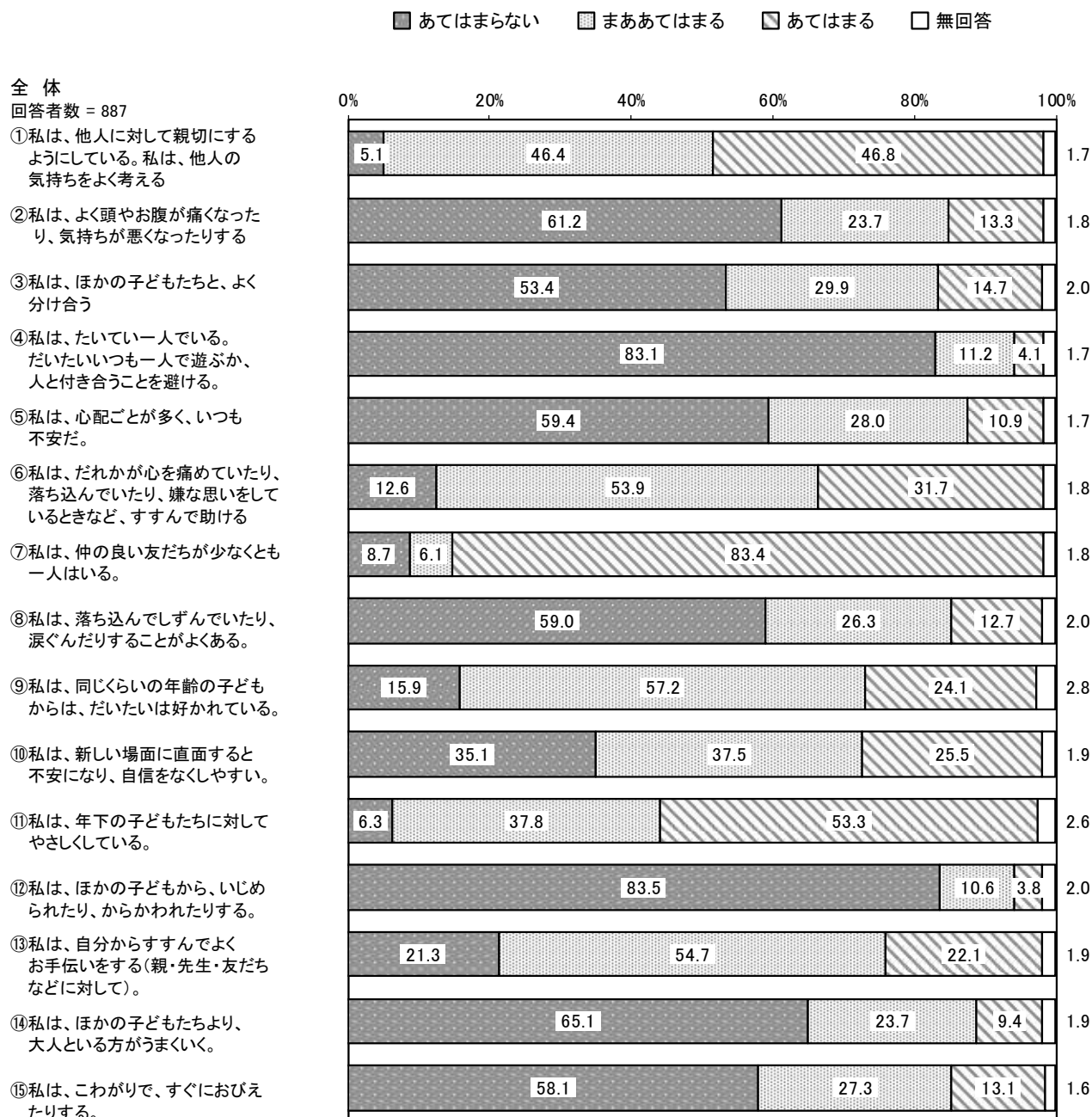
＜項目別の回答状況＞

『④私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。』

『⑫私は、ほかの子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。』で「あてはまらない」の割合が、『⑦私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。』で「あてはまる」の割合が高く、それぞれ8割を超えています。

また、『①私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。』

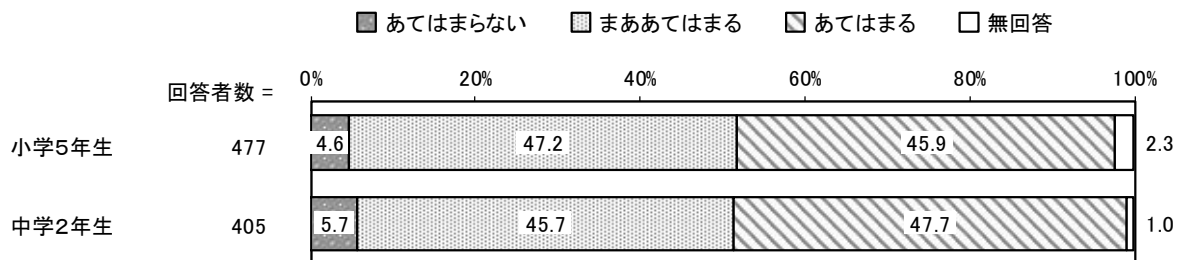
『⑪私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。』で「まああてはまる」「あてはまる」の割合が高く、あわせるとそれぞれ約9割となっています。



①私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。

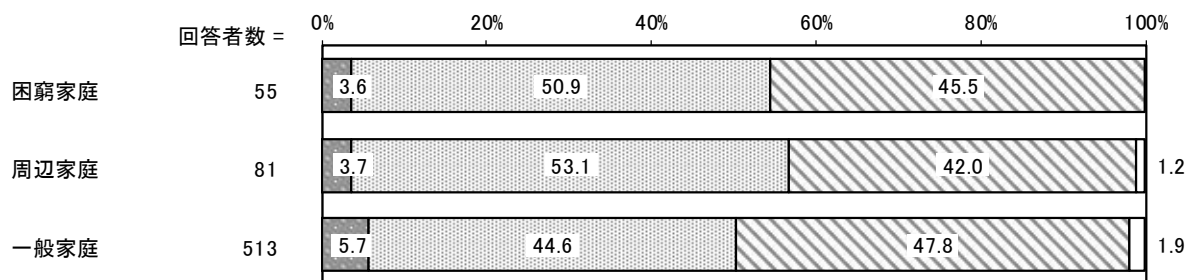
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



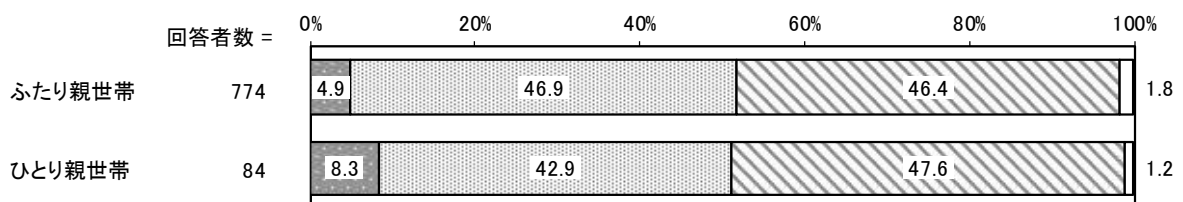
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

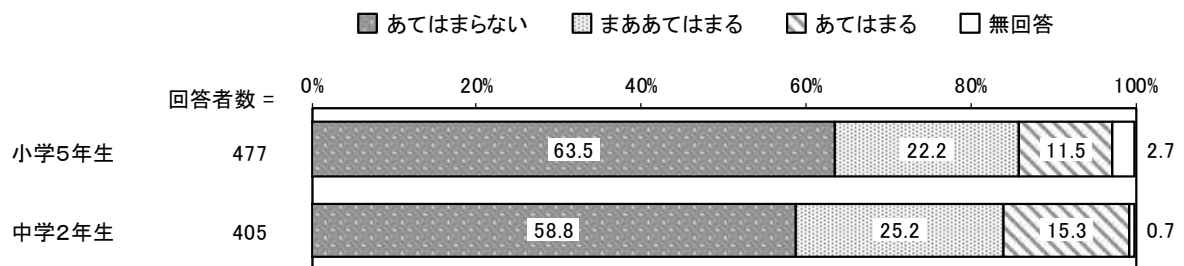
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



②私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする。

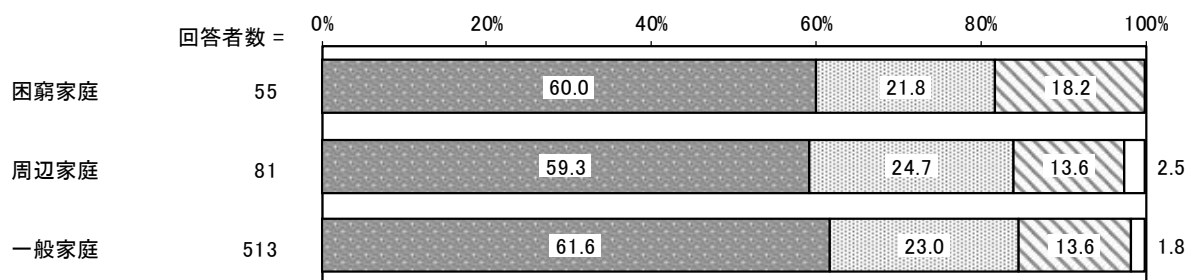
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



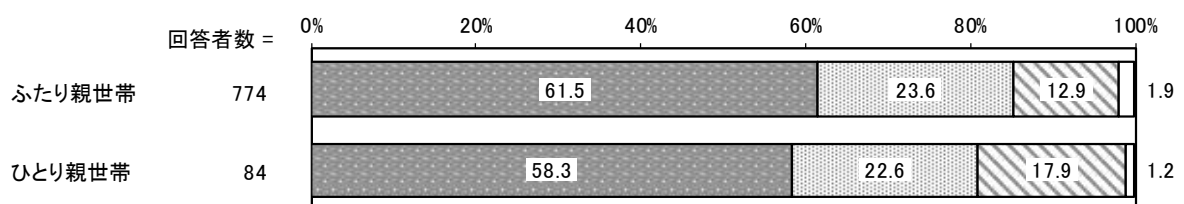
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

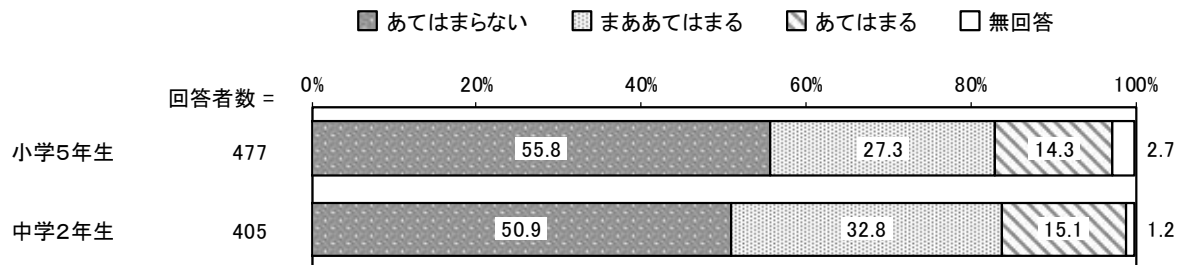
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



③私は、ほかの子どもたちと、よく分け合う。

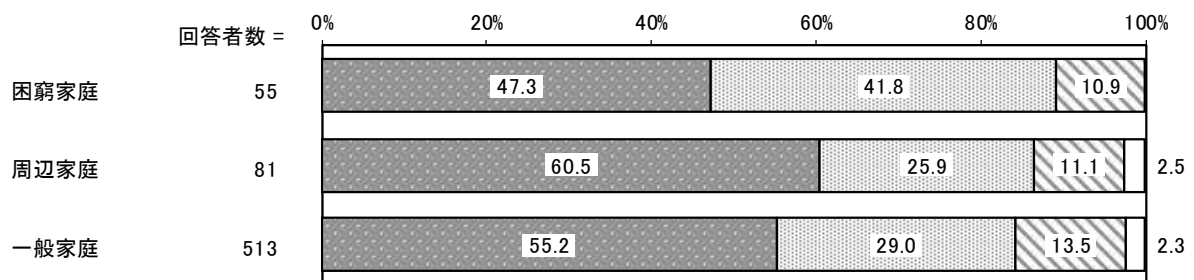
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



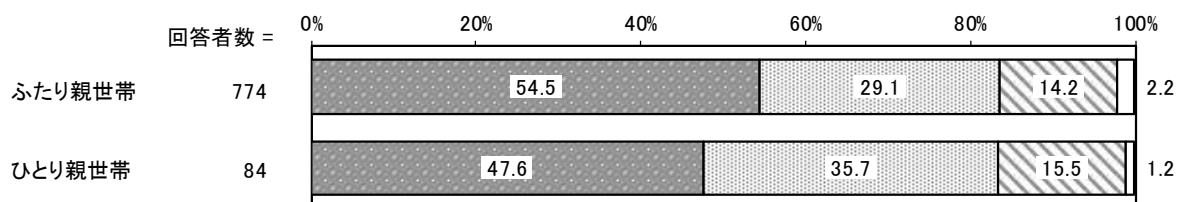
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「あてはまらない」の割合が、困窮家庭で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

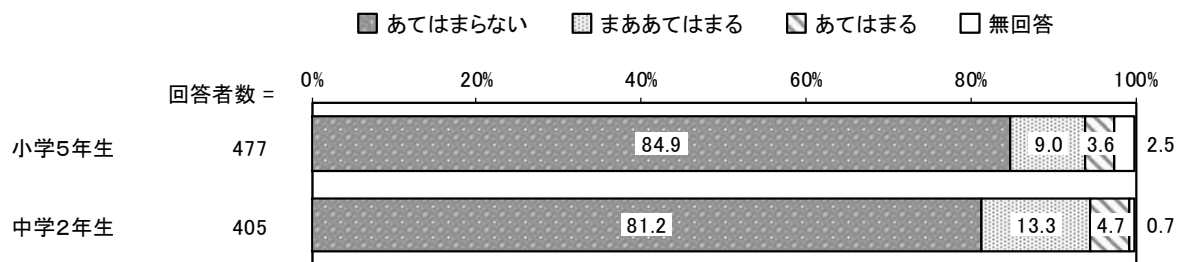
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が低く、「まああてはまる」の割合が高くなっています。



④私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。

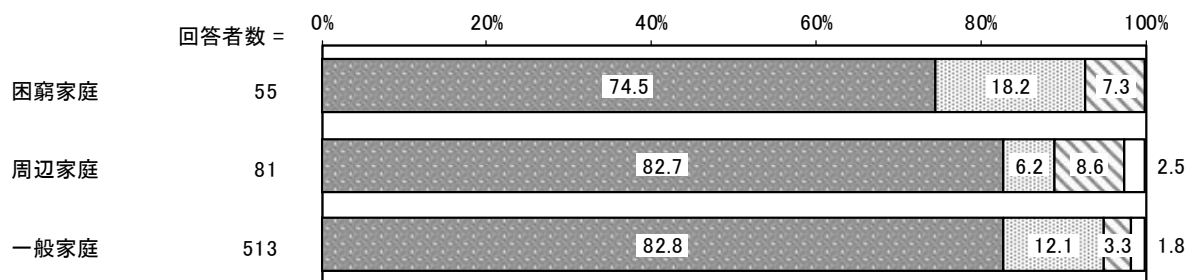
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



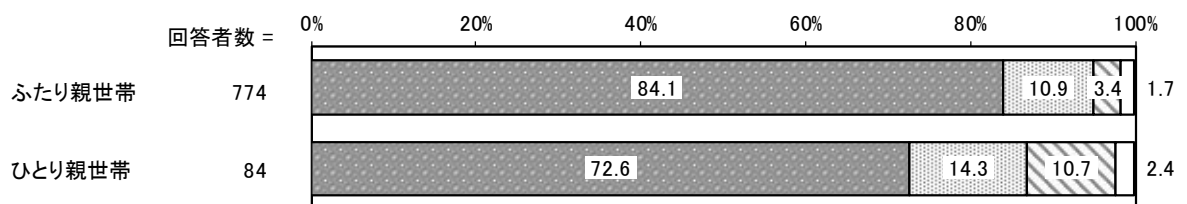
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で「あてはまらない」の割合が、困窮家庭で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

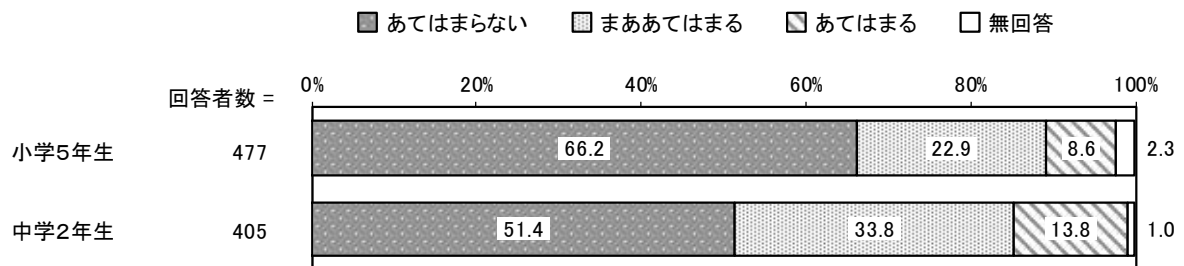
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が低く、「あてはまる」の割合が高くなっています。



⑤私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。

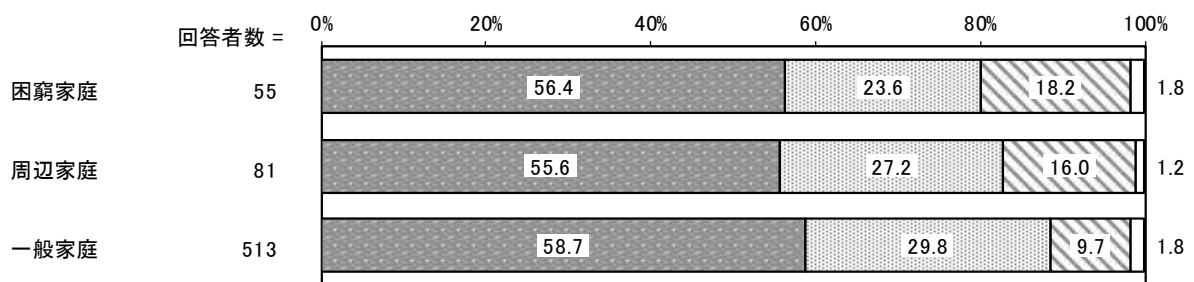
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「まああてはまる」「あてはまる」の割合が高くなっています。



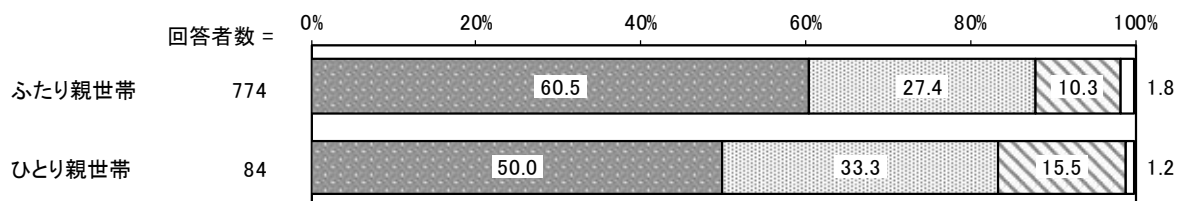
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、一般家庭に比べ、周辺家庭、困窮家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

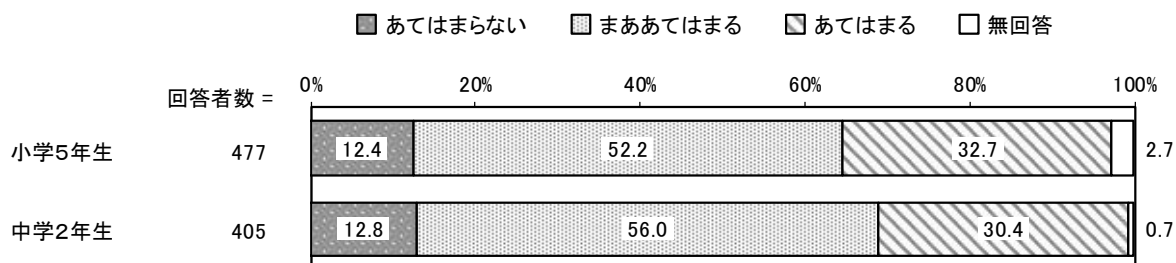
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が低く、「あてはまる」の割合が高くなっています。



⑥私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。

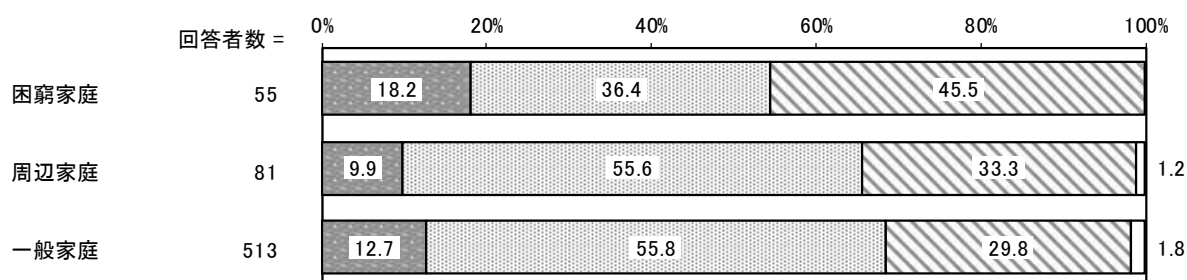
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



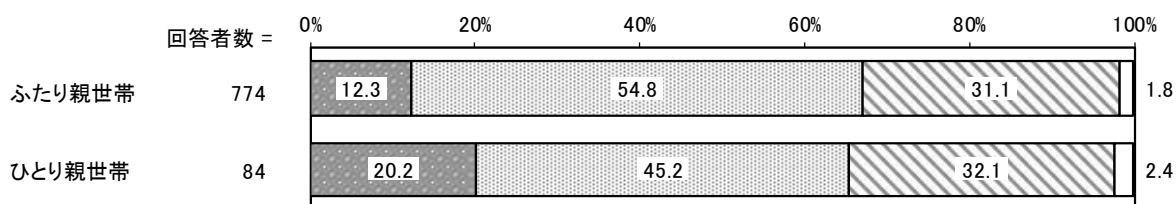
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あてはまらない」「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

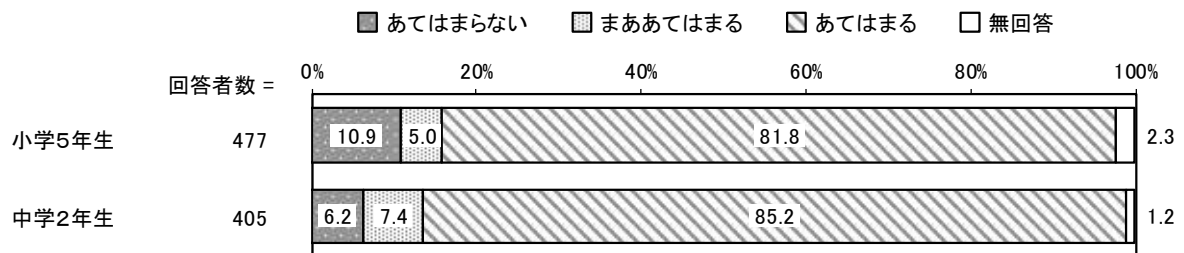
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



⑦私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。

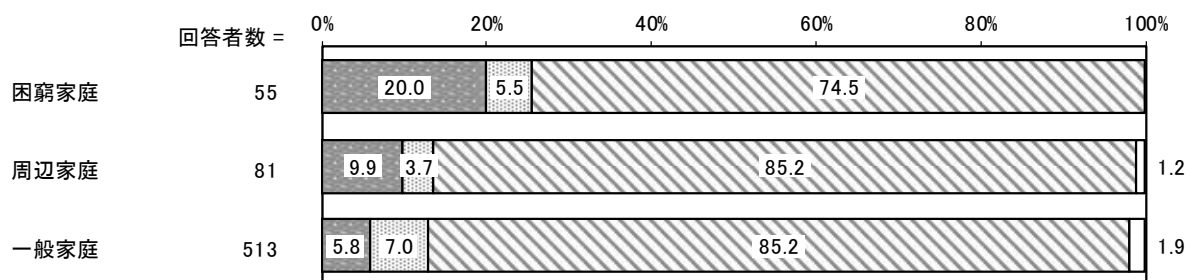
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



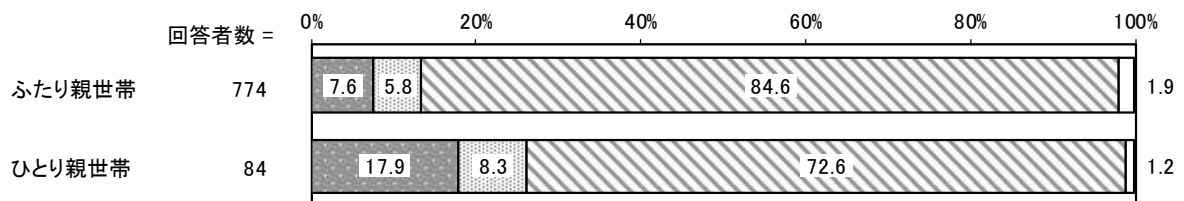
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あてはまらない」の割合が、周辺家庭、一般家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

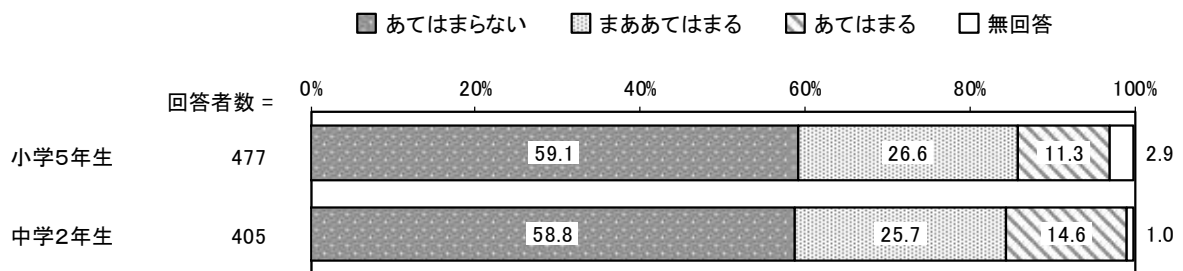
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高く、「あてはまる」の割合が低くなっています。



⑧私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。

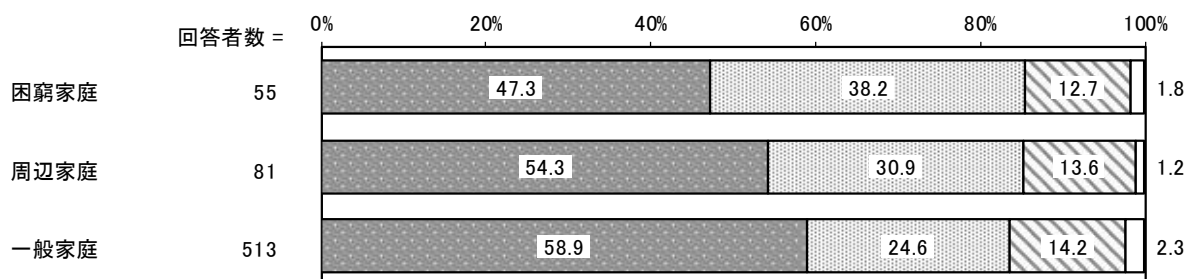
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



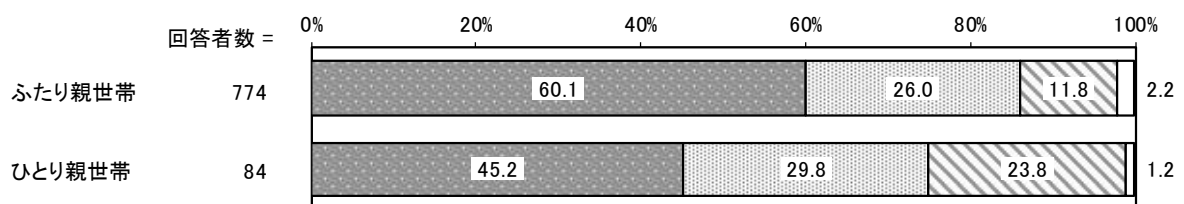
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「あてはまらない」の割合が、困窮家庭で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

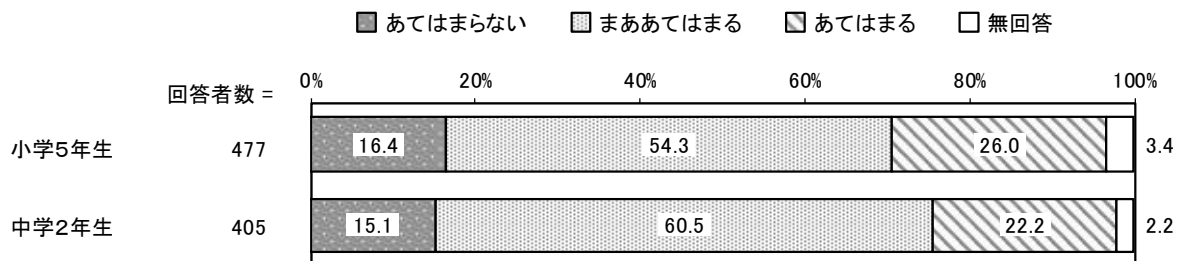
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が低く、「あてはまる」の割合が高くなっています。



⑨私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。

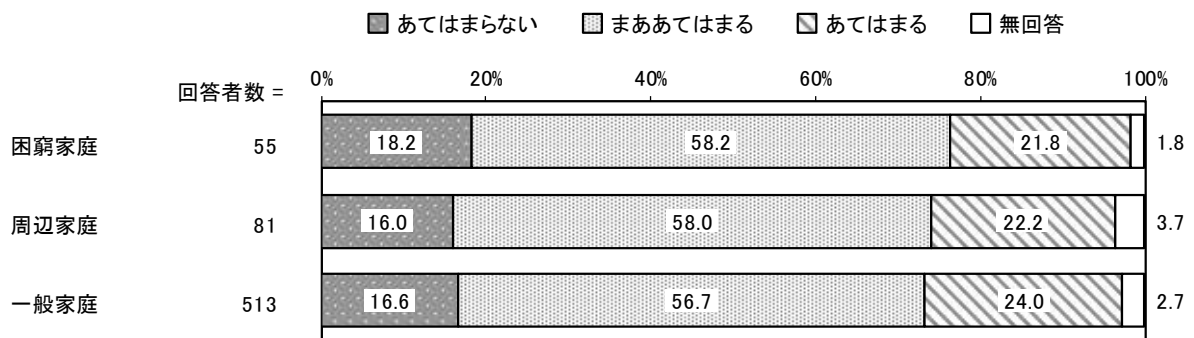
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



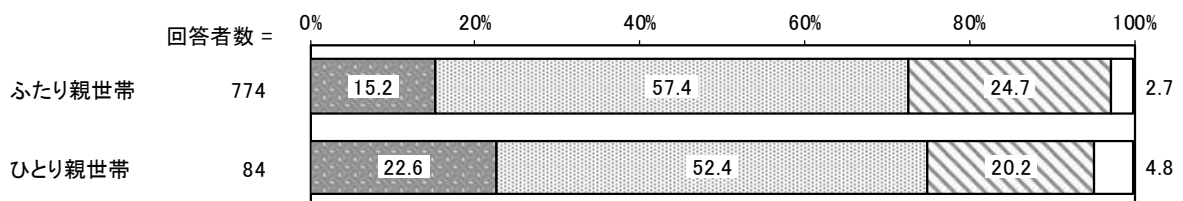
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

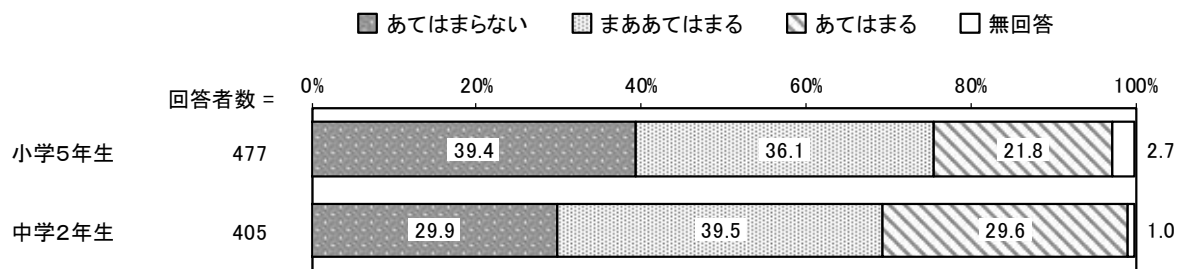
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



⑩私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。

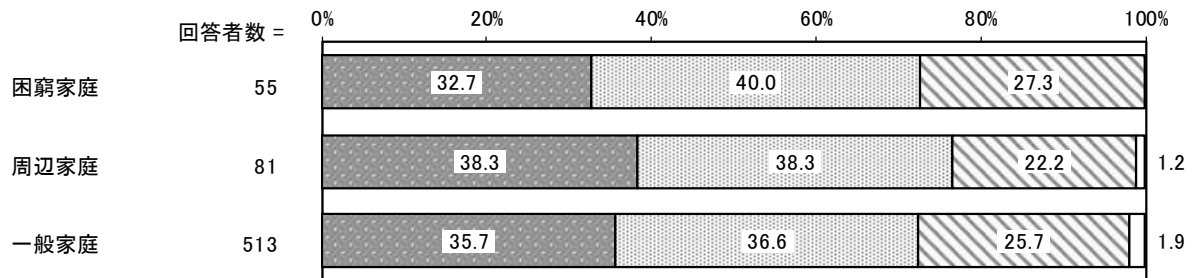
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「あてはまる」の割合が高くなっています。



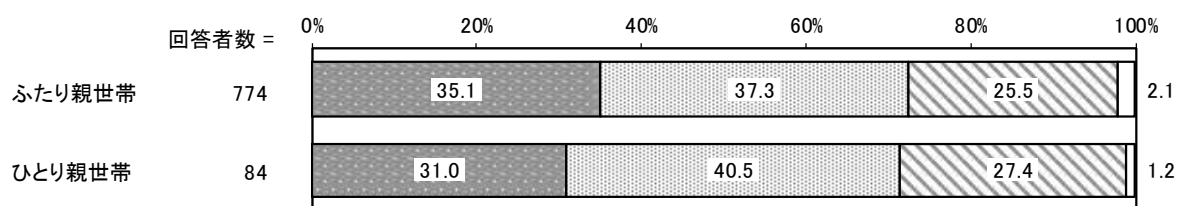
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「あてはまらない」の割合が、困窮家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

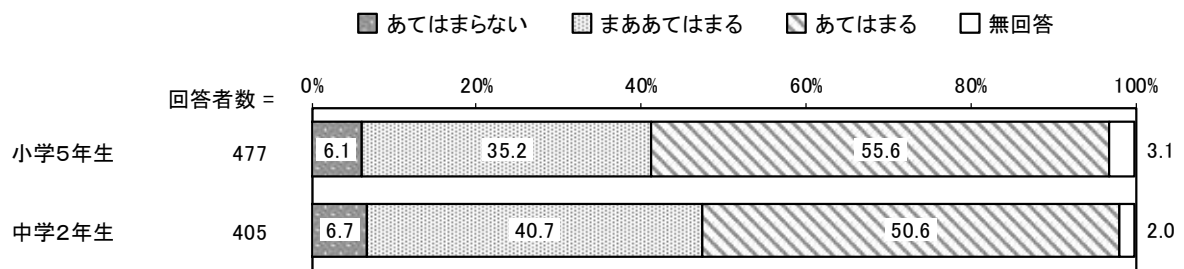
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



⑪私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。

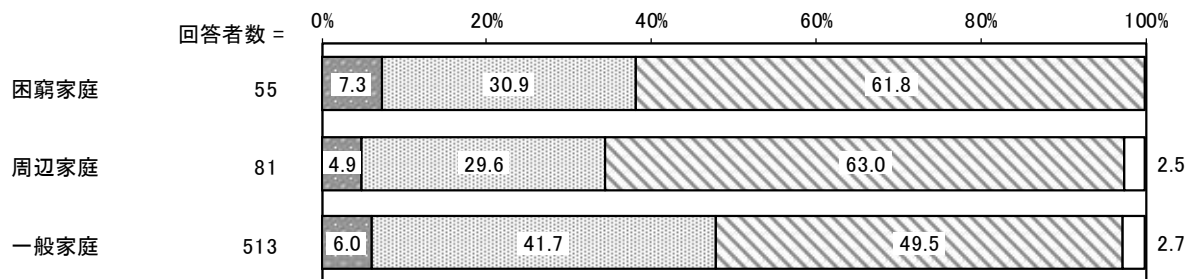
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「あてはまる」の割合が高くなっています。



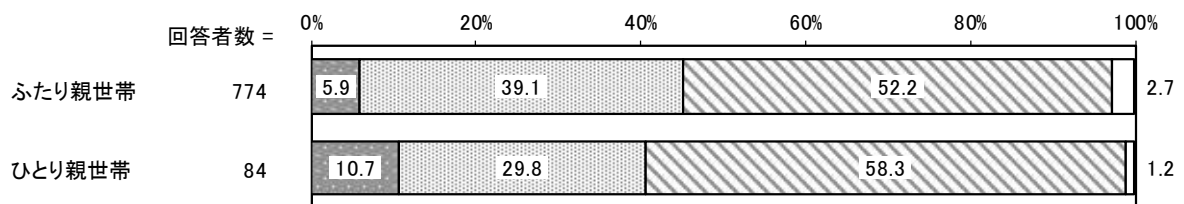
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、一般家庭に比べ、周辺家庭、困窮家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

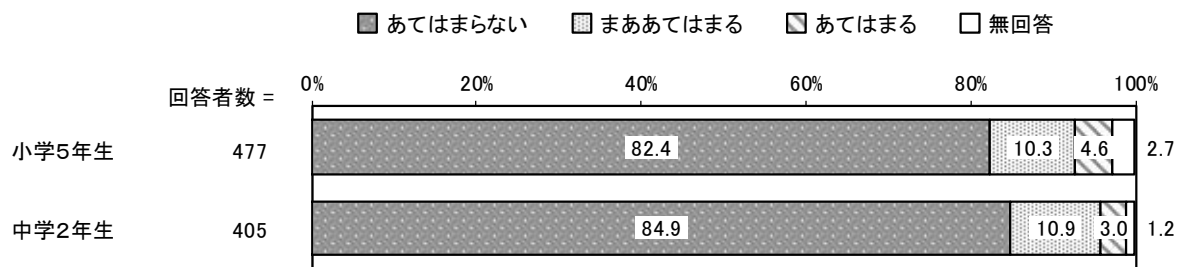
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



⑫私は、ほかの子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。

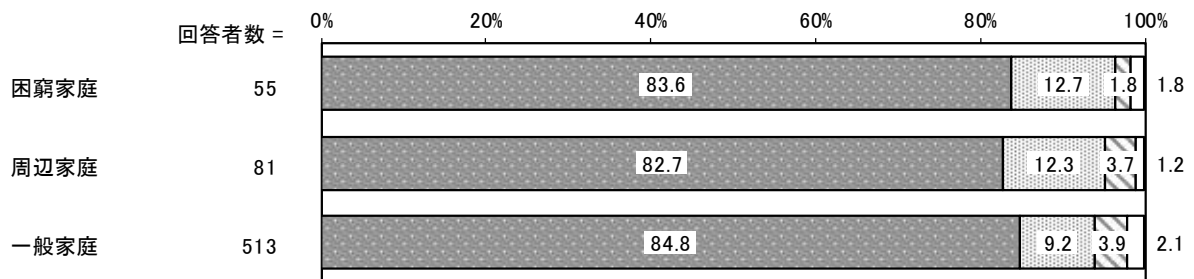
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



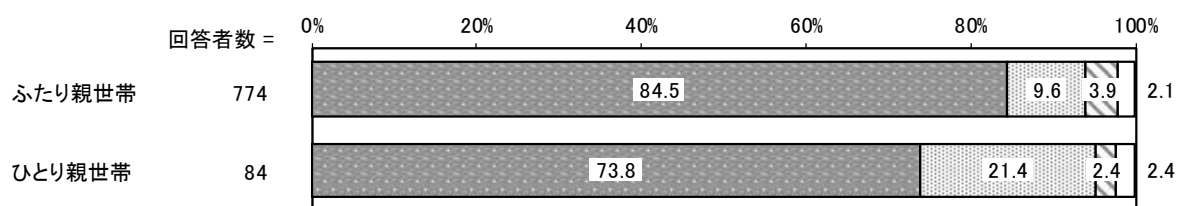
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

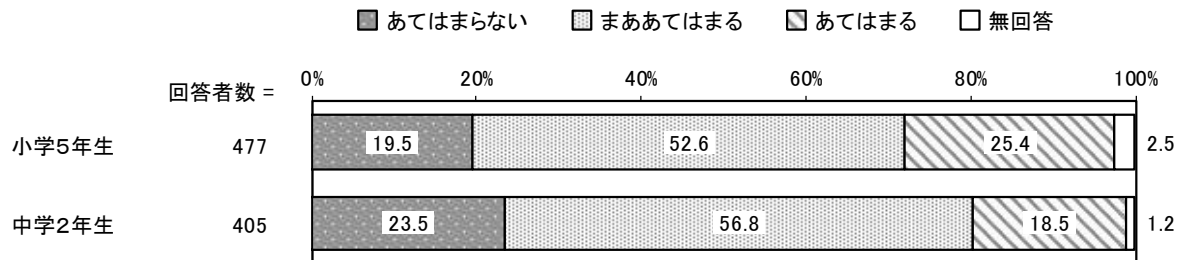
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が低く、「まああてはまる」の割合が高くなっています。



⑬私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・友だちなどに対して）。

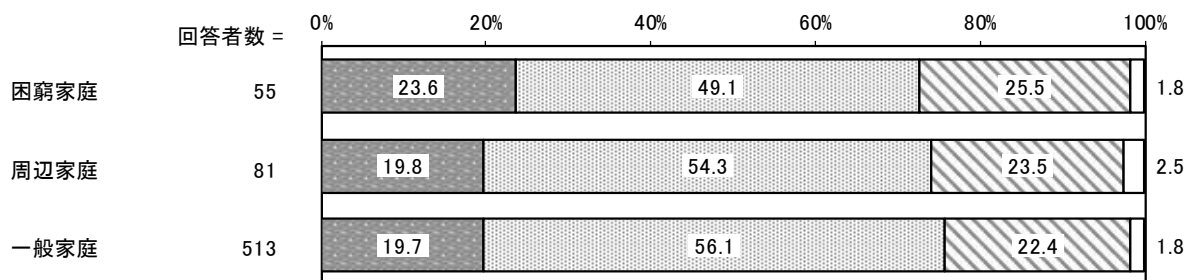
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「あてはまる」の割合が高くなっています。



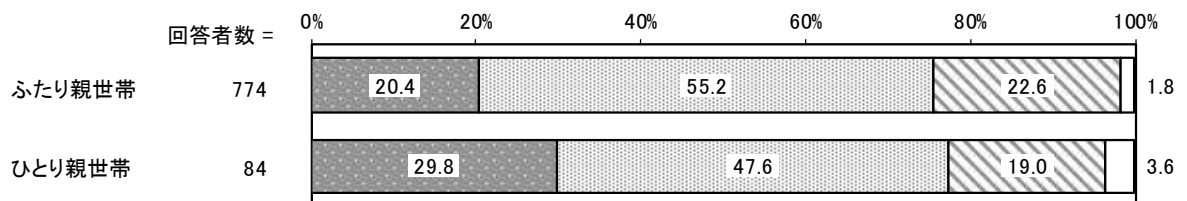
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あてはまらない」の割合が、周辺家庭、一般家庭で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

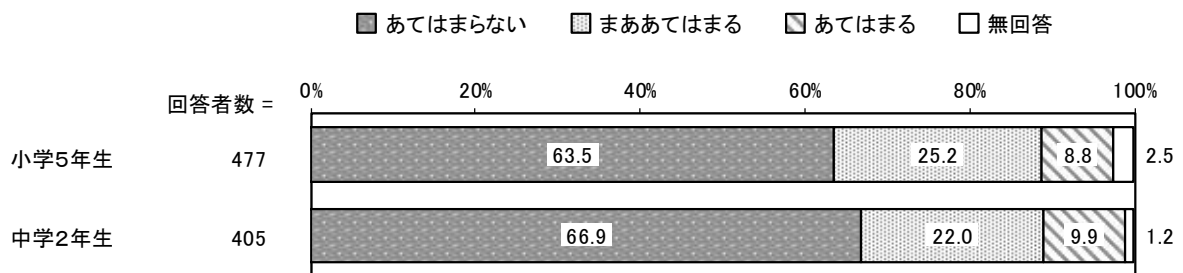
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



⑭私は、ほかの子どもたちより、大人という方がうまくいく。

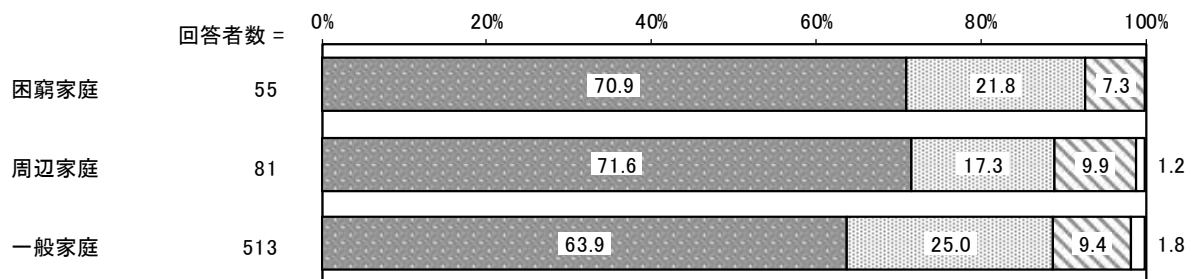
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



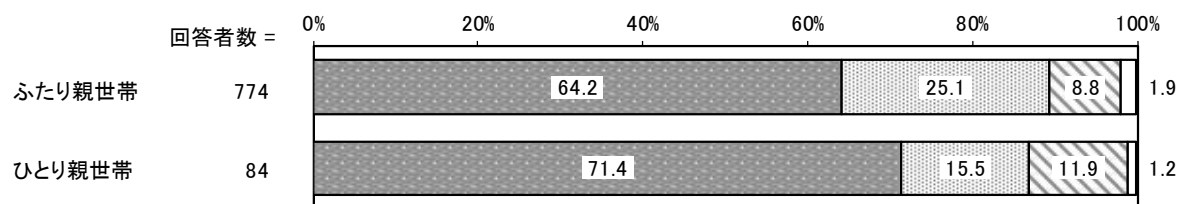
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭、周辺家庭で「あてはまらない」の割合が、一般家庭で「まああてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

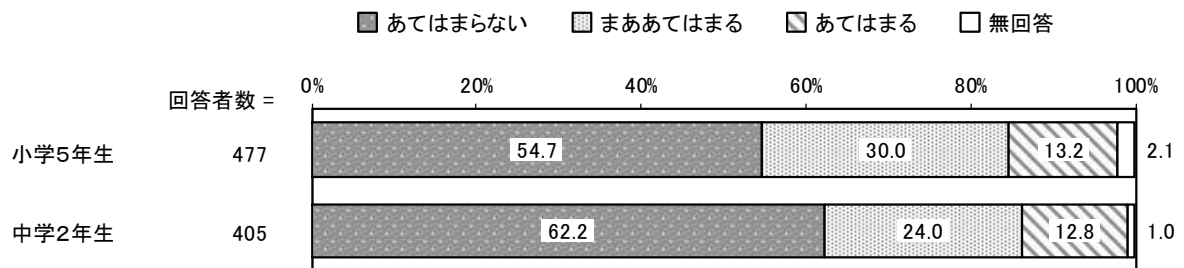
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



⑮私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

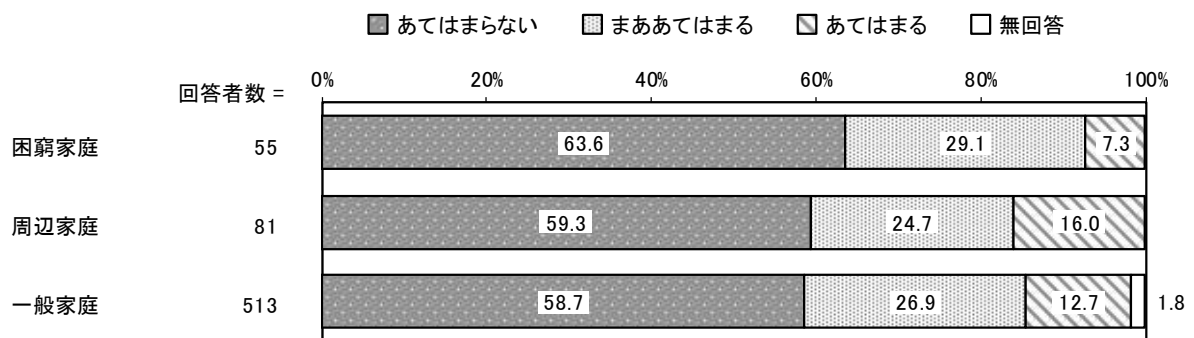
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「まああてはまる」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



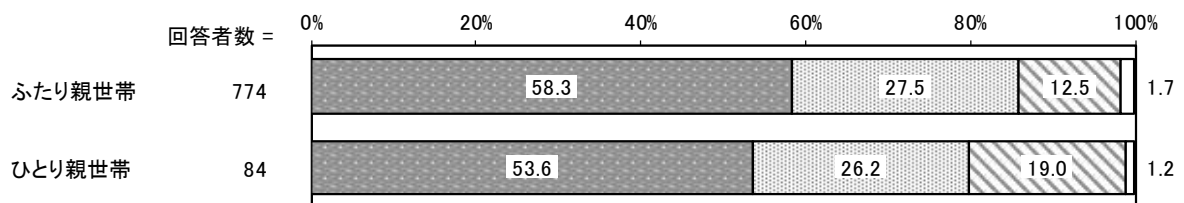
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あてはまらない」の割合が、周辺家庭で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。

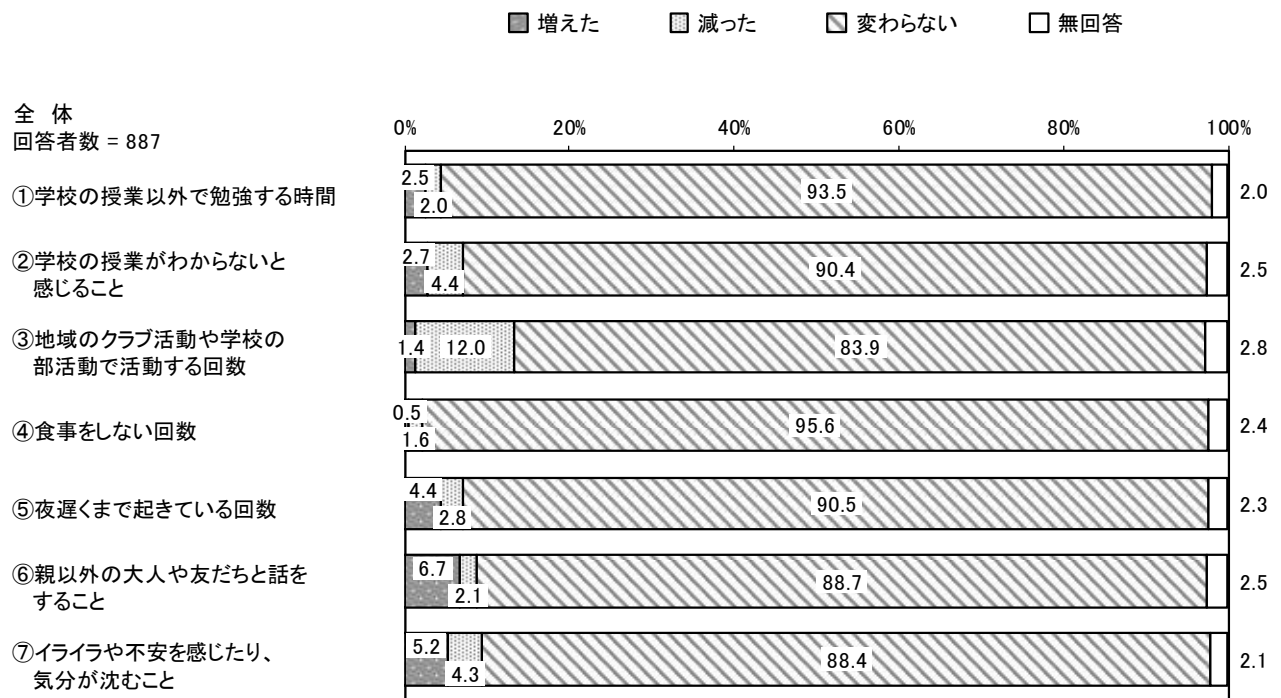


問 17 あなたの現在の生活で、台風 19 号（令和元年東日本台風）災害や新型コロナウイルス感染症の影響で変わったことはありますか。（①～⑦それぞれ、台風 19 号災害・新型コロナウイルス感染症について、あてはまる番号 1 つに○）

1. 台風 19 号災害

すべての項目で「変わらない」の割合が最も高くなっています。

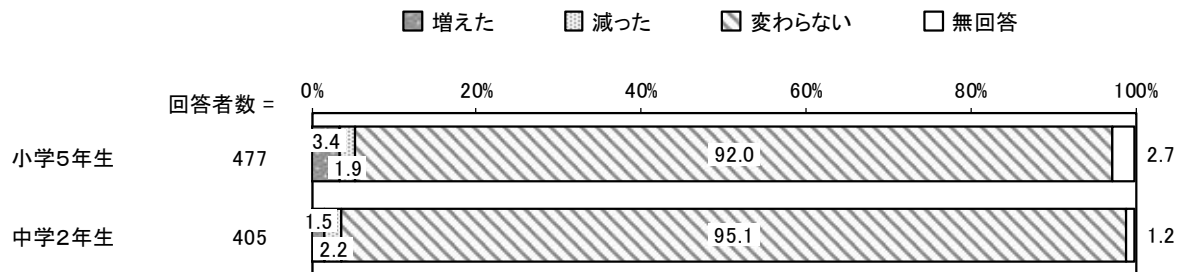
『③地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』で「減った」の割合が高く、約 1 割となっています。



①学校の授業以外で勉強する時間

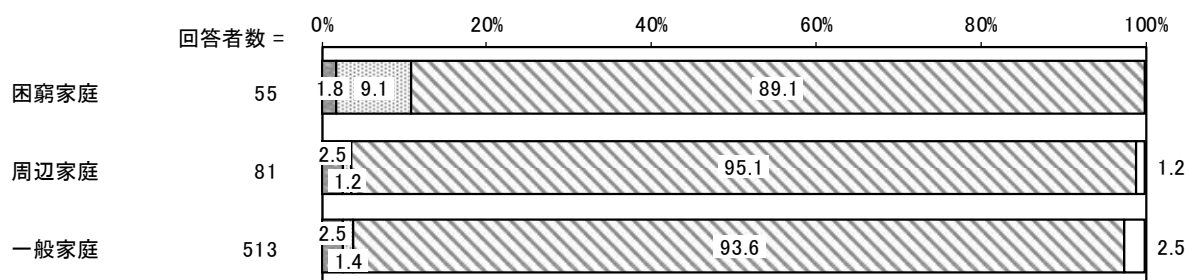
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



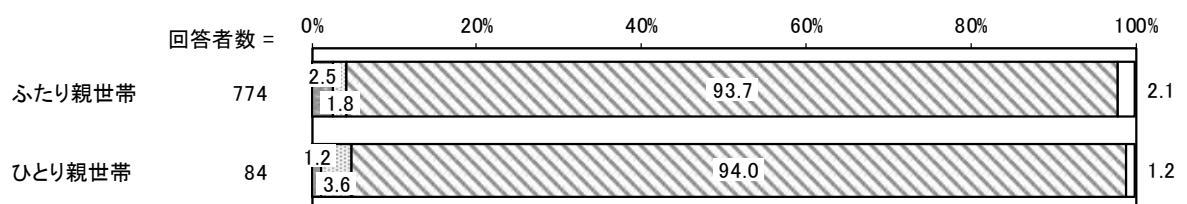
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、周辺家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

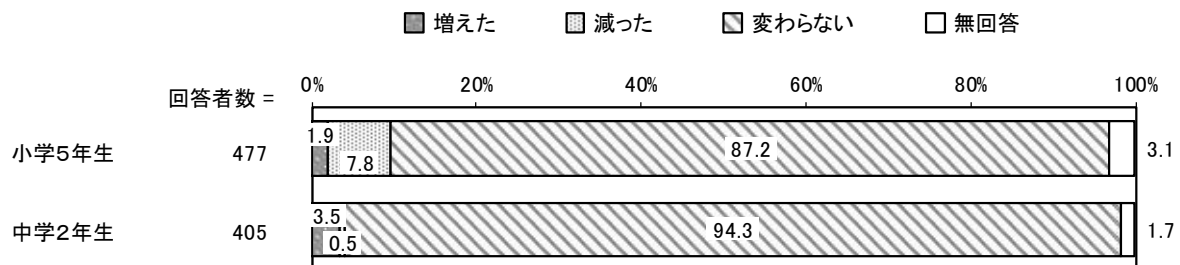
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



②学校の授業がわからないと感じること

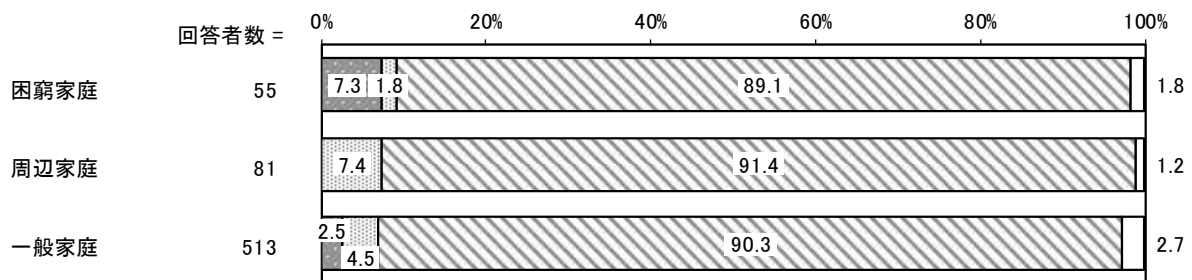
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「減った」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「変わらない」の割合が高くなっています。



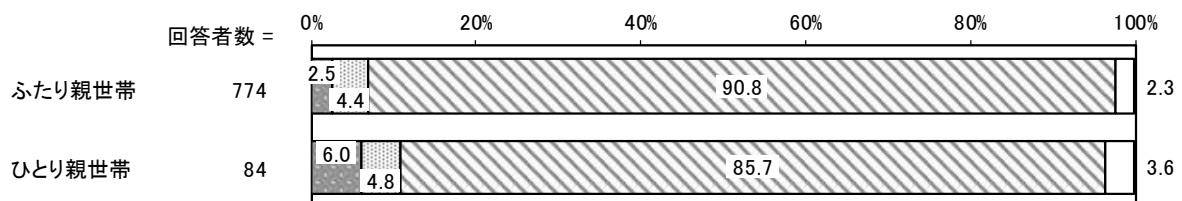
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭で「減った」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

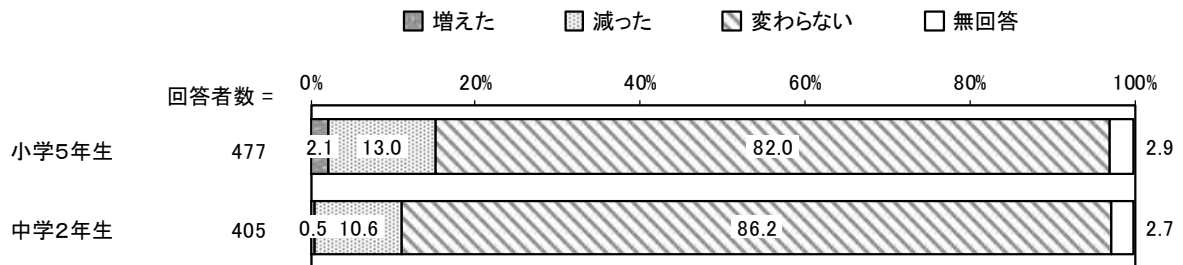
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



③地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

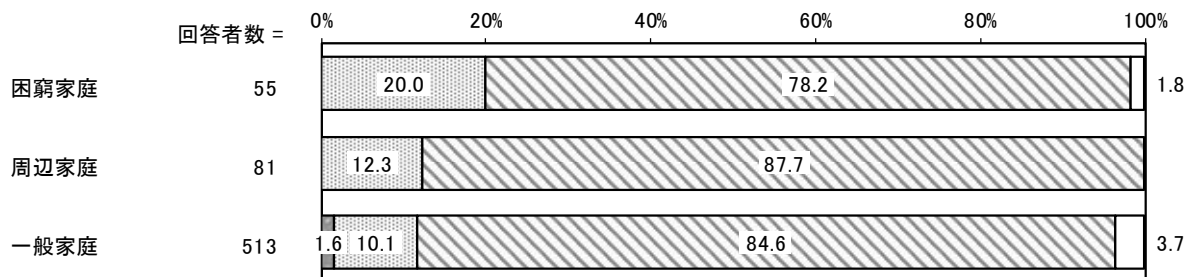
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



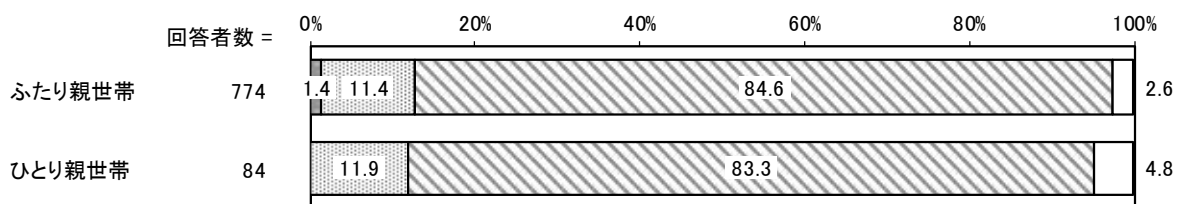
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、周辺家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

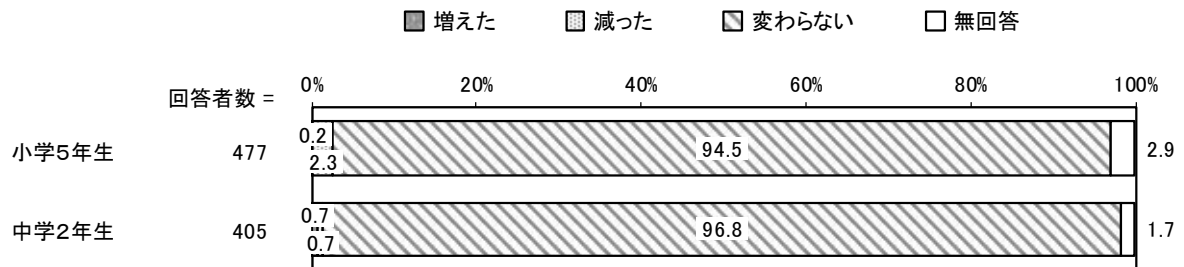
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



④食事をしない回数

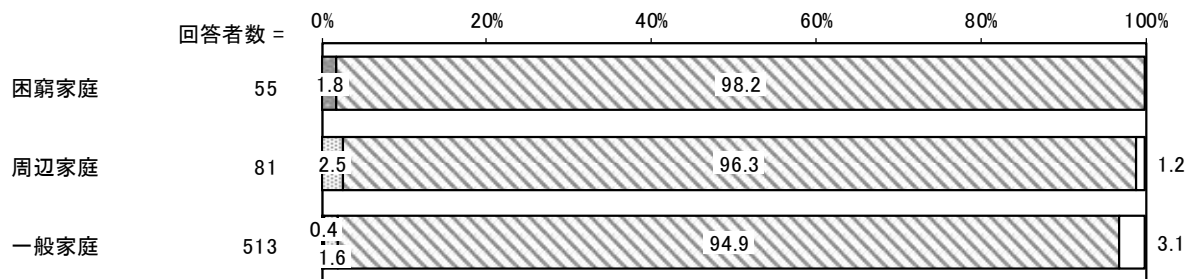
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



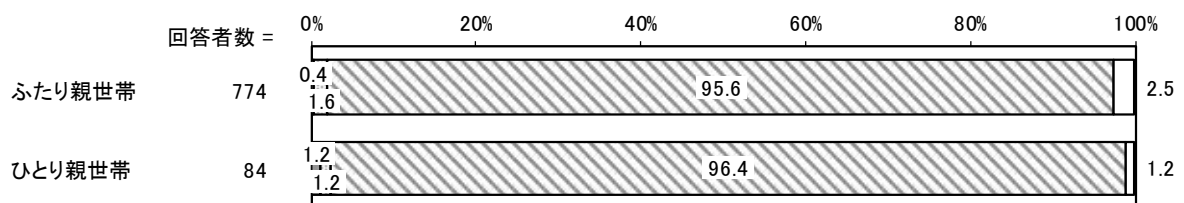
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

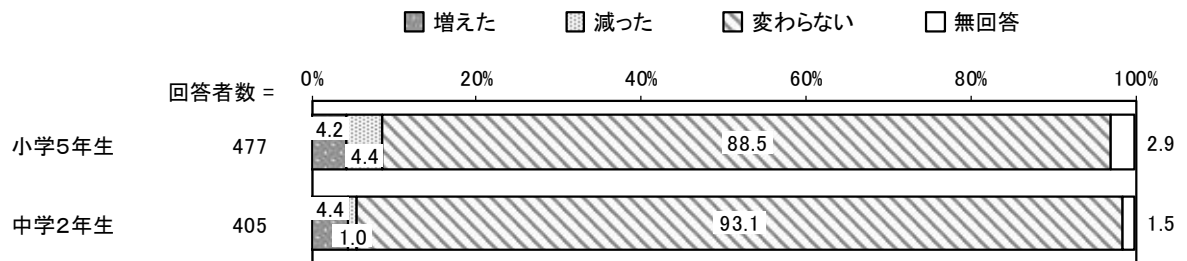
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑤夜遅くまで起きている回数

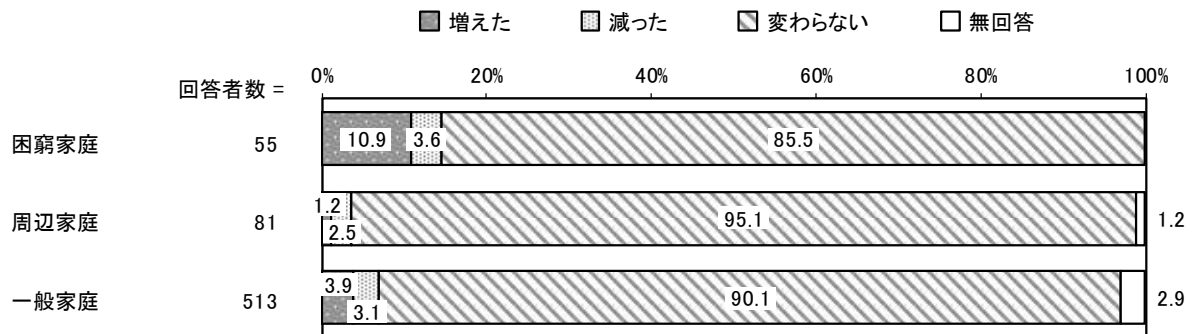
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



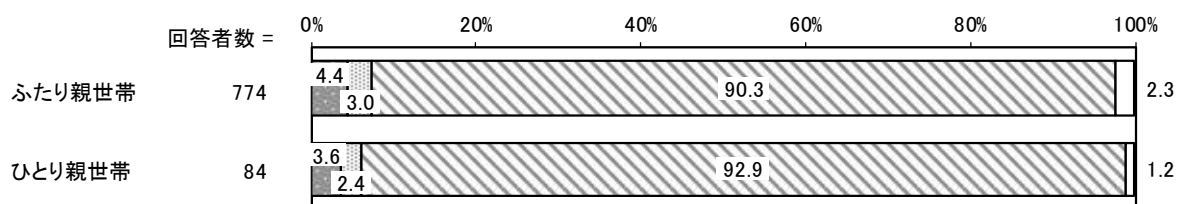
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

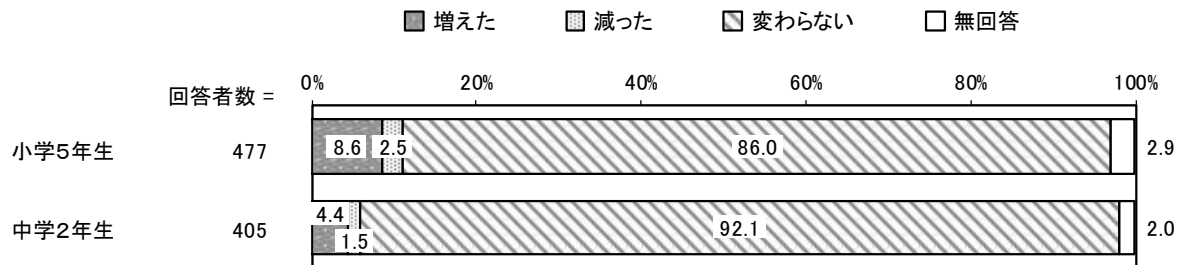
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑥親以外の大人や友だちと話をすること

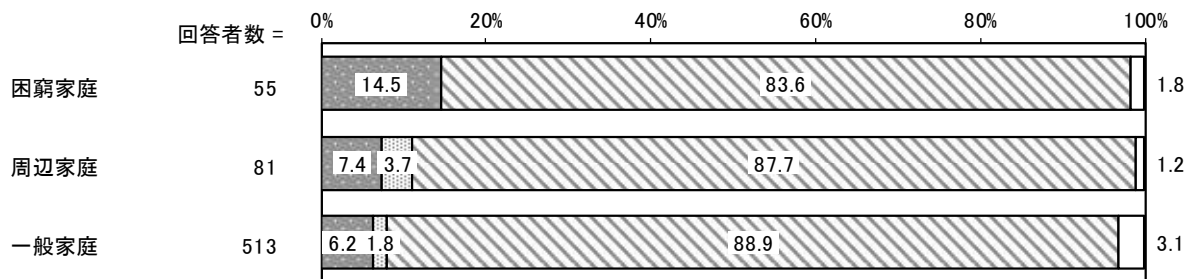
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「増えた」の割合が高くなっています。



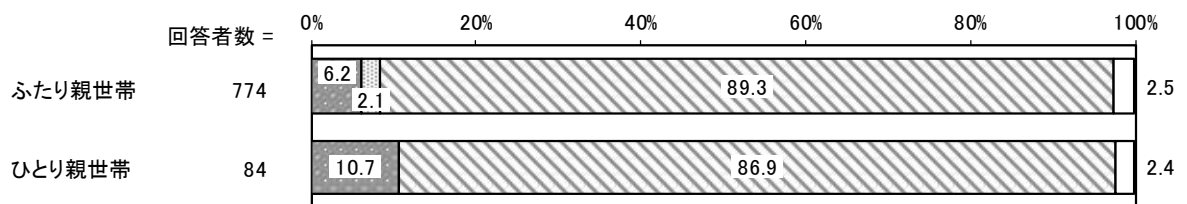
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

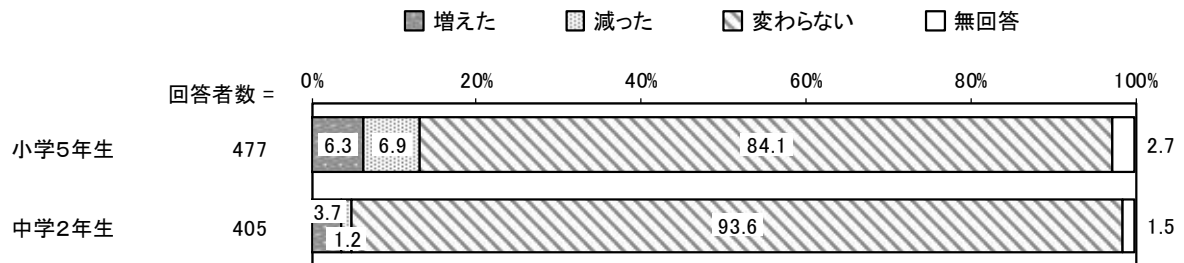
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑦イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

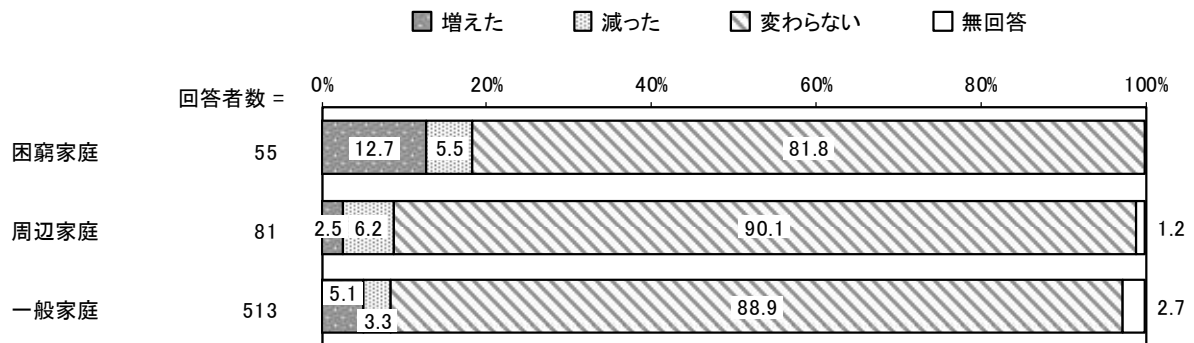
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「増えた」「減った」の割合がどちらも高くなっています。



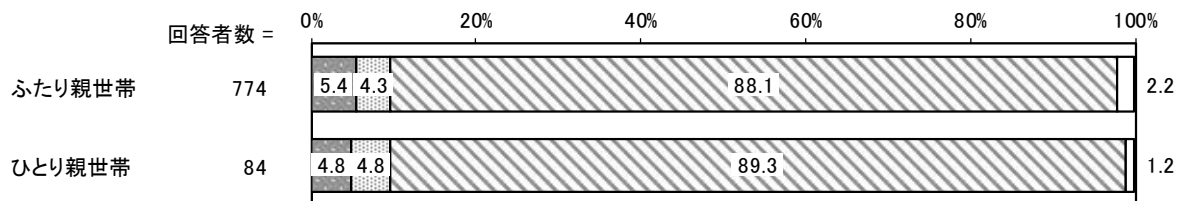
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

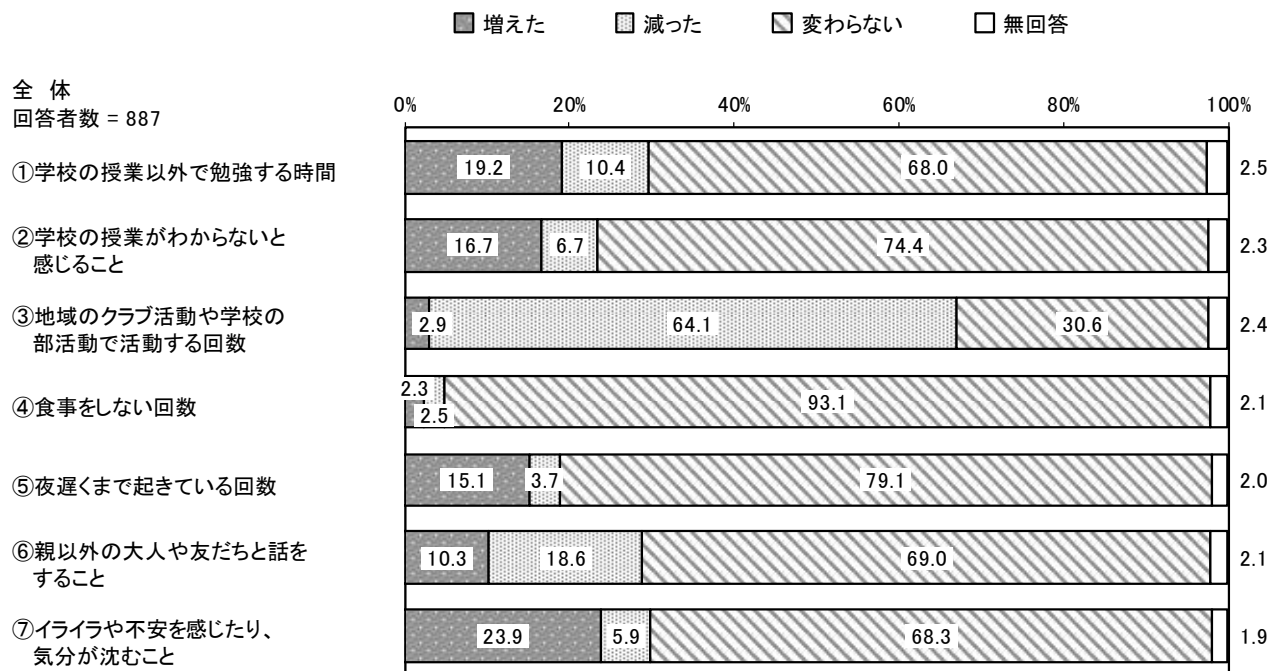
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



2. 新型コロナウイルス

『①学校の授業以外で勉強する時間』『⑦イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと』で「増えた」の割合が高く、約2割となっています。

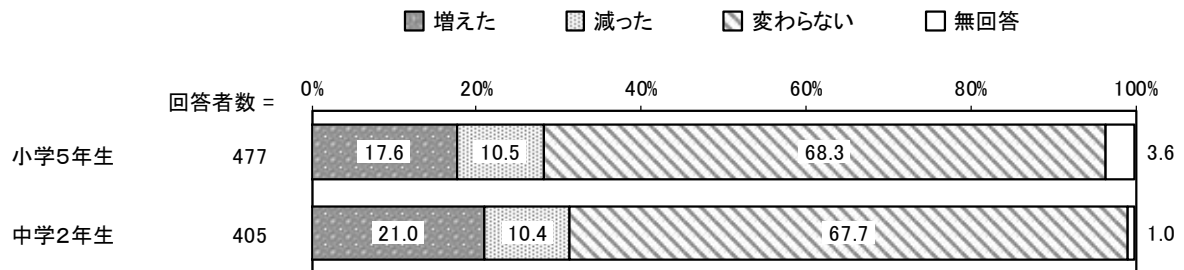
また、『③地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』で「減った」の割合が高く、6割半ばとなっています。



①学校の授業以外で勉強する時間

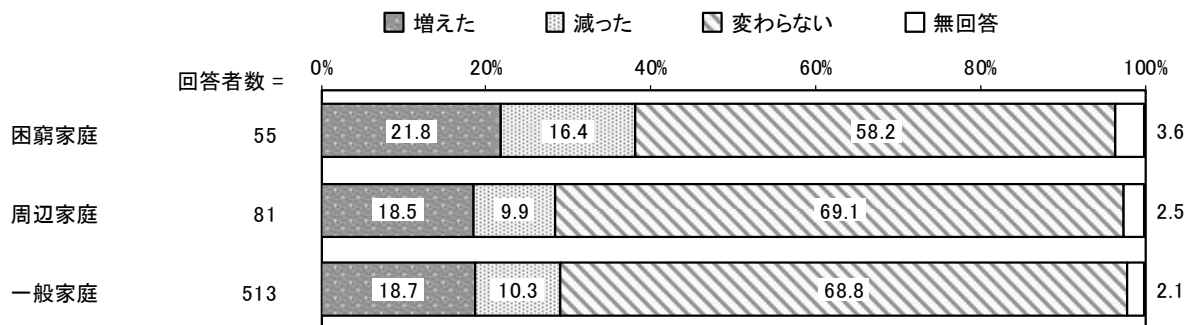
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



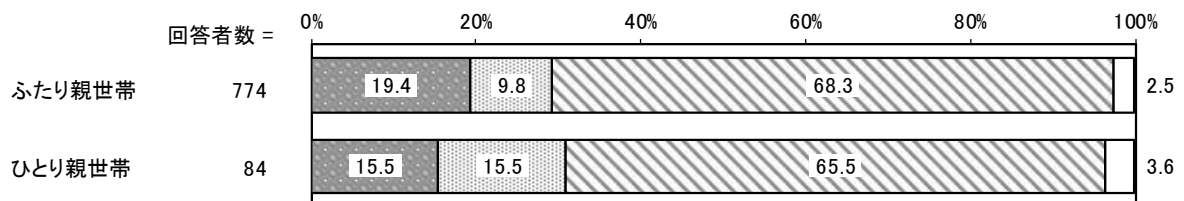
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、周辺家庭、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

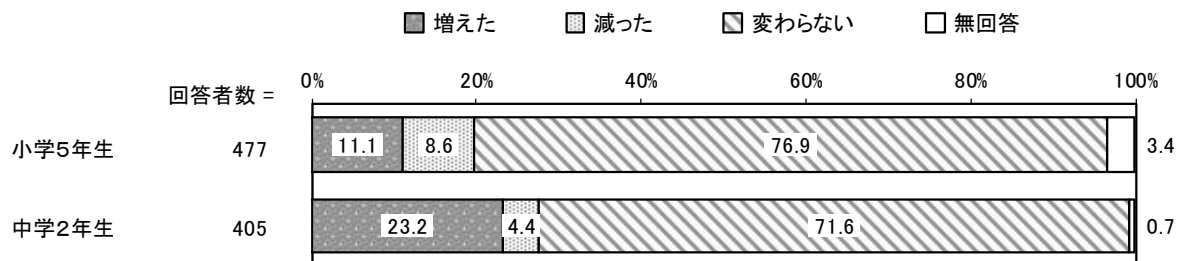
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



②学校の授業がわからないと感じること

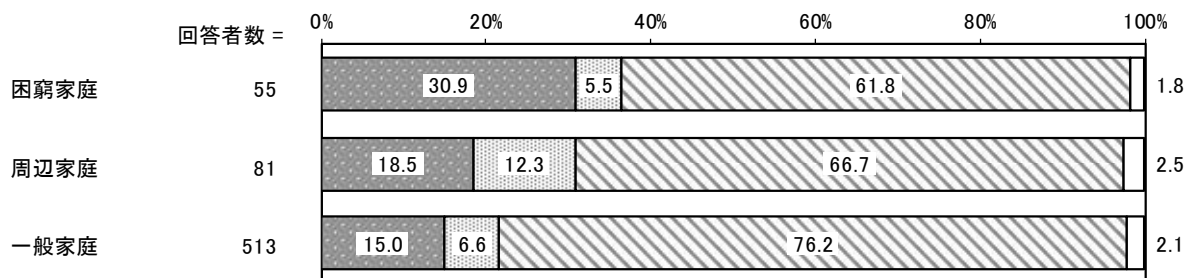
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「変わらない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「増えた」の割合が高くなっています。



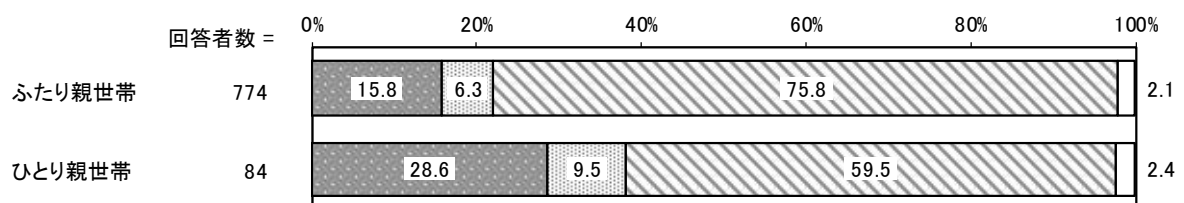
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭で「減った」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

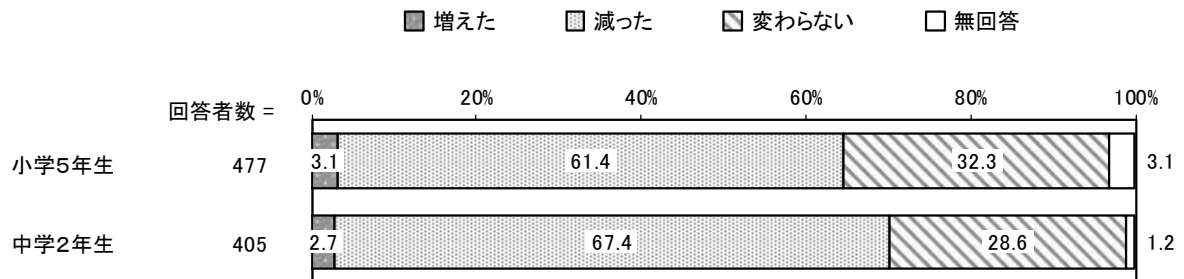
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「変わらない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



③地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

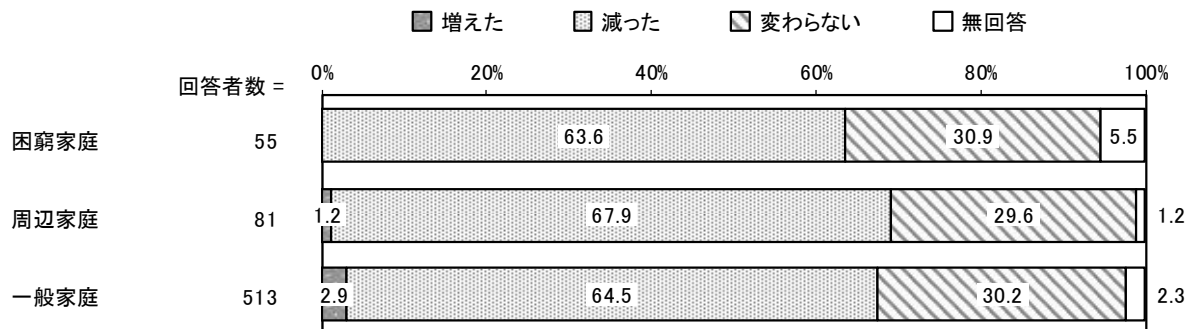
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「減った」の割合が高くなっています。



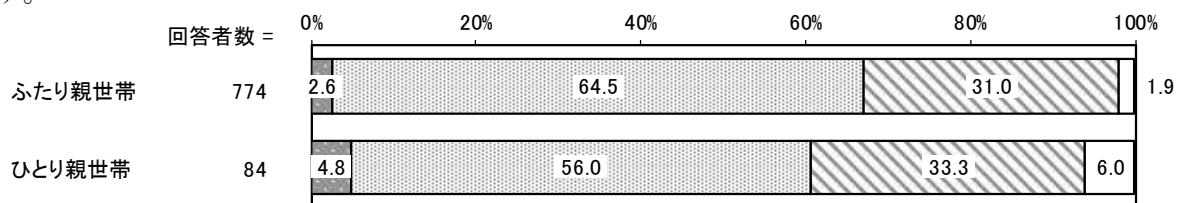
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「減った」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

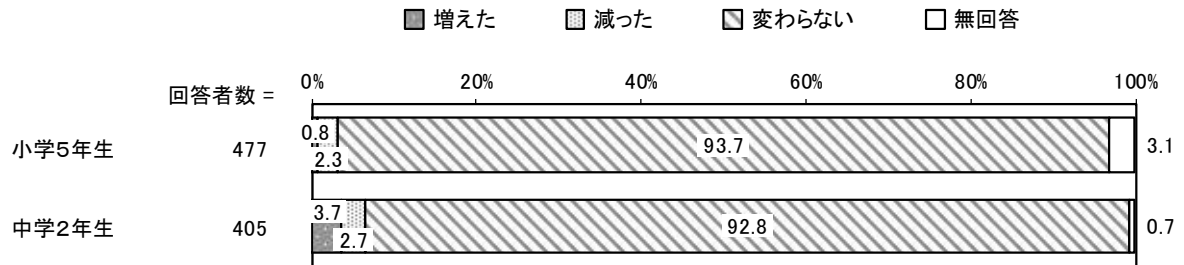
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



④食事をしない回数

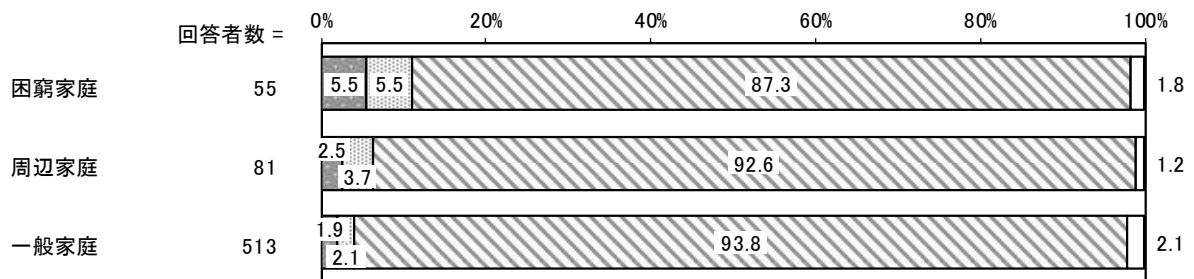
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



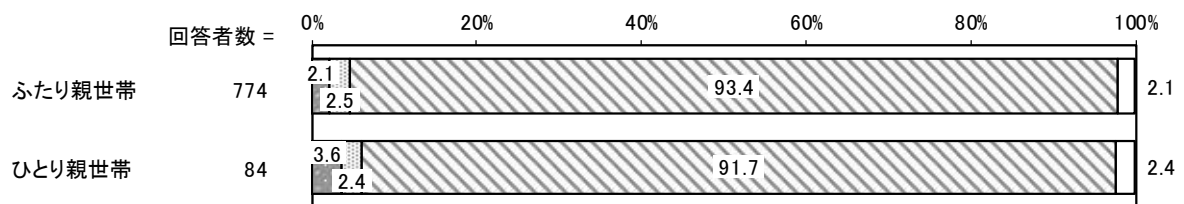
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

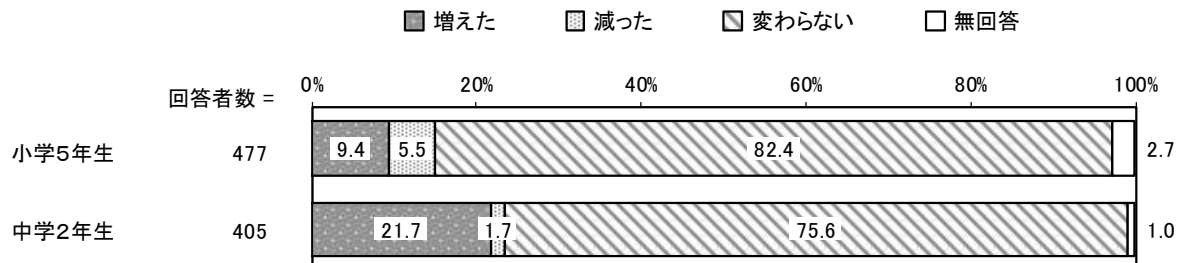
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑤夜遅くまで起きている回数

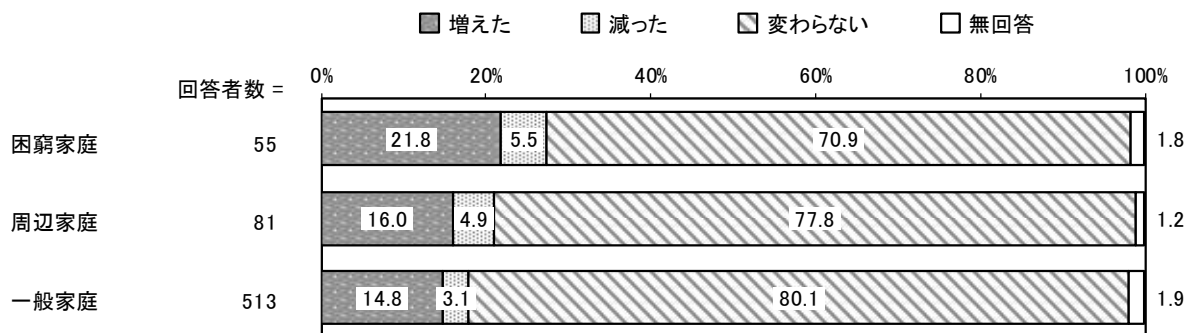
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「変わらない」の割合が高くなっています。
また、小学5年生に比べ、中学2年生で「増えた」の割合が高くなっています。



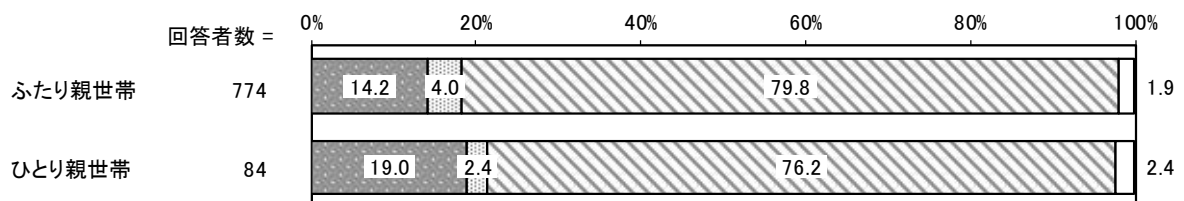
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

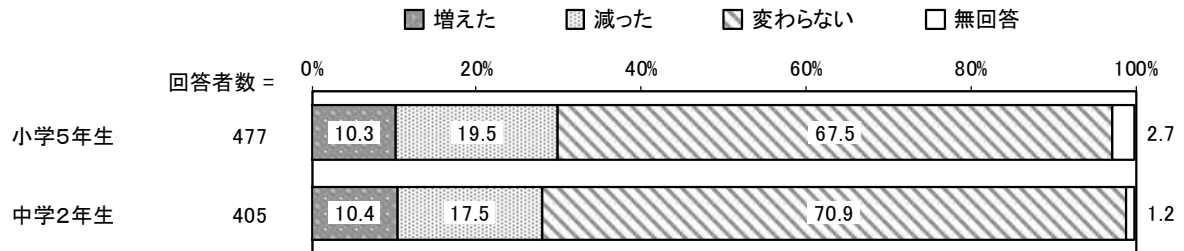
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑥親以外の大人や友だちと話をすること

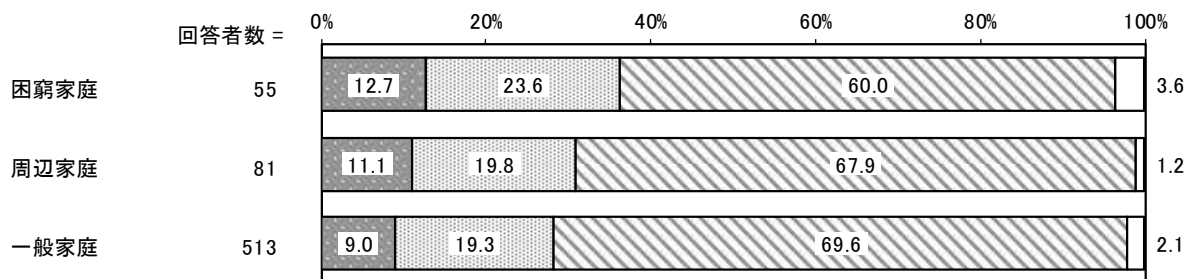
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



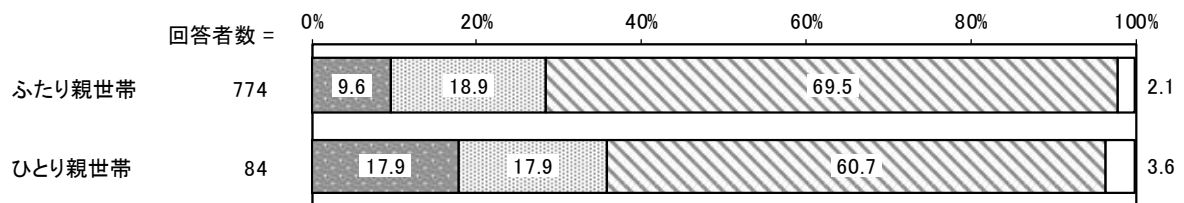
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

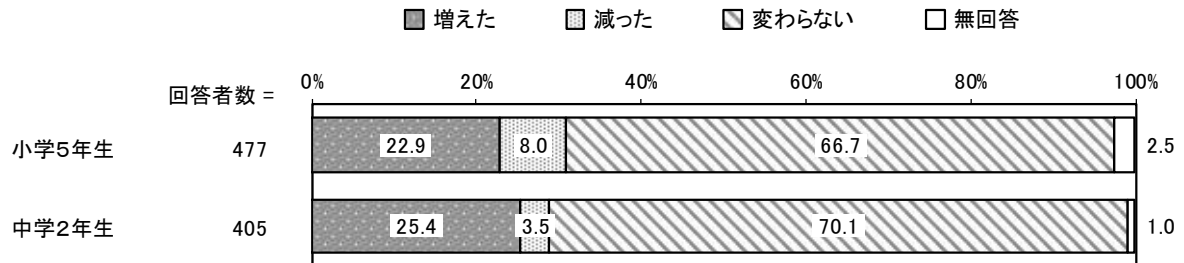
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「変わらない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑦イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

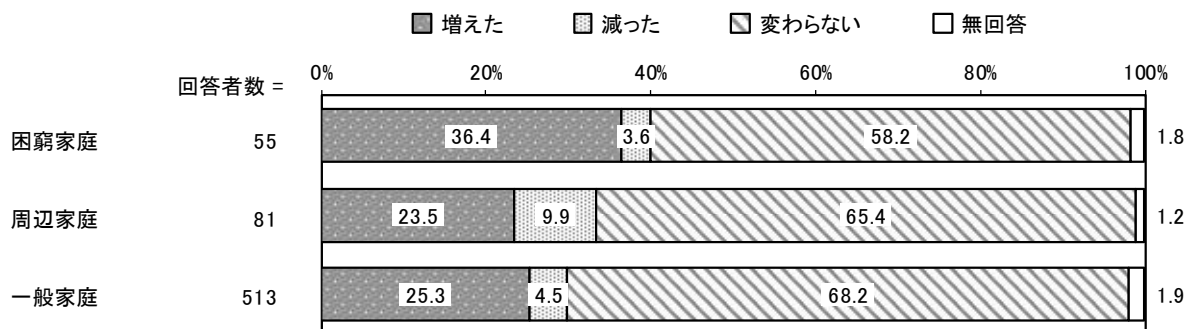
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



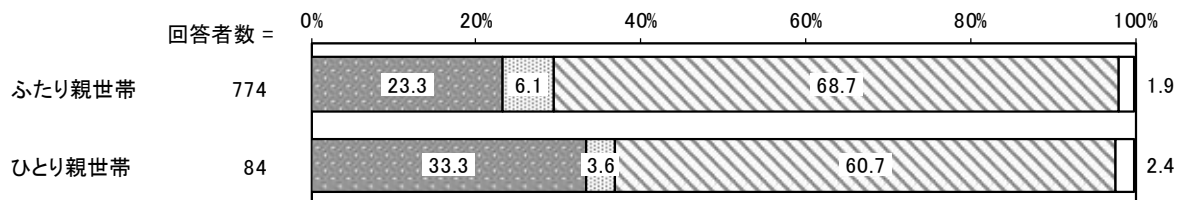
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭で「減った」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



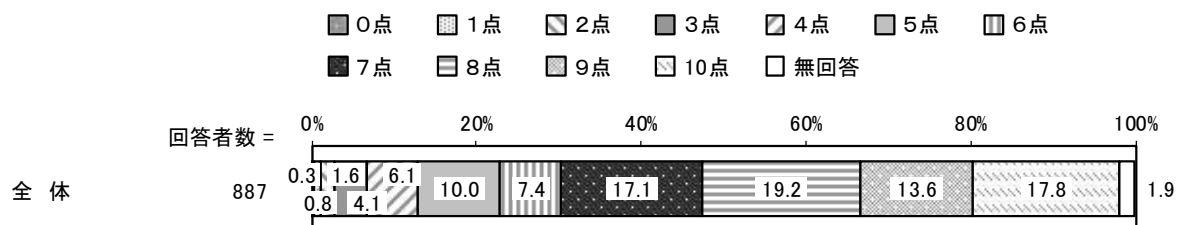
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「変わらない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



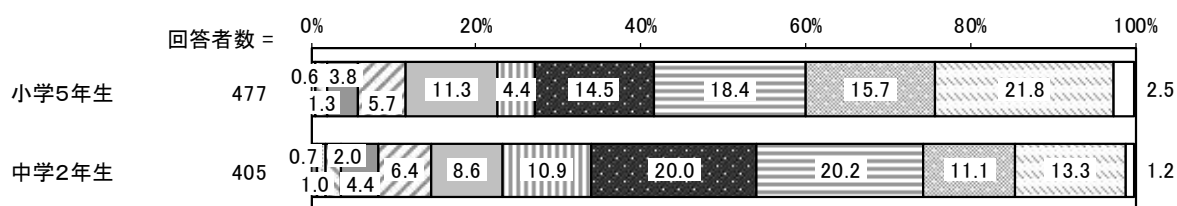
問 18 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「十分に満足している」を10点、「まったく満足していない」を0点とすると、何点くらいになりますか。0から10の数字を1つ選んでください。
(あてはまる番号1つに○)

「0～2点」に該当する割合が2.7%、「3～4点」に該当する割合が10.2%、「5点」に該当する割合が10.0%、「6～7点」に該当する割合が24.5%、「8～10点」に該当する割合が50.6%となっています。満足度が高い方の回答（6点～10点）割合は75.1%となっています。



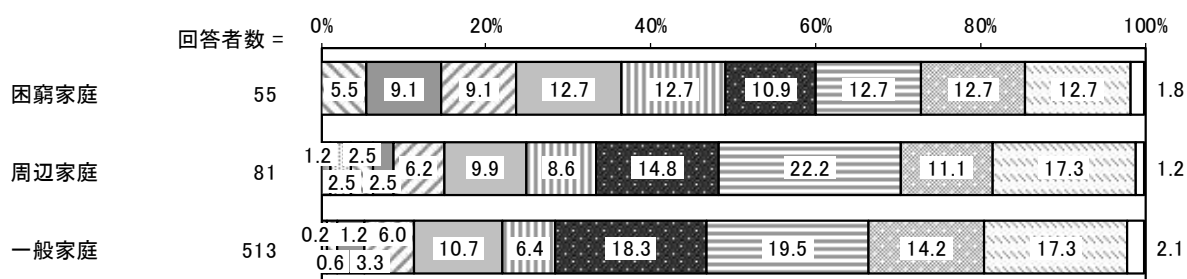
【学年別】

学年別でみると、満足度が高い方の回答（6点～10点）割合は、小学5年生で74.8%、中学2年生で75.5%となっています。



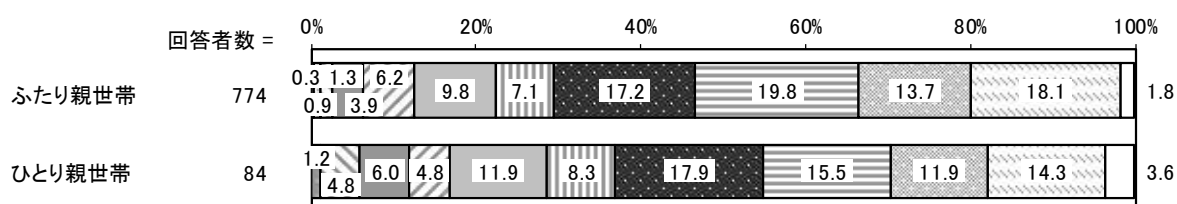
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で満足度が高い方の回答（6点～10点）割合が低くなっています。



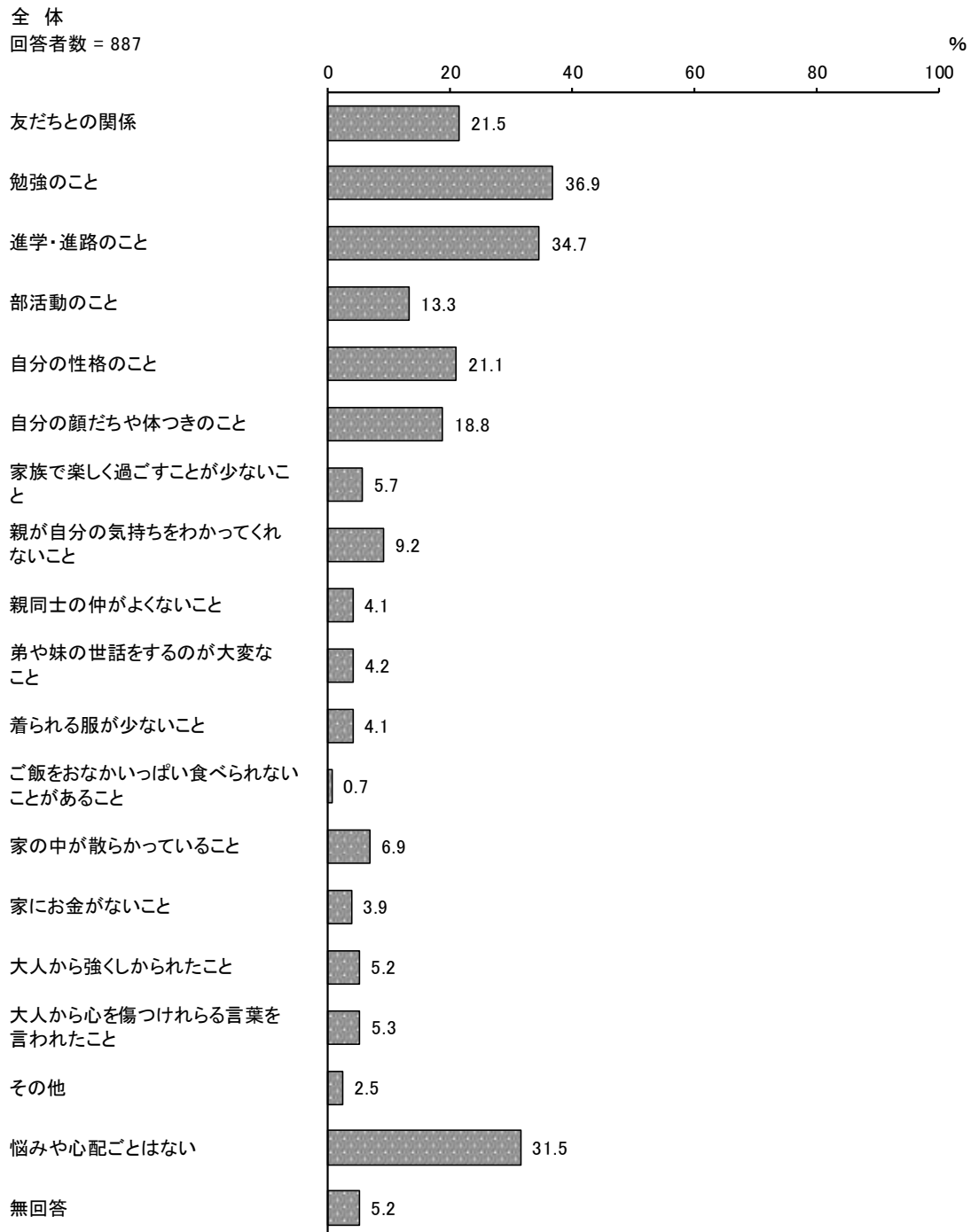
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で満足度が高い方の回答（6点～10点）割合が低くなっています。



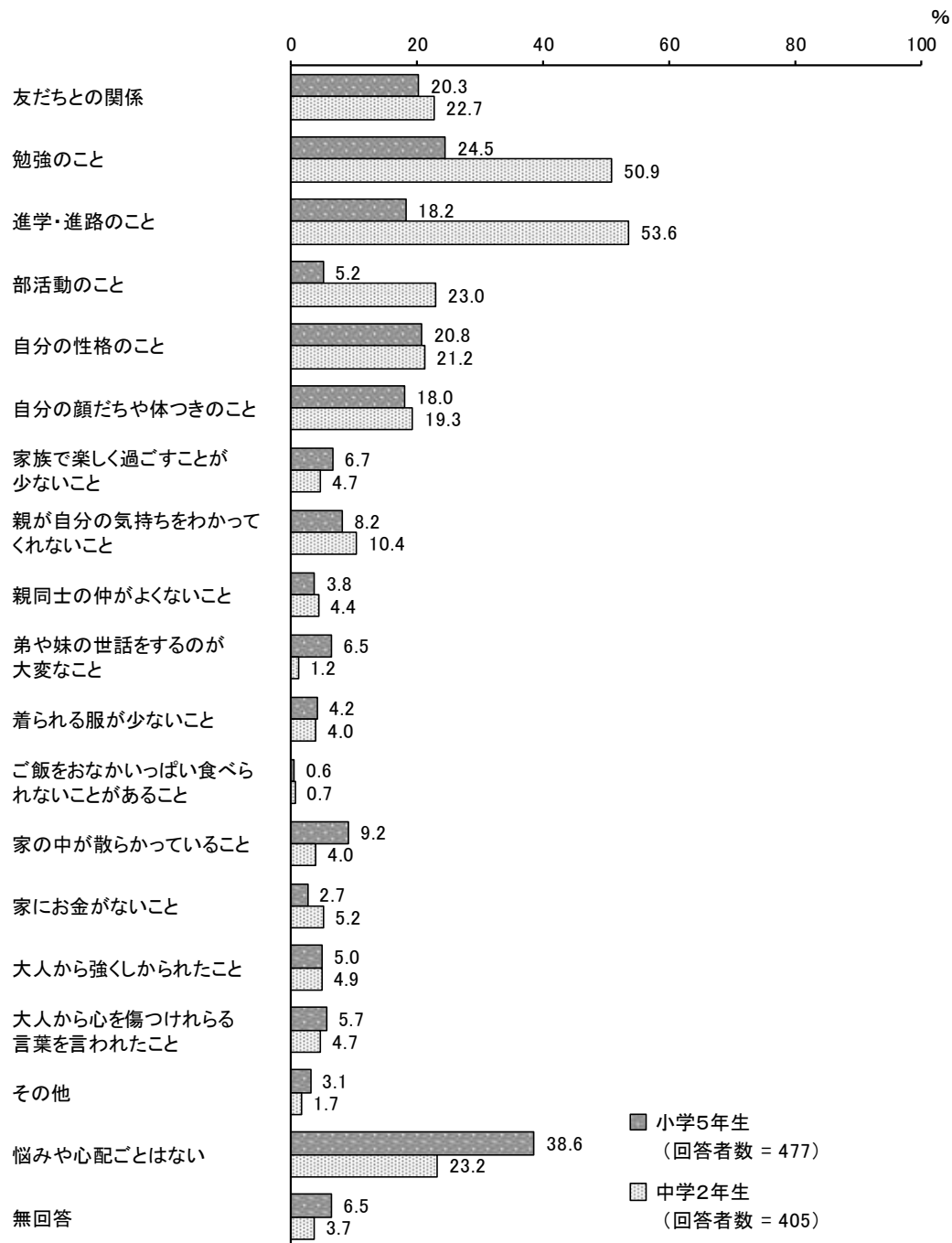
問 19 あなたは、自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

「勉強のこと」の割合が 36.9%と最も高く、次いで「進学・進路のこと」の割合が 34.7%、「悩みや心配ごとはない」の割合が 31.5%となっています。



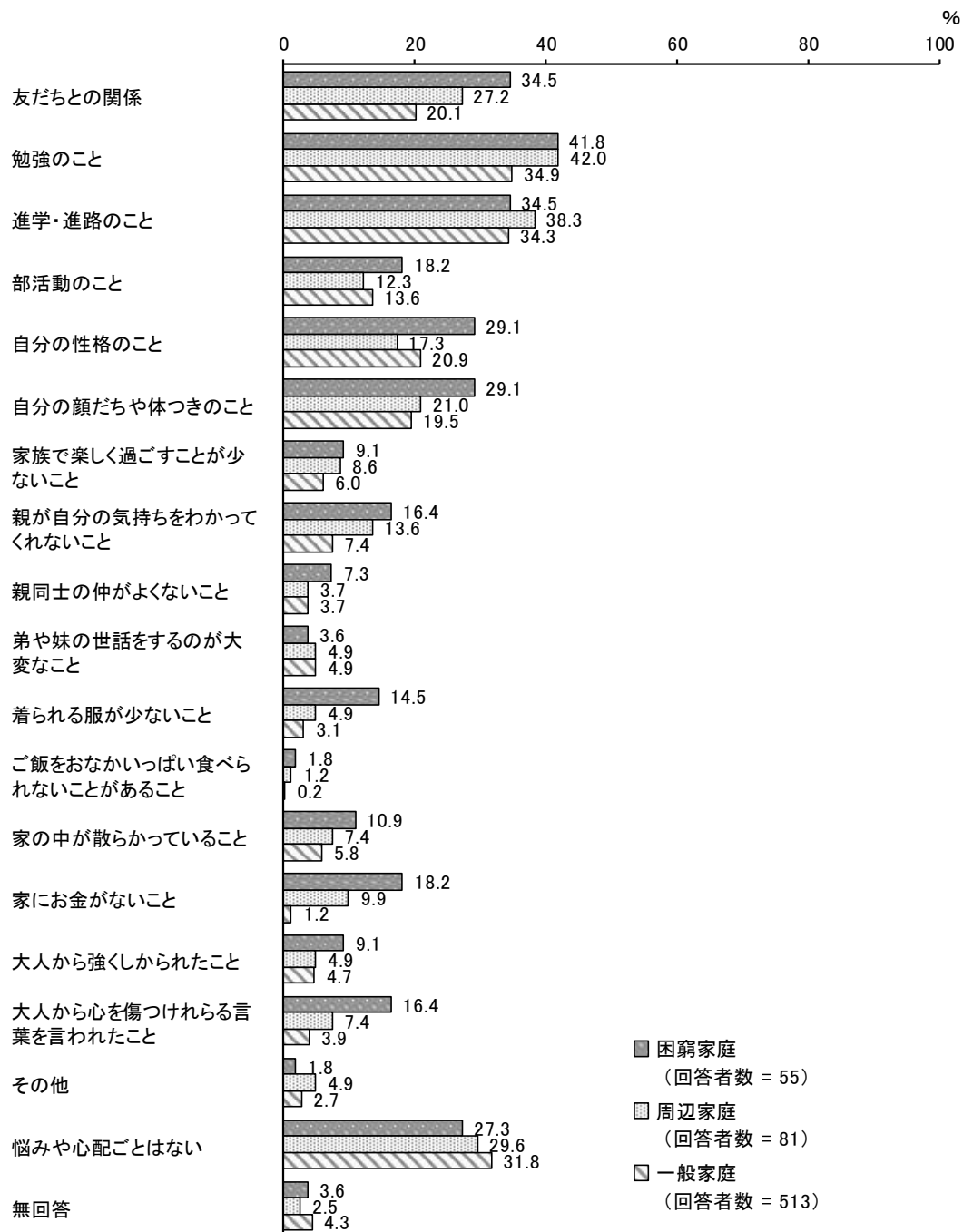
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「弟や妹の世話をするのが大変なこと」「家の中が散らかっていること」「悩みや心配ごとはない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「勉強のこと」「進学・進路のこと」「部活動のこと」の割合が高くなっています。



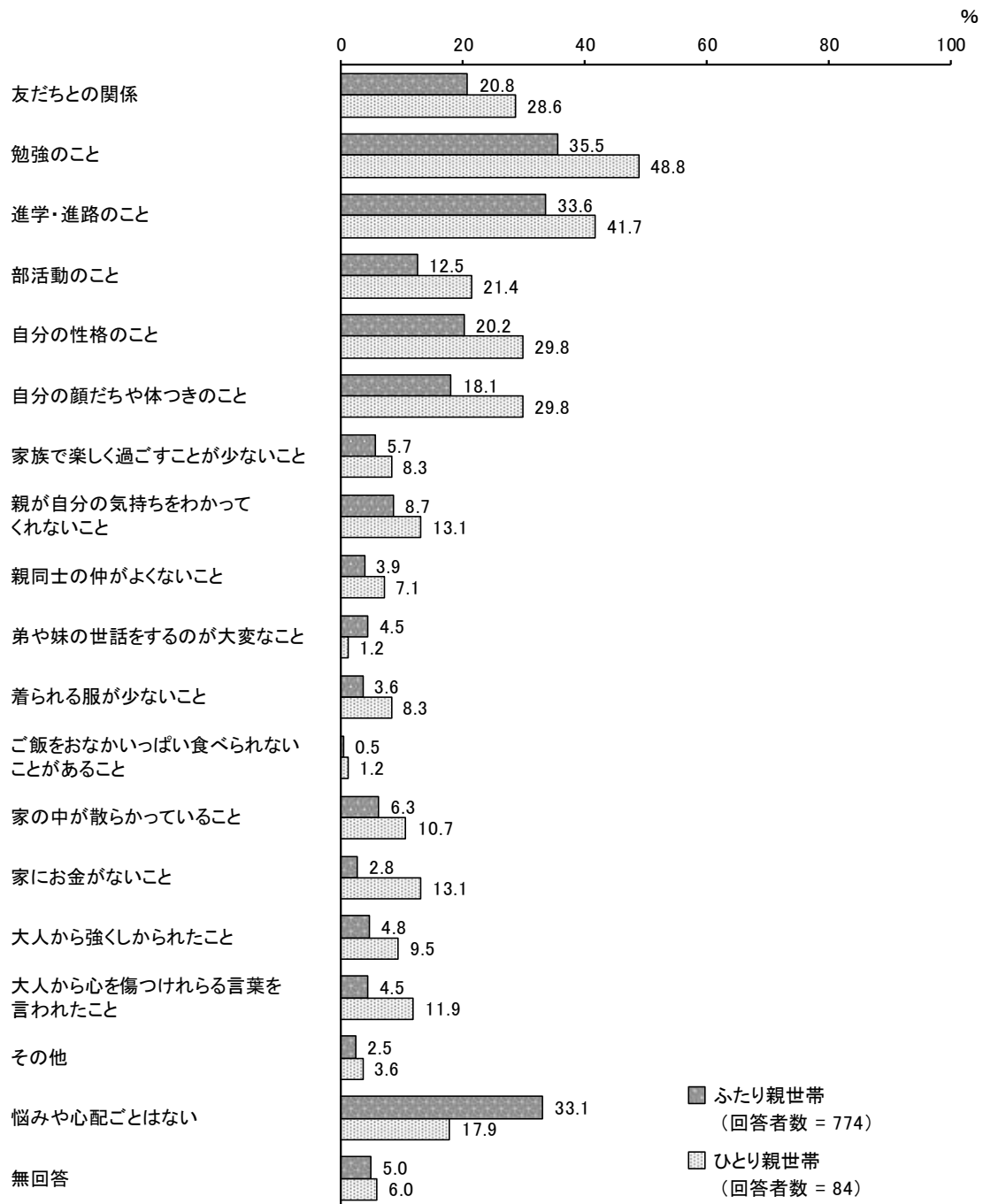
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「友だちとの関係」「自分の性格のこと」「自分の顔だちや体つきのこと」「親が自分の気持ちをわかってくれないこと」「着られる服が少ないこと」「家の中が散らかっていること」「家にお金がないこと」「大人から心を傷つけられる言葉を言われたこと」の割合が、周辺家庭で「勉強のこと」「進学・進路のこと」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「悩みや心配ごとはない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「悩みや心配ごとはない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「友だちとの関係」「勉強のこと」「進学・進路のこと」「自分の性格のこと」「自分の顔だちや体つきのこと」「家にお金がないこと」「大人から心を傷つけられる言葉を言われたこと」の割合が高くなっています。

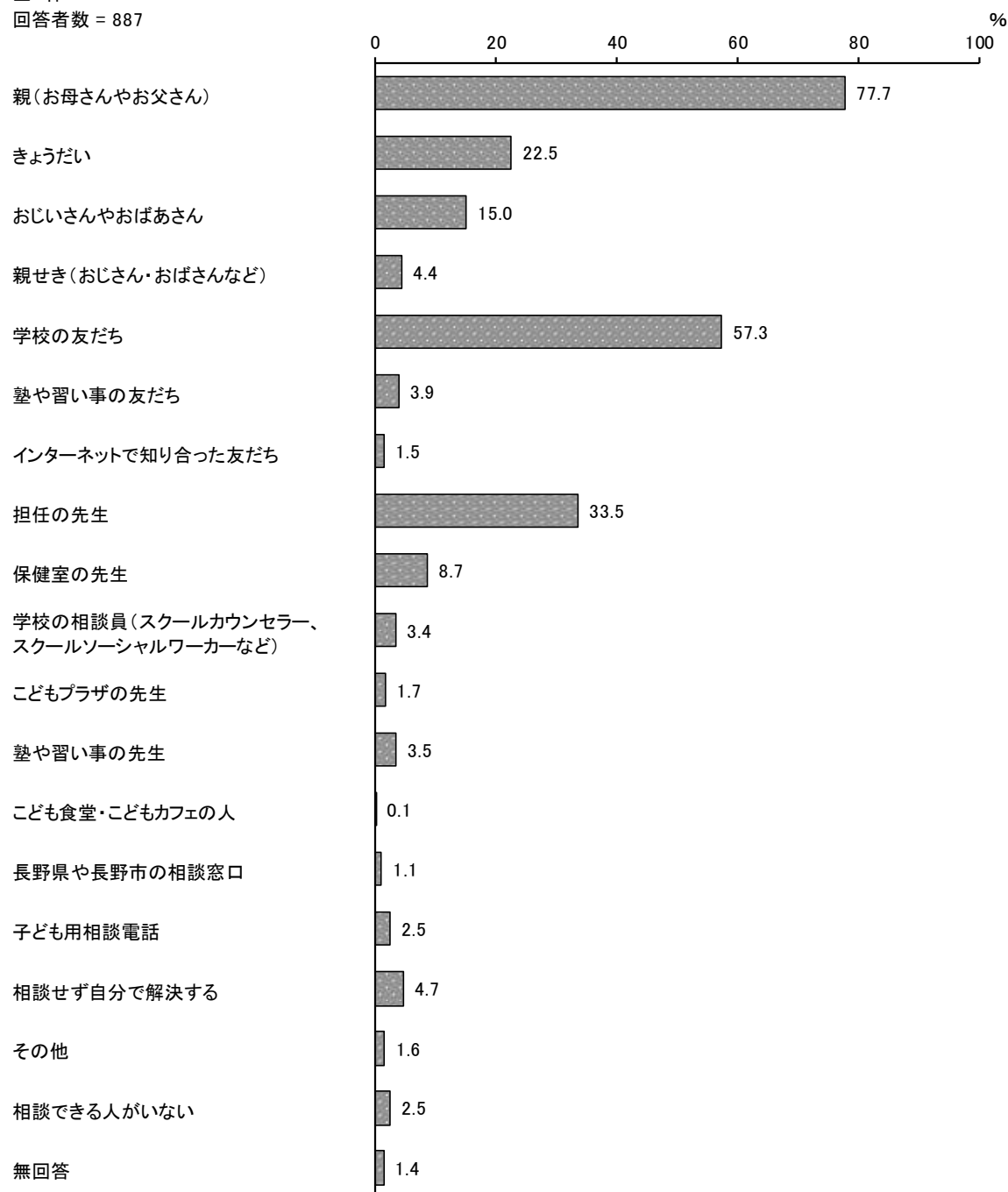


問 20 あなたは、困っていることや悩みごと、心配ごとがあるとき、だれに相談しますか。（あてはまる番号すべてに○）

「親（お母さんやお父さん）」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が 57.3%、「担任の先生」の割合が 33.5%となっています。

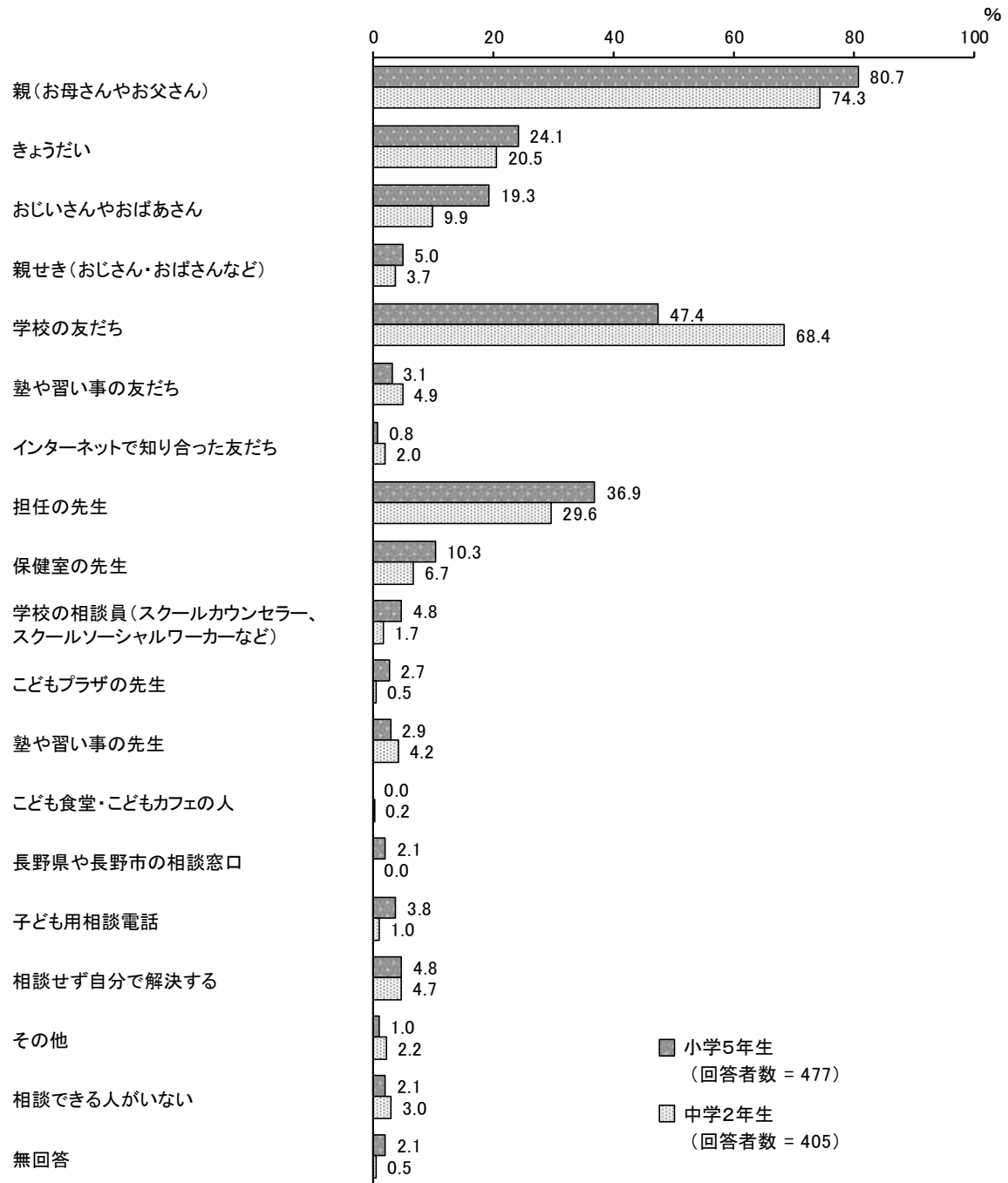
全 体

回答者数 = 887



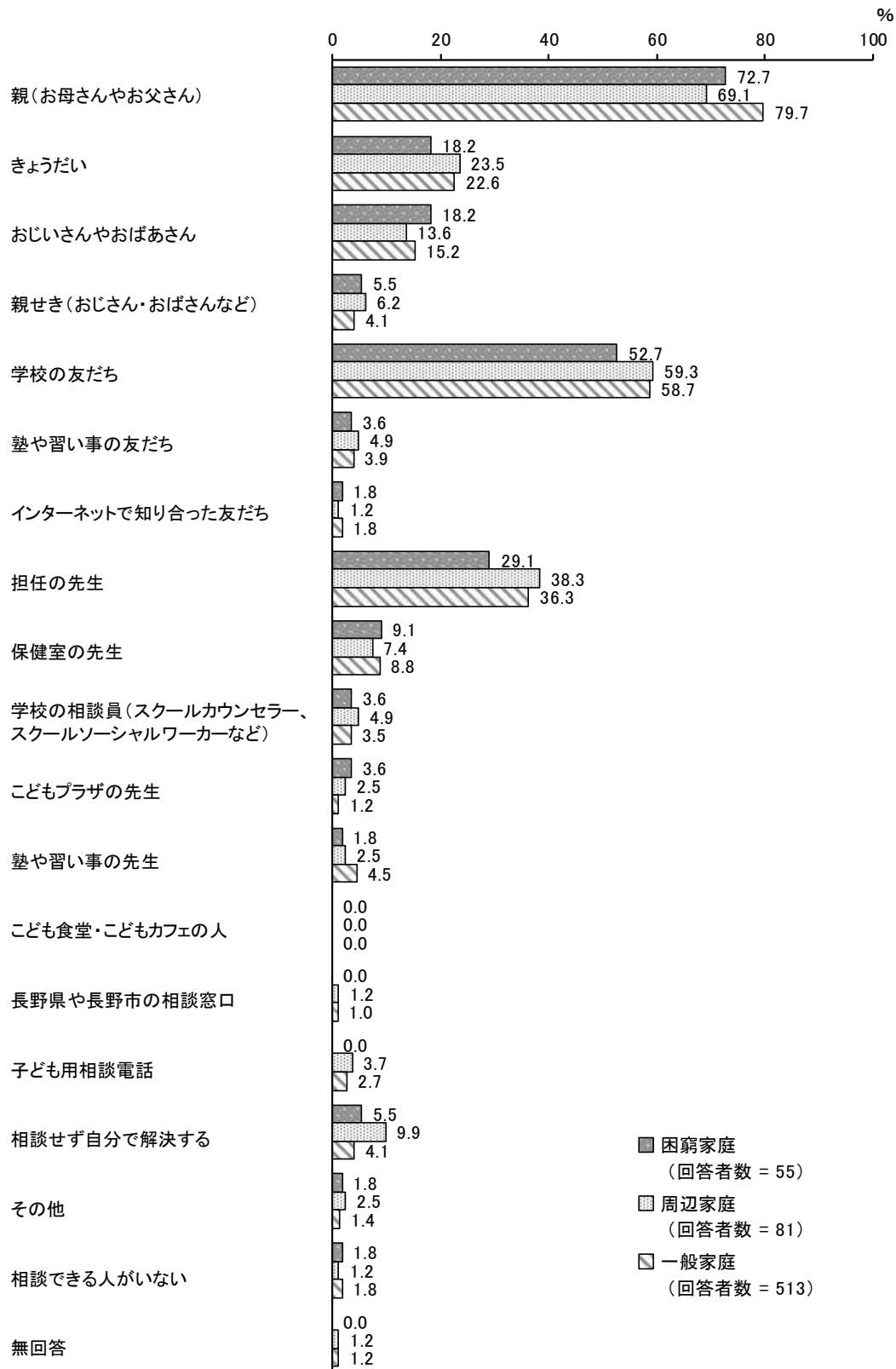
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「親（お母さんやお父さん）」「おじいさんやおばあさん」「担任の先生」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「学校の友だち」の割合が高くなっています。



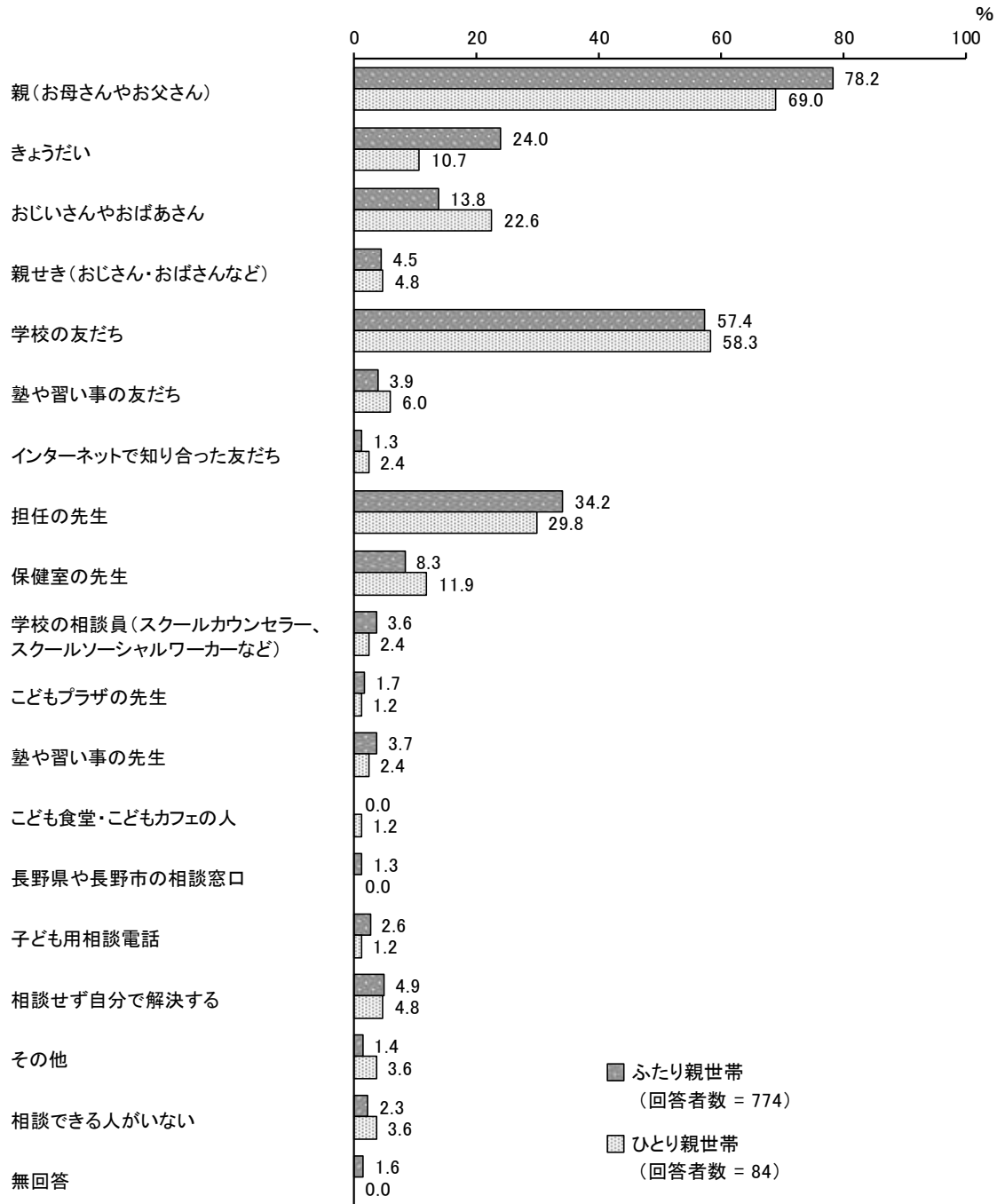
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「親（お母さんやお父さん）」「塾や習い事の先生」の割合が、周辺家庭で「きょうだい」「学校の友だち」「担任の先生」「学校の相談員（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）」「相談せず自分で解決する」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「おじいさんやおばあさん」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

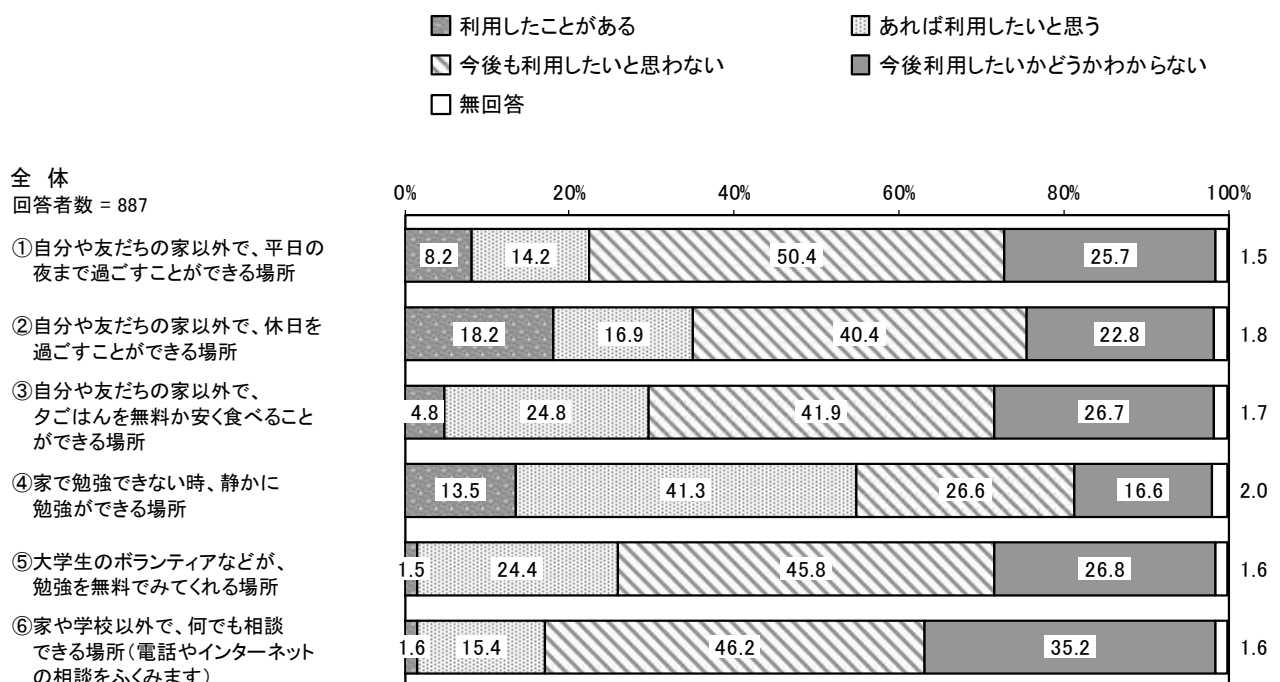
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「親（お母さんやお父さん）」「きょうだい」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「おじいさんやおばあさん」の割合が高くなっています。



問 21 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。
(①～⑥それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○)

『②自分や友だちの家以外で、休日を過ごすことができる場所』で「利用したことがある」の割合が高く、約 2 割となっています。

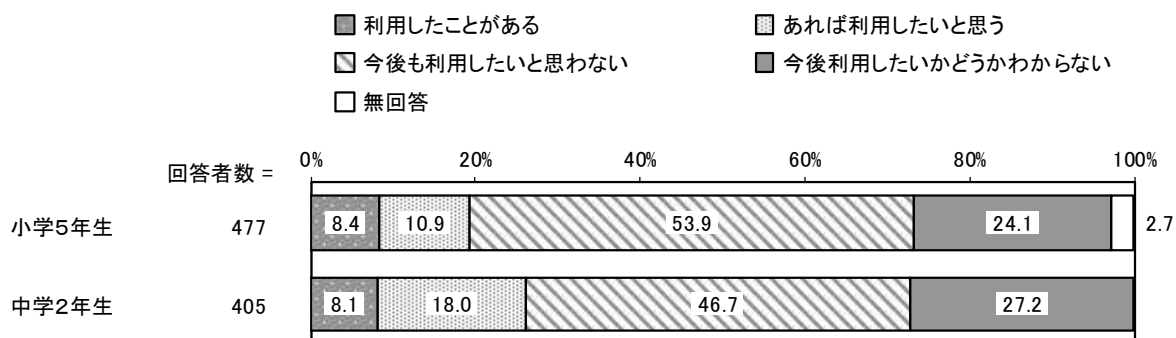
また、『④家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所』で「あれば利用したいと思う」の割合が高く、約 4 割となっており、『③自分や友だちの家以外で、休日を過ごすことができる場所』
『⑤大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所』で「あれば利用したいと思う」の割合も 2 割半ばとなっています。



①自分や友だちの家以外で、平日の放課後に夜まで過ごすことができる場所

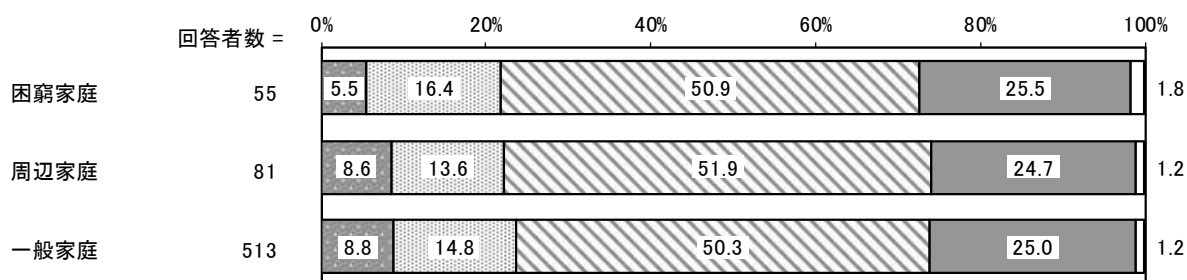
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



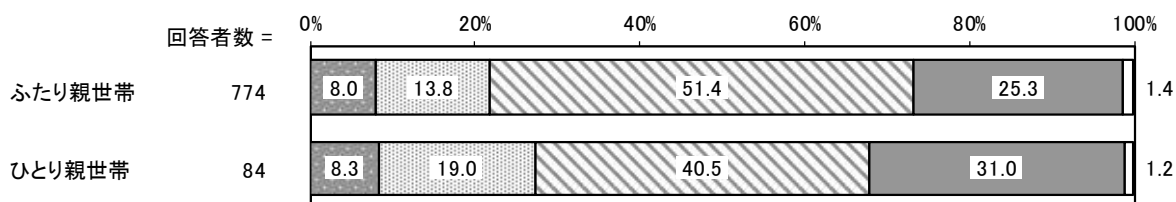
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



【世帯状況別】

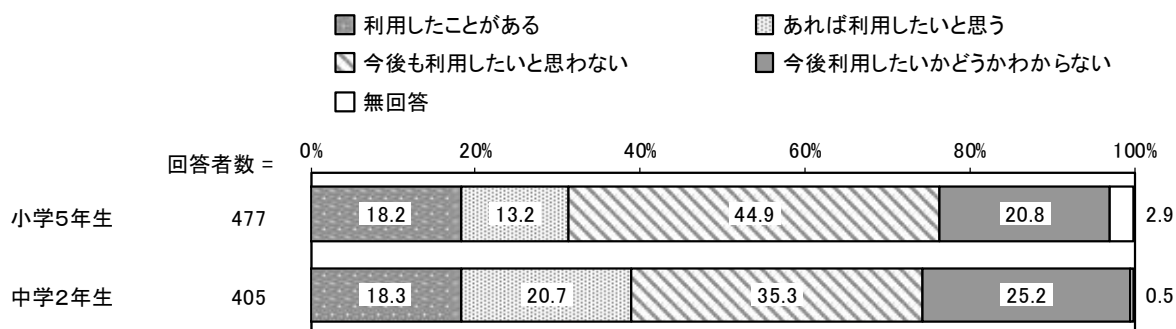
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あれば利用したいと思う」「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



②自分や友だちの家以外で、休日を過ごすことができる場所

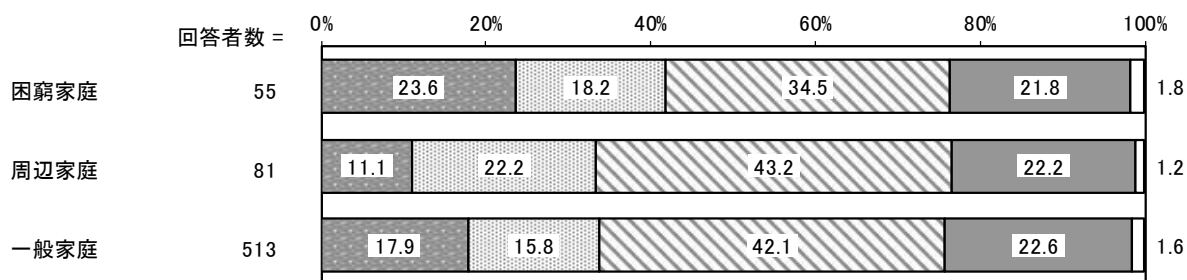
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



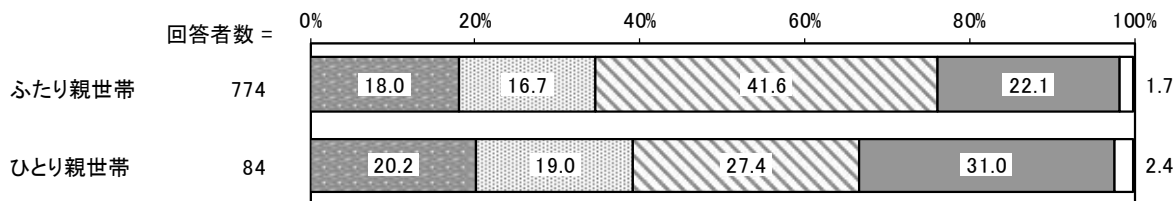
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「利用したことがある」の割合が、周辺家庭で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

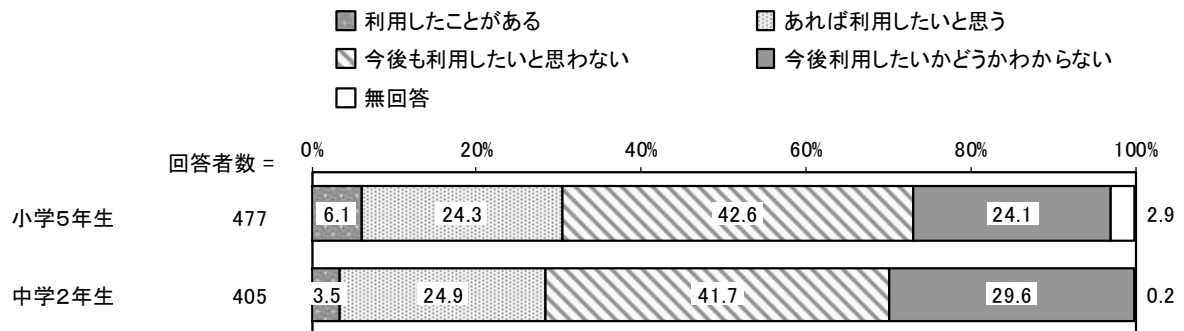
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています、また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後利用したいかどうかわからない」の割合が高くなっています。



③自分や友だちの家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所

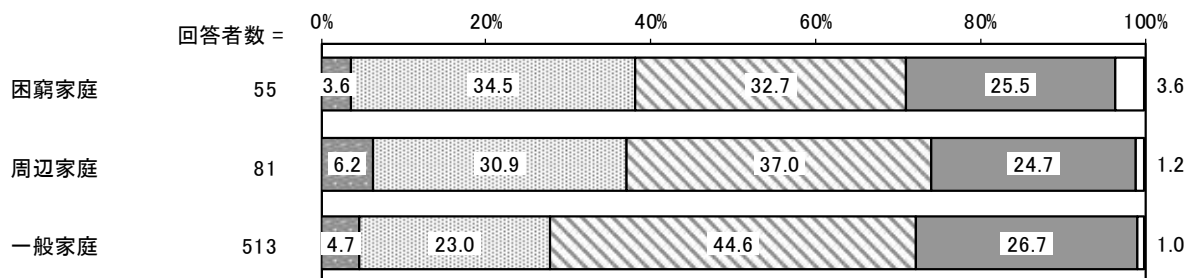
【学年別】

学年別でみると、小学5年生に比べ、中学2年生で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



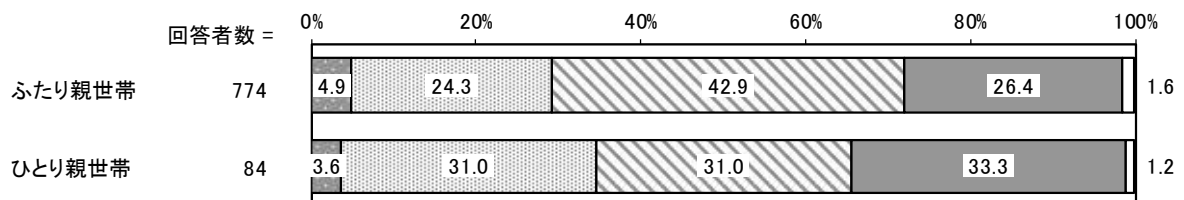
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あれば利用したいと思う」の割合が、一般家庭で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

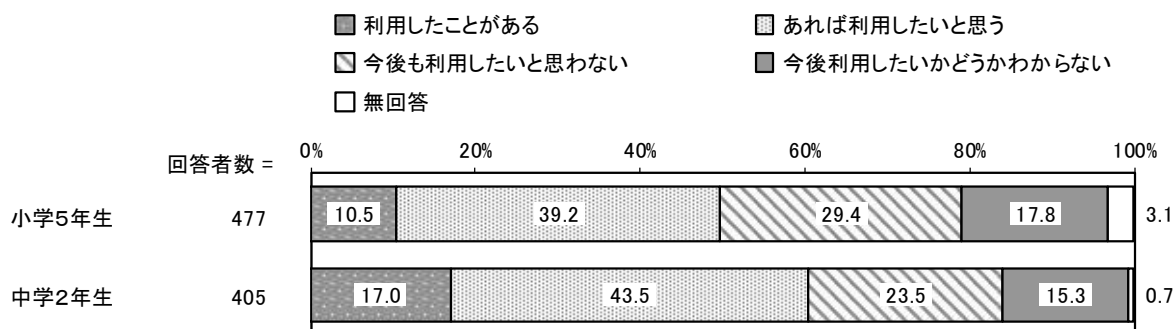
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あれば利用したいと思う」「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



④家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所

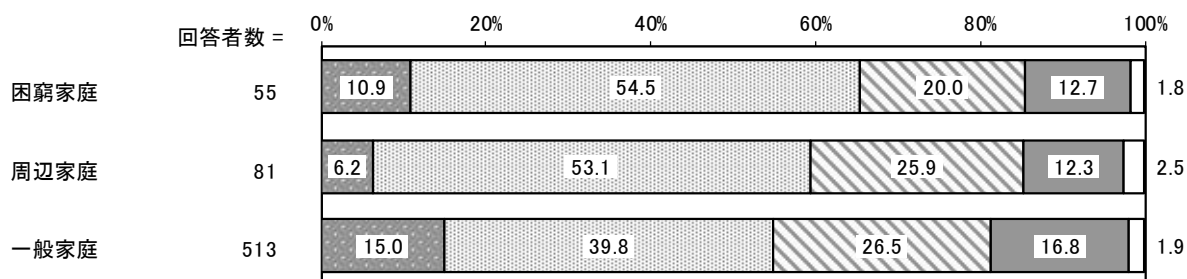
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



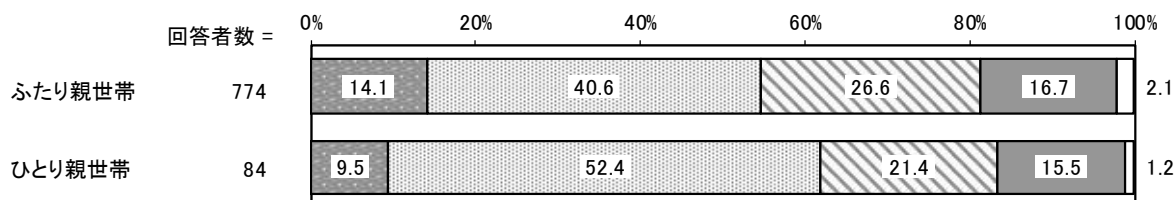
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「利用したことがある」の割合が、困窮家庭で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

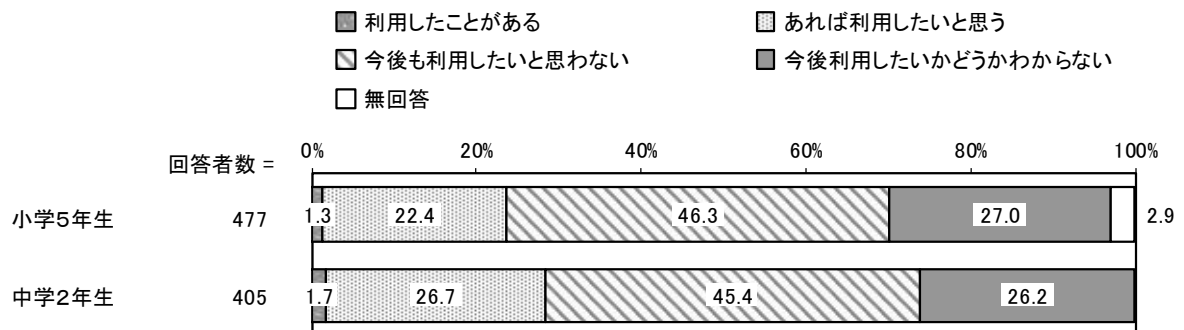
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



⑤大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてる場所

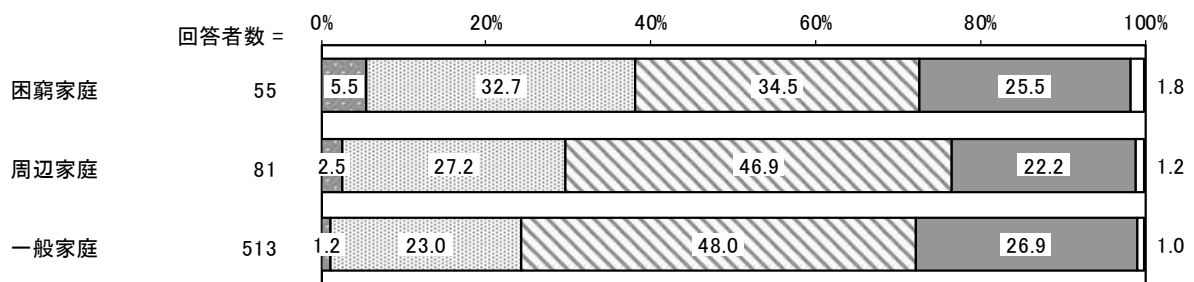
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



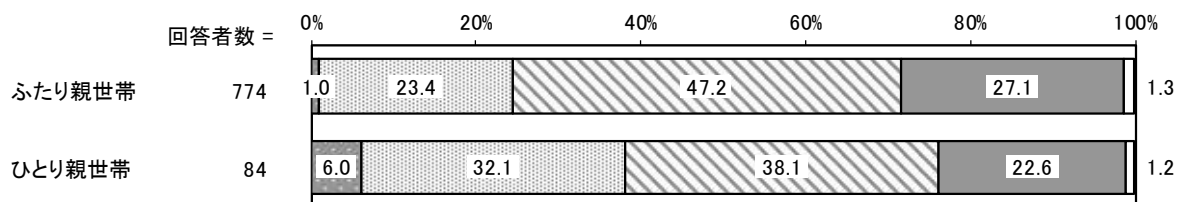
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あれば利用したいと思う」の割合が、一般家庭で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

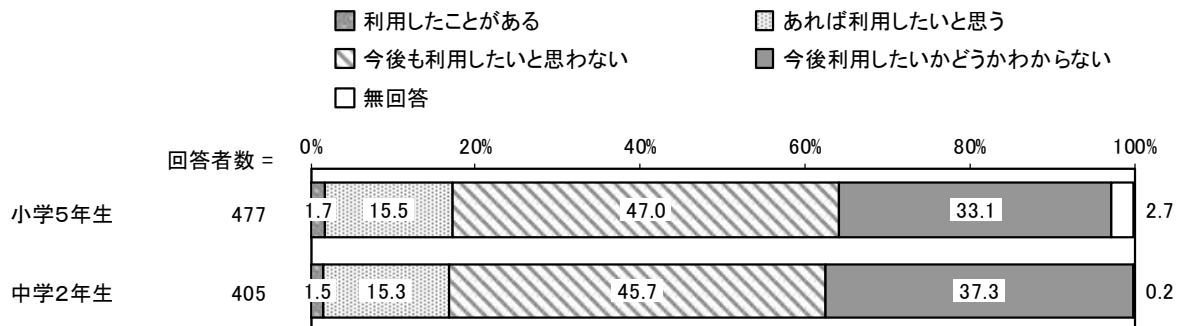
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



⑥家や学校以外で、何でも相談できる場所（電話やインターネットの相談をふくみます）

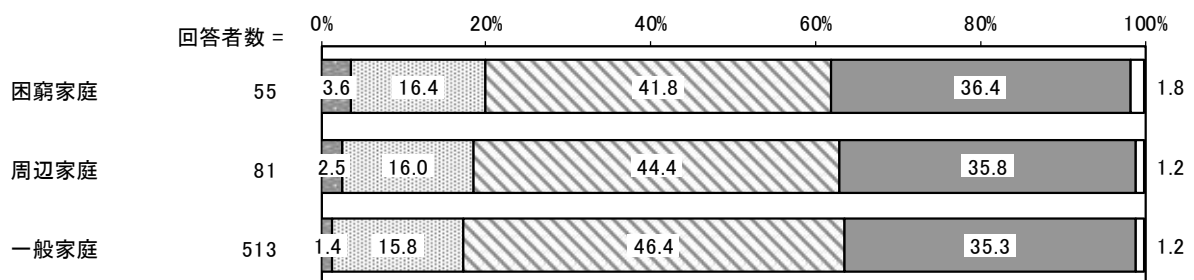
【学年別】

学年別でみると、大きな差異はみられません。



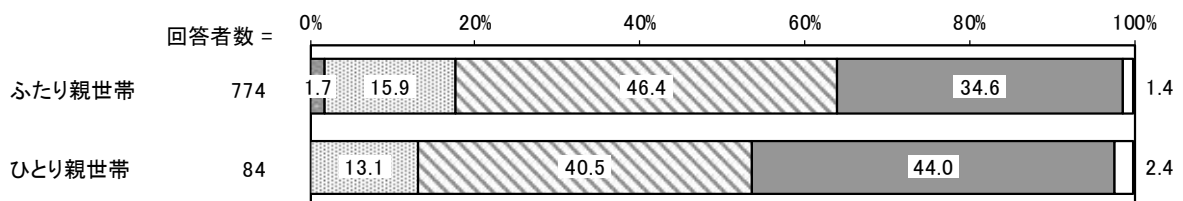
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、大きな差異はみられません。



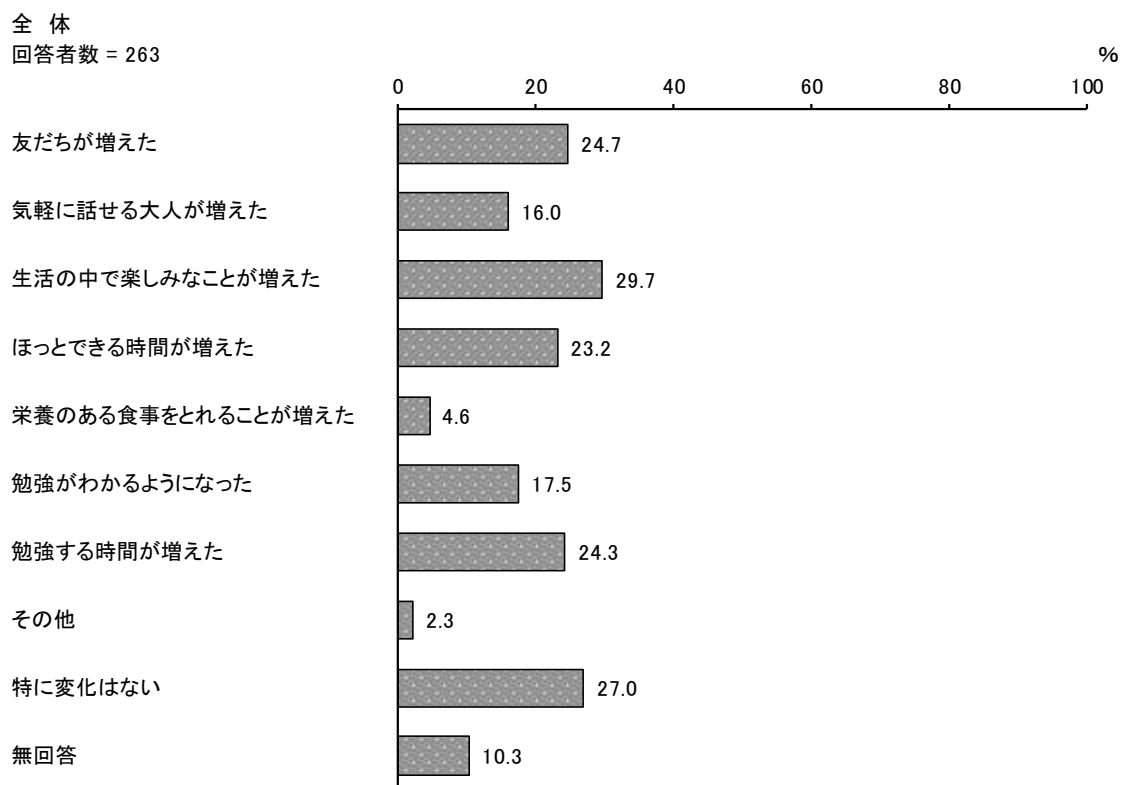
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



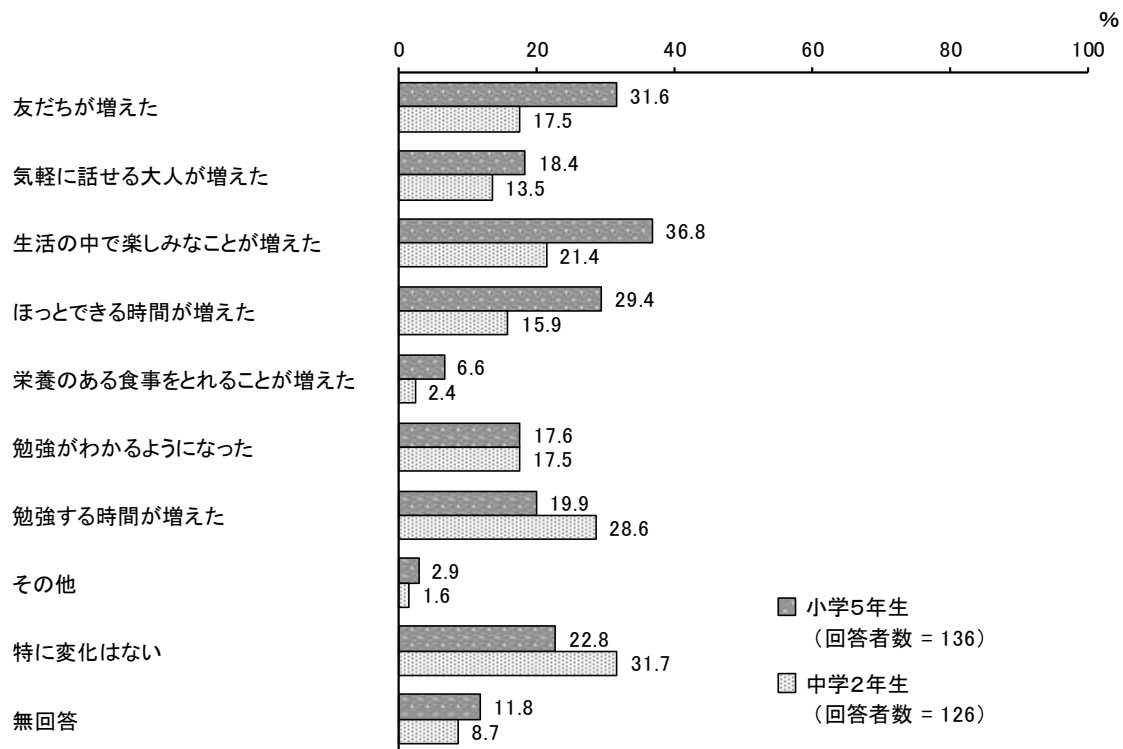
問 21－1 問 21 で、1 つでも「利用したことがある」と答えた人におたずねします。
そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。
(あてはまる番号すべてに○)

「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が 29.7%と最も高く、次いで「特に変化はない」の割合が 27.0%、「友だちが増えた」の割合が 24.7%となっています。



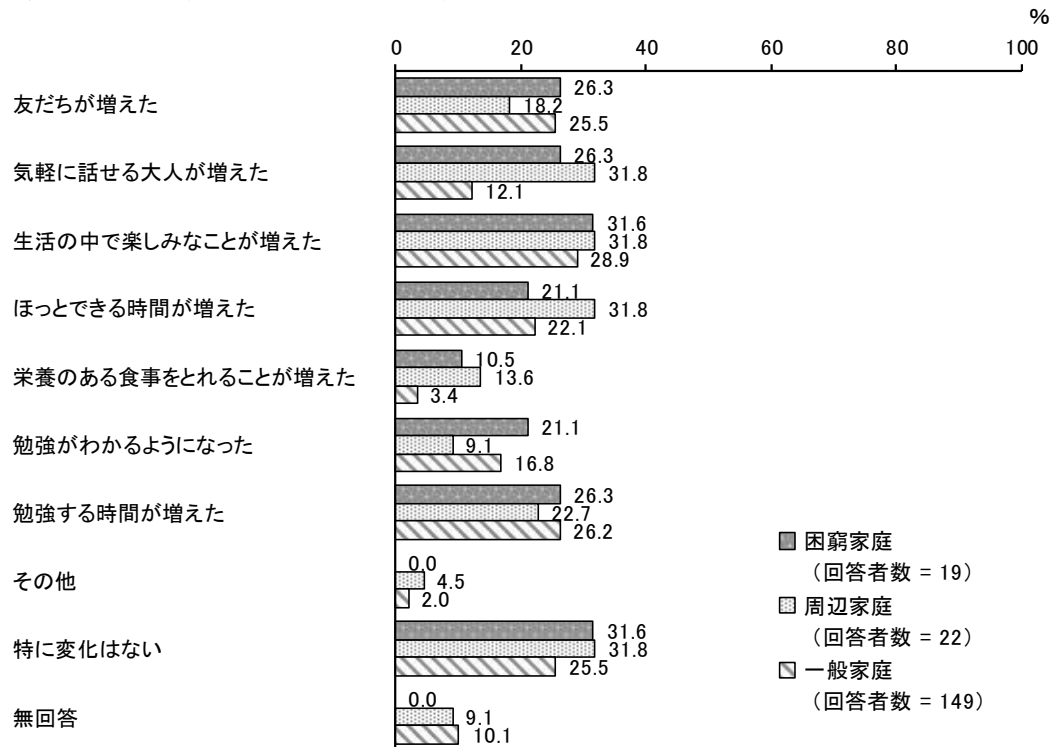
【学年別】

学年別でみると、中学2年生に比べ、小学5年生で「友だちが増えた」「生活の中で楽しいことが増えた」「ほっとできる時間が増えた」の割合が高くなっています。また、小学5年生に比べ、中学2年生で「勉強する時間が増えた」「特に変化はない」の割合が高くなっています。



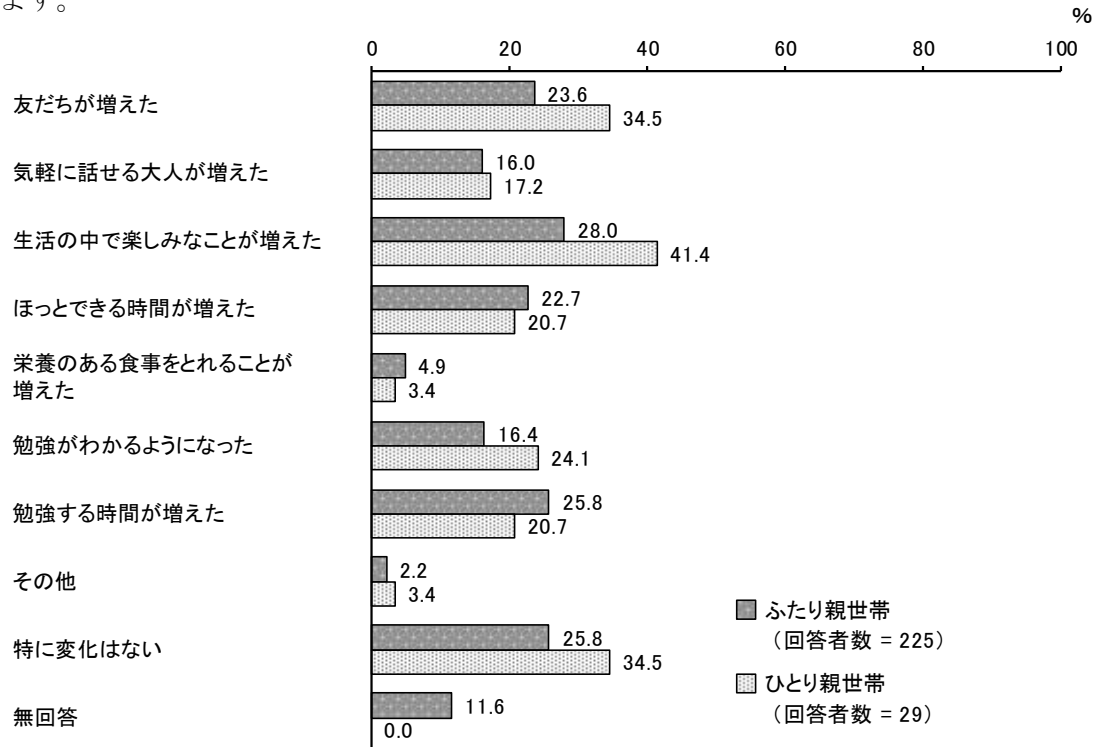
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「友だちが増えた」「勉強がわかるようになった」「特に変化はない」の割合が、周辺家庭で「気軽に話せる大人が増えた」「ほっとできる時間が増えた」「栄養のある食事をとれることが増えた」「特に変化はない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「勉強する時間が増えた」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「友だちが増えた」「生活の中で楽しみなことが増えた」「勉強がわかるようになった」「特に変化はない」の割合が高くなっています。



(6) 自由記述

問 22 長野市が何かしてくれるとしたら、あなたはどんなことを望みますか。また、日々の生活で感じていることや困っていることなどがあれば、自由に書いてください。

長野市に望むこと、日々の生活で感じていることや困っていることなどを尋ねたところ、887人中 353 人（39.8%）から、合計 549 件の意見が寄せられました。

順位	分類	件数
1	学校のこと（設備、学校生活、ネット関連、校則・制服など）	130
2	居場所のこと（スポーツ・屋内施設、図書館、学習など）	101
3	行政のこと（環境・SDGs、まちづくり、災害対策など）	60
4	お金のこと（お金・給付金、学費・給食費、医療費など）	46
5	新型コロナウイルス感染症に関すること（コロナへの対策など）	39
6	商業施設のこと（大型ショッピングモールなど）	30
7	イベントのこと	29
8	道路・公共交通のこと（道路、街灯・防犯カメラなど）	28
9	勉強のこと（難しい・教えてもらいたい、授業内容）	23
10	友達のこと（人間関係・いじめ・トラブル）	15
11	相談に関すること（相談できる場所）	11
12	家族のこと（家庭環境・家族間の仲など）	9
13	アンケートに関すること	6
14	将来のこと（職場体験）	2
15	その他	20
	総数	549

【分類別の意見の内容と代表的な意見】

分類	内容	件数	代表的な意見
学校のこと	設備について	25	○トイレを新しくしてほしい。すごく古くて汚く、衛生的に見て危ないと感じている。 ○体育館の雨漏りを直してほしい。雨が降ると何もできない。 ○体育館は、夏は熱中症になりやすいし冬はお腹が痛くなるからエアコンをつけてほしい。 ○花壇の花を増やしてほしい。
	学校生活、授業・休日など	24	○学校の日を少なくしてほしい。 ○休みの日または休める時間がほしい。 ○勉強量を減らしてほしい。 ○昔のように土曜日でも学校にしてほしい。
	ネット関連	23	○学校のネット環境を良くしてほしい。

			○タブレットを持ち帰れるようにして、オンライン授業とかも早くやってみたい。 ○GIGAスクール構想のパソコンをもっと性能のいいパソコンにしてほしい。 ○タブレットで先生に内緒でいろいろなミニゲームをしているクラスメイトが何人かいるので、ゲームができる機能をとってほしい。
	校則・制服について	12	○校則が厳しいため、冬寒くてもタイツを履くことができず、足がとても冷たくなることがある。もう少し理解のできるものに絞ってほしい。 ○変な決まりを直してほしい。掃除のときに手ぬぐいに前髪を入れる、制服の下に夏でも体操着を着なくてはいけない、制服のブレザーからカーディガンの裾が見えてはいけない、など。 ○先生と生徒のルールが違いすぎる。教師は防寒着を着てもいいのに生徒はダメ。これは理不尽すぎる。
	教師に対する意見	11	○先生が「お前」とか「はだ色」とかいう言葉を使うのをやめてほしい。 ○男子にはすごく怒って女子には全然怒らない。男女平等に注意してほしい。 ○授業中にマスクをしない生徒に対し何も咎めない公立中学校の実態を改善してほしい。
	給食について	9	○給食の残食が多すぎる。必要以上の量があり、完食する日は少ない。もっと作る量を少なくしてほしい。 ○給食をもう少しおいしくしてほしい。 ○給食で、お楽しみ献立を増やしてほしい。
	部活	5	○部活の先生が部活にあまり来ず、部全体の雰囲気が悪くない。また来てもほとんど教えず、部活の楽しさが生まれない。 ○私の学校は少人数で部活が3つしかない。自分が本当に入りたかったのを先生に言っても、相談や話し合いもなく「できません」と言われ違う部活に入っている。
	学校のあり方等	5	○学校は絶対に行かなきゃいけない場所ではないようにしてほしいと思う。 ○親の許可がなくても教室外登校ができるようにしてほしい。 ○高校まで義務教育にしてほしい。

	通学手段	3	○遠くの中学を受験したいと思っても一人で行く交通手段がない。通学バスなどがどんどん増えたら安心して行きたい中学を受験できていると思っている。 ○中学への通学が遠く、部活動があると帰りのバスの時間がちょうどいいのがなく、親や祖父母の迎えになっている。
	学校行事	2	○社会見学ではなく遠足を増やしてほしい。
	その他	11	—
	計	130	
居場所のこと	スポーツ施設や広い公園	41	○外で遊べる公園（バスケットゴールがあつたりして、周りの人に迷惑をかけないような所）を作してほしい。 ○近所に子どもが遊べる、大きく広くきれいな公園を作してほしい。 ○犬が散歩できるような所を増やしてほしい。 ○もっとグラウンドやスポーツセンターを作してほしい。
	屋内施設	18	○雨でも遊べる施設がほしい。 ○休日に遊びに行けるような場所を増やしてほしい。 ○子どもや学生の娯楽施設を作してほしい。 ○少年科学センターを建て直すのであれば、VR体験や最新の科学のことを学べる場にしてほしい。
	図書館	14	○たくさんの人が利用できる広い駐車場のある図書館を作してほしい。 ○いらぬ本などを集めて「リサイクル図書館」を開いてほしい。 ○歩いて行ける距離の図書館がほしい。
	学習スペース	13	○近くに静かに勉強できる場所がほしい。学校のこととで落ち込んだりすることがあった。 ○勉強する自習スペースを増やしてほしい。 ○休日にも利用できる自習室を作してほしい。
	安く気軽に食事ができる場所	7	○お金がない人や食べるものがなくて困っている人たちに、無料でご飯を提供する場所をこども食堂以外で作ればいいと思う。 ○安いカフェ店を学校の近くに設置。色んなジャンルの相談もできる。
	ゆっくりできる場所	5	○みんなの疲れをとってくれる場所がほしい。 ○自分や友達の家以外で休日を過ごすことができる場所がほしい。
	その他	3	—

	計	101	
行政のこと	環境・SDGsについて	20	○もっと環境問題に取り組んでほしい。将来の地球が心配。 ○もっとSDGsを広めてほしい。今の私が何年たっても過ごせるように色々な活動をみんなでしたい。 ○長野は山とかも多いし、よく晴れるのでたくさん再生エネルギーを今のうちから作って電気代を少しでも安くしてほしい。 ○長野市を自然豊かで、みんな仲良くルールを守れる市にしてほしい。
	まちづくりについて	13	○子どもたちが安心して未来に希望をもって暮らせるような社会を作っていくことを願います。 ○子どもが活躍できるような、魅力ある長野市になってほしい。 ○もっと長野市をあいさつで元気にしたい。あいさつを返してくれない人が多くて悲しい。
	災害対策について	5	○地震や台風などの災害で家がなくなった人の家を早く作って、困っている人を一人でも救ってほしい。 ○災害時の避難場所を増やして、非常食などの備えられるものを用意してもらえたら安心。
	動物の保護	4	○殺処分など動物への被害を少なくする取り組みをすること。殺処分をしないで幸せにしてほしい。 ○絶滅危惧種の保護的な事。森林とか生物の共存。
	格差の解消	4	○富裕層と低所得の人の格差をなくしてほしい。 ○困っている人たちを助けてあげてほしい。お金がない人とか。○市民に貧困をなくしてみんなを幸せにしてほしい。
	その他長野市に対する要望	14	—
	計	60	
お金のこと	お金・給付金	23	○また家族一人につき10万円を給付してほしい。 ○自分の欲しいものを買うためのお金がほしい。 ○文房具教材を安くしてほしい。
	学費・給食費	7	○高校まで学校を無料にしてほしい。 ○給食を無償化してほしい。
	医療費	6	○18歳までの医療費を無償化してほしい。
	習い事	2	○塾や習い事にもっとお金がかからないようにしてほしい。
	その他	8	—
	計	46	

新型コロナウイルス感染症に関すること	コロナへの対策	20	○緊急事態宣言が解除されても自由に歩いていいわけではないのに、解除されたとたん大人がしたいことをしている。 ○子どもたちはちゃんとマスク・手洗い・消毒をきちんとしていたのに、楽しみにしていた行事は感染レベルが上がってできなかった。 ○コロナが流行っているところにほしい物を無料で配る。失業した人々の対策。 ○コロナ対策は子どもが犠牲にならないような内容にしてほしい。学生のことも考えてほしい。
	コロナをなくしてほしい	13	○警戒レベルを上げるなどして。コロナを早くなくしてほしい。完全に終息させてほしい。 ○コロナウイルスが治まってマスクをみんなが外して外を歩ける世界になってほしい。
	給付金・失業者対策	4	○コロナ禍で苦しんでいる全市民に給付金を支給してほしい。飲食店も時短営業じゃなくて通常営業できても、立ち直るまで県で出してあげてほしい。 ○コロナの影響で仕事をなくしたり家をなくした人たちへの寄付金や助かる活動（ボランティアなど）をしていけばいいと思う。
	行事	2	○コロナ禍で中学に入学してから、外に出かけたり泊まったりする行事が全くなく、充実した学校生活が送れていない。
	計	39	
商業施設のこと	大型ショッピングモール	20	○なぜ長野市には松本市や上田市のような大きいショッピングモールがないのか。将来長野市に住みたいとは思えない。 ○休みの日に親や友達と遊びに行ける大型商業施設を作ってほしい。そういうところが少ない。
	身近なところのスーパー・コンビニ	10	○近くにスーパーやコンビニがほしい。遠いところまで行かないと何も買えない。 ○田舎でコンビニも近くにない。何かあってもすぐ近くにあれば便利でいいなと思う。
	計	30	
イベントのこと	イベント	29	○楽しいこと・体験や遊ぶことのできるイベントをやってほしい。自然体験、謎解き、イラストなど。 ○ほかの人と知り合える交流会を開いてほしい。 ○伝統を敬う活動を増やしてほしい。 ○お祭りを増やしてほしい。
	計	29	

道路・公共交通のこと	道路の整備	17	○道路がへこんでいて、雨が降ると水がたまり車に飛ばされることがあるので、通学路の見直しをしてほしい。 ○田舎の道路も整えてキレイにして、長野市街地まで行きやすくしてほしい。 ○通学路で道路わきにごみ捨て場があって通学の邪魔。事故になるかもしれないから道路のゴミ捨て場がなくなってほしい。 ○細い道が多く、速度をあげて走る車が多いので怖い。
	街灯・防犯カメラ	7	○田舎は街灯も少なく夜危ないので、街灯を置いてほしい。 ○塾が終わった後、帰る途中に街灯がなくてとっても怖い。 ○変質者がいるから通学路に防犯カメラをつけてほしい。
	バス・電車	4	○通学用の電車・バスが少ない。 ○学割などで、もっとバスに気軽に乗れるようにしてほしい。
	計	28	
勉強のこと	勉強が難しい・教えてもらいたい	14	○勉強が分からないから、気軽に相談できる場所がほしい。 ○大学生くらいの人に勉強、中学受験をわかりやすく教えてもらいたい。 ○家の近くで勉強を教えてくれる場所や静かに読書できる場所があれば行きたい。 ○中学受験を受けたくて塾に行きたいが、お金や時間の問題で行けない。ネットで受けられる塾みたいなものを作ってほしい。友達はみんな塾に行っていて、少し不安。
	授業内容	9	○今の英語の教科書が分かりにくいので、前回の教科書に変えてほしい。分かりやすい授業を受けたい。 ○勉強がわからない時に素直に分からないと言える環境整備をしてほしい。 ○東京などの中学校でやっている新しいこと（機械を使ったりする）などを、長野市の中学校でもやってほしい。
	計	23	

友達のこと	人間関係・いじめ・トラブル	15	○子どもが退屈になるような学校ではなく、生徒全員が本気で「楽しい！」と言える学校にしてほしい。 ○クラスでいじめをしている人が少しいるから止めたいが、そしたら自分がいじめられるかもしれないと思うと勇気が出ない。 ○部活で顧問のコーチが厳しすぎてやめてしまった友達が、食事をする元気がないほどになってしまっている。すごく痩せてしまっているのが分かるほどで心配。
	計	15	
相談に関すること	相談できる場所	11	○自分の体に変化を感じた時や、友達に嫌な事や悪口を言われて嫌だったことを相談する窓口を作ってほしい。 ○家族に伝えづらいことなどあった時、気軽に相談できる取り組みをしてほしい。 ○自分はあまり意見が言えないから、ゆっくりでいいから相談など聞いてくれる場所がほしい。 ○たくさんの方が味方してくれたり、子どもだけでなく親や大人の相談場所も増えるといいと思う。
	計	11	
家族のこと	家庭環境、家族間の仲	5	○父と母の喧嘩が絶えない。父は私や兄に暴力を振るったり、「消えろ」など暴言を吐く。将来の夢についても口を出し、「お前の夢は終わっている」と何度も言ってくる。周りに優しい父親が多いことはうらやましい。 ○母親は注意をしてくるが、母自身ができていない。たまに私は召使なのかと思うことがある。 ○ひとり親でお母さんが1人でぼくを見てくれて大変だと思う。弟が言うことを聞かなくてすごく困っている。
	その他	4	○大人の勤務時間を減らしてほしい。家族と出かける旅行などの時間とお金があればいい。 ○親を幸せにしてほしい。
	計	9	
アンケートに関すること	アンケート	6	○アンケートの回答を親に見られたくない子どもたちもいると思うので、親の手に渡らず直接子どもたちが回答できるようにしたほうがいい。 ○このアンケートを年に数回やってほしい。子どもの意見も未来を創っていくので聞いてほしい。
	計	6	

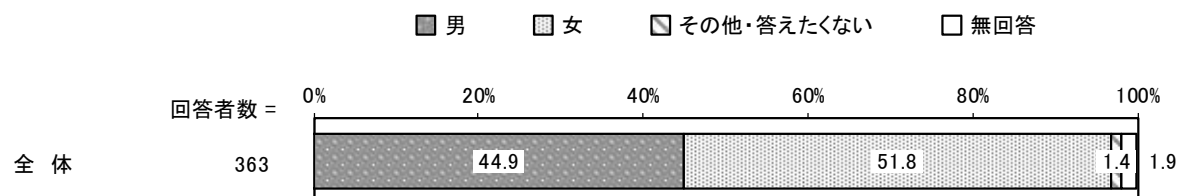
将来のこと	職場体験	2	○職場体験等、未来につながる行事を開いてほしい。 ○職場体験のできる場所を増やしてほしい。
	計	2	
その他	前向きな意見	5	○日々の生活では毎日楽しく学校に行っているので困ったことなど全くない。 ○今の生活が幸せで楽しいと感じている。これからもこのような時間が続けばいいなと感じている。
	後ろ向きな意見	2	○そもそも自分のいい所が一つもないと思う。なにかと「ああ、やっぱり自分ってだめなんだな」と思ってしまう。
	その他	13	－
	計	20	
合計		549	

3 16～17 歳

(1) 回答者属性

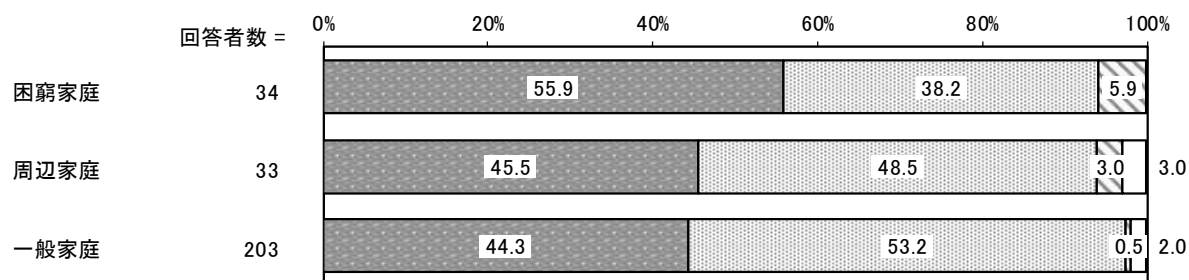
問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

「男」が44.9%、「女」が51.8%、「その他・答えたくない」が1.4%となっています。



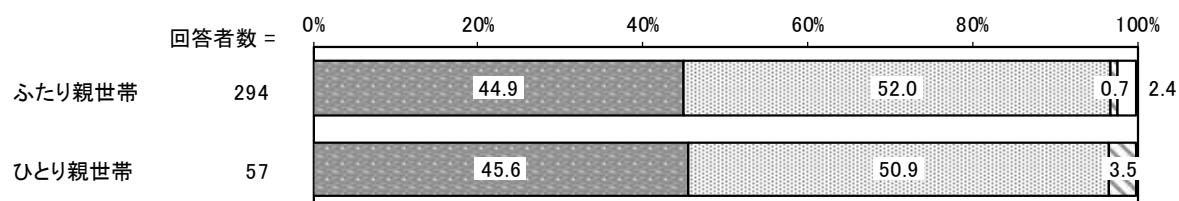
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、困窮家庭で「男」が55.9%、「女」が38.2%、周辺家庭で「男」が45.5%、「女」が48.5%、一般家庭で「男」が44.3%、「女」が53.2%となっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯で「男」が44.9%、「女」が52.0%、ひとり親世帯で「男」が45.6%、「女」が50.9%となっています。

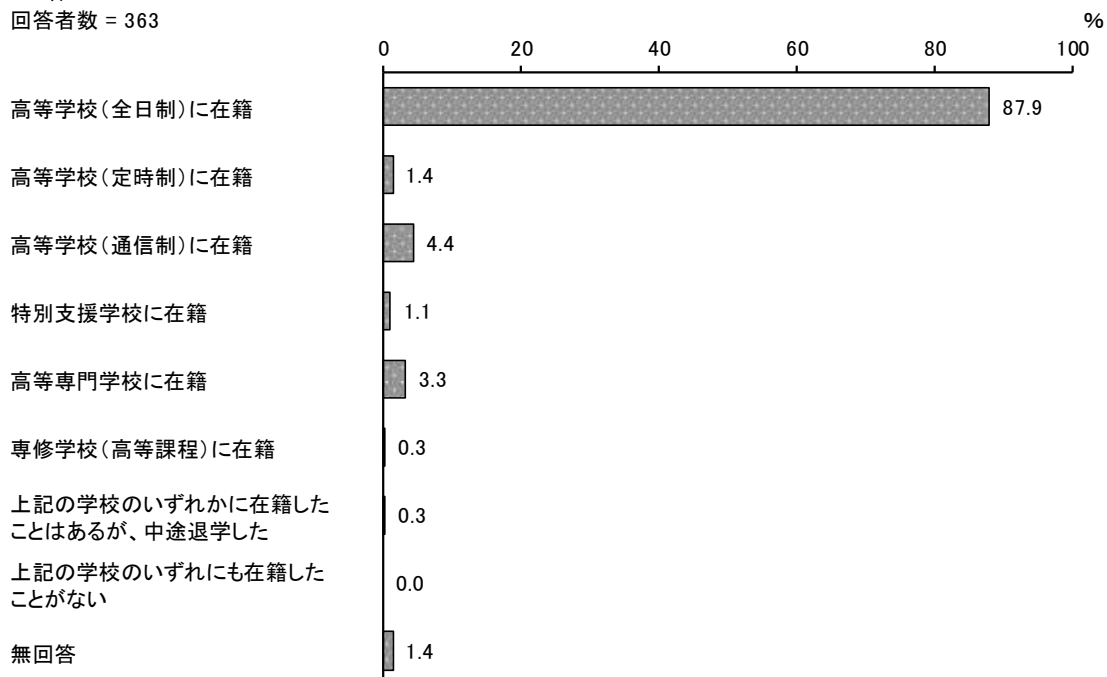


問2 あなたは、現在、学校に在籍していますか。（あてはまる番号1つに○）

「高等学校（全日制）に在籍」の割合が 87.9%と最も高くなっています。次いで、「高等学校（通信制）に在籍」の割合が 4.4%、「高等専門学校に在籍」の割合が 3.3%となっています。

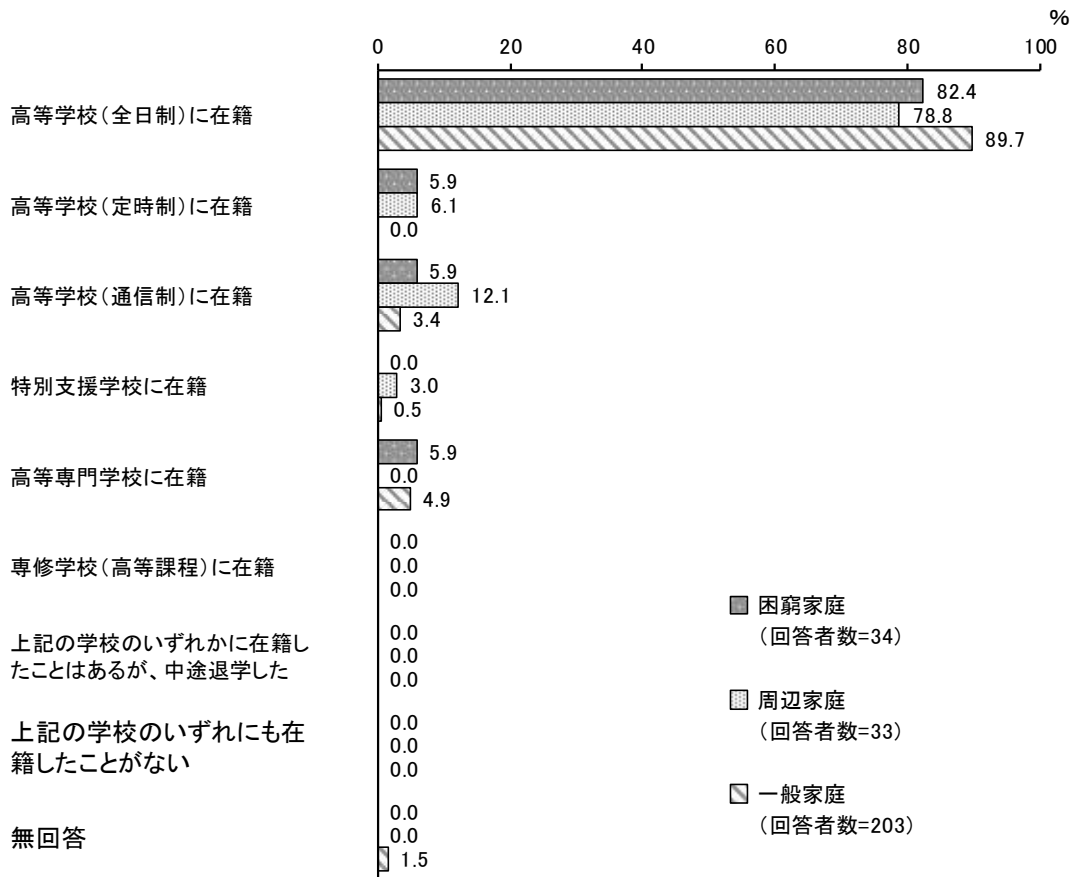
全 体

回答者数 = 363



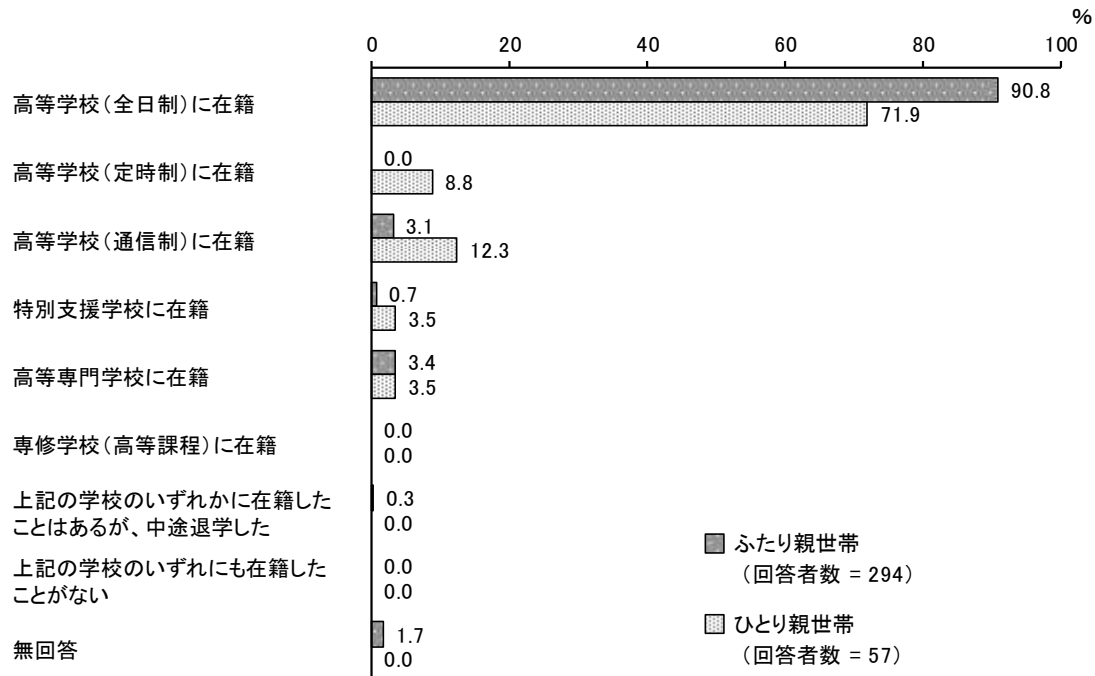
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「高等学校（全日制）に在籍」の割合が高くなっています。困窮家庭、周辺家庭では「高等学校（定時制）に在籍」の割合が一般家庭と比べて高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「高等学校（通信制）に在籍」の割合が高くなっています。



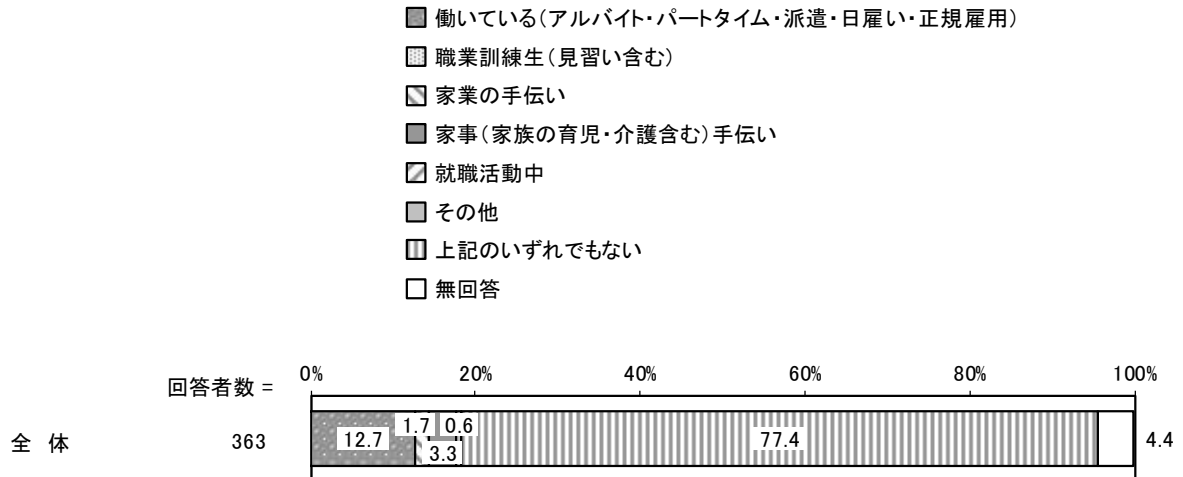
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「高等学校（全日制）に在籍」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「高等学校（定時制）に在籍」「高等学校（通信制）に在籍」の割合が高くなっています。



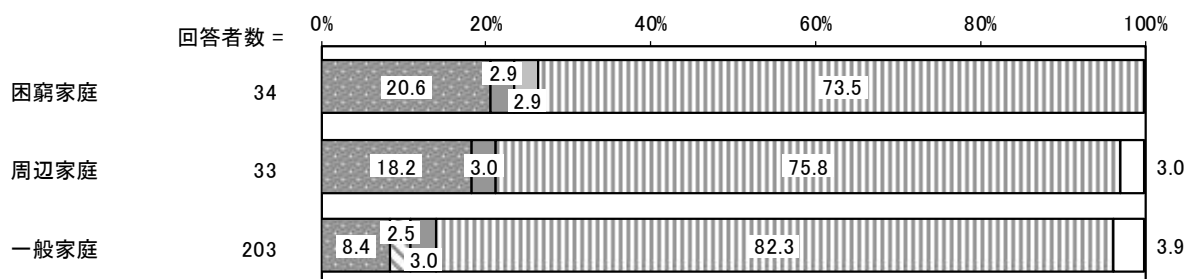
問3 あなたは、現在、働いていますか。次の中から、最もあてはまるものを選んでください。（あてはまる番号1つに○）

「上記のいずれでもない」の割合が77.4%と最も高く、次いで「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正規雇用）」の割合が12.7%となっています。



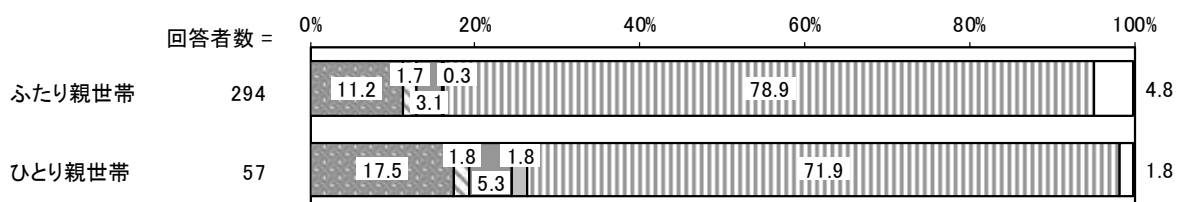
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正規雇用）」の割合が、一般家庭で「上記のいずれでもない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

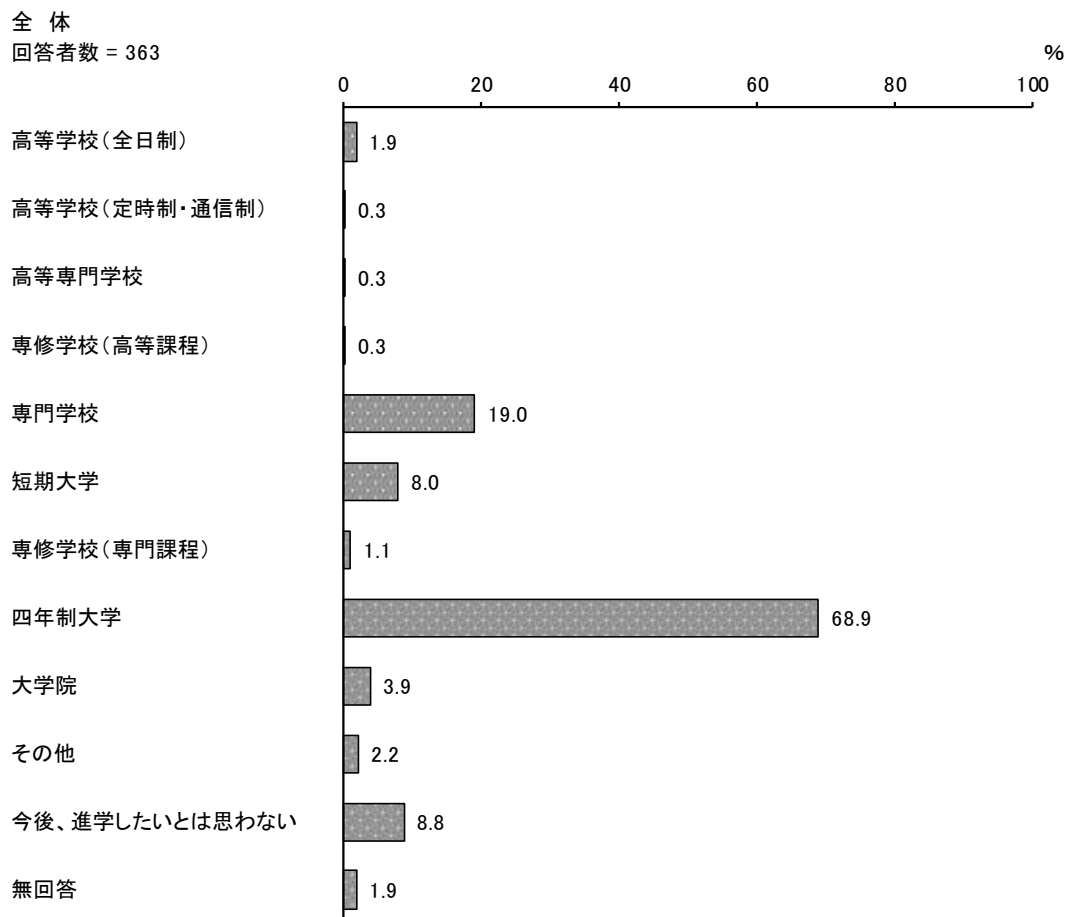
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「上記のいずれでもない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正規雇用）」の割合が高くなっています。



(2) 学校のことや勉強のことについて

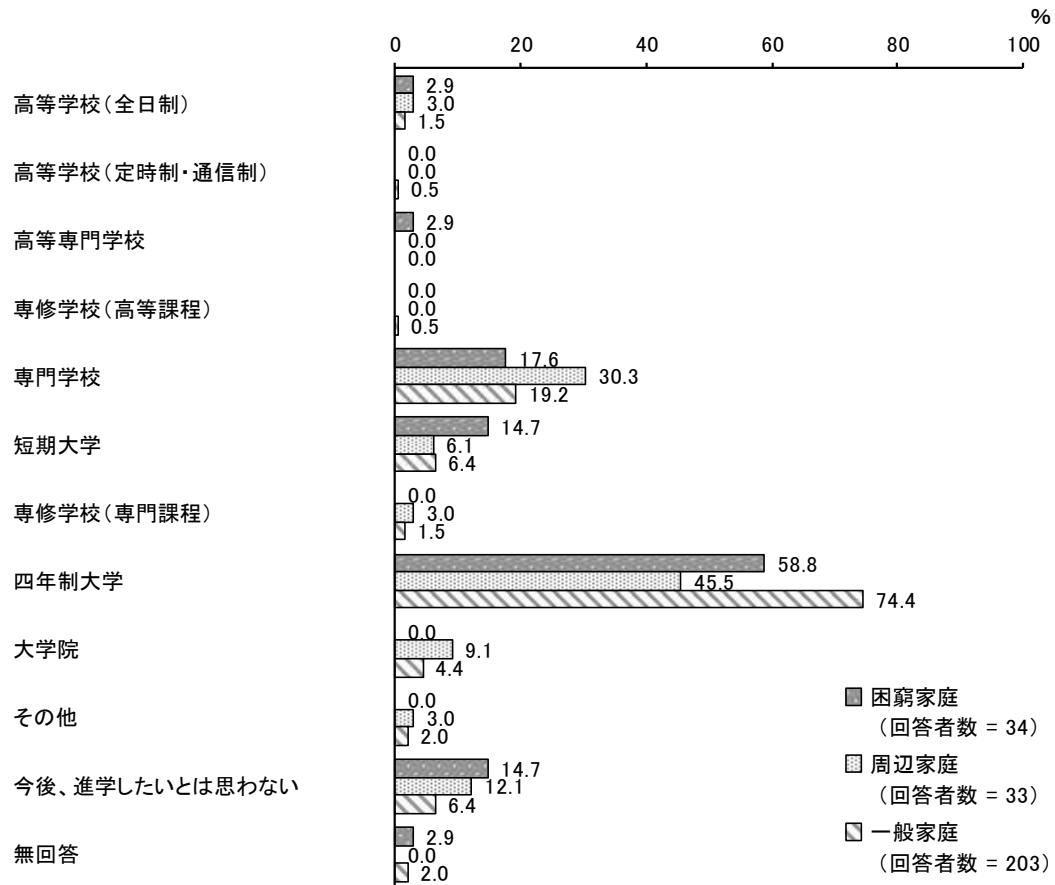
問4 あなたは、今後、通いたいと希望する学校がありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「四年制大学」の割合が68.9%と最も高く、次いで「専門学校」の割合が19.0%、「今後、進学したいと思わない」の割合が8.8%となっています。



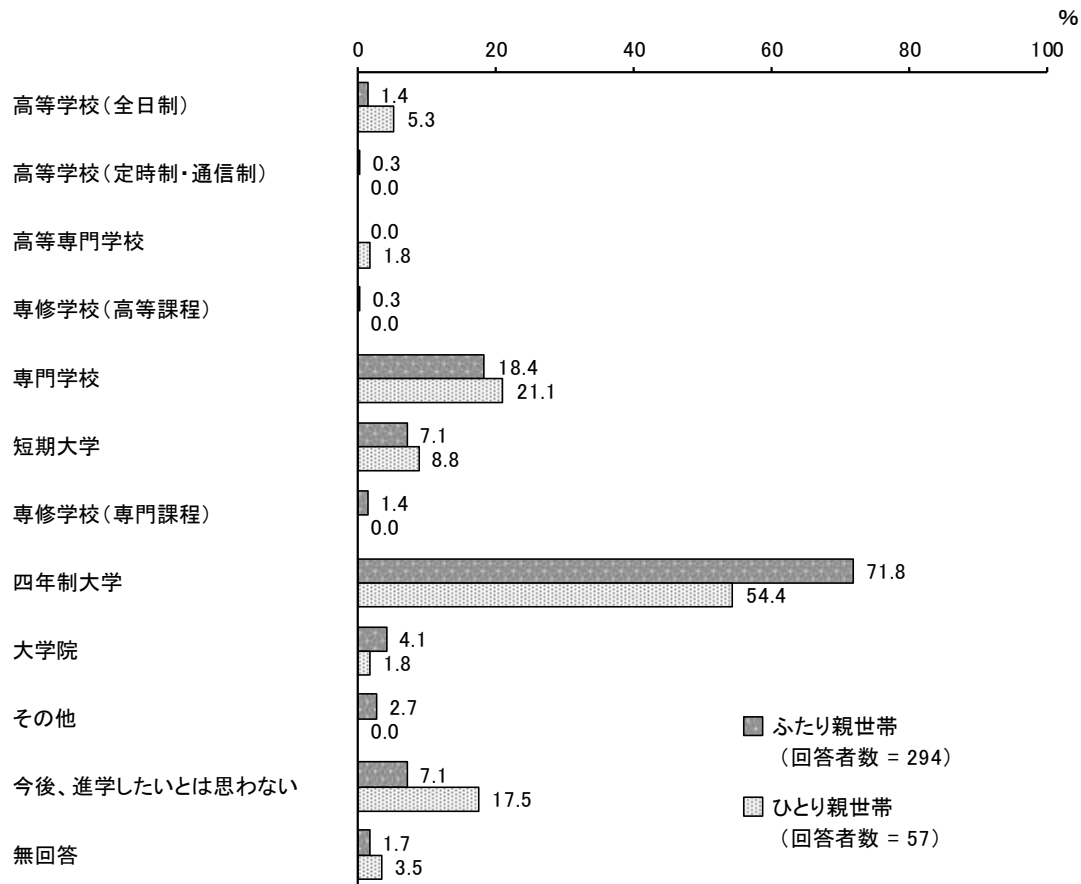
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「短期大学」「今後、進学したいとは思わない」の割合が、周辺家庭で「専門学校」「大学院」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「四年制大学」の割合が高くなっています。



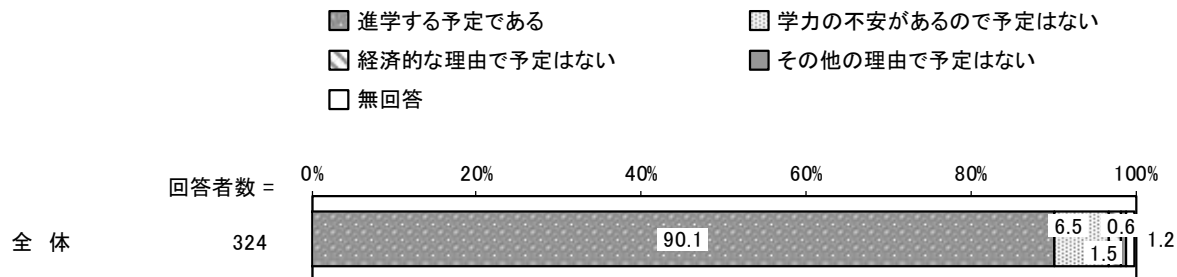
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「四年制大学」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後、進学したいとは思わない」の割合が高くなっています。



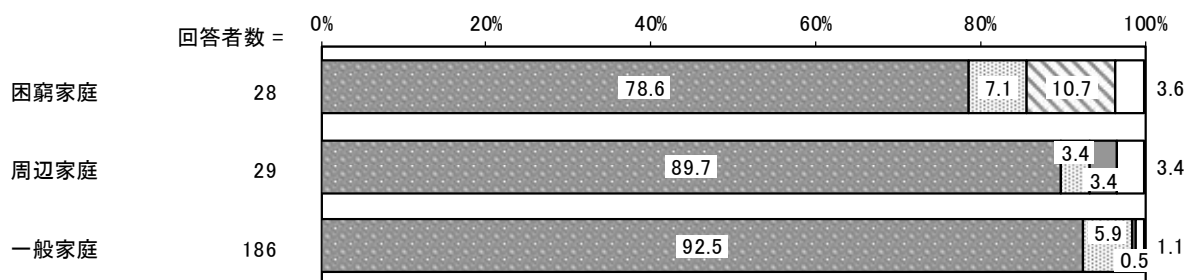
問４－１ 今後の進学を希望する人（問４で１～１０を選んだ人）にお聞きします。
希望する学校に進学する予定はありますか。今の時点での見込みで構いませんので、最もあてはまるものを選んでください。（あてはまる番号１つに○）

「進学する予定である」の割合が90.1%と最も高くなっています。



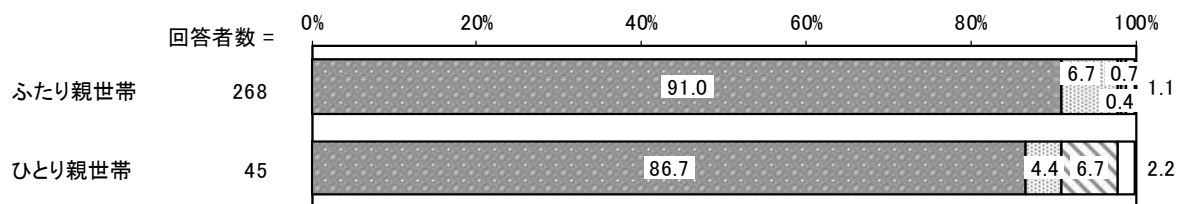
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「進学する予定である」の割合が、困窮家庭で「経済的な理由で予定はない」の割合が高くなっています。



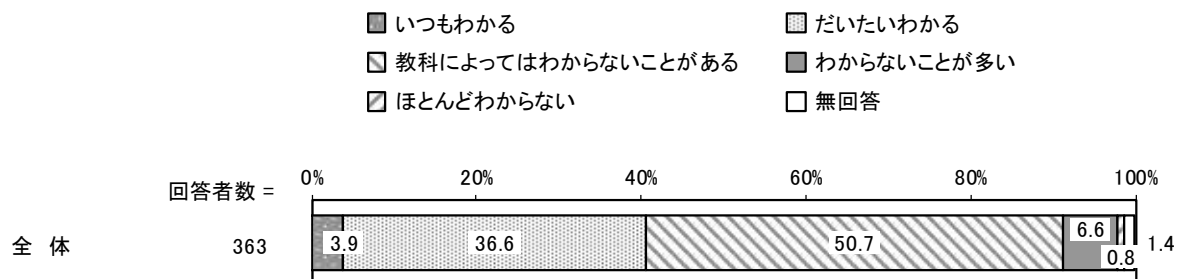
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「経済的な理由で予定はない」の割合が高くなっています。



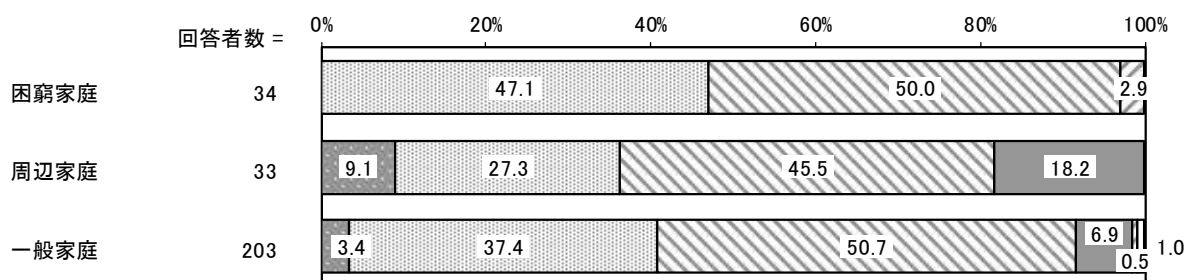
**問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか（ありましたか）。
（あてはまる番号1つに○）**

「教科によってはわからないことがある」の割合が50.7%と最も高く、次いで「だいたいわかる」の割合が36.6%となっています。



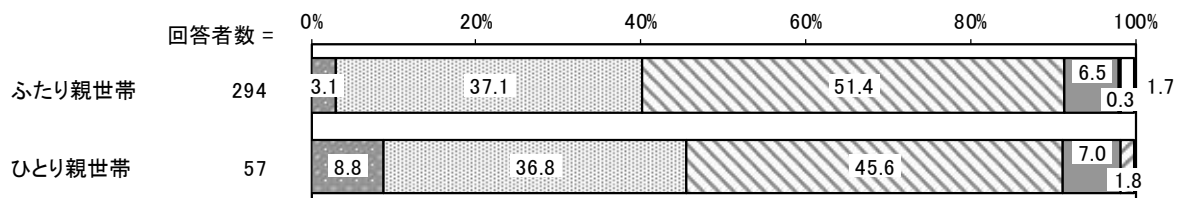
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「だいたいわかる」「教科によってはわからないことがある」の割合が、周辺家庭で「いつもわかる」「わからないことが多い」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「教科によってはわからないことがある」の割合が高くなっています。



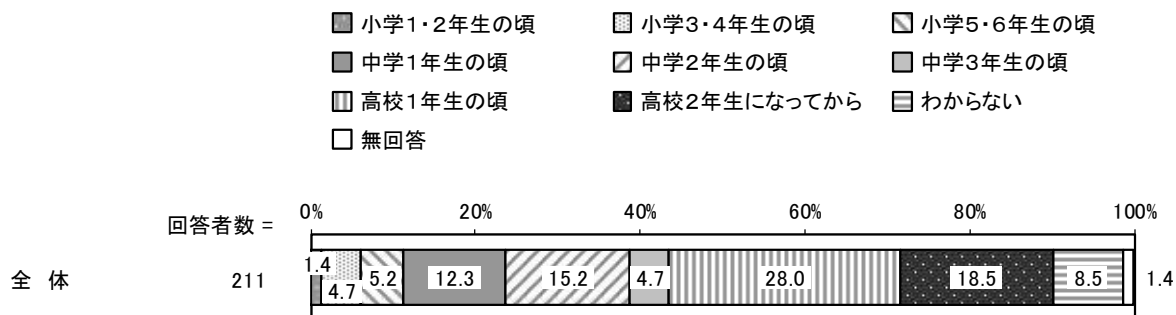
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「教科によってはわからないことがある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「いつもわかる」の割合が高くなっています。



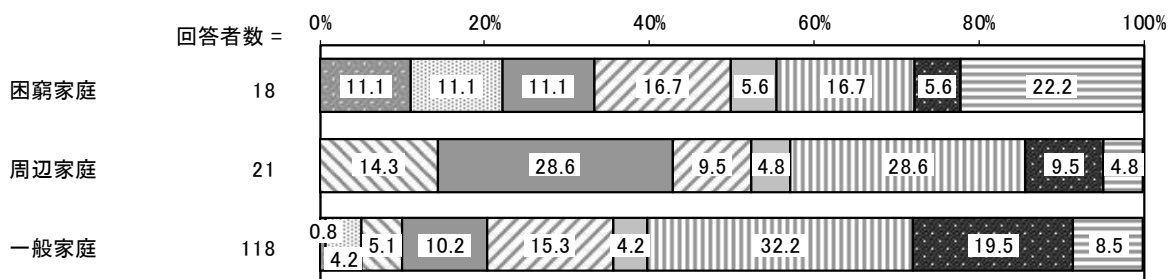
問5－1 問5で「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と答えた人におたずねします。
いつ頃から、授業がわからないことがあるようになりましたか。
(あてはまる番号1つに○)

「高校1年生の頃」の割合が28.0%と最も高く、次いで「高校2年生になってから」の割合が18.5%、「中学2年生の頃」の割合が15.2%となっています。



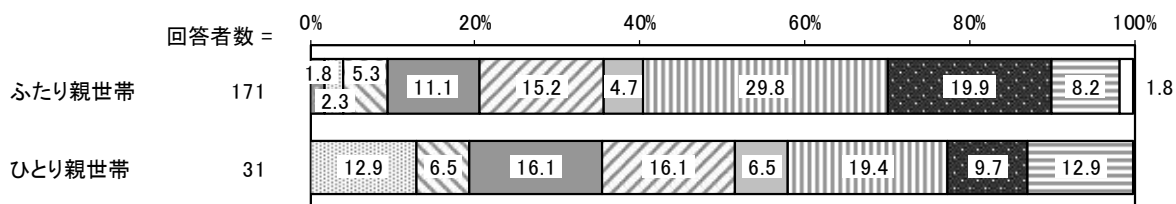
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「小学1・2年生の頃」「小学3・4年生の頃」「中学2年生の頃」「わからない」の割合が、周辺家庭で「小学5・6年生の頃」「中学1年生の頃」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「高校1年生の頃」「高校2年生になってから」の割合が高くなっています。



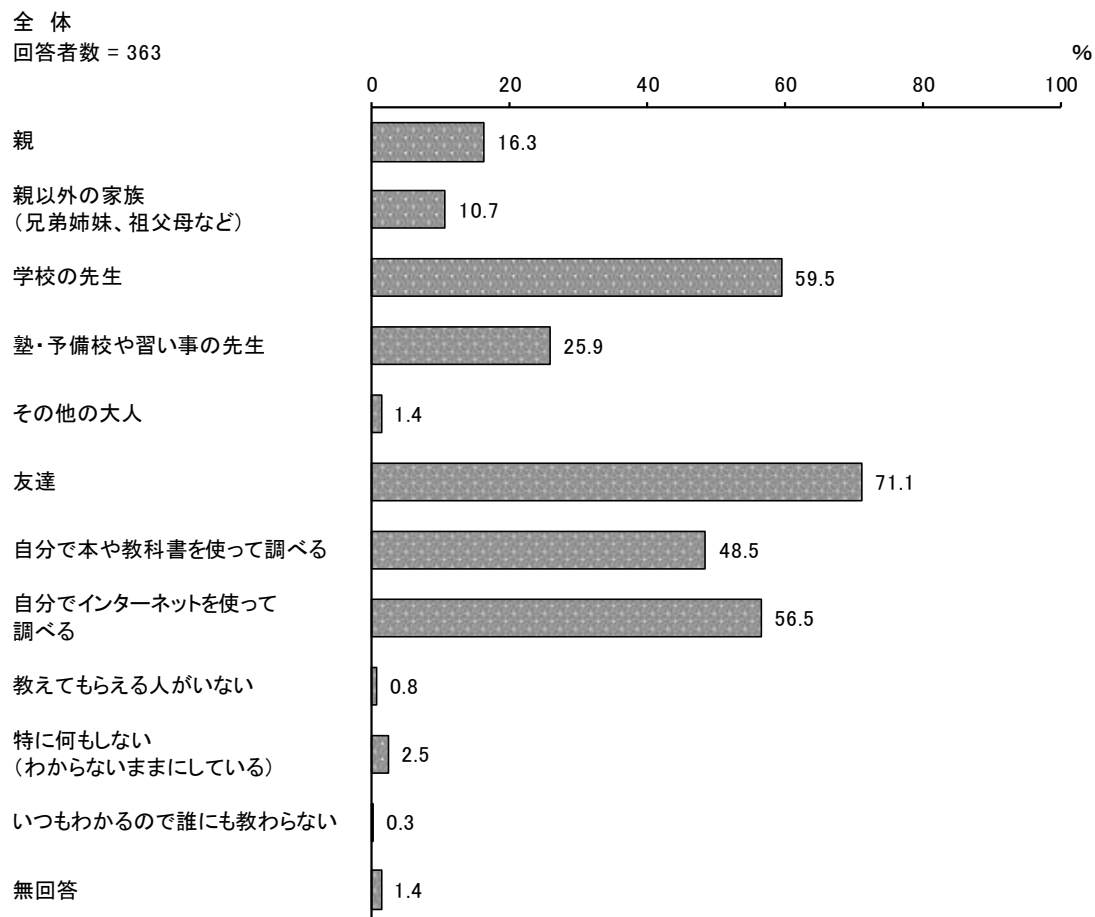
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「高校1年生の頃」「高校2年生になってから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「小学3・4年生の頃」「中学1年生の頃」の割合が高くなっています。



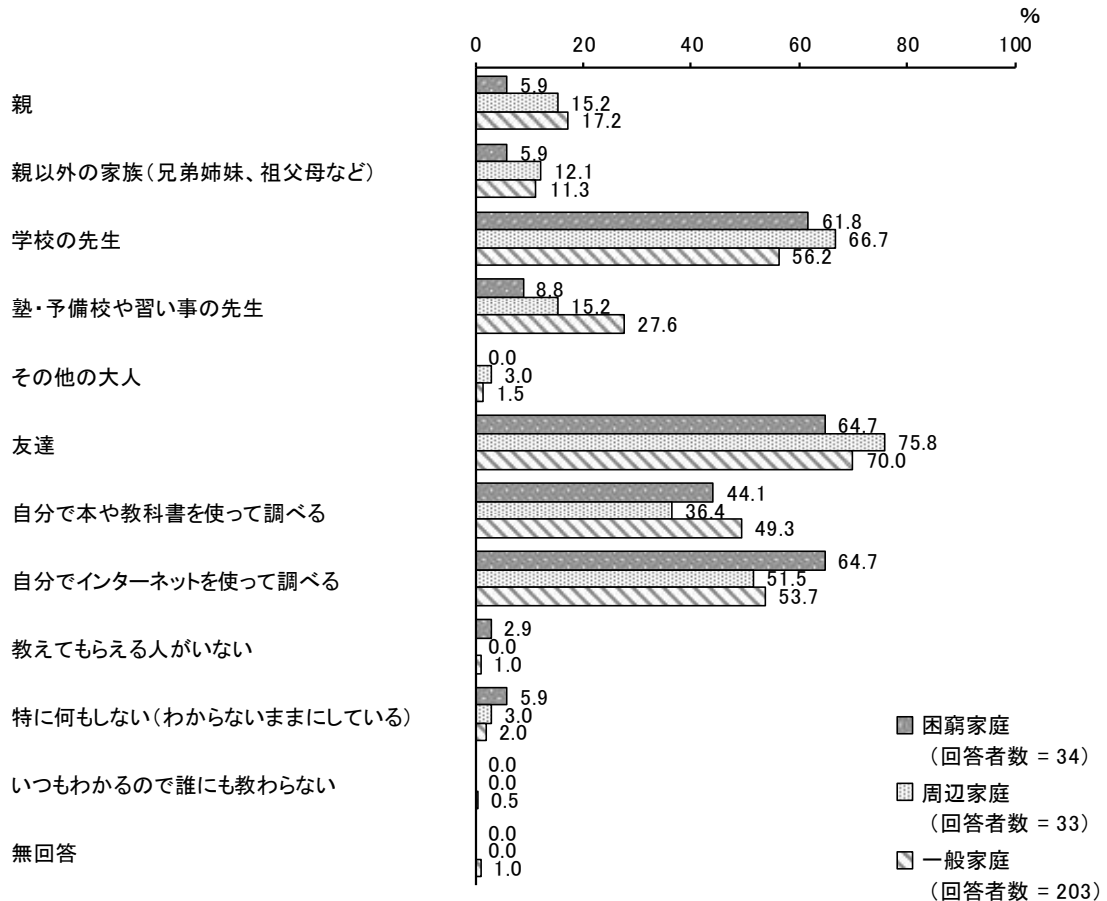
問6 あなたは、学校の授業がわからないときは、誰に教えてもらいますか（教えてもらいましたか）。（あてはまる番号すべてに○）

「友達」の割合が71.1%と最も高く、次いで「学校の先生」の割合が59.5%、「自分でインターネットを使って調べる」の割合が56.5%となっています。



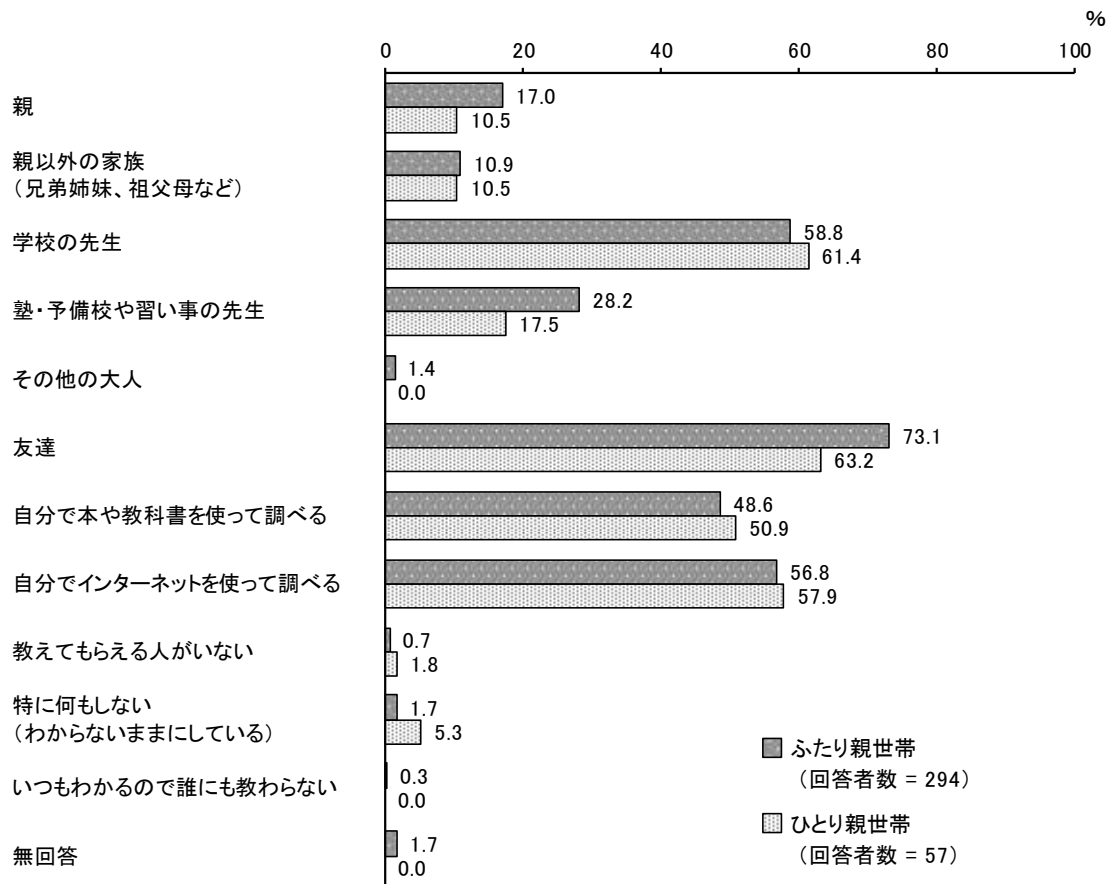
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「親」「塾・予備校や習い事の先生」「自分で本や教科書を使って調べる」の割合が、周辺家庭で「親以外の家族（兄弟姉妹、祖父母など）」「学校の先生」「友達」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「自分でインターネットを使って調べる」の割合が高くなっています。



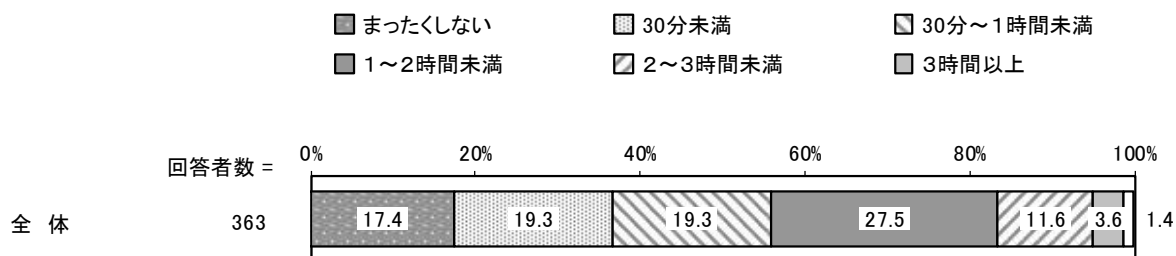
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「親」「塾・予備校や習い事の先生」「友達」の割合が高くなっています。



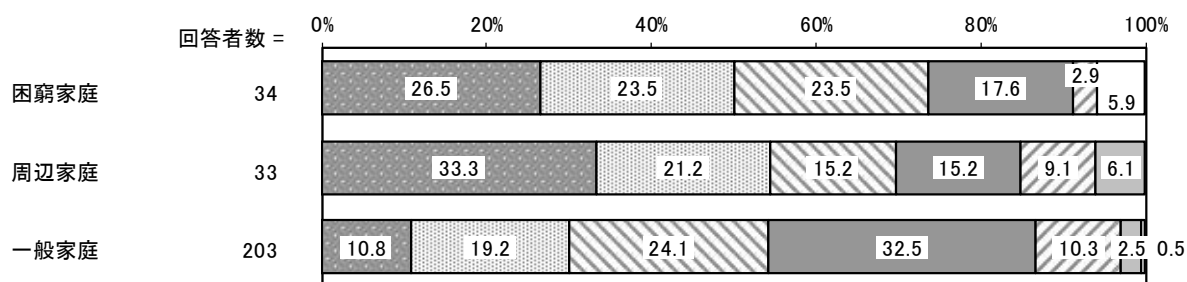
問7 あなたは、平日（月～金曜日）、学校の授業以外に、どれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間も含みます。（あてはまる番号1つに○）

「1～2時間未満」の割合が27.5%と最も高く、次いで「30分未満」、「30分～1時間未満」の割合が19.3%となっています。



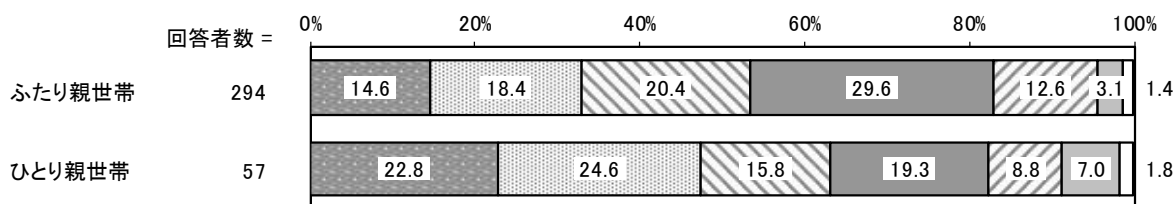
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「まったくしない」「3時間以上」の割合が、一般家庭で「30分～1時間未満」「1～2時間未満」「2～3時間未満」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

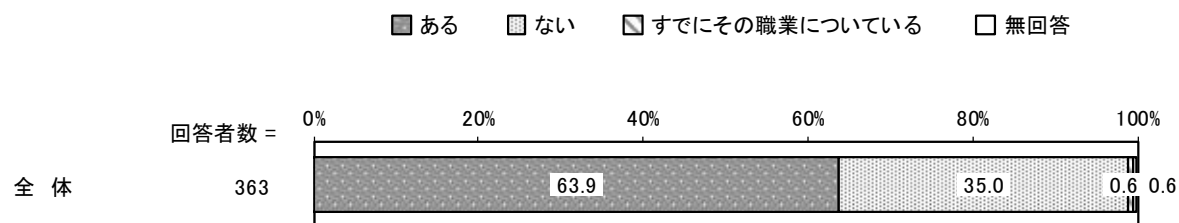
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「1～2時間未満」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「まったくしない」「30分未満」の割合が高くなっています。



(3) 将来なりたい職業について

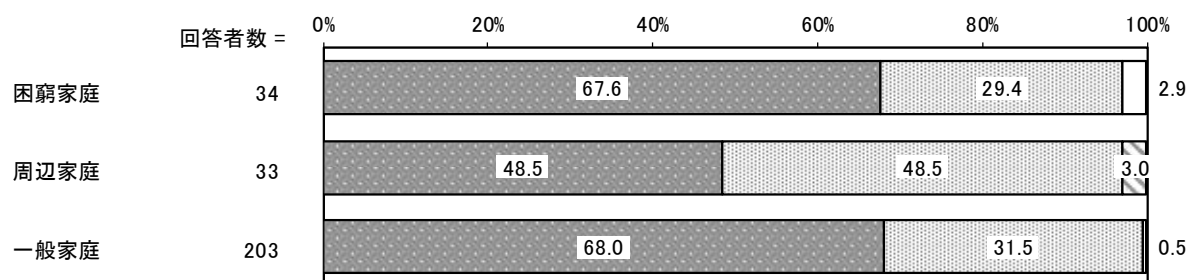
問8 あなたは、将来なりたい職業がありますか。(あてはまる番号1つに○)

「ある」の割合が63.9%と最も高く、次いで「ない」の割合が35.0%となっています。



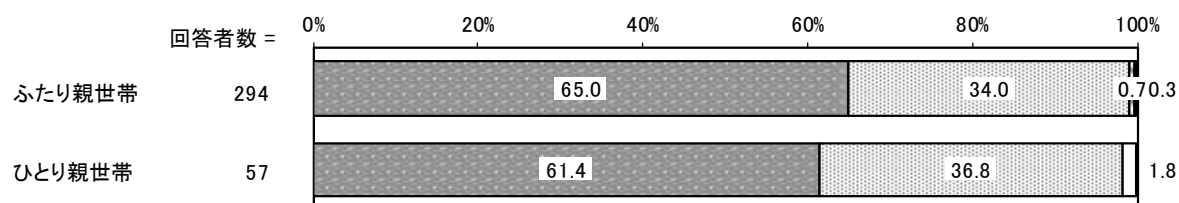
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭、一般家庭で「ある」の割合が、周辺家庭で「ない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

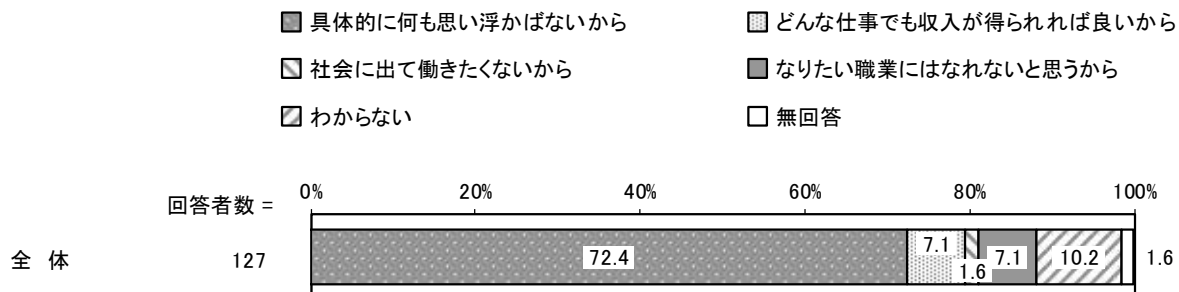
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



問 8－1 問 8 で、「ない」と答えた人にお聞きします。

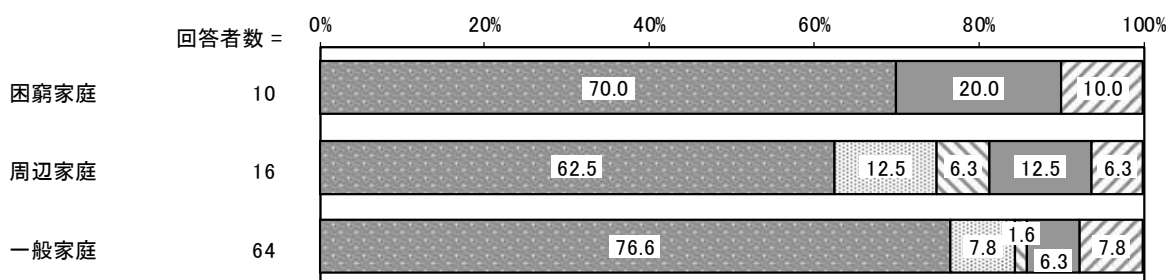
なりたい職業がない理由は何ですか。(あてはまる番号 1 つに○)

「具体的に何も思い浮かばないから」の割合が 72.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 10.2%となっています。



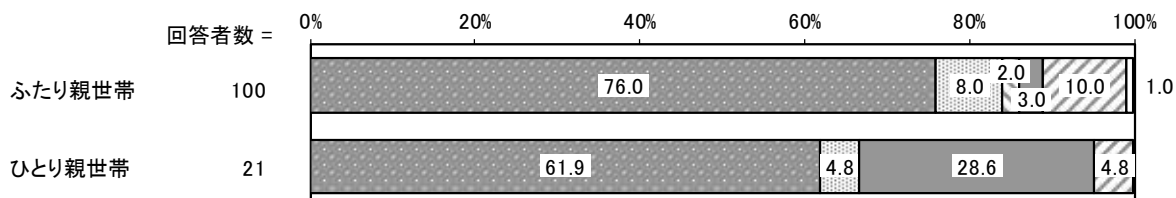
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「具体的に何も思い浮かばないから」の割合が、周辺家庭で「どんな仕事でも収入が得られれば良いから」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「なりたい職業にはなれないと思うから」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

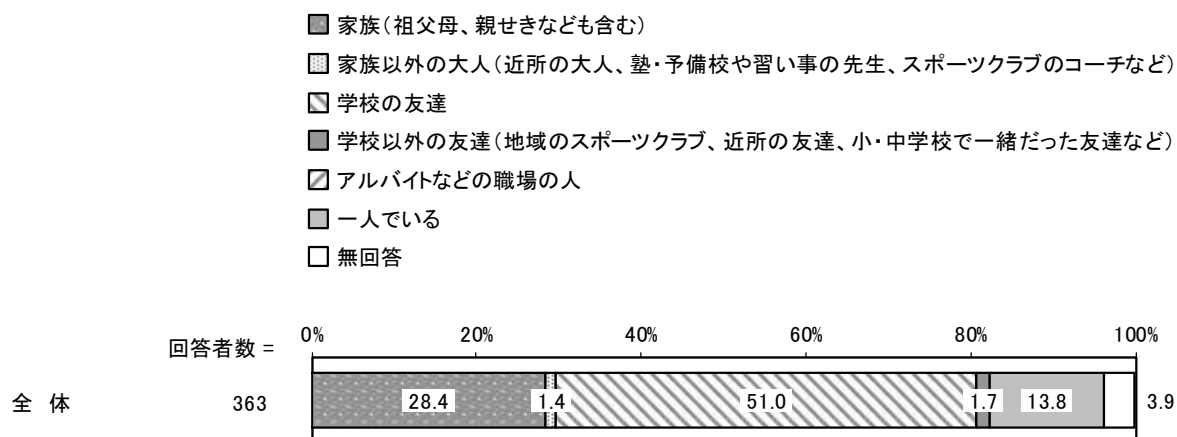
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「具体的に何も思い浮かばないから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「なりたい職業にはなれないと思うから」の割合が高くなっています。



（４）普段の生活について

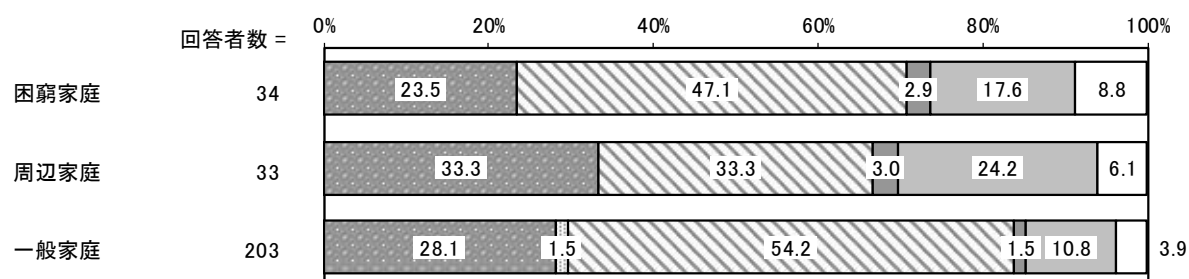
問９ あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、誰と過ごすことが一番多いですか。（あてはまる番号１つに○）

「学校の友達」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「家族（祖父母、親せきなども含む）」の割合が 28.4%、「一人である」の割合が 13.8%となっています。



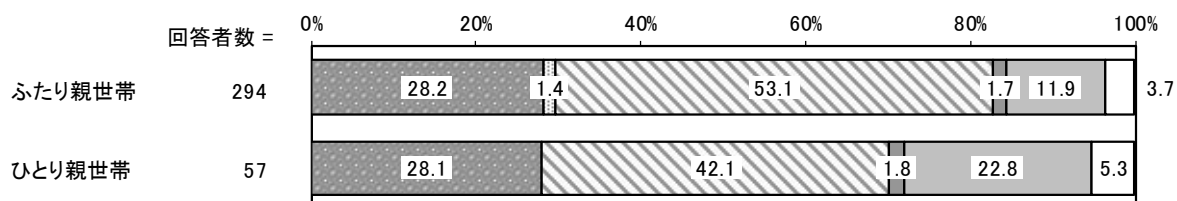
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「家族（祖父母、親せきなども含む）」「一人である」の割合が、一般家庭で「学校の友達」の割合が高くなっています。



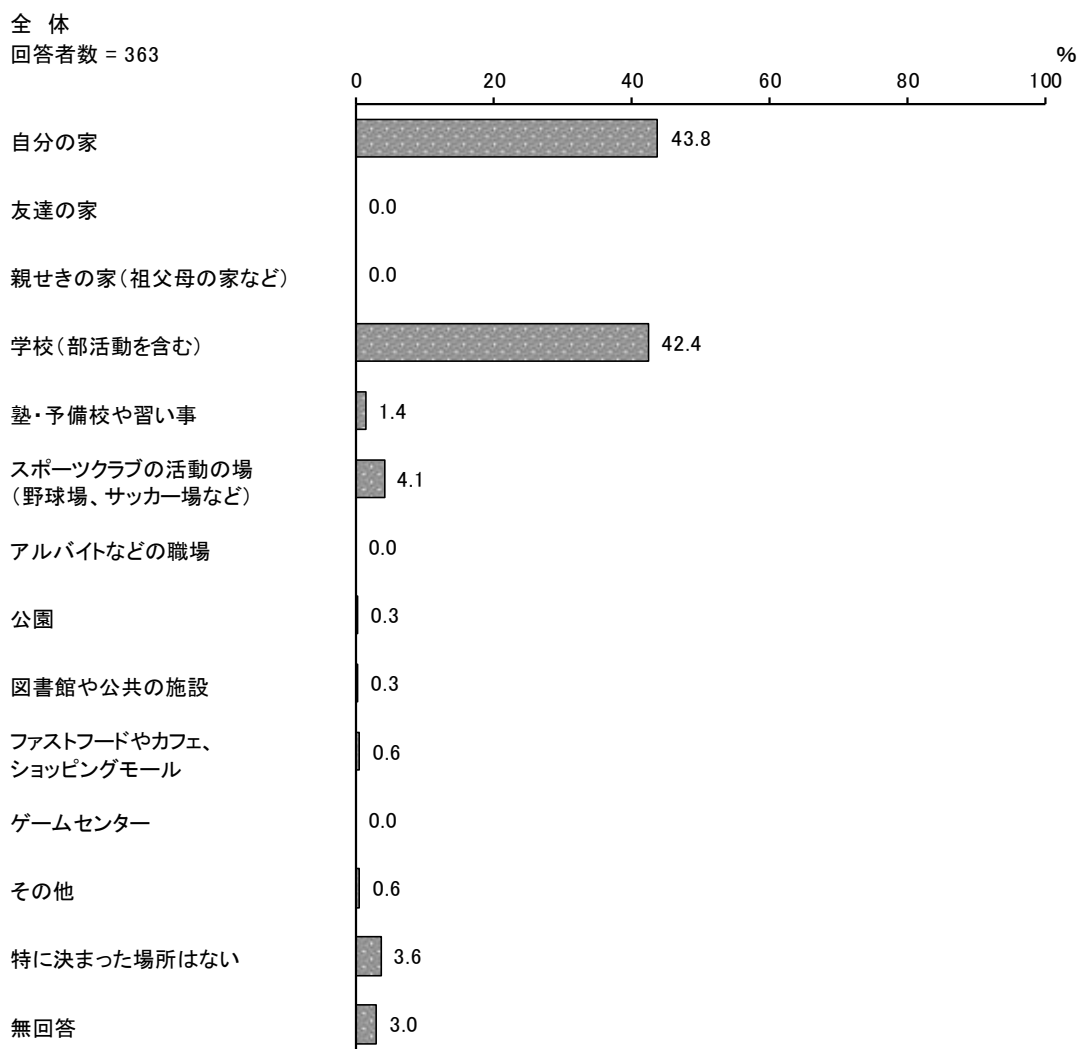
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「学校の友達」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「一人である」の割合が高くなっています。



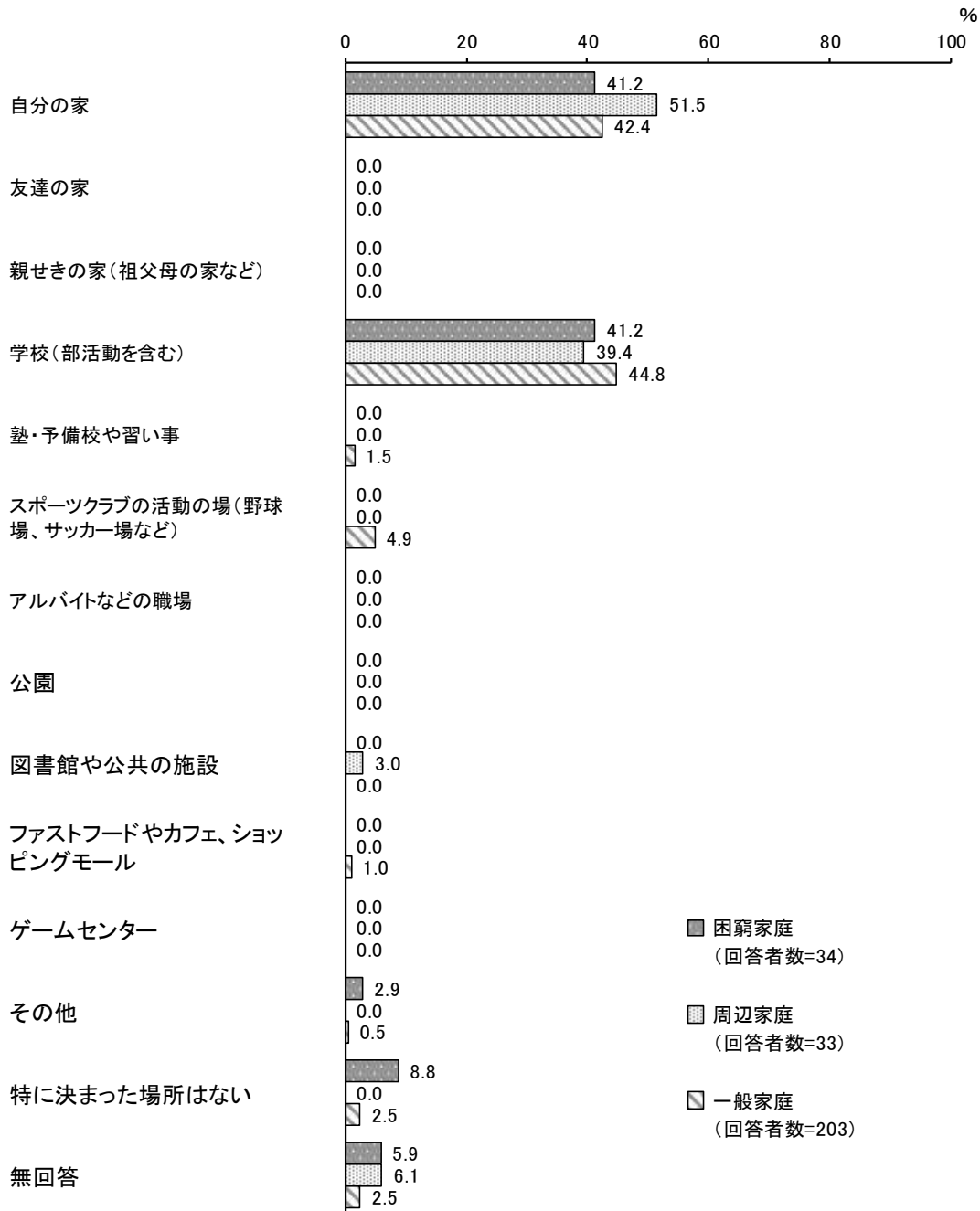
問 10 あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、どこで過ごすことが一番多いですか。（あてはまる番号 1 つに○）

「自分の家」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「学校（部活動を含む）」の割合が 42.4%となっています。



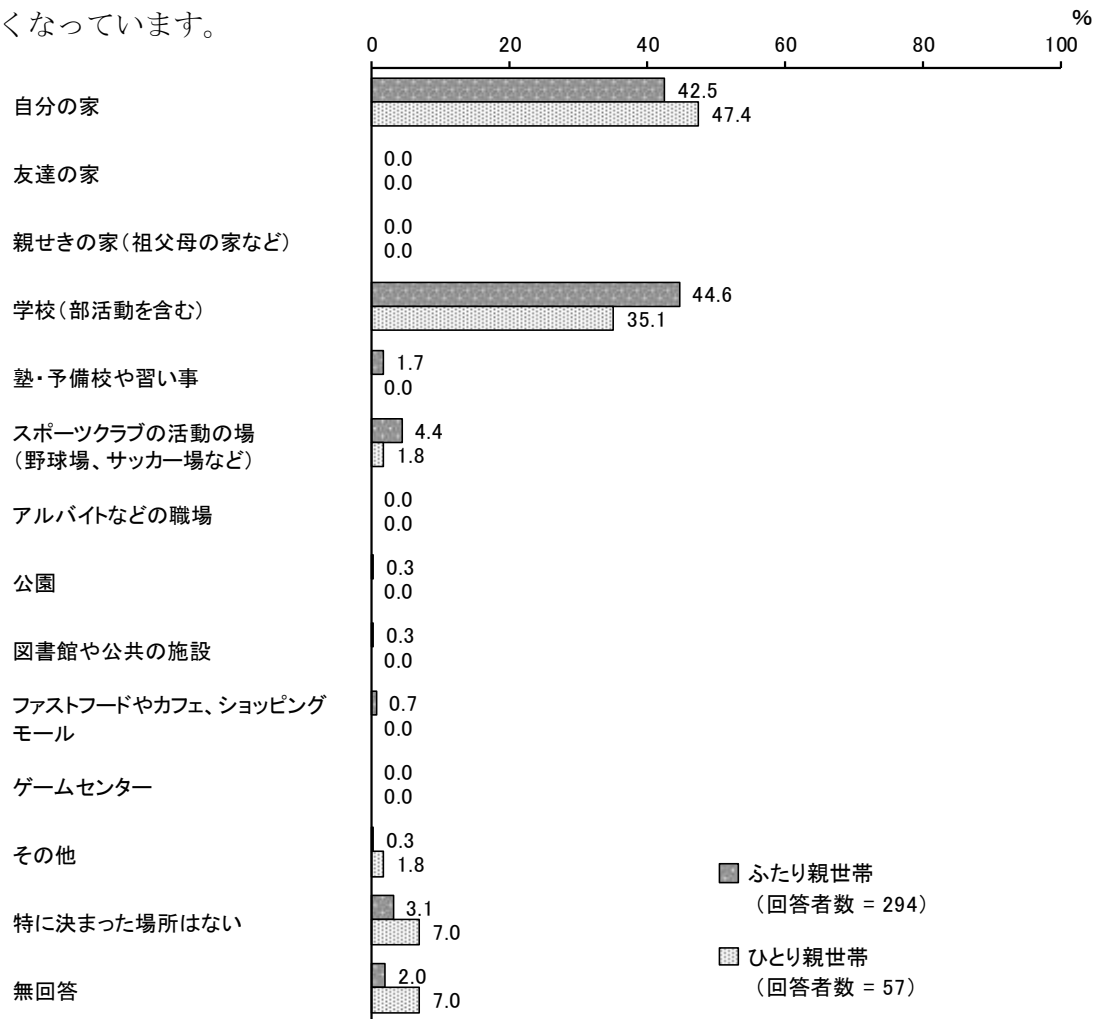
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「自分の家」の割合が、一般家庭で「学校（部活動を含む）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「特に決まった場所はない」の割合が高くなっています。



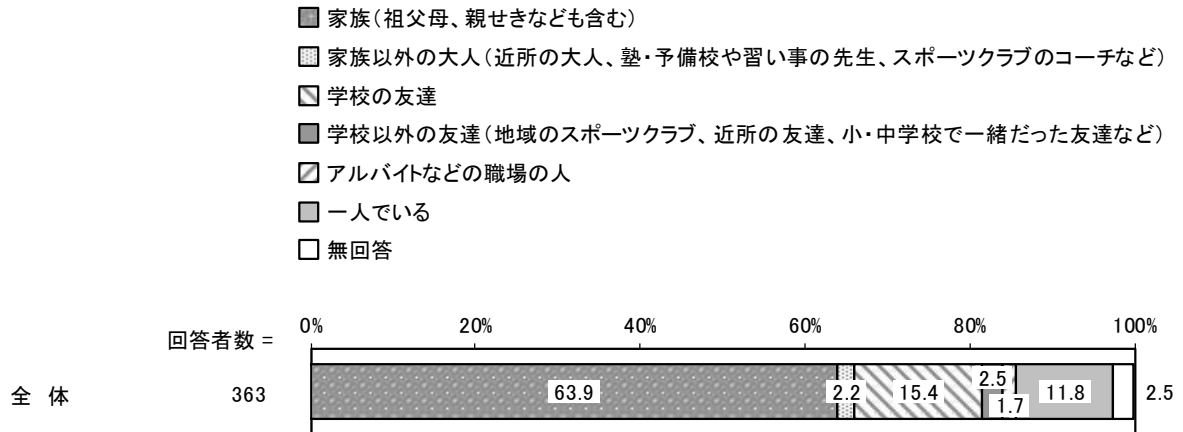
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「学校（部活動を含む）」の割合が高くなっています。



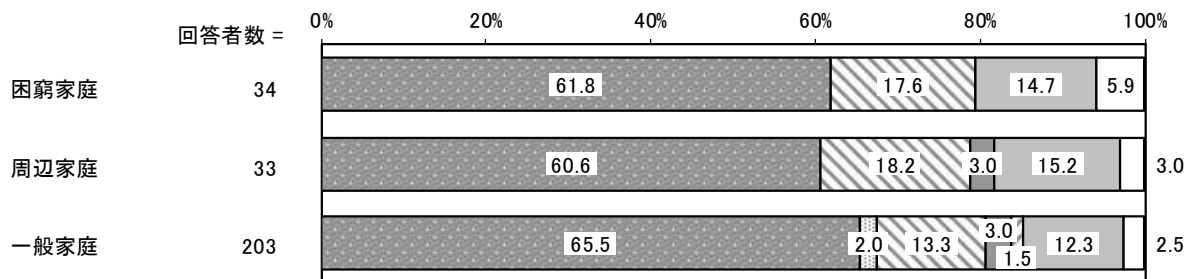
問 11 あなたは、休日（学校や仕事が休みの時）の午後は、誰と過ごすことが一番多いですか。（あてはまる番号 1 つに○）

「家族（祖父母、親せきなども含む）」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「学校の友達」の割合が 15.4%、「一人でのいる」の割合が 11.8%となっています。



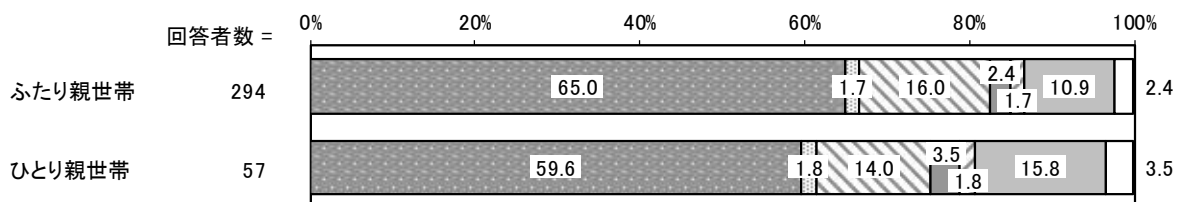
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「家族（祖父母、親せきなども含む）」の割合が、困窮家庭、周辺家庭で「学校の友達」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「家族（祖父母、親せきなども含む）」の割合が高くなっています。

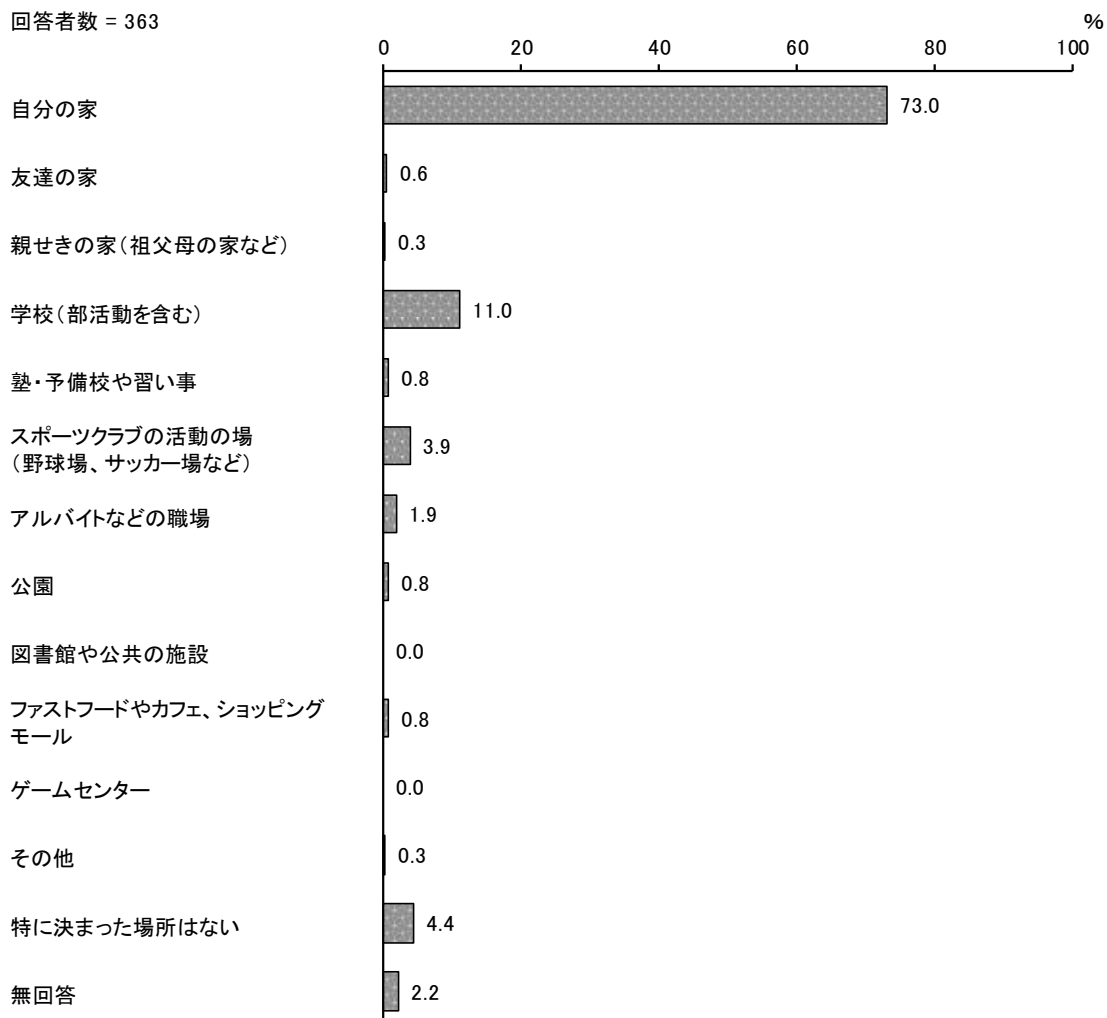


問 12 あなたは、休日（学校や仕事が休みの時）の午後は、どこで過ごすことが一番多いですか。（あてはまる番号 1 つに○）

「自分の家」の割合が 73.0%と最も高く、次いで「学校（部活動を含む）」の割合が 11.0%となっています。

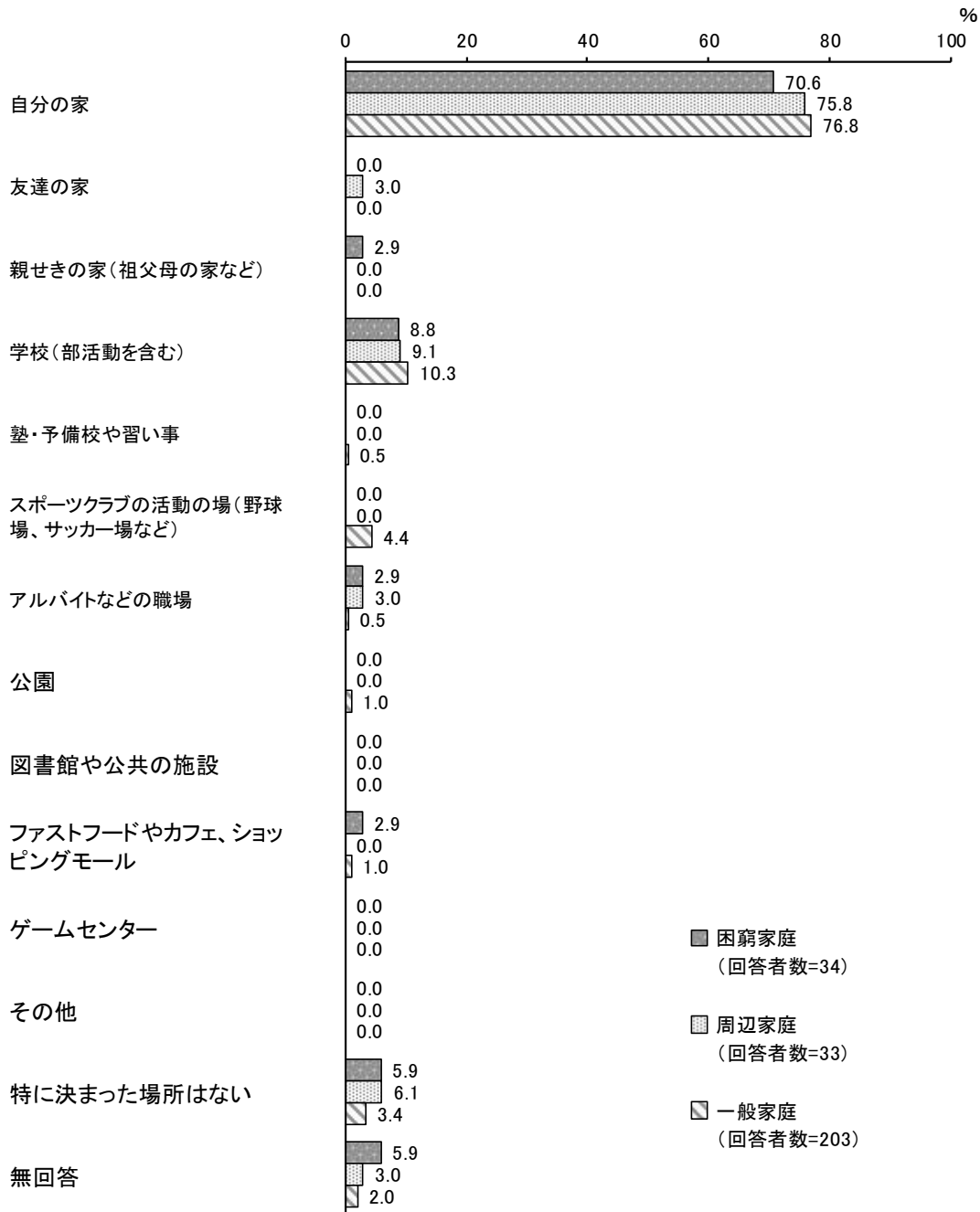
全 体

回答者数 = 363



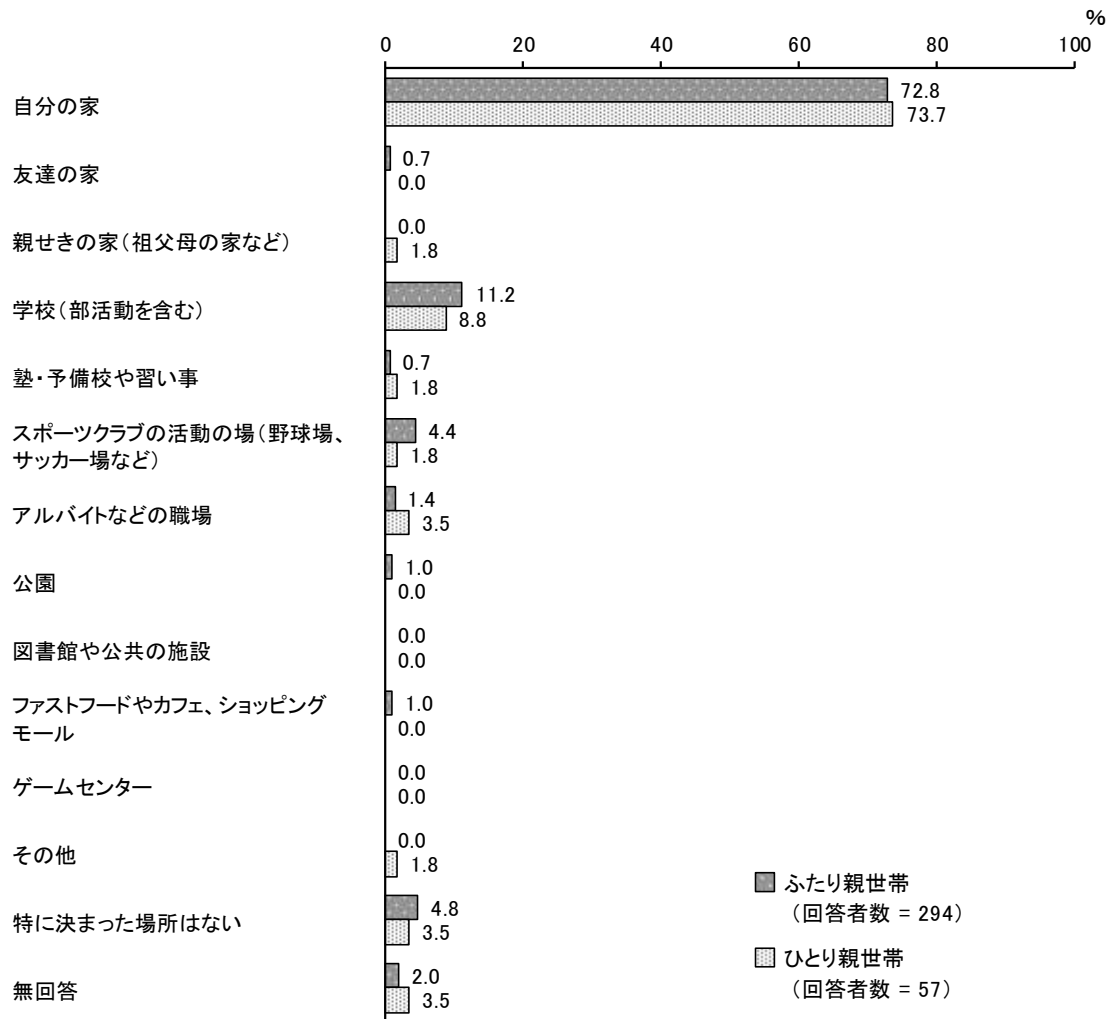
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭、周辺家庭で「自分の家」の割合が、困窮家庭、周辺家庭で「アルバイトなどの職場」「特に決まった場所はない」の割合が高くなっています。



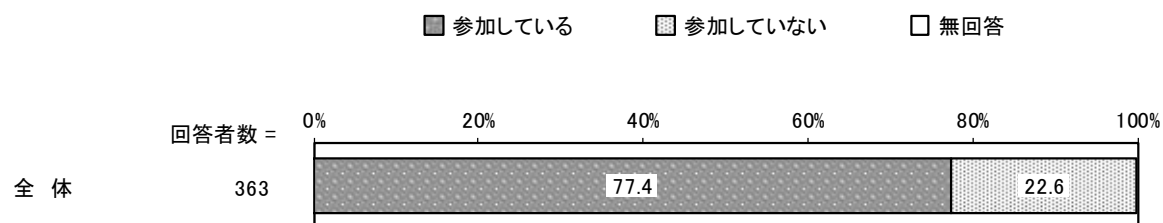
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



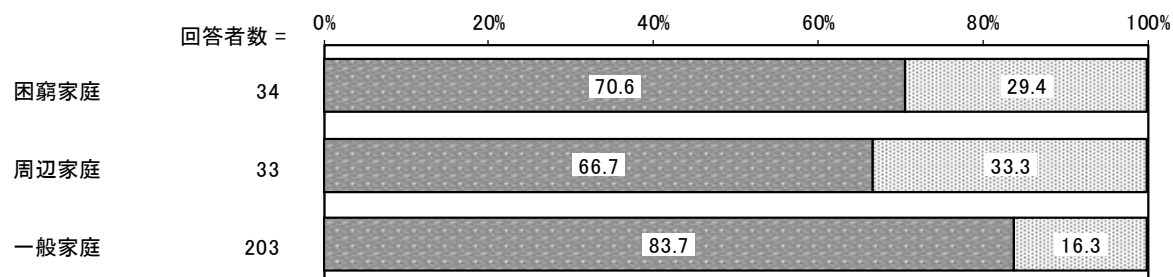
問 13 あなたは、学校や職場・地域のクラブ・部活動やスポーツ活動に参加していますか。（あてはまる番号 1 つに○）

「参加している」の割合が 77.4%、「参加していない」の割合が 22.6%となっています。



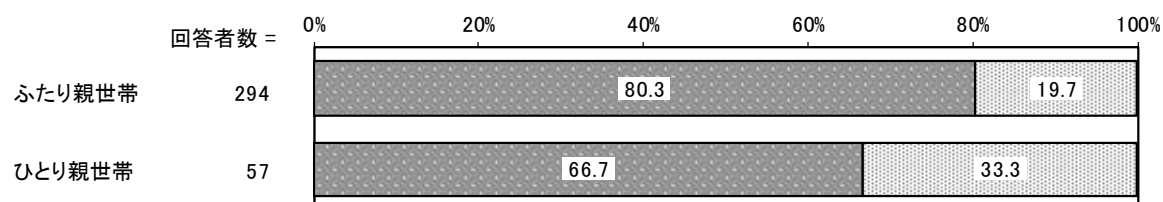
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「参加している」の割合が、周辺家庭で「参加していない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

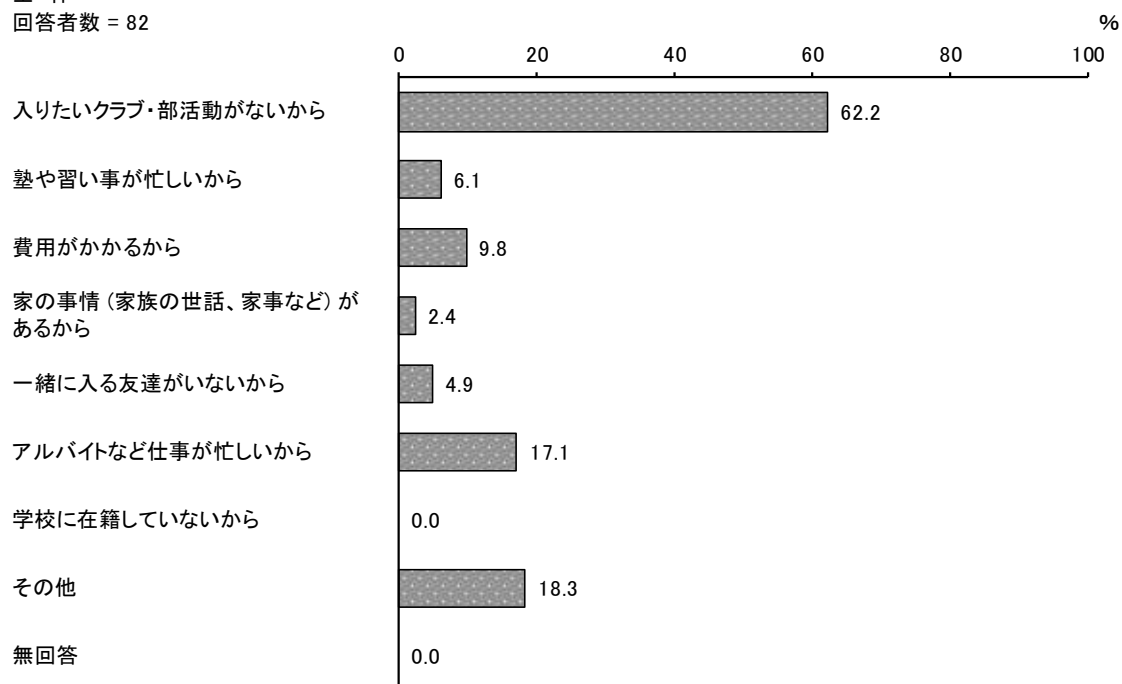
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「参加していない」の割合が高くなっています。



問 13－1 問 13 で「参加していない」と答えた人にお聞きします。
参加していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

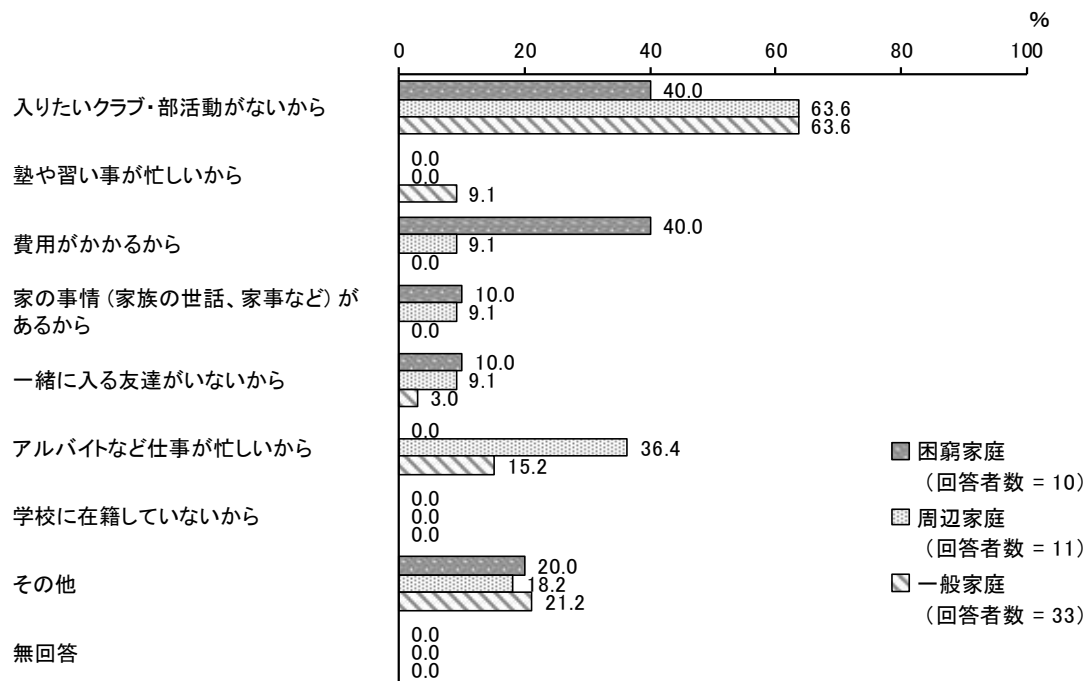
「入りたいクラブ・部活動がないから」の割合が 62.2%と最も高く、次いで「アルバイトなど仕事が忙しいから」の割合が 17.1%となっています。

全 体
回答者数 = 82



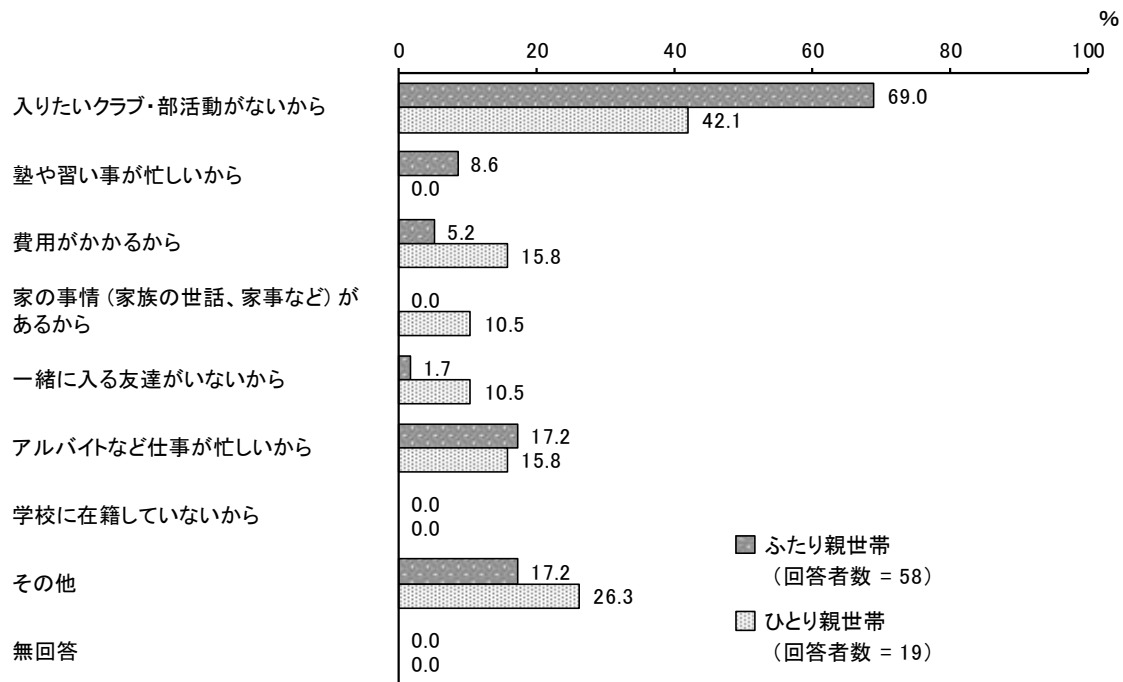
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「入りたいクラブ・部活動がないから」「一緒に
入る友達がいないから」「アルバイトなど仕事が忙しいから」の割合が、一般家庭で「入りたいク
ラブ・部活動がないから」「塾や習い事が忙しいから」の割合が高くなっています。また、他に比
べ、困窮家庭で「費用がかかるから」「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」「一緒に
入る友達がいないから」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「入りたいクラブ・部活動がないから」「塾や習い事が忙しいから」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「費用がかかるから」「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」「一緒にいる友達がいないから」の割合が高くなっています。

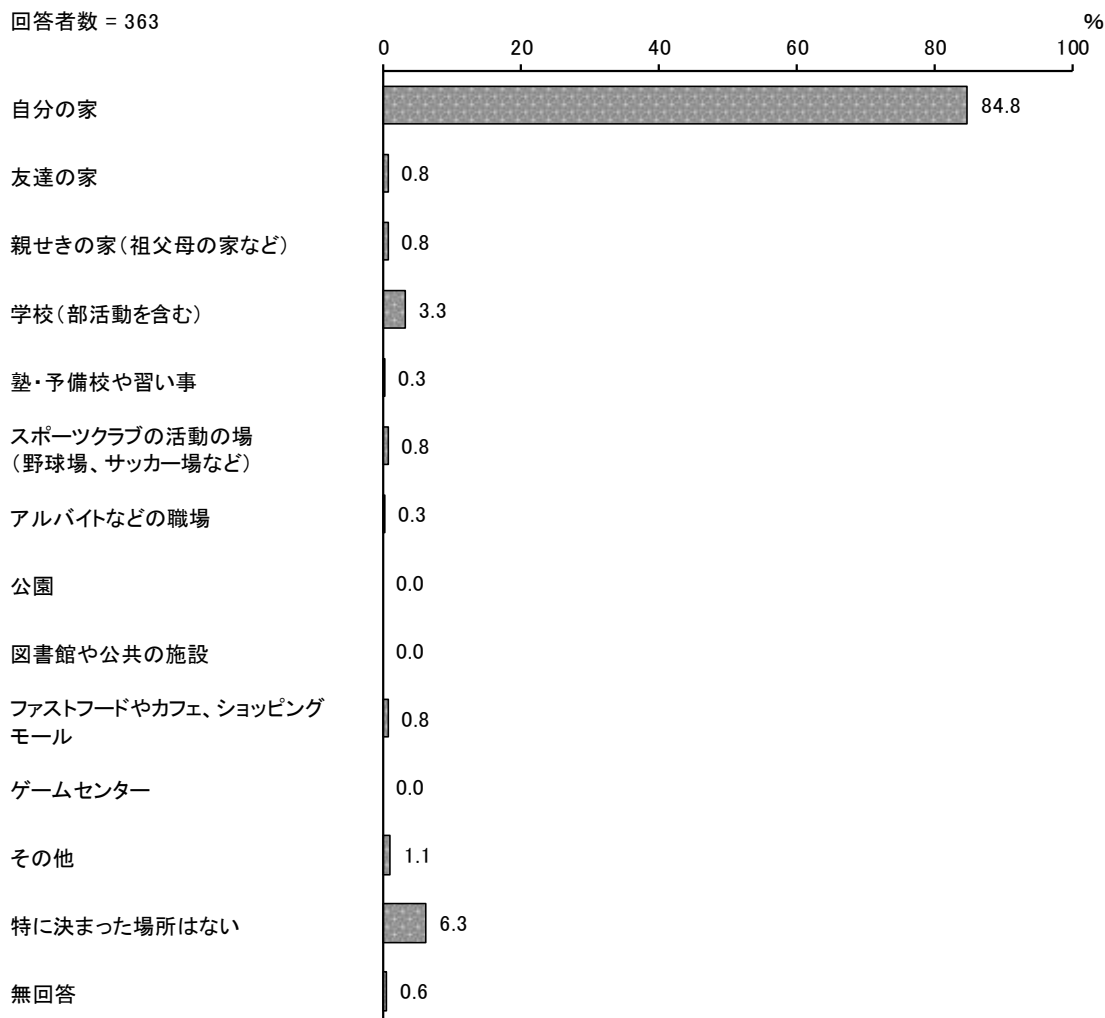


問 14 あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。(あてはまる番号 1 つに○)

「自分の家」の割合が 84.8%と最も高く、次いで、「特に決まった場所はない」の割合が 6.3%、「学校（部活動を含む）」の割合が 3.3%となっています。

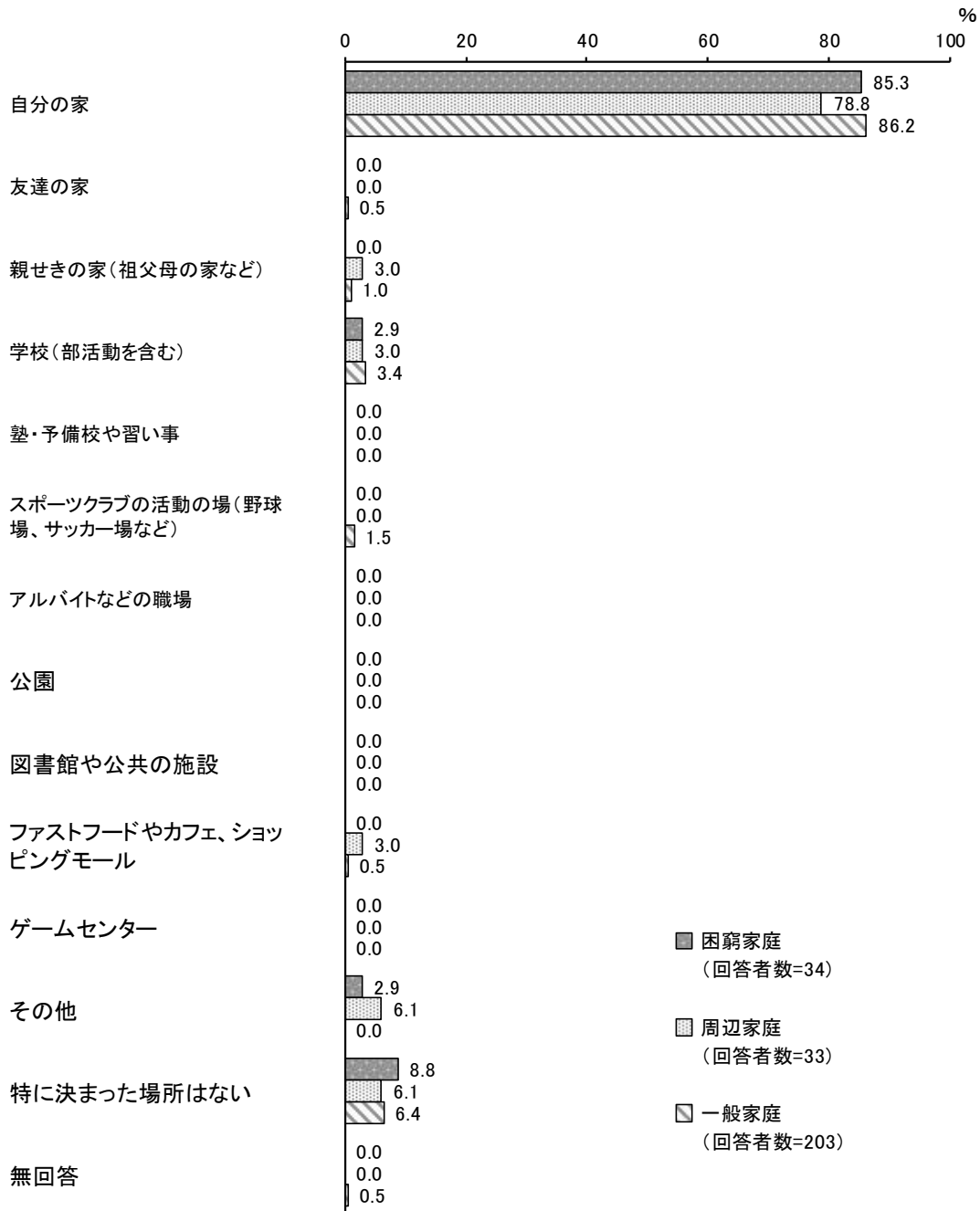
全 体

回答者数 = 363



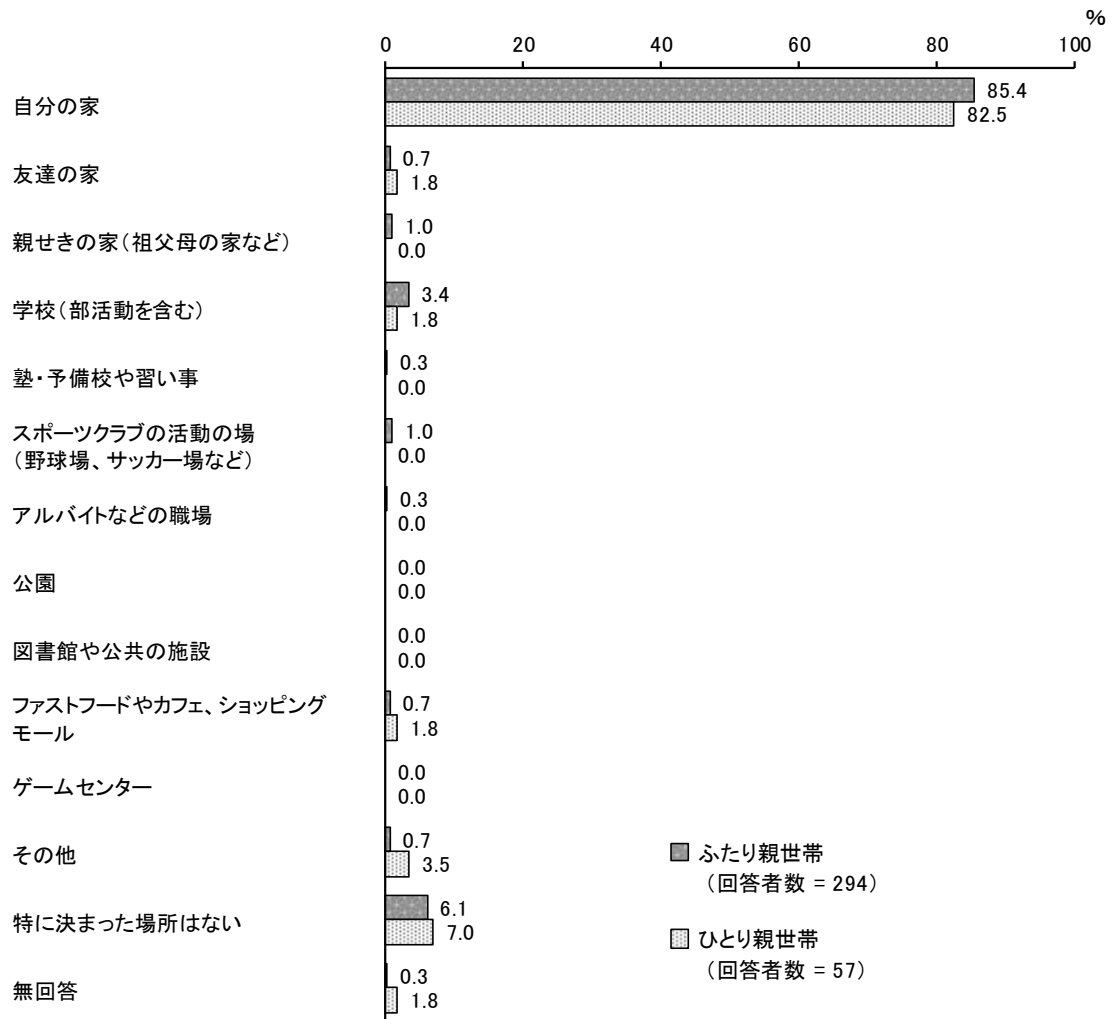
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭、一般家庭で「自分の家」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

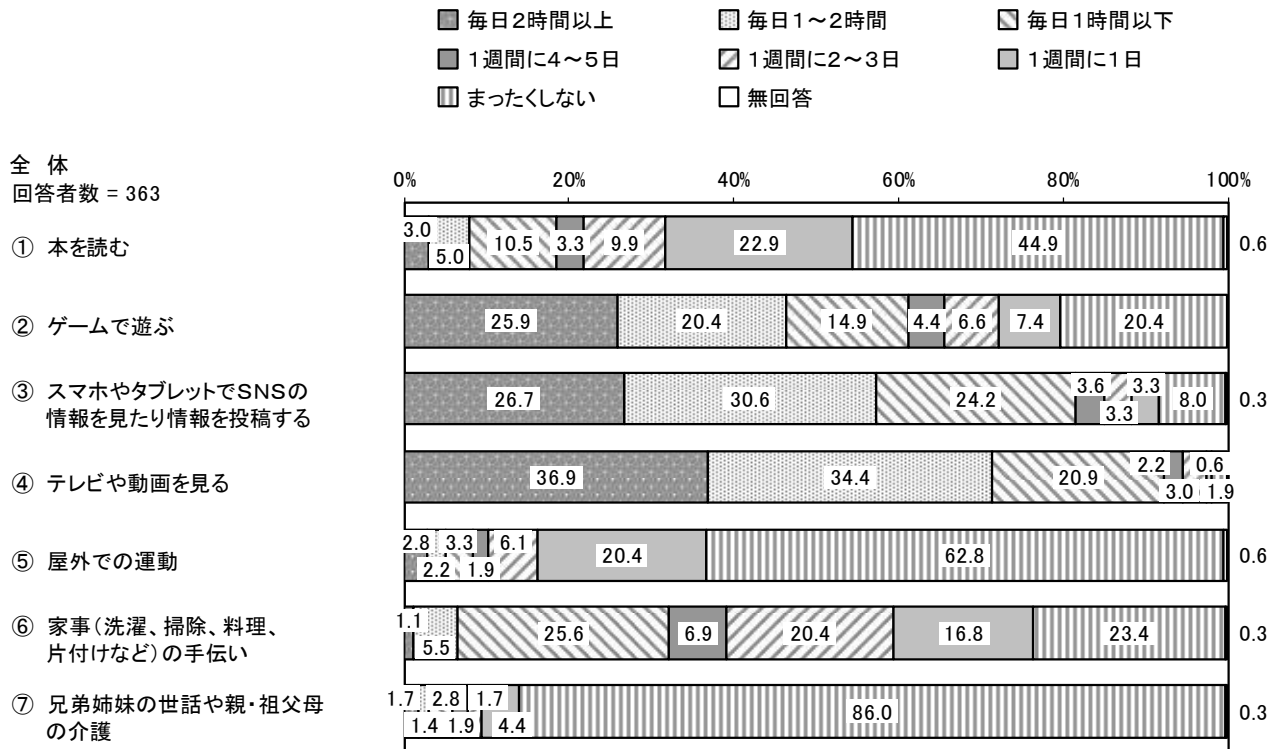
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



問 15 あなたは、次の活動を普段どれくらいしますか。
(①～⑦それぞれあてはまる番号 1 つに○)

『② ゲームで遊ぶ』『③ スマホやタブレットでSNSの情報を見たり情報を投稿する』『④ テレビや動画を見る』で「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」の割合が高く、特に『④ テレビや動画を見る』で「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」の割合が高くなっています。

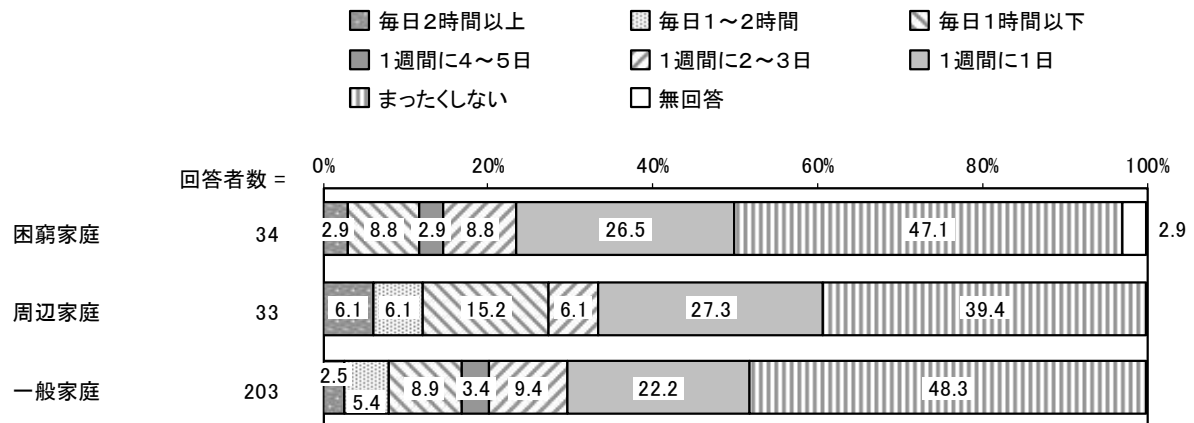
一方、『① 本を読む』『⑤ 屋外での運動』『⑦ 兄弟姉妹の世話や親・祖父母の介護』で「まったくしない」の割合が高くなっています。



① 本を読む（スマホやタブレットなどで読む電子書籍も含む。雑誌やマンガは除く）

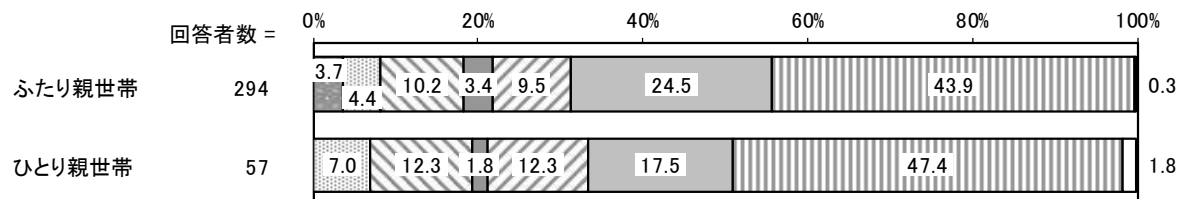
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」「1週間に1日」の割合が、一般家庭で「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

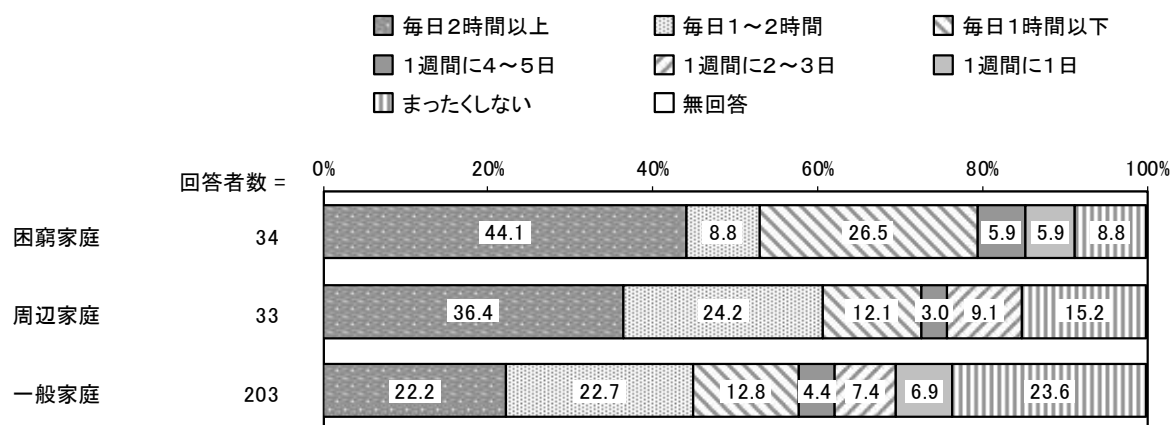
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「1週間に1日」の割合が高くなっています。



② ゲームで遊ぶ（スマホやタブレット、パソコンなどを使うものも含む）

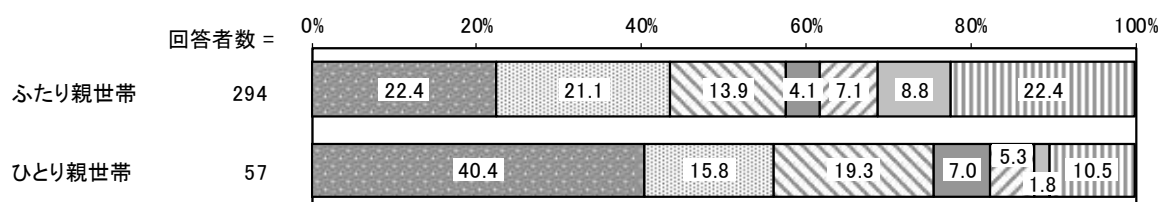
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「毎日2時間以上」「毎日1時間以下」の割合が、周辺家庭で「毎日1～2時間」「1週間に2～3日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「1週間に1日」「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

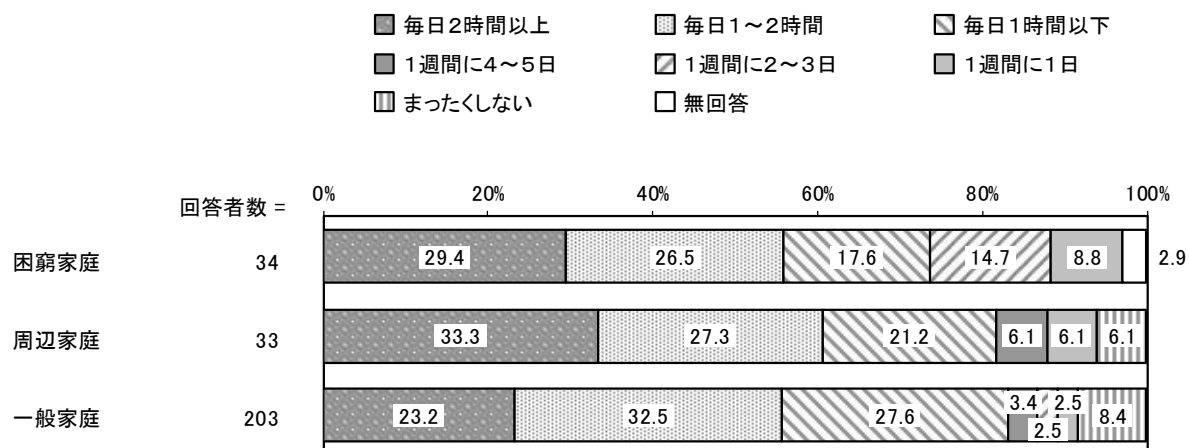
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「毎日1～2時間」「1週間に1日」「まったくしない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「毎日2時間以上」「毎日1時間以下」の割合が高くなっています。



③ スマホやタブレット、パソコンなどでSNSの情報を見たり情報を投稿する

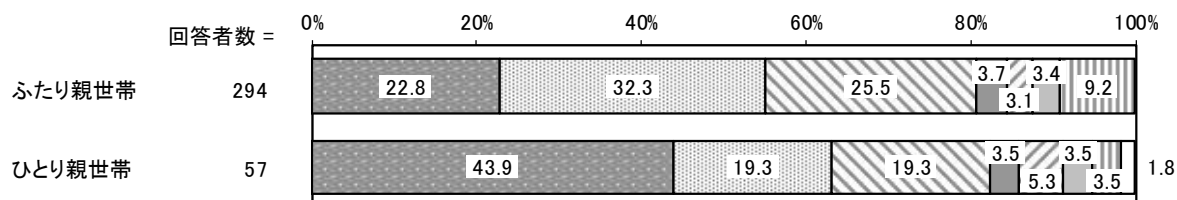
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日2時間以上」「1週間に4～5日」の割合が、一般家庭で「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」「まったくしない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「1週間に2～3日」「1週間に1日」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

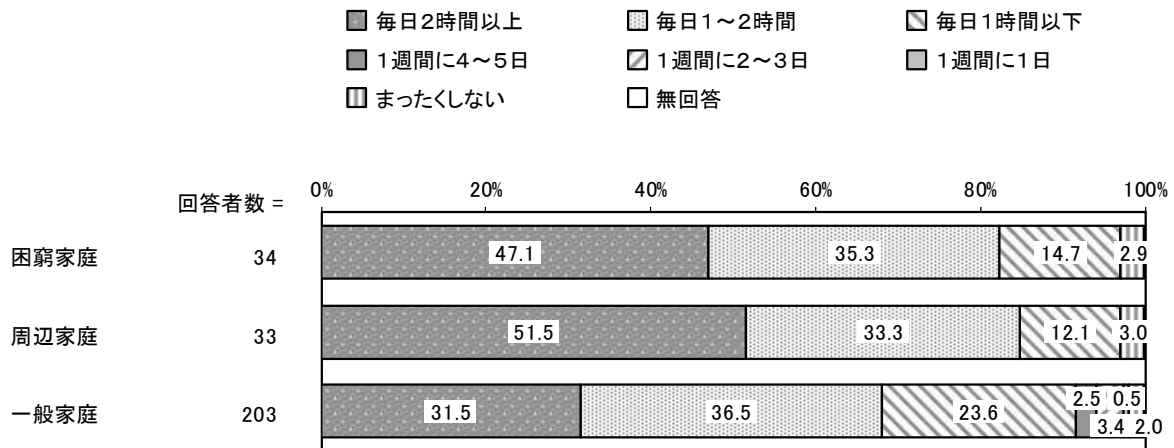
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」「まったくしない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



④ テレビや動画を見る（スマホやタブレット、パソコンなどで見るものも含む）

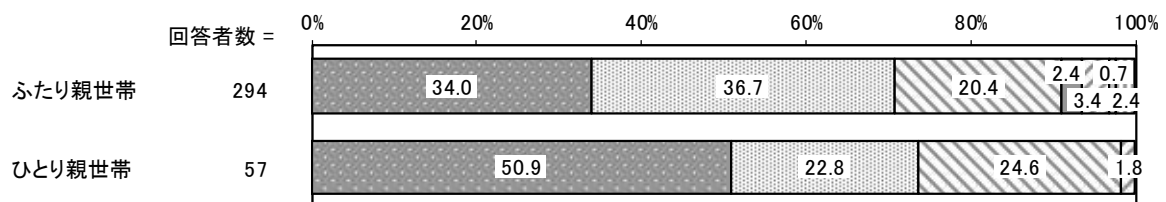
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日2時間以上」の割合が、一般家庭で「毎日1時間以下」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

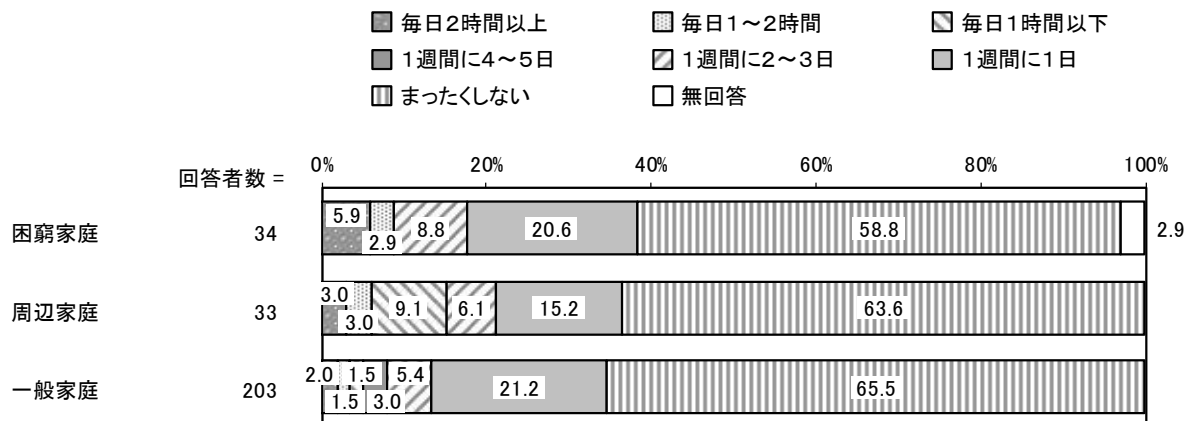
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「毎日1～2時間」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「毎日2時間以上」の割合が高くなっています。



⑤ 公園や外で遊ぶ

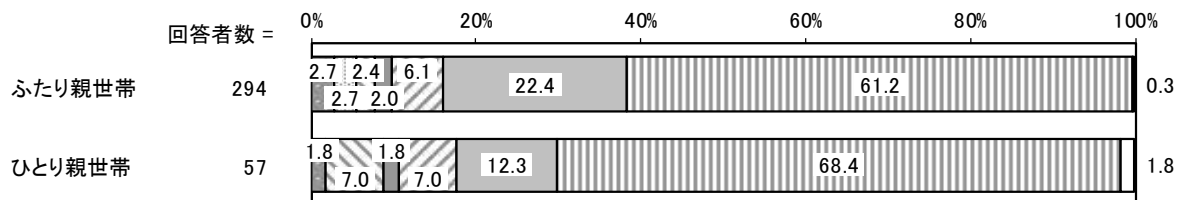
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日1時間以下」「1週間に2～3日」の割合が、一般家庭で「1週間に1日」「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

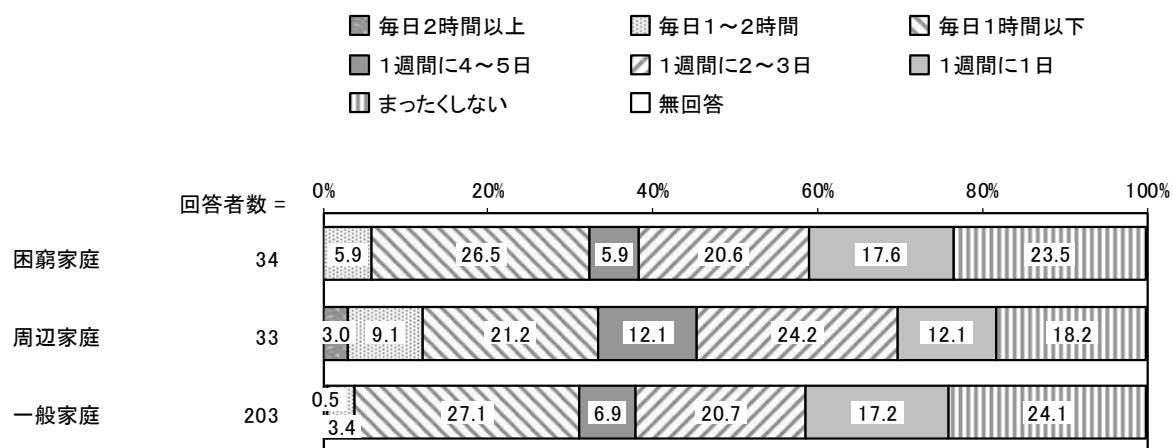
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「1週間に1日」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「まったくしない」の割合が高くなっています。



⑥ 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）の手伝い

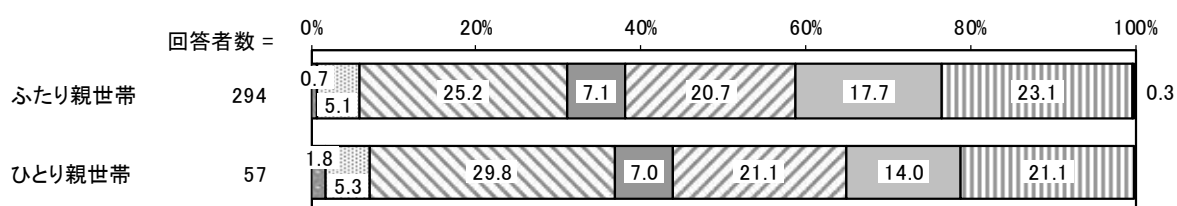
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日1～2時間」「1週間に4～5日」の割合が、一般家庭で「毎日1時間以下」「1週間に1日」「まったくしない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「1週間に1日」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

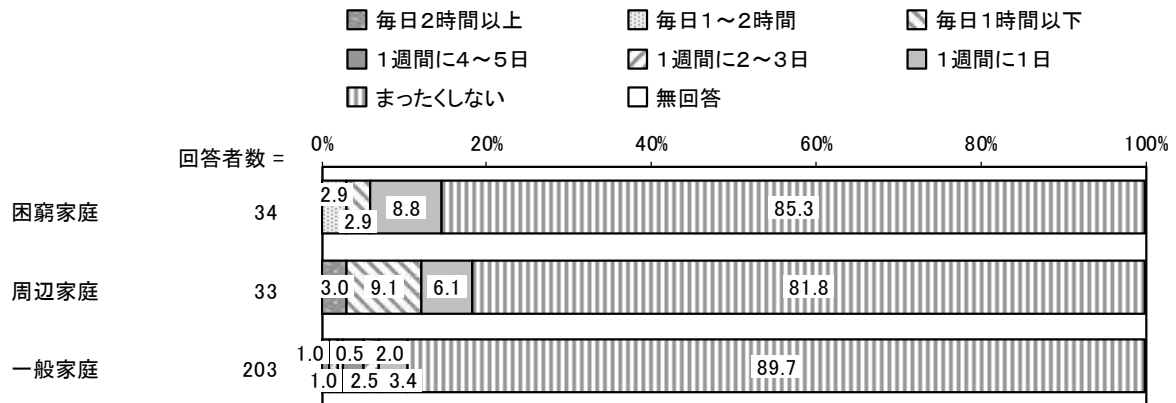
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑦ 兄弟姉妹の世話や親・祖父母の介護

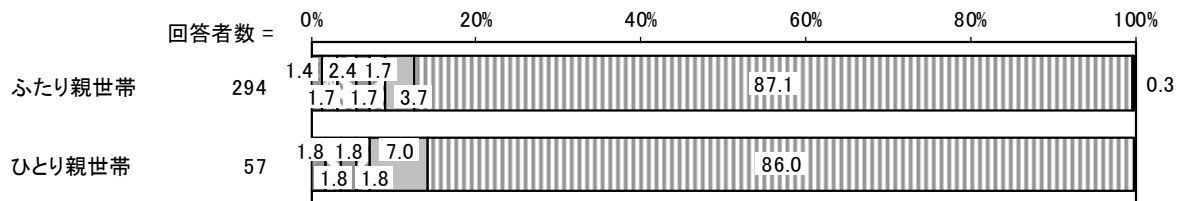
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「毎日1時間以下」の割合が、困窮家庭で「1週間に1日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「まったくしない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

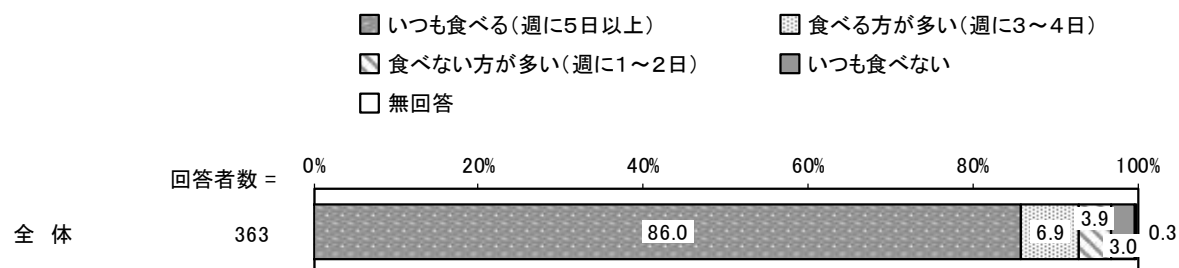
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



（５）食事のことや健康のことについて

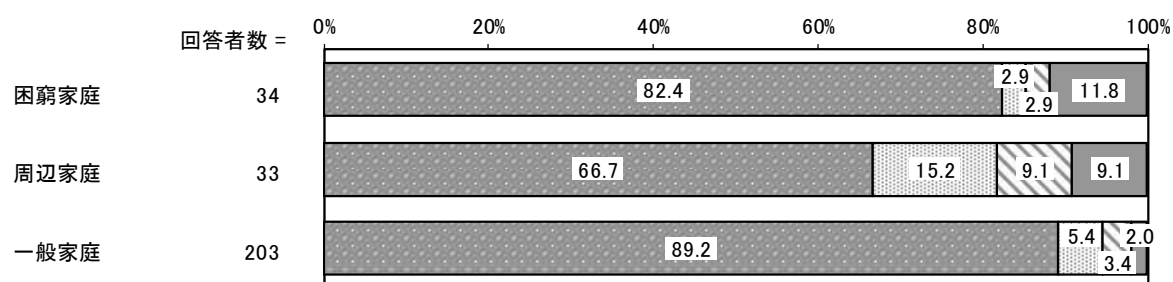
問 16 あなたは、平日（学校や仕事に行く日）に、１日３食を食べますか。
（あてはまる番号１つに○）

「いつも食べる（週に５日以上）」の割合が 86.0%と最も高くなっています。



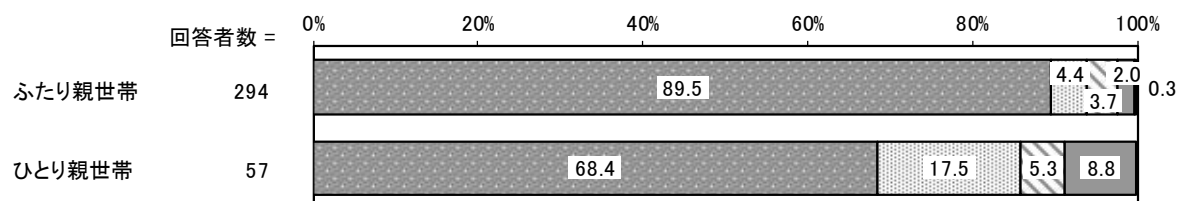
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「いつも食べる（週に５日以上）」の割合が、周辺家庭で「食べる方が多い（週に３～４日）」「食べない方が多い（週に１～２日）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、困窮家庭で「いつも食べない」の割合が高くなっています。



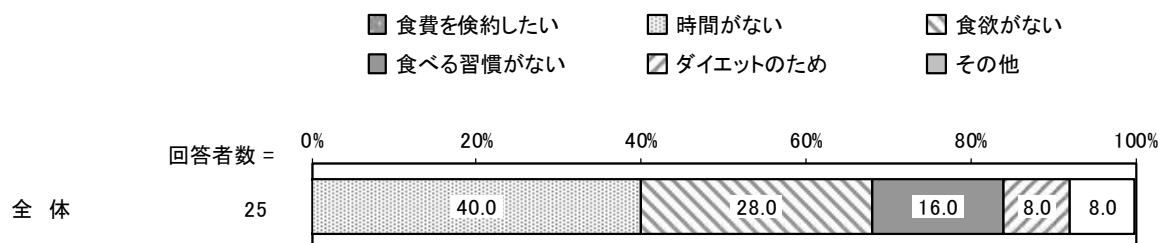
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「いつも食べる（週に５日以上）」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「食べる方が多い（週に３～４日）」「いつも食べない」の割合が高くなっています。



問 16－1 問 16 で「食べない方が多い」または「いつも食べない」を選んだ人におたずねします。
 平日に3食食べない主な理由は何ですか。
 （あてはまる番号1つに○）

「時間がない」の割合が40.0%と最も高く、次いで「食欲がない」の割合が28.0%、「食べる習慣がない」の割合が16.0%となっています。



【生活困難度別】

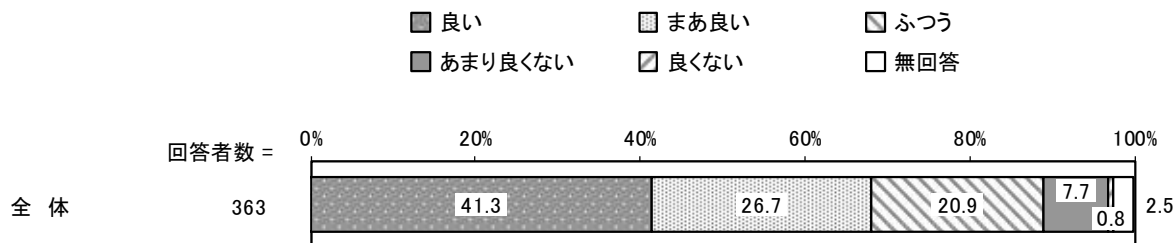
有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

【世帯状況別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

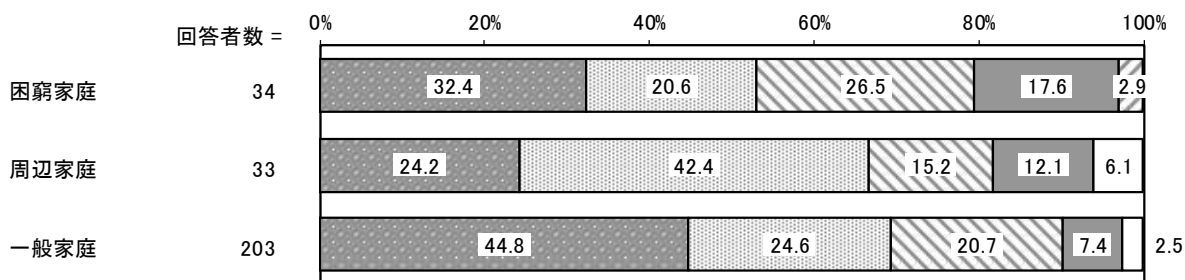
問 17 あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか
(あてはまる番号 1 つに○)

「良い」と「まあ良い」をあわせた“良い”の割合が 68.0%、「ふつう」の割合が 20.9%、「あまり良くない」と「良くない」をあわせた“良くない”の割合が 8.5%となっています。



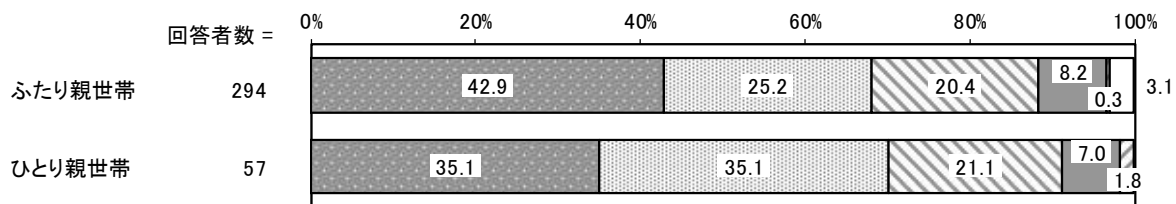
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“良い”の割合が、困窮家庭で「ふつう」「良くない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

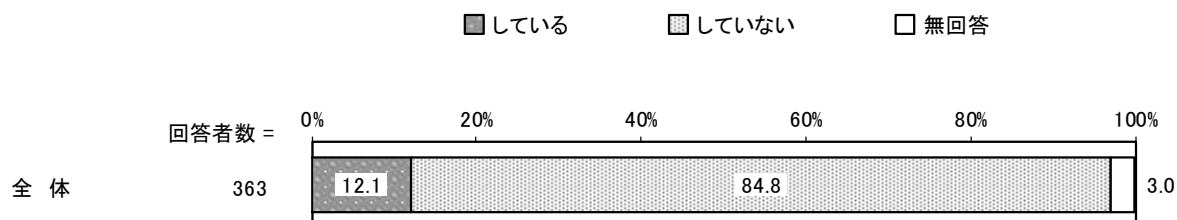
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「良い」の割合が高くなっています。



（６）アルバイトなどの仕事について

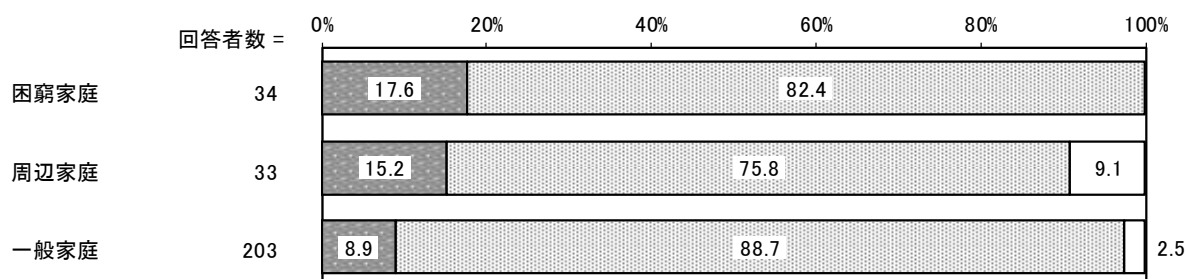
問 18 あなたは、収入を伴う仕事（学生のアパートを含む）をしていますか。
（あてはまる番号 1 つに○）

「している」の割合が 12.1%、「していない」の割合が 84.8%となっています。



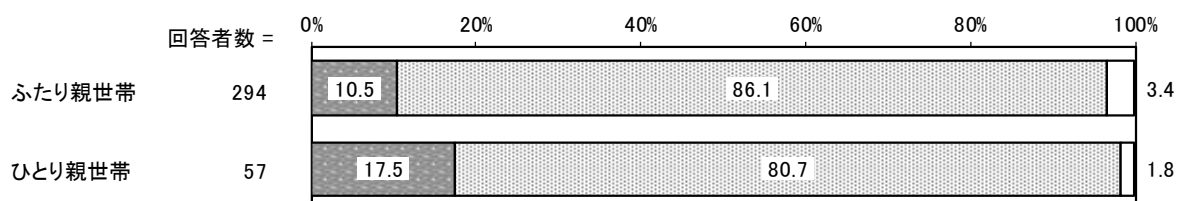
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「している」の割合が、一般家庭で「していない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

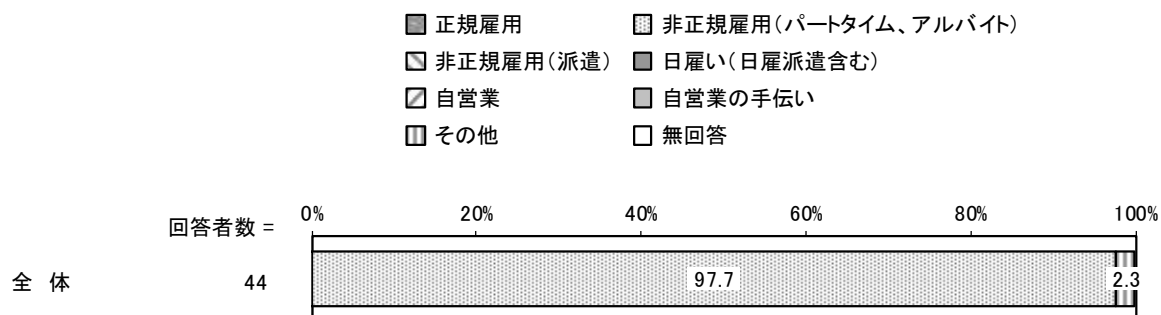
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「している」の割合が高くなっています。



問 18－1 問 18 で「している」と答えた人におたずねします。

あなたの現在の仕事の雇用形態を教えてください。複数の仕事をしている場合は、主な仕事について教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

「非正規雇用（パートタイム、アルバイト）」の割合が 97.7%と最も高くなっています。

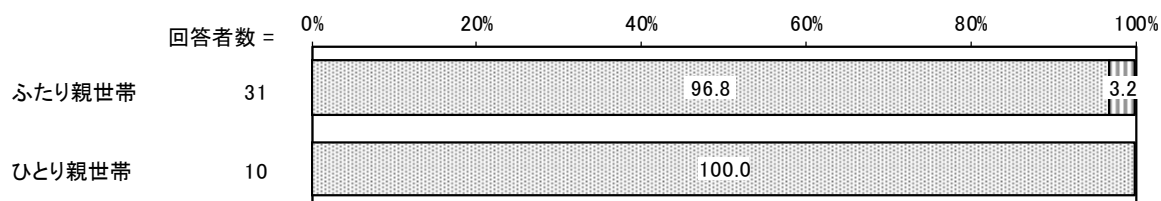


【生活困難度別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯では「非正規雇用（パートタイム、アルバイト）」の割合が 100.0%となっています。

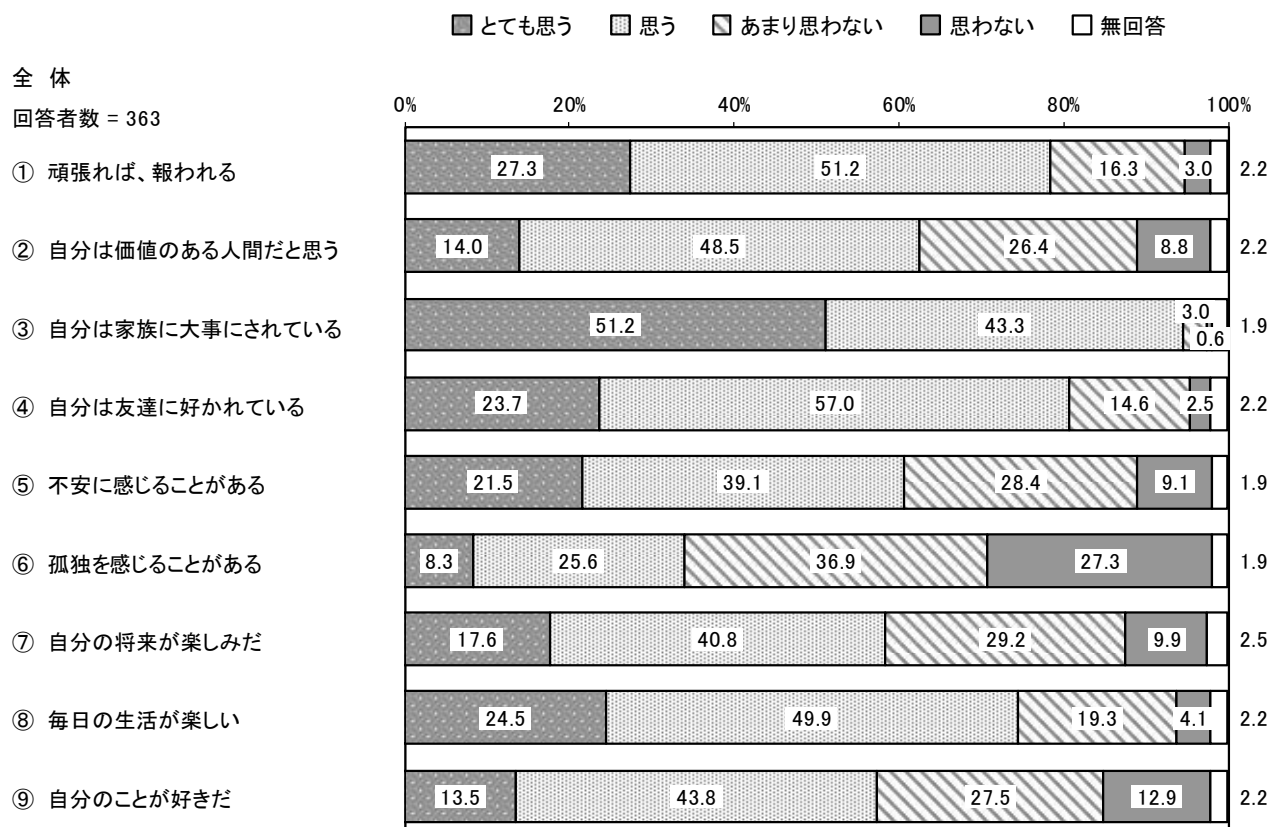


(7) 普段考えていることなどについて

問 19 次のことについて、あなたの思いや気持ちに最も近いものを教えてください。
(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○)

『③ 自分は家族に大切にされている』『④ 自分は友達に好かれている』で「とても思う」と「思う」をあわせた“思う”の割合が高く、8割以上となっています。

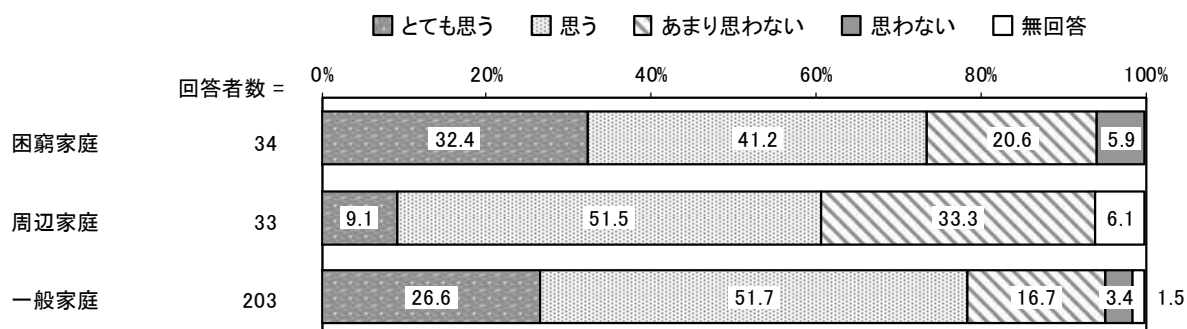
また、『⑥ 孤独を感じることもある』で「あまり思わない」と「思わない」をあわせた“思わない”の割合が高く、6割半ばとなっています。



① 頑張れば、報われる

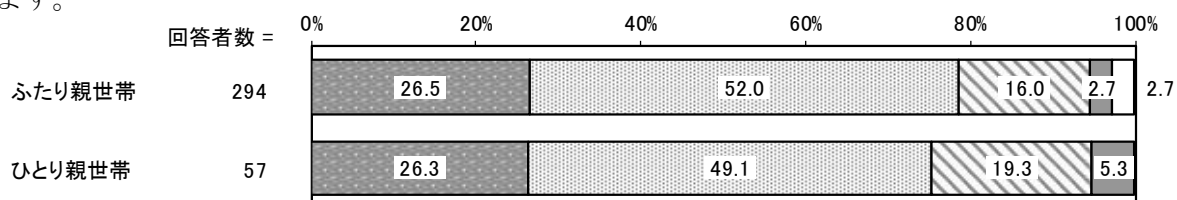
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、周辺家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

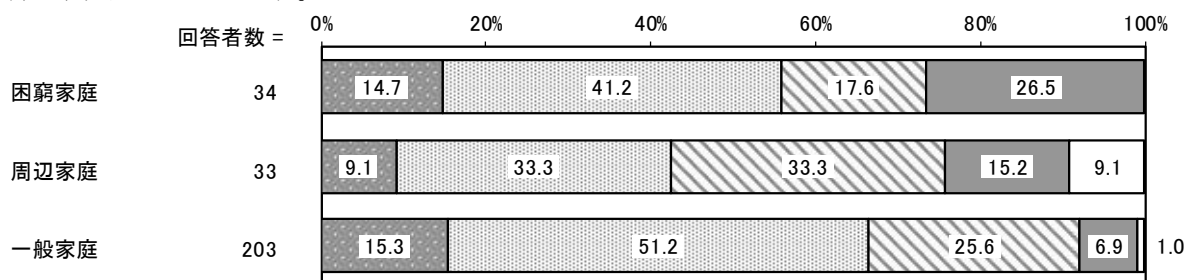
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



② 自分は価値のある人間だと思う

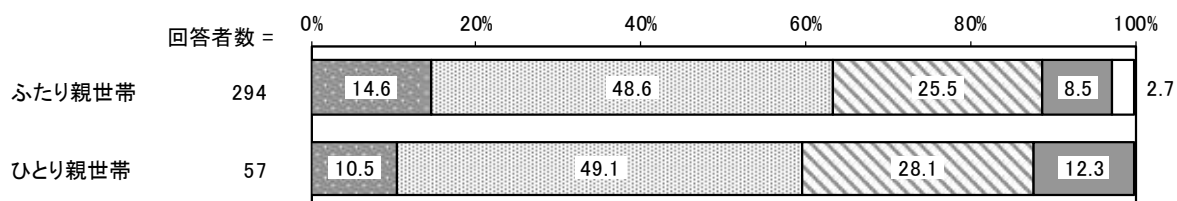
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、周辺家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

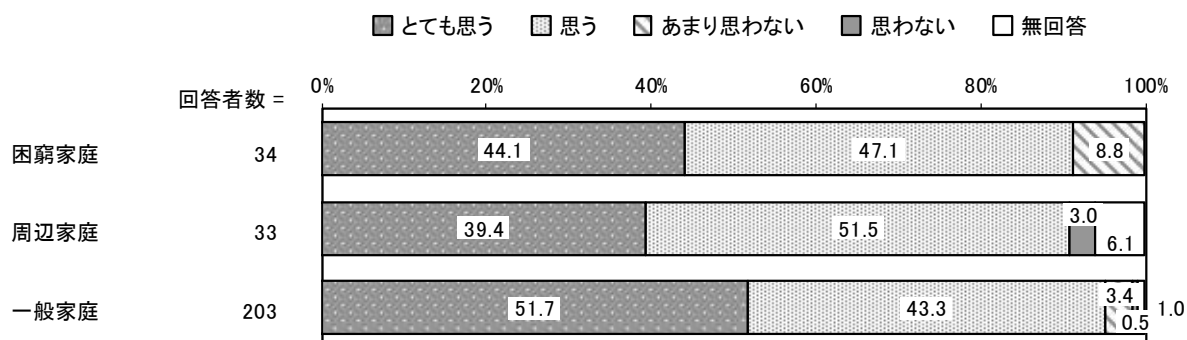
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



③ 自分は家族に大事にされている

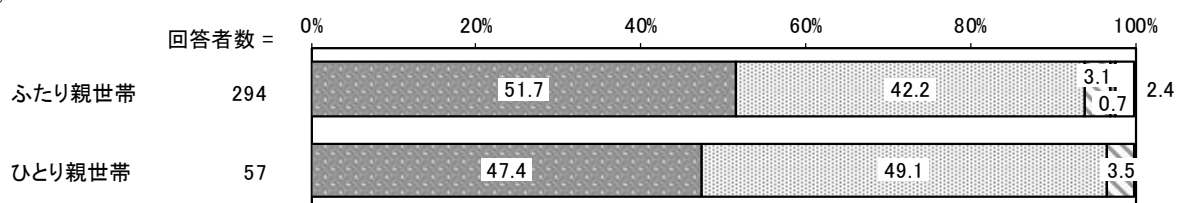
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

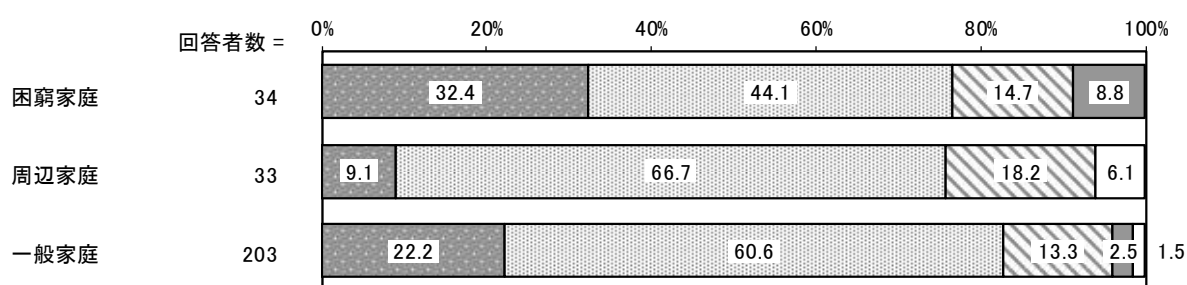
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「思う」の割合が高くなっています。



④ 自分は友達に好かれている

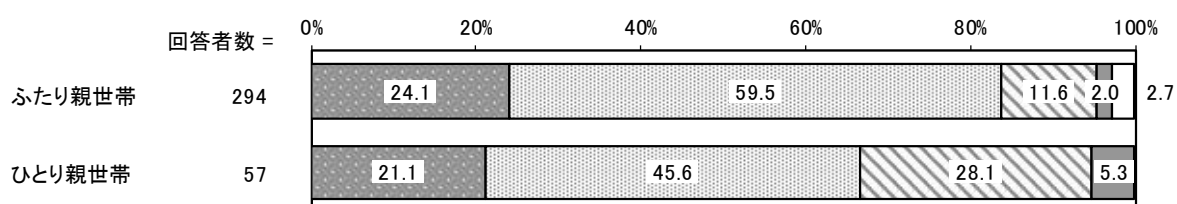
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

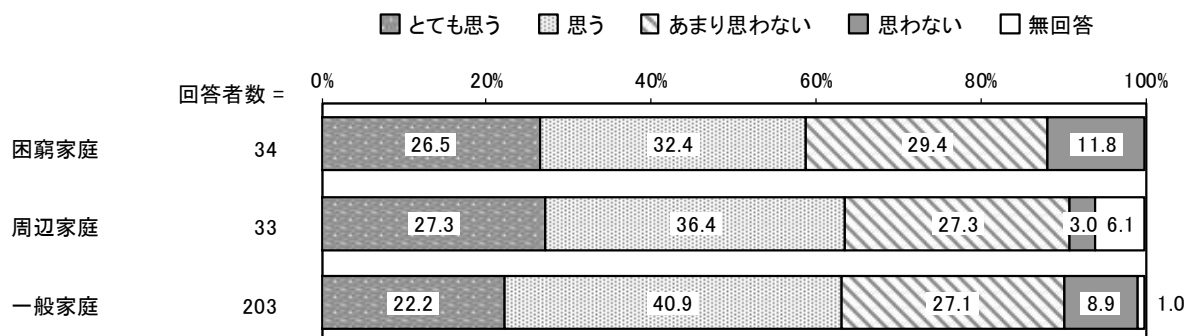
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



⑤ 不安に感じることがある

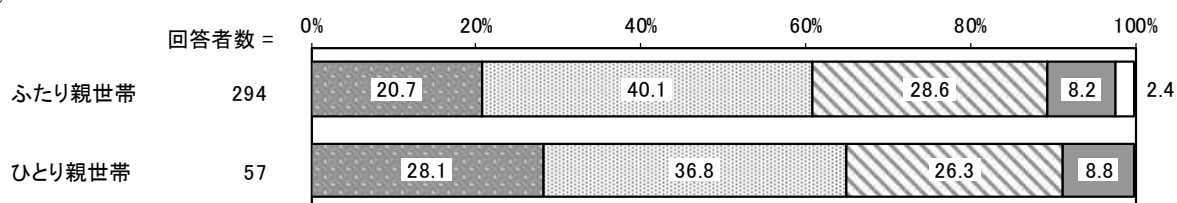
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で“思う”の割合が、困窮家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

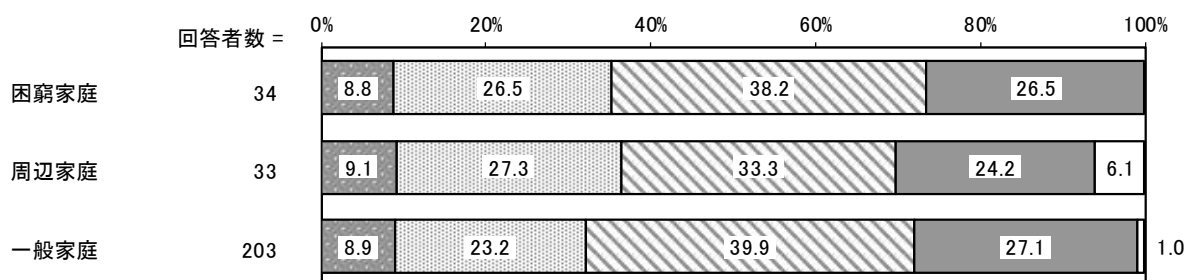
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思う”の割合が高くなっています。



⑥ 孤独を感じることがある

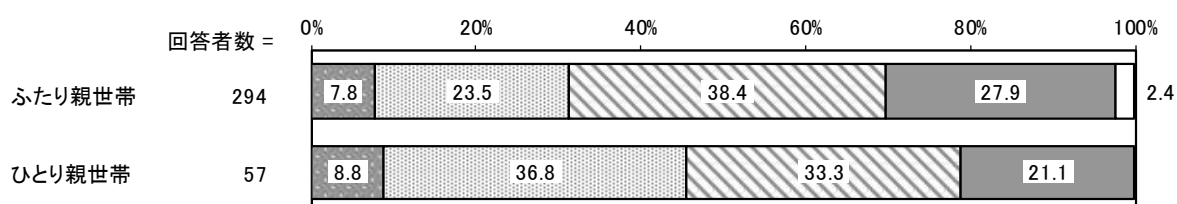
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭、周辺家庭で“思う”の割合が、一般家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

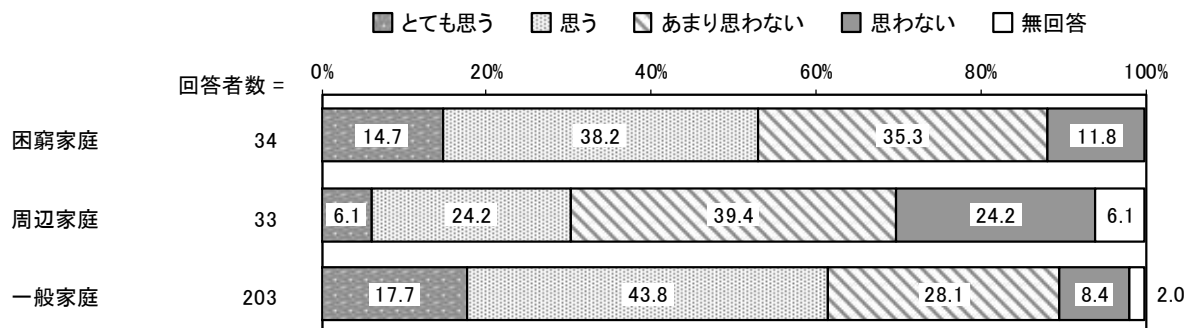
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思う”の割合が高くなっています。



⑦ 自分の将来が楽しみだ

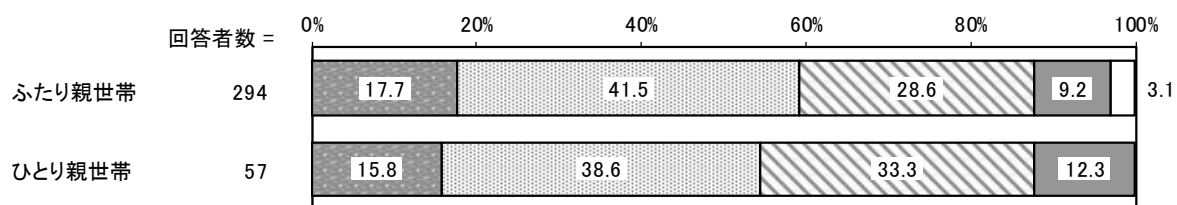
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、周辺家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

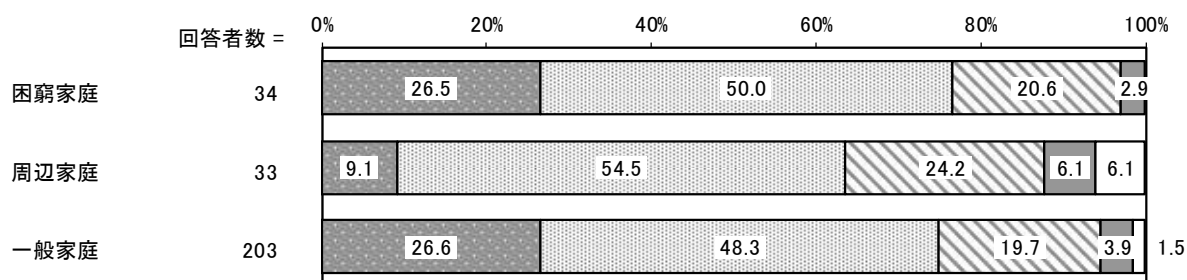
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で“思わない”の割合が高くなっています。



⑧ 毎日の生活が楽しい

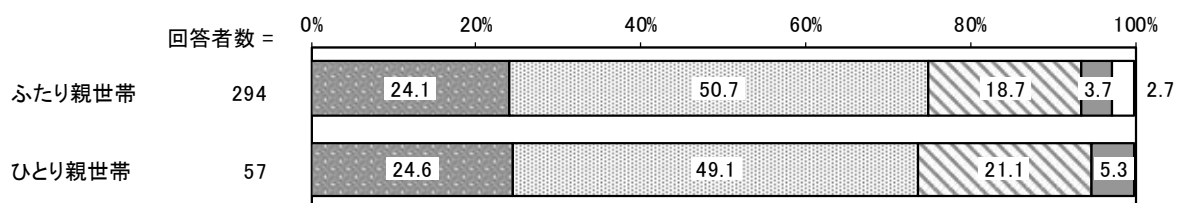
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭、一般家庭で“思う”の割合が、周辺家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

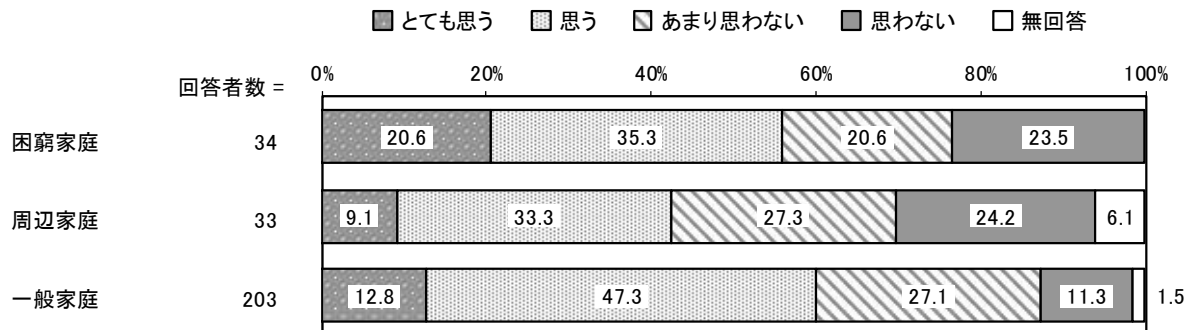
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



⑨ 自分のことが好きだ

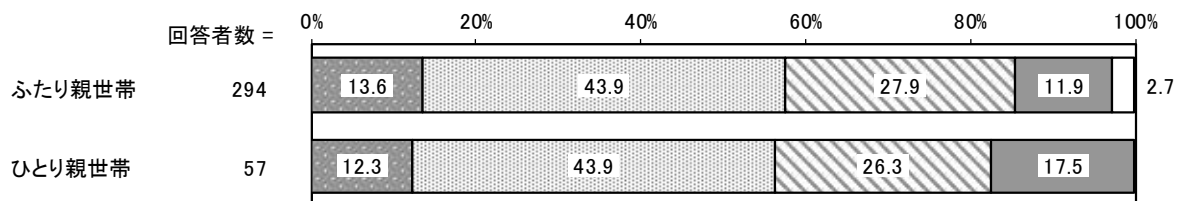
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で“思う”の割合が、周辺家庭で“思わない”の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「思わない」の割合が高くなっています。

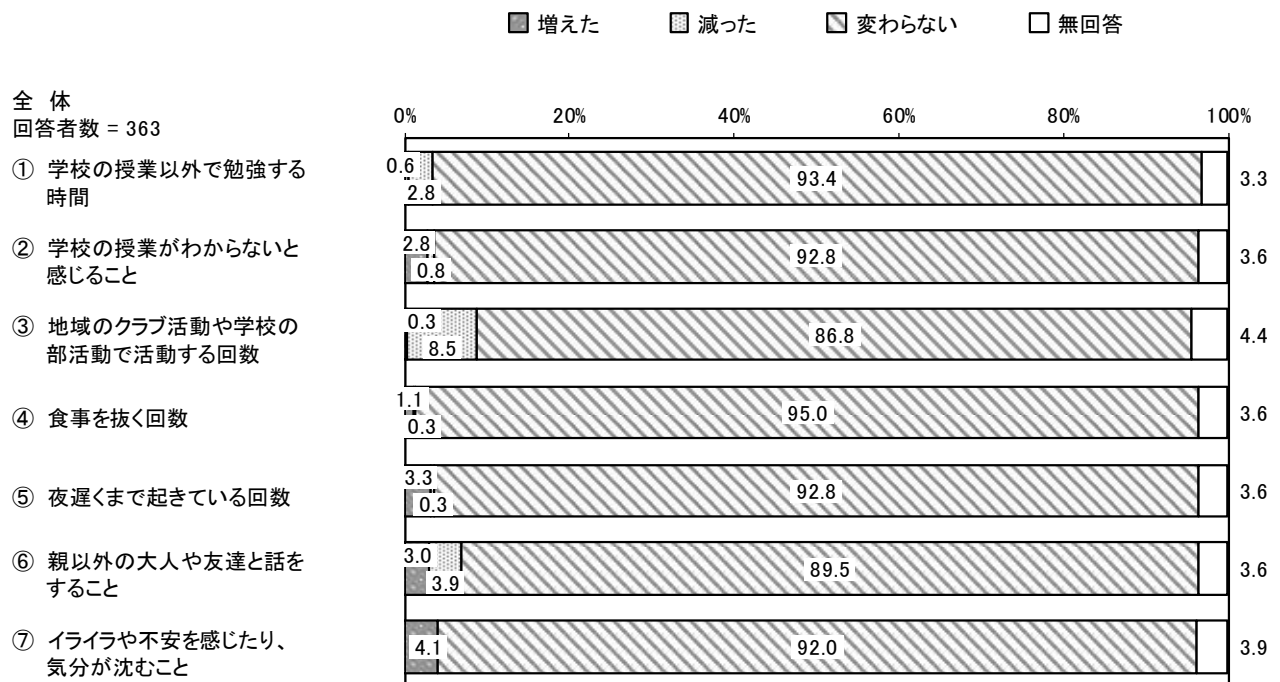


問 20 あなたの現在の生活で、台風 19 号（令和元年東日本台風）災害や新型コロナウイルス感染症の影響で変わったことはありますか。

（①～⑦それぞれ、台風 19 号災害・新型コロナウイルス感染症について、あてはまる番号 1 つに○） ※①と②は現在、学校に在籍している人のみ

1. 台風 19 号災害

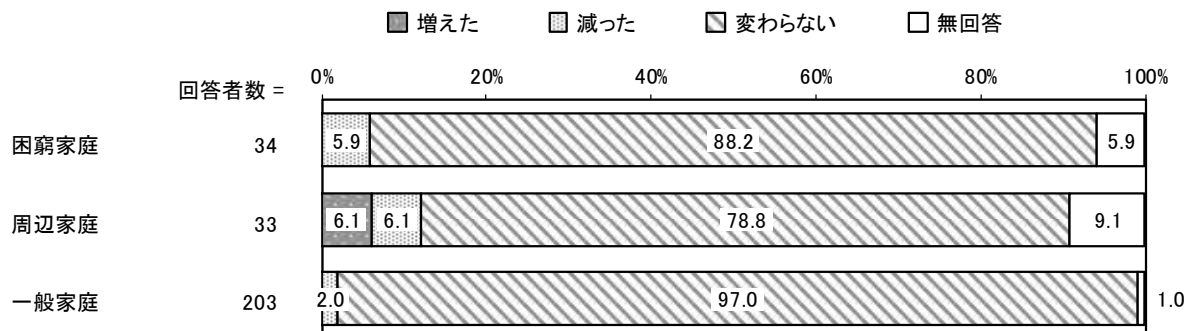
すべての項目で「変わらない」の割合が最も高くなっています。



① 学校の授業以外で勉強する時間

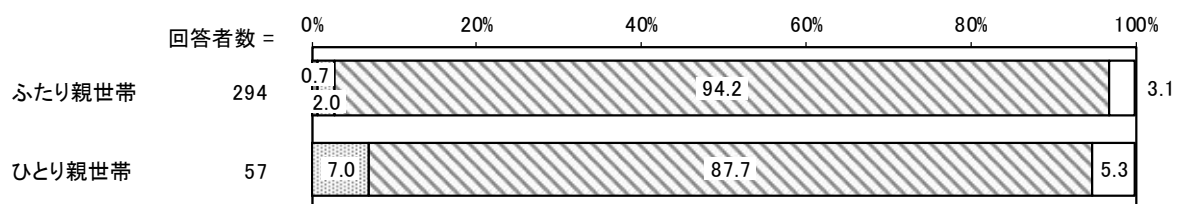
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

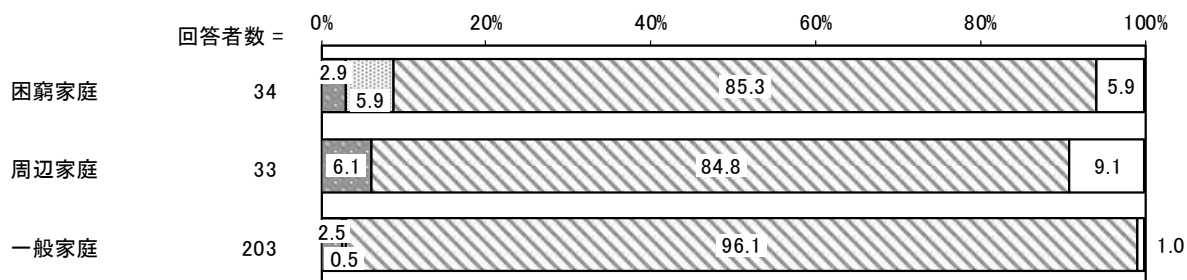
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「変わらない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



② 学校の授業がわからないと感じること

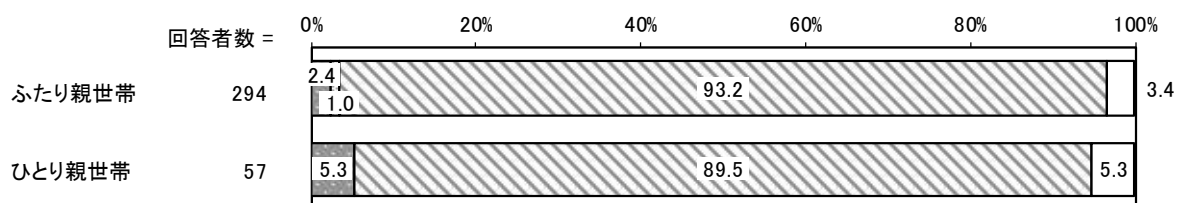
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「減った」の割合が、周辺家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

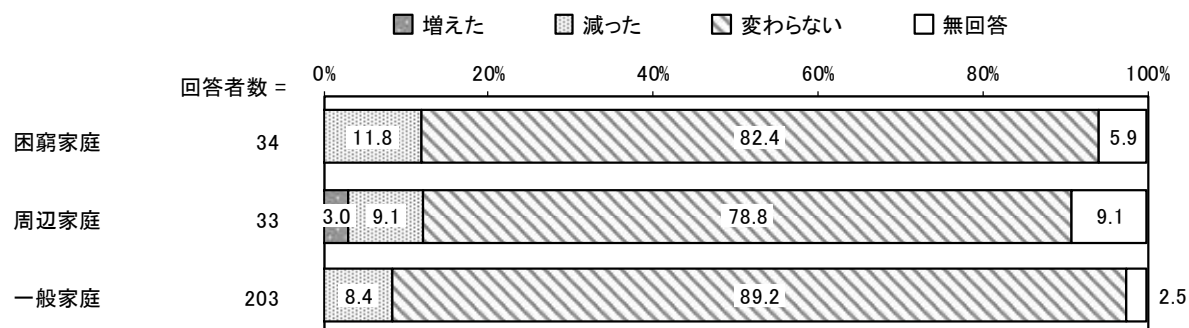
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



③ 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

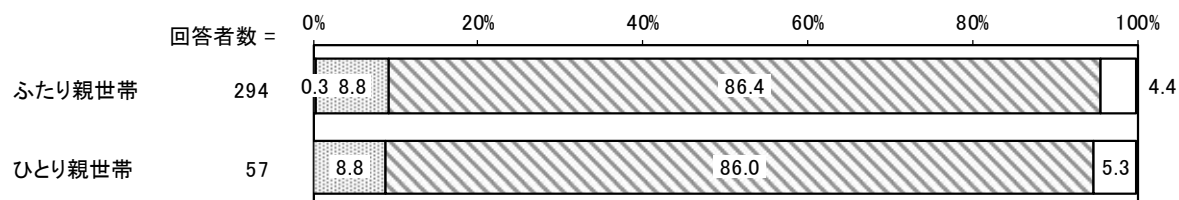
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

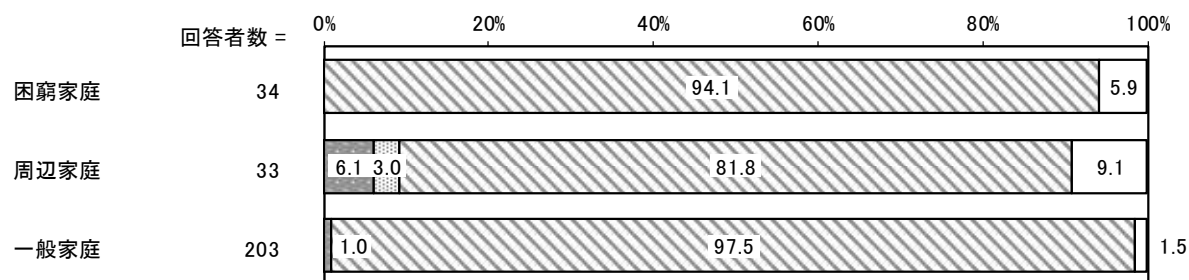
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



④ 食事を抜く回数

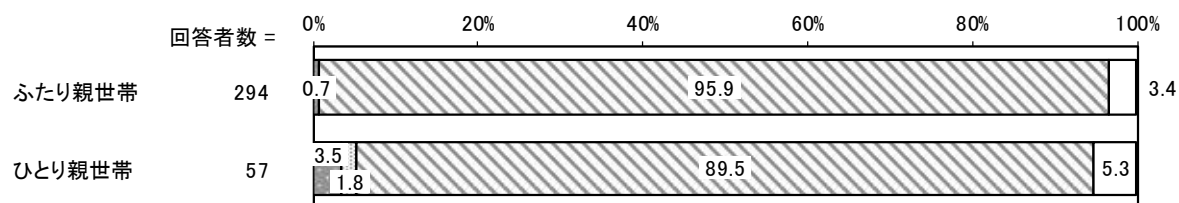
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

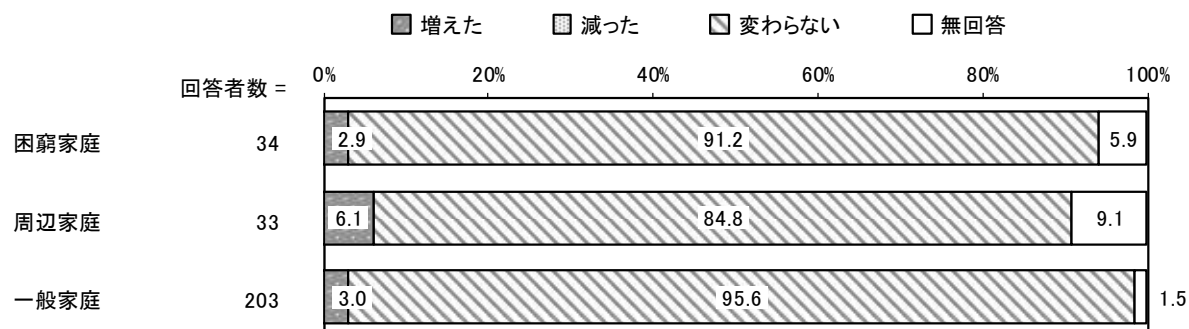
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑤ 夜遅くまで起きている回数

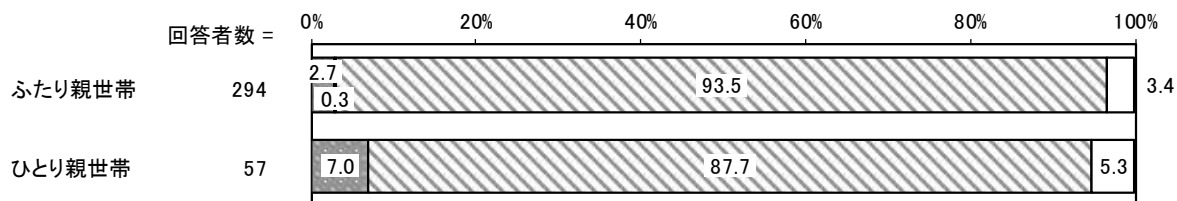
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

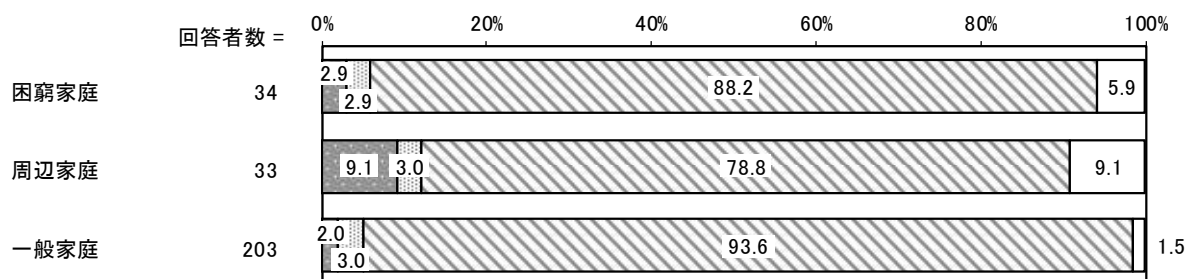
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑥ 親以外の大人や友達と話をすること

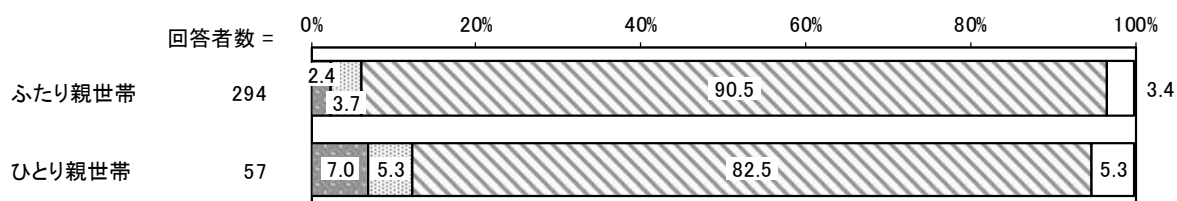
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

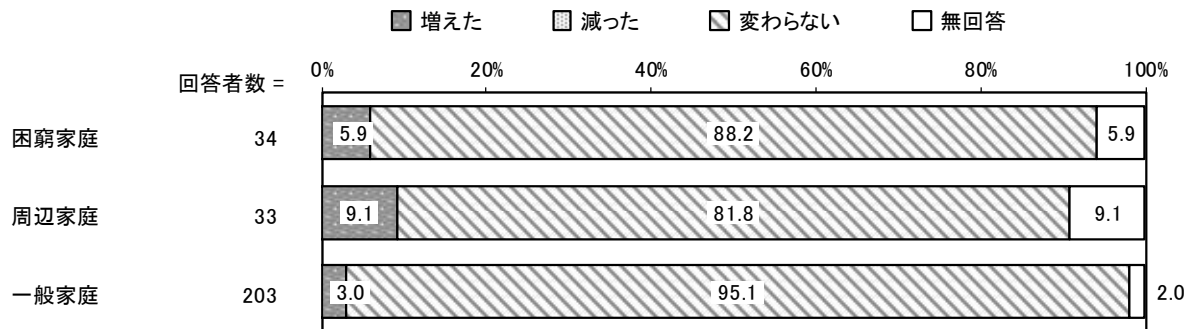
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑦ イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

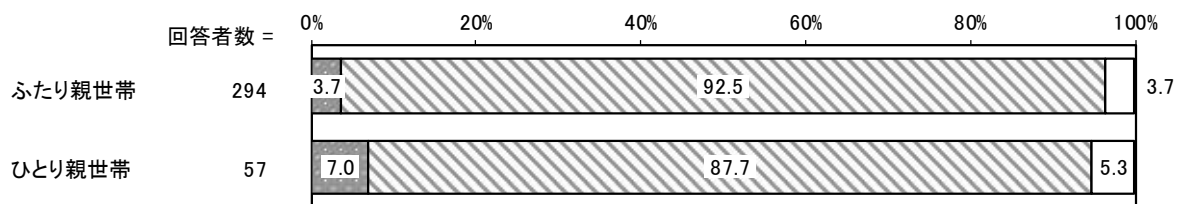
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が、一般家庭で「変わらない」の割合が高くなっています。



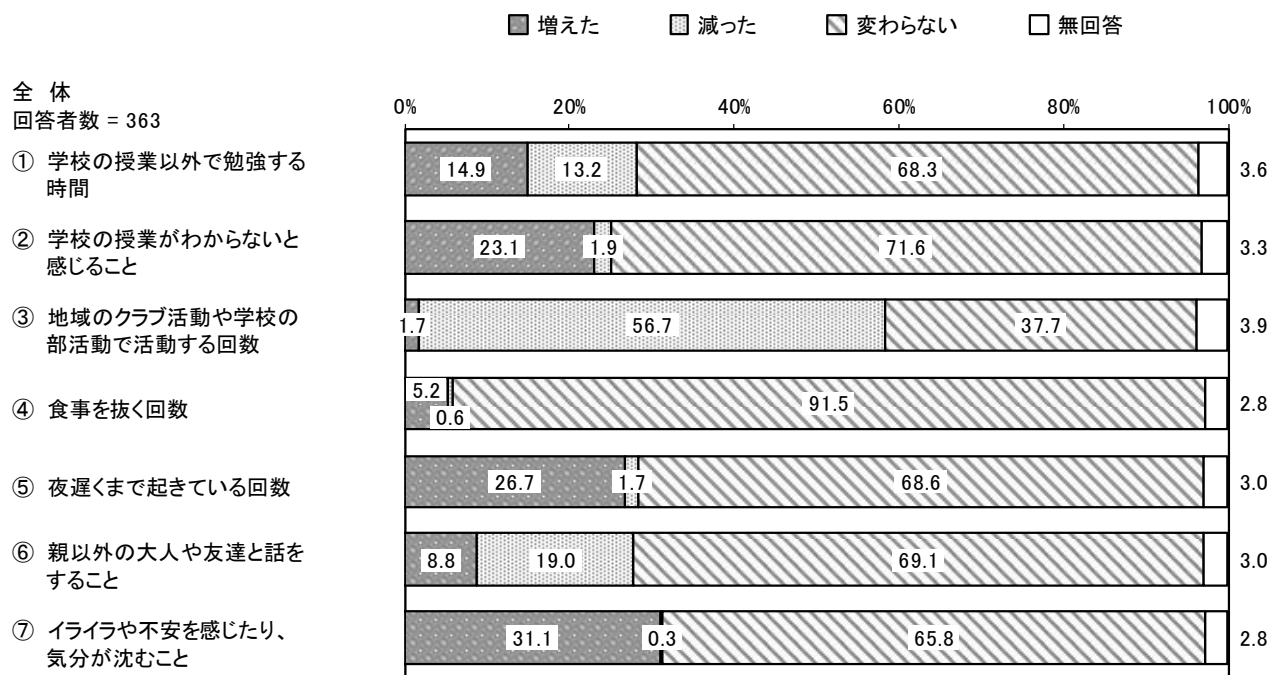
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



2. 新型コロナウイルス感染症

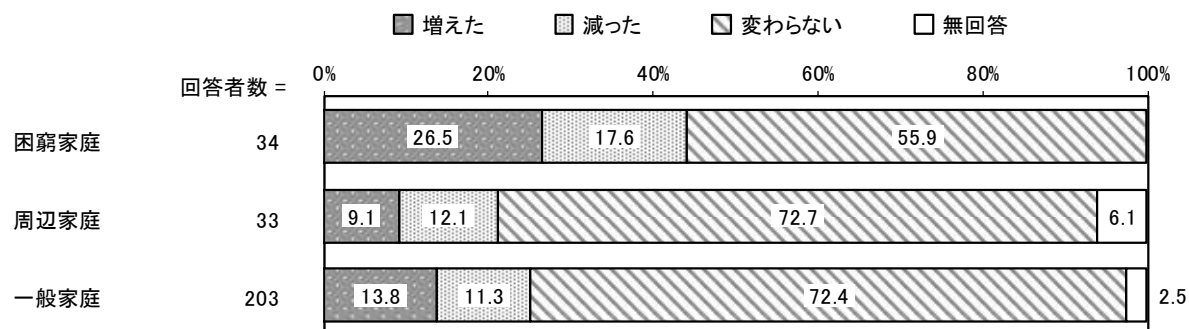
『② 学校の授業がわからないと感じること』『⑤ 夜遅くまで起きている回数』『⑦ イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと』で「増えた」の割合が高く、2割半ば～3割となっています。また、『③ 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』で「減った」の割合が高く、5割半ばとなっています。



① 学校の授業以外で勉強する時間

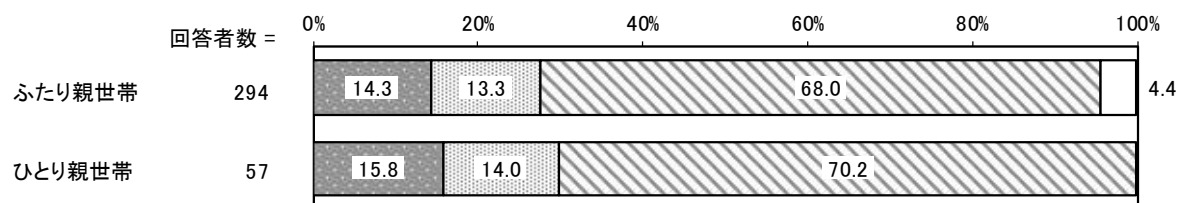
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」「減った」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

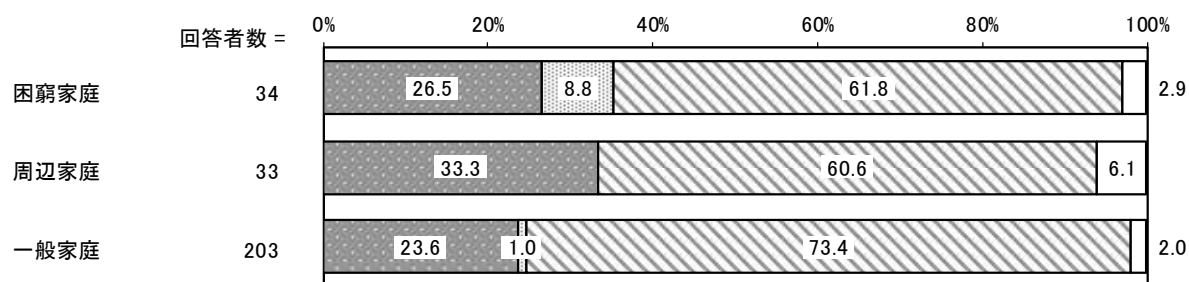
世帯状況別でみると、大きな差異はみられません。



② 学校の授業がわからないと感じること

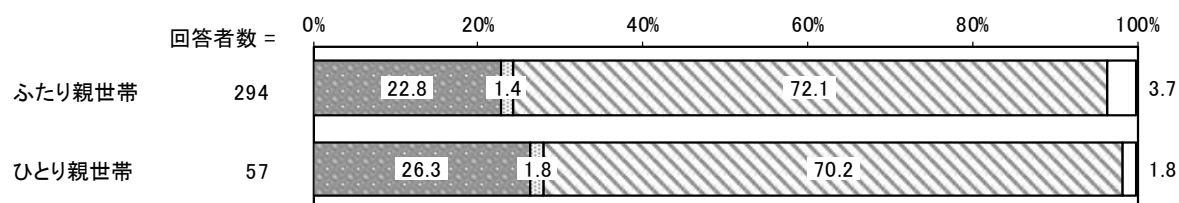
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が、困窮家庭で「減った」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

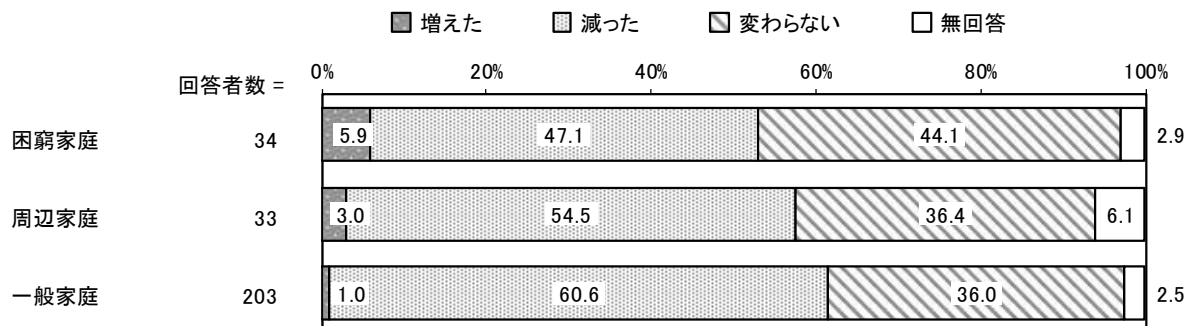
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



③ 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

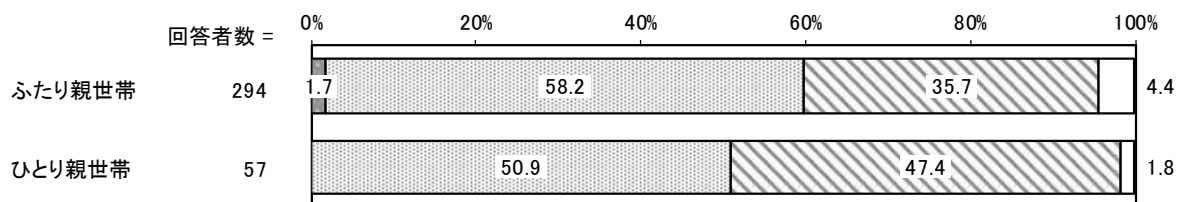
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「減った」の割合が、困窮家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

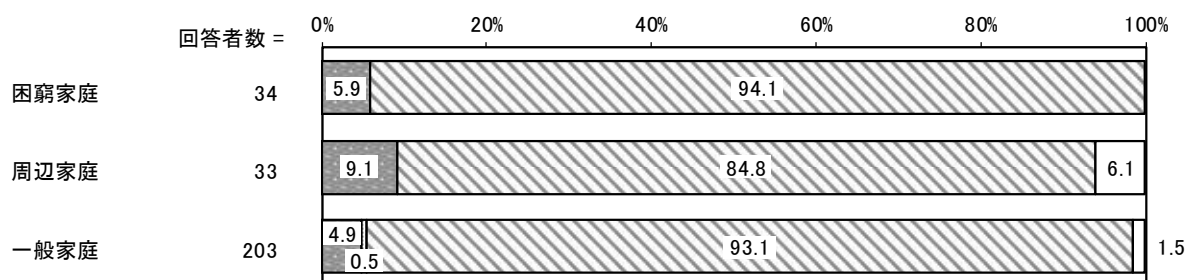
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



④ 食事を抜く回数

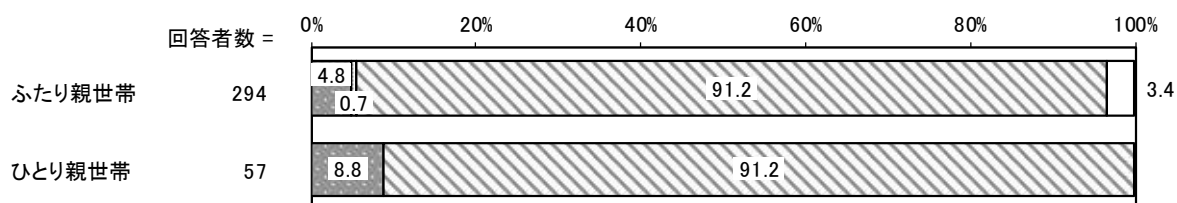
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

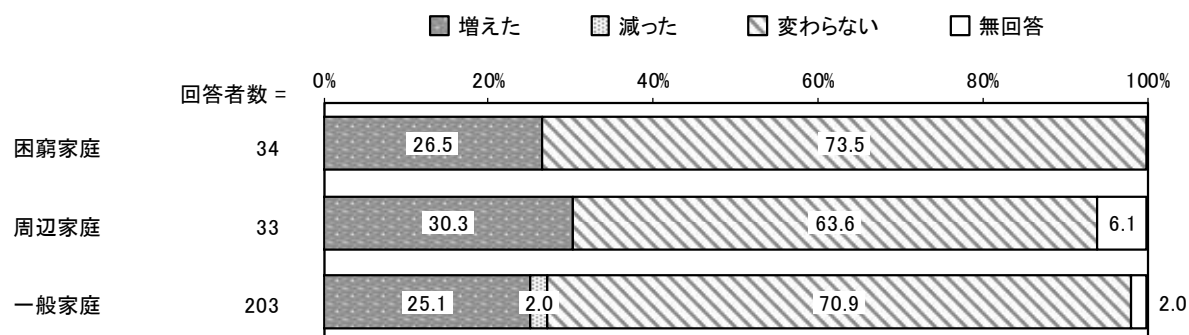
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑤ 夜遅くまで起きている回数

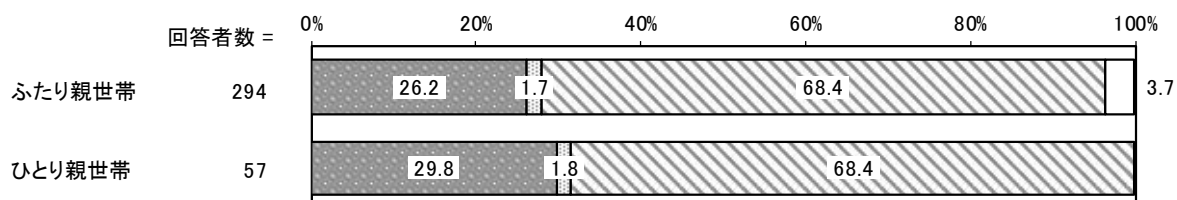
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

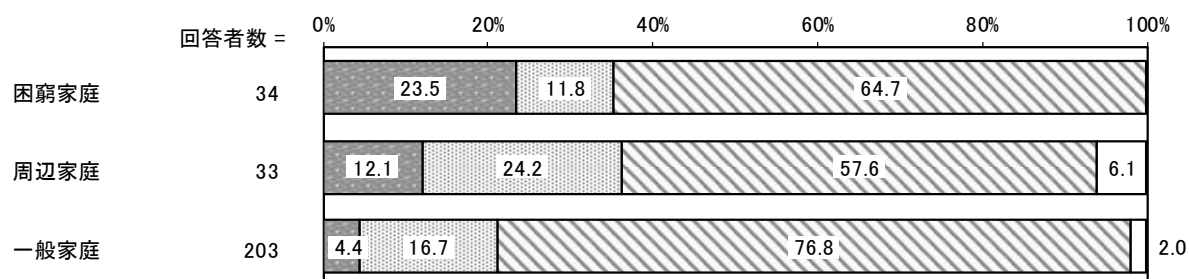
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



⑥ 親以外の大人や友達と話をすること

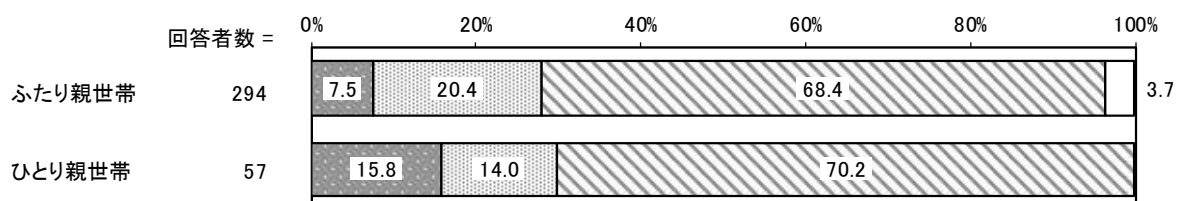
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「増えた」の割合が、周辺家庭で「減った」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

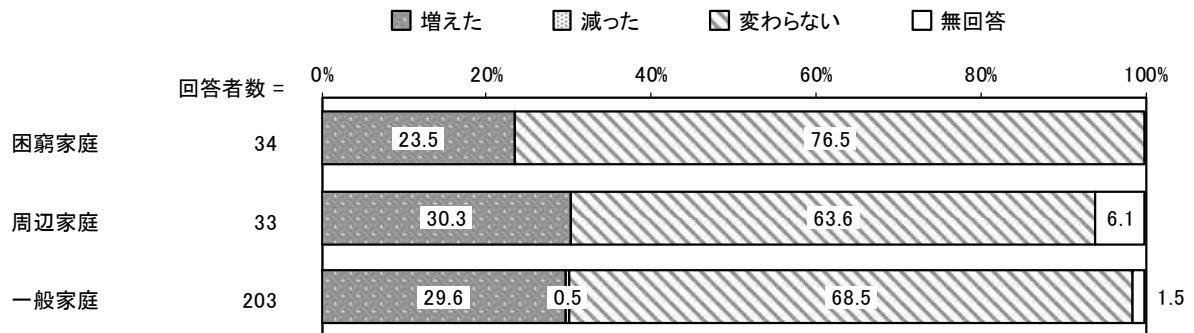
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「減った」の割合が高くなっています。



⑦ イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

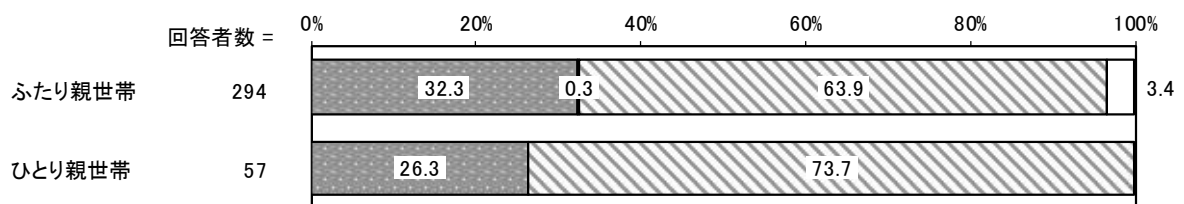
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭、一般家庭で「増えた」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「増えた」の割合が高くなっています。



問 21 現在、学校に在籍している人、学校を中途退学したことがある人におたずねします。

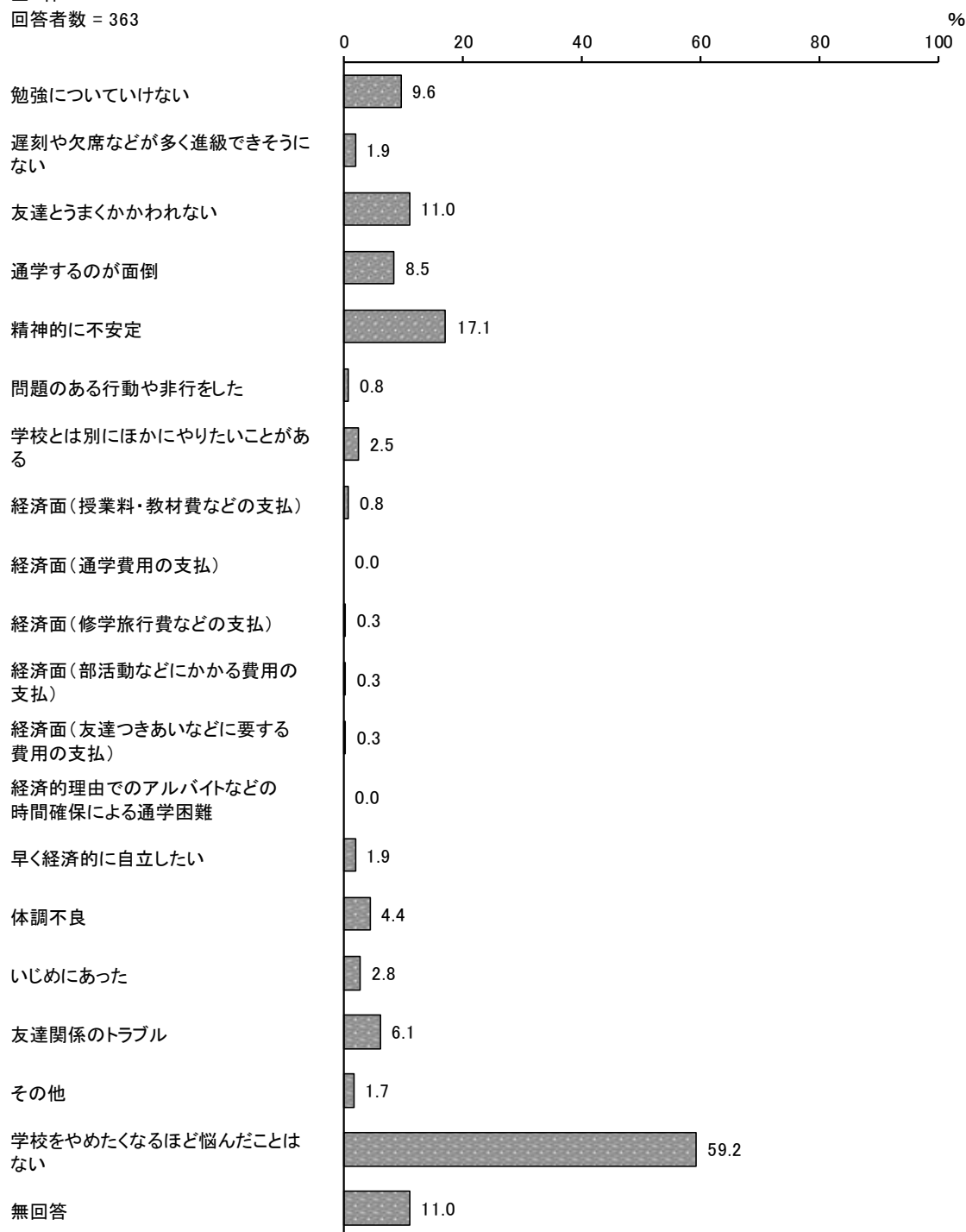
あなたは、これまでに次のことが原因で、学校をやめたくなるほど悩んだことがありますか。また、中途退学したことがある人は、その理由は何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

「学校をやめたくなるほど悩んだことはない」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「精神的に不安定」の割合が 17.1%、「友達とうまくかかわれない」の割合が 11.0%となっています。

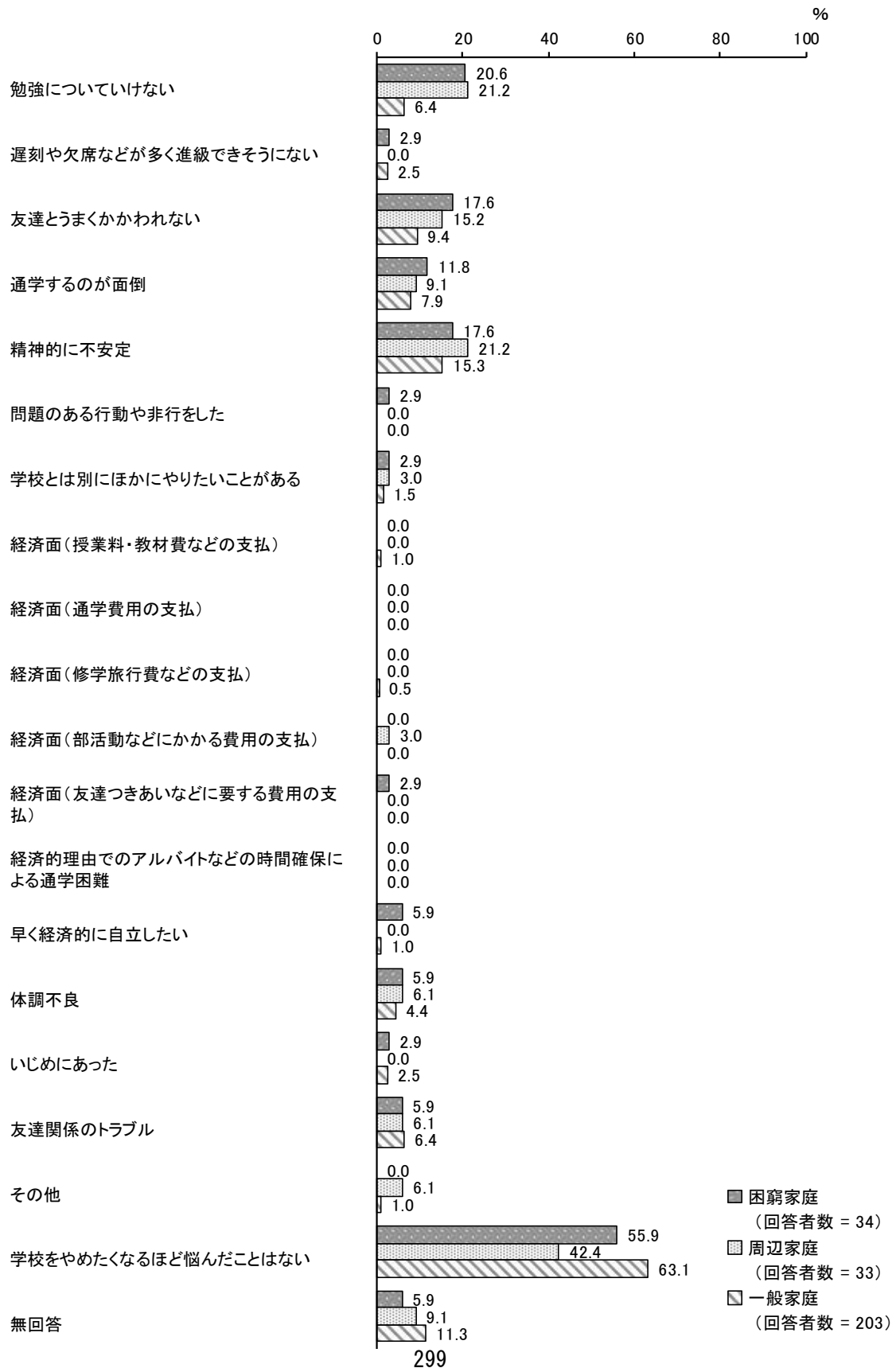
全 体

回答者数 = 363



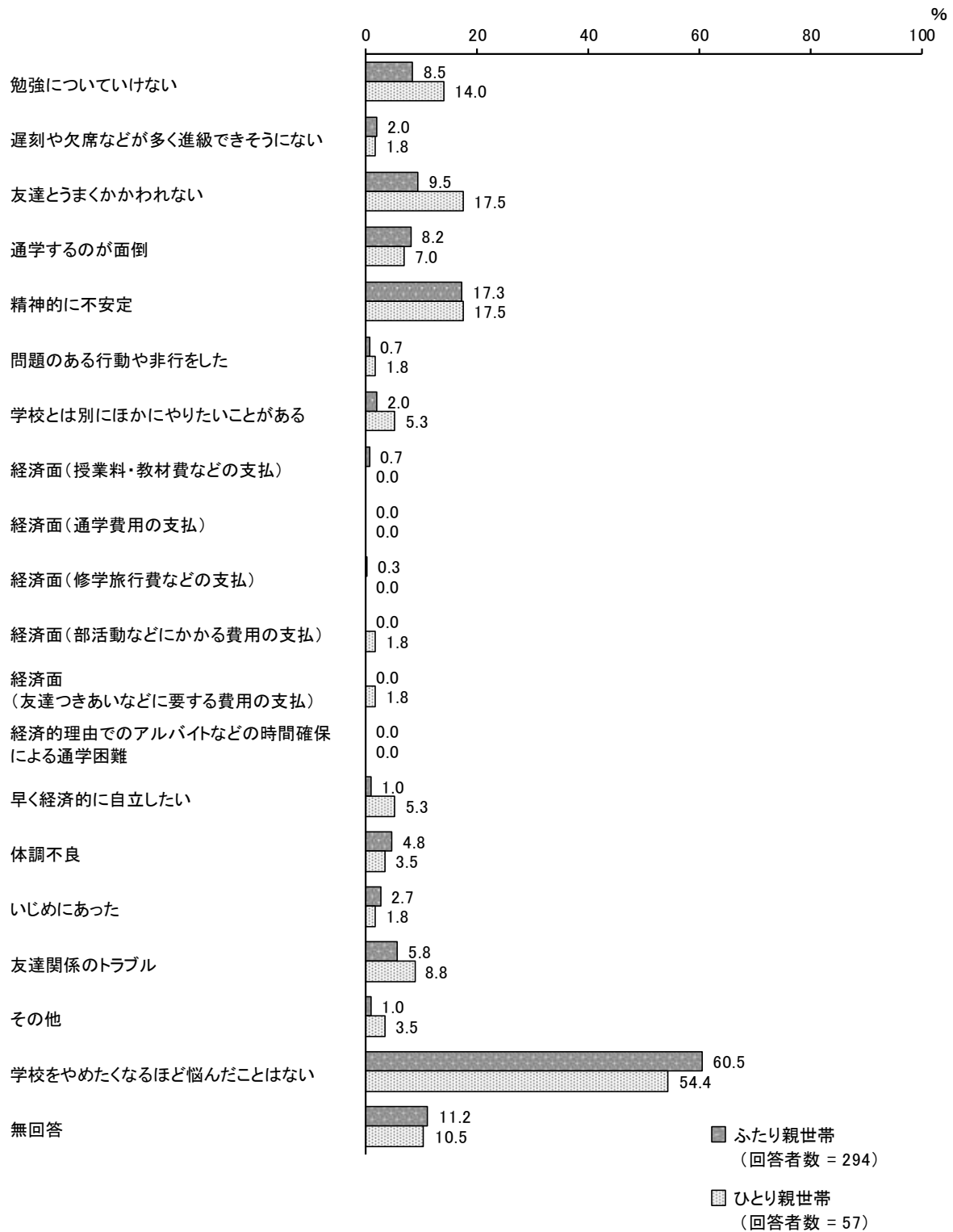
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「勉強についていけない」「精神的に不安定」の割合が、困窮家庭で「友達とうまくかかわれない」「通学するのが面倒」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「学校をやめたくなるほど悩んだことはない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

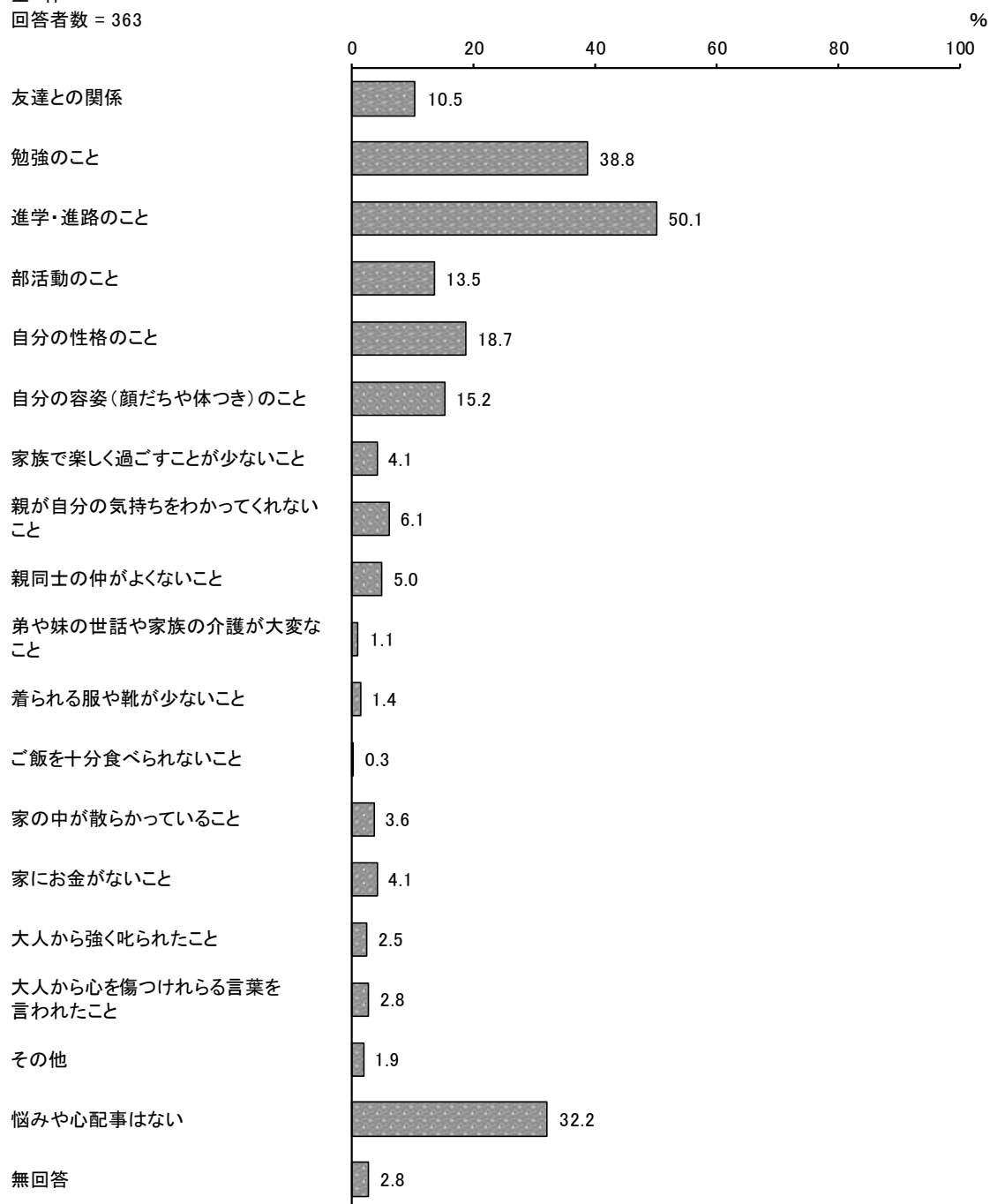
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「学校をやめたくなるほど悩んだことはない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「勉強についていけない」「友達とうまくかかわれない」の割合が高くなっています。



問 22 あなたは、自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

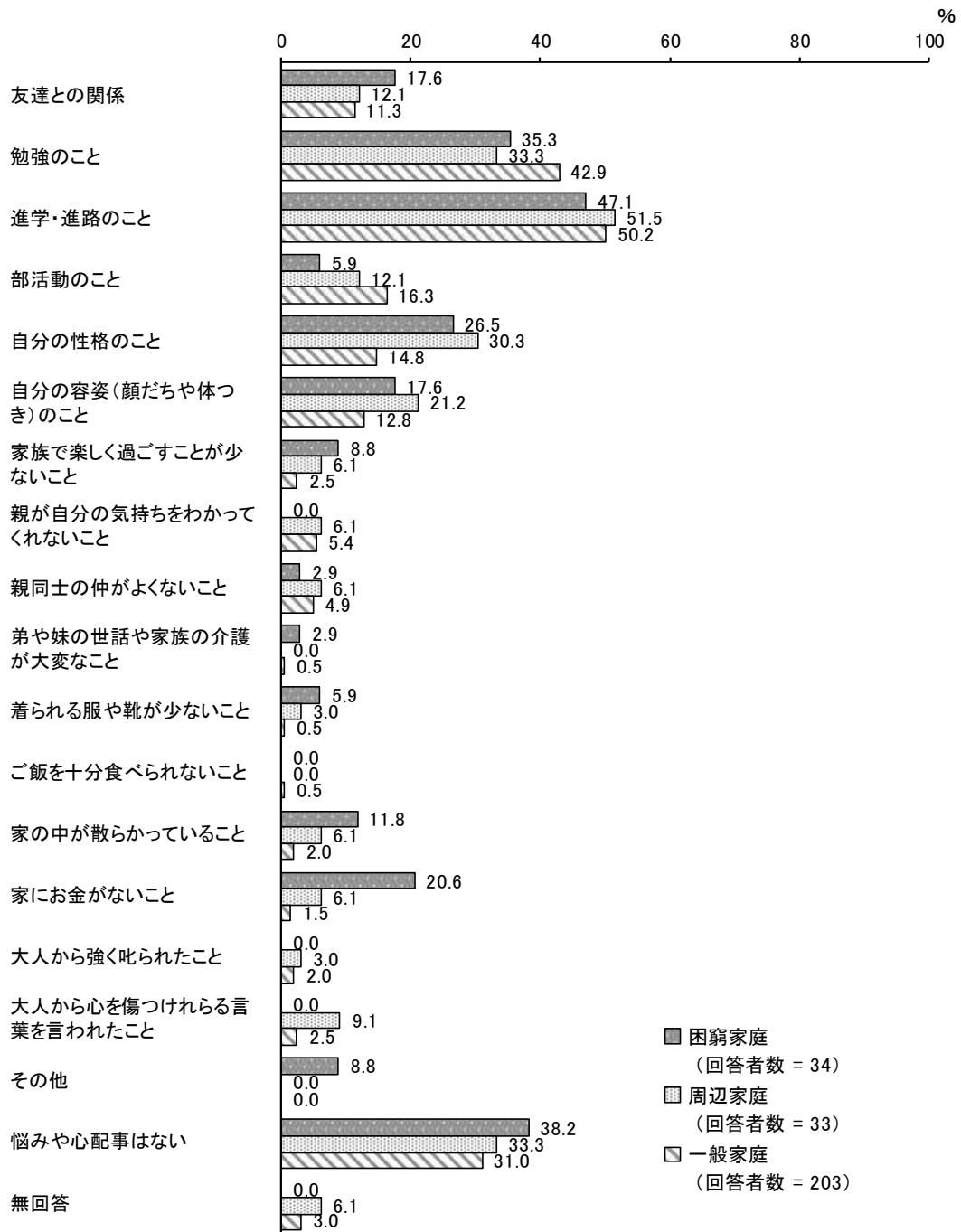
「進学・進路のこと」の割合が 50.1%と最も高く、次いで「勉強のこと」の割合が 38.8%、「悩みや心配事はない」の割合が 32.2%となっています。

全 体
回答者数 = 363



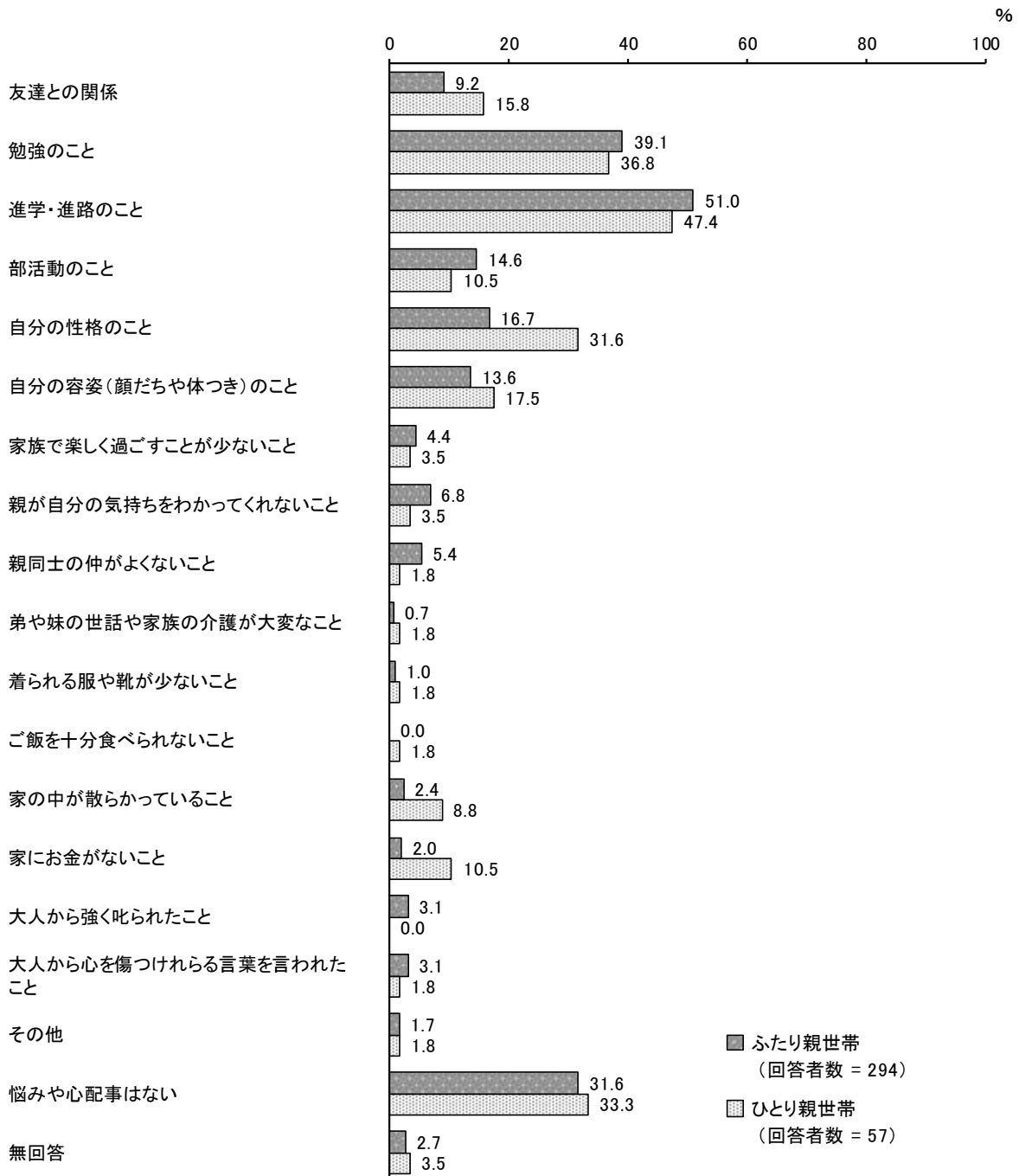
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「友達との関係」「家族で楽しく過ごすことが少ないこと」「着られる服や靴が少ないこと」「家の中が散らかっていること」「家にお金がないこと」「その他」「悩みや心配事はない」の割合が、一般家庭で「勉強のこと」「部活動のこと」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「自分の性格のこと」「自分の容姿（顔だちや体つき）のこと」「親が自分の気持ちをわかってくれないこと」「大人から心を傷つけられる言葉を言われたこと」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「友達との関係」「自分の性格のこと」「自分の容姿（顔立ちや体つき）のこと」「家の中が散らかっていること」「家にお金がないこと」の割合が高くなっています。

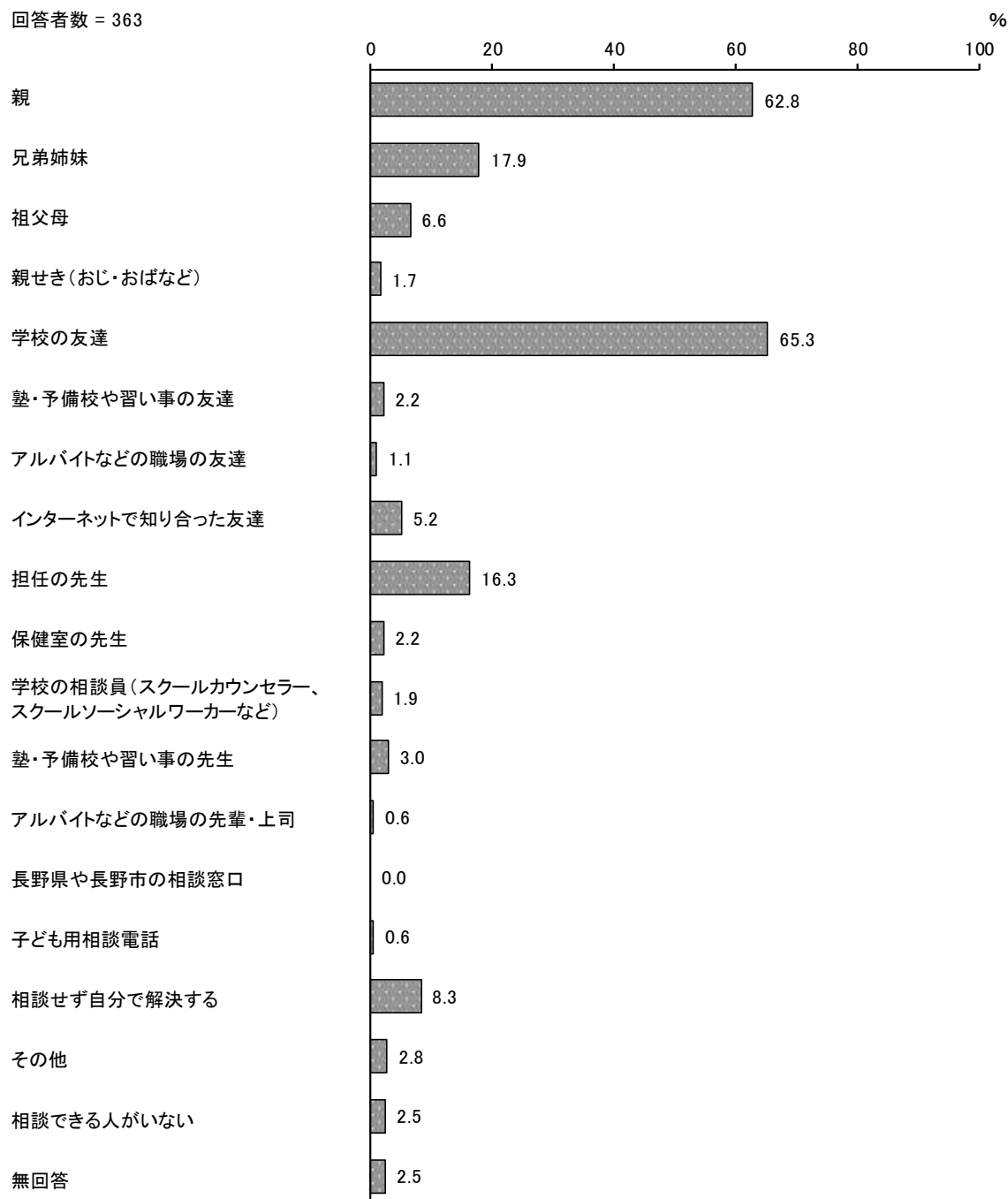


問 23 あなたは、困っていることや悩み事、心配事があるとき、誰に相談しますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「学校の友達」の割合が 65.3%と最も高く、次いで「親」の割合が 62.8%、「兄弟姉妹」の割合が 17.9%となっています。

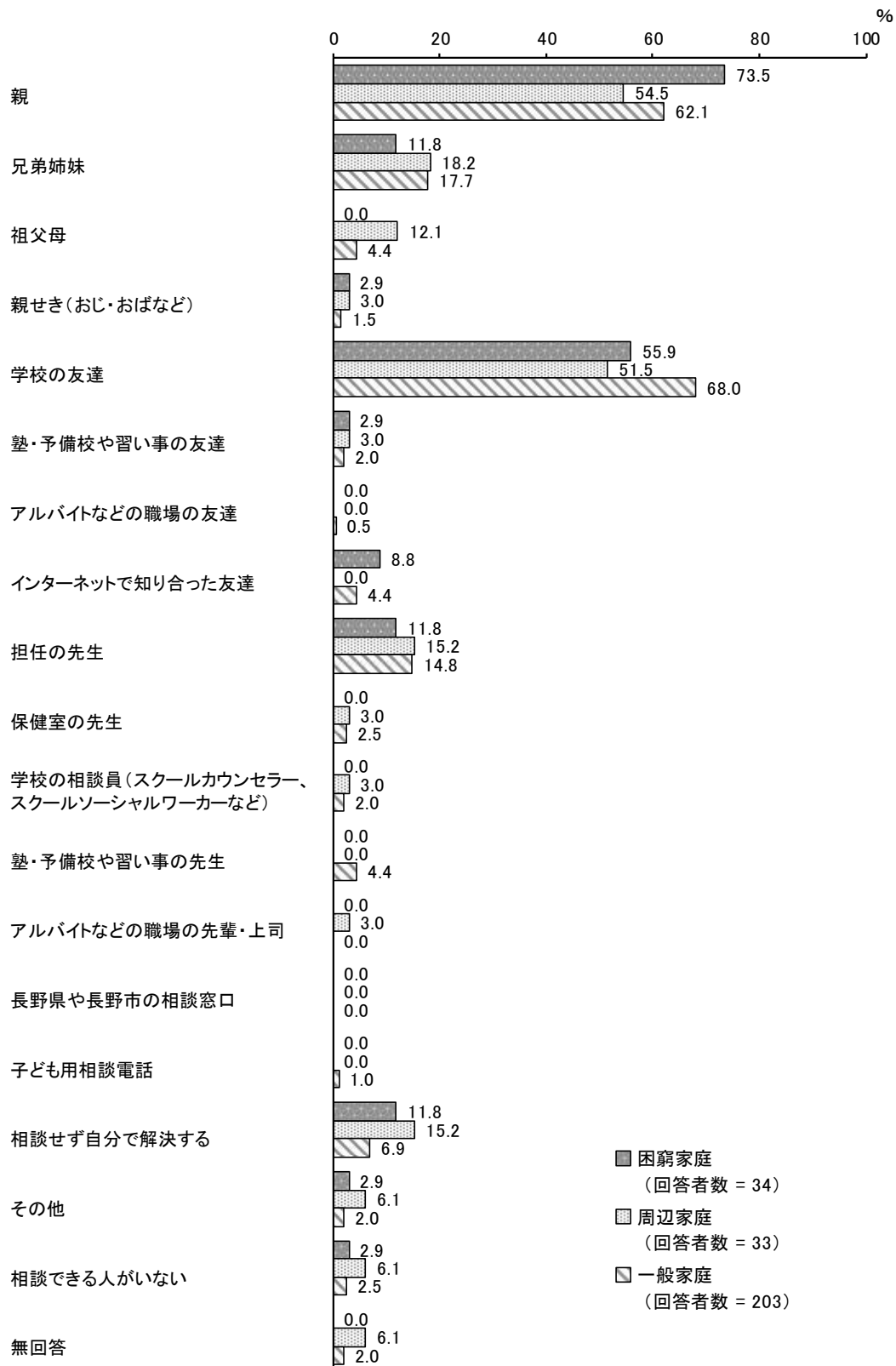
全 体

回答者数 = 363



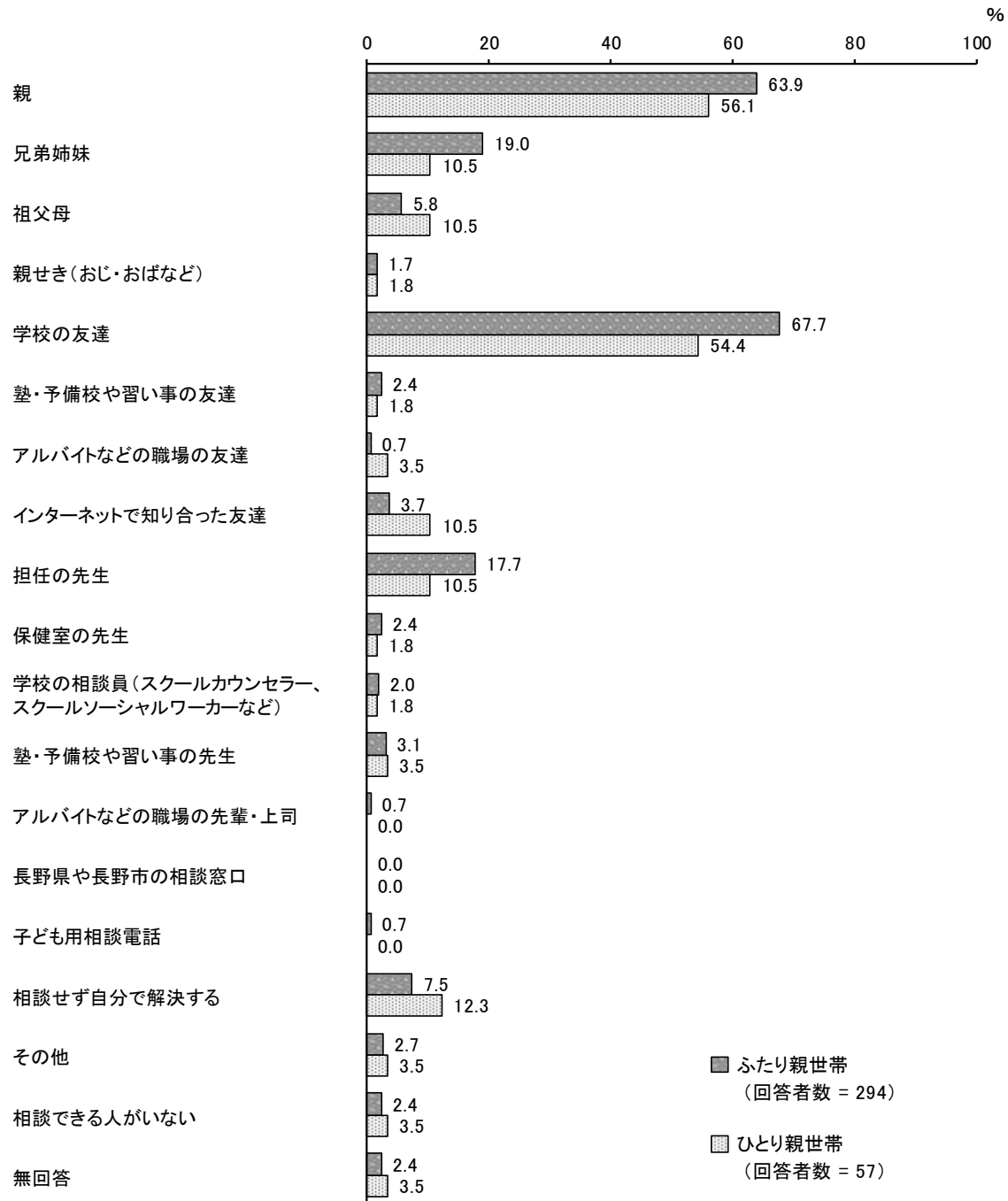
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「親」「インターネットで知り合った友達」の割合が、周辺家庭で「兄弟姉妹」「祖父母」「相談せず自分で解決する」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「学校の友達」の割合が高くなっています。



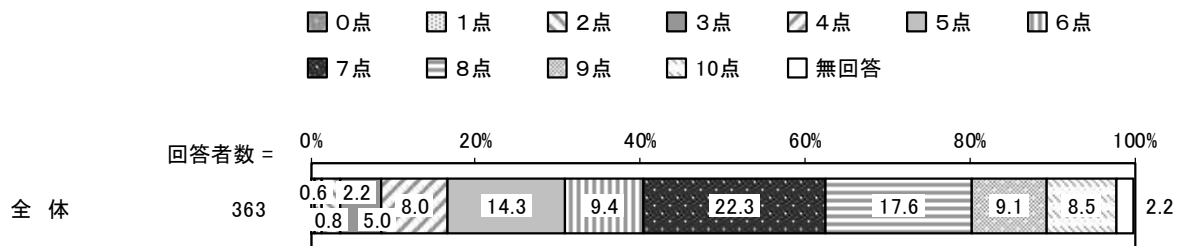
【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「親」「兄弟姉妹」「学校の友達」「担任の先生」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「インターネットで知り合った友達」「相談せず自分で解決する」の割合が高くなっています。



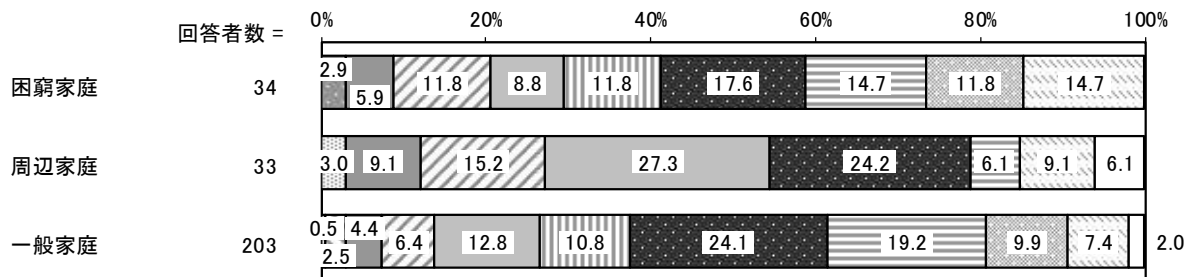
問 24 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「十分に満足している」を10点、「まったく満足していない」を0点とすると、何点くらいになりますか。0から10の数字を1つ選んでください。
(あてはまる番号1つに○)

「0～2点」に該当する割合が3.6%、「3～4点」に該当する割合が13.0%、「5点」に該当する割合が14.3%、「6～7点」に該当する割合が31.7%、「8～10点」に該当する割合が35.2%となっています。満足度が高い方の回答（6点～10点）割合は66.9%となっています。



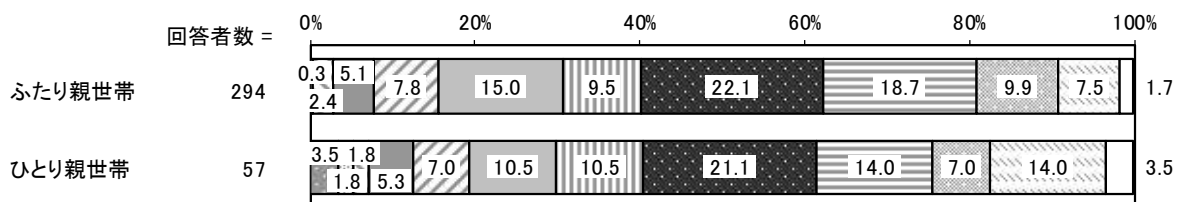
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、一般家庭に比べ、周辺家庭、困窮家庭で満足度が低い方の回答（0点～4点）割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で満足度が高い方の回答（6点～10点）割合が低くなっています。



【世帯状況別】

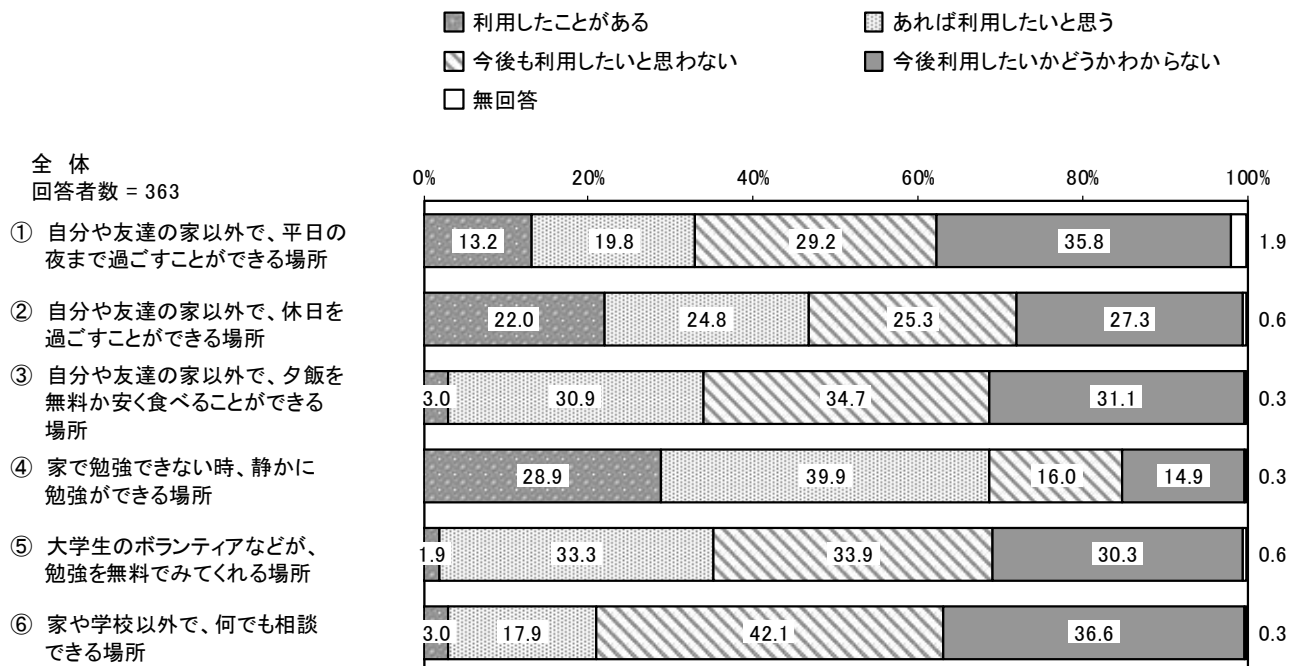
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で満足度が低い方の回答（0点～4点）割合が高くなっています。



問 25 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。
(①～⑥それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○)

『④ 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所』で「利用したことがある」の割合が高く、約 3 割となっています。

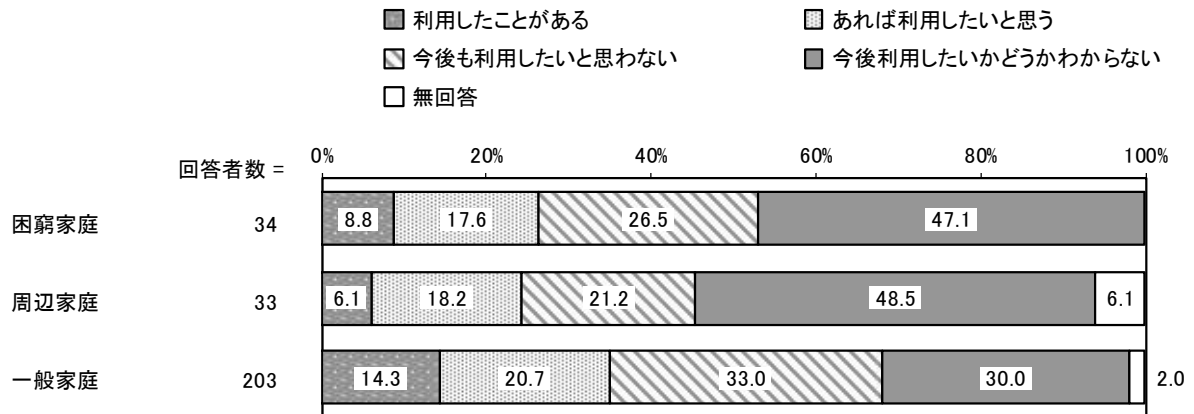
また『③ 自分や友だちの家以外で、夕飯を無料化安く食べることができる場所』『④ 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所』『⑤ 大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみえてくれる場所』を、「あれば利用したいと」の割合が高く、3 割～4 割となっています。



① 自分や友達の家以外で、平日の夜まで過ごすことができる場所

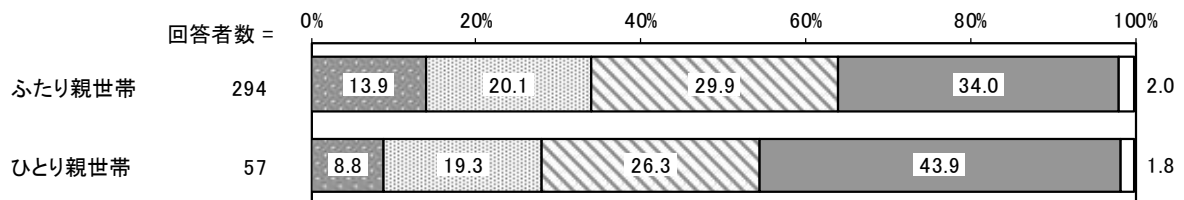
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、一般家庭で「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」「今後も利用したいと思わない」の割合が、周辺家庭、困窮家庭で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

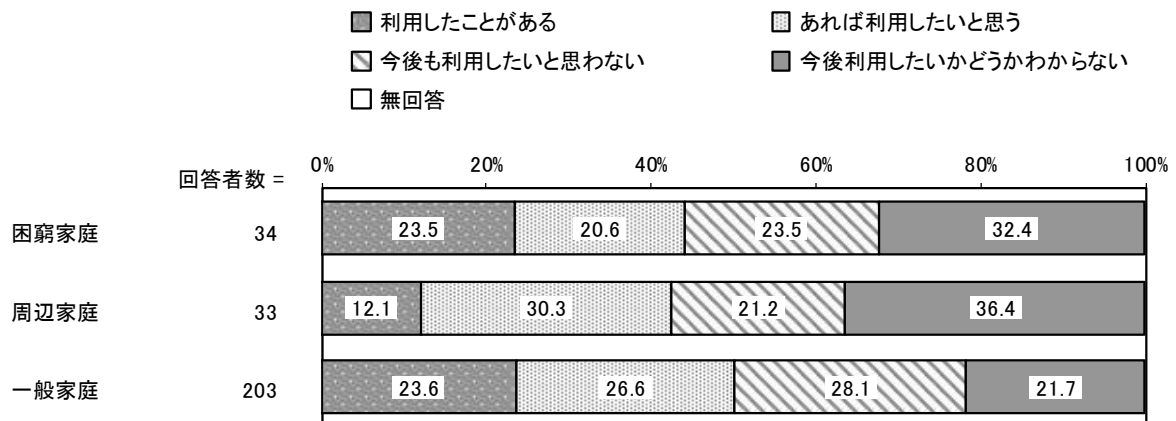
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



② 自分や友達の家以外で、休日を過ごすことができる場所

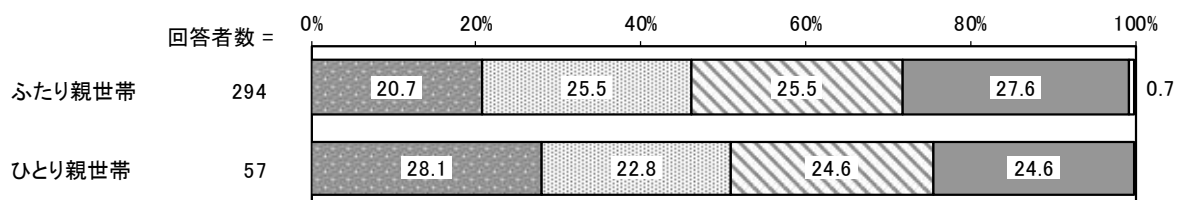
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「利用したことがある」の割合が、一般家庭で「利用したことがある」「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、周辺家庭で「あれば利用したいと思う」「今後利用したいかどうかわからない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

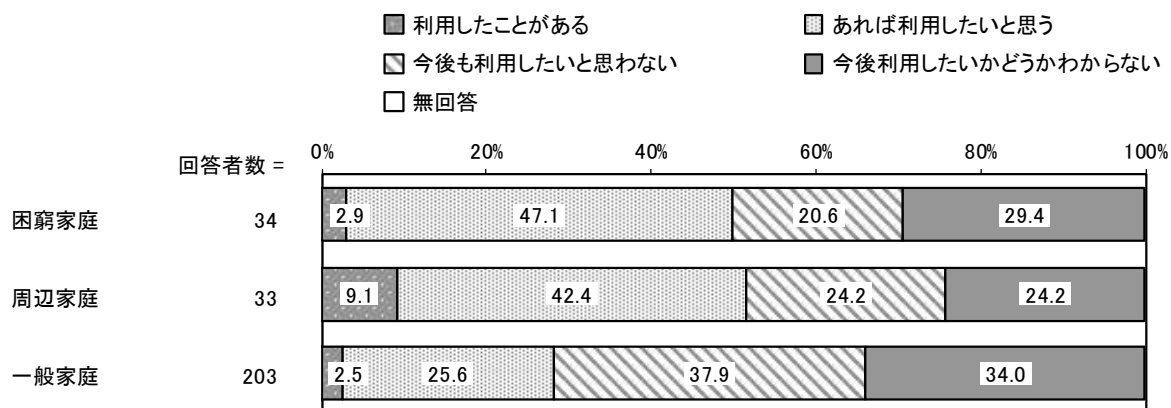
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



③ 自分や友達の家以外で、夕飯を無料か安く食べることができる場所

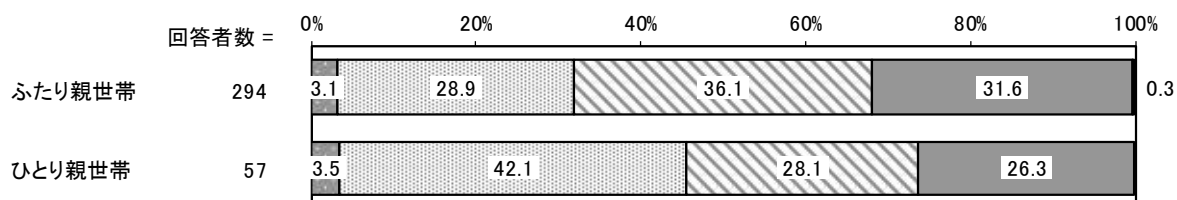
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「利用したことがある」の割合が、困窮家庭で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、一般家庭で「今後も利用したいと思わない」「今後利用したいかどうかわからない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

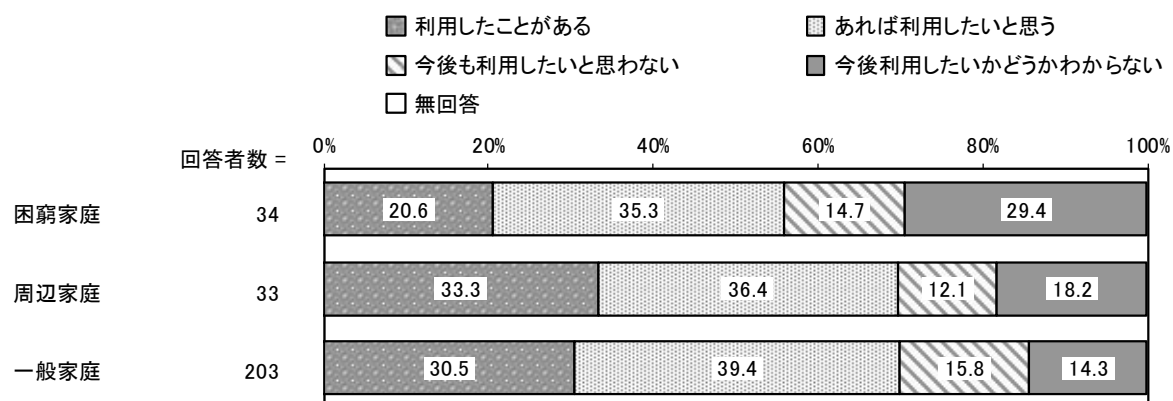
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「今後も利用したいと思わない」「今後利用したいかどうかわからない」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



④ 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所

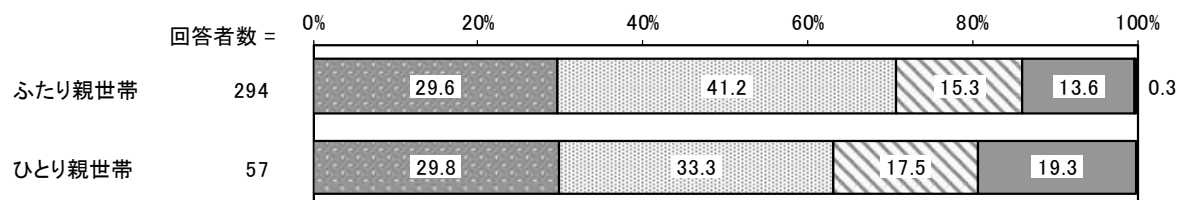
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、周辺家庭で「利用したことがある」の割合が、困窮家庭で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

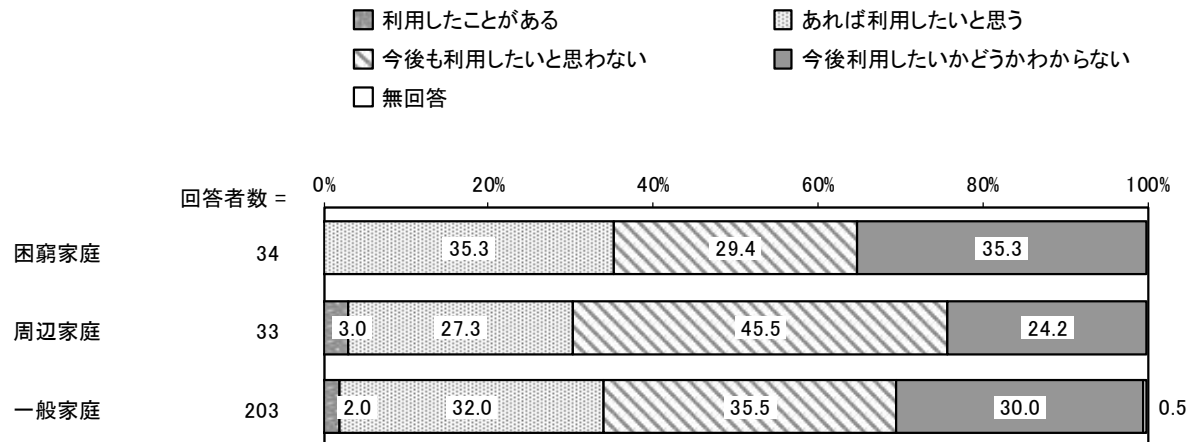
世帯状況別でみると、ひとり親世帯に比べ、ふたり親世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



⑤ 大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてる場所

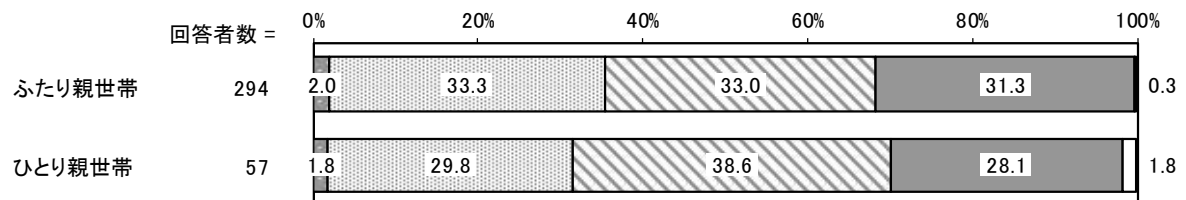
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「あれば利用したいと思う」「今後利用したいかどうかわからない」の割合が、周辺家庭で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

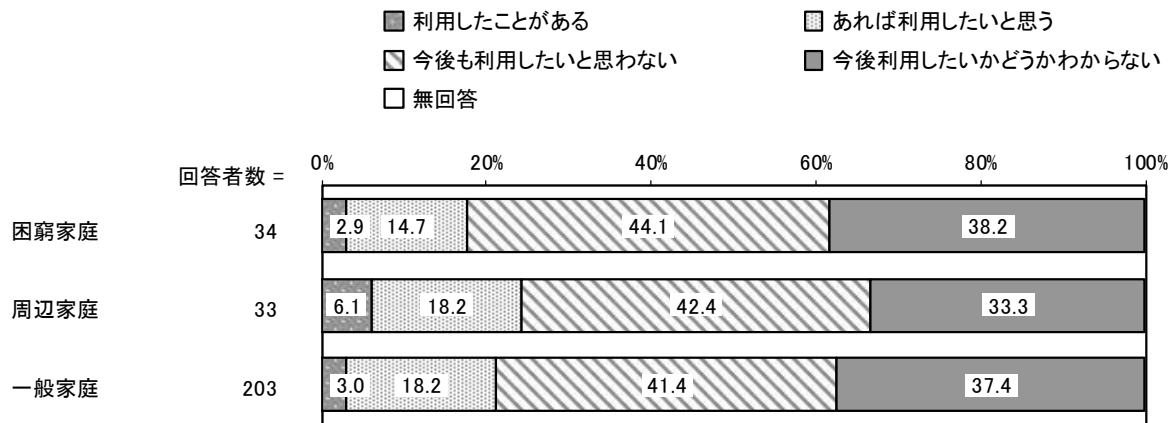
世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。



⑥ 家や学校以外で、何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む）

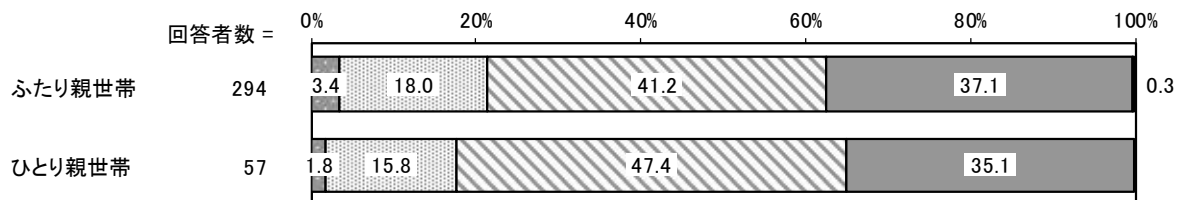
【生活困難度別】

生活困難度別でみると、他に比べ、困窮家庭で「今後利用したいかどうか分からない」の割合が高くなっています。



【世帯状況別】

世帯状況別でみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。



(8) 自由記述

問 26 長野市が何かしてくれるとしたら、あなたはどんなことを望みますか。また、日々の生活で感じていることや困っていることなどがありましたら、自由に書いてください。

長野市に望むこと、日々の生活で感じていることや困っていることなどを尋ねたところ、363人中 108 人 (29.8%) から、合計 147 件の意見が寄せられました。

順位	分類	件数
1	道路・公共交通のこと（道路、バス・電車など）	29
2	お金のこと（授業料、通学費、給付金など）	28
3	学校のこと（設備、班・部活動、相談体制、校則など）	25
4	居場所のこと（学習、交流、スポーツ）	24
5	行政のこと（市の取組の周知、中高生向けの体験イベントなど）	14
6	新型コロナウイルス感染症に関すること（コロナへの対策など）	7
7	友人のこと（人間関係、いじめなど）	4
8	家族のこと（家庭環境、家事の負担）	3
9	その他	13
	総数	147

【分類別の意見の内容と代表的な意見】

分類	内容	件数	代表的な意見
道路・公共交通のこと	道路の整備	14	○歩道の歪みを直してほしい。自転車で走ると危険を感じる時がある。 ○小学生がふらふらしたり広がって歩くので、自転車道を増やしてほしい。 ○通学路が狭く安全確保ができない。 ○カーブミラーをつけてほしい所がある。
	バス・電車	9	○バス・鉄道を増便してほしい。 ○広範囲の社会人・学生が、通勤・通学のしやすい市になると嬉しい。山間地はバスの本数が少なく災害復旧で遅延もあり大変。 ○市がバス・鉄道会社に資金援助をして、コロナ禍前の半分くらいまで増やしてほしい。
	街灯	3	○部活終わりの帰宅は道が暗く危険なので、街灯を増やしてほしい。
	その他	3	—
	計	29	
お金のこと	学費・授業料	8	○奨学金は返済が大変。他の方法で支援してほしい。 ○母子家庭で学費が気になり、大学受験をするべきか悩む。

			○長野県または市で就職すること前提に、大学の授業料免除などあれば嬉しい。
	通学費	6	○公共交通機関の学生無料化。 ○電車・バスの運賃を下げしてほしい。
	給付金	5	○新型コロナウイルスで生活が大変。余裕がもてないのでお金の給付をお願いしたい。 ○親にお金をもらえなくても買い物や外食ができるよう、子ども専用の金券がほしい。
	賃金	4	○高校生のアルバイトの最低賃金を上げてほしい。
	医療費	2	○中学生まで 500 円かかる福祉医療制度を無料にしてほしい。 ○通院をためらうので高校生も福祉医療制度の対象にしてほしい。
	その他	3	—
	計	28	
学校に関する こと	設備	9	○学校の設備をもっと整えてほしい。 ○トイレが古くて臭いも気になり寒いので、できるだけ行かないようにしている。そのせいでよくお腹が痛くなる。 ○もう少し過ごしやすい学校環境にしてほしい。
	班活動・部活動	6	○部活で市外に出ることがあるので、大会の時くらい小さくてもいいからバスを出してほしい。 ○私立の高校でも部活動の時間に規制をもたせてほしい。 ○規定を破って（休日の確保等）活動している班・部活があるので疲れてしまうし休養もとれない。 ○夕方になると校内のエアコンが消されとても暑い。 班活の時も涼しい環境がほしい。
	相談体制	5	○悩みを話せる場所がなく、抱え込んでしまう。先生と一対一で話す機会やスクールカウンセラーの方がいてほしい。 ○学校に行けない子たちにもっと手を差し伸べてほしい。辛い思いをしている子を救ってほしい。 ○スクールロイヤーの配置。自殺者が多い現状を踏まえて大々的な対策を明瞭に行ってほしい。
	校則	3	○学校の校則をもう少し緩くしてほしい。そうしたらもっと自分が自分らしくいられると思う。 ○なぜ髪染め・ピアスが禁止されているかわからない。自由にしてほしい。
	その他	2	—

	計	25	
居場所に関すること	学習スペース	11	○学習スペース（公共施設）を増やしてほしい。 ○図書館は閉館時間が早いので、夜まで勉強できる場所がほしい。 ○長野駅前に無料の勉強スペース・フリースペースを作してほしい。 ○学習カフェみたいな場所を増やしてほしい。
	交流	9	○地域の人が集まってくつろげる、素敵な建物を作してほしい。 ○班・部活後の遅い時間にも自分の気持ちを話せる場所がほしい。（大学生等自分たちと歳が近く、親身に話を聞いてくれる場所） ○学校での消極的な子が居やすい場所を提供してほしい。 ○家に帰りたくない子用に、低額で宿泊できる場所があるといい。
	スポーツ施設	4	○学生が無料で使えるスポーツ施設を増やしてほしい。 ○人工芝のグラウンドやスポーツ施設が少ない。 ○北部レクリエーションパークのような屋内運動施設を作してほしい。
	計	24	
行政に関すること	市の取り組みの周知	5	○何をしているかわかりやすいので、街頭演説のように市の政策が耳に入る機会を増やしてほしい。 ○子どものうちから行政に関心を持てるよう、市の役割についてわかりやすく周知してほしい。（広報に「キッズながの」のようなものを設ける等） ○テレビも見なく外にも出ないので、今長野市に何があったらいいか等わからない。
	中高生向けの体験イベント	2	○中高生向けの社会プロジェクトやプログラミング等の講習会や活動、授業等で扱う機会が少ない競技を体験できる場所がほしい。
	重度障害者施設の整備	2	○重度障害者が入れる施設を作してほしい。家庭でも夜中の訪問介護をしてほしい。
	その他	5	—
	計	14	
新型コロナウイルス感染症に関すること	新型コロナウイルスへの対策	4	○コロナワクチンの接種を個人に任せるのではなく、市として取り組んでほしい。 ○接種の自由を前提に学校で打てるようにし、翌日は公欠扱いにしてほしい。

			○早く新型コロナウイルスを収束させて、普通の生活ができるようにしてほしい。
	行事	3	○A高校の修学旅行だけ県内日帰りはおかしい。来年もコロナ等で従来の旅行ができないなら、どの高校も統一して宿泊旅行にするなりしてほしい。 ○コロナでつぶれた私たちの卒業式や入学式、文化祭や海外研修に行きたい。
	計	7	
友人に関すること	人間関係・いじめ対策	4	○高校入学と同時にコロナが流行し、学校でも人間関係をあまり築けない。 ○同年代が今悩んでいることを知りたいので、何かの形で見られるようにしてほしい。 ○いじめに対してもっとちゃんと対策をしてほしい。 (調査等をしていじめが起きにくいように環境を変えるなど)
	計	4	
家族に関すること	家庭環境・家事の負担	3	○両親が離婚していて父は精神疾患を患っているの で、あまり負担をかけられない。 ○家事や家族の面倒で忙しい人は、学校以外の施設は利用しようとは思えない(家を空けられない)。そういう人でも安心して休むことができる何かがあればとてもいいと思う。
	計	3	
その他		13	—
合計		147	

Ⅲ 支援関係者ヒアリング調査の概要

1 調査の目的

本調査は、数字では表れにくい子どもや家庭の多様な困難の状況や背景、必要な支援等についてヒアリングやアンケート調査を行うことにより、専門家・第三者の立場の視点から現状をとらえ、きめ細かな実態把握を行うことを目的として実施したものです。

2 対象団体・機関

地域で活動する団体等	信州こどもカフェ（こども食堂）実施団体、NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト、NPO 法人長野県 NPO センター、NPO 法人災害時こどものこころと居場所サポート、NPO 法人子ども・人権・エンパワメント CAP ながの、リサイクル交流広場「回る回るハウス」、主任児童委員
教育関係機関等	市立小・中学校、スクールソーシャルワーカー、県立高校（定時制）
子ども関連施設・機関等	児童相談所、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）実施施設、児童家庭支援センター、こども広場
保健福祉関係機関	保健センター、ながの版ネウボラ母子保健コーディネーター、長野市生活就労支援センター「まいさぽ長野市」

※調査対象団体・機関は、支援対象としている子どもの年齢や置かれた状況、実施している支援等の内容を考慮したもので、市内で活動する全ての団体・機関ではありません。

3 実施時期

令和3年7月から令和4年3月まで

4 ヒアリング内容

子どもや家庭の様子や特徴・抱えている課題、子どもや家庭への支援や対応方法、情報共有・関係機関などとの連携状況、支援にあたっての課題、台風19号災害や新型コロナウイルス感染症拡大による子どもや家庭への影響など

5 実施方法

対面ヒアリング（一部はアンケートによる）

※4の項目について、対話形式で、回答に応じて質問を交えながらヒアリング（インタビュー）を行いました。そのため、次ページ以降の調査結果は必ずしも項目順に整理されていません。

Ⅳ 支援関係者ヒアリング調査結果

支援関係者の意見は、それぞれの立場における経験や実感に基づくものであり、支援を受ける全ての方に当てはまるものではなく、統計上の根拠はありませんが、現状の把握や今後の取組の参考にするものとして、主な内容を掲載します。

1 地域で活動する団体等

(1) 信州こどもカフェ（こども食堂）実施団体

信州こどもカフェ：全国では「こども食堂」等の名称で行われている子どもの居場所の取組について、学習支援、食事提供、悩み相談、学用品のリユース、高齢者との交流など複数の機能を提供し、月1回以上計画的に開催されているものを、長野県が「信州こどもカフェ」と愛称で呼んでいます。

こどもカフェを利用する子どもや保護者の特徴や抱えている課題	○子ども (家庭) ・学校で過ごすことや家庭で安心して過ごすことが困難である。 ・一見何もなさそうに見えるが、家庭の状況に振り回され頑張っている姿がうかがわれる。 ・低学年の小学生と未就学児で、兄弟姉妹がいる子どもが多い。 (食事) ・一人1つのお弁当が食べられると喜ぶ子ども達がいる。 ・親が忙しく、一人又は兄弟だけでの昼食が当たり前の家庭が多い。 ○保護者 (就労) ・保護者の職場が定着せず、生活苦。不登校の子どもに振り回されている姿が見られる。 ・残業がなくなり収入が激減した父親や、パートの時間が縮小されて収入が落ち込んだ母親がいる。 (ひとり親) ・離婚によりシングルマザーで幼児が複数いる。障がいのある子もいる。 ・食材を希望する保護者の多くは、ひとり親家庭又は生活困窮家庭である。 ・シングルマザーやコロナで職を失った家庭が多い。 (悩み・ストレス) ・子育てが思うようにいかないなどの悩みを抱えている。 ・こども食堂の場では元気な様子だが、母親に育児疲れやストレスがあり、子どもが泣き叫ぶことで更に母親がイライラする悪循環の状況を目にする。 (生活) ・こども食堂で受け取る食料を生活する上で必要としている様子が見られる。 ・市外、県外出身者が多い。 (支援)
--------------------------------------	--

	・ふたり親でも生活が苦しい家庭に行政の支援が届いていないとの声を聴くことがある。
台風19号（令和元年東日本台風）災害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響	○団体の活動への影響 【コロナ】 （食事） ・公共施設の方針に従い、食事をするができない。 ・人と人をつなぐきっかけになる「食」をその場でとるのが難しい。 （活動） ・食事を持ち帰るための容器代が団体の活動費用を圧迫している。 ・換気や消毒など、今までにしないでよかったことに時間をとられる。 ・食材配布を始めたことで、生活困窮家庭やひとり親家庭から新たな申し込みがあった。 【台風・コロナ】 （活動） ・東日本台風災害発災後から子どもの居場所の提供をしているが、コロナ感染症拡大により長野市外から支援者が入れなくなり、地元の支援者の役割が大きく求められている。 ・災害と新型コロナウイルス感染症のダブルパンチを受け、支援が必要な子どもが多くみられるが、感染状況により活動が制限されている。 ○子どもや保護者への影響 【コロナ】 （ストレス） ・子どもも大人も閉塞感がもたらす影響は大きい。感情を抱え込み、発散する場がない。 ・感じていない小さなストレスがたまっているように見受けられる。 ・外食等でコミュニケーションを取っていた家族が、金銭面にも、親子関係にもストレスを抱えている。 （家計） ・勤務先が倒産するなど生活が厳しい。 ・働く時間が少なくなった家庭が多い。 ・保護者の収入が減り、子どもの学費等への影響があるとの声が聞かれる。 （参加者） ・休止からの再開後、継続してきていた子どもが何人か来なくなった。 ・一斉休校措置の際は食材配布などに多くの家庭が来ていたが、現在は常連に戻っている。活動が必要とされる家庭に届いていない可能性もある。 ・こども食堂参加は希望しないが食材支援は希望する家庭から複数申込みがあり、こども食堂だけでは網羅できない家庭が存在することを実感した。 （その他）

	・学校や地域での行事縮小などに伴い子どもたちの体験の場が減り、体力低下などを心配する声が聞かれる。 ・学生の生活に影響を及ぼしている。
関係機関等との連携・つなぎ	○行政・企業 ・行政の協力により毎月定期的な開催が可能となっている。 ・企業の協力により食材は安定的に確保ができています。 ○団体 ・NPO ホットライン信州から食材、物資の提供を受けている。 ・長野県地域振興局（プラットフォーム事務局）から野菜詰め合わせをいただいている。 ・信州子ども食堂ネットワークと長野県みらい基金、JAからの支援がある。 ・生活困窮の家庭の子どもは支援団体から紹介されてくることが多い。 ○民生委員・児童委員 ・民生委員・児童委員と連携がとれていない。 ・民生委員・児童委員から地域で気になる児童への食材支援要請があった。
活動の中で感じている課題や難しさ	○広報 ・有効な周知方法が今のところ見つかっていない ○活動資金 ・コーディネーターなどの人件費が必要。ボランティアの熱意だけに頼ることはできない。 ・組織の基盤強化をはかり、資金調達の課題を乗り越えたい。 ○個人情報 ・個人情報保護の観点で家庭の貧困等を把握することが困難である。 ・個人情報の問題もあり、保護者から相談が無いと支援に踏みきれない場合もある。 ○会場・人材 ・会場や支援スタッフの確保が難しい。 ・休会した時期があるにもかかわらず参加者数が増加し、子どもも保護者の生活も心配される。 ・参加者の年齢層が幅広く、それぞれが抱える問題も多岐にわたることから、専門家を交えたケース検討やスタッフ配置の拡充が必要となっている。 ○市民の理解

	・子どもの貧困に対し親の責任を主張する人や、保護者の身なりや言動の方に目が行ってしまう人が多く、貧困問題について正しく理解されていない。 ○その他 ・弁当や支援物資の配布だけでは子育て世帯との交流が深まらず、支援したい対象の家庭に届いているのかわからない。
子どもの貧困解消のために今後取り組みたいこと	○広報 ・子育てで困ったことの相談先・支援策をまとめ、色々な場所に配置したい。 ○食材配布 ・食材配布、物資の提供を続けていくべきと考えている。 ○学習支援 ・第3の居場所としての機能を果たし、進学や進級の希望を支えたい。 ・平日夕方の学習支援のみの時間を増やしたい。 ・困窮状況にある子ども達に「自分の未来に夢と希望を持ち生活ができる」よう、学習できる環境や学校での学習の補完の提供を継続していきたい。 ○相談 ・保護者の生活相談や養育相談にのり、利用できる制度や施策につなぎたい。 ・保護者の就労等の相談の場の提供はしていきたい。 ○活動資金 ・食材支援を始めたことで貧困の現状について考えるきっかけになった。継続したいが、手間と費用の面でいつまで続けられるか不透明である。 ○連携 ・孤立しがちな家庭にいかに寄り添えるか、個人レベルで実際支援をしている方々とも連携を取りたい。

(2) NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト

NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト：「もんぜんぷら座こども広場じゃん・けん・ぽん」の指定管理者として、同広場の運営、利用者支援事業、ホームスタート事業等を実施するとともに、法人として、ファミリー・サポート・センター（市から受託）、信州こどもカフェ等を実施しています。

こども広場じゃん・けん・ぽんを利用する子ども、保護者の様子	○母親の様子 ・泣きながらワンオペの辛さを話す母親がいた。泣いて話をしたことで気持ちが落ち着いたという。若い父親は帰宅が遅かったり休日も仕事があったりして、母親に負担が集中する。広場が昔の大家族のようになっている。 ・子どもが寝た後に居酒屋で働いていたが、新型コロナの影響で仕事がなくなった母親がいる。ひとり親でなく二人親世帯。夫から働いてくれと言われて、切ないと話しているが、厳しい中でたくましくやっている。 ・ひとり親の母親で、一人で子育てができず、子どもを保育園に預けて働かないと、と言っている。 ・里帰り出産や立ち会い出産ができなかった、誰も見舞いに来てくれないなど、コロナ禍で大変な思いで出産している。 ・初めて抱っこする赤ちゃんが自分の子という母親が多く、養育力の低下を感じる。兄弟関係がなく子育てを知らない。母親が子どもに「おもしろいね、きれいだね」と「伝える」ことの大切さを意識させるように努めている。 ・リサイクルマーケットの需要が高い。おさがりの大きい服を着ていてぴったりの服を着せられなくて切ないという母親もいる。 ○子どもへの影響 ・新型コロナの影響で、初めて来る月齢が5～6か月だったのが1歳半に上がっている。小さいうちに経験させてあげられたことがあったのにとと思う。来ると刺激になる。 ○心配事・悩み事 ・余裕のある人、相談したい人、親子の成長のため、孤立・閉塞感から脱却してリラックス・解放感を得たい、など、色々な理由でこども広場に来るが、コロナで来ることができない人が今どうしているか気になる。 ・新型コロナの影響で保健センターの離乳食教室が開催されない時期があった。重湯の作り方など、「何も分からない」という相談が多かった。「大人用と子ども用を分けて作らなければいけない」など、まじめな母親が多い。話を聞いて「これでいい」と分かる。 ・成長や発達について保健センターの健診で指摘されると、自分で消化できない。他の子の様子が知りたくて相談に来る。「また来ても良いか」と言って帰っていく。見守ってくれる場所、誰かがいる場所が安心につながっている。
--------------------------------------	--

	○親同士の交流 ・地域に子どもがいないこともあってか、広場は子どもが他の子どもとふれあえる場所。9か月の赤ちゃんが10か月の子と接して仲良くしている。母親同士、子ども同士が仲良くなれる貴重な環境だと思う。また、0歳児が行ける場所としても貴重。来られない人も潜在的にはいると思う。 ・親同士が情報交換できる。LINEを交換している。自分と似た境遇の人がいると知ると安心につながる。私だけではなく皆同じだと、気が楽になる。 ○駐車場 ・広場の広さが母親の安心感につながっているが、駐車場が離れているのが難点。ぐずったり荷物があつたりすると母親は大変。それでも来ようと思っているものがある。 ・4時間の利用で半額補助があっても200円の駐車場代の負担があり、なかなか来られないという利用者もいる。
利用者支援事業 「子育てコンシェルジュ」を利用する保護者の様子	○保護者・家庭 ・経済的に困っているという話、深刻な相談は今のところない。飲食店勤務や経営の家庭には、今年の春夏頃は不安感があったが、生活困窮とまではなっていなかった。 ・潜在的には困窮があるかもしれないが、こども広場利用者は比較的、経済的・時間的に余裕がある人が多い。スタッフに経済的な話まで吐露する人はあまりいなかった。 ○相談内容 ・相談内容は、昔はおむつの交換の仕方が分からないとか、生活習慣に関するものが多かったが、今は保護者の心身の健康に関する相談が増えている。
ホームスタート事業※を利用する保護者の様子	○生活する力 ・ホームスタートは本来傾聴、協働によるものだが、養育支援事業の延長線上の支援という視点から家事支援で使われている例もある。利用する母親は、掃除や家事ができない。そういう母親の下で育つ子どもたちは、母親に振り回されているし、ヤングケアラーにもつながっているのかもしれない。 ・主訴として、経済的な困窮が増えている実感はないが、ホームスタート事業までたどり着く元気がないのではないかな。相談しても収入が増えるわけではないという意識があるのではないかな。 ※妊婦や未就学児がいる家庭にボランティアのホームビジターが訪問して、一緒に話をしながら家事や育児をする事業
ファミリー・サ	○費用

ポート・センターを利用する保護者の様子など	・お金がかかる事業であり、コロナ禍で削られているところという印象。入会したい人が減っている。コロナで他人に預けるのに抵抗があったりお金がかかる。 ・今まではとりあえず入会という人が多かったが、今は本当に必要な人だけが登録している。 ・母親のメンタル面の不調で子の送迎ができない家庭もあるが、1日1,200円で、月20日では万単位になる。 ・ひとり親に対して助成がある市町村がある。長野市に引っ越してきて助成がないと驚かれる。自立のための就労もある。収入の基準を設けて助成があっても良いのではないかな。 ・本当に使ってもらいたい家庭に使ってもらいたい。お金の問題であれば、補助をつけて利用しやすくしてもらいたい。 ○保護者・家庭 ・父子家庭もある。実家の両親の助けがあっても一人では無理で、申込みがあった。ただ、マッチングまでしたが、「お金がかかるなら祖父母が見る」と実際には利用がなかった。 ・送迎の支援はファミリー・サポート・センターしかない。障害福祉では、障害児の送迎にはポイントが使えず、ファミリー・サポート・センターに来るが、小学校6年生までしか利用できない。中学生になって登下校をどうしているか心配になる。 ・母親に精神疾患があると父親もある場合が多い。子どもにも連鎖している。 ○支援の内容 ・学童期の親の支援がない。親が食事を作れない。社会自立していくときに、子どもをどう支援していくか。 ・家庭の中に入る支援がない。学校の担任は玄関までで、家の中の様子はファミリー・サポート・センターの提供会員が分かる。家に入ることに慣れている。 ・児童センターが18時半までしか開館していなくてどうしても迎えに間に合わない人が多い。保育園が19時までなので同じくらいまで長くしてほしい。 ・ファミリー・サポート・センターはアットホームさが良い。困っている人の隙間を埋める良い制度だと思っている。 ・習い事の送迎では、コロナで塾へ通うことがなくなり送迎もなくなった。
ながのこどもわくわくカフェを利用する子どもや保護者の様子など	○子どもや保護者・家庭 ・利用者は増えている。今、実際に来ているのは30人程度。登録者数はもう少し多い。 ・DVで実家に帰ってきた母親は、仕事が続かず転々としている人もいる。バスで通ってくる子もいる。

	・地域にも馴染めず、不登校気味の子がいる。台風災害で支援した、子どもが6人いる家庭にカフェを紹介した。食費が助かると言っている。 ・個々の家庭の状況までは聞かないが、色々な事業・支援を行っている中で、生活が大変な家庭にはカフェについて声を掛けている。 ○他機関との連携 ・保健センターと連携できていて、センターを通じて保護者が困窮状態の家庭の話が来る。 ・スクールソーシャルワーカーとも連携している。スクールソーシャルワーカーの紹介で来る子もいて、長野市中から来る。 ・不登校の子は地域のこどもカフェには行きにくい。カフェでそういう子同士が仲良くなり、それが励みになっている。色々な人と話ができるのが嬉しいという感想もある。 ・フードバンク信州からの食材提供などがあり、不足する肉や魚を買えば一人当たり100円程度で実施できる。提供された食材でメニューを考えている。農協で食材購入すれば同額の食材を提供してくれる。
その他・全般的なこと	・敷居の低い、何気ない話の中でDVなどの事象に気づくことが多い。 ・課題が時代に伴って変わってきている。近年では台風災害もあった。母親の気持ちも変わってきている。行政が対応しきれていない。 ・行政のNPO法人に対する理解も高まっている。行政とは仕事がしやすくなった。活動に関心を持って、意見を聞いてくれるのがうれしい。 ・子どもが成長するにしたがって格差が出てくる。

（３）NPO 法人長野県 NPO センター、NPO 法人災害時こどものところと居場所サポート

NPO 法人長野県NPOセンター：民間非営利組織の基盤強化に必要な NPO に関する情報提供などの事業を行う中で、通信高校生、高大生の放課後や学校以外の人とのつながりの場「学びの拠点 Fourth Place（フォース・プレイス）」を開催するほか、生活困窮者に対する「信州パーソナル・サポート事業（就労準備支援）」を長野県から受託して実施しています。

NPO 法人災害時こどものところと居場所サポート：災害時に子どもたちの居場所となる「子どもにやさしい空間」づくりを普及するために、研修や啓発事業を行っています。

子ども・保護者の様子、課題など	○子どもの外見 ・低価格の衣料品店ができてから、外見で貧困というものが分かりづらくなっている。体臭などについて分かるかと思うので、ネグレクトについては外見からも把握が可能なのかも知れない。 ○不登校の子ども ・学びの拠点へ訪れる子どもたちは、不登校の子どもも多い。子どもが一人でこの場所に来るのは、気持ち的にも大変ハードルが高く、大概の場合は親御さんが連れて来ることが多い。 ・自分の子どもと他人の子どもを比べる親が多い傾向にある。 ・不登校の子どもたちは、家族から理解が得られない、死にたくなると口に出す。 ・以前に比べ不登校児童も多く、より身近な問題という意識が高まっていて敷居が比較的低い。そこからフードバンクなど別の支援へ広がる可能性がある。 ・不登校児童にとって、個というものがとても大切。みんなに何が何でも合わせなければいけないというものではない。多様性を認め合うことが重要。 ・この場所に来る子どもたちの中には、学校にいてだけで、息ができない、息が詰まりそうだと言う。緊急事態宣言下での分散登校では少ない人数だと人目を気にせず登校できたという子どももいた。 ・子どもが不登校になると、親はどうしても「なぜ我が子だけが」と気が動転し、冷静さを失う。子どもにとって不登校という行為は、防衛反応の現れであることを理解しようとし、できない。 ・子どもたちにとって、しんどさの基は、学校。次に、家。ここに来る子は、この世の誰もが敵。本人は放っておいてくれと思っても、不登校を理解できない親が関わってくる。そして辛いことは、自分を学校に行かせようと努める親の愛情や親の関わりに応えられない自分を、子ども自身が情けなく感じてしまうこと。 ○学力 ・親が働いていると、親と勉強をする時間がない。新型コロナの影響もあり小
------------------------	--

	学校から学力が低下し、授業についていけず不登校になるという負の連鎖におちいってしまう。 ・新型コロナウイルスの影響もあってか、子どもたちの学力が低下していると良く耳にする。高校でも追試の子どもたちが今までは考えられないような多さだとも聞いている。 ○中学から高校へのつなぎ ・義務教育課程終了の中学校までは、子どもたちの日常生活や性格的な情報も把握されているが、中学校から高校への繋ぎがない。義務教育ではない高校などにあっては、勉強や生活習慣が機械的になってしまう。 ○子どもの感情、自己肯定感 ・親が優秀で、子どもに「何でできない」と問い詰めてしまう。学力低下で一番懸念されることは、本人の自尊心や自己肯定感が低くなり、自分は価値がない人間、存在価値がないと思ってしまうことである。 ・できないところではなく、あるがままの、一つでもできることを褒めてあげることが大切。そして、その子の自己肯定感を上げてあげることが大切。 ・今の教育は、何か一つでも得意な分野を伸ばしてやるということではなく、全てそれなりの水準やレベルを維持させることに注力している感が否めない。子どもたちの中には「どうせ自分なんか」と卑屈になって、こんな自分でも誰かの役に立つという発想がなくなってしまう。 ・心が折れたり、気分的に辛い時に、「もっと頑張れ、もっと努力しよう」と声をかける大人もいるが、辛い時に更に追い打ちをかけるような言葉を発するのではなく、「君が、ただこうやって生きているだけで良いんだよ」と言葉をかけてあげるだけで良い、労ってあげることが大切。 ・生活自立、就労自立のためには、社会性コミュニケーション、社会性スキルが重要だが、今の若者たちには、そういった意識に欠ける行動も多い。 ・今の高校は、早い段階から、こういった方面に進路を考えるべきだということで、ふるいにかけるような感じで機械的にことが進んでいる。その子の可能性の選択肢の幅を広げてあげ、本人の自己決定に基づいて、進めてあげることが本来の教育であり、大切なことではないかと思う。 ・子どものころからキャリア教育を推進すべきだと思う。今の若者は、世間どのような職業があるかさえ知らない子が多い。小学生のうちからキャリア教育や仕事体験などを行い、選択の幅を広げたり自己決定できるようにしていくことも必要。 ○親子関係、子育て ・親は子どもを所有物だと思っているという感じがする。子どもは、尊厳のある一人の人間だという認識が薄すぎる。 ・子どもと親とは価値観が違うということを分かってもらいたい。
--	---

	・女性の子育てが上手くいかないと「私の育て方が悪い」となる。子育ては母親の仕事という考えが今も当たり前になっている。自分で自分を責めてしまう。 ・情報がネットにありすぎて、それが正しいと当てはめてしまい、うちの子は発達が遅いと思ってしまう。
必要な支援	○相談場所など支援情報の提供 ・相談日を設定しても、相談者にとってはハードルが高くなかなか来られない。無料であることも知られていない。自分が SOS を出せる場所というものを知らない状況が伺える。分かりやすく発信していきたい。 ・相談場所などをまとめたものを配るとか、何か啓発していきたいとは思っているが、今の親は学校等からの配布物を全く見ない。本当は、困ったらここに電話をすれば良いとか、ここにつながるができるという発信が必要だが、今の時代とても難しい問題である。 ○親のつながり ・友だちの友だちを介して相談できるような、緩やかなつながりが必要なのかも知れない。ママ友につながる力を付けてもらおうと比較的相談しやすい環境ができるのかも知れない ・いろいろな人や関係機関とのつながりが持てるかどうかは鍵。就学援助やフードバンクにしても、いろいろな情報を得て制度を活用したり、支援を得る方策を見出すことが重要。残念なことに、今の親にはつながる力がない。そういった親を、どうやって支援すべきか。親の支援と、子どもの居場所での支援、2つのアプローチが必要と思う。 ○孤立する親への声掛け ・保育所やこどもプラザの先生から声がけされると安心感が生まれ、とてもうれしく、救われる。県外出身者は頼れる人がいない。 ○リユース、学用品の負担 ・リユースという発想を浸透させたい。そういった場所もほしい。バザーも行っているところがあるが、常設であると良い。 ・今は小学校ごとで運動着が違うが、市内の公立小学校、中学校の制服や運動着は統一しても良いのではないかな。別々である必要性はない気がする。 ・高価なランドセル文化も不要ではないか。ランドセルではなく指定されたデイベックのようなものを背負って登校している町もあると聞く。
居場所	○子どもの居場所 ・勉強、食事、交流ができるような居場所があれば良いと思う。 ・居場所づくりはとても重要。生活保護世帯などは車での送迎が叶わないこと

	から、より近くにそういった場所があることが望ましい。最近、国はこども食堂一辺倒。長野式のものができないか。 ・とにかく子どもがホッとできる居場所がほしい。楽だなと思える場所。 ・低年齢の子の居場所はあるが、高年齢の子の居場所がない。 ・空いている施設が多い。地域に即した使い方ができれば良い。身近なところで多様な人が行けるように。 ○こども食堂 ・こども食堂の持つ役割は大きいが、こども食堂を営んでいる人の中には、何かしてあげたいという思いから、つい親に代わって説教じみた話をしてしまい、追い詰めてしまう。支援者研修のようなものが必要なのかも知れない。 ・市外から越して来た家庭がこども食堂で地域とのつながりができたという話を聞いた。ママ友の関係性や地域力というものの大切さを痛感している。 ・学習のフォローの場として、こども食堂を活用できないか。本当は学校で完結できれば良いが、高校生が中学生の勉強を見るなど、安心・安全な居場所として学習支援の機能もあれば良い。 ・貧困対策だけがこども食堂の役割ではない。長野市のこども食堂は貧困対策目的でないところがほとんどであると思う。転勤族の妻が近くに知り合いもおらず、「孤育て」に陥らないように息抜きのある場になるといった使い方もあるかも知れない。地域で子どもを育てるという取組にも一役買うことになるし、そこは特殊性を活かした地域力の見せどころかも知れない。 ・歩いて行ける範囲にこども食堂の数を増やしていくことが大事。できれば市からの何かの取組に対する補助金のような支援も必要と考える。例えば、学習支援の実施に際して、講師一人に付きいくらか補助するなど。 ○親の居場所 ・居場所は子どもだけでなく親にも必要。虐待に至る前、グチを言える場。
--	---

(4) NPO 法人子ども・人権・エンパワメント CAP なの

CAP：子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力と言ったさまざまな暴力から自分を守るための人権プログラム。学校や保育園・幼稚園をキーステーションとして、子ども・教職員・保護者にワークショップを提供しています。

日頃の活動の中で出会う子ども、保護者の様子	○食事・所有物 ・給食を食べる子は、単に元気な子ではない。夏休み明けには痩せてしまう。コロナの影響で親の収入が減少し、家で物が食べられない状況となっている。生き延びてゆくために、お店で万引きをせざるを得ない。 ・朝のエネルギーが大切。空腹だと集中できない。小学校から勉強が分からず苦痛になり、学校へ行かなくなる。仕事に就かず、税金を払わなくなる。学校でバナナ一本でも良いので、与えることができるような仕組みがほしい。 ・子どもたちの多くが携帯電話を所有しているが、それは贅沢品というよりは、アルバイト先と連絡を取る手段で必要不可欠なツールになっている。 ○DV ・母親が配偶者からのDVを受けるような事案では、子どもたちは自宅よりも学校が安心できる自分の居場所と考えている。 ・保護者同士のDVは子どもへの心理的虐待に当たるが、子どもは保護者間の暴力の原因が自分だと思ってしまう。そんな時、「悪いのはあなたではないよ」と伝えてあげることが大事。 ・家庭内でのDVがある子どもは、相手とのコミュニケーションが苦手とされるが、語れないだけである。頭の中が真っ白になってパニックを起こしてしまう。DVが映像として残ってしまい、誰かが先生に怒られるのを見るとフラッシュバックを起こしてしまう。 ・DVで引っ越してきても先生は情報を持っていない。子どもも話さないし、前の学校からの情報もない。 ・DVがある家庭では、勉強できる場所も空間もない。だから勉強も眠ることさえもできず、授業中寝ている。先生からすると「なんで宿題をしてこない」となるが、できない環境にあるということ。 ○子どもからの語り・発信、親の受け止め ・子どもたちを助けるためには、当事者である子どもが声を出さないと、本当の貧困の姿は見えてこない。 ・暴力を受けるのは、自分が悪いからだと思ってしまう。そう思っていると、いつまでも自分から語れない。「大人には話しちゃいけない」という偏見をなくし、自分の思い込みを変えることが大切。 ・子どもが語れるようになることで、母親の身体や心の状況をうかがい知ることができるし、今問題となっているヤングケアラーの実態も掴むことができるようになる。
------------------------------	--

- ・貧困の子ども、虐待を受けている子どもは、自分の問題は自分で解決しなければいけないと思っている。外に向かって SOS を発信して誰かに助けてもらってはいけないと思っている。
- ・SOS を出せる環境が必要。信頼できる大人が必要。できればネット、出会い系は避けたい。顔の見える関係がとても重要
- ・子どもの SOS は子どもだけに目が行きがちだが、実は親の SOS の代弁なのかも知れない。親も子どもの SOS を通じて、必要な関係機関につなげられる仕組みや方策が必要。とにかく孤立させないことが重要。
- ・今の大人は子どもたちの SOS をキャッチできない。親が子どもを気にかけてやれない。自殺未遂をした小学生が SOS を出しても大人が気づかなかったということもある。
- ・大人は、できないのは努力不足と考え「努力しろ」と言う。それで頑張れる子がいれば、そうでない子もいる。もっと社会が寛容になることが大切だし、状況に応じて理解することが大切だと思う。

○自己肯定感

- ・貧困世帯の子どもたちは自己肯定感が低く、「どうせ自分なんか」と暴力的になる傾向が強い。また、「何で自分の家だけ、自分だけ」と自暴自棄。相談先や頼れる先を増やすことが大切。
- ・貧困の子どもたちは、友だちが楽しく遊んでいる時間を生活のためにバイトに充てなければならない。使える、遊べるお金もない。自立のためとは思っていても疲れてしまう。最後の最後にお金が無くなると人間がだめになってしまう。疲れや自分の不甲斐なさ。
- ・児童養護施設は、早めに入所すると自分を見つめられるが、例えば高校になってからでは見つめ直しがうまくできずに退所してしまう。「何で私だけ」と思ってしまう。

○障害

- ・特性のある子の場合、親がいつも謝らなければいけない。「何で私を困らせるの」と考え、虐待になる。「何で私だけ」と思ってしまう。周りが寛容でなければいけない。

○親子関係

- ・ゲームばかりする子どもが多い。その隣で、親が携帯電話をいじってばかりで LINE やメールばかりしている。
- ・子どもが話しかけても「後で」と言われれば、もう話さなくなる。積み重ねがいじめやリストカットにつながる。親子のコミュニケーションが不足している。
- ・子どもは親との会話ができなくて、寂しさを紛らわすためにゲームばかりしている。寂しい者どうしがオンラインでくっついてしまう。

- ・貧困家庭、特にひとり親世帯の親は、生活のためにダブルワーク、トリプルワークをしている。子どもだけで夕食をとることになる。親も悪いとは思っている、生活のためには仕方がない。
- ・子どもも親を心配している。一生懸命自分たちのために働いてくれている母親に対して、迷惑を掛けてはいけないという思いがとても強い。だから、先生に伝えることを嫌がる。先生が受け止めてくれれば元気になる。

○養育力

- ・今、どこに行っても親の養育力の低下が叫ばれている。子どもの前に親を育てないといけない。
- ・親自身も大切にされなかったという連鎖。自分も子どもなのに若年妊娠で親になってしまう。子どもが泣くと「なんで」となる。
- ・親の感覚を研ぎ澄ますことが重要。失敗を重ねながら積み重ねていく。人との距離感であったり、感覚、心の叫び声を察知できる研ぎ澄まされた感性。
- ・ネットに情報がありすぎ、どれを選択したらよいか分からなくなっている。

○居場所

- ・遠くにあっては児童の身の危険、交通事故、見知らぬ人からの声掛け・誘拐もあるので、できれば自分で行ける公民館単位にあれば良い。
- ・こども食堂も増えてきたが、ばらつきがある。維持していくための運営の問題として、財源や人が必要。

○学校・社会

- ・貧困の問題は、個人の問題ではなく、社会の問題としてとらえるべき。
- ・母親に迷惑を掛けてはいけないという思いからノート一冊買いたいと言いつけず、不登校になってしまった子どもがいた。学校の先生などが不登校になってしまったその子の背景をしっかりと掴まないと、ヤングケアラーや虐待、ネグレクトの状況を把握することができない。
- ・子どものトラブルで「お互い様」がなくなった。何でも学校の先生を通してとなってしまう。
- ・高齢者の福祉や介護にあたっては、ケアマネージャーがいるが、子どもにもコーディネーター役が必要なのではないかと言われている。それは、行政なのかも知れないし、スクールカウンセラーなのかも知れないし、新たな人材なのかも知れない。社会で育てるという感覚。
- ・企業も子どもの貧困対策や見守りなどに大変関心が高い。企業とのタイアップというの必要かと思う。企業はお金や物資はあっても情報を知らない。

（５）リサイクル交流広場「回る回るハウス」

リサイクル交流広場「回る回るハウス」：洋服や靴、学用品等を物々交換できる、常設型のリサイクルハウスです。

子ども・家庭の様子、課題など	○利用者 ・利用者は、ひとり親、就学援助を受けている人が常連でいる。外国人も来る。 ・いつも同じ服を着ていると言われ、ハウスから服をもらっていく。 ・他人と会わないように、ハウスの開店前に来る人もいる。 ・児童扶養手当を受けたいが、離婚訴訟前でできない人もいる。 ・ふたり親でも、夫が病弱であったり、母親に精神障害がある人も来る。 ・母親が身体を壊し、仕事のシフトに入れてもらえなくなったという例もある。 ○保護者の収入・仕事 ・フルタイムで働いても非正規だと、児童扶養手当も加えても、月収は20万円にも満たない。年間だと200万円を切っている。 ・コロナ禍でダブルワークができない。子どもと一緒に居られて良い面もあるが、収入は増えず、生活に必要なものは減らない。 ・風呂に入れない子を見たら、水道が止まっているということ。 ・学歴が高いほど収入も良いというのは昔の考えで今はそうはなっていない。 ○食事 ・コロナ禍で学校が休業中の食費に困っていた。学校の給食がなく、母親が自分の昼食を食べずに子どもに与えてお茶だけ飲んで我慢していた。それでは体を壊してしまうので、フードバンクから提供されたカップラーメンを持って行ってもらった。フードバンクからは米も回してもらっている。 ・ポテトチップスばかり食べて太ってしまった姉妹がいる。太りすぎてドアから出られなくなってしまった。 ○生活保護 ・生活保護を取らない人は親戚から逃げている、居場所を知られたくない・子どもに障害がある・不登校などの事情を抱えている。自動車が唯一の隠れ場所で直ぐに逃げられる手段でもり、どうしても自動車を手放すことができない。 ・生活保護は取った方が良いと思うが車がなければ移動ができず、仕事も探せない。携帯電話と同じく車は生活必需品になっている。 ○虐待 ・虐待の家庭では、親切が逆効果になることもある。家を出された子どもが近所の人に家へ連れて行ってもらったら、親からさらに酷い暴力を受けたと
-----------------------	---

	いうことがある。 ・親の前では言わない。医者の前でも言わない。 ・教育虐待も多い。父親に学歴があると、なおさらである。中学生には、父親でなく母親に進路のことを相談しろと言っている。高校生の自殺が多く、原因の一つとして教育問題とされているが、実際には進路選択が大きな原因ではないか。 ・食材配布には、行きずりの人が来る。食べるものがない、生活保護受給者、借金がある人。 ○養育力 ・父親のひとり親家庭で収入があっても危ないことがある。トラック運転手で一度出かけると何日も帰ってこない。レトルト食品を買い置きしてあっても、レンジがないので子どもが食べられないということもある。お金を置いて行って自分で何とかしろということもある。経済的というより、養育力の問題である。 ・不登校の4割は養育不全である。多子が多い。 ○貧困の連鎖 ・貧困にも連鎖はあり、親子4代という例もある。自分もシングルで子どもを産む。皆年齢が若い。 ・貧困を断ち切るには、働けばまともに暮らせる、というところから。今のシルバー世代は、どうして働かないのかと言うが、実態は昔とは違う。 ○学校で必要な経費・学費 ・学校に係る負担や経費が大きい。絵の具や習字道具、小学校入学時に必要なランドセル、礼服、メロディオンなど。 ・学年費で購入するものでなく注文用紙で購入するものは、標準の仕様に見えるが、値段が比較的高い。 ・持っていくものが用意できない、空腹であるなど、学校へ行きたくなくなる。 ・学校用品をハウスから持って行った家庭の子が、学校で注文用紙の未提出の確認のために手を挙げさせられた。クラスで話題になって保護者にも伝わり、それを聞いた母親がハウスで泣いていた。先生も就学援助を受け取っている家庭と分かっているが、そこまで気が回らないのか。 ・ランドセルを届けた家庭の母親が、寒いのにワンピース姿でサンダルを履いていて、着る物を買えないということだった。子どもも転校する予定が、新しい学校の制服を買えず転校できない。まいさば長野市に相談に連れて行ったところ、仕事の経験もあり、就職することができた。 ・ある中学校のクラスで、31人中11人が就学援助を受けていた。他のクラスも同じくらいだという。
--	---

	・不登校の子どもの自宅を訪問したら、就学援助を受けていても生活費になっていて給食費になっていない家庭があった。 ・塾や習い事など、教育にお金をかけられない。 ・無償化もあり、高校までは行けるがその先に進学できない。貯蓄がない。ハウスでもらった服の代金の分、貯金しているという家庭もある。 ・奨学金もあるが、本人が返さなくてはいけない。理系の大学院まで進学した男性が、交際する女性から奨学金はないかと聞かれる。婚活もできない。就職先もない。高卒でも良いといっても採用してもらえない。 ・単身で生活するのに年 250 万円必要とされているが、シングルマザーの平均が 240 万円で、それで子どもを育てている。高い教育費負担がある。 ○不登校 ・生活困窮は不登校に一番表れる。 ・不登校で、学校の先生に給食費を止めたらと言われ止めたが、登校したときに先生が気をまわして食べさせてくれたということもある。 ・不登校になると途端に支援が入らなくなる。教育委員会に相談したら福祉の担当へ行けと言われた。 ・不登校の生徒の面倒は、担任も人生経験上、何もできないと言っている。子どもたちが生きていくためには、福祉しかない。不登校問題について SSW は、この問題は担任がどうにかするしかないと言うが、これ以上担任もどうすることもできない問題となっている。 ○その他 ・急に貧困状態に落ちたとき、パニックになってしまい、何をどうして良いか分からない人が多い。 ・スマホ・ゲーム依存になると、食事もとらなくなる。自分で減らせると思っているうちは良い。いきなり電源を切ったりすると包丁が飛んでくる。親子では問題を解決できない。 ・ネットの UFO キャッチャーゲームにはまってしまい、月に 6 万円もかけてしまった人がいる。生活保護を受けている。ガスを止められてしまった。 ・祖母が面倒を見ていた姉妹では、児童相談所で相手にされなかった。子どもが万引きを起こして措置された。児童相談所しか措置はできない。 ・精神科で処方される薬をまとめて飲むとハイになるが、死ねずに自分で救急車を呼ぶ。本人も自分で死ねるとは思っていない。
子どもの貧困解消のために必要なこと	○情報発信 ・こういう状況だと分かるように可視化していくことが大切。足りないところに配分する。今の世論は再配分に厳しい。もっと寛容になるべき。寄付をすれば良くなるのだろうと幻想を抱いている。市で行うアンケートは結果を隠さずに出してほしい。

	○居場所 ・こども食堂が貧困を救うとは思っていない。近所に、地域に居場所があることは大事である。 ・一時的に預かってくれるところも必要。 ・伊那市の「オルタ」が良いと思う。休眠預金を活用した事業。 ・フリースクール、子どもの支援センターなど、遊びの場、文化を体験できる場、子どもがいられる場所が必要。 ・不登校を出す学校教育はおかしいと感じる。 ・不登校の子には、長野県 NPO センターの「学びの拠点フォース・プレイス」に行くことを勧めている。こういった場所を増やしていければと思う。 ・家庭訪問型の学習は、家庭に勉強をする場所がない。家の中に入れさせづらいところもある。
--	--

(6) 主任児童委員

主任児童委員：地域の児童問題の相談支援を専門に行う児童委員で、区域担当の児童委員と一体となって関係機関との連携を図る役割を担っています。

日頃の活動の中で出会う子ども、保護者の様子	○ひとり親家庭 ・離婚して母親が育児をしている家庭について、学校の行事があれば行った時に子どもの様子を気にして見ていたが、コロナで行事がなくなり、様子を見ることができない。 ・シングルマザーで母が夜の仕事をしており子どもが一人になる家庭がある。情報は共有できたが、こちらから乗り込むわけにもいかない。子どもは学校には登校しており、何気なく見守ることしかできないのが実情。 ・母子家庭で母親と連絡がつかない。学校でもお手上げ。子どもは夜一人でいるが学校へは来ている。児童センターへも行っているようである。何らかの支援を行いたい、どうしたらいいか分からない。 ○外見 ・服装は低価格の衣料品店のものを着て、見栄えはしっかりしているように見えるが、髪がボサボサだったりする。朝食を食べてきているか心配で聞くと、みかんだけというときや、チョコの付いた菓子パンを食べてきたと答えるときもある ・靴下に大きな穴が開いている子がいる。ちゃんとした靴下は父母のダブダブのものだったりする。周囲の子は何も言わない。兄や姉は進学で県外へ行っている、金銭的に困っている様子はない。4人きょうだいで親が大変なのかもしれない。 ・同じ服を続けて着ているなど、時々気になる子もいる。 ○障害 ・ひとり親家庭の父親から、子どもとの向き合い方が分からないと相談を受け訪問した。きょうだいがあり、上の子は発達に障害があり落ち着きがなく、ヤングケアラーも心配された。父は就労していたため金銭面の問題はないが、生活自体に余裕がなく子どもにイライラをぶつけてしまう。それにより子どもも暴力的で、児童センターを退所し放課後デイサービスに行くことになった。子どもだけになることが不安なので、民生委員が様子を見ることになった。 ・離婚した母子家庭で親子とも障害を持っている家庭があった。母親が仕事をしていない。障害のある子どもの放課後の居場所が無いということで、福祉関係にはつながっていない様子だったため、保健センターの保健師につなげた。 ○孤立感・つながり
------------------------------	---

- ・地区で子どもサロンを実施し始めた。未満児の親子が集まっているが、親子のふれあいが減っていると感じる。核家族化で祖父母もいない、近所に子育ての先輩もいないという中で、情報が入らず、相談がしにくい。
- ・サロンでは、子どもより親が楽しんでいる。保護者の抱える孤立感やストレスが子どもに向かないように、親の環境を整えるのが大事だと思う。
- ・サロンはママたちのストレス発散の場。先輩ママからの情報やつながりができる。ママ自身もストレスを子どもに向けてしまうのを恐れている。すっきりして帰っている。

○不登校

- ・ある中学校では一日に保健室登校する生徒が 15 人もいると言っていた。子ども自体が不安定な状況になっている。
- ・不登校の子が多い。主任児童委員としてどう関わっていけるのか。突っ込んでもいけない。距離感が大事だと思っている。
- ・不登校の中学生で、授業が嫌な子は「頭が痛い。熱がある」と言うと、コロナ禍では保健室へ行けとなる。なまけ癖にならないか。
- ・ある中学校から、「不登校の子が登校する手伝いをしてくれ」と言われた。そこまではやり切れないし、無理に連れていくことは子どもの人権に関わる話である。主任児童委員はつなぐのが仕事。一人に付きっきりになることもできない。
- ・学校の先生は、不登校の原因が学校にあると認めない。
- ・不登校の子にも能力がある。それを活かしきれていない。不登校の子どもたちが自由に行けて集える場をつくってもらいたい。

○情報共有

- ・基本的に情報が主任児童委員に上がってこない。上がってくれば考えたり、つなげたりすることができる。こちらから問題があるかは聞けない。プライバシーや個人情報の関係で共有の場での情報の制限がされている。
- ・子育てサロンに通っている発達系が疑われる双子のお子さんを持つ母親がいることを保健師に伝えたところ、保健師は既に承知していた。保健師は良く地域の状況を把握している。こういった母親に寄り添える場があれば良いと思う。
- ・中学生で小さく痩せている子がいる。学校で話を聞いて、家庭環境を注意して見ている。学校へ行くことで給食があり、1日1食は食べることができる。
- ・貧困については聞こえてこない。年に1回学校と懇談をする中で、就学援助の受給率の様子など聞けることがある。地域差があり、市営団地のある学校では多くなっている。
- ・借りた金を返さない家があると相談を受けたが、自宅を訪問しても出てこない。登校時の見守りをしていて、その家の子どもが「電気が消えた」と話し

	ているのを聞き、電気を止められたと分かり、まいさば長野市や関係者に相談し、電気は使えるようになった。それからは子どもの着る物も注意して見ている。親のお金の使い方（金銭管理）の問題もあると思い、まいさば長野市とも話をしている。 ○家庭環境・経済状況 ・登校班の見守りを行っている中で子ども同士の揉め事がある。障害のある子に対し、他の子の口のきき方が良くなく、暴力的な面もある。そういった子ども同士のやりとりでも家庭状況が伺える。学校にも伝えているが、児童センターでも問題があるとのことだった。親にも精神面で不安がある。 ・三世代同居が多い地区がある。親の年収が低くても祖父母の年金で生活できてしまい、貧困が隠れてしまう。農村では農業をやっていることで食事には困らない。祖父母が孫の面倒まで見てしまっている。 ・子どもサロンなど、そういう場に来ている親は心配がない。こども食堂も行われているが、食堂に来てくれない家庭に食事や食材を届けたいと思う。 ・保育園の入園が点数制になっており、途中入所が難しい。働いていない人が子どもを預けられないのは課題。働きたくても働けないため、結局は経済的に厳しくなる。 ・子どもプラザの利用料を払えなくてやめる子もいるとのことだった。金銭的な理由で所属が無くなってしまう。
--	--

2 教育関係機関等

(1) 市立小・中学校

市立小・中学校の中から児童・生徒数や地域性を考慮して学校を抽出し、ヒアリングを実施しました。

児童・生徒の様子	○外見 ・服装は小ざれいになっているが、家庭であまり風呂に入っていない子はいらと思う。 ・今の子どもたちは薄着傾向になっていて、冬季でもオーバーなど防寒着を着ない子もあり、服装からは経済的貧困の傾向は分からない。 ○受診・歯磨き・食事 ・病院・歯科に連れて行かない家庭がある。眼鏡の度数が合わない子もいる。 ・歯科検診で要治療となる子どもが多い。治療に行かないのはお金がないからか。歯磨きもできない。虫歯予防のため毎週1回フッ素洗口を行っている。 ・食事の偏りによる肥満などは心配がない。給食をよくおかわりする子はいら。 ○人間関係・大人とのつながり ・学校には来ていたが、生活保護を受給するようになって自動車を所有できなくなり、送迎が難しくなって学校に来られない状況にある子もいる。そういった家庭の子は、人間関係づくりが上手でなく、友達関係も本当の関係になっていない。友達と遊び始めても、ちょっとした仕草や言動、口調でカチンときて暴力を振るったり暴言をはいたりする。 ・人との付き合いの経験がない、適合できない子が年々多くなっている。 ・その子にとってつながれる大人が一人でもいれば良いと思う。よほど強い結びつきがないといけない。 ○家庭環境 ・教室を飛び出してしまうなど落ち着きがない子は、家庭環境が厳しい家が多い。発達に影響を及ぼすのは、生まれつきのものもあるが家庭環境が大きく関わっている。 ・家庭が不安定で、子どもが一生懸命やろうという気にならない。子どもがかわいそうに思う。 ・家庭のことより仕事優先の家庭が多い。2つのパターンがあり、母親だけが学校に来る家庭と、父親が来て母親の姿が見えない家庭がある。協力して子育てをするという様子が見えない。 ・コロナ対応の分散登校では、午後子どもプラザ開始までのつなぎで預かりを希望したのは僅かだった。いざとなれば仕事が調整できて大丈夫なのか、実態は分からない。子どもだけで家にいる家庭は、普段から子どもに手を掛けていない。子どももそれに慣れているのかもしれない。
----------	--

	○不登校 ・不登校の子は、半日や週何日か学校に来る。卒業アルバムに写真がほとんど載っていないので買わない子もいる。不登校の家庭は、集金して買わない分を返す場合や、初めから集めない場合がある。 ・不登校の子が、放課後デイサービスで対人スキルを学んでいる。子どもがつながらる先を探していても、生活保護で自動車がなく、タクシーやバスで移動している。母親も子どものために苦勞している。 ・修学旅行に行かない子は、経済的な理由ではなく不登校傾向の子である。 ○ヤングケアラー ・ヤングケアラーと思われる子どももいる。ヤングケアラーの子は、母親を助けるためと考え、訴えない。本人が自覚していない。母親も子どもを頼っている。頼らざるを得ない。
保護者・家庭の様子	○精神疾患 ・母親にうつ傾向があつて、子どもが学校に来られない。不登校で特別支援学級にいる。SSWにつないでもらい、家庭に係わる体制を作ったが、応じてもらえない。養育手帳を作るよう伝えても、母親が動かない。運動会など行事の時は来るが、練習には来ない。支援学級の担任がついて関わっている。 ・母親の調子が悪いと、朝子どもを送り出せず休んでしまう。遅れても登校しない。欠席連絡が昼頃になることもある。担任が窓口となって連絡を取り合っている。 ・要保護認定を受ける子どもは、ほとんどが母親が不安定である。精神面の症状もあるが、経済的なこともある。シングルもいるし、ふたり親、異性のパートナーがいる場合もある。きょうだいが多い家庭も多い。 ○金銭管理能力・滞納 (金銭管理能力) ・給食費等の集金について、児童手当からの振替えがあり、滞納は2～3年前に比べて大分減っている。母親に「学校に払わないといけない」という感覚がないと感じられる。制度に頼っていて、お金の大切さという意識があるか心配である。 ・準要保護なのに外車に乗っている家庭があつた。自動車が必要なので生活保護を受給しないのは分かるが、児童手当が嗜好品に使われるのはおかしい。 ・経済的に厳しい家庭では「児童手当が出たら払う」という親もいるが、その時になると他の支払いに使ってしまう家庭もある。 (滞納) ・教材費、給食費、修学旅行の積み立てなどの集金が長期に滞る家庭は不登校傾向の子が多い。母親は気持ちが沈んでいる。督促の電話をかけても出てく

	れない。 ・督促状を月に2回出すほか、懇談会で学校に来た際に声を掛けたり、電話連絡をする。その時は良い返事があるが、すぐには支払わない。振込みか学校持参としているが、窓口の時間の都合で学校へ持ってくる親が多い。ほとんどは申し訳ないと謝ってくる。 ・ひとり親家庭の3割で未収がある。ふたり親でも未収はある。ひとり親では、母親の方が厳しいという声がある。 ・新型コロナの影響で、パートなどはシフトに入れないなど勤務時間が減らされている。仕事を探しているという親も多い。児童手当や児童扶養手当は補助でしかない。収入のメインにしてしまうと厳しい。 ○ひとり親家庭 ・シングルの母親は、一人で問題を抱えてしまう。 ・ひとり親家庭では、母方の祖母がバックアップし、つないでいる家庭が多い。母親一人ではしんどい。 ・母親の帰宅時間が不定期で、子どもが一人で過ごす時間が長い。勉強を親に教えてもらうのも、時間が合わずできない。部活ではテニスのラケットが高くて買えないという子もいる。 ・母親のひとり親家庭では、家にいない、職場に電話しても出られないという状況で、連絡をどうやって取るか、まずそこから入らないといけない。困っていることを子どもが親に伝えているのかも分からない。仕事の昼休みによろやくつながっても、状況を理解していない。子ども本人の状況だけでは支援も限られ、安否確認しかできず支援の手が入りづらい。
支援	○本人からの訴え・SOS ・児童相談所が入るケースにまで行かない場合、外堀から埋める方法にならざるを得ない。字が読めない、読みづらいなど、本人が訴えれば公的な支援が入るが、自沈してしまう。 ・家庭の環境が悪くなっているときに、児童相談所以外に強制力を持つような何かがあるか。状況把握に終始してしまう。学校に権限を持たされても職員も疲弊していつてしまう。 ○居場所 ・校内に中間教室的な教室がある。集団が苦手な子、すぐ隣に誰かいるとだめな子が通っている。 ・今後、フリースクールでのオンライン出席が出席扱いになる。保護者の期待はあると感じているが、学校は何のためにあるのか、という部分で、プラスの面を引っ張り上げることが大切だと思う。フリースクールと異なる学校の良さがあると思う。

新型コロナウイルス感染症の影響	○学習 ・新型コロナで学校を欠席した場合の学習保障は、今のところはプリントで対応している。授業の動画を撮影するとなると学校の負担が増す。 ・タブレットの持ち帰りは来年から始める予定だが、生徒数が多いのでアクセスが集中し回線がパンクする恐れがある。家庭のルーターの有無など環境の違いが学習格差になることが危惧される。 ○経験不足 ・現在、新型コロナの影響で、全校で集まることができない。集団での行事ができないため、先輩の姿を見て学ぶということがない。生徒数が多い学校の強みであるところだが、集団の教育力がなくなっている。縦の関係がない。プレッシャーの中で育つ経験が不足してしまう。失敗をしてしまう厳しい場面もない。人間関係を含めた経験不足がある。共に作り上げるという経験をどこですか。
貧困の解決に向けて	○金銭面 ・ベーシックインカムなど、お金で解決することは多いと思う。 ・お金の使い方を親が知らない。強制力があっても良いのではないか。給食費の全額を児童手当から徴収する市もあると聞く。 ・高校は私学助成も充実し経済的な理由で進学できないということは減ってきた。お金があればということの裏付けでもあると思う。
行政への期待	○支援の対象 ・支援を必要としている子へ確実に届けられるようにしてもらいたい。要保護の家庭の中には、支援が本当に必要かという家庭もある。 ○負担の公平性 ・給食費などの未収に公平性を担保してほしい。子どもに対して公平な支援を行ってもらいたい。携帯電話の料金に5万円も6万円も払っても給食費は踏み倒す親がいる。児童手当から給食費を徴収する制度の導入の検討をしてもらいたい。

(2) スクールソーシャルワーカー (SSW)

スクールソーシャルワーカー (SSW)：不登校、いじめ、暴力行為、児童虐待、貧困に関する問題などの課題を抱える児童・生徒への支援を行う社会福祉等の専門職です。

子どもや保護者が抱える課題の気づきのきっかけ	○子どもの様子 ・不登校や発達障害の子が多い。学校に給食だけ食べにくる子もいる。 ・大人に対して「自分を見て見て」行動を取るなど、周囲との距離感が上手く取れないアタッチメント障害（愛着障害）の子どももいる。 ・家庭学習の習慣づけがなされておらず、学習能力が低い。無関心、無気力の子どもが多い。 ・入浴していないせいか体臭が気になる子どもおり、学校でシャワーを浴びせたり、洗濯をしてあげることもある。 ・低学年の間はまだ良いが、小学校4、5年生になり思春期や自我が目覚めころになると、仲間外れにされる、いじめられるという傾向が伺える。 ・子どもたちの自己肯定感が低い。「死にたい、いない方が良い」という言葉が出てくる。不登校の子どもは、「どうせクラスの友達も覚えていないから」と、卒業写真に顔を載せたくないという声が多くなる。自分がこの学校にいた痕跡さえ消し去りたいという想いが強くなる子どもいる。自傷行為も多い。 ○保護者の様子 ・教材費を払えなかったり、修学旅行の積み立てや給食費を滞納している。 ・親が子どものアルバイト料を当てにし、搾取してしまうこともあり、ヤングケアラーでもある。
子どもや保護者の背景	○精神疾患 ・扱っているケースの半分ぐらいの母親が精神疾患を患っている。子どもを学校に送り出す力もない。自分の生活や未来を創造することができないし、力もない。母親も自分のことで精一杯。 ・ひとり親、ふたり親とも、父親との関係が良くない。支える体制もとりにくい。医療につながっているケースもあるが、母親の心身状態を理解してもらおうとしても、父親が拒否する。家庭内での母親は、掃除もできず、食事も作れない状態になっている。食事はジャンクフードのみで子どもも太り、糖尿病の心配も多い。 ○親の成育環境 ・母親の精神疾患も、その原因を突き詰めてみると、知的障害や精神遅滞、成育状況など、家族間のいろいろな要因だったりすることがある。精神疾患が、二次被害であったりする場合もある。 ・子どもに非はない。もっと言えば、保護者にも非はない。その人たちが育ってきた環境や成育歴が原因かと思われる。

	・課題を抱えている母親の中には、DV 被害者であったり、ステップファミリーであったりすること多い。そういった環境の歪みが、子どもたちに大きな影響を与えている。 ○相談相手・つながり ・孤立している母親は SOS が出せず、誰にも相談できない。昔は祖父母に頼っていた。 ・SNS が発達し、個でいることが尊重されるようになった。その方が楽な人はそちらに流れる。子育てはつながりの中でないと難しい。コミュニケーション能力が弱い人もいる。それを反面教師にする子もいるが、連鎖し、負のスパイラルに陥ってしまう。 ○外国籍 ・外国籍の保護者については、対人コミュニケーションがもっとあれば、いろいろな形で関わり方が可能かと思っている。 ・外国籍の中には、親子間で全くコミュニケーションが取れないことがある。子どもは日本語も話せ、日本の文化や伝統にも慣れ親しんでいるが、保護者が馴染めていないケースも見受けられる。 ・外国籍の親子で、進路について親子間でもめている家庭がある。 ・自国の方々とのコミュニティを形成することができず、出稼ぎの人など同じ境遇の人でつるんだりするだけで、地域からも孤立してしまっている。 ○社会的なルール ・子どもも自分をコントロールができない、社会的なルールを守れない。 ・時代背景の中で、規格ルールが破綻している。ありのままやるのが当たり前になっている。
子どもの家庭環境	○親子の関わり方 ・保護者の子どもへの関わり方がいびつで、適切な関わり方ができていない。 ・親子の関わりは、量というより質の問題。共働きで子どもと過ごす時間が少ない家庭でも、問題がない家庭もある。発達に応じた関わり方が必要。機会を逸すると次の段階に入れない。 ○親の金銭管理能力 ・保護者の価値観による経済的困窮に陥っているケースもある。収入はある程度あるにも関わらず、お金を掛ける優先順位がつけられない。ゲーム課金などに使ってしまう、必要なところに掛けられない。金銭管理ができず、子どもが被害を被っている。 ・学資ローン、車ローンを組んでいると生活保護世帯に該当しない。返済が自転車操業になり、本人も負債がいくらか分かっていない。

	○子どもの安心感 ・課題を抱えている子は学力が低い。家で勉強をする習慣がない。衣食住の欲求が満たされてこそ勉強ができる。安心して寝ることもできていないのに、「勉強しろ」と言われても難しい。 ・安心・安定した生活があつて次への欲求が求められる中で、安心・安定した生活環境にないため、生活するのに一杯一杯の状態。
子どもや保護者に必要な支援	○中間教室・フリースクール ・中間教室をもっと有効に使えないか。通常の開所時間だけでなく、昼間登校できない子のために夜間学習というのも一つの手であると考える。 ・不登校の子にフリースクールという選択肢もあるが、民間のフリースクールは料金もかかる。お金のある子とない子で格差が出ている。 ・フリースクールに通うには送迎の問題もある。手段がない親もいる。送迎のボランティアがほしい。 ○個別の支援 ・中間教室で学ぶ子どもたちの中には、保健室でしかいられないような子や原級で学べるような子など、幅広い子どもたちが集まっていて、その中でも対応できない子どもが出てくる。限りなく個別、細分化すべきだと思う。 ・子どもの中には、情緒コントロールが苦手なタイプや学習能力コントロールが苦手なタイプ等いろいろなタイプがある。 ・学業と人間関係というところで、学力の低い、社会性コミュニケーションが取れないような場合は、不登校やいじめにつながる。不登校は結果であつて、不登校への対応では遅い。 ・多様性の受け入れ先がない。コーディネートしても子どもの振り先がない。 ○子どもへのアプローチ ・中学で不登校になる子は生活保護受給世帯が多い。訪問しても会えず、ケースワーカー頼みである。 ・不登校の家庭に出向いても、インターフォン越しに声しか聴けず、親にも子どもにも会えないことが多い。学習支援は勿論だが、母親や子どもの悩みや話を傾聴したり、話し相手としての方が家庭の中に入り込みやすいのではないか。 ○親子・家族の関わり ・親が子どものモデルになっていない。大人とはこういうものだという手本になる人がいれば、将来の参考になる。 ・とにかく過干渉の保護者が多い。学習でしか子どもを評価できない。親のコンプレックスが背景にある。

	・母親と祖母との確執が多い。ものを言えず、その確執が子に伝わる。母親がパワーレスになるケースも多いというのが実情 ・大きな一軒家に3世代が同居する大世帯家族が多い。そのような家庭環境の中でも、親子の境界がある程度必要。親子が同じ土俵に乗っていて、俯瞰的に子どもを見ていない。親と子どもが一緒になってテレビゲームに夢中になっている状況も伺える。母子も姉妹のような関係になり過ぎている。 ・世代間ギャップが大きい。新型コロナでそのスピードが加速している。「親の育て方が悪い」と祖父母から責められることが多い。 ○早期の支援 ・支援は早ければ早い方が良い。特定妊婦から携わることも必要だが、それでも成熟した母親になるのはごく一部。つながって背中を押してもらう施設として、こども広場などがあると思う。広義の意味で、予防策として支援が必要。保健センターの健診も、そこからの引継ぎがないと厳しい。
子どもの居場所	○居場所の内容・あり方 ・行政のつくる第三の居場所と言われるものは、画一的で誰もが使えるような施設で、個々の子どもの状態に合わせたものではない。 ・こども食堂は、自分で行けることを考えると小学校区に1つあるのが理想だと思うが、学校での人間関係がそのまま持ち込まれることになり、その中で過ごすというのは、子どもにとっては厳しい。 ・居場所としてレパトリー、多様な受け入れ先が必要。そうでなければ居場所になりきれない。 ・居場所は必要とは思いますが、そこに適応できない子もいる。そこに行けるならまだ安心だが、行けない子もいる。 ・放課後デイサービスが人気になっている要因の一つには、送迎付きというところがある。だが、お金があって放課後デイサービスに通える子もいる反面、お金がなくて通えない子がおり、経済的貧困により分断が起こっている。出したくても出す場所がない。 ○母親を支える場 ・母親自身も育ちが必要。地域の中で、母親を支えてあげられるような場があると良い。

(3) 県立高校（定時制）

市内にある県立高校定時制から抽出してヒアリングを実施しました。

生徒の様子	○生徒が抱える課題 ・生徒の8割は何かしらの問題を抱えている。1割程度が自分のやりたいことをやるために入学しており、生活も裕福である。 ・定時制に通う子どもは、昔は苦学生、その後は反社会性の子、今は非社会性の子。不登校プラス貧困。不登校の背景には発達障害があり、コミュニケーションが特定の人だけになってしまっている。環境が変わるのを恐れていて、就職しても戻って引きこもりになってしまう。 ・「早期発見・早期対応」、「18歳の壁」、「頑張る力のない子がいる」の3つを言いたい。力を出せない子が多い。背景には、経済的なものもある。叱咤激励してもダメで、頑張れと言っても「もうやっている」と話す。 ○自己肯定感・人間関係 ・母子家庭で母親を支えている生徒がいる。自己肯定感が低い。自己否定感しかない生徒もいる。 ・「私なんか死んでしまえばいいのに」と話す生徒もいる。きょうだい引きこもり、家庭内暴力など家庭が上手くいっていない。 ・生徒が「死にたい」と話すのは全日制では滅多にない。そのようなことがあれば一大事で、全教員が対応していた。定時制では初めから口にする。 ・知識がなくて勉強ができない子と、能力がなくて勉強ができない子の両方がいる。総じて子どもは自信がない。アルバイトもしていない、したとしても断られたことがあるなど、人間関係も上手にコミュニケーションが取れず、アルバイト先でも怒られるし、正社員にもなれない。 ○障害 ・生徒は不安を抱えて入学してくる。不登校で中学校に通っていない子、アスペルガー症候群の子など。 ・教師から見ても、本人にも確実に精神疾患があると思われる生徒で、児童相談所の検査でもその兆候が認められるが、医者にも行っておらず十分な手が入っていない。 ・ADHD やアスペルガー症候群で、療育手帳を中学までに取得している子は、高校生活も上手くいっている。アルバイトやボランティア活動も行っている。心が安定していて、将来についてはっきりした考えを持っている。 ・就労移行支援がなくても普通に就職ができそうな子は早くから支援が入っていて、家庭も子どもも落ち着いている。 ・どう見ても手帳が必要な子が、就職や進学の間で時すでに遅しということがある。親は「ここまできたのに何故」となる。コミュニケーション能力の発達が7割と言われるが、成長するにしたがってそれが大きくなる。グレー
-------	--

の段階で支援があればこんなにはならなかったのと思うこともある。

- ・障害については一度だけでなく、二度、三度と親に言うことが必要だと思う。一回言われると親も勉強する。何度も言われると「そう言えば」となる。その意味で、ステージアップする際に、一の矢、二の矢、三の矢を放ち、伝えてあげ、早く親に気づかせることが重要。
- ・祖父母から、「少し他の子と違ってそのうち良くなる」「お前たち（子の保護者）の育て方が悪いから子どもがこうになってしまう」と言われてしまう現実がある。祖父母が発達障害を理解すれば親も入りやすい。
- ・子どもの方が柔軟に障害やLGBT等を受け入れたり、ありのままを受け入れる力はある。「自分は障害だったのか」と安心する。
- ・療育手帳を、「自分はそうではない」と思っていた子に、やっと取らせたこともある。母子家庭では親が面倒くさがる。18歳や19歳では、児童相談所で判定を受ける際、成育歴を聞かれたりする。受診も必要である。母親が仕事を休めないなど、物理的な時間を取れない。手紙を出しても親が忙しくて見ない。外とつながるのを嫌がっている。
- ・長野市障害者相談支援センターは、高校を卒業してからも支援を続けてくれる。学校まで来てくれるフットワークの軽さがある。障害者は高校を卒業したら野に放つだけ。つながっていると少なくとも保護者を支えられる。バトンをつなげる良い制度だと思う。
- ・療育手帳の取得手続きに関しては、市の担当窓口が丁寧に対応していて不満はない。生徒の中には自転車にも乗れない子がいて、徒歩やバスで移動しているので、学校にも来てくれるのが助かっている。

○ヤングケアラー

- ・きょうだいの数が多く、長女・長男が通っている生徒がいる。欠席する理由として、下の弟の面倒を見なくてはいけない、という例がある。ふたり親であるが、ヤングケアラーに相当すると言えるのではないかな。ネグレクトの要素、親の養育の問題と判断できるのではないかな。
- ・ヤングケアラーは、比率とすれば全日制より定時制の方が多いのではと思っている。

○学費・経済面

- ・運動着代などはどうしても徴収が必要だが、払えない生徒もいる。修学旅行積立と併せて、3年間で12～13万円が必要。
- ・学用品で「これを買うことができない」ということはない。教材費は入学時に一括して集金し、卒業時には一部を返している。定期的な徴収金は、各学年一人程度は遅れる子はいる。
- ・実際には、明日は生きていけるが、一時的にまとまったお金を払うことができない家庭がほとんどである。

	○学習・進学 ・中学時代は不登校で、定時制は少人数で勉強を見てくれるということで進学した生徒もいる。 ・中学で不登校だった子が多い。授業に出ていないことで、学力も比例して良くないと思う。九九の計算もできない生徒もいる。 ・アルバイトには行っている、それで疲れてしまい学校に来られない生徒もいる。調子が悪い時は、連絡を入れて、後半の授業からでも出席してもらうこともある。 ・進学先は、私立の専門学校は入学金や学費など金銭面でとても無理である。かと言って、国公立大学へ進学する学力はない。 ○就職 ・就職は、本人の努力と学校の支援、それに加えて会社の理解が大きい。会社の理解がないと社会に出られない。育てながら、様子を見ながら支援してもらいたい。そういう会社があれば何とかやっていける。 ・若者サポートステーションに入ってもらくと、定時制卒業生を募集する求人票を回してもらえたりする。分からないことは専門家に相談し、支援を受けながら生徒に接している。 ・親がアルバイトなので自分もアルバイトで良いと思ってしまう。学校は、自分の悩みを聞いてくれる居心地の良い場なので、卒業したくなくなってしまう。 ○外国籍の生徒 ・外国籍の生徒は一学年に2～3名いる。優秀な子が多く、何とかなっているが、中には苦勞している子もいる。 ・来日して2～3年の子が多い。片言しか話せず、難しい言葉は分からないので、全日制に通うのは無理。
保護者・家庭の様子	○親の精神疾患 ・両親とも精神疾患の生徒のケースでは、親が子どもからアルバイト代を取り上げたり、学校に収めた徴収金を返せと学校に電話があったりする。両親ともに働いておらず別居している。生徒はどちらかの家にいて、しばらく経つと「出ていけ」と言われ、行ったり来たりしている。 ・両親が揃っていても精神疾患があったり、再婚という家庭が多い。 ・ひとり親の母親が精神疾患で、引きこもりなどトラブルが多い。 ○家庭の状況 ・学校徴収金が入らない世帯がある。どこかからは手当が入っていても、徴収金まで回ってこない。 ・ひとり親世帯では、母親といくと生活のことをきめ細かく見てくれるが、父

	親の場合はトラック運転手などで家を空けることもあり、子どものことを気にかけなくなってしまう。 ・学校として何か支援を行いたいが、家庭内のことまでは口を出せない。 ・母子だと言いたい放題で関係が悪化し、学校にも来なくなる場合が多い。丸一か月学校に来ないと、単位不認定になってしまう。医者にも連れて行ってもらえない生徒が3分の1程度いる。 ・ネグレクトや上のきょうだいからの虐待など、リンクしている生徒もいる。
支援の内容	○学習面 ・できなかったところから積み上げ、高校の基礎まで修得して単位を認定することができた生徒もいる。 ・上を目指す子には個別対応をする。通常の授業前に一時間の授業を受けると、3年間で卒業することができる。 ○学費等 ・教科書代は、年に必要な単位数を取得すると翌年度も無料になる。全日制ではその部分の負担が大きく、ハードルが高くなってしまう。 ・学校で給食を出しているが、給食費には補助があり、低い負担で食事をとることができる。 ・副教材を買えない生徒もいる。家庭に負担を求めるものは必要最小限にしている。 ○外部人材の活用・協働 ・スクールカウンセラーの支援があるが、「医者に近い人とは話ができていない」とキャンセルする生徒がいることから、ボランティアとして大学院生に入ってもらったところ、担任にも話していない成育歴などを泣きながら話をした生徒もいた。今もオンラインで面談を続けている。 ・就職について悩みを抱えていた生徒に対し、就職先については教師が、メンタル面はボランティアの大学院生が相談に乗り、無事就職することができた。ワンクッションとなって気軽に話を聴ける人がいれば良いと思う。
関係機関等との連携・つなぎ	○保健師 ・父親が病気がちで生活保護を受給、母親がアルコール中毒という家庭があり、生徒はとても学校へ行ける状況ではなかった。保健師に家庭訪問などしてもらい、母親の状況が改善されるようになったところ、緊張の糸がほどけたように、子どもの精神的負担がなくなり、しゃんとするようになった。
支援に当たっての課題など	○学力・学習 ・学力をつけて社会に出れば稼ぐことができるが、勉強ができなければ卒業できない。その狭間にあることが悩みである。

	・学校だけではどうにもならないことがある。多様な若者を支えることは難しい。 ○相談場所・相手 ・相談場所がより身近なところにあると良い。保健センターはハードルが高く、構えてしまう。相談を行うことにエネルギーが必要。エネルギーがある子は問題ない。どこかに人材はいると思う。 ・台風 19 号災害からの復旧・復興予算が優先され、生活支援相談員の配置がなくなってしまった。相談員がいるときには毎日登校する生徒もいた。 ○家庭への支援 ・一番は家庭の支援。話を聴いてくれればよいが、それが難しい。 ・要保護児童対策地域協議会で登録されている子で、父親の理解がなく家に入れない。制度は整ってきたが、介入まではできない。ハードルが高い。 ・民生委員や、昔なら地区の中で責任のある人がいたが、家庭までは入り込めない。 ○本人からの発信・つなぎ ・本人が SOS を出してくれれば支援に入れる。 ・地道な支援を行える人が一人でも増えればと思う。 ・支援につなげられず、子どもの可能性の芽が摘まれてしまう。踏みつぶされてしまう。成功体験がない子もいる。 ・つなぐ力が求められている。専門職はたくさんいるが、そこまでつながらない。その前につまずく人が多い。支援には隙間がある。隙間をつなぐつなぎ役が必要。 ○成功体験 ・学校は、一人上手いくと、その成功体験が友達にも広がる。学齢期の手立てができれば良いと思う。
--	--

3 子ども関連施設・機関等

(1) 児童相談所（長野県中央児童相談所）

子ども・家庭の様子・親子の課題	○子どもの様子 ・保護者がごはんも作ってくれない、掃除もしないのでゴミ屋敷のように物がごった返している家なので、子どもを保護したいと思うが、そんな母親でさえ大好きなので、どうしても家を出るのは嫌だという子どももいる。一方で、そんなに酷い状態とは思えないが、どうしても家を出たいという子どももいるのは事実 ・子どもからの SOS の発信は、年間 15、16 件程度。虐待相談の電話 189 も子どもからの相談は思った程多くはなく、周囲の人からが多い。 ・自立していく過程で、明確な障害がなく、学力も悪くない、支援を入れにくい子どもがいる。 ・虫歯を治さないなど、子どもの様子から見えてくる。父親は家庭に金を入れない。母親は生活に精一杯。周囲が気づいて分かったケースもある。 ・入所児童の中には、成人を迎えようとし、ファミリーホームも退所しなければならないような状況下、本人も不安があり、つないでくれる人がいない。そういう子が家庭を持って、貧困につながってしまうパターンはあるのかも知れない。 ・親の見栄やプライドで困難を認めない。学校や園に頼らざるを得ない。 ○保護者の障害 ・保護者に精神障害者や人格障害者が多いと感じている。 ・子どもは自分で自分を守れない。やはり、子どもの育ちに一番影響を与えるのが、保護者のメンタルな部分だと思う。 ・入所している児童に関しては、保護者に知的障害者が多いというのも実情で、子どもの行動がつかめない状態にあり、その結果、保護者のコントロールも利かない状態にあるというのが実態。ゲーム・スマホ依存などが絡み合って、家庭内でトラブルになる。 ・医療が必要な家庭が故に、就職の兼ね合いも出て収入減という経済的課題を抱え、お金が足りないので借金してしまうという連鎖が生まれる。 ○虐待 (連鎖) ・親が虐待を受けていて、子どもに虐待を強いるような虐待の連鎖は 3 割程度だが、自分が虐待を受けたことが親になったときに影響することはあると思う。自分の中で整理できず、大人になったらなりたくないと思っても実際には繰り返してしまう。 (地域とのつながり)
-----------------	--

	・児童虐待に至るケースの中には、親の養育力の問題もあるかも知れないし、感情的に怒ってしまうということがある。そういったケースでは、保護者を地域の福祉サービスにつなげていくことが大切だと感じている。 ・保護者を支援する地域や、家族で支え合うということが整っていないという状況にある。日常的に保護者やその子どもを支援してくれる人がいない。一回はまると一気に虐待が進む。
行動や特性	○愛着障害 ・親の養育力の関連もあるかも知れないが、子どもの愛着障害、いわゆるアタッチメントに課題を抱える児童も増えている感じを受ける。自分を見てほしいと良い子でいるが、お試し行動を起こしてしまう。 ・問題を抱える児童については、保育園へ預けるなど、とにかくどこでも良いので所属を付けましようという流れがある。愛着関係がつくりづらい社会構造（構成）になってしまった感じを受ける。あえて分離してしまっているのではないか。 ○自己肯定感・自立する力 ・入所児童に関して言うと、その子にとって踏みしめるべき大地を持っていない、ここだけはだれにも負けない、踏ん張るというものが希薄で、刹那的。困難から逃げる、というのではなく、置かれた状況で立ち振る舞ってしまう。 ・入所児童に関しては、自己肯定感が低く、刹那的で、自分というものがない。周囲から言われるとキレやすい。 ・新型コロナの感染症拡大期には、何かしたくてもできず、ストレスを溜め込む児童も多く、特に、ゲームやSNSにはまってしまい、生活環境や生活リズムを乱すケースが見受けられた。それを見た親もストレスを感じてしまう。その子たちも、そういった生活から抜け出したいという気持ちは強いが、なかなか抜け出せないという状況にある。 ○養育力・家庭環境 ・入所児童の保護者に関しては、養育力が低い。子育てというのは、常に柔軟性を求められるものだと思うが、難しいのは発達障害のある親たち。精神が不安定な人は、保護者自身の生活を維持するのが精一杯という状態である。 ・養育という点で、子育てに対する母親の比重が重くのしかかっている。ひとり親が多いわけではない。虐待は実母が一番多い。 ・入所児童に関しては、ステップファミリーなど複雑な家庭環境となっている。そういった家庭環境を背景として、ストレスを抱え、リストカットなどの自傷行為に及んだり、不登校に至ってしまう子どもが多い。学校では対応できず、児童相談所に話が来る。

子どもの支援	○児童相談所の支援 ・児童相談所とすれば、「第一義的には、やはり家族で支えていくということが大事。家で暮らしていきましょう」ということが基本にある。一方で、「そういった家庭環境が整わないならば、子どもの安全を第一に、即保護しましょう」とされており、両極端な考え方の中にあるというのが実情 ・経済的困窮に陥り、ストレートにお金がないことだけをもって、児童相談所に入れてほしいという相談はない。児童相談所は、収入面や経済的困難さだけでなく、いろいろな角度や視点から実態を把握し、子どもの貧困を判定することが大事だと考えている。 ・昨今は行政だけで全てを支えられるものではなく、児童相談所で全てを支えられるものではない。やはり、地域や保育所・学校等の連携の中で、困難を抱える家族を支えることが求められていると考える。 ○個別の支援 (ショートステイ) ・児童相談所での一時保護となると保護者も世間体を気にしたりして垣根が高いが、ショートステイ事業はハードルも低く、気軽に利用しやすいという面がある。長野市はショートステイ事業にも力を入れており、施設の建設支援を行うなど大変ありがたい状況にある。 (障害児の入所) ・現在、障害をお持ちの児童の入所が大きな課題となっている。児童相談所でも対応し、児童養護施設にも受け入れをお願いして、何とかやりくりしているが、それにも限界がある。障害児の入所に関しては、長期的な支援施設がなく、長野県も特別支援学級の信濃学園（松本市）が1施設あるだけで、定員も30名と入所できるのが奇跡的といった状況にある。そうとは言え、一気に緊急性が高まり、危機的に高まる場合は、どこかで受け入れてもらうしかなく、大きな課題である。 (児童扶養手当) ・ひとり親の世帯の子どもの入所に関して、児童扶養手当の取り扱いが課題。ひとり親世帯の保護者は児童扶養手当が生活給になっているケースが多い。そのため、児童を保護するとなると、児童扶養手当が支給されなくなることから、その旨を説明すると、児童の入所に関して同意しないということになる。
関係機関等の連携・つなぎ	○役割分担 ・もう少しこの機関には積極的に子どもに関わってほしいと思うことがあるが、関係機関の現状を全て把握している訳ではないので、そこまで要求することが難しい。関係機関同士でお互いの役割分担をもっと明確にする必要があると考えている。 ・多子世帯の例で、母親が金を使い込んでしまうケースがあった。子は母親が

	大好きで、親子のつながりは強い。ひとり親に関しては、新たなパートナーとの人間関係もポイント。その意味からいろいろな関係機関が連携して、その家庭や子ども支援すること、いわゆる地域の支援者が必要。 ○市町村との関係 ・市町村によって総体として対応力や力量に差があるのは事実。担当者も2、3年で異動して代わってしまうというのは仕方ないことで、市町村の判断によるところが大きいと考える。 ・自治体によって、活用できる社会資源の量にも差がある。長野市は社会資源が豊富で、放課後デイや福祉サービスがあることに大変驚いた。子育て支援課（現子育て家庭福祉課）と障害福祉課との連携も良好で、障害福祉課によって福祉サービスにつなげられるということは大きな利点だと感じる。
課題・必要な支援	○学校の理解 ・学校の理解促進をお願いしたい。先生が変わると支援が続かないこともある。学校との関係では、どこまでお願いして良いか分からない部分もあるが、学校のキャパシティを超えているのかもしれないと思う。 ○グレーゾーンの子ども ・一番難しく支援しづらいところが、手帳を取るに至らず福祉サービスにまでつながっていない、いわゆるグレーゾーンの子ども、境界域の子ども。また生活保護までには至らない世帯への支援が難しい。行政も入りづらいところで、支援対象からもれてしまう。そういった家庭では、本当にギリギリのところで何とか生活している。こういった家庭への支援が課題と考えている。 ○家庭の実態把握 ・入所児童の中には、お金のない生活に慣れてしまい、その生活がごく当たり前の生活と勘違いしている場合がある。自分から SOS を出さない、発信がない。家庭に入り、実態を把握できる仕組みが必要。 ○自立のための支援 ・入所児童にとって大学等の高等教育を受けることが経済的に大変で、大学進学率は低い傾向。現在は給付型の奨学金もあるが、基本は返済が必要。そういう意味では安心して大学に入学できるような状態ではない。自立して生活する支援が足りないと感じている。

（２）乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）実施施設

乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）実施施設として、善光寺大本願乳児院、円福寺愛育院、三婦寮、美和荘、恵愛、雷鳥ホーム、にっこりひろばの各施設にヒアリングを実施しました。

子ども・家庭の様子・親子の課題など	○乳児院 ・保護者、特に母親の精神疾患、ネグレクトが多い。養育力の低さも目に付く。それらが組み合わさったケースが多い。特定妊婦もいる。 ・子どもの発達の遅れも見られる。そのことを保護者、母親が理解できていないし、認めようとしない。子どもの中には、こだわりを持っている子どももいる。 ・今年度から専門職の心理士に来院してもらっている。心理士の関わりにより、成果が表れている。早い段階から関わるのが、子どもの将来にとって大切である。 ○児童養護施設 ・措置されて来た子を見ると、家庭崩壊しているケースが多い。とにかく自分の家庭では、子どもが育てられないという状況がある。 ・以前の入所児童たちは、早く家に帰りたいという希望があった。しかし、今の入所児童たちは家に帰りたくないという状況。子どもの意思で入所するケースさえある。親子の関係ができていない。 ・措置入所している児童については、小学生が多い。中・高校生になってからでは養育のしようがない。 ・措置入所している児童は、不登校や学校でトラブルを起こす、教室に入れない子が多い。そういった場合には、施設の職員が寄り添いながら、何とか学校までには行けるようになっている。 ・子どもたちは発達障害が絡んで、親の言うことを聞かない、家庭で育てられない、措置されるということになってしまう。 ・10 数年前とは子どもの状況も変わってきている。入所児童は知的・発達障害が多くなっている。 ・保護者の様子も良く見ているが、親の精神的不調などにより養育力不足がとても心配。貯蓄がほとんどなく、家庭に帰してもやっていけるのだろうか心配している。 ○母子生活支援施設 ・正業を持たない女性が離婚するとなると、働かない限り、経済的貧困に陥りやすい。特に DV など で遠方から避難して来るとなると、着の身着のままの状態 で当然貧困に陥る。 ・経済的困窮世帯で生活保護を受けているとなると、自立ができない、貯蓄が
--------------------------	---

	できない。公営住宅などに住んで、徐々に自立に向かっていくしかない。 ・子どもはDVを面前で見てきた。母親も自分がDVを受けてきている。 ・DVで避難している子どもを見ると、発達障害が多い。発達障害により、貧困に陥りやすいと考えている。 ・パートナーと別れても、親族に頼れるような社会構造になっていない。 ○ショートステイ・トワイライトステイ実施施設 ・全体的に障害児やひとり親家庭が多い。長野市のみならず要保護児童対策地域協議会を通じて、ショートステイ事業・トワイライトステイ事業を利用してもらっている。 ・ひとり親家庭の中では、母子家庭が多い。子どもには特性があり、中には事業所へ通所している子どももいる。父子家庭で、子どもに障害があり、虐待のぎりぎりのところにいるようなところもある。 ・子どものたちの心に闇を感じる。離婚を繰り返し、きょうだい親が違う場合など、家庭環境が影響しているのではないかと。自己肯定感の低い子どもが多い。 ・発達・知的・愛着障害が多い。全体に発育の遅れがある。児童本人やその兄弟が不登校の場合もある。 ・家庭の中には、祖母が子どもの養育をしている家庭もあり、親の子育ての大変さを感じる。 ・特性の強い子もあり、また、子どもの中には、あの子とは相性が悪くてダメというケースがあって、なかなか市町村の要望に応えられない状況もある。未就学園児から低学年児童まで広く利用しているので、どうしても見守りが必要で、スタッフの人材確保が課題であり利用を断るケースもある。 ・保護者も大変疲れている。ショートステイ事業で子どもを見てくれるだけでも大変嬉しいとの言葉が聞こえる。預けられないと遠方の祖母に預けなければいけない、そうすると子どもを見るために会社を休まなければいけない、収入が減る、貧困に陥るということになってしまう。 ・障害特性の強い子、大変な子もいる。全員を見るのが難しいケースが増えている。必要とする家庭が増えているが、施設の構造上入所児童と一緒にできず、職員をどうやり繰りするかが課題である。 ・多子世帯で、母親も精神疾患の傾向がある。 ・愛着障害が感じられる。兄弟に障害があり、一緒にいたくないという子もいる。兄だから弟を殴っても良い、手を出しても良いと思っているケースもある。 ・保護者がネグレクト傾向にある。近くに頼れる人がいない、近くにいても何らかの理由で頼ることができない状況がある。
地域、関係機関等との連携・つ	○児童養護施設 ・地域に根差していて、子どもは学校の登校班と一緒に登校している。地域に

なご、情報共有など	は暖かく見守られている。 ・子どもたちも、地域の中で登下校時などにはしっかり挨拶をしているし、地域からも挨拶してもらっている状況がある。地域の行事にも参加している。 ・退所の段階で力がついていない子もいる。グループホームで働く子が増えている。入所の段階で障害福祉サービスとのつながりを見据えていかないといけない。市の障害福祉課との連携など障害福祉サービスに期待している。 ・今後、一般家庭の養育力不足にどう手をいれていくか考えていく必要もある。要保護児童対策地域協議会できめ細かく携わっていく必要がある。 ○母子生活支援施設 ・母子の自立のためには、警察や女性相談センター、ハローワーク、公営住宅入所のために市の住宅課等と連携している。 ・地区の住民自治協議会とは地域における子育て講座ということで地域に役に立つ事業にも取り組んでいるが、施設の性質上、オープンにできる施設ではない。 ・食品のフードバンク事業などで入所者に食品を配布することもある。 ○ショートステイ・トワイライトステイ実施施設 ・要保護児童対策地域協議会で登録されている児童を、市と密に連携を取って、ショートステイ事業やトワイライトステイ事業につなげていくことが大切だと思っている。 ・横との関係で連携を取ることは良いことだが、どこが主体となって、どう動いていくのかを明確にする必要があると考えている。 ・発達障害に関しては、福祉事業所との連携も必要。その際も、やはりその場合も、子どもに対して、どの機関が焦点を当てて、どう動くかを明確にする必要があると思う。 ・地元のこども食堂との関係も築く必要があると考えている。 ・発達系に関しては、市のこども相談室の「にこにこ園訪問」や養護学校の先生との連携が重要 ・生活保護受給世帯や精神疾患の保護者の場合は、そこから見えてくる状態について、ケアマネとの連絡体制も重要かと思う。子どもがどうしてこういう発達になったのか見えてくるのではないかな。 ・小学校との連携を深める中で、小学校から保護者に対して、この居場所を紹介してもらえるケースもある。そういった意味で、スクールソーシャルワーカーとのつながりは重要。また、カウンセラーとの連携も欠かせない。こども相談室の発達相談員による相談体制の構築もできればと思う。
新型コロナウイルス感染症の影響	○乳児院 ・面会・交流ができない状況があった。児童相談所へも相談しながら、親子の関係性が途切れないように別棟で実施してきたいと考えている。

	・マスクの付けっ放しにより大人の表情が見えないという問題や弊害が職員の中でも危惧されている。子どもの発達を促す機会が必要だと感じている。 ○母子生活支援施設 ・閉そく感が漂い、活気がない。母親の再就職先が制限されている。 ○ショートステイ・トワイライトステイ実施施設 ・子どもたちもストレスを抱え、溜まってしまい、暴力につながってしまった感がある。子どもたちの言葉遣いや行動にも大分変化があった。 ・自己肯定感の低い子などは、ストレスの発散の仕方が分からず、その子の生い立ちの複雑な部分もあるが、自傷行為に及んでしまったケースもあった。 ・保護者のストレスが顕著だった。
虐待防止や貧困対策に必要なことなど	○乳児院 ・虐待未然防止や貧困対策には、その子や家庭に寄り添い、きめ細かい支援が欠かせない。 ・現在、国でも里親への委託を推進しているが、この場合、委託された里親への訪問などアフターフォローも必要と考えている。 ○児童養護施設 ・虐待防止や貧困対策に関しては、子どもを育てられない家庭が増えていることが大変危惧される。悪い方に全体が流れているように思う。 ・虐待や貧困はどうしても連鎖しがち。対処療法かもしれないが、この「負の連鎖を断つ」ことが児童養護施設の役割だと考えて子どもを育てている。 ・市役所の所属については、横断的な連携を期待したい。 ・子どもの問題は、虐待・貧困・障害である。関係機関の連携が必要不可欠である。制度の充実も支援につながっていく。その意味で、長野市要保護児童対策協議会の役割は大きいと思う。 ○母子生活支援施設 ・現在の虐待や貧困に関しては、その子や保護者、家庭の課題が多様化している。先ほども話があったが、中心となる機関が定まっていない。親子を放っておけないが、母子生活支援施設では中心にはなりきれない。 ・保育園が障害児を受け入れてくれれば、母親の就職先が安定する。 ・生活保護に関しては、一度生活保護を受給してしまうと、将来を見据えた貯蓄ができず、その生活に甘んじてしまい、這い上がることができない。自立を妨げているのではないか。 ○ショートステイ・トワイライトステイ実施施設 ・貧困対策に関して、保護者の養育力の乏しさが拭えない。支配・被支配の中

	で生きてきて精神疾患になっている親もいる。一步間違えば、代替養育につながるというケースが多々ある。 ・ショートステイ事業の対応人数、キャパシティが大変厳しい状況にある。 ・親元を離れて暮らすことがないよう、家庭の支援も必要。 ・ショートステイ事業やトワイライトステイ事業に関しては、そのことによって、その子の将来にとって大変重要で財産になり得るような事業だと考える。 ・貧困対策として、食材の配布や生理用品なども配布しているが、対処療法に過ぎない。 ・まずは学校の職員や特に支援員を増やしてほしい。もっと、子どもの声を聴きとめる大人が必要ではないか。 ・保育士など労働者の労働環境の改善をお願いしたい。保育士の生活保障がなされれば、もっと人材も集まるのではないかと思う。
--	---

（３）児童家庭支援センター（松代児童相談センター「ふらっと」）

児童家庭支援センター：地域の子どもたちの様々な問題について相談に応じ、必要な助言援助を行うことを目的とした、児童福祉法に規定される児童福祉施設です。

子どもや保護者の特徴や課題	○子どもの様子 (特性) ・不登校や発達障害が重なっている事例が多い。 ・相談内容は多様化している。どこかで障害の支援が入っていれば、早く障害の認定を受けていればと思うが、親はそれを認められない。障害の診断がつきそうな人が多い。 ・原因が家庭環境にあるのか、特性にあるのか、どちらともいえない子が多い。家庭環境によって障害様を呈していると思われるものもある。話を聴いていると、親に発達障害があると思われる場合もある。子どもの様子については、少しずつ親に理解してもらうようにしている。 (その他) ・施設の子どもが学校へ行きたくないと言え、職員が連れていったり、学校の教頭が迎えに来たりする。一人ひとりに時間をかけることができるのは民間だからこそ、行政では難しいことだと思う。 ○親・家庭の様子 ・施設の入所者は全体的に貧困層が多い印象。 ・子どもだけでなく大人の相談もある。相談件数は年間 1,000～1,400 件ある。県の集計方法の見直しがあり減少しているが、概ね 1,000 件程度で推移している。 ・保健センターに行ってみても、自分の子どもの様子が周りの子と違っていると、「自分の悩みが他の人とは違う」と、もうセンターへは行きづらくなる。 ・併設する松代福祉寮で行っているショートステイでは、利用者から育児の様子を話をよく聴いている。子どもに傷があったり、子どもの言葉の中に引っかかるものがあれば市に連絡している。心配なことは共有している。 ・親は相談のしづらさを感じている。「自分が何とかしないと」とか、「そんなことも相談して良いのか」という声を聴くことがある。 ・多子世帯で支援が何も入っていない家庭もある。自分からは言えず、「うちは困っていない」となるが、朝食を食べていない、部屋が散らかっている、父親が失業したなど、周りから見ると既に無理な状況である。 ・ヤングケアラーに関しては、母親が仕事で夜間子どもだけになる家庭の子が一時保護に至ったケースもある。 ・保育園で弁当を持参したときに、その中身を保育士が見て困窮家庭かどうか分かるという。そういったところで気づくことがある。
必要な支援	○発達に関する支援

	・発達に関しては、子の成長のタイミングで何ができるかだと思う。 ・発達に関する診断を受けるための通院は、医師への説明などハードルが高い。一緒に行く人、話をしてくれる人がいれば良いと思う。 ○アウトリーチ型支援 ・支援を受けることが、「責められている」と被害的に思ってしまう。支援を受け取る力がないので、関係が広がっていかない。やる気がないように見える。アウトリーチ型、伴走型の支援が必要。 ○施設退所後の支援 ・18 歳で施設を退所する児童が進学するのはとても厳しい。県の支援制度（支度費の給付など）はあるが、金銭面や保証人の問題がある。児童養護施設の所長が保証人になれるようにはなっているが、就職も厳しい。18 歳を過ぎて退所した後も付き添っていければと思うが、アフターケアを行うとすれば職員の休日を利用するしかなくなる。現実問題、今はインケアで精一杯といった状況。 ・施設の退所者のことを考えると、国が一律に給付する 10 万円の給付金は 18 歳までで切られるのは厳しい。 ・切れ目のない支援が大事。国では子ども・若者支援として 39 歳までを自立支援の対象としているが、やはり 40 歳近くまで支援が必要なのが現実である。 ○食の支援、こども食堂 ・周囲から見られるのを嫌がり、こども食堂にも行きたがらない人もいる。困窮していることを知られたくないという人が多い印象。宅配であれば周囲に知られずに受け取ることができる。米や野菜など食材があっても調理ができず、とりあえず食べられるものが必要で、弁当の方が確実。支援には工夫が必要。 ・こども食堂には大学生も多く集まると聞く。コロナ禍でアルバイトもできない。
--	---

(4) こども広場

市内にはこども広場が2か所あり、ここでは「篠ノ井こども広場このゆびとまれ」のヒアリング結果を記載します。(もう1か所の「もんぜんぷら座こども広場じゃん・けん・ぽん」については1(2)に記載。)

子どもや保護者の特徴や課題	○困窮の状況・背景 ・経済的な困窮として、服が破れているなどそういったことは、今はない。本質は分からない、見えないが、外見はごく普通の子が上履きで履く靴を下履きとして履いていて、洗ってはいるが中敷きがボロボロということがあった。 ・貧困の人は「私は貧困」とは言わない。子ども服などのリユースでは、周りに気づかれないよう隠れるようにして持って行っていた。それでは良くないということで、誰でも好きなように持ち帰れるようにしている。その中に貧困の家庭がいるかもしれない。同じ中で対応している。 ・身なりはきれいにしている、家庭の様子はどうかと心配な親もいる。 ・子どもが多い家庭が多い。車が必要なので生活保護を使えない。 ・その人の責任ではない。生まれつきの環境が背景にある。頼れるところがなく、連鎖している。 ○人間関係 ・親がいても親との仲が悪く、サポートしてくれる人が近くにいない。きょうだいがいて助けてもらうことはある。父と母の関係が悪く、家にいたくない、家を出たらもう頼れない。 ○金銭管理能力 ・お金がないというより、使うところにきちんと使えない。金銭管理ができない。収入はあっても子どもを育てられない。髪がぼさぼさ。子どもの貧困は親の貧困である。 ・貧困家庭の母親は食が偏るので太る。同じお金があったとして、パンとキャベツどちらを買うかとなったら、パンを買って子どもに与える。 ○生活習慣 ・子どもの虫歯は親の責任という意識が定着し、今の子どもは虫歯が少ない。甘いものあまり与えない。しかし6本も7本も虫歯がある子がいる。口腔衛生ができていない。 ○情報 ・インターネットで調べて不安になって、ここで相談する。新型コロナもあり家にこもることが多く、「同じくらいの月齢の子と比べて遅れている」「うち
----------------------	--

	の子だけ」となってしまう。以前は年上の子の親に「大丈夫」と言われていたことが、今はない。ネットには悪いことは書かれておらず、キラキラしたことしか書かれていない。全て信じて鵜呑みにしてしまい、どんどん悪い方向に行ってしまう。 ○親の考え方・自己肯定感・経験 ・洋服が白いものは白くなくてはいけないと思い、染みがついたものはすぐに着なくなってしまう。 ・キャラ弁もハードルが高くなる。親としてできない、私は悪い母親、という考えが出てくる。家電など進化し生活が楽になっているのに、逆に頑張らなくてはいけなくなっている。 ・保健センターの健診で引っかからないように、積み木を重ねる遊びなどを練習している。健診が試験、育て方を試される場と思って臨む人がある。昔は普通に遊んでいれば身についたことを、今は親が学んで子どもに教えている。 ・知育が流行っている。表面のことだけ聞いて、結果論だけ見てしまう。 ・今の祖父母世代はものがあつた時代の人で、子どもに買い与えれば良しと思ってしまう。 ・養育力の不足と言うよりは、経験不足ではないか。今の父親が育ってきた時代はゲームがあつた。そのまましか育てられない。そこしか見本がない。 ・広場で集団の親子遊びをしている中で、自分の子どもだけ走り回って肩身が狭く感じてしまう親がいる。成長の過程と見ることでできれば良いのだが、うちの子はできないと決めつけてしまう。子どもはいることだけで良い存在なのに自己肯定感が落ちていく。子どもは誉めることで自己肯定感が育つ。自己肯定感が低い親も多い。 ・心が許せると話せるようになる。広場に来る母親は、最初は鎧をつけているがそれが当たり前。最初から鎧をつけていない人はすぐに助けが必要。伝線したストッキングを穿いている、髪にフケが出ているなど。お金がないか生活力がない。 ○保育園の入所 ・生活が大変なので子どもを保育園に預けて働きたいが、就労が条件になっているため、子どもがいることで仕事を探せない。その点、育児休業明けの場合は、再入園しやすい状況がある。年度途中で入所できる園が限られている。預けられても自宅から遠いところであったり、きょうだいも別になってしまう。働く場所が限られる。
課題・要望など	○支援情報の発信 ・こども広場に出てくるだけ良い。電話は本当に必要な場合にしかかけない。コロナ以前はシェルターのように利用できたが、今は利用人数を制限して

	おり、出てこられない人がたくさんいる。そういう人に情報をどう伝えるか。 ・親も広場の職員も、市の子育て支援サービスの内容を理解できていない。支援が必要な人が広場にきた時に、行政ならどこにつなげばよいか分からない。 ・子育てガイドブックがホームページにも掲載されているが、調べにくい。ホームページは階層が深くて、探したい情報にたどり着けない。概要が載っていてもどこに聞けば良いか分からない。 ○施設の増設 ・市の東部地区に公立の保育園・子育て支援センターがないので、子どもが友達という様子を見るために、五輪大橋を利用して篠ノ井まで来る。例えばサンマリーンながのにこども広場があれば良いと思う。また、保健センターと隣接してこども広場があれば支援をつなげることができる。
家庭の支援	○親・家庭の様子 ・子育てコンシェルジュを配置して外へ出ていく準備はできたが、周囲の状況がそうはなっていない。保健センターに頼まれて2件訪問したが、玄関を開けた瞬間に分かる。玄関に靴や物があふれていて、整理整頓ができない。ペットボトルが転がっている。そういう家庭は養育歴が良くない。 ・保健センターの栄養指導で、子ども用の食事には煮干しでだしを取りましようと言われるが、煮干しを買っていたら（経済的に）やってられない。理想は分かるが、理想の食事はお金がかかる。だしの素でも良いんだよと言ってあげたくなる。 ・理想を押し付けたくなる気持ちは分かるが、どこかで抜けるところがないといけない。難しいところである。 ○アドバイス ・自分の子だけでなく、周りの子も見た方が良いとアドバイスしている。 ・子育てが辛いと感じている親は、できるかどうか分からない。「辛いね」「頑張ろう」と言える場所が大事。お母さんの味方をする場所でありたい。 ・自己肯定感が低い親は、すぐには変えることはできないが、最初に受け止めてあげてマイナスからプラスに変えられるようにしていければ良い。プラスになって子どもに還元できれば良い。ここでは、気持ちだけでもプラスになって帰ってもらっている。 ・外へ出ることをやめてしまうのではなく、ここへ来ることで、気付いたことが次につなげられる。 ○相談 ・コロナで利用人数を制限しているが、今がちょうど良いと感じている。その

	中で相談件数は増えている。 ・発達に関する相談が急激に増えている。そういう子が多い時間帯もある。落ち着きがなく、スーパーや図書館などに連れていけない子が多い。行ける場所が少なく（公共施設や居場所が少ない）、ここへ来てくれる。 ○養育力 ・親からの遺伝もあるが、養育力が低いこともある。養育力の問題の場合は、保育園へ行けば平常の子と同じになる。預けるためには働かなければいけないのが課題。 ○障害 ・子どもが10人いたら、何もない子は3人しかいない。アトピーや喘息、近視などは治療ができる。同じように発達障害についても理解があれば早期治療につなげられる。 ・障害に対する対応力を強めることが必要。 ○リユース品の提供 ・子ども用の靴や下着にニーズがある。靴はすぐ小さくなってしまう。下着は保育園などの着替え用として、いつ着るか分からないものに新しいものは入れたがらない。 ・楽しみながら選べように陳列している。小学生以上サイズの洋服は、回る回るハウスへ送っている。 ・コロナで利用しなくなった食事スペースを会場にしている。コロナが落ち着いた後、会場をどうしていくかが課題。 ・保健センターや支所など出生届を受理する施設にチラシを置いてPRできれば良いと思う。
関係機関などとの連携・つなぎ	○保健センターなど ・保健センターや福祉政策課篠ノ井分室から、リユース品をもらえるかという問い合わせがある。免許がない、車がないで、広場に来られない人がある。近くの保健センターに来られる人には衣類を持って行った。仲介者、アウトリーチが必要。保健センターとは最も強いつながり・連携がある。

4 保健福祉関係機関

(1) 保健センター

子どもの特徴や抱えている課題や困難	○家庭内の様子 ・父の帰宅後に夕食を食べたり、父と一緒に遊んだり、母と協力して入浴させることで、就寝時間が22時、23時等遅くなっている子どもがいる。 ・ヤングケアラーが増加している。 ・地域の中での社会的格差に留まらず、家庭内でも手厚くケアされている子とそうでない子がいる事例に出会うことがある。 ・子どもがスマホを見る機会が多くなっている。 ・以前より、1歳過ぎで入園する子どもが多い印象 ○発達 ・経験や関わりが少ないことで発達面のゆっくりさがみられる子どもが増えている。また、愛着を形成しきれていない子どももいる。 ・保護者からの働きかけが少なく、発達を促すために必要な刺激や経験が乏しい。結果、発育や発達が遅れたり、望ましい生活リズムが作れない。 ・コロナ禍により集まる場所が制限されており、他児との交流が少ない。 ・メディアの情報など、一方的で他者とのやり取りが育たず、言葉や共感性に影響がある。
保護者の特徴や抱えている課題や困難	○子どもとの関わり方 ・子どもの成長・発達を促す意味での遊び、関り方が分からない。 ・親世代のスマートフォンの使用の影響で、親の関わりの薄さを感じている。 ・保育園に入ればみんなと集団活動ができる、先生がやってくれるという意識、子どもの特性にあった対応が必要でも理解が進まない。 ・保護者の経験不足や知識不足（親が1人っ子の場合など）により、子への関わり方が分からない。 ・病気の診断はなくても、保護者の理解の偏りなどがあると関わりに支障あり ・子どもに対して大人の目線で対応してしまう、子どもと張り合えずに要求に振り回され疲弊している人もいる。 ○対人関係・孤立 ・祖父母、親戚、地域とのつながりが希薄化、子どもは自分の家庭が全てであり、困っていても第三者にSOSを発信できることも知らない。 ・母自身、対人関係が苦手な支援センターなど外出を控えていることがある。 ・核家族で周囲に支援者がいない。父親の帰宅が遅く協力が得られず、母親1人で育児を行うワンオペ育児の家庭が多い印象。 ・転勤族が多い地区もある。転勤族等支援者が少ない家庭では、子育てを親が

	抱え込んでいる。対人関係が苦手な親は母子で孤立しやすい。 ・保護者も成育歴において守ってもらった・助けてもらった・愛情をかけてもらった等の経験が乏しく他者を頼ったり SOS を出すことを知らない。 ・40 代で初めてママ・パパになった人が、周りに同世代のママ友・パパ友がいない、作れないと言っていた。 ○情報 ・ネットで情報収集が容易にできるため、発達面を過剰に心配している親が増えている。一方で、発達面を全く気にしていない保護者も多くいる。 ・核家族化し、親世代も働いているため、育児の情報などはネットから収集することが多い。正しい知識以外にもネットには満ち溢れている。 ・子どもの生育や子育ての情報がネットで簡単に入手できるが、情報量が多すぎて余計に不安になる。 ○精神疾患 ・保護者のメンタル不全、精神疾患が影響し、適切な養育ができない家庭もある。 ・親自身が精神疾患（産後うつ）・発達特性の強さがある場合、育児につまづきを持っている場合が多い。しかし、親が自ら SOS を発信することが難しい。 ○経済的困難 ・ケース対応の中で、社会的格差が大きくなっている印象を受ける。 ・経済的困難さを抱えている中で、妊娠・出産を繰り返すケースも散見される。 ・現在の困り感を問うアンケートの設問に対し、「経済的なこと」を選ぶ妊婦は、派遣やパートなどの非正規雇用による就業形態の家庭が多い。
台風 19 号災害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響	○里帰り出産等への影響 ・新型コロナウイルス感染症拡大により県外の往来等が制限され、出産にあたり里帰りができなかったり、出産後支援者に来てもらえなかった。母親の負担が大きい。 ・実家が被災し、里帰りできなかったり、実家からの支援が手薄になり、妊婦および産婦がメンタル不調を引き起こしたケースがあった。 ○収入減・負担増 ・被災後、再建に向けての新たな出費が生じている。 ・新型コロナの影響で収入が減り、生後 2 か月から働き始めた人もいたり、夫の帰りが遅くワンオペの母親もいる。 ・密を避けて赤ちゃんの健診を受けるために、上の子を園での一時預かりを利

	用することで、新たな出費が生じている。 ・コロナで職を失い、上の子を保育園に預けられなくなり、母が育児の負担を訴えたケースがあった。 ○支援の利用しにくさ ・新型コロナウイルス感染症への心配のため、教室・健診参加を控える方や新生児訪問を断る世帯があった。 ・7～8か月、2歳児の健康教室が中止になることで、月齢や年齢に応じた成長・発達の話聞く機会が無くなった。 ・コロナの感染リスクを理由に、頑なに新生児訪問や健診等を拒否するケースがあった。 ○交流・子どもの発達面 ・子ども同士、保護者同士が関われる機会が減ってしまい、経験の少なさ故の言語、対人、粗大運動等発達面のゆっくりさが気になる。 ・子育て支援センターが予約制になるなど、出かける先が少なくなっており、親・子ども同士で触れ合う機会が少なくなっている。 ・保護者も子も、仲間同士の触れ合いや情報交換がなくなり、情報の不足、経験の不足などがある。 ・外出の機会や他者との交流の機会が減った影響で、健診・教室で社会性が未熟な子が増えた印象がある。 ○保護者の精神面 ・保護者自身の育児不安やメンタル不調への影響も感じている。 ・コロナ禍で在宅時間が長いことによるストレスが大きい。 ・安心して外出できる場所や機会が制限され、親子で楽しむ機会がなく、もともと交流が苦手な保護者がますますひきこもり傾向になっている。
関係機関や他の支援者、地域との連携・つなぎ	○行政関係 ・子育て支援課（現・子育て家庭福祉課）、こども広場、まいさぼ長野市、生活支援課、保育園等と連携して支援している。 ・養育能力が低い・メンタルの既往・サポートがない等の保護者に対し、産後ケアや養育支援訪問事業を勧めている。 ・関係機関（保育園、学校、児童相談所、メンタルヘルス支援・障がい者支援に係る機関等）から情報が入り、介入し始めるケースが多い。 ・健診対象は3歳児までであるが、保育園や幼稚園、小学校など、年齢にとらわれず必要な家庭のケース会議には出席して連携している。 ・日本語を理解できない外国語世帯への支援として、インバウンド国際室交流員に病院・健診等での通訳や個別のサポートをしてもらっている。

	○要保護児童対策協議会 ・要保護児童対策協議会実務担当者会議は節目、節目で関係者間での顔の見える機会となっている。子育て支援課（現・子育て家庭福祉課）をはじめとした他機関と情報を共有している。 ・対象世帯の訪問などは子育て支援課（現・子育て家庭福祉課）と同伴するなどタイムリーな対応ができています。 ・個別ケア会議への出席により、学校・保育園等、担当者間の情報共有がしやすい。 ○地域・民間 ・フードドライブ、食料品の配布などの活用 ・公民館主催の子育て広場等への協力、住民自治協議会における子育てに関する講話 ・ながのこどもの城いきいきプロジェクトの各種サービス（ホームスタートなど） ・乳幼児健診の際、地元の子育て広場のチラシを渡している。 ○医療機関 ・気になる母子について、産科（妊産婦健診、出産、健診）や小児科から適宜、情報提供を頂き、連携しながら訪問などの支援ができています。 ・産科から情報提供を頂いたが、母親に連絡してもなかなか連絡が取れない家庭もあり、難しさを感じる。
事業の中で感じている課題や難しさ	○支援者の認識 ・関係者間で、支援の方向が同じでないと支援にズレが生じてしまう。共通認識を持つことが難しい。 ・担当者が変わると支援が滞りがちになる。年度切替え時、介入時期、優先度等を明確にしておく必要がある。 ○保護者の認識 ・対象家庭が支援者を拒否している場合。 ・多子家庭で、母が健診の必要性を感じておらず未受診のケース。 ・予防接種を受けない主義の家庭がある。 ○支援利用の制約・利便性 ・養育支援訪問事業は、利用にあたっての制約が厳しく、もっと使い勝手が良いとありがたい。市内に実家があっても、関係性が希薄で十分な支援が望めなかったり、母のメンタル不調等にも波があり、柔軟な対応が求められるケースも多い。 ・病気や障害を理由に入園している子の母が妊娠した場合、保育園の入園理由

	を産前・産後に切り替えるため一旦退園手続きを取り、産後期間が明けてから、再び病気理由による入園手続きを踏まなければならないケースがあった。制度上の壁が、サービスを利用しにくくしている。 ・個別サポートのニーズが増している。養育支援訪問事業の利用期間や利用回数の拡大や柔軟な運用が求められていると感じている。 ・産後ケア事業は、自己負担額が大きく、経済的困窮者にとっては使いにくい面がある。 ・ファミサポを利用したくても提供会員がいない。 ・3歳児健診までは保健センターが細やかに関わるが3歳児健診終了以降のフォローがあいまいになってしまう。特にグレーゾーンの子・家庭 ○個人情報 ・個人情報をどこまで共有したらよいのか迷う時がある。
子どもの貧困解消のために今後必要な支援	○サポート体制・連携 ・一機関で即効性のある対策を取ることは困難であるが、チームでサポートしていく体制を強化し、事例ごと丁寧に関わっていくことはできる。 ・反貧困ネット、子ども食堂、学習支援、フードドライブなどのNPO法人やボランティア資源の把握・連携強化・情報共有できる仕組み ・貧困家庭の親の子育てに並走し、見守り必要な支援がタイムリーに出来ることに特化した窓口や担当者 ・発達障害などの特性の早期発見、支援の体制 ○保護者への情報提供 ・こども広場「このゆびとまれ」の育児用品のリユース、フードバンクの離乳食の提供など、紹介していきたい。 ・保健師としてできることは限られている中、できる限り社会資源を紹介していきたいと思っているが、どのような資源があるのか、その利用方法などについて、情報を十分に把握しきれていないのが現状。 ○サービスの利用しやすさ・メニュー ・未満児の保育園がもっと利用しやすくなればいいと思う。 ・一時預かりが利用しやすくなると良い。すぐに利用定員に達しており、なかなか利用できない印象。 ・ファミサポ、児童センターなど無料または低料金で安心して預けられる、来てもらえるサービス。

（２）ながの版ネウボラ母子保健コーディネーター

ながの版ネウボラ：妊娠期から子育て期にかかる悩みや不安等に対する総合的相談支援を行う「子育て世代包括支援センター」。ネウボラとは、フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味です。

母子保健コーディネーター：妊娠・出産・乳幼児の子育てを包括的に支援する専任の保健師等で、12 か所の保健センターに配置されています。

子どもの特徴や抱えている課題や困難	○経験の不足 ・社会性を学ぶ場、遊びを経験する場が少なくなっている。 ・子ども同士のやり取りの中で学ぶことが、経験できなくなっている。
保護者の特徴や抱えている課題や困難	○子どもとの関わり方 ・核家族世帯が増えているため、子どもの関わり方が分からない親や、接し方が下手な親がいる。 ・働き世帯、多子世帯で、子どもたちにゆっくり関わる時間が少なく悩んでいるという声をよく聞く。 ・健診や教室等でスマホの画面を見せている保護者が増えている。見ていればおとなしい。コミュニケーション能力や視力の発達への影響が気になる。 ○対人関係・孤立 ・自分の親との関係が悪く、支援が受けられないケースがある。 ・核家族世帯で夫が転勤族で身近に頼れる人がいない、友人もいないという人が多い。それにより孤立した環境で子育てしている母が多い。 ・核家族が増え、第2子・第3子の出産時、育児に対する支援が得られないことが多く、保護者も困難だが、兄妹たちも不安定になりがち。 ○精神疾患 ・メンタルの既往のある人が増えている。また、それを隠さずに言ってくれる親が増えてきている。 ○支援 ・子が一人であっても、育児を保護者のみで行うことが困難な場合があるが、利用できる社会資源が乏しい。 ○経済的困難 ・妊娠届時の面接で、未婚・若年妊娠・疾病合併（精神を含む）・支援者不足や経済的困窮等で不安を感じている妊婦に出会うことがある。特に「出産費用はどの位かかりますか」とか、「予想外の妊娠で、戸惑っている」「派遣またはパートなので、仕事を辞めなければならず、生活していけるか不安」等の声を聞くこともある。

	・母にとって孤立した環境、経済面での不安を抱えている人もいる。 ○外国籍 ・外国人の親が増加している。その多くは支援者が不足しており、公的支援を導入する必要がある。
台風19号災害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響	○家族の協力 ・コロナ禍の中での妊娠、出産・子育てとなり孤独感を持っている人が多い。里帰り出産ができなかったり、実母の支援が得られなくなった。 ・実家が県外・国外で往来が制限される中、予定していた支援が得られない妊産婦が多かった。支援のための社会的資源や費用の問題、感染の予防の観点からも支援を得ることが出来ず、どうすることもできなかった。 ・実家に頼れなくなったため、夫が育児休暇を取得したり、協力が増えているのはいい傾向。 ○保護者の精神面・ストレス ・出産後の入院中の家族との面会制限もメンタル面の影響が大きいと思われる。 ・妊婦健診時に、上の子の預け先がなく困っている妊婦や、早産等で入院期間が長い時期に家族との面会が一切できず、精神的に追い込まれた母がいた。 ・家族以外との交流制限で外出先やイベントの減少でストレスが増えている人も多いのではないか。 ・子育て支援センターの利用が感染症予防対策として予約制となっている。出かけるのが億劫になり、家庭内で過ごすことが多く、ストレスを感じている母子が増えている。 ○支援の利用しにくさ ・県外から転入の場合、感染予防のために一定期間の自宅待機が必要。その確認をする中で、迷いながら相談にくる人にとっては、疎外感を大きく感じ、相談へたどり着くまでのハードルが高くなっている。 ・ボランティアや公的事業の支援が必要なケースでも、感染の予防の観点から利用を控え、支援が得られずに保護者の負担が増大している。 ・感染を過度に怖がり、訪問を拒否されるケースもあった。 ・接触者となった際の検査で一定期間仕事を休む必要性があったり、個人が特定されてしまい転居された人がいる。 ○交流、子どもの生活習慣・発達 ・妊娠期の病院等でのセミナーが中止となり、妊婦の学ぶ場や仲間づくりが難しくなった。 ・保育園の見学や母親同士の集いの場が少なくなり、保護者が孤独感を持つほ

	か、情報の不足に不安が大きくなっている。 ・コロナ禍で外出する場が減っており、自宅で過ごすことが多いため、間食が増えたり活動不足・昼寝時間のずれ等で生活習慣やリズムが乱れている子が増えている。 ・各場面において集いの場が少なくなっており、子どもたちが様々な経験をする場が減っており、成長発達に影響が出てこないか憂慮する。 ○台風 19 号被災による負担増 ・転居せざるを得なくなった方、仕事を失ったり、収入が減り今までと同じ生活ができなくなった方
関係機関や他の支援者、地域との連携・つなぎ	○行政関係 ・地区担当保健師、子育て支援課（現子育て家庭福祉課）、児童相談所、こども広場、子育てコンシェルジュ等、必要に応じ都度連携をとっている。 ・子育て支援課（現子育て家庭福祉課）ケースワーカーとの連携により、養育支援事業の紹介・手続き支援、協働による対象者の見守りを行っている。 ・支所窓口からの、要支援者の連絡 ・相談対応の後は、関係機関に早めの情報提供を実施している。 ・産婦に対して、体調の確認と、支援者の確認を行い、社会資源の情報提供と利用手続きの支援を行う。 ○児童養護施設等 ・児童養護施設・乳児院等でのお子さんの預かり等の情報提供や福祉担当者への引継ぎ ○地域・民間 ・こども広場の育児用品のリユースやまいさぼの紹介。子育てコンシェルジュへの繋ぎ等を行っている。 ○医療機関 ・医療機関との連携により、訪問等で要支援者を早期に把握して支援に結びつけるとともに、本人保護者の了解のもと状況を医療機関に伝え、対象者がより過ごしやすい環境となるよう配慮している。 ・産後ケアや母乳相談を利用している母親について、助産所等と連絡を取り合い、情報共有している。 ・受診の必要なケースについて医療機関に連絡し、同行受診することもある。
事業の中で感じている課題や難しさ	○保護者の認識 ・本人の承諾が得られていない場合の他機関との連携が難しい。 ・病院などと連携し、母子と継続して関わりたいと思っても、こちらからの電

	話、手紙、訪問に応じてもらえないケースも一定数いる現状 ○支援利用の制約・利便性 ・現存の支援サービスを利用するには、制約も多く使い勝手が厳しいものも多い。特に貧困が理由で利用できるサービスは少ないため、新たな事業の確立が必要と感じる。 ・未満児の保育園入園に保護者は苦労している様子があり、もう少し利用しやすくなれないかと思う。 ・多胎児のサービスの不足を感じる。3歳くらいまでは支援が得られるようにできないか。 ・産後ケアは母子ふたりの料金設定になっており、ふたごやみつごの場合、児ひとり以外は実費負担となるので利用をためらう場合がある。
子どもの貧困解消のために今後必要な支援	○保護者への情報提供 ・支援の必要な方への相談窓口への案内 ・おさがり品など必要な方への情報提供 ○サービスの利用しやすさ・メニュー ・一時預かりの料金が高いため、料金設定の見直しが必要。 ・養育支援事業は支援者のいない保護者にとってありがたい事業。この事業がより間口が広く、充実すると良いと思う。 ・子どもの貧困をすぐに解消できることはないので、せめてお金がなくても安心して分娩ができたり、保育園への優先入所ができる仕組みがあると良いと感じている。 ・生まれてきた子の衣服や家具がない場合もある。「このゆびとまれ」での「「ゆずりあいウィーク」でのリユースや、フードバンクからの離乳食の提供などの活動が続いてほしいし、充実してほしい。 ・貧困の連鎖軽減のための施策として、一時的な給付も必要かもしれないが、教育費の低減や無償化が必要 ・長期休暇中の食事の確保 ・子ども食堂等への家庭内の余剰食品の提供

（３）長野市生活就労支援センター「まいさぼ長野市」

まいさぼ長野市：生活の悩みや、経済的な困りごとを抱えている方に対して、相談員と一緒に考えたり、問題を整理しながら生活の立て直しや、困りごとの解決をサポートする相談窓口（生活困窮者自立支援法に基づき市が設置）。自立相談事業、住居確保給付金事業、学習支援事業等を実施しています。

子どもや保護者の特徴や課題	○背景 ・今の親世代は知的障害があっても発達障害という形での支援がなかった。支援者もない。 ・困窮世帯は多子が多い。連鎖している。 ・連れ子同士で結婚し、血のつながらない子がいる家庭がある。子どもを育てながら、離婚した元配偶者から養育費も請求される。 ・親にも頼れず地域からも孤立している。「社会で家庭を支える、子どもを育てる」という状況ではなくなっている。 ・生活保護を受給すればと思うが、子どもに障害があり車を手放せない。 ・養育力の低下。昔は単純だった。今は情報が多すぎ、子育てに自信を持つことが難しい。 ・両親のどちらかがしっかりしていれば問題はない。それなりの形は整えられる。実家の支援でもっている家庭もある。 ○生活習慣 ・子どもが多ければ物も多い。家の中を片付けるのも無理。食事も家で作れない。コンビニなどで買って食べることでゴミが出る。その分お金もかかる。 ・子どものむし歯は全体では減っているが、困窮世帯にはひどい子がいる。歯科医が、永久歯が生えてこないのではと心配する子もいる。成人でも歯が全くない人もいる。元々ある口腔内を清潔にする能力が追い付かない。 ・不登校の子は、親が昼夜逆転していたりして子どもを起こせない。登校班に遅れることが続くと、学校は行かなくて良いとしてしまう。ルールに乗れず、生活の全てがルーズになっている。 ○金銭管理 ・年金や児童手当、児童扶養手当が入ると使ってしまう親がいる。児童扶養手当は２か月後ごとの支払いになったが、子どもが多いと一度の振り込みが５０万円くらいになる家庭もある。子どもも支給月を理解していて、奇数月は生活が厳しくなると口にするところがある。 ・キャッシュレス化で、生のお金に触れることがない。ボタン一つで支払いが済んでしまい、お金の価値観が分かりづらくなっている。お金が足りないという実感が無い。通帳を預かってストップにならない。 ・収入はあっても借金で使えるお金がない家庭もある。違和感なく借金してしまい、返済するために働いている。子どもを塾や習い事に通わせながら借金
---------------	--

	している。 ・私立の学校に通わせながら、新型コロナの影響で収入が減り、お金を借りに来る家庭も増えている。 ・公営住宅の家賃でさえも滞納している家庭がある。 ・お金のやり繰りについて、学校で教育を行うことが必要。お金の使い方を教えることが重要。 ○学校生活や学習の状況 ・数学や英語など積み重ねが必要な教科で遅れる。途中から入れず、ついていけなくなる。 ・多動性の子もいる。席に座ることが習慣づいていない。 ・以前、学校は健常者も少し気になるような子どももインクルーシブにクラスを一つとして考えていたので、子どもが他の子の面倒を見るようなこともしていた。今は原級、支援級と子ども同士を分断している。 ・義務教育では、学校できちんと教育や生活習慣等を身に付けさせてもらいたいと考えている。学校から一歩外へ出た後は、それぞれの生活水準等で塾へ行っても良いと思うが、塾が学校代わりになるようでは、子どもたちの生活環境の二極化を加速させてしまうことにある。 ○周囲との人間関係 ・他の親との関係が上手くいかず、育成会の行事にも参加できなくて地域で孤立してしまう。そういう家庭の子どもは、行事に来ると菓子など食べるだけ食べて帰っていったりする。 ○親の障害 ・学校からの通知の内容を親が理解できず、手続きができなくて支援につながらない。本人も相談ができない。就学援助の書類を渡しても提出することができない。どこに何をすべきかが理解できないアクセス障害。 ・スマホを持っても給食費が払えず、先生も「まさか」となる。実態が掴みにくい。話を聞いて、親に知的障害が分かった例もある。 ○経済状況・就労 ・就労形態が正規職でない親が多い。日雇いで、しかも長続きしない。 ・給料が低いのも困窮の一因。携帯代が大きな負担。昔はなかった。低所得に加えて、必要な経費が増えている。 ・昔は夫の給料が高く、専業主婦が多かった。ボランティアも専業主婦がほとんどだった。今はほとんどが共働き。 ・家族の協力があるのは相当裕福な家庭。厚みがなくなっている。格差が広がっている。 ・財力があれば子どもに障害があっても手帳を取らせずに育てられるが、親が
--	--

	いなくなって困るようになる。仕事に就けない。 ・親の財力がベースとなる。虐待、貧困、障害など色々と課題はあるが、お金で解決できることがたくさんある。お金がないことで生活が悪化し、増幅していく。 ・父親の姿が見えない。父親が低所得。困窮世帯の父親は夜勤があったり、トラック運転手など、サラリーマン的な就業形態ではない。 ・ひとり親は保証人がいない。今は、スーパーのレジの仕事でさえもお金を扱うので保証人が必要となっている。 ・専門学校にはアニメや声優などあるが、就職に結びつけることが難しい。高卒で就職すればと思うことがある。少子化を迎える中で、今や大学も専門学校も経営面から大人の金儲けの道具になっている。奨学金の返済のための借金も多い。 ・留学生もお金を借りに来る。自国への仕送りにしている。まだ、日本での収入の方が自国での収入よりも良いことが要因。
子どもや家庭への支援	○家計相談・金銭管理 ・ひとり親で母親が難病だが、中学生の娘の部活の送迎に車が必要なため生活保護を受給しない。障害年金受給申請のための診断費用も負担が大きい。県社協に診断費用に対する補助制度があり、利用を勧めている。 ・子どもが学校へ持っていくものをすぐには買えるようにと、クレジットカードを手放せない。まいさば長野市では、日常生活自立支援により、該当者から給料日に現金を預かっている。そういう家庭が多い。生活困窮者等はカード以外頼れるものがない。 ・私立高校で、就職が決まっていたが授業料を滞納していて卒業見込みを出せないということで、お金を貸してほしいという相談もあった。 ・就職について、困窮者に勧めているのは介護職。託児がついているところもある。パートで勤めながら資格を取り、子どもが大きくなったら正規になり夜勤も行える。収入を得ながら学べる県の制度もある。
関係機関等との連携・つなぎ	・学習教材など、リサイクル交流広場の回る回るハウスに依頼している。特にスキーウェア購入の負担が大きい。
事業の中で感じている課題や難しさ	○支援制度 ・残業がある仕事に就労したが、児童センターの迎えがあつて残業ができないとなると契約を更新しないと言われる。民間企業も経営の合理化から従来はパートだった社員が派遣に切り替えられ、融通が利かなくなっている。16時までの仕事もあるが、それでは月収が減り生活できない。支援制度はあるがミスマッチではないか。 ・子どもを一時保護で児童養護施設に入った場合、それまで通っていた学校へ行けなくなり、全く違う環境に入ってしまう。

	・児童養護施設に入所すると、その保護者は児童手当も児童扶養手当も受給できなくなる。そのため、子どもの入所を拒否するケースも多い。 ・子どもには対応できても、貧困の元となる親にアプローチする手段がない。 ・支援を拒む親。家庭訪問も拒む。そもそも今は学校の家庭訪問もなくなってきている。 ○教育の重要性 ・不登校でも教育を受ける権利がある。今は、学校へ行くことが教育の権利になってしまっている。小4までの学力があればコンビニで働けるというが、小4までの学力がない子が相当いる。学校へ行っていないので色々な名字を知らず、人の名前を覚えられないので仕事ができない。 ・20歳以降どんな大人を目指すかという視点がない。社会に出るときに支援の対象となって出てくる。親も見極められない。高校までに社会の厳しいところを教えてもらっていない。高校入学を決めたが、通学にバス代がかかることを知らなかったというケースもある。 ・学校の先生は授業を教えることでなく、モンスターペアレンツなど保護者対応などの仕事が増えている。
新型コロナウイルス感染症の影響	○就労・収入 ・そもそも給料が低く、コロナの給付金として6割の補償をもらっても生活が成り立たない。子どもに熱があると学校を2週間休まなければいけない。仕事も休むことになる。仕事のシフトに入れず、辞めるようになってしまう。 ・コロナ禍で、子どもに発熱があり受診すると、車で待機しなければならず、母に免許がないと父も仕事を休まなければいけない。父親も日雇いのため収入がなくなる。新型コロナの影響は大きく、有給もない労働者は収入減となっている。
子どもの貧困解決のために必要なこと	○就労 ・正規職化、安定した職に就ける機会の充実が必要。生活保護は親が働いている姿が子どもに見えない。ただただ疲れていて子どもに将来像が見えない。 ・働くことで生活が安定する。支援は各種行われているが、給料を増やしていく仕組みが大事。一時的な給付金などの手当でなく、給料で生活が保障される仕組みが必要。働きたくなる気持ちを持つこと、働くことの意義を感じる事が大事。 ○支援体制 ・複合的な課題で貧困問題が起きているとすれば、包括的重層的に支援でき、家庭の問題として相談支援体制を作っていないと、支援がちぐはぐになってしまう。 ・外見では貧困が分からない。市で持っている滞納情報を集約して把握できれ

	ば良いのではないか。 ・中学で不登校になり、そのまま家居になったり、高校中退で不登校から外れると、ブラックボックスになってしまう。存在がデータ上からなくなってしまっているので、きちんと追ってもらいたい。 ○市民の感度 ・子育てサロンや育成会の行事に来ない人は要注意。そういう家庭を民生委員につなぐなど、市民がアンテナの感度を持つこと、気づくセンスを高めていくことが大事。 ○居場所・学校 ・こども食堂は対象を広げると集まらない、狭めると貧困家庭の子が行くところと特定されるジレンマがある。宅食は良い取り組みだと思う。ハードルを下げることで、拠り所としてふらっと行ける場所になれば良い。 ・学校で完結できれば良い。学校を拠点にサロンのように気軽に訪ねられ、ほっとできる場になると良い。 ・学校は、校門に入ったら全ての子どもを同じ扱いにしてもらいたい。
--	---

用語解説

用語	解説
あ行	
愛着障害（アタッチメント障害）	乳幼児期に親など養育者との愛着が何らかの理由で形成されず、子どもの情緒や対人関係に問題が起こる障害の総称
アウトリーチ	支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対し、積極的に働きかけて情報・支援を届ける手法のこと
インクルーシブ	「包括的」「包み込む」という意味。障害のある子もない子も共に学ぶ仕組みを「インクルーシブ教育システム」と呼ぶ。
か行	
国民生活基礎調査	厚生労働省が実施する統計調査。保健、医療、福祉、年金、所得等の国民生活の基礎的な事項を調査し、世帯の状況を総合的に把握することを目的としている。3年ごとに大規模な調査を実施し、その中間年には小規模で簡易的な調査を行う。
子育てコンシェルジュ	2か所のこども広場に配置している、悩みの解決策と一緒に考え適切な支援へつなぐ支援や、子育て情報の案内を行う専門スタッフのこと
こども食堂／子ども食堂	子どもの居場所の取組の一つで、地域のボランティアやNPO法人等が運営し、子どもやその保護者に対して無料又は安価で食事などを提供する活動
さ行	
児童家庭支援センター	地域の子どもたちの様々な問題について相談に応じ、必要な助言援助を行うことを目的とした、児童福祉法に規定される児童福祉施設
児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親家庭の生活支援のための手当
就学援助	経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度
ショートステイ	保護者の都合により、児童の養育が一時的に困難になった場合、児童養護施設または乳児院において、児童を一定期間預かるサービス
信州こどもカフェ	全国では「こども食堂」等の名称で行われている子どもの居場所の取組について、学習支援、食事提供、悩み相談、学用品のリユース、高齢者との交流など複数の機能を提供し、月1回以上計画的に開催されているものを、長野県が「信州こどもカフェ」と愛称で呼んでいる。
スクールカウンセラー（SC）	児童生徒や保護者の心のケアに関わるカウンセリング活動を行い、他機関と連携しながらストレスの緩和に向けた支援を行う臨床心理に関する専門職
スクールソーシャルワーカー（SSW）	不登校、いじめ、暴力行為、児童虐待、貧困に関する問題などの課題を抱える児童・生徒への支援を行う社会福祉等の専門職
ステップファミリー	夫婦の一方あるいは双方が子どもを連れて再婚したときにできる家族、家庭のこと

生活就労支援センター	生活困窮者自立支援法に基づき県内 19 市と郡福祉事務所を単位として設置し、生活困窮者への自立相談支援事業を実施している。長野市のセンターの愛称を「まいさば長野市」としている。
生活保護	病気や失業などにより生活費などに困り、ほかに方法がないときに一定の援助が受けられる制度
た行	
トワイライトステイ	保護者が、仕事などの理由により平日の夜間または休日に不在となり、家庭において児童を養育することが困難な場合に、児童養護施設等において一時的に児童を預かるサービス
等価可処分所得	世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いた、いわゆる「手取り収入」）を、世帯人員の平方根で割って調整した、1人当たりの所得のこと。世帯人員が少ない方が生活コストが割高になることを考慮して、世帯人員の平方根を用いて算出している。
な行	
ながの版ネウボラ	母子保健法に基づく子育て世代包括支援センターで、妊娠期から子育て期にかかる悩みや不安等に対する総合的相談支援を行う。12 か所の保健センターに専任の母子保健コーディネーター（保健師等）を配置している。ネウボラとは、フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味
ネグレクト	幼児や高齢者などの社会的弱者に対し、その保護・養育義務を果たさず放任する行為のこと。身体的・精神的・性的虐待と並ぶ虐待のひとつ
は行	
ひとり親家庭子ども生活・学習支援事業	児童扶養手当を受給している家庭などの小学4年生～中学3年生を対象に、学習支援などを行う事業
ファミリー・サポート・センター	育児の援助を受けたい人（依頼会員）と育児の支援を行いたい人（援助会員）が、子育ての相互援助活動を行う会員組織
ファミリーホーム	厚生労働省が定めた第二種社会福祉事業で、「小規模住居型児童養育事業」を行う住居のこと。「家庭養護」のひとつで、養育者の家庭に子どもを迎え入れて養育を行う。
フリースクール	一般に、不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設。子どもたちの精神的なサポートを行いながら、学習意欲の回復を支援している。
ホームスタート事業	妊婦や未就学児がいる家庭にボランティアのホームビジター（日常生活を親子と過ごし、親に寄り添う友人のような役割）が訪問して、一緒に話をしながら家事や育児をする事業
ま行	
まいさば長野市	「生活就労支援センター」を参照
や行	
ヤングケアラー	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行

	っていることにより、子ども自身やりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どものこと
要保護児童対策地域協議会（要対協）	児童福祉法第 25 条の 2 の規定に基づき、要保護児童の適切な保護又は要支援児童若しくは特定妊婦への適切な支援を図るため、関係機関が情報を共有し、連携協力のもと支援を行うための協議会
わ行	
若者サポートステーション	厚生労働省の若者雇用対策の一環として、働くことに悩みを抱えている 15 歳から 39 歳までの人を対象に、また、サポートステーション・プラスとして、40 歳から 49 歳（就職氷河期世代）までの人の就労・自立支援を目的として設置された就労支援機関
アルファベット	
DV	「ドメスティックバイオレンス (Domestic Violence)」の略で、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった人から振るわれる暴力という意味
SNS	「ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service)」の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと